

2025年度

大学院シラバス

文学研究科

明治大学大学院

明治大学校歌

明治大学校歌

児玉花外

作詩

山田耕筰

作曲

白雲なびく駿河台

眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮みちびきて

遂げし維新の栄になふ

明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

二

権利自由の揺籃の

歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり

独立自治の旗翳し

高き理想の道を行く

我等が健児の意気をば知るや

我等が健児の意気をば知るや

三

靈峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり

いでや東亜の一角に

時代の夢を破るべく

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

目 次

2025 年度大学院学年暦・行事予定	2
授業時間割	3
人材養成その他教育研究上の目的	4
「入学者受入」、「教育課程編成・実施」、「学位授与」方針	6
修士学位取得のためのガイドライン	13
博士学位取得のためのガイドライン	18
履修登録について	23
科目ナンバリングについて	25
他大学大学院の聴講について	26
先取り履修制度等について	27

博士前期・修士課程

修了要件	31
授業科目及び担当者	35
シラバス	57

博士後期課程

修了要件	317
授業科目及び担当者	317
シラバス	322
交通遅延発生時の授業等の措置について	364
大規模地震等災害発生時の対応について	364
大地震発生時の避難マニュアル	367

◎2025年度 大学院学年暦・行事予定（2025年4月～2026年3月）

<春学期>

時間割・履修関連書類配布	2025年 4月1日(火)～
【学生証有効期限・通学区間】証明(学生証裏面シール)更新	
各研究科新年度ガイダンス	
入学式	4月7日(月)
授業開始	4月10日(木)
研究論集提出締切日(9月発刊分)	4月10日(木)15:00まで
履修届・履修計画書提出(M・D)	4月16日(水)～4月18日(金)
WEB履修登録(Mのみ)	4月16日(水)13:00～4月18日(金)9:00
個人別時間割表公開	4月19日(土)～
履修修正期間	4月21日(月)～4月24日(木)
休日授業実施日	4月29日(火)〔昭和の日〕
臨時休業(休講)日	5月1日(木)・5月2日(金)
研究論集予備登録(2月発刊分)	6月23日(月)～6月27日(金)15:00
休日授業実施日	7月21日(月)〔海の日〕
授業終了日	7月22日(火)
夏季休業	8月1日(金)～9月19日(金)
研究論集発刊	9月5日(金)

※予定は変更されることがあります。変更や詳細については、Oh-o! Meiji等でお知らせします。

<秋学期>

研究論集提出締切日(2月発刊分)	9月19日(金)15:00まで
授業開始	9月20日(土)
履修修正期間	9月20日(土)～9月26日(金)
休日授業実施日	9月23日(火)〔秋分の日〕
修士論文予備登録	10月2日(木)10:00～10月6日(月)15:00
休日授業実施日	10月13日(月)〔スポーツの日〕
大学祭週間(全日休講)	10月29日(水)～11月4日(火)
創立記念祝日	11月1日(土)
大学祭(明大祭・生明祭)	11月1日(土)～11月3日(月)
休日授業実施日	11月24日(月)〔振替休日〕
臨時休業(休講)日	12月23日(火)・12月24日(水)
冬季休業	2026年 12月25日(木)～1月7日(水)
修士論文提出日	1月8日(木)10:00～1月9日(金)15:00
創立記念日	1月17日(土)
臨時休業(休講)日	2025年度は1月中の臨時休業日無し
授業終了	1月23日(金)
修士論文面接試験	2月3日(火)
研究論集発刊	2月28日(土)
修了通知	3月初旬
研究論集予備登録(9月発刊分)	3月9日(月)～3月13日(金)15:00
修了式	3月26日(木)

※予定は変更されることがあります。変更や詳細については、Oh-o! Meiji等でお知らせします。

◎授業時間割

〔全キャンパス共通〕

学部・大学院

専門職大学院（法務研究科、会計専門職研究科）

【月～土曜日】

時 限	時 間 帯
1 時 限	9：00～10：40
2 時 限	10：50～12：30
3 時 限	13：30～15：10
4 時 限	15：20～17：00
5 時 限	17：10～18：50
6 時 限	19：00～20：40

※経営学研究科博士前期課程マネジメントコースは平日夜間および土曜日に授業を実施しています。
授業時間は下記の表のとおりとなります。（土曜日は上記の表の時間帯です。）

時 限	時 間 帯
マネジメント 1 時限(M 1 時限)	18：00～19：40
マネジメント 2 時限(M 2 時限)	19：50～21：30

〔駿河台キャンパス〕

専門職大学院（ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科）

【月～金曜日】

時 限	時 間 帯
1 時 限	9：00～10：30
2 時 限	10：40～12：10
3 時 限	13：00～14：30
4 時 限	14：40～16：10
5 時 限	16：20～17：50
6 時 限	18：55～20：25
7 時 限	20：30～22：00

※ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科の平日授業は90分で授業を実施します。

人材養成その他教育研究上の目的

【文学研究科】

文学研究科は、日本文学、英文学、仏文学、独文学、演劇学、文芸メディア、史学（日本史学、アジア史、西洋史学、考古学の4専修）、地理学、臨床人間学（臨床心理学、臨床社会学の2専修）から構成され、いずれの専攻・専修においても、多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与することを目的にしている。豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化と科学的な時間・空間認識を会得した優れた人材育成（博士前期課程では専門的知識を有する社会人を、後期課程では専門的に研究に携わる研究者の養成）を目標とする。

【日本文学専攻】

日本文学専攻は、古典から現代までの日本文学全般を多様な視座から究明するとともに、その統一的把握を目指す。従来の文献研究・テキスト批評を堅固な基礎としつつ、歴史に対する幅広い関心を持って新しい研究領域を切り開き、文学と社会の関連を明らかにする。このような実践を通して、日本文学の専門的研究者・教育者及び日本文化に関する高度な素養を身につけた教養人の育成を行う。

【英文学専攻】

英文学専攻博士前期課程は、4専修から構成される。英文学・米文学・英語学専修では、各分野についての専門知識を身につけて後期課程に進学し、研究者への道を歩む人材の養成を目的とし、英語教職専修では、高度な専門知識を有する中高英語教員の養成を目指す。博士後期課程は、英文学・米文学・英語学の3専修から構成され、身につけてきた知識を基盤に各自の研究を発展させて博士論文を完成させ、その後も自立した研究を積み重ねていく人材を育てる。

【仏文学専攻】

フランスとその文化は、一方ではギリシャ・ローマ、他方ではユダヤ・キリスト教の伝統に深く根ざしながら、常に様々な分野で斬新な創造を続けてきた。その役割は今も縮小してはならず、EU及び世界50ヶ国に及ぶフランス語圏の中心として、そこから学ぶべきものが多々ある。そのような状況の中で、本専攻では、高度なフランス語運用力、フランス文化・思想・文学に関する広範な知識、繊細かつ大胆な国際感覚と実践力を備えた研究者、社会人、文化人の育成を目指す。

【独文学専攻】

ドイツ文学を歴史的コンテクストと現代的アクチュアリティを視野に入れながら研究することによって、ドイツの文化と社会についての理解を深め、日独の交流に役立つような人材を養成することを目的とする。このためには、学術的な討論ができる程度にドイツ語の運用能力を高め、同時に、日本のことをドイツ語で語るような日本の文化についての深い教養を培う。

【演劇学専攻】

演劇学専攻では、博士前期課程においては、高度な専門的知識を修得した研究者の養成に加え、幅広く劇作家、演出家、戯曲・演劇の歴史的・理論的著作の翻訳家、演劇制作者などをを目指す人材の養成を目的とする。博士後期課程においては、課程博士号の取得を目指す者を含めて、演劇学研究者を目指す人材の養成を目的とする。

【文芸メディア専攻】

文芸メディア専攻は、「メディア環境の中の文芸」という立場を設定し、メディアとは何かという問題意識を重く踏まえた上で、「文芸というメディア」及び「メディアとしての文芸」の視座から文芸研究・メディア研究に取り組む。文芸への深い知識と教養を兼ね備えながら、言語テキストとそれが置かれたメディア環境の相互的関連を視野に収める専門的知識人の育成を目指す。

【史学専攻】

史学専攻は、日本史・アジア史・西洋史・考古学の4専修から構成され、研究素材である各種史資料の分析に基礎を置く実証主義と歴史を生み出したフィールドを重視する実践主義を教育・研究の柱とし、学際的・国際的視点を伝統的に重視している。近年は、専攻が属す研究科の特性を生かし、文学研究科諸専攻との学際協力も緊密である。その研究・教育を通じ、史学専攻は、歴史学の専門研究者及び教育者並びに豊かな歴史への素養を身につけた高度教養人を育成することを目的とする。

(日本史学専修)

日本史学専修は、日本の歴史を多様な視座から究明するとともに、その統一的把握を目指す。その研究・教育は、各種史資料の批判的検討やフィールドワーク等による実証を基礎とするとともに、視野を隣接諸科学にも広げ、また、国際的視野に立つことを目指す。日本史学専修ではそのような教育・研究の実践を通じ、日本史学の専門的研究者・教育者及び日本史学の高度な素養を身につけた教養人の育成を目標とする。

(アジア史専修)

アジア史専修は、中国・朝鮮の東アジア史研究を大きな柱に、西アジア史をもう一つの柱に据え、文献資料や出土史料の分析だけでなく、現地調査や外国研究者との交流も積極的に推進して研究を進める。博士前期課程ではアジア諸地域に対する深い学識を持った高度教養人を、博士後期課程では国際的発信力を持った研究者を養成する。

(西洋史学専修)

西洋史学専修は、人間社会の歴史的探求をその本旨とするが、中でも西洋の古代から現代までを見通してそれを行う。また、世界に対する幅広い見識と歴史についての深い理解と教養を身につけて、それを基に自分自身をしっかりと表現でき、人類の発展に寄与できる人間形成を目指す。

(考古学専修)

考古学は、遺跡・遺物といった物質資料に基づき文字の無い時代を含めた歴史の再構築を目指す学問である。その教育・研究は、発掘・測量調査又は遺物実測などによる現場性・実証性を基礎に置くと同時に、視野を隣接諸分野・諸外国に広げ、考古学的研究成果を歴史学の大きな枠組みの中に位置づけることを目指す。本専修では地道な基礎研究に加えて、学際的・国際的研究活動に参加することを通じて、考古学の専門的研究者、地方自治体の文化財担当者、博物館学芸員、教育者及び考古学の高度な素養を身につけた教養人の育成を目的とする。

【地理学専攻】

地理学専攻は、グローバルな空間的視野を重視しつつ、都市や村落及びその複合体の地域構造を、社会・文化・経済・産業・行政・自然条件等の観点から実証的に探究する能力を持つ人材の育成を目的とする。その方策として、深い専門知識獲得のための体系的な学習指導を徹底し、かつ、フィールドワークによる継続的な実地教育と研究指導を実践する。

【臨床人間学専攻】

今日の人間社会は、政治・経済・文化・教育の構造的変化を伴う未曾有の変動期を迎え、既成の価値観や人間関係の在り方を根底から揺るがす変化と混乱の事態に直面している。臨床人間学専攻は、現代社会が直面するこうした状況における心理・社会的危機の克服に向けて、個々の地域社会や個人を実践的に支援する専門家及び公的セクターで貢献する実践者を育成するとともに、直面する危機的状況のメカニズムを解明するための研究者を育成することを目的とする。

(臨床心理学専修)

臨床心理学専修は、今日の社会において緊急性の高いニーズである「心のケア」、すなわち、うつ病や不安障害等の心の病気、不登校やいじめ、無気力等の学校不適応、育児ストレス、児童虐待、家庭内暴力等の家族関係の問題など、あらゆる世代の個人及び様々な集団において生じる心理・社会的諸現象への専門的対処に直接的かつ具体的にアプローチする臨床心理学の専門家の養成と実践的な研究の推進を目指す。

(現代社会学専修)

現代社会は、地球温暖化をはじめとする環境や生命の危機、グローバル化と情報化にともなう政治・経済・文化の構造変化と格差拡大などの新たな問題、また世界的な人権意識の向上、差別解消や格差是正への要求の高まりなどをかかえ、社会システムのあり方を、持続可能でより平等で人権が尊重されるものに根底から作り変えるべき重要な地点にある。現代社会学専修は、現代社会の危機や新たな社会的問題の克服と、よりよい社会の創生に向けて、複雑な状況のメカニズムを解明する研究者と、具体的な活動に取り組む専門家および実践者を育成することを目的とする。

(教育学専修)

教育学専修は、多文化共生社会、およびデジタルアーカイブを主要な構成要素とする知識基盤社会における人間形成と生涯にわたる学びが重視される今日、「教育」という事象を教育現場と教育実践に焦点あてつつ、教育学、社会教育学、博物館学および図書館情報学の4領域による横断的・多角的な教育研究をとおして、現代社会に求められる教育に関する幅広い知見と高度な専門知識を有した人材を育成するとともに、学校、公民館、博物館、図書館等の教育関係機関における教育実践を担う専門職の養成と再教育を目的としている。

明治大学大学院文学研究科

「入学者受入」、「教育課程編成・実施」、「学位授与」方針

【入学者受入方針】（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程・修士課程】

文学研究科博士前期課程及び修士課程は、多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与することができる人材を育成することを目指しています。このため、本研究科では主に次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 当該専攻・専修で必要とされる思考力、知識、語学力を学士課程ですでに養っていることに加えて、世界・社会のヴィヴィッドな動向への幅広い視野と関心、及び身近な日常的事象に対する鋭敏な感性と問題発見能力、常識に囚われない「自明性」を懷疑し得る自由な着眼力、大胆な仮説に基づき、これらを緻密かつ誠実に分析・考察し得る論証能力、さらには専門分野だけに偏らない深い教養、また、以上のことを的確に表現し得る高度に洗練された言語能力等を兼ね備えた者。
- (2) 将来、専攻領域及び関連分野の高度な専門的知識と確かな技能を持って、地域社会及び国際社会の一員として活動する意志と覚悟を有する者。

以上の求める学生像に基づき、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験、社会人特別入学試験、飛び入学試験を実施し、入学者選抜を行います。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下の通り示します。

ア 学士課程において修得すべき思考力、知識、語学力を十分に備えていること。

イ 自分を世界・社会のなかに位置づけ、幅広い教養を得ながら、自分自身で追究し、またその成果を文章に表すことができること。

【博士後期課程】

文学研究科博士後期課程は、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与しつつ、豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得した優れた人材を育成することを目指しています。このため、本研究科では主に次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 当該専攻・専修博士前期課程修了のために必要とされる知識と思考力と語学力を備え、指導教員が必要水準以上と判断した修士号請求論文を提出し、論文審査に合格した者、あるいはそれと同等の能力を所有する者。
- (2) 博士学位請求論文提出の意欲を持ち、そのために必要な高度な学習や実習に加えて、海外への長期留学、各種学会での発表、紀要論文等の執筆を着実に遂行することができ、かつ、世界的水準での自立した研究者、教育者として、日本及び海外諸国で貢献できるまでの困難な道程を歩む気概と具体的戦略図を持った者。

以上の求める学生像につき、一般入学試験、外国人留学生入学試験を実施し、入学者選抜を行います。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下の通り示します。

ア 博士前期課程修了のために、必要とされる知識、思考力、及び言語能力（語学力を含む）を備え、修士号論文審査の合格を有していること。

イ 博士学位論文提出に向け、さらなる研究への探求とそれを進めるための技術的なスキル、目的遂行能力を備えていること。

【教育課程編成・実施方針】

【博士前期・修士課程】

現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与しつつ、豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得した優れた人材を輩出することが、文学研究科博士前期課程及び修士課程の教育理念並びに目標です。そのために、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与する能力を会得するために、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成しています。

- (1) 各専攻・専修での学部課程での学習、実習成果を更に発展させつつ、より深い学識を身につけさせることで、先端的な専門知識への道を開き示すと共に、苦手な分野では基礎的な学習と作業へと立ちかえらせます。
- (2) 「総合文学研究」「総合史学研究」「特別講義」のような科目、並びに学術講演会などを通じて、専門外の多様な知識にも広く触れてもらいます。そのために客員教員、特任教員等の制度も活用します。
- (3) 研究指導においても、修士学位論文の執筆についてはきめ細かな指導を行うのみならず、中間発表などで口頭発表、論文作成の基礎習得を重視した指導体制を構築しています。
- (4) 成果還元としては、大学間での研究発表会レベルでの発表を想定し、これを推進しています。
- (5) 分野別には、以下の力点を設定しています。

学位（文学）

日本文学： ア 日本文学・国語学・漢文学に関する修士学位論文作成に向け、執筆能力を段階的に涵養すべく、演習科目を設けて研究構想・先行文献の評価・成果発表等を実践的に指導します。

イ 特論科目によって分析・考察のスキルを深めます。

ウ 関連する専門科目の履修によって、幅広い視点を有することができるような能力を育みます。

英文学： 英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語学等に関する修士学位論文の執筆に必要となる知識・読解力・分析力・発表能力の習得に資する科目群を配置しています。

仏文学： ア フランス語圏の文学・文化・思想について、分野ごと及び時代ごとの専門知識を深められるような演習科目と特論科目を配置しています。

イ 特に演習科目においては語学力、読解力、発表力、論文作成力などが身につくようカリキュラムを編成しています。

独文学： ア ドイツ語圏の語学、文学、文化及び思想の研究領域の幅の広さに鑑み、個別領域の学術的知識を深める科目を配置しています。

イ 同時に、分野横断的な基礎学習も継続できるようにカリキュラムを編成しています。

演劇学： 演劇史・演劇学の研究領域の幅の広さに鑑み、個別の領域の専門知識を深めると同時に、幅広い基礎的な学習も継続できるようにカリキュラムを編成しています。

文芸メディア： 分野、また、作家・作品研究に専門化した演習・特論のほか、文芸の分野横断的研究のために、日本文芸史、表象文化、表現創作の各特論を配置したカリキュラムを編成しています。

学位（史学）

史学： 演習・実習などの実践的な授業と、歴史学・考古学の幅広い内容の講義を提供するとともに、複数の教員によるきめ細かな研究指導を行うカリキュラムを編成しています。

学位（地理学）

地理学： ア 地理学に関する修士学位論文を作成するために、研究・執筆能力を段階的に涵養すべく演習科目を設けて研究構想、先行研究の評価、成果発表などを行う科目を配置しています。

イ 同時に、調査・分析・考察の手法を深め、さらに関連する専門科目の履修によって、幅広い視点を育むカリキュラムを編成しています。

学位（人間学）

臨床心理学： ア 今日の社会において緊急性の高いニーズである「心のケア」、すなわち、うつ病や不安障害等の心の病気、学校における不適応やいじめ等の問題、育児ストレスや児童虐待・家庭内暴力等の家族関係の問題、性的マイノリティや性機能等のジェンダーやセクシュアリティをめぐる諸問題、DV やハラスメント等の人権に関わる問題など、あらゆる世代の個人及び様々な集団において生じる心理・社会的諸現象に対する専門的対処に、直接的かつ具体的にアプローチする臨床心理学の専門家の養成と実践的な研究の推進を目指すカリキュラムを編成しています。

イ また、臨床心理士・公認心理師の資格取得カリキュラムに対応するため、講義演習と併行して学内外の専門機関における臨床実習のコマを多数設置しています。

現代社会学： 人間や社会の抱える諸課題の実践的課題解決に向けた専門的な構想力を身につけるため、社会の現場での実習を重視したカリキュラムを編成しています。講義・演習・実習のバランスの基本的な目安としては、講義が3分の1を超えないこととします。

教育学： 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した力を獲得し、専門性を生かした進路に進めるよう、講義・演習・実習を適切に組み合わせ、分野横断的に問題の本質を理解できる能力を育むカリキュラムを構成します。

【博士後期課程】

文学研究科博士後期課程の教育理念・目標である、専門的に研究に携わる研究者として豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識の会得を実現するために、以下に示す方針に基づきカリキュラムを編成しています。

- (1) 各専門分野において、自己の研究を客観的に位置づけ、その意義、成果と問題点を世界的水準で認識し、それについて内外の研究者たちと闊達に議論でき、また、国際シンポジウムなど、研究の国際的協力体制を築くことができる能力を、専攻横断的かつ受講者参加型の科目を交えて養成します。
- (2) 学内・学外のG P、大型共同研究にも積極的に参加して経験を積み、高度な学問的研鑽の社会的責務を宿した知的倫理性を養成します。
- (3) 研究指導においても、指導教員を中心としながら、当該分野での最も困難な問題、それを解明するための最も高度な知識、最も先端的な方法を提示し、各専攻・専修において、博士学位請求論文完成までの明確なガイドラインにのっとりた指導体制を構築しています。
- (4) 文学部の助手制度を活用し、その期間の留学を可能にしています。また、国内外調査などへの助成を様々な形で行っています。
- (5) 分野別には、以下の力点を設定しています。

学位（文学）

日本文学： 日本文学・国語学・漢文学に関する各種の関連学会・研究会等へ積極的に参加して研究発表を行いつつ、多様で優秀な人材との交流を深めることで、学位論文全体を統一するテーマを広く大きな視野に基づいて設定できる能力を養えるカリキュラムを編成しています。論文指導のもとで客観的な査読に耐えるような個別的論考の執筆を積み上げ、それらを博士学位論文としてまとめることができます。

英文学： 英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語学等に関する博士学位論文の完成を目標とした継続的指導を行い、学会等での発表、学術雑誌等への執筆のための指導を可能とするカリキュラムを編成しています。

仏文学： ア フランス語圏の文学・文化・思想について、それぞれの研究主題に基づき博士学位論文を作成できるようになるための長期計画に基づいた指導を行っています。

イ 学内外の雑誌のための論文作成や研究発表についても適宜指導を行います。

ウ 長期の海外留学を積極的に奨励しています。

エ 研究の深化と視野の拡大、語学力の錬磨を意識づけることを可能にするカリキュラムを編成しています。

独文学： 自己の研究を、個別の専門領域において深化させるとともに、学際的な視点をもって客観的に位置づけられる研究者の養成のため、学内での研究発表会や国内外の関連学会での発表促進、学会誌等の論文及び博士学位論文執筆の指導、そして研究を深化させ発信力を高めるための積極的長期留学奨励を含むカリキュラムを編成しています。

演劇学： 自己の研究を個別の専門領域において深化させるとともに、学際的な視点の中で客観的に位置づけられる研究者を養成するため、専攻内での研究発表会や国内外の関連学会の発表を促進し、学会誌等の論文執筆の指導を含むカリキュラムを編成しています。

学位（史学）

史学： ア 内外の研究活動や学会に参加して経験を積み、研究成果を積極的に発信することを奨励しています。

イ 外国史専修者には、長期の海外留学を奨励するとともに実践的な語学力を養成します。

学位（地理学）

地理学： ア 地理学に関する博士学位論文のテーマを広く大きな視野に基づいて設定できる能力を養い、学位論文を作成できるようになるための長期計画に基づいて指導します。

イ この指導の下で、内外の関連する学会・研究会などに積極的に参加して研究発表を行いつつ研鑽を積み重ねるべく、カリキュラムを編成しています。

学位（人間学）

臨床心理学： 研究で導き出された知見を臨床実践に、また現場で体験的に得られたデータを研究に、それぞれを有機的に結び付けて還元することができる人材を育て、また後進を専門的に高度に指導できる教育・研究者、現場指導者の育成を目指すカリキュラムを編成しています。

現代社会学： ア 現代社会の社会現象や社会問題について、国際的な最高水準の研究を含めた幅広い知識と専門的な分析力を身に着けるべく、国内、国際学会での研究交流と研鑽を目指すカリキュラムを編成しています。

イ 研究対象として選んだ社会現場において、もっとも徹底した、もっとも先端的な水準の研究を行えるカリキュラムです。

教育学： 学位授与方針（ディプロマポリシー）に示した力を獲得し、専門性を生かした進路に進めるよう、演習を中心として指導を行い、学会発表・論文投稿など研究成果公開を推進するカリキュラムを編成しています。

【学位授与方針】

【博士前期課程・修士課程】

文学研究科博士前期課程及び修士課程は、多角的な人文学の基礎を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与することが出来る人材を輩出することを目指しています。この人材養成目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を満たし、かつ、学業成績ならびに学位論文に基づき、以下に示す能力を備えたと認められる者に対し修士（文学、史学、地理学または人間学）の学位を授与します。

- (1) 主体的に学び研究する能力。
- (2) 幅広い学識、並びに語学力等を生かせる言語コミュニケーション能力と研究能力。
- (3) 問題を発見してそれを粘り強く解こうとする目的遂行力、自らの考えを他者に的確に伝え得る文章表現能力、及びそれを評価できる能力。
- (4) 学士課程よりも高度な課程で学習する自分を世界、社会のなかに位置づけ、自分に何が成し得るかを客観的かつ謙虚に振り返り、自己を対象化できる能力。
- (5) 論理的な思考力と問題を自ら発見し解決する能力。
- (6) 学問成果に基づいて、社会に貢献する実践力。
- (7) 分野別には、以下に掲げる能力を求めます。

学位（文学）

日本文学： 日本文学・国語学・漢文学に関し、自分の対象とした分野・時代・作家・作品・資料等について、独自の問題設定ができ、新規性のある内容を、論理的に表現して提示できる能力。

英文学： 英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語学等に関し、自分の対象とした分野・作家・作品・文化事象・言語事象等について、問題の発見を行い、それに対して独自の見解を実証的・論理的な解法で提示できる能力。

仏文学： フランス語圏の文学・文化・思想・言語等の分野で幅広い知識と専門的学力をもち、自分の力で問題を発見し、実証的な方法によって分析・考察を行い、独自な見解や仮説を示しうる能力。

独文学： ドイツ語圏の語学、文学、文化および思想に関する幅広い学術的基礎知識を持ち、普遍的課題につらなる独自の研究を創成するために応用できる能力。

演劇学： 演劇史・演劇学に関わる深い学術的知識と上演芸術研究に必要な分野横断的な幅広い視野を持ち、課題の本質を分析する能力。

文芸メディア： 文芸概念を「文芸というメディア」、「メディアとしての文芸」という観点から分野横断的に捉え、新たな文芸研究を構築していく能力。

学位（史学）

史学： 歴史学・考古学における幅広い知識と専門的スキルを持ち、科学的な分析を進めうる能力。

学位（地理学）

地理学： 地理学における幅広い知識と専門的学力・スキルを持ち、科学的根拠に基づいて地理的事象について分析を進めうる能力。

学位（人間学）

臨床心理学： 科学的根拠に基づいて人間や社会が抱える諸問題に向き合い、臨床心理学的に観察・分析する能力、及び言語・非言語にかかわらず、他者が発する気持ちに対し共感的に傾聴し、専門的に支援できる能力。

現代社会学： 現代社会の社会現象や社会問題について、幅広い知識と専門的な分析力をもって理解し、人間や社会が抱える諸問題の実践的課題解決に向けた専門的な構想を可能にする能力。

教育学： 教育学・社会教育学・博物館学・図書館情報学のいずれかの分野における幅広い知識と専門的学力を持ち、人間形成における理念、社会的機能と課題について理解し、実践的課題解決とも結びつける能力。

【博士後期課程】

文学研究科博士後期課程は、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与しつつ、豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得した優れた人材を輩出することを目指しています。この人材養成目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を満たし、かつ、学業成績ならびに学位論文に基づき、以下に示す能力を備えたと認められる者に対し博士（文学、史学、地理学または人間学）の学位を授与します。

- (1) 深い学識、語学力、思考力を備えて当該分野における国際的水準の研究を自立して遂行できる能力
- (2) 研究者や他の人々と向き合ってみずからの研究成果を伝えうる発信能力。
- (3) 研究者として学問成果を広く社会に問い還元し、後進の教育ができる能力。
- (4) 分野別には、以下に掲げる能力を求めます。

学位（文学）

日本文学： 日本文学・国語学・漢文学に関し、自分の対象とした分野・時代・作家・作品・資料等について、高度な問題設定ができ、学界に貢献できる内容を、説得力のある表現で提示できる能力。

英文学： 英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語学等に関し、自分の対象とした分野・作家・作品・文化事象・言語事象等について、問題の発見を行い、それに対して独自の見解を実証的・論理的な解法で提示し、当該分野の研究の発展に貢献し、社会への貢献ができる能力。

仏文学： フランス語圏の文学・文化・思想・言語等の分野で、研究者・教育者として自立し活動できるだけの知識・語学力・思考力・発表力・論文作成力などを備えた能力。

独文学： ドイツ語圏の語学、文学、文化及び思想に関して広く深く学術的研究に取り組むとともに、その成果を国内外の研究交流を通じて深め、研究・教育をはじめとする社会的活動の場に還元していく能力。

演劇学： 演劇史・演劇学に関して広く深く学術的研究に取り組むとともに、その成果を国内外の研究交流を通じて深め、様々な場において社会的文化活動や教育の場に還元していく能力。

学位（史学）

史学： 歴史学・考古学における深い知識と高度な技能を修得し、人間の過去の営為を分析評価する能力。

学位（地理学）

地理学： ア 地理学における幅広くかつ深い知識と高度な専門的学力・技能を修得し、科学的根拠に基づいて地理的事象について分析評価する能力。

イ 研究者として自立し活動できるとともに、指導者として後進を教育・育成する能力。

学位（人間学）

- 臨床心理学： ア 個人や社会の抱える諸問題に対し、臨床心理学的視点から高度に分析・研究する能力。
- イ 研究で得られた知見を臨床現場において実践し、専門家として現場に還元する能力。
- ウ 指導者として後進の研究者や臨床家を教育・育成する能力。
- 現代社会学： ア 現代社会の社会現象や社会問題について、国際的な最高水準の研究を含めた幅広い知識と専門的な分析力をもって理解する能力。
- イ 人間や社会が抱える諸問題の実践的課題解決に向けた専門的な構想を可能にする能力。
- ウ 自立した研究者として成果を広く社会に問い、還元・教育ができる能力。
- 教育学： 教育学・社会教育学・博物館学・図書館情報学のいずれかの分野における幅広い知識と高い専門的学力を持ち、人間形成における理念、社会的機能と課題について理解し、研究的・実践的な課題を提起する能力。

明治大学大学院文学研究科 修士学位取得のためのガイドライン

【本研究科で授与する学位】

日本文学専攻	修士（文学）	Master of Arts
英文学専攻	修士（文学）	Master of Arts
仏文学専攻	修士（文学）	Master of Arts
独文学専攻	修士（文学）	Master of Arts
演劇学専攻	修士（文学）	Master of Arts
文芸メディア専攻	修士（文学）	Master of Arts
史学専攻	修士（史学）	Master of Arts
地理学専攻	修士（地理学）	Master of Arts
臨床人間学専攻	修士（人間学）	Master of Arts

【修士学位請求の要件】

在学期間

本研究科博士前期課程（修士課程）2年以上に在学し、所定の研究指導を受けていること。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て、博士前期課程（修士課程）に1年以上在学すれば足りるものとする（要修業年限短縮申請）。

単位要件

- (1) 本研究科の日本文学・英文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア・史学・地理学専攻においては、32単位以上を、臨床人間学専攻臨床心理学専修においては、38単位以上を、現代社会学専修・教育学専修においては、36単位以上を修得しなければならない。
- (2) 日本文学・英文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア・史学・地理学専攻においては、所属専攻の主要科目及び特修科目並びに共通特修科目の中から、24単位以上を修得しなければならない。
- (3) 所属専攻の特定科目においては、4単位を上限に修得することができる。
- (4) 共通特修科目のうち総合地域研究については、8単位を上限に修得することができる。
- (5) 所属専攻の授業科目のほか、他の専攻若しくは他の研究科（専門職学位課程を含む。）又は単位互換協定による他の大学院の授業科目の修得をもって、修了に必要な単位の一部に加えることができる。
- (6) 所属専攻の特定科目及び他の大学院の履修により修得できる単位は、合わせて15単位を限度とする。
- (7) 本研究科に入学する前に、本大学院又は他の大学院において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）は、15単位を限度として本研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- (8) (6)及び(7)により認定した単位は、合わせて20単位を限度として、本研究科の修了に必要な単位数に算入することができる。
- (9) 別表1の2に規定する研究科間共通科目については、4単位を限度として、修了に必要な単位数に含めることができる。

(10) 指導教員が必要と認めた場合には、博士後期課程共通選択科目（文化継承学・日本古代学）を履修することができる。

(11) 各専攻における修得すべき単位は、次のとおりとする。

① 日本文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア専攻

所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位（計8単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

② 英文学専攻

[英文学・米文学・英語学専修]

所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位（計8単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

[英語教職専修]

ア 所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位（計8単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

イ 臨床人間学専攻教育学専修科目の選択科目のうち、次の科目の中から4単位以上を修得すること。

教育システム論、思春期・青年期論、教師教育論、教育人間学、教育社会史特論、教授学習心理学特論、社会教育実践論、生涯学習特論、博物館学特論、博物館マネジメント特論、博物館教育論特論、博物館メディア論特論、地域博物館論特論、図書館情報学特論、専門図書館特論、情報サービス特論、図書館経営特論

③ 史学専攻

所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その講義A～D各2単位・演習A～D各2単位（計16単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、8単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

④ 地理学専攻

所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位及び地理学合同演習A～D各2単位（計16単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

⑤ 臨床人間学専攻

[臨床心理学専修]

所属専攻の指導教員が担当する専攻必修科目（臨床人間学総合演習）を専修科目とし、その演習A～D各2単位（計8単位）、専修必修科目20単位及び選択必修科目10単位以上（A群からE群までそれぞれ2単位以上）を修得すること。

[現代社会学専修・教育学専修]

所属専攻の指導教員が担当する専攻必修科目（臨床人間学総合演習）を専修科目とし、その演習A～D各2単位（計8単位）、専修必修科目4単位、選択必修科目16単位（各年次8単位ずつ）及び選択科目8単位以上を修得すること。

(12) 学位論文作成のため、指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。

2 上記に定める単位を修得し、その成績が平均「B」以上の者。

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ている者とする。

【学位請求までのプロセス】

研究指導体制

指導教員による個別の研究指導や演習・特論を通じての全体的指導とともに、専攻・専修を横断した講義も行い、研究テーマに関連する幅広い知識を得させる。

専攻・専修によっては、研究内容の充実のみならず、広い視野の獲得のために、複数指導体制をとる場合もある。

1年次 4月に指導教員の助言に基づき修士学位請求論文作成のための暫定的な研究計画を立てる。各自の研究領域および関係領域における文献・資料などの検討と授業への参加を通じて、具体的な研究テーマの明確化と修士論文の構想の確定に努める。文献・資料については、7月までに仮のリストを作成し、指導教員の助言を得る。

7月から年度末までは、随時、研究に関するレポートや主要参考文献のレジュメ等を作成し、指導教員の指導や添削等を受ける。また、学会発表や学術誌への投稿も積極的に行う。

2年次 4月に指導教員の助言に基づき修士学位請求論文作成のための進捗状況を確認する。7月までに、最終的な研究テーマを決め、それに応じた文献・資料などの再検討を行う。また前年度に引きつづき、研究に関するレポートや主要参考文献のレジュメ等を作成し、指導教員の助言を得る。また、9月頃までに中間発表等を通じて、指導教員による個別の指導の下で研究を進め、指導教員以外からも助言を受ける。9月以後は、主として修士論文の執筆作業を中心に指導教員の指導を受け、修士論文を完成させる。

専攻・専修により詳細や年次の指導体制は多少異なる。

【修士論文に求められる要件】

修士の学位論文は、広い視野に立った学識と専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要能力を示すと認められるものでなければならない。

先行研究の成果を十分に生かしつつ、独創性のある見解とそれを裏付ける根拠の提示および論理の展開が求められる。

- (1) 論文の独創性
- (2) 研究テーマの学問的意義・適切性
- (3) 先行研究の精査
- (4) 実証的分析・理論的分析
- (5) 論旨の統合性と一貫性
- (6) 形式的要件

領域・分野の多様性から、求められる要件は必ずしも全専攻・専修で同一ではない。

予備登録

- (1) 予備登録時期は論文提出年度の10月上旬とする。
- (2) 論文提出予定者は、必ず指導教員と相談のうえ、論文題名（仮題でも可）を登録すること。
- (3) 予備登録時に「論文作成・提出要領」の他、「修士学位請求書」及び論文用「扉」を受け取ること。

論文提出

- (1) 論文提出時期は論文提出年度の1月上旬とする。
- (2) Oh-o! Meijiグループへの提出を原則とする。

ただし、ファイルサイズ（30MB）の制限などによりOh-o! Meijiでの提出ができない場合は、別途研究科の定める方法により提出する。事前にファイルサイズを確認し、30MBを超える可能性がある場合は、提出期間前に提出方法について研究科に問い合わせること。

なお、受付は、指定提出期間内のみとし、提出締め切り時間経過後は、理由の如何を問わず受け付けられないので、十分注意すること。

提出書類等

- (1) 「修士学位請求書」1通（ホームページからダウンロード）
必要事項を記入のうえ、指導教員の承認をうけ提出すること。
※この請求書に記載された論文題名を正とする。
なお、論文題名に副題がある場合は、ダッシュ（-）で最初と最後を括ること。
- (2) 「修士学位請求論文」（下記①～④により完成されたもの）
 - ①用紙：A4判（横書き又は縦書き）
図表・資料もA4判で作成すること。
 - ②字数：制限なし（指導教員の指示に従うこと。）
※必ずページ番号を付すこと。
 - ③書式：制限なし（指導教員の指示に従うこと。）
※縦書きの場合は2段組にする等、読みやすいよう配慮すること。（論文要旨も同じ）
 - ④論文用「扉（表紙）」：（ホームページからダウンロード）
研究科・指導教員氏名・本人氏名を記入し、表紙とすること。
- (3) 「修士学位請求論文要旨」
A4判、3000字程度で作成し、表紙には論文題名、所属研究科名・専攻名・氏名等を明記すること。

【学位審査の概要】

指導教員による承認

修士学位を請求しようとする者は、修士論文提出要件を満たし、指導教員から当該論文の内容・水準・形式について確認及び指導を受け、指導教員が修士学位請求に十分な水準であるとの判断をした場合に、論文を提出することができる。

研究科委員会での受理

研究科委員会は、学位請求論文に対して受理を決定し、主査1名及び副査2名以上（副査には他研究科・他大学等の研究者を選定することがある）の審査委員を選出する。

審査委員会による面接試問

- (1) 審査委員会は、当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について、試問の方法により審査を行う。審査終了後、審査委員は研究科委員会に合否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。
- (2) 面接試問は論文提出年度の2月上旬に実施する。
- (3) 学位審査の一環としての公開発表会は行なっていないが、専攻・専修により審査委員以外の教員の同席する場合や中間報告会を公開とする場合、また学位取得後に公開発表会を行なう場合がある。

研究科委員会の合否判定

研究科委員会は審査委員会からの報告をもとに、審議のうえ合否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者には、修士学位が授与される。

【合否判定後の論文の取扱いについて】

審査に合格した論文は、本学大学院で保管し、教育・研究のために活用する。

明治大学大学院文学研究科 博士学位取得のためのガイドライン

課程博士

【本研究科で授与する学位】

日本文学専攻	博士（文学）	Doctor of Philosophy
英文学専攻	博士（文学）	Doctor of Philosophy
仏文学専攻	博士（文学）	Doctor of Philosophy
独文学専攻	博士（文学）	Doctor of Philosophy
演劇学専攻	博士（文学）	Doctor of Philosophy
史学専攻	博士（史学）	Doctor of Philosophy
地理学専攻	博士（地理学）	Doctor of Philosophy
臨床人間学専攻	博士（人間学）	Doctor of Philosophy

【博士学位請求の要件】

在学期間

- (1) 本研究科博士後期課程に3年以上（見込を含む）在学し、所定の研究指導を受けていること。
ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て、博士後期課程に1年（標準修業年限が1年以上2年未満の修士課程又は専門職学位課程を修了した者にあつては、3年から当該修業年限を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。
- (2) 修士課程を1年で修了した者にあつては、本研究科博士後期課程に3年以上（見込を含む）在学し、所定の研究指導を受けていること。
ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て、博士後期課程に2年以上在学すれば足りるものとする。
- (3) 本研究科博士後期課程に3年以上在学し、所定の研究指導を受けた後退学した者にあつては、博士後期課程の入学年度から起算して8年以内に限り、研究科委員会の許可を得て再入学し、課程博士の学位を請求できるものとする。

単位要件

- (1) 学位論文作成のため、各自の研究主題に応じ、指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。
- (2) 研究論文指導ⅠからⅢ（A・B各2単位ずつ）、特別演習AからF（各2単位ずつ）、合わせて24単位を必修とする。
- (3) 指導教員が研究指導上必要と認めるときは、博士前期課程授業科目を履修させることがある。
- (4) 指導教員が必要と認めた場合には、別表1の2に規定する研究科間共通科目を履修することができる。

研究業績

原則として査読制度を伴う全国学会学術誌を含めて複数の公刊論文を要する。文学研究科においては領域・分野による学界事情の差異に鑑み、論文の本数や掲載誌等の詳細は専攻・専修の内規に基づく。

研究倫理教育の受講

本学が定める研究倫理教育を受講していること。

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ているものとする。

【学位請求までのプロセス】

研究指導体制

指導教員が個々に緊密な連絡をとって学生の博士論文完成にいたるまで指導を行うが、専攻・専修によってはこれに加えて所属教員全体による指導体制をとる。

研究業績の要件と同様に詳細は専攻・専修の内規や慣行に基づくが、原則として以下のプロセスを経なければならない。

- 1年次** 修士論文を補完させ、学内外の学術誌への投稿を促し、博士論文提出までの3ヵ年の研究スケジュールを明確化させる指導を行う。また、学位請求論文に不可欠な国内外の先行研究動向の把握、少なくとも国内における研究動向と展望の把握を行なわせ、これについての小論文を執筆させる。
- 2年次** 1年次に続き諸外国における研究動向を概観しつつ、本格的な資料収集と分析を促進させる。明らかにされた成果を学会口頭発表や学会学術誌への投稿という形で公表させる。年度末には博士論文提出有資格の可否を認定する。
- 3年次** 春学期に博士学位請求論文中間報告を行い、予備審査を行う。予備審査で指摘された事項を補完して、指導教授の推薦を受け、専攻・専修会議は研究科委員会への学位請求の可否を判断する。研究科委員会の受理を受けて、最終審査となる公開発表を行う。

【博士論文に求められる要件】

博士の学位論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を示すと認められるものであり、かつ、本研究科の博士論文として相応の質・量・内容・水準を備え、以下の点に留意したものでなければならない。

- (1) 論文の独創性
- (2) 研究テーマの学問的意義・適切性
- (3) 先行研究の精査
- (4) 実証的分析・理論的分析
- (5) 論旨の統合性と一貫性
- (6) 形式的要件

領域・分野の多様性から、求められる要件は必ずしも全専攻・専修で同一ではない。

【博士学位請求時の提出書類・提出期日等】

提出書類

- (1) 学位請求論文3部（簡易製本）（注）

表紙は、本学所定様式（文学研究科のホームページからダウンロード）を使用すること。

- (2) 論文要旨（4000字程度）（本学所定様式）（文学研究科のホームページからダウンロード）
史学専攻100部、他専攻70部（注）

- (3) 学位請求書（本学所定様式）（文学研究科のホームページからダウンロード）

指導教員の署名を得たうえでスキャンデータを提出すること。また、論文題名は日本語の場合は外国語訳を、外国語の場合は日本語訳を付すこと。（ただし、論文題名が英語以外の外国語の場合は、英語訳も付すこと。）

- (4)履歴書（本学所定様式）（文学研究科のホームページからダウンロード）
暦年は西暦表記とします。
- (5)業績書（本学所定様式）（文学研究科のホームページからダウンロード）
暦年は西暦表記とします。
- (6) 明治大学学術成果リポジトリ登録・公開許諾書（文学研究科のホームページからダウンロード）
(注)研究科が定める所定の日時まで、上記「学位請求論文（全文）」及び「論文要旨」のPDFデータ並びに、「明治大学学術成果リポジトリ登録・公開許諾書」を追加で提出しなければならない。

提出期日

- (1)提出期日：4月1日～11月末日
(2)提出先：

Oh-ro! Meiji グループへの提出を原則とする。ただし、ファイルサイズ（30MB）の制限などにより Oh-ro! Meiji での提出ができない場合は、別途研究科の定める方法により提出する。事前にファイルサイズを確認し、30MB を超える可能性がある場合は、提出方法について研究科に問い合わせること。なお、受付は、指定提出期間内のみとし、提出締め切り時間経過後は、理由の如何を問わず受け付けられないので、十分注意すること。

- (3)審査手数料：不要

使用言語

原則として日本語とする。ただし、専攻・専修の議を経て、日本語以外の言語を認めることがある。

【学位審査の概要】

指導教員による承認

博士学位を請求しようとする者は、博士論文提出資格を満たし、指導教員から当該論文の内容・水準・形式について確認及び指導を受け、指導教員が博士学位請求に十分な水準であると判断した場合、学位請求論文を仮提出する。

予備審査

学位請求者の指導教員は、仮提出された学位請求論文に受理の基準となった参考論文を添えて専攻・専修に諮り、各専攻・専修はそれぞれが定める内規に即して論文の受理の可否を審議する。受理を妥当とする場合、専攻の責任者は学位請求書の提出に許可を与える。

研究科委員会による受理審査

研究科執行部は提出された学位請求論文について、申請資格と当該論文の形式要件について確認を行う。研究科執行部が提出資格と論文の形式要件を満たすと判断した場合、研究科委員会を開催し、当該論文の受理について指導教員からの推薦をもとに審査し、受理の可否を決定する。

審査委員による本審査

研究科委員会は、学位請求論文としての受理を決定した論文に対して、主査1名及び副査2名以上の審査委員を選出する。

審査委員は、公開報告会及び面接試問を開催し、当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について、論文の内容が研究者もしくは高度職業人として自立できるための基礎をなしているかを審査する。審査終了後、審査委員は研究科委員会に可否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。なお、審査委員による審査期間は概ね6ヶ月以内とする。

学内機関による審査

研究科委員会は審査委員からの報告をもとに、審議のうえ投票により合否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者は、大学院委員会の承認を経て、博士学位が授与される。

【学位審査等に関わる教員の責務】

審査委員の構成と責務

審査委員は、原則として主査は学位請求者の指導教員、副査のうち1名は本学の専任教員、他の1名は関連分野の研究者（本学以外の研究者を含む）により構成し、厳正なる学位審査に努めるものとする。

各教員の責務

各教員は、研究科委員会における審査において、当該学位論文を公正かつ客観的に評価し、当該学位の水準を保つよう努めるものとする。

【博士学位論文の公表】

審査要旨の公表

博士学位が授与された場合は、当該学位論文の内容の要旨及び審査結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

学位論文の公表

博士学位論文は、本学学位規程第22条に準拠してこれを公表しなければならない。

明治大学学位規程 第22条

本大学において博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、明治大学審査学位論文と明記して、当該学位論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に、既に公表したときは、この限りでない。

- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本大学の承認を受けて、当該学位論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本大学は、その論文の全文を、求めに応じ、閲覧に供するものとする。
- 3 前2項の規定による公表は、本大学の定めるところに従って、インターネットの利用により行うものとする。

※1 「やむを得ない事由がある場合」とは、客観的に見てやむを得ない特別な理由があると本大学が承認した場合をいう。

- 例
- ① 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含む場合
 - ② 博士論文が、著作権保護、個人情報保護等の理由により、博士の学位を授与された日から1年を超えてインターネットの利用により公表することができない内容を含む場合
 - ③ 出版刊行、多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載、特許の申請等との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により博士の学位を授与された者にとって明らかな不利益が、博士学位を授与された日から1年を超えて生じる場合

なお、これらの場合においても、やむを得ない事由が解消された際には、速やかに博士論文全文をインターネットで公開しなければならない。

※2 博士学位論文提出にあたり、学位請求者は博士学位論文をインターネットにより公表することについての著作権関係上の諸問題を解消しておかなければならない。

- 例 ○ 刊行物の場合、出版社の了解を得ておくこと。
○ 引用の図版・写真がある場合、著作権者の同意を得ておくこと。

本学及び国立国会図書館における公表

- ・博士学位論文の要旨及び全文は「明治大学学術成果リポジトリ」により公表される。
- ・明治大学学術成果リポジトリにより公表された博士学位論文の要旨及び全文のデータは、国立国会図書館において利用に供される。

履修登録について

- 1 履修登録 毎年度初めの所定の時期に、履修科目の登録を行う必要があります。この登録を正しく行わなかった場合、受講した科目の単位が認定されないので、注意してください。
- 2 履修計画書の提出 各自の研究計画に基づき、研究指導教員と相談の上、WEBによる履修登録とは別途に履修計画書を提出してください。
- 3 履修登録方法
 - (1) ガイダンス時に、時間割表、履修計画書を受け取ってください。
 - (2) 博士前期課程はWEBにより、博士後期課程は専用の届出用紙により、所定の期間に履修登録を行ってください。なお、WEBによる履修登録の詳細はWEB履修登録要領を参照してください。
 - (3) 履修登録期間後の科目の追加、変更、取消は認められません。
 - (4) 病気その他やむを得ぬ理由によって履修登録期間に手続きができない場合は、事前に大学院事務室まで連絡してください。
 - (5) 所定の単位を取得した者は、履修登録の必要はありません。
 - (6) 履修登録後、個人別時間割表を各自教務システムから、所定の期間に確認してください。この期間を過ぎると修正することはできません。なお、修正は次の場合に限り認めます。その他の場合については、大学院事務室で相談してください。
 - 登録科目の誤り
 - エラーメッセージ記載事項
 - 修了要件不足
 - (7) 他研究科履修をしようとする者は、大学院事務室で該当する研究科の時間割等を確認してください。所属研究科以外の時間割等は、配布できません。
 - (8) 他大学の授業科目を履修する場合は、「他大学大学院の履修の手続」に従ってください。
- 4 個人別時間割表 履修登録後、4月下旬に教務システムで配信します。必ず確認してください。
- 5 履修登録スケジュール

履修計画書・時間割表の配布	4月初旬
WEB履修登録・履修計画書の提出	4月中旬
個人別時間割表の確認	4月下旬
履修登録不備の修正	4月下旬
秋学期開講科目履修修正の受付	9月下旬

履修登録スケジュール

各研究科別新入生ガイダンス **4月上旬** ※研究科の日程を確認のうえ出席すること

- 履修計画書・授業時間割表・履修の手引き等の受領、各種事務説明

博士前期課程・修士課程

博士後期課程

指導教員と履修計画について相談のうえ、履修計画書を作成・提出する（締切：4月中旬）

※博士前期課程在籍者は、履修計画書の提出のみでは履修登録を行ったことにはなりません。以下のとおり、履修計画書に記載した科目をシステムに登録する作業が必要です。
※各手続きの日程は、ガイダンス等案内のある「WEB履修登録要領」を参照すること。

※博士後期課程在籍者は履修計画書の他に、「履修届」も提出する必要があります。（商学研究科、教養デザイン研究科を除く。）

※博士後期課程在籍者はWEB履修登録をする必要はありません。

WEB履修登録システムを用いて履修登録を行う

- 登録するのは当該年度に履修する科目のみ
- 明治大学のホームページ上からWEB履修登録ページにアクセス
(携帯電話・スマートフォンは不可)

WEB履修非対応科目を登録する(該当者のみ)

- 「WEB履修非対応科目履修届」を別途作成のうえ提出する
- WEB履修非対応科目 (例)
- ・WEBで該当曜日時限に表示されなかった科目
 - ・研究科で履修が認められている学部設置科目

登録期限
4月中旬

個人別時間割表を確認する (4月下旬)

- 教務システムの個人別時間割表から、履修科目が正しく登録できているか必ず確認する

履修エラー等がある場合

履修エラー等がなかった場合

履修登録を修正する (4月下旬)

- 履修修正願を別途作成する
- 履修修正期間中に提出する

履修計画書の記載科目が正しく登録できているかを必ず確認!

履修修正後の個人別時間割表を確認する (4月下旬)

- 教務システムの個人別時間割表から、登録にエラーがないかを確認する

履修登録完了

科目ナンバリングについて

2020年度のシラバスから、本学の科目ナンバリング制度による科目ナンバーを、各授業科目シラバスに付番しています。この科目ナンバリング導入の目的、概要及び構造については以下のとおりです。

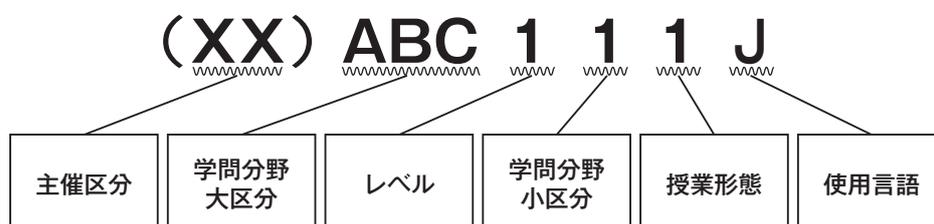
科目ナンバリング導入の目的

明治大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバーを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすること等を目的としています。

明治大学科目ナンバリングの概要及び構造

本大学が開講する全ての授業科目に、以下の科目ナンバリングコード定義に基づき、科目ナンバーを付番します。

<科目ナンバーの構造>



<各ナンバリングコードの定義>

- ① 主催区分コード
当該科目を開講する主催機関（学部・研究科・共通など）をアルファベット2文字で示しています。
- ② 学問分野 大区分コード
学問分野を本学が大きく区分した中で、当該科目が分類される学問分野をアルファベット3文字で示しています。
- ③ レベルコード
当該科目のレベルを数字1文字で示しています。
- ④ 学問分野小区分
本学が大区分として分類した学問分野の中で、さらに分類される分野を小区分として数字1文字で示しています。
- ⑤ 授業形態コード
当該授業の実施形態を数字1文字で示しています。
- ⑥ 使用言語コード
当該授業の教授における使用言語を英字1文字で示しています。

<各コードの詳細>

各ナンバリングコードの詳細及び他学部等の開講科目の科目ナンバーについては、本学ホームページ又は Oh-o! Meiji システムにて確認ください。

<科目ナンバーの例>

(AL) LIT 5 1 2 J

文学研究科／文学／大学院（修士・専門職）基礎的な内容の科目／日本文学／演習・ゼミナール／日本語
※ 文学研究科が設置する、文学-日本文学分野の科目で、日本語により行われる大学院（修士・専門職）レベルの基礎的な内容の科目という意味。

以 上

他大学大学院の聴講について

他大学院との学術的提携・交流を促進し、教育・研究の充実をはかることを目的として、「大学院特別聴講生制度（単位互換制度）」及び「首都大学院コンソーシアム」を設けています。

他大学大学院科目履修に関わる本学の受付期間 ～4月24日（木）

希望者は大学院事務室にて手続方法を確認してください。また、受入大学の受付期間について各自で確認し、その指示に従ってください。

1. 大学院特別聴講生制度（単位互換制度）

これは、大学院学生が研究上の必要から、他の大学院（特別聴講生に関する協定を締結した大学院）に設置されている授業科目を履修して、その履修した単位を所属する大学院に、修了に必要な単位として認定する制度のことです。

現在、本研究科において実施されているものは、次に掲げる制度です。

① 英文学専攻（大学院英文学専攻課程協議会） 12 大学

青山学院大学大学院文学研究科英米文学専攻
法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻
上智大学大学院文学研究科英米文学専攻
明治大学大学院文学研究科英文学専攻
明治学院大学大学院文学研究科英文学専攻
日本女子大学大学院文学研究科英文学専攻
立教大学大学院文学研究科英米文学専攻
聖心女子大学大学院文学研究科英語英文学専攻
東北学院大学大学院文学研究科英語英文学専攻
東京女子大学大学院人間科学研究科人間文化科学専攻英語文学文化分野
東洋大学大学院文学研究科英文学専攻
津田塾大学大学院文学研究科英文学専攻

なお、本協議会では単位互換の他、年一回加盟大学の院生による研究発表会が開催されています。

② 仏文学専攻（大学院フランス語フランス文学専攻課程協議会） 8 大学

青山学院大学大学院文学研究科フランス文学・語学専攻
学習院大学大学院人文科学研究科フランス文学専攻
白百合女子大学大学院文学研究科フランス語フランス文学専攻、言語・文学専攻
上智大学大学院文学研究科フランス文学専攻
獨協大学大学院外国語学研究科フランス語学専攻
武蔵大学大学院人文科学研究科欧米文化専攻
明治学院大学大学院文学研究科フランス文学専攻
明治大学大学院文学研究科仏文学専攻

③ 史学専攻（11 大学史学専攻に関する協定） 11 大学

青山学院大学大学院文学研究科史学専攻
中央大学大学院文学研究科日本史学専攻・東洋史学専攻・西洋史学専攻
上智大学大学院文学研究科史学専攻
明治大学大学院文学研究科史学専攻
立教大学大学院文学研究科史学専攻
専修大学大学院文学研究科歴史学専攻
國學院大學大学院文学研究科史学専攻
国土舘大学大学院人文科学研究科人文科学専攻
駒澤大学大学院人文科学研究科歴史学専攻
東海大学大学院文学研究科史学専攻
東洋大学大学院文学研究科史学専攻

④ 地理学専攻（地理学分野に関する協定） 6 大学

法政大学大学院人文科学研究科地理学専攻
駒澤大学大学院人文科学研究科地理学専攻

明治大学大学院文学研究科地理学専攻
専修大学大学院文学研究科地理学専攻
国士舘大学大学院人文科学研究科人文科学専攻
日本大学大学院理工学研究科地理学専攻

⑤ 臨床人間学専攻現代社会学専修（社会学分野に関する協定）協定校

茨城大学大学院人文社会科学研究科
大妻女子大学大学院人間文化研究科現代社会研究専攻
駒澤大学大学院人文科学研究科社会学専攻
駒澤大学大学院グローバル・メディア研究科グローバル・メディア専攻
埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科
埼玉大学大学院人文社会科学研究科文化環境専攻
成蹊大学大学院文学研究科社会文化論専攻
専修大学大学院文学研究科社会学専攻
創価大学大学院文学研究科社会学専攻
大正大学大学院人間学研究科人間科学専攻
千葉大学大学院人文公共学府人文科学専攻
中央大学大学院文学研究科社会情報学専攻
都留文科大学大学院文学研究科社会学地域社会研究専攻
東洋大学大学院社会学研究科
常磐大学大学院人間科学研究科
日本女子大学大学院人間社会研究科現代社会論専攻
日本大学大学院新聞学研究科
法政大学大学院社会学研究科社会学専攻
武蔵大学大学院人文科学研究科社会学専攻
明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻
明治大学大学院政治経済学研究科政治学専攻
明治大学大学院文学研究科臨床人間学専攻
立教大学大学院社会学研究科社会学専攻
立正大学大学院文学研究科社会学専攻
流通経済大学大学院社会学研究科社会学専攻

2. 「首都大学院コンソーシアム」

研究科ホームページを参照してください。

アーカイブズ・カレッジについて

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館が主催するアーカイブズ・カレッジ〈史料管理学研修会〉の長期コース（約6週間）の全課程を修了し、修了論文の審査に合格した場合、単位として認定します。

なお、本研修は最大3年度にまたがる分割履修が可能です。単位認定するのは一括履修した場合に限ります。

先取り履修制度について

文学研究科においても学部・大学院教育の連携を促進させるため、2008年度から学部4年生が文学研究科設置科目を履修できる制度が導入されました。履修に際して、学部学生の同席も増加すると思われますので、ご配慮ください。

大学院共通選択科目、他研究科設置科目等の履修について

国内外を問わずに、近年は学際的研究課題が増えてきており、優れた研究成果を達成するには、隣接領域における研究動向への注視も不可欠になっております。こうしたことから大学院共通選択科目を増設しており、また修了要件単位として認定される他研究科設置科目も履修できます。指導教員や大学院事務室に照会ください。

大学院特別講義の履修について

各研究科では不定期に内外の著名な研究者を招聘した特別講義を開催しています。学際的領域を公開講義形式で開催することも多く、これらは大学院内に掲示され、大学院HPにも掲載しています。積極的に聴講することをお勧めします。

文学研究科

博士前期・修士課程、博士後期課程

(授業科目・担当者及び履修方法)

博士前期・修士課程修了要件

- 1 本研究科の日本文学・英文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア・史学・地理学専攻においては、32単位以上を、臨床人間学専攻臨床心理学専修においては、38単位以上を、現代社会学・教育学専修においては、36単位以上を修得しなければならない。
- 2 日本文学・英文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア・史学・地理学専攻においては、所属専攻の主要科目及び特修科目並びに共通特修科目の中から、24単位以上を修得しなければならない。
- 3 所属専攻の特定科目においては、4単位を上限に修得することができる。
- 4 共通特修科目のうち総合地域研究については、8単位を上限に修得することができる。
- 5 所属専攻の授業科目のほか、他の専攻若しくは他の研究科（専門職学位課程を含む。）又は単位互換協定による他の大学院の授業科目の修得をもって、修了に必要な単位の一部に加えることができる。
- 6 所属専攻の特定科目及び他の大学院の履修により修得できる単位は、合わせて15単位を限度とする。
- 7 本研究科に入学する前に、本大学院又は他の大学院において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）は、15単位を限度として本研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 8 6及び7により認定した単位は、合わせて20単位を限度として、本研究科の修了に必要な単位数に算入することができる。
- 9 別表1の2に規定する研究科間共通科目については、4単位を限度として、修了に必要な単位数に含めることができる。
- 10 指導教員が必要と認めた場合には、博士後期課程共通選択科目（文化継承学、日本古代学）を履修することができる。
- 11 各専攻における修得すべき単位は、次のとおりとする。
 - (1) **日本文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア専攻**
所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位（計8単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。
 - (2) **英文学専攻**
[英文学・米文学・英語学専修]
所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位（合計8単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。
[英語教職専修]
ア 所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位（合計8単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。
イ 臨床人間学専攻現代社会学・教育学専修科目の選択科目のうち、次の科目の中から4単位以上を修得すること。
教育システム論、思春期・青年期論、教師教育論、教育人間学、教育社会史特論、教授学習心理学特論、社会教育実践論、生涯学習特論、博物館学特論、博物館マネジメント特論、博物館教育論特論、博物館メディア論特論、地域博物館論特論、図書館情報学特論、専門図書館特論、情報サービス特論、図書館経営特論
 - (3) **史学専攻**
所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その講義A～D各2単位・演習A～D各2単位（計16単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、8単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

(4) 地理学専攻

所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習 A～D 各 2 単位及び地理学合同演習 A～D 各 2 単位（計 16 単位）を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち 4 単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。

(5) 臨床人間学専攻

[臨床心理学専修]

所属専攻の指導教員が担当する専攻必修科目（臨床人間学総合演習）を専修科目とし、その演習 A～D 各 2 単位（計 8 単位）、専修必修科目 20 単位及び選択必修科目 10 単位以上（A 群から E 群までそれぞれ 2 単位以上）を修得すること。

[現代社会学・教育学専修]

所属専攻の指導教員が担当する専攻必修科目（臨床人間学総合演習）を専修科目とし、その演習 A～D 各 2 単位（計 8 単位）、専修必修科目 4 単位、選択必修科目 16 単位（各年次 8 単位ずつ）及び選択科目 8 単位以上を修得すること。

12 学位論文作成のため、指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。

13 各専攻・専修の修了要件は次のとおり。

(1) 日本文学・仏文学・独文学・演劇学・文芸メディア専攻

年次	必修科目	選択科目 (所属専攻の必修科目を除く主要科目・特修科目、 共通特修科目)
1 年次	演習 A (2 単位)、演習 B (2 単位)	24 単位以上 (16 単位以上)
2 年次	演習 C (2 単位)、演習 D (2 単位)	
計	8 単位	24 単位以上 (16 単位以上)
合計		32 単位以上

(2) 英文学専攻 (英文学・米文学・英語学専修)

年次	必修科目	選択科目 (所属専攻の必修科目を除く主要科目・特修科目、 共通特修科目)
1 年次	演習 A (2 単位)、演習 B (2 単位)	24 単位以上 (16 単位以上)
2 年次	演習 C (2 単位)、演習 D (2 単位)	
計	8 単位	24 単位以上 (16 単位以上)
合計		32 単位以上

(3) 英文学専攻 (英語教職専修)

年次	必修科目	選択必修科目	選択科目 (所属専攻の必修科目を除く主要科目・特修 科目、共通特修科目)
1 年次	演習 A (2 単位) 演習 B (2 単位)	教育システム論、思春期・青年期論、教師教育論、教育 人間学、教育社会史特論、教授学習心理学特論、社会教 育実践論、生涯学習特論、博物館学特論、博物館マネジ メント特論、博物館教育論特論、博物館メディア論特論、 地域博物館論特論、図書館情報学特論、専門図書館特論、 情報サービス特論、図書館経営特論の中から 4 単位以上	20 単位以上 (16 単位以上)
2 年次	演習 C (2 単位) 演習 D (2 単位)		
計	8 単位	4 単位以上	20 単位以上 (16 単位以上)
合計		32 単位以上	

(4) 史学専攻

年次	必修科目	選択科目 (所属専攻の必修科目を除く主要科目・特修科目、 共通特修科目)
1年次	講義A (2単位)、講義B (2単位) 演習A (2単位)、演習B (2単位)	16単位以上 (8単位以上)
2年次	講義C (2単位)、講義D (2単位) 演習C (2単位)、演習D (2単位)	
計	16単位	16単位以上 (8単位以上)
合計	32単位以上	

(5) 地理学専攻

年次	必修科目	選択科目 (所属専攻の必修科目を除く主要科目・ 特修科目、共通特修科目)
1年次	演習A (2単位)、演習B (2単位) 地理学合同演習A (2単位)、地理学合同演習B (2単位)	16単位以上 (8単位以上)
2年次	演習C (2単位)、演習D (2単位) 地理学合同演習C (2単位)、地理学合同演習D (2単位)	
計	16単位	16単位以上 (8単位以上)
合計	32単位以上	

(6) 臨床人間学専攻 (臨床心理学専修)

年次	専攻必修科目	専修必修科目	選択必修科目
1年次	臨床人間学総合演習A (2単位) 臨床人間学総合演習B (2単位)	20単位	10単位以上 (A群からE群までそれぞれ2単位以上)
2年次	臨床人間学総合演習C (2単位) 臨床人間学総合演習D (2単位)		
計	8単位	20単位	10単位以上
合計	38単位以上		

(7) 臨床人間学専攻 (現代社会学専修)

年次	専攻必修科目	専修必修科目	選択必修科目	選択科目・共通特修科目・ 他研究科科目・他専攻科目・ 他大学院科目
1年次	臨床人間学総合演習A (2単位) 臨床人間学総合演習B (2単位)	2単位	8単位	8単位以上
2年次	臨床人間学総合演習C (2単位) 臨床人間学総合演習D (2単位)	2単位	8単位	
計	8単位	4単位	16単位	8単位以上
合計	36単位以上			

(8) 臨床人間学専攻（教育学専修）

年次	専攻必修科目	専修必修科目	選択必修科目	選択科目
1年次	臨床人間学総合演習A（2単位） 臨床人間学総合演習B（2単位）	2単位	8単位 （A群からD群のなかの 同一群の科目から4単位 選択、加えてA群からD群 の科目から4単位選択）	8単位 （A群からD群のなかの 同一群の科目から4単位 以上選択、加えてA群から E群の科目から4単位以上 選択）
2年次	臨床人間学総合演習C（2単位） 臨床人間学総合演習D（2単位）	2単位	8単位 （A群からD群のなかの 同一群の科目から4単位 選択、加えてA群からD群 の科目から4単位選択）	
計	8単位	4単位	16単位	8単位以上
合計	36単位以上			

14 履修計画書は1年次の初めに各自の研究計画にしたがって、修了に必要な履修科目の全部を届け出ること。

15 履修登録は、毎年度初めに履修計画に基づき、WEBにより、指定された期間に登録を済ませること。なお、WEB履修登録に関するマニュアルは別途配付する。

授業科目及び担当者

博士前期課程・修士課程

共通特修科目

授業科目	単位		配当学年	開講期	研究指導	担当者
	講義	演習				
総合文学研究ⅠA (文学と思想)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅠB (文学と思想)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅡA (比較文学)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅡB (比較文学)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅢA (言語学)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅢB (言語学)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅣA (文学と教育)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅣB (文学と教育)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅤA (文学と教育)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合文学研究ⅤB (文学と教育)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合史学研究ⅠA (歴史教育)	2		1・2年	春学期	兼任講師 博士(史学)	伊勢弘志
総合史学研究ⅠB (歴史教育)	2		1・2年	秋学期		
総合史学研究ⅡA (文学と歴史学)	2		1・2年	春学期	専任教授 Ph.D.	佐々木 憲一
総合史学研究ⅡB (文学と歴史学)	2		1・2年	秋学期	専任教授 博士(文学)	山崎 健一
					専任教授 博士(文学)	高橋 一樹
					専任准教授 博士(文学)	湯浅 幸代
総合史学研究ⅢA (アジアの政治と社会)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合史学研究ⅢB (アジアの政治と社会)	2		1・2年	秋学期	専任教授 博士(文学)	櫻井 智美
総合史学研究ⅣA (前近代のヨーロッパ世界)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合史学研究ⅣB (前近代のヨーロッパ世界)	2		1・2年	秋学期	専任教授 博士(文学)	青谷 秀紀
総合史学研究ⅤA (考古学と人文社会諸科学)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合史学研究ⅤB (考古学と人文社会諸科学)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合史学研究ⅥA (文学・歴史学・考古学の方法論)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合史学研究ⅥB (文学・歴史学・考古学の方法論)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合地域研究ⅠA (東北日本)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合地域研究ⅠB (関西日本)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合地域研究ⅡA (慶北大 学校)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
総合地域研究ⅡB (高麗大 学校)	2		1・2年	秋学期集中	専任教授 博士(文学)	牧野 淳司
総合地域研究ⅡC (中国)	2		1・2年	半期		(本年度休講)
人文社会科学のためのデータサイエンスと AI	2		1・2年	春学期集中	兼任講師 博士(人間学)	パッハー, アリス

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
(特修外国語)						
特 修 ド イ ツ 語 I	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(文学) 岡 本 和 子
特 修 ド イ ツ 語 II	2			秋学期		
特 修 ド イ ツ 語 III	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 修 ド イ ツ 語 IV	2			半 期		
特 修 フ ラ ン ス 語 I	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(文学) マリー=ノエル, ボーヴィウ
特 修 フ ラ ン ス 語 II	2			秋学期		
特 修 フ ラ ン ス 語 III	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 修 フ ラ ン ス 語 IV	2			半 期		
特 修 中 国 語 I	2		1・2年	春学期		兼任講師 永 井 弥 人
特 修 中 国 語 II	2			秋学期		
特 修 中 国 語 III	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 修 中 国 語 IV	2			半 期		
特 修 朝 鮮 語 I	2		1・2年	春学期		兼任講師 平 野 鶴 子
特 修 朝 鮮 語 II	2			秋学期		
特 修 朝 鮮 語 III	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 修 朝 鮮 語 IV	2			半 期		
特 修 ロ シ ア 語 I	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士DEA (スラヴ学専攻) 杉 山 春 子
特 修 ロ シ ア 語 II	2			秋学期		
特 修 ロ シ ア 語 III	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 修 ロ シ ア 語 IV	2			半 期		
特 修 ス ペ イ ン 語 I	2		1・2年	春学期		兼任講師 Ph.D. 博士(哲学) バリエントス ロドリゲス
特 修 ス ペ イ ン 語 II	2			秋学期		
特 修 ス ペ イ ン 語 III	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 修 ス ペ イ ン 語 IV	2			半 期		
古 典 ギ リ シ ア 語 中 級	2		1・2年	春学期		専任准教授 古 山 夕 城
古 典 ギ リ シ ア 語 講 読	2			秋学期		
ラ テ ン 語 中 級 講 読 A	2		1・2年	春学期		専任教授 小 島 久 和
ラ テ ン 語 中 級 講 読 B	2			秋学期		
特 修 ア ラ ビ ア 語 A	2		1・2年	春学期		兼任講師 狩 野 希 望
特 修 ア ラ ビ ア 語 B	2			秋学期		

日 本 文 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
主 要 科 目						
日 本 古 代 文 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 山 崎 健 司
日 本 古 代 文 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
日 本 古 代 文 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
日 本 古 代 文 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
日 本 古 代 文 学 演 習 II A		2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(文学) 湯 淺 幸 代
日 本 古 代 文 学 演 習 II B		2	1年	秋学期		
日 本 古 代 文 学 演 習 II C		2	2年	春学期		
日 本 古 代 文 学 演 習 II D		2	2年	秋学期		
日 本 中 世 文 学 演 習 A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 牧 野 淳 司
日 本 中 世 文 学 演 習 B		2	1年	秋学期		
日 本 中 世 文 学 演 習 C		2	2年	春学期		
日 本 中 世 文 学 演 習 D		2	2年	秋学期		
日 本 近 世 文 学 演 習 A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 杉 田 昌 彦
日 本 近 世 文 学 演 習 B		2	1年	秋学期		
日 本 近 世 文 学 演 習 C		2	2年	春学期		
日 本 近 世 文 学 演 習 D		2	2年	秋学期		
日 本 近 代 文 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(人文科学) 竹 内 栄 美 子
日 本 近 代 文 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
日 本 近 代 文 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
日 本 近 代 文 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
日 本 近 代 文 学 演 習 II A		2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(文学) 田 口 麻 奈
日 本 近 代 文 学 演 習 II B		2	1年	秋学期		
日 本 近 代 文 学 演 習 II C		2	2年	春学期		
日 本 近 代 文 学 演 習 II D		2	2年	秋学期		
日 本 近 代 文 学 演 習 III A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 生 方 智 子
日 本 近 代 文 学 演 習 III B		2	1年	秋学期		
日 本 近 代 文 学 演 習 III C		2	2年	春学期		
日 本 近 代 文 学 演 習 III D		2	2年	秋学期		
国 語 学 演 習 A		2	1年	春学期	○	専任教授 小 野 正 弘
国 語 学 演 習 B		2	1年	秋学期		
国 語 学 演 習 C		2	2年	春学期		
国 語 学 演 習 D		2	2年	秋学期		
漢 文 学 演 習 A		2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(文学) 甲 斐 雄 一
漢 文 学 演 習 B		2	1年	秋学期		
漢 文 学 演 習 C		2	2年	春学期		
漢 文 学 演 習 D		2	2年	秋学期		
日 本 文 化 学 演 習 A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(人文科学) 郭 南 燕
日 本 文 化 学 演 習 B		2	1年	秋学期		
日 本 文 化 学 演 習 C		2	2年	春学期		
日 本 文 化 学 演 習 D		2	2年	秋学期		

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
特 修 科 目						
日 本 古 代 文 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 古 代 文 学 特 論 I B	2		1・2年	春学期	専任教授 博士(文学)	山 崎 健 司
日 本 古 代 文 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 古 代 文 学 特 論 II B	2		1・2年	春学期	専任准教授 博士(文学)	湯 淺 幸 代
日 本 中 世 文 学 特 論 A	2		1・2年	秋学期	専任教授 博士(文学)	牧 野 淳 司
日 本 中 世 文 学 特 論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 近 世 文 学 特 論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 近 世 文 学 特 論 B	2		1・2年	春学期	専任教授 博士(文学)	杉 田 昌 彦
日 本 近 代 文 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 近 代 文 学 特 論 I B	2		1・2年	秋学期	専任教授 博士(人文科学)	竹 内 栄美子
日 本 近 代 文 学 特 論 II A	2		1・2年	春学期	専任准教授 博士(文学)	田 口 麻 奈
日 本 近 代 文 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 近 代 文 学 特 論 III A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 近 代 文 学 特 論 III B	2		1・2年	秋学期	専任教授 博士(文学)	生 方 智 子
国 語 学 特 論 A	2		1・2年	秋学期	専任教授	小 野 正 弘
国 語 学 特 論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 化 学 特 論 A	2		1・2年	春学期	専任教授 博士(人文科学)	郭 南 燕
日 本 文 化 学 特 論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 学 特 殊 講 義 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 学 特 殊 講 義 I B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 学 特 殊 講 義 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 学 特 殊 講 義 II B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 学 史 特 論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 文 学 史 特 論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
漢 文 学 特 論 A	2		1・2年	春学期	専任准教授 博士(文学)	甲 斐 雄 一
漢 文 学 特 論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 演 劇 特 論 I A	2		1・2年	春学期	専任教授 博士(文学)	矢 内 賢 二
日 本 演 劇 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
日 本 演 劇 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日 本 演 劇 特 論 II B	2		1・2年	半 期		
特 定 科 目						
日 本 文 学 特 別 指 定 講 義 I	2		1・2年	半 期		
日 本 文 学 特 別 指 定 講 義 II	2		1・2年	半 期		

英 文 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
主 要 科 目						
英 文 学 演 習 I A		2	1年	半 期		(本年度休講)
英 文 学 演 習 I B		2	1年	半 期		
英 文 学 演 習 I C		2	2年	半 期		
英 文 学 演 習 I D		2	2年	半 期		
英 文 学 演 習 II A		2	1年	春学期	○ 専任教授	野 田 学
英 文 学 演 習 II B		2	1年	秋学期		
英 文 学 演 習 II C		2	2年	春学期		
英 文 学 演 習 II D		2	2年	秋学期		
英 文 学 演 習 III A		2	1年	春学期	○ 専任教授 Ph.D.	大 山 るみこ
英 文 学 演 習 III B		2	1年	秋学期		
英 文 学 演 習 III C		2	2年	春学期		
英 文 学 演 習 III D		2	2年	秋学期		
英 文 学 演 習 IV A		2	1年	春学期	○ 専任教授 D.Phil.	ワトソン, アレックス
英 文 学 演 習 IV B		2	1年	秋学期		
英 文 学 演 習 IV C		2	2年	春学期		
英 文 学 演 習 IV D		2	2年	秋学期		
英 文 学 演 習 V A		2	1年	半 期		(本年度休講)
英 文 学 演 習 V B		2	1年	半 期		
英 文 学 演 習 V C		2	2年	半 期		
英 文 学 演 習 V D		2	2年	半 期		
米 文 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○ 専任講師 Ph.D.	横 山 晃
米 文 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
米 文 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
米 文 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
米 文 学 演 習 II A		2	1年	春学期	○ 専任教授 Ph.D.	サトウ, ゲイルK.
米 文 学 演 習 II B		2	1年	半 期		(本年度休講)
米 文 学 演 習 II C		2	2年	春学期	○ 専任教授 Ph.D.	サトウ, ゲイルK.
米 文 学 演 習 II D		2	2年	半 期		(本年度休講)
米 文 学 演 習 III A		2	1年	春学期	○ 専任教授 Ph.D.	竹 内 理 矢
米 文 学 演 習 III B		2	1年	秋学期		
米 文 学 演 習 III C		2	2年	春学期		
米 文 学 演 習 III D		2	2年	秋学期		
米 文 学 演 習 IV A		2	1年	春学期	○ 専任教授 博士(文学)	梶 原 照 子
米 文 学 演 習 IV B		2	1年	秋学期		
米 文 学 演 習 IV C		2	2年	春学期		
米 文 学 演 習 IV D		2	2年	秋学期		
米 文 学 演 習 V A		2	1年	半 期		(本年度休講)
米 文 学 演 習 V B		2	1年	半 期		
米 文 学 演 習 V C		2	2年	半 期		
米 文 学 演 習 V D		2	2年	半 期		
英 語 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○ 専任講師	新 城 真 里 奈
英 語 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
英 語 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
英 語 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
英 語 学 演 習 II A		2	1年	春学期	○ 専任教授 Ph.D.	石 井 透
英 語 学 演 習 II B		2	1年	秋学期		
英 語 学 演 習 II C		2	2年	春学期		
英 語 学 演 習 II D		2	2年	秋学期		

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
英 語 学 演 習 III A		2	1年	春学期	○	専任准教授 久保田 俊彦
英 語 学 演 習 III B		2	1年	秋学期		
英 語 学 演 習 III C		2	2年	春学期		
英 語 学 演 習 III D		2	2年	秋学期		
特 修 科 目						
英 文 学 特 論 I A	2		1・2年	春学期		兼担教授 辻 昌宏
英 文 学 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
英 文 学 特 論 II A	2		1・2年	春学期		専任講師 塚 田 麻里子
英 文 学 特 論 II B	2		1・2年	秋学期		
英 文 学 特 論 III A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
英 文 学 特 論 III B	2		1・2年	半 期		
米 文 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
米 文 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		
米 文 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
米 文 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		
米 文 学 特 論 III A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
米 文 学 特 論 III B	2		1・2年	半 期		
英 語 学 特 論 A	2		1・2年	春学期		兼任講師 市 橋 久美子
英 語 学 特 論 B	2		1・2年	秋学期		
英 語 教 職 特 論 I A	2		1・2年	春学期		兼任講師 吉 村 由 佳
英 語 教 職 特 論 I B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
英 語 教 職 特 論 II A	2		1・2年	秋学期		兼任講師 博士(文学) 中 村 文 紀
英 語 教 職 特 論 II B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
英 語 教 職 特 論 III A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
英 語 教 職 特 論 III B	2		1・2年	半 期		
英 語 教 職 特 論 IV A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
英 語 教 職 特 論 IV B	2		1・2年	半 期		
特 定 科 目						
英 文 学 特 別 指 定 講 義 I	2		1・2年	半 期		
英 文 学 特 別 指 定 講 義 II	2		1・2年	半 期		

仏文学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	研究 指導	担当 者
	講義	演習				
主要科目						
近代仏文学演習ⅠA		2	1年	半期		(本年度休講)
近代仏文学演習ⅠB		2	1年	半期		
近代仏文学演習ⅠC		2	2年	半期		
近代仏文学演習ⅠD		2	2年	半期		
近代仏文学演習ⅡA		2	1年	半期		(本年度休講)
近代仏文学演習ⅡB		2	1年	半期		
近代仏文学演習ⅡC		2	2年	半期		
近代仏文学演習ⅡD		2	2年	半期		
近代仏文学演習ⅢA		2	1年	春学期	○	専任教授 小島久和
近代仏文学演習ⅢB		2	1年	秋学期		
近代仏文学演習ⅢC		2	2年	春学期		
近代仏文学演習ⅢD		2	2年	秋学期		
近代仏文学演習ⅣA		2	1年	半期		(本年度休講)
近代仏文学演習ⅣB		2	1年	半期		
近代仏文学演習ⅣC		2	2年	半期		
近代仏文学演習ⅣD		2	2年	半期		
現代仏文学演習ⅠA		2	1年	春学期	○	専任教授 合田正人
現代仏文学演習ⅠB		2	1年	秋学期		
現代仏文学演習ⅠC		2	2年	春学期		
現代仏文学演習ⅠD		2	2年	秋学期		
現代仏文学演習ⅡA		2	1年	春学期		(本年度休講)
現代仏文学演習ⅡB		2	1年	秋学期		
現代仏文学演習ⅡC		2	2年	春学期		
現代仏文学演習ⅡD		2	2年	秋学期		
現代仏文学演習ⅢA		2	1年	春学期	○	専任教授 学術博士 根本美作子
現代仏文学演習ⅢB		2	1年	秋学期		
現代仏文学演習ⅢC		2	2年	春学期		
現代仏文学演習ⅢD		2	2年	秋学期		
現代仏文学演習ⅣA		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 谷口亜沙子
現代仏文学演習ⅣB		2	1年	秋学期		
現代仏文学演習ⅣC		2	2年	春学期		
現代仏文学演習ⅣD		2	2年	秋学期		
仏語学演習A		2	1年	半期		(本年度休講)
仏語学演習B		2	1年	半期		
仏語学演習C		2	2年	半期		
仏語学演習D		2	2年	半期		

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
特 修 科 目						
近代仏文学特論ⅠA	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近代仏文学特論ⅠB	2		1・2年	半 期		
近代仏文学特論ⅡA	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近代仏文学特論ⅡB	2		1・2年	半 期		
近代仏文学特論ⅢA	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近代仏文学特論ⅢB	2		1・2年	半 期		
近代仏文学特論ⅣA	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近代仏文学特論ⅣB	2		1・2年	半 期		
近代仏文学特論ⅤA	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近代仏文学特論ⅤB	2		1・2年	半 期		
現代仏文学特論ⅠA	2		1・2年	春学期	兼任講師 Ph.D.	フランソワ、ビゼ
現代仏文学特論ⅠB	2		1・2年	秋学期		
現代仏文学特論ⅡA	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現代仏文学特論ⅡB	2		1・2年	半 期		
現代仏文学特論ⅢA	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現代仏文学特論ⅢB	2		1・2年	半 期		
現代仏文学特論ⅣA	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現代仏文学特論ⅣB	2		1・2年	半 期		
仏語学特論A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
仏語学特論B	2		1・2年	半 期		
フランス文学理論・思想研究Ⅰ	2		1・2年	春学期	専任教授 文学博士	田母神 顯二郎
フランス文学理論・思想研究Ⅱ	2		1・2年	秋学期		
特 定 科 目						
仏文学特別指定講義Ⅰ	2		1・2年	半 期		
仏文学特別指定講義Ⅱ	2		1・2年	半 期		

独 文 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配 当 学 年	開 講 期	研 究 指 導	担 当 者
	講 義	演 習				
主 要 科 目						
近 代 独 文 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 岡 本 和 子
近 代 独 文 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
近 代 独 文 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
近 代 独 文 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
近 代 独 文 学 演 習 II A		2	1年	春学期	○	専任教授 富 重 与 志 生
近 代 独 文 学 演 習 II B		2	1年	秋学期		
近 代 独 文 学 演 習 II C		2	2年	春学期		
近 代 独 文 学 演 習 II D		2	2年	秋学期		
現 代 独 文 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 福 間 具 子
現 代 独 文 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
現 代 独 文 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
現 代 独 文 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
現 代 独 文 学 演 習 II A		2	1年	半 期		(本年度休講)
現 代 独 文 学 演 習 II B		2	1年	半 期		
現 代 独 文 学 演 習 II C		2	2年	半 期		
現 代 独 文 学 演 習 II D		2	2年	半 期		
現 代 独 文 学 演 習 III A		2	1年	春学期	○	専任教授 新 本 史 斉
現 代 独 文 学 演 習 III B		2	1年	秋学期		
現 代 独 文 学 演 習 III C		2	2年	春学期		
現 代 独 文 学 演 習 III D		2	2年	秋学期		
ドイ ツ 文 芸 思 想 史 演 習 A		2	1年	春学期	○	専任教授 Dr.phil. マンデラルツ, ミハエル
ドイ ツ 文 芸 思 想 史 演 習 B		2	1年	秋学期		
ドイ ツ 文 芸 思 想 史 演 習 C		2	2年	春学期		
ドイ ツ 文 芸 思 想 史 演 習 D		2	2年	秋学期		
独 語 学 演 習 A		2	1年	春学期	○	専任教授 渡 辺 学
独 語 学 演 習 B		2	1年	秋学期		兼任講師 成 田 節
独 語 学 演 習 C		2	2年	春学期	○	専任教授 渡 辺 学
独 語 学 演 習 D		2	2年	秋学期		兼任講師 成 田 節
特 修 科 目						
近 代 独 文 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近 代 独 文 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近 代 独 文 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
近 代 独 文 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現 代 独 文 学 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現 代 独 文 学 特 論 I B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現 代 独 文 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
現 代 独 文 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
ドイ ツ 文 芸 思 想 史 特 論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
ドイ ツ 文 芸 思 想 史 特 論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
ドイ ツ 古 典 文 学 特 論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
ドイ ツ 古 典 文 学 特 論 B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 定 科 目						
独 文 学 特 別 指 定 講 義 I	2		1・2年	半 期		
独 文 学 特 別 指 定 講 義 II	2		1・2年	半 期		

演劇学専攻

授業科目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
主 要 科 目						
演劇学演習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 井上 優
演劇学演習 I B		2	1年	秋学期		
演劇学演習 I C		2	2年	春学期		
演劇学演習 I D		2	2年	秋学期		
演劇学演習 II A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 大林 のり子
演劇学演習 II B		2	1年	秋学期		
演劇学演習 II C		2	2年	春学期		
演劇学演習 II D		2	2年	秋学期		
演劇学演習 III A		2	1年	春学期	○	専任准教授 伊藤 愉
演劇学演習 III B		2	1年	秋学期		
演劇学演習 III C		2	2年	春学期		
演劇学演習 III D		2	2年	秋学期		
日本演劇演習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 伊藤 真紀 (2025年度特別研究)
日本演劇演習 I B		2	1年	秋学期		
日本演劇演習 I C		2	2年	春学期		
日本演劇演習 I D		2	2年	秋学期		
日本演劇演習 II A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 矢内 賢二
日本演劇演習 II B		2	1年	秋学期		
日本演劇演習 II C		2	2年	春学期		
日本演劇演習 II D		2	2年	秋学期		
特 修 科 目						
演劇学特論 I A	2		1・2年	春学期		兼任講師 上野 房子
演劇学特論 I B	2		1・2年	秋学期		
演劇学特論 II A	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(文学) 森 佳子
演劇学特論 II B	2		1・2年	秋学期		
日本演劇特論 I A	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(文学) 矢内 賢二
日本演劇特論 I B	2		1・2年	秋学期		
日本演劇特論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日本演劇特論 II B	2		1・2年	半 期		
西洋劇文学史特論 I A	2		1・2年	春学期		専任准教授 伊藤 愉
西洋劇文学史特論 I B	2		1・2年	秋学期		
西洋劇文学史特論 II A	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(文学) 大林 のり子
西洋劇文学史特論 II B	2		1・2年	秋学期		
西洋劇文学史特論 III A	2		1・2年	春学期		専任教授 井上 優
西洋劇文学史特論 III B	2		1・2年	秋学期		
言語芸術論 特論 A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
言語芸術論 特論 B	2		1・2年	半 期		
特 定 科 目						
演劇学特別指定講義 I	2		1・2年	半 期		
演劇学特別指定講義 II	2		1・2年	半 期		

文芸メディア専攻

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
主 要 科 目						
文芸メディア演習ⅠA		2	1年	春学期	○	専任講師 博士(文学) 佐伯和香子
文芸メディア演習ⅠB		2	1年	秋学期		
文芸メディア演習ⅠC		2	2年	春学期		
文芸メディア演習ⅠD		2	2年	秋学期		
文芸メディア演習ⅡA		2	1年	春学期	○	専任教授 内村和至
文芸メディア演習ⅡB		2	1年	秋学期		
文芸メディア演習ⅡC		2	2年	春学期		
文芸メディア演習ⅡD		2	2年	秋学期		
文芸メディア演習ⅢA		2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(学術) 能地克宜
文芸メディア演習ⅢB		2	1年	秋学期		
文芸メディア演習ⅢC		2	2年	春学期		
文芸メディア演習ⅢD		2	2年	秋学期		
文芸メディア演習ⅣA		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(社会学) 中江桂子
文芸メディア演習ⅣB		2	1年	秋学期		
文芸メディア演習ⅣC		2	2年	春学期		
文芸メディア演習ⅣD		2	2年	秋学期		
文芸メディア演習ⅤA		2	1年	春学期	○	専任講師 相良剛
文芸メディア演習ⅤB		2	1年	秋学期		
文芸メディア演習ⅤC		2	2年	春学期		
文芸メディア演習ⅤD		2	2年	秋学期		
文芸メディア演習ⅥA		2	1年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア演習ⅥB		2	1年	半 期		
文芸メディア演習ⅥC		2	2年	半 期		
文芸メディア演習ⅥD		2	2年	半 期		
特 修 科 目						
文芸メディア特論ⅠA	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア特論ⅠB	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア特論ⅡA	2		1・2年	春学期		専任教授 内村和至
文芸メディア特論ⅡB	2		1・2年	秋学期		専任教授 内村和至
文芸メディア特論ⅢA	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア特論ⅢB	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア特論ⅣA	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(社会学) 中江桂子
文芸メディア特論ⅣB	2		1・2年	秋学期		専任教授 博士(社会学) 中江桂子
文芸メディア特論ⅤA	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア特論ⅤB	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア特論ⅥA	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
文芸メディア特論ⅥB	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日本文芸史特論A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
日本文芸史特論B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
表象文化特論A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
表象文化特論B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
表現創作特論A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
表現創作特論B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
メディア分析特論A	2		1・2年	春学期		専任講師 相良剛
メディア分析特論B	2		1・2年	秋学期		専任講師 相良剛
近現代文芸特論A	2		1・2年	春学期		専任准教授 博士(学術) 能地克宜
近現代文芸特論B	2		1・2年	秋学期		専任准教授 博士(学術) 能地克宜
伝承文学特論A	2		1・2年	春学期		専任講師 博士(文学) 佐伯和香子
伝承文学特論B	2		1・2年	秋学期		専任講師 博士(文学) 佐伯和香子
特 定 科 目						
文芸メディア特別指定講義Ⅰ	2		1・2年	半 期		
文芸メディア特別指定講義Ⅱ	2		1・2年	半 期		

史 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
主 要 科 目						
日 本 史 学 研 究 I A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(工学) 松 山 恵
日 本 史 学 研 究 I B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 I C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 I D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 II A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(史学) 野 尻 泰 弘
日 本 史 学 研 究 II B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 II C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 II D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 III A	2	2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(史学) 中 村 友 一
日 本 史 学 研 究 III B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 III C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 III D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 IV A	2	2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(史学) 清 水 有 子
日 本 史 学 研 究 IV B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 IV C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 IV D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 V A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(史学) 山 田 朗
日 本 史 学 研 究 V B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 V C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 V D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 VI A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 高 橋 一 樹
日 本 史 学 研 究 VI B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 VI C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 VI D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 VII A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 落 合 弘 樹
日 本 史 学 研 究 VII B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 VII C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 VII D	2	2	2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 VIII A	2		1年	春学期		兼任講師 博士(社会学) 愼 蒼 宇
日 本 史 学 研 究 VIII B	2		1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 VIII C	2		2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 VIII D	2		2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 IX A	2		1年	春学期		兼任講師 博士(文学) 仁 藤 敦 史
日 本 史 学 研 究 IX B	2		1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 IX C	2		2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 IX D	2		2年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 X A	2	2	1年	春学期	○	専任講師 博士(歴史学) 富 山 仁 貴
日 本 史 学 研 究 X B	2	2	1年	秋学期		
日 本 史 学 研 究 X C	2	2	2年	春学期		
日 本 史 学 研 究 X D	2	2	2年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 I A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 高 田 幸 男
ア ジ ア 史 研 究 I B	2	2	1年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 I C	2	2	2年	春学期		
ア ジ ア 史 研 究 I D	2	2	2年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 II A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 江 川 ひかり
ア ジ ア 史 研 究 II B	2	2	1年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 II C	2	2	2年	春学期		
ア ジ ア 史 研 究 II D	2	2	2年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 III A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 櫻 井 智 美
ア ジ ア 史 研 究 III B	2	2	1年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 III C	2	2	2年	春学期		
ア ジ ア 史 研 究 III D	2	2	2年	秋学期		

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
ア ジ ア 史 研 究 I V A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(史学) 高 村 武 幸
ア ジ ア 史 研 究 I V B	2	2	1年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 I V C	2	2	2年	春学期		
ア ジ ア 史 研 究 I V D	2	2	2年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 V A	2	2	1年	春学期	○	専任准教授 博士(文学) 鈴 木 開
ア ジ ア 史 研 究 V B	2	2	1年	秋学期		
ア ジ ア 史 研 究 V C	2	2	2年	春学期		
ア ジ ア 史 研 究 V D	2	2	2年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 I A	2	2	1年	春学期	○	専任准教授 古 山 夕 城
西 洋 史 学 研 究 I B	2	2	1年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 I C	2	2	2年	春学期		
西 洋 史 学 研 究 I D	2	2	2年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 II A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 Dr.Phil. 水 野 博 子
西 洋 史 学 研 究 II B	2	2	1年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 II C	2	2	2年	春学期		
西 洋 史 学 研 究 II D	2	2	2年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 III A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 青 谷 秀 紀
西 洋 史 学 研 究 III B	2	2	1年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 III C	2	2	2年	春学期		
西 洋 史 学 研 究 III D	2	2	2年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 IV A	2	2	1年	春学期	○	専任准教授 鱒 淵 秀 一
西 洋 史 学 研 究 IV B	2	2	1年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 IV C	2	2	2年	春学期		
西 洋 史 学 研 究 IV D	2	2	2年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 V A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 豊 川 浩 一
西 洋 史 学 研 究 V B	2	2	1年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 V C	2	2	2年	春学期		
西 洋 史 学 研 究 V D	2	2	2年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 VI A	2	2	1年	春学期	○	専任講師 博士(文学) 谷 口 良 生
西 洋 史 学 研 究 VI B	2	2	1年	秋学期		
西 洋 史 学 研 究 VI C	2	2	2年	春学期		
西 洋 史 学 研 究 VI D	2	2	2年	秋学期		
考 古 学 研 究 I A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(史学) 阿 部 芳 郎
考 古 学 研 究 I B	2	2	1年	秋学期		
考 古 学 研 究 I C	2	2	2年	春学期		
考 古 学 研 究 I D	2	2	2年	秋学期		
考 古 学 研 究 II A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 Ph.D. 佐々木 憲 一
考 古 学 研 究 II B	2	2	1年	秋学期		
考 古 学 研 究 II C	2	2	2年	春学期		
考 古 学 研 究 II D	2	2	2年	秋学期		
考 古 学 研 究 III A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(史学) 藤 山 龍 造
考 古 学 研 究 III B	2	2	1年	秋学期		
考 古 学 研 究 III C	2	2	2年	春学期		
考 古 学 研 究 III D	2	2	2年	秋学期		
考 古 学 研 究 IV A	2	2	1年	春学期	○	専任教授 博士(史学) 若 狭 徹
考 古 学 研 究 IV B	2	2	1年	秋学期		
考 古 学 研 究 IV C	2	2	2年	春学期		
考 古 学 研 究 IV D	2	2	2年	秋学期		
考 古 学 研 究 V A	2	2	1年	半 期		(本年度休講)
考 古 学 研 究 V B	2	2	1年	半 期		
考 古 学 研 究 V C	2	2	2年	半 期		
考 古 学 研 究 V D	2	2	2年	半 期		

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
特 修 科 目						
日 本 史 特 論 I A	2		1・2年	春学期		兼任講師 久留島 典 子
日 本 史 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
日 本 史 特 論 II A	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(文学) 渡 辺 浩 一
日 本 史 特 論 II B	2		1・2年	秋学期		
文 化 史 特 論 A	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(史学) 三 舟 隆 之
文 化 史 特 論 B	2		1・2年	秋学期		
思 想 史 特 論 A	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(文学) 若 尾 政 希
思 想 史 特 論 B	2		1・2年	秋学期		
ア ジ ア 史 特 論 I A	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(文学) 津 田 資 久
ア ジ ア 史 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
ア ジ ア 史 特 論 II A	2		1・2年	春学期		兼任講師 平 野 豊
ア ジ ア 史 特 論 II B	2		1・2年	秋学期		
西 洋 史 特 論 I A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
西 洋 史 特 論 I B	2		1・2年	半 期		
西 洋 史 特 論 II A	2		1・2年	春学期集中		兼任講師 小 澤 弘 明
西 洋 史 特 論 II B	2		1・2年	秋学期集中		
考 古 学 特 論 I A	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(理学) 米 田 穰
考 古 学 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
考 古 学 特 論 II A	2		1・2年	春学期		兼任講師 小 澤 正 人
考 古 学 特 論 II B	2		1・2年	秋学期		
考 古 学 特 論 III A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
考 古 学 特 論 III B	2		1・2年	半 期		
考 古 学 フィールドワーク A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
考 古 学 フィールドワーク B	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
特 定 科 目						
史 学 特 別 指 定 講 義 I	2		1・2年	半 期		
史 学 特 別 指 定 講 義 II	2		1・2年	半 期		

地 理 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配 当 学 年	開 講 期	研 究 指 導	担 当 者
	講 義	演 習				
主 要 科 目						
自 然 地 理 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 理学博士 梅 本 亨
自 然 地 理 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
自 然 地 理 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
自 然 地 理 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
自 然 地 理 学 演 習 II A		2	1年	春学期	○	専任講師 博士(環境学) 佐々木 夏 来
自 然 地 理 学 演 習 II B		2	1年	秋学期		
自 然 地 理 学 演 習 II C		2	2年	春学期		
自 然 地 理 学 演 習 II D		2	2年	秋学期		
人 文 地 理 学 演 習 I A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(理学) 川 口 太 郎
人 文 地 理 学 演 習 I B		2	1年	秋学期		
人 文 地 理 学 演 習 I C		2	2年	春学期		
人 文 地 理 学 演 習 I D		2	2年	秋学期		
人 文 地 理 学 演 習 II A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(文学) 大 城 直 樹
人 文 地 理 学 演 習 II B		2	1年	秋学期		
人 文 地 理 学 演 習 II C		2	2年	春学期		
人 文 地 理 学 演 習 II D		2	2年	秋学期		
人 文 地 理 学 演 習 III A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(学術) 中 澤 高 志
人 文 地 理 学 演 習 III B		2	1年	秋学期		
人 文 地 理 学 演 習 III C		2	2年	春学期		
人 文 地 理 学 演 習 III D		2	2年	秋学期		
地 誌 学 演 習 I A		2	1年	半 期		(本年度休講)
地 誌 学 演 習 I B		2	1年	半 期		
地 誌 学 演 習 I C		2	2年	半 期		
地 誌 学 演 習 I D		2	2年	半 期		
地 誌 学 演 習 II A		2	1年	春学期	○	専任教授 Ph.D. 山 本 大 策
地 誌 学 演 習 II B		2	1年	秋学期		
地 誌 学 演 習 II C		2	2年	春学期		
地 誌 学 演 習 II D		2	2年	秋学期		
地 誌 学 演 習 III A		2	1年	春学期	○	専任教授 博士(地理学) 中 川 秀 一
地 誌 学 演 習 III B		2	1年	秋学期		
地 誌 学 演 習 III C		2	2年	春学期		
地 誌 学 演 習 III D		2	2年	秋学期		
地 理 学 合 同 演 習 A		2	1年	春学期		専任教授 博士(理学) 川 口 太 郎 専任教授 理学博士 梅 本 亨 専任教授 博士(文学) 大 城 直 樹 専任教授 博士(学術) 中 澤 高 志 専任教授 Ph.D. 山 本 大 策 専任教授 博士(地理学) 中 川 秀 一 専任教授 博士(環境学) 佐々木 夏 来
地 理 学 合 同 演 習 B		2	1年	秋学期		
地 理 学 合 同 演 習 C		2	2年	春学期		
地 理 学 合 同 演 習 D		2	2年	秋学期		

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習				
特 修 科 目						
自 然 地 理 学 特 論 I A	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(理学) 須 貝 俊 彦
自 然 地 理 学 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
自 然 地 理 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
自 然 地 理 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		
人 文 地 理 学 特 論 I A	2		1・2年	春学期		兼任講師 博士(学術) 箸 本 健 二
人 文 地 理 学 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
人 文 地 理 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
人 文 地 理 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		
地 誌 学 特 論 I A	2		1・2年	春学期		専任教授 博士(地理学) 中 川 秀 一
地 誌 学 特 論 I B	2		1・2年	秋学期		
地 誌 学 特 論 II A	2		1・2年	半 期		(本年度休講)
地 誌 学 特 論 II B	2		1・2年	半 期		
地 理 学 フィールドワーク A	2		1・2年	春学期集中		専任教授 博士(理学) 川 口 太 郎 専任教授 理学博士 梅 本 亨 専任教授 博士(文学) 大 城 直 樹 専任教授 博士(学術) 中 澤 高 志 専任教授 Ph.D. 山 本 大 策 専任教授 博士(地理学) 中 川 秀 一 専任講師 博士(環境学) 佐 々 木 夏 来
地 理 学 フィールドワーク B	2		1・2年	秋学期集中		
特 定 科 目						
地 理 学 特 別 指 定 講 義 I	2		1・2年	半 期		
地 理 学 特 別 指 定 講 義 II	2		1・2年	半 期		

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
(選択必修科目)							
A群							
心理学研究法特論 (心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅳ)	2			1・2年	春学期		専任教授 博士(人間学) 伊藤 直樹
心理統計法特論 (心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅲ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(人間科学) 金 築 優
B群							
発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅱ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(心理学) 眞榮城 和美
人格心理学特論 (心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 佐藤 秀行
C群							
社会心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2			1・2年	春学期		兼任講師 博士(社会学) 西 田 公 昭
犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2			1・2年	春学期		兼任講師 博士(心理学) 室 城 隆 之
D群							
精神医学特論Ⅰ (保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(医学) 道 喜 将太郎
心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ)	2			1・2年	春学期		兼任講師 竹 内 伸
障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰ)	2			1・2年	春学期		兼任講師 山 崎 晃 史
健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	2			1・2年	秋学期		専任教授 博士(心理学) 岡 安 孝 弘
E群							
心理療法特論	2			1・2年	春学期集中		兼任講師 富士見 ユキオ
グループアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ)	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(人間学) 藤 岡 孝 志
コミュニティアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ)	2			1・2年	春学期		専任教授 博士 (コミュニティ福祉学) 加 藤 尚 子
学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2			1・2年	秋学期		専任教授 博士(教育学) 諸 富 祥 彦
投映法特論 A	2			2年	春学期		兼任講師 岩 井 昌 也
投映法特論 B	2			2年	秋学期		兼任講師 加 藤 佑 昌
臨床心理特別実習ⅠA (心理実践実習ⅡA)			2	1年	春学期		兼任講師 増 沢 高 専任教授 博士(人間学) 伊藤 直樹
臨床心理特別実習ⅠB (心理実践実習ⅡB)			2	1年	秋学期		専任准教授 博士(医学) 川 島 義 高
臨床心理特別実習ⅡA (心理実践実習ⅢA)			2	2年	春学期		兼任講師 吾 妻 ゆかり 専任教授 博士(心理学) 高 瀬 由 嗣
臨床心理特別実習ⅡB (心理実践実習ⅢB)			2	2年	秋学期		専任准教授 竹 松 志 乃
現代社会学専修科目							
(専修必修科目)							
現代社会学総合演習 A		2		1年	秋学期集中		大畑 裕嗣、平山 満紀、内藤 朝雄、 昔農 英明、宇田 和子
現代社会学総合演習 B		2		2年	秋学期集中		

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
(選択必修科目)							
現代社会学演習ⅠA		2		1年	春学期	○	専任准教授 博士(社会学) 昔 農 英 明
現代社会学演習ⅠB		2		1年	秋学期		
現代社会学演習ⅠC		2		2年	春学期		
現代社会学演習ⅠD		2		2年	秋学期		
現代社会学演習ⅡA		2		1年	春学期	○	専任教授 大 畑 裕 嗣
現代社会学演習ⅡB		2		1年	秋学期		
現代社会学演習ⅡC		2		2年	春学期		
現代社会学演習ⅡD		2		2年	秋学期		
現代社会学演習ⅢA		2		1年	春学期	○	専任准教授 博士(政策科学) 宇 田 和 子
現代社会学演習ⅢB		2		1年	秋学期		
現代社会学演習ⅢC		2		2年	春学期		
現代社会学演習ⅢD		2		2年	秋学期		
現代社会学演習ⅣA		2		1年	春学期	○	専任准教授 内 藤 朝 雄
現代社会学演習ⅣB		2		1年	秋学期		
現代社会学演習ⅣC		2		2年	春学期		
現代社会学演習ⅣD		2		2年	秋学期		
現代社会学演習ⅤA		2		1年	春学期	○	専任教授 平 山 満 紀
現代社会学演習ⅤB		2		1年	秋学期		
現代社会学演習ⅤC		2		2年	春学期		
現代社会学演習ⅤD		2		2年	秋学期		
(選択科目)							
共生ネットワーク論	2			1・2年	春学期		兼任講師 田 中 夏 子
バイオポリティックス論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
社会福祉論	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(人間科学) 荒 井 浩 道
NPO市民活動論	2			1・2年	秋学期		兼任教授 小 関 隆 志
コミュニティビジネス論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
コミュニティ人間関係論	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(人間学) パッハー, アリス
コミュニティ・デザイン論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
地域開発論	2			1・2年	秋学期		兼任講師 理学博士 山 田 晴 通
地方自治論	2			1・2年	春学期		兼任教授 牛 山 久仁彦
教育学専修科目							
(専修必修科目)							
教育学総合演習A		2		1年	秋学期集中		齋藤 泰則、青柳 英治、平川 景子、 駒見 和夫、三浦 太郎、山下 達也、 伊藤 貴昭、関根 宏朗、井上 由佳
教育学総合演習B		2		2年	秋学期集中		

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
(選択必修科目)							
A群(教育学領域)							
教 育 学 演 習 I A		2		1年	半 期		(本年度休講)
教 育 学 演 習 I B		2		1年	半 期		
教 育 学 演 習 I C		2		2年	半 期		
教 育 学 演 習 I D		2		2年	半 期		
教 育 学 演 習 II A		2		1年	春学期	○	専任教授 博士(教育学) 関 根 宏 朗
教 育 学 演 習 II B		2		1年	秋学期		
教 育 学 演 習 II C		2		2年	春学期		
教 育 学 演 習 II D		2		2年	秋学期		
教 育 学 演 習 III A		2		1年	春学期	○	専任教授 博士(教育学) 山 下 達 也
教 育 学 演 習 III B		2		1年	秋学期		
教 育 学 演 習 III C		2		2年	春学期		
教 育 学 演 習 III D		2		2年	秋学期		
教 育 学 演 習 IV A		2		1年	春学期	○	専任教授 博士(教育学) 伊 藤 貴 昭
教 育 学 演 習 IV B		2		1年	秋学期		
教 育 学 演 習 IV C		2		2年	春学期		
教 育 学 演 習 IV D		2		2年	秋学期		
B群(社会教育学領域)							
社 会 教 育 学 演 習 I A		2		1年	春学期	○	専任教授 平 川 景 子
社 会 教 育 学 演 習 I B		2		1年	秋学期		
社 会 教 育 学 演 習 I C		2		2年	春学期		
社 会 教 育 学 演 習 I D		2		2年	秋学期		
社 会 教 育 学 演 習 II A		2		1年	半 期		(本年度休講)
社 会 教 育 学 演 習 II B		2		1年	半 期		
社 会 教 育 学 演 習 II C		2		2年	半 期		
社 会 教 育 学 演 習 II D		2		2年	半 期		
C群(博物館学領域)							
博 物 館 学 演 習 I A		2		1年	春学期	○	専任教授 博士(歴史学) 駒 見 和 夫
博 物 館 学 演 習 I B		2		1年	秋学期		
博 物 館 学 演 習 I C		2		2年	春学期		
博 物 館 学 演 習 I D		2		2年	秋学期		
博 物 館 学 演 習 II A		2		1年	春学期	○	専任准教授 Ph.D. 井 上 由 佳
博 物 館 学 演 習 II B		2		1年	秋学期		
博 物 館 学 演 習 II C		2		2年	春学期		
博 物 館 学 演 習 II D		2		2年	秋学期		

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
D群(図書館情報学領域)							
図 書 館 情 報 学 演 習 I A		2		1年	春学期	○	専任教授 <small>博士 (図書館情報学)</small> 青 柳 英 治
図 書 館 情 報 学 演 習 I B		2		1年	秋学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 I C		2		2年	春学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 I D		2		2年	秋学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 II A		2		1年	春学期	○	専任教授 齋 藤 泰 則
図 書 館 情 報 学 演 習 II B		2		1年	秋学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 II C		2		2年	春学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 II D		2		2年	秋学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 III A		2		1年	春学期	○	専任教授 三 浦 太 郎
図 書 館 情 報 学 演 習 III B		2		1年	秋学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 III C		2		2年	春学期		
図 書 館 情 報 学 演 習 III D		2		2年	秋学期		
(選択科目)							
A群(教育学領域)							
教 育 シ ス テ ム 論	2			1・2年	春学期中		兼任講師 前 原 健 二
思 春 期 ・ 青 年 期 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 博士(人間学) 伊 藤 直 樹
教 師 教 育 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
教 育 人 間 学	2			1・2年	春学期		専任教授 博士(教育学) 関 根 宏 朗
教 育 社 会 史 特 論	2			1・2年	春学期		専任教授 博士(教育学) 山 下 達 也
教 育 学 習 心 理 学 特 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 博士(教育学) 伊 藤 貴 昭
B群(社会教育学領域)							
社 会 教 育 実 践 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 平 川 景 子
生 涯 学 習 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
C群(博物館学領域)							
博 物 館 学 特 論	2			1・2年	春学期		専任教授 博士(歴史学) 駒 見 和 夫
博 物 館 マ ネ ジ メ ン ト 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
博 物 館 教 育 論 特 論	2			1・2年	秋学期		専任准教授 Ph.D. 井 上 由 佳
博 物 館 メ デ ィ ア 論 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
地 域 博 物 館 論 特 論	2			1・2年	秋学期		兼任講師 鈴 木 直 人
D群(図書館情報学領域)							
図 書 館 情 報 学 特 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 齋 藤 泰 則
専 門 図 書 館 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
情 報 サ ー ビ ス 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
図 書 館 経 営 特 論	2			1・2年	秋学期		専任教授 <small>博士 (図書館情報学)</small> 青 柳 英 治
図 書 館 文 化 特 論	2			1・2年	春学期		専任教授 三 浦 太 郎
図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 特 論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)

授 業 科 目	単 位			配当 学年	開講期	研究 指導	担 当 者
	講義	演習	実習				
E群(社会学領域:現代社会学専修設置選択科目)							
共 生 ネットワーク論	2			1・2年	春学期		兼任講師 田 中 夏 子
バイオポリティクス論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
社 会 福 祉 論	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(人間科学) 荒 井 浩 道
N P O 市 民 活 動 論	2			1・2年	秋学期		兼任教授 小 関 隆 志
コミュニティビジネス論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
コミュニティ人間関係論	2			1・2年	秋学期		兼任講師 博士(人間学) パッハー, アリス
コミュニティ・デザイン論	2			1・2年	半 期		(本年度休講)
地 域 開 発 論	2			1・2年	秋学期		兼任講師 理学博士 山 田 晴 通
地 方 自 治 論	2			1・2年	春学期		兼任教授 牛 山 久 仁 彦
特定科目							
臨床人間学特別指定講義Ⅰ	2			1・2年	半 期		
臨床人間学特別指定講義Ⅱ	2			1・2年	半 期		

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
共通特修科目		備考	
科目名	総合史学研究 I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(史学)	伊勢 弘志	

授業の概要・到達目標

概要

国内外での議論や社会的関心・政治問題となっている課題に着目し、現代社会における歴史認識・歴史教育を考察する。

1. 「戦後史」が現代史の研究の中でどのように進められ、何を明らかにしてきたか、その研究史上の位置づけを理解する。とりわけ戦後史が各時期の経済的動向や現代思想から如何に影響を受けて進捗したかを理解する。
2. 「戦後歴史学」が何を背景に展開され、現在までにどのような課題を残しているか理解する。
3. 国内外の戦争認識・戦争責任論の問題において何が問われているのかを学習する。
4. 2022年度より全国の高校で開始された「歴史総合」教育と、社会科の教員育成について、実証史学の考え方とともにその展望や課題を学習する。

到達目標

- ① 高度な専門知識に加えて、上の課題を理解することで、近現代史研究に求められる社会的な意義と役割を理解できる。
- ② 教科書記述を素材に、教科書に反映されている近年までの研究潮流を把握する(記述のどこに・どのような研究成果が影響しているのか理解する)。
- ③ 社会科の教員を目指す場合には、教科としての「歴史」が常に授業内容のアップデートを求められる教科であることを理解し、教育実践が始まった後にも、自ら学習して自己点検・更新していく方法を身につける。

授業内容

・「戦後歴史学」(研究史上の論争/叙述の方法/社会史と「歴史学的思考法」)
 ・「研究史」(現代思想の影響と、史学研究の方法・課題)
 ・国際関係と「歴史認識」・「戦争責任論」(中国・韓国・欧米での歴史認識問題)
 ・「歴史教育」(教科書問題/「歴史総合」/観点別評価/愛国教育・道徳教育)
 「近現代史」が担う社会的役割とそこで問われている諸問題を、講義と報告によって学習する。
 さらなる詳細は履修者の人数・関心に応じて定める。

履修上の注意

履修者には報告を実施してもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書では、「歴史総合」の視点から、近年までの研究史を踏まえて近現代史を描いています。
 教科書を読んで、高校の歴史教科書記述の背景にある問題意識や研究動向が読み取れるように、これまで自身が学習した内容と比較して何がポイントとなるのか理解に努めること。模擬授業案を作成するなどして各要点を抑えておくこと。

教科書

伊勢弘志『明日のための近代史 - 世界史と日本史が織りなす史実』[増補新版](芙蓉書房出版, 2023年)。

参考書

教科書に記載されている主要参考文献を参照のこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間の前後に教室で行う。他は履修者と相談する。

成績評価の方法

授業内での報告と、レポートで評価する。初回の授業時に詳しく説明する。

その他

授業の課題・内容を何のために学習しようとしているのか、自身の理由や答えを持って臨むこと。

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
共通特修科目		備考	
科目名	総合史学研究 I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(史学)	伊勢 弘志	

授業の概要・到達目標

概要

国内外での議論や社会的関心・政治問題となっている課題に着目し、現代社会における歴史認識・歴史教育を考察する。

1. 「戦後史」が現代史の研究の中でどのように進められ、何を明らかにしてきたか、その研究史上の位置づけを理解する。とりわけ戦後史が各時期の経済的動向や現代思想から如何に影響を受けて進捗したかを理解する。
2. 「戦後歴史学」が何を背景に展開され、現在までにどのような課題を残しているか理解する。
3. 国内外の戦争認識・戦争責任論の問題において何が問われているのかを学習する。
4. 2022年度より全国の高校で開始された「歴史総合」教育と、社会科の教員育成について、実証史学の考え方とともにその展望や課題を学習する。

到達目標

- ① 高度な専門知識に加えて、上の課題を理解することで、近現代史研究に求められる社会的な意義と役割を理解できる。
- ② 教科書記述を素材に、教科書に反映されている近年までの研究潮流を把握する(記述のどこに・どのような研究成果が影響しているのか理解する)。
- ③ 社会科の教員を目指す場合には、教科としての「歴史」が常に授業内容のアップデートを求められる教科であることを理解し、教育実践が始まった後にも、自ら学習して自己点検・更新していく方法を身につける。

授業内容

・「戦後歴史学」(研究史上の論争/叙述の方法/社会史と「歴史学的思考法」)
 ・「研究史」(現代思想の影響と、史学研究の方法・課題)
 ・国際関係と「歴史認識」・「戦争責任論」(中国・韓国・欧米での歴史認識問題)
 ・「歴史教育」(教科書問題/「歴史総合」/観点別評価/愛国教育・道徳教育)
 「近現代史」が担う社会的役割とそこで問われている諸問題を、講義と報告によって学習する。
 さらなる詳細は履修者の人数・関心に応じて定める。

履修上の注意

履修者には報告を実施してもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書では、「歴史総合」の視点から、近年までの研究史を踏まえて近現代史を描いています。
 教科書を読んで、高校の歴史教科書記述の背景にある問題意識や研究動向が読み取れるように、これまで自身が学習した内容と比較して何がポイントとなるのか理解に努めること。模擬授業案を作成するなどして各要点を抑えておくこと。

教科書

伊勢弘志『明日のための現代史 - 歴史総合の視点で学ぶ世界大戦』[上・下](芙蓉書房出版, 2023年)。

参考書

教科書に記載されている主要参考文献を参照のこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間の前後に教室で行う。他は履修者と相談する。

成績評価の方法

授業内での報告と、レポートで評価する。初回の授業時に詳しく説明する。

その他

授業の課題・内容を何のために学習しようとしているのか、自身の理由や答えを持って臨むこと。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
共通特修科目	備考		
科目名	総合史学研究ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	佐々木憲一、山崎健司、高橋一樹、湯浅 幸代		

授業の概要・到達目標

現代の研究は、文学・文献史学・考古学を問わず、必ずしも各分野の領域では完結できないような拡がりを持ってきた。他分野の研究を理解し、自らの研究に取り込むには、その研究手法に精通する必要がある。ⅡBでは他分野の研究成果を主に学習するのに対し、本授業では他分野の基礎的研究方法を実践しつつ理解することを目的とする。その目的達成のため、文学・文献史学・考古学の各々の分野固有の史資料に実際に触れる機会を恒常的に設ける。

授業内容

日本文学・日本史学・考古学を専攻する院生の中で主に古代を研究領域とする者を対象に、各分野固有の史資料に触れることを通じて、文学研究・文献史学研究・考古学研究の基礎的方法の差異を学び、自己の研究の発展を目指す新たな糸口とすることを旨とする。授業スケジュールとその内容の詳細は新年度になってから公表する。

- 第1回：総合古代史学の基礎
- 第2回：原史考古学の方法論1
- 第3回：原史考古学の方法論2
- 第4回：原史考古学の方法論3
- 第5回：文献史学の方法論1
- 第6回：文献史学の方法論2
- 第7回：古代文学の方法論1
- 第8回：古代文学の方法論2
- 第9回：古代文学の方法論3
- 第10回：院生による研究発表1
- 第11回：院生による研究発表2
- 第12回：院生による研究発表3
- 第13回：院生による研究発表4
- 第14回：総括討論

履修上の注意

受講者全てに報告を課すことを原則とする。
 「原史考古学の方法論」の授業1回は、高崎市内で行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献は事前に精読しておくこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度と報告の出来に基づく。

その他

文化継承学ⅠAと合同で授業を行う。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
共通特修科目	備考		
科目名	総合史学研究ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	佐々木憲一、山崎健司、高橋一樹、湯浅 幸代		

授業の概要・到達目標

現代の研究は、文学・歴史学・考古学を問わず、必ずしも各分野の領域では完結できないような、拡がりを持ってきた。他分野の研究を理解し、自らの研究に取り込むには、その研究手法に精通する必要がある。本授業では、各分野の基本文献を学習し、自らの立脚点の再構築をはかる。

授業内容

日本文学・日本史学及び考古学を専攻する院生の中で、主に古代を研究領域とする者を対象に、各分野の基本文献の読解を通じて、文学研究・歴史学研究・考古学研究の方法の関係を学び、自己の研究の発展をめざす新たな糸口とさせることを旨とする。授業スケジュールとその内容の詳細はⅡAの授業の後半になってから公表する。

- 第1回：総合史学の意義
- 第2回：弥生時代の基本文献の研究
- 第3回：古墳時代の基本文献の研究1
- 第4回：奈良・平安時代史の基本文献の研究1
- 第5回：奈良・平安時代史の基本文献の研究2
- 第6回：古墳時代の基本文献の研究2
- 第7回：歴史考古学の基本文献の研究
- 第8回：古代文学の基本文献の研究1
- 第9回：古代文学の基本文献の研究2
- 第10回：院生による研究発表1
- 第11回：院生による研究発表2
- 第12回：院生による研究発表3
- 第13回：院生による研究発表4
- 第14回：総括討論

履修上の注意

受講者全てに報告を課すことを原則とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献は事前に精読しておくこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度と報告の出来に基づく。

その他

文化継承学ⅠBと合同で授業を行う。

科目ナンバー：(AL) HIS521J			
共通特修科目	備考		
科目名	総合史学研究ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	櫻井 智美	

授業の概要・到達目標

10世紀～15世紀の東アジアの歴史変容、及びモンゴル帝国史・中国近世史の諸問題を中心に、アジア史の研究史や研究方法、特徴的な史料、近年の研究トレンドと問題点について講述する。

授業を通して、日本におけるアジア史研究の特徴を理解し、履修者自身の研究分野における方法論との違いを考察し、自身の研究に応用できるようにすることを目標とする。

授業内容

- 第1回 日本のアジア史研究の曙—1850年-1950年
- 第2回 西洋史の中のアジア史、日本史の中のアジア史
- 第3回 グローバルヒストリーとアジア史
- 第4回 中国史における時代区分と「近世」
- 第5回 討論・意見交換(1)歴史理論と研究史
- 第6回 「モンゴル時代」概念と中国の王朝交替
- 第7回 Song-Yuan-Ming Transitionと「東部ユーラシア」
- 第8回 アジアの中の日本中世
- 第9回 モンゴル帝国史や中国史の新しい見方
- 第10回 討論・意見交換(2)：近年の研究トレンド
- 第11回 石刻史料の研究
- 第12回 中国類書の世界
- 第13回 中国の監察制度と地方統治
- 第14回 討論・意見交換(3)：史料・視角と総括

各回のテーマに沿って解説する。「討論・意見交換」の時間には、履修者全員が授業の内容について簡単なレジュメを用意して意見を述べる。その中の一つの話題をとり上げて、学期末にレポートとして提出する(2000-3000字)。履修者の専門分野によって内容・順序等を変更する場合がある。

履修上の注意

特に学部でアジア史を専攻しなかった者の履修を歓迎する。問題意識を持って授業に臨み、受講者自身の専門分野の状況と比較し、積極的に発言することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

できるだけ事前にプリントを配布するので、授業までに内容を確認して疑問点を明らかにしておく。講義の内容を「討論・意見交換」に結びつけられるよう、授業後に論点を確認しておく。また、上記授業内容に関連する読書を推奨する。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書

『論点・東洋史学』(吉澤誠一郎監修、ミネルヴァ書房)、『グローバル・ヒストリーの可能性』(羽田正、山川出版社)

課題に対するフィードバックの方法

コメント機能を用いる。

成績評価の方法

授業への貢献度60%とレポート40%。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS541J			
共通特修科目	備考		
科目名	総合史学研究ⅣB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	青谷 秀紀	

授業の概要・到達目標

中世ヨーロッパ史を中心とする歴史研究方法論

中世ヨーロッパ史を中心に、歴史研究の方法について学んでいく。中世史研究の様々なアプローチを吸収し、履修生自身の対象地域・時代に応用可能な方法を模索すること、あるいはそれらを合わせ鏡として、自身が専門とする分野の方法論的特徴を自覚的に把握することを目標とする。

授業内容

前半は中世ヨーロッパ史に関する文献の講読と議論を行い、後半は履修生が自身の専門分野で、それらの文献が示す方法・アプローチに対応するような研究に関して報告を行う。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第7回：文献講読とディスカッション
- 第8回～第13回：受講生による報告
- 第14回：総括

*履修生の数により、授業内容を変更する可能性がある。

履修上の注意

授業には毎回出席し、積極的に発言することが求められる。報告の際には、他の専門分野の履修生にも理解しやすい形でプレゼンテーションを行うよう心がけてもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講読文献は事前に熟読しておくこと。

教科書

講読文献は授業時に配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度50% + レポート50%

その他

科目ナンバー：(AL) IND911N			
共通特修科目	備考		
科目名	総合地域研究ⅡB		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	牧野 淳司	

授業の概要・到達目標

本科目は、大学院GP〈複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム〉の基幹をなす科目である。各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野を備えた「複眼性」と「国際性」を養うことを目標とする。総合地域研究ⅡBでは、隣国である韓国の最新の古代学研究成果を実地に吸収することを通して学際性と国際性を体得する教育として「高麗大学校プログラム」を実施する。

授業内容

授業は担当教員の他に専任教員が補佐し、高麗大学校他の外部講師を含む共同授業とフィールド調査とから成る。内容の概要は次の通りである。

- ①韓国語集中講座4回。ハングル学習と初級会話（初学者のみ。）
- ②明治大学における講義3回。韓国古代史・韓国文学・日韓比較文学をテーマとする。本学教員のほか外部講師を招聘し、講義と質疑討論をおこなう。授業は公開で行う。
- ③高麗大学校における講義・研究発表5回分。高麗大などの教員による韓国仏教、儒教、伝統文化、パンソリについて公開講義、および明治大学教員と大学院生による研究発表を行う。公開講義・研究発表を基にして明治大院生と高麗大院生との討論を行う。
- ④フィールド調査はソウル市内および周辺の史跡の実地見学・資料調査を行う。

履修上の注意

各自の研究テーマに即して韓国との関わりを考える項目を提出し、事後にはレポートの提出を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

フィールド調査対象地の遺跡群に関する資料の収集と検討を事前に行なっておくこと。

教科書

なし

参考書

韓国古代史, 古代文学, 古典文学, 伝統文化等に関する著書・論文を逐次提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績評価は、授業への貢献度（50%）、及びフィールドワークに関する事後レポート（50%）による。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC598J			
共通特修科目	備考		
科目名	人文社会科学のためのデータサイエンスとAI		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(人間学)	パッハー, アリス	

授業の概要・到達目標

本授業は、6月～8月（集中講義形式）として実施します。ただし、第1回と第2回の「初めに」は4月に動画をアップロードする予定です。データサイエンスとAI（人工知能）は、現代の学術研究や社会において重要なキーワードとなっています。本講義では、これらの技術を研究活動に活用する方法を学ぶことを目的とします。講義と演習を組み合わせた形式で、データの収集、分析、発表の基本的な手法を学び、実際に応用するスキルを習得します。講義と演習では、1. データサイエンスとAIの基本概念の理解、2. AIツールの種類とその特徴の解説と、3. 学術研究においてデータサイエンス・AIをどのように活用するのかに焦点を置きます。

授業の目的としては、まずデータサイエンスとAIの基礎知識を理解することです。各研究分野におけるデータ活用の可能性を考えながら、プレゼンテーションや論文執筆で活用可能なAIツールを実践的に学びます。

授業内容

- 第1回～第2回 はじめに「オンデマンド」
- 第3回～第5回 データサイエンス・AIと日常生活について（「おすすめ欄」、チャットボックス、翻訳機能など）とExcelでデータ分析
- 第6回～第9回 データをビジュアル化することについて（ワードクラウド、ライングラフ、チャート、発表資料などを作成する）
- 第10回～第12回 学術研究とAIのツールについて（GPT, DALL-E, Canva AI, Zotero, Elicit）の使い方を学ぶ
- 第13回～第14回 データサイエンス・AIと倫理について、最終発表

履修上の注意

本授業を履修するためにはデータサイエンスやAIに関する専門知識は不要です。初心者も含め、あらゆる分野の研究者・学生が参加可能です。ただし、本授業ではパソコンを用いて演習を行うため、各自のパソコンを持ってきてください。パソコンの操作に慣れることも一つの課題です。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業後には復習を行うこと。自身の研究テーマにおいて活用できる部分については、実際に試し、次の授業でフィードバックすること。

教科書

必要な場合は適宜指示する。

参考書

「世界一カンタンで実践的な文系のための人工知能の教科書」ソシム
 「図解まるわかり-AIのしくみ」翔泳社
 「例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows11/Office2021対応版」技術評論社
 Stuart Russel, Peter Norvig, (2020). Artificial Intelligent: A Modern Approach, Third Edition, Pearson.

課題に対するフィードバックの方法

課題の全体講評を各講義で紹介する。

成績評価の方法

課題の提出物、授業への貢献度（プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなど）の総合評価とする。

その他

科目ナンバー：(AL) LAN521N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修ドイツ語Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 岡本 和子		

授業の概要・到達目標

この授業は、学部3,4年(2023年度までの入学者)が履修する場合には「中級ドイツ語Ⅱ」、大学院生が履修する場合は「特修外国語Ⅰ」という授業名になります。

この授業の目的は、中級以上のドイツ語文法事項の復習をしながら、ドイツ語で書かれたさまざまな文章(批評, エッセイ等)を正確に読む力を磨くことです。ドイツ語圏の社会ではどんなことが問題となってきたのか、現在はどんなことが問題となっているのか、またそれらの問題を理解するためにはどのような知識が必要か、それらの問題とわたしたちの生活や研究がどのように関わっているのか、を考えながら読みたいと思います。

さらに、読んだことについて自分の考えをドイツ語で表現する力をつけることも目指します。ドイツ語に特有の書き物の書式などを知り、それについて、数回、作文の課題を出します。

読解テキストは、履修者の希望を考慮して選定する予定です。

授業内容

- 1) 時事問題による文法復習、読解テキストの選定
- 2) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 3) 時事問題による文法復習、テキスト読解、画像イメージを説明する
- 4) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 5) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 6) 時事問題による文法復習、テキスト読解、履歴書を書く
- 7) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 8) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 9) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 10) 時事問題による文法復習、テキスト読解、手紙を書く
- 11) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 12) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 13) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 14) テキスト読解テストとフィードバック

履修上の注意

履修者には、ドイツ語検定では3級程度、ゲーテドイツ語技能試験ではA2程度の文法知識、読解力を持っている、またはその取得を目指す意欲があることが求められます。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の読解テキストについては、十分な予習をしてください。

教科書

プリントを使用します。
読解等において参考になる文献については、授業で紹介いたします。

参考書

『ドイツ語副詞辞典』(岩崎英二郎郎編・白水社・絶版)

課題に対するフィードバックの方法

作文は添削して返却します。

成績評価の方法

平常点(読解テキストの予習, 授業への積極的な参加, 作文課題の提出) 70%
読解テスト(最後の授業で行います, 辞書使用可, その場で答え合わせ) 30%

その他

科目ナンバー：(AL) LAN521N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修ドイツ語Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 岡本 和子		

授業の概要・到達目標

この授業は、学部3,4年(2023年度までの入学者)が履修する場合には「中級ドイツ語Ⅱ」、大学院生が履修する場合は「特修外国語Ⅱ」という授業名になります。

この授業の目的は、中級以上のドイツ語文法事項の復習をしながら、ドイツ語で書かれたさまざまな文章(批評, エッセイ等)を正確に読む力を磨くことです。ドイツ語圏の社会ではどんなことが問題となってきたのか、現在はどんなことが問題となっているのか、またそれらの問題を理解するためにはどのような知識が必要か、それらの問題とわたしたちの生活や研究がどのように関わっているのか、を考えながら読みたいと思います。

さらに、読んだことについて自分の考えをドイツ語で表現する力をつけることも目指します。ドイツ語に特有の書き物の書式などを知り、それについて、数回、作文の課題を出します。

読解テキストは、履修者の希望を考慮して選定する予定です。

授業内容

- 1) 時事問題による文法復習、読解テキストの選定
- 2) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 3) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 4) 時事問題による文法復習、テキスト読解、自分の研究テーマを書く
- 5) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 6) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 7) 時事問題による文法復習、テキスト読解、意見を論述する
- 8) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 9) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 10) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 11) 時事問題による文法復習、テキスト読解、書評を書く
- 12) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 13) 時事問題による文法復習、テキスト読解
- 14) テキスト読解テストとフィードバック

履修上の注意

履修者には、ドイツ語検定では3級程度、ゲーテドイツ語技能試験ではA2程度の文法知識、読解力を持っている、またはその取得を目指す意欲があることが求められます。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の読解テキストについては、十分な予習をしてください。

教科書

プリントを使用します。
読解等において参考になる文献については、授業で紹介いたします。

参考書

『ドイツ語副詞辞典』(岩崎英二郎郎編・白水社・絶版)

課題に対するフィードバックの方法

作文は添削して返却します。

成績評価の方法

平常点(読解テキストの予習, 授業への積極的な参加, 作文課題の提出) 70%
読解テスト(最後の授業で行います, 辞書使用可, その場で答え合わせ) 30%

その他

科目ナンバー：(AL) LAN531N			
共通特修科目	備考		
科目名	特修フランス語Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学) マリー=ノエル・ボーヴィウ		

授業の概要・到達目標

Dans ce cours, les étudiants pourront consolider leur maîtrise du français par la pratique des quatre compétences (compréhension orale et écrite, production orale et écrite) à travers l'étude de différents types de supports (textes, documents sonores, images...) qu'ils seront amenés à discuter en groupe ou à présenter à l'oral, puis à partir desquels ils devront produire des travaux écrits (résumés, synthèses, analyses...).

Au premier semestre, nous aborderons principalement trois exercices : le résumé d'un texte, la présentation d'une œuvre artistique (tableau, œuvre littéraire, chanson ...) et la lecture et l'analyse d'extraits d'œuvres littéraires et d'articles universitaires.

Le niveau et le rythme de progression sont susceptibles de varier en fonction du nombre d'étudiants. Dans tous les cas, un travail régulier et une participation active sont exigés.

授業内容

- 第1回 Présentation du cours
- 第2回 Lire un texte et le résumer : techniques de lecture et de compréhension
- 第3回 Lire un texte et le résumer : exercices
- 第4回 Lire un texte et le résumer : présentations orales des travaux des étudiants et discussion, remise des travaux écrits
- 第5回 Présenter une œuvre artistique : introduction
- 第6回 Présenter une œuvre artistique : exercices
- 第7回 Présenter une œuvre artistique : présentations orales et discussion, remise des travaux écrits
- 第8回 Lire un texte littéraire : techniques de lecture et de compréhension
- 第9回 Lire un texte littéraire : introduction à l'analyse et exercices
- 第10回 Lire un texte littéraire : présentations orales et discussion, remise des travaux écrits
- 第11回 Lire un article universitaire : techniques de lecture et de compréhension
- 第12回 Lire un article universitaire : exercices
- 第13回 Lire un article universitaire : présentations orales et discussion, remise des travaux écrits
- 第14回 Test et séance de conclusion

履修上の注意

Il est indispensable de bien préparer les lectures chez soi pour chaque séance en utilisant un ouvrage de grammaire et un dictionnaire et en repérant le vocabulaire nécessaire à la discussion en classe.

準備学習（予習・復習等）の内容

N'hésitez pas à compléter votre lecture préparatoire par des recherches personnelles. Faites des fiches de révision des expressions utiles que vous avez apprises à chaque séance et que vous pouvez réutiliser.

教科書

Les documents seront distribués en classe.

参考書

Avoir un dictionnaire (bilingue ou unilingue) et un ouvrage de référence pour la grammaire est recommandé. L'usage du smartphone pour préparer les devoirs ou chercher du vocabulaire en classe est interdit.

六鹿豊(著)『NHK出版これならわかるフランス語文法：入門から上級まで』2016年か他の文法の参考書
『ロベール・クレ仏和辞典』2013年か他の紙や電子辞書(スマートフォンで単語検索を禁止しています)

課題に対するフィードバックの方法

Les commentaires sur les devoirs seront faits en classe.

成績評価の方法

Devoirs écrits 30% Présentations orales 30% Test final 40%

その他

科目ナンバー：(AL) LAN531N			
共通特修科目	備考		
科目名	特修フランス語Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学) マリー=ノエル・ボーヴィウ		

授業の概要・到達目標

Dans ce cours, les étudiants pourront consolider leur maîtrise du français par la pratique des quatre compétences (compréhension orale et écrite, production orale et écrite) à travers l'étude de différents types de supports (textes, enregistrements, vidéos) qu'ils seront amenés à discuter en groupe ou à présenter à l'oral, puis à partir desquels ils devront produire des travaux écrits (résumés, synthèses, analyses...).

Au deuxième semestre, nous aborderons principalement trois exercices : l'analyse d'une œuvre picturale, la dissertation littéraire ainsi que l'écriture d'invention (pastiche).

Le niveau et le rythme de progression sont susceptibles de varier en fonction du nombre d'étudiants. Dans tous les cas, un travail régulier et une participation active sont exigés.

授業内容

- 第1回 Présentation du cours
- 第2回 Regarder un tableau : clés de compréhension et d'analyse
- 第3回 Regarder un tableau : exercices d'écriture
- 第4回 Regarder un tableau : présentations orales et discussion
- 第5回 La dissertation : présentation du thème et des lectures associées
- 第6回 La dissertation : lectures ① (textes pédagogique, articles universitaires, vidéos de conférence...)
- 第7回 La dissertation : lecture ② (textes pédagogique, articles universitaires, vidéos de conférence...)
- 第8回 La dissertation : analyser un sujet et élaborer un plan (exercices)
- 第9回 La dissertation : exercices (utiliser un exemple, rédiger une introduction et une conclusion)
- 第10回 La dissertation : présentations orales des plans élaborés par les étudiants et discussion, remises des travaux écrits
- 第11回 Lecture d'un texte littéraire : clés de compréhension et repérage du style
- 第12回 Lecture d'un texte littéraire : exercices d'écriture
- 第13回 Lecture d'un texte littéraire : présentations orales des étudiants et discussion, remise des travaux écrits
- 第14回 Test et séance de conclusion

履修上の注意

Il est indispensable de bien préparer les lectures chez soi chaque séance en utilisant un ouvrage de grammaire et un dictionnaire et en repérant le vocabulaire nécessaire à la discussion en classe.

準備学習（予習・復習等）の内容

N'hésitez pas à compléter votre lecture préparatoire par des recherches personnelles. Faites des fiches de révision des expressions utiles que vous avez apprises à chaque séance et que vous pouvez réutiliser.

教科書

Les documents seront distribués en classe.

参考書

Avoir un dictionnaire (bilingue ou unilingue) et un ouvrage de référence pour la grammaire est recommandé. L'usage du smartphone pour préparer les devoirs ou chercher du vocabulaire en classe est interdit.

六鹿豊(著)『NHK出版これならわかるフランス語文法：入門から上級まで』2016年か他の文法の参考書
『ロベール・クレ仏和辞典』2013年か他の紙や電子辞書(スマートフォンで単語検索を禁止しています)

課題に対するフィードバックの方法

Les commentaires sur les devoirs seront faits en classe.

成績評価の方法

Devoirs écrits 30% Présentations orales 30% Test final 40%

その他

科目ナンバー：(AL) LAN561N			
共通特修科目	備考		
科目名	特修中国語I		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 永井 弥人		

授業の概要・到達目標

読解を中心とし、やや高度な文献を読みこなす力を養うことを目的とします。
 文献の内容は、時事、文化、歴史、思想等なるべく多岐に渉る様心掛けたいと考えております。
 簡体字文献のみならず、繁体字文献等にも積極的に取り組みたいと考えております。

授業内容

- 第1回 長文1(時事)
- 第2回 長文1(時事)
- 第3回 長文1(時事)
- 第4回 長文2(文化)
- 第5回 長文2(文化)
- 第6回 長文2(文化)
- 第7回 長文2(文化)
- 第8回 長文3(歴史)
- 第9回 長文3(歴史)
- 第10回 長文3(歴史)
- 第11回 長文3(歴史)
- 第12回 長文4(思想)
- 第13回 長文4(思想)
- 第14回 長文4(思想)

履修上の注意

積極的に授業にご参加下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習をして授業に臨む様にして下さい。

教科書

教材は、その都度、Oh-ol Meiji上に掲載致します。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末のレポート(指定文献の和訳)50%+平常点50%
 ※平常点は、授業中の姿勢を中心とします。

その他

① 進度に多少遅速が生じたり、文献を読む順番が入れ替わったりする可能性があります。早めに予定を消化した場合、別途教材を用意します。

② 受講生の学習状況に応じて、文法事項等の復習を行う場合もあります。

科目ナンバー：(AL) LAN561N			
共通特修科目	備考		
科目名	特修中国語II		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 永井 弥人		

授業の概要・到達目標

読解を中心とし、やや高度な文献を読みこなす力を養うことを目的とします。
 文献の内容は、時事、文化、歴史、文学などなるべく多岐に渉る様に心掛けたいと考えております。
 簡体字文献のみならず、繁体字文献や文語体の文章にも積極的に取り組みたいと考えております。

授業内容

- 第1回 長文(時事)
- 第2回 長文(時事)
- 第3回 長文(宗教)
- 第4回 長文(宗教)
- 第5回 長文(歴史)
- 第6回 長文(歴史)
- 第7回 長文(文化)
- 第8回 長文(文化)
- 第9回 長文(雑記その他)
- 第10回 長文(雑記その他)
- 第11回 長文(雑記その他)
- 第12回 長文(文語体の文章)
- 第13回 長文(文語体の文章)
- 第14回 長文(文語体の文章)

履修上の注意

積極的に授業にご参加下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習をして授業に臨んで下さい。

教科書

教材は、その都度Oh-ol Meiji上に掲載致します。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末のレポート(指定文献の和訳)50%+平常点50%
 ※平常点は授業中の姿勢を中心とします。

その他

進度に多少遅速が生じたり、文献を読む順番が入れ替わったりする可能性があります。

科目ナンバー：(AL) LAN571N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修朝鮮語Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 平野 鶴子		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本授業では、20世紀の朝鮮半島の歴史文化に関する現代韓国・朝鮮語の文献を精読する。これにより、朝鮮語の基礎的な読解訓練を行うとともに、朝鮮近現代史の諸問題に対する理解を深めていく。春学期は、主に、韓国で今日までに歴史的に象徴的な「場」として記憶されてきた空間や風景に関して、とりわけ京城(ソウル)を対象とした文献を取り上げる。

【到達目標】

研究を進める上で必要となる朝鮮語読解力を習得しつつ、参照すべき文献を把握し活用できるようになる。

授業内容

- 第1回 概説・導入／発表担当決定
- 第2回 文献講読1
- 第3回 文献講読2
- 第4回 文献講読3
- 第5回 文献講読4
- 第6回 文献講読5
- 第7回 文献講読6
- 第8回 文献講読7
- 第9回 文献講読8
- 第10回 文献講読9
- 第11回 文献講読10
- 第12回 文献講読11
- 第13回 文献講読12
- 第14回 まとめ／総括

履修上の注意

朝鮮語の文章の構造は比較的日本語と類似しているため、初級程度を履修していれば、やや難解な文章に挑むことも可能であろう。しかしながら、朝鮮語独特の語彙や表現を理解し、正確に読解するためには辞書の活用は欠かせない。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に文献を精読し、自らの解釈を述べられるように準備しておくこと。

教科書

『서울의 기원 경성의 탄생: 1910-1945 도시계획으로 본 경성의 역사』 엄복규 (이데아, 2016) 『근대를 산책하다-문화유산으로 보는 한국 근현대사 150년』 김종록, (다산초당, 2012)ほか。必要部分を配布するので、とくに購入の必要はない。ただし、テキストについては状況に応じて変更することがあるので、その場合は授業で説明する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業への主体的な取り組み、授業への貢献度、訳読の正確さや厳密さ等)(60%)を重視するが、期末試験(40%)を実施し総合的に評価する。ただし、原則として3回以上欠席した場合、評価の対象とみなさない。

その他

今まで朝鮮語文献をあまり読んだことのない人も、受講者のレベルに応じて解説しますので安心してください。

科目ナンバー：(AL) LAN571N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修朝鮮語Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 平野 鶴子		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本授業では、20世紀の朝鮮半島の歴史文化に関する現代韓国・朝鮮語の文献を精読する。これにより、朝鮮語の基礎的な読解訓練を行うとともに、朝鮮近現代史の諸問題に対する理解を深めていく。秋学期は、主に、20世紀の朝鮮半島の人々にとって身近な日常的事象や生活文化に関する文献を取り上げる。

【到達目標】

研究を進める上で必要となる朝鮮語読解力を習得しつつ、参照すべき文献を把握し活用できるようになる。

授業内容

- 第1回 概説・導入／発表担当決定
- 第2回 文献講読1
- 第3回 文献講読2
- 第4回 文献講読3
- 第5回 文献講読4
- 第6回 文献講読5
- 第7回 文献講読6
- 第8回 文献講読7
- 第9回 文献講読8
- 第10回 文献講読9
- 第11回 文献講読10
- 第12回 文献講読11
- 第13回 文献講読12
- 第14回 まとめ／総括

履修上の注意

春学期から継続して履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に文献を精読し、自らの解釈を述べられるように準備しておくこと。

教科書

『서울시민의 결혼문화 : 2023 서울생활사조사연구』(서울생활사박물관, 2024), 『1930 ~ 40년대 경성의 도시체험과 도시문제』 김제정 (라움, 2014)ほか。必要部分を配布するので、とくに購入の必要はない。ただし、テキストについては状況に応じて変更することがあるので、その場合は授業で説明する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業への主体的な取り組み、授業への貢献度、訳読の正確さや厳密さ等)(60%)を重視するが、期末試験(40%)を実施し総合的に評価する。ただし、原則として3回以上欠席した場合、評価の対象とみなさない。

その他

今まで朝鮮語文献をあまり読んだことのない人も、受講者のレベルに応じて解説しますので安心してください。

科目ナンバー：(AL) LAN551N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修ロシア語Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士DEA(スラヴ学専攻) 杉山 春子		

授業の概要・到達目標

到達目標は2つです。第1に、統辞論的なアプローチによって、これまでのロシア語学習で得た基礎知識を再統合していくことで、ロシア語の素養をより確実なものとする。第2に、上記のアプローチを応用したテキストの読解、分析によって、実践力をつけることです。授業では、実用的な統辞論を講義し、この観点から、ロシア語のさまざまな文のスタイルとその意味をていねいに学びます。さらに、受講生とともに、歴史、地理、文化、社会に関わる文章や文学作品の任意のテキストを選び、読解やテキスト分析、質疑応答のプロセスをおこなって、語学力の総合的なステップ・アップを図ります。ロシアの現地映像、視聴覚教材等を適宜、導入します。

授業内容

- 第1回 ガイダンス:
1)ロシア語「統辞論」入門
2)歴史、地理、文化、社会の分野から希望するテキストについて意見交換
- 第2回 統辞と文体の意味を考える
テキスト読解・分析(1)
- 第3回 主格、生格のコンビネーション
文法補強とテキスト読解・分析(2)
- 第4回 名詞の諸格と前置詞のコンビネーション
文法補強とテキスト読解・分析(3)
- 第5回 名詞の諸格のコンビネーション
文法補強とテキスト読解・分析(4)
- 第6回 文法補強とテキスト読解・分析(5)
- 第7回 動詞の不定法(完了体、不完了体)のコンビネーション
文法補強とテキスト読解・分析(6)
- 第8回 文法補強とテキスト読解・分析(7)
- 第9回 人称代名詞の諸格を用いた表現
文法補強とテキスト読解・分析(8)
- 第10回 文法補強とテキスト分析(9)
- 第11回 動詞の直接法現在と不定法のコンビネーション
文法補強とテキスト読解・分析(10)
- 第12回 文法補強とテキスト読解・分析(11)
- 第13回 文法補強とテキスト読解・分析(12)
- 第14回 a.課題または試験、b.春学期のふり返りと正答解説

履修上の注意

- ◎受講資格としてロシア語歴2年以上。ロシア語の場合、最初の2年間で文法学習がほぼ終了し、本講座のような実践を重ねることで言葉の世界を、より楽しめるようになります。
- ◎毎回、ワークショップ、小テストを実施し、楽しくアクティヴな実力養成を図ります。
- ◎歴史、地理、文化、社会に関わる文章や文学作品のテキスト、および、視聴覚教材等については、受講生の希望や言語コミュニケーション力を配慮し、年度ごとに、更新されます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時に適宜、指示します。

教科書

オリジナル・プリントを配布。『ロシア文法の基礎』木村彰一著、白水社を購入のこと。

参考書

『博友社ロシア語辞典、改訂新版』博友社、『研究社露和辞典』研究社など。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に適宜、指示する。

成績評価の方法

授業への貢献度10%、出席40%、ワークショップ、レポート、小テストの総合点50%

その他

受講希望者は、初回ガイダンスに出席のこと。出席できない場合、クラスウェブにて連絡のこと。

科目ナンバー：(AL) LAN551N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修ロシア語Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士DEA(スラヴ学専攻) 杉山 春子		

授業の概要・到達目標

到達目標は2つです。第1に、統辞論的なアプローチによって、これまでのロシア語学習で得た基礎知識を再統合していくことで、ロシア語の素養をより確実なものとする。第2に、上記のアプローチを応用したテキストの読解、分析によって、実践力をつけることです。授業では、実用的な統辞論を講義し、この観点から、ロシア語のさまざまな文のスタイルとその意味をていねいに学びます。さらに、受講生とともに、歴史、地理、文化、社会に関わる文章や文学作品の任意のテキストを選び、読解や質疑応答のプロセスをおこなって、語学力の総合的なステップ・アップを図ります。ロシアの現地映像、視聴覚教材等を適宜、導入します。

授業内容

- 第1回 1)ガイダンス:「統辞論」の表現力を考える
2)歴史、地理、文化、社会の分野から希望するテキストについて意見交換
- 第2回 б ы т ь とその他の動詞における否定生格のコンビネーション
文法補強とテキスト読解・分析(1)
- 第3回 仮定法の諸相
文法補強とテキスト読解・分析(2)
- 第4回 文法補強とテキスト読解・分析(3)
- 第5回 無人称文、普遍人称文、不定人称文の諸相
文法補強とテキスト読解・分析(4)
- 第6回 文法補強とテキスト読解・分析(5)
- 第7回 疑問詞、不定代名詞、不定副詞のコンビネーション
文法補強とテキスト読解・分析(6)
- 第8回 文法補強とテキスト読解・分析(7)
- 第9回 形容詞的代名詞のコンビネーション
文法補強とテキスト読解・分析(8)
- 第10回 名詞の省略、形容詞の名詞転化、不定代名詞、否定代名詞のコンビネーション
文法補強とテキスト読解・分析(9)
- 第11回 文法補強とテキスト読解・分析(10)
- 第12回 接続詞、助詞、不定代名詞によって接続する文
文法補強とテキスト読解・分析(11)
- 第13回 文法補強とテキスト読解・分析(12)
- 第14回 a.課題または試験 b.秋学期のふり返りと正答解説

履修上の注意

- ◎受講資格としてロシア語学習歴2年以上。ロシア語の場合、最初の2年間で文法学習がほぼ終了し、本講座のような演習を積み重ねることで言葉の世界を、より楽しめるようになります。
- ◎毎回、ワークショップ、小テストを実施し、楽しくアクティヴな実力養成を図ります。
- ◎歴史、地理、文化、社会に関わる文章や文学作品のテキスト、および、視聴覚教材等については、受講生の希望や言語コミュニケーション力を配慮し、年度ごとに、更新されます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時に適宜、指示します。

教科書

オリジナル・プリントを配布。『ロシア文法の基礎』木村彰一著、白水社を購入のこと。

参考書

『博友社ロシア語辞典 改訂新版』博友社、『研究社露和辞典』研究社など。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に適宜、指示する。

成績評価の方法

授業への貢献度10%、出席40%、ワークショップ、レポート、小テストの総合点50%

その他

受講希望者は、初回ガイダンスに出席のこと。春学期からの継続受講をお勧めします。

科目ナンバー：(AL) LAN541N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修スペイン語I		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D.博士(哲学) バリエントスロドリゲス		

授業の概要・到達目標

この授業ではすでに獲得しているスペイン語の力を伸ばし、更に様々な会話表現を身につけることを目指します。正確に言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解できるよう、話すことと聞くことに重点をおき、会話の幅を広げてゆきます。また履修者の興味に応じてスペイン語圏の様々な文化も授業でとりあげます。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：El trabajo (仕事や勉強について話す)
- 第3回：El trabajo (交通手段について話す、頻度を表わす表現を使い話す)
- 第4回：Planes (将来の計画について話す)
- 第5回：Planes (義務や必要性について話す)
- 第6回：Comidas (店で商品について尋ねる、商品の値段を聞く)
- 第7回：Comidas (レストランで注文する、レストランで要求を伝える)
- 第8回：Un dia normal (最近したことを話す)
- 第9回：Un dia normal (謝る、言い訳をする)
- 第10回：Experiencias (個人的な体験について話す)
- 第11回：Opiniones (意見を伝える、賛成・反対する)
- 第12回：Ropa (着ている服を説明する、服の比較をする)
- 第13回：Ropa (店で服を買う)
- 第14回：a. 春学期末試験 b. 春学期のまとめ

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

言語を学ぶ際に音読することは大切であるので、積極的にスペイン語を声に出して読むこと。辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテーマについて事前に考え、必要な単語を調べておくこと。また、配付プリントを読み、わからない点は質問を準備しておくこと。

教科書

プリントを配付します。

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

試験(40%)、授業参加(60%)で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) LAN541N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修スペイン語II		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D.博士(哲学) バリエントスロドリゲス		

授業の概要・到達目標

この授業ではすでに獲得しているスペイン語の力を伸ばし、更に様々な会話表現を身につけることを目指します。正確に言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解できるよう、話すことと聞くことに重点をおき、会話の幅を広げてゆきます。また履修者の興味に応じてスペイン語圏の様々な文化も授業でとりあげます。

授業内容

- 第1回：En una fiesta (していることを話す、お祝いを言う、贈り物をあげる)
- 第2回：En una fiesta (物事について感想を言う、食べ物や飲み物をすすめる、すすめを承諾する・断る、日にちを言う)
- 第3回：Un viaje (過去について話す)
- 第4回：Un viaje (旅行について話す)
- 第5回：Famosos (歴史上の著名人、今の著名人について話す)
- 第6回：Permisos (許可を求める、許可を与える、可能か不可能かを尋ねる)
- 第7回：Favores (頼みごとをする、頼みごとをさく・断る、借りる)
- 第8回：Ir de viaje (座席の好み等について話し比較をする、交通手段についての情報を尋ねる・与える、天気について話す)
- 第9回：El fin de semana (先週末に何をしたか話す、過去の出来事について感想を言う)
- 第10回：La infancia (過去の人物、場所について説明する、過去の習慣について話す)
- 第11回：Regalos (事物を説明する、贈り物について話す)
- 第12回：El mundo (未来について話す)
- 第13回：El mundo (未来について予想する)
- 第14回：a. 秋学期末試験 b. 秋学期のまとめ

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

言語を学ぶ際に音読することは大切であるので、積極的にスペイン語を声に出して読むこと。辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテーマについて事前に考え、必要な単語を調べておくこと。また、配付プリントを読み、わからない点は質問を準備しておくこと。

教科書

プリントを配付します。

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

試験(40%)、授業参加(60%)で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) LAN591N			
共通特修科目		備考	
科目名	古典ギリシア語中級		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 古山 夕城		

授業の概要・到達目標

古典ギリシア語初級で習得された、初等文法・基礎文法を前提にして、さらに中級文法の学習を行ない、ギリシア語古典文献の散文を読解できる能力を養う。

授業内容

古典ギリシア語初級で使用されていた教科書を引き続き学習する。多様な活用だけでなく、古典ギリシア語独特の表現や慣用句、および文脈による解釈の違いに慣れ親しみ、テキストを正確に読み取る作業を経験してもらいたい。

授業スケジュールは、およそ次の通り。ただし、履修学生の学習状況に合わせて対応する。

- 1～2. 初等・基礎文法の復習確認
- 3～4. 接続法(能相・中受動相)の法の用法(勸奨思案・目的・恐怖危惧)
- 5～6. 条件文の諸形式(1)不問想定・反実仮想・予想的未来
- 7～8. 不定法の用法(目的意図・結果予想・独立的)
- 9～10. 関係代名詞の諸形式(同化・逆の同化)
- 11～12. 希求法(能動・中受動)の用法(目的・恐怖危惧・配慮計画)
- 13～14. 分詞(能動・中動・受動)の用法(情況・補語的・独立的)

履修上の注意

古典ギリシア語初級あるいは、古典ギリシア語Ⅰ（または学部共通外国語の古典ギリシア語）の単位を取得し、中級文法の前提となる基礎学力を有していること。

場合によっては、初回授業時に学力確認の試験を実施し、基礎学力が著しく低い場合は、履修を勧めないこともありうる。

なお、学部の「古典ギリシア語中級(旧カリ：古典ギリシア語ⅡA)」の授業と抱き合わせて実施します。

準備学習(予習・復習等)の内容

原則として毎週、関連する学習課題の短い動画2～3本をクラスウェブに掲載するので、授業開始までにそれを視聴し、対応する練習問題を解いておくこと。事前の予習が語学習得の必須条件であることは、古典ギリシア語についても変わらない

教科書

田中美知太郎・松平千秋 『ギリシア語入門 改訂版』(岩波全書)

参考書

とくになし。中級文法の段階でも、教科書の学習に辞書は必要ありません。秋学期にテキスト講読へ進む前に、辞書辞典類の紹介を行ないます。

課題に対するフィードバックの方法

欠席時間のテキスト練習問題をレポート解答として提出した場合は、添削の上、返送する。

成績評価の方法

授業への取り組み(評価基準＝練習問題の解答率)によって、成績を評定する。ただし、出席率80%以上を必須条件とします。試験は行なわない予定。

その他

指導テーマ

本講義は、対面科目であるが、全14回中、第2～第7回まではZoomミーティングを利用したリアルタイム型のオンライン形式で実施する。それ以降は、履修生と相談の上、そのまま継続あるいは対面授業で行う予定である。

進行計画

このシラバスは、2024年11月段階での計画を載せたものであり、2025年度の授業開始時に一部または多くが変更されることがあります。変更については、授業開始時に説明し、履修生と相談します。

科目ナンバー：(AL) LAN591N			
共通特修科目		備考	
科目名	古典ギリシア語講読		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 古山 夕城		

授業の概要・到達目標

古典ギリシア語中級で習得された、文法学習を前提にして、さらに高度な文法の知識を身につけ、ギリシア語古典文献の散文テキストを読解できる能力を養う。

授業内容

まず、中級文法のおさらいと、文法テキストの残り部分の読了を果たす。その後、古典文献の中からふさわしいテキストを選択し、講読授業へと進んでいく予定。

授業スケジュールはおよそ次の通り。

- 1～2. 命令法(能動・中動・受動)の用法
- 3～4. 間接話法、否定の表現
- 5～6. 特殊活用のmi動詞の用法
- 7～14. テキスト講読

履修上の注意

本講義は、対面科目として計画していますが、全14回のうち最初の6回分をリアルタイム型のオンライン形式で実施します。ただし、その後の授業形態については、履修学生との相談により、実施方法を決めていきます。

履修条件として、古典ギリシア語中級の単位を取得していること。場合によっては、中級文法の学力を確認する試験を行い、著しく学力が低い場合は、履修を勧めないこともあります。

なお、学部の「古典ギリシア語講読(旧カリ：ⅡB)」の授業と抱き合わせて実施します。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前のテキスト予習は必須です。各課の内容を説明は授業内で行いますが、それを踏まえた練習問題の読解は必ず事前に準備しておくこと。

大学院特修科目として実施するこの授業は、単なる語学文法・テキスト読解だけでなく、その背後にある古代ギリシアの文化・社会・国家制度・歴史的背景なども学習することが重要であるため、それらについても授業の予習として調べておくこと。

教科書

田中美知太郎・松平千秋 『ギリシア語入門 改訂版』(岩波全書)

講読テキストについては、履修学生と相談のうえ決めます。

参考書

中級文法の段階でも、教科書の学習に辞書は必要ありませんが、古典テキスト講読には必要となるので、その前に初学者にふさわしい辞書・辞典類を紹介します。文法書巻末の語彙集ではまったく不十分であることを留意しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

欠席時間のテキスト練習問題、あるいは講読テキストの部分レポート解答として提出した場合は、添削の上、返送する。

成績評価の方法

授業への取り組み(評価基準＝練習問題・テキスト講読の解答率)によって、成績を評価する。ただし、単位取得の要件は出席率80%以上とします。

試験は行なわない予定。

その他

このシラバスは前年11月段階の計画であり、実際の授業がすべてこのとおりに行なわれることを保証するものではありません。9月の授業開始時に、進め方と内容の一部について変更することがありますので「シラバスの補足」を必ず参照してください。

科目ナンバー：(AL) LAN591N			
共通特修科目	備考		
科目名	ラテン語中級講読A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	小島 久和	

授業の概要・到達目標

ラテン語初歩・ラテン語初級の授業で学習した基本的な文法事項を確認しながら、中級者向けの比較的易しい短文集を丁寧に読んでいきます。これによってラテン語の文章読解に慣れて、より長い文章を読むための基礎的能力を習得します。

授業内容

以下に14回分の授業内容を列挙します。ただし、授業の進捗状況に応じて変化します。

- (第1回) 初級文法の総復習
- (第2回) De Gallicis divis.
- (第3回) De Romae origine.
- (第4回) De Cambysis filii Cyri expeditione.
- (第5回) De patronis.
- (第6回) De priscis Romanis.
- (第7回) De primis bibliothecis.
- (第8回) Pythagoras Crotonienses ad usum frugalitatis revocat.
- (第9回) Sapiens opes contemnit.
- (第10回) Fames optimum condimentum.
- (第11回) De gloria Augusti bellica.
- (第12回) Trajanus.
- (第13回) De Athenarum initiis.
- (第14回) Asinus et Lyra.

履修上の注意

ラテン語初歩・ラテン語初級を修了している学生のみ履修してください。

辞書は『Lexicon Latino-Japonicum (羅和辞典 改訂版)』水谷智洋編(研究社)、または『古典ラテン辞典』國原吉之助著(大学書林)を参考にしてください。また、中央図書館に羅英・羅仏・羅独・羅伊などが開架されていますので、十分に活用してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

文章の内容理解に十分な時間をかけてください。辞書で単語の意味を調べるときには、語義のすべてに目を通してください。動詞を調べるときには、どのような構文を取るのか、前置詞や不定詞を従えるのかなどを丁寧に確認してください。

教科書

『ラテン語読本』 松本悦治著 (駿河台出版社)

参考書

『ラテン広文典』泉井久之助著(白水社)
 『新ラテン文法』松平千秋, 国原吉之助著(東洋出版)
 『古典ラテン語文典』中山恒夫著(白水社)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加の積極性、丁寧な単語調べ・読解の正確さ(70%)、レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) LAN591N			
共通特修科目	備考		
科目名	ラテン語中級講読B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	小島 久和	

授業の概要・到達目標

ラテン語初歩・ラテン語初級で学習したラテン語の基礎的文法事項を確認しながら、短文集を読み進めます。文章の内容は春学期のものより難しくなっていますので、単語を一つ一つ確認しながら、ラテン語の読解能力を高めていきます。

授業内容

以下に14回分の授業内容を列挙します。ただし、授業の進捗状況に応じて変化します。

- (第1回) De Draconis et Solonis legibus contra latrones.
- (第2回) Pisistratus.
- (第3回) Miltiades Lemno potitur.
- (第4回) De Britannia.
- (第5回) Euripides.
- (第6回) Euripides.
- (第7回) Cyri regis sepulcrum.
- (第8回) Scythes Alexandri ambitionem accusat.
- (第9回) Casus miraculum efficit.
- (第10回) Demetrius Poliorcetes et tabula Protogenis pictoris.
- (第11回) De prima victoria navali Romanorum.
- (第12回) Hannibal Cretae avaritiam Gortyniorum fallit.
- (第13回) De M. Catonis laudibus.
- (第14回) Pomponius Atticus.

履修上の注意

ラテン語初歩・ラテン語初級を修了している学生のみ履修してください。

辞書は『Lexicon Latino-Japonicum (羅和辞典 改訂版)』水谷智洋編(研究社)、または『古典ラテン辞典』國原吉之助著(大学書林)を参考にしてください。また、中央図書館に羅英・羅仏・羅独・羅伊などが開架されていますので、十分に活用してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習に十分時間をかけて、文章の内容をしっかりと把握してください。動詞を調べるときには、意味だけでなく、動詞の取る構文を丁寧に確認してください。

教科書

『ラテン語読本』 松本悦治著 (駿河台出版社)

参考書

『ラテン広文典』泉井久之助著(白水社)
 『新ラテン文法』松平千秋, 国原吉之助著(東洋出版)
 『古典ラテン語文典』中山恒夫著(白水社)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加の積極性・丁寧な単語調べ・読解の正確さ(70%)、レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) LAN591N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修アラビア語A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 狩野 希望		

授業の概要・到達目標

この授業は、アラビア語の基礎文法を学び終えた学生を対象に、中級レベルのアラビア語文献の講読を行う授業です。現代及び古典の文献講読を通じて、母音記号のない文章を自ら読めるような読解力を身に付けることを目標とします。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
- 第3回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
- 第4回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
- 第5回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
- 第6回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
- 第7回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
- 第8回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第9回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第10回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第11回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第12回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第13回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第14回 半期の授業のまとめ

履修上の注意

授業は、履修者による輪読形式で行います。毎回、授業の予習をしてきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習では、文章に母音記号を振り、和訳をし、音読の練習をしてください。また、文献の著者や文献中に登場する専門用語等についても調べてください。

教科書

プリント教材を授業内で配布します。

参考書

授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点評価(出席の状況、予習の程度、授業への参加度)

その他

履修者の習熟度等により、授業で扱う文献や授業内容を調整することがあります。

科目ナンバー：(AL) LAN591N			
共通特修科目		備考	
科目名	特修アラビア語B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 狩野 希望		

授業の概要・到達目標

この授業は、アラビア語の基礎文法を学び終えた学生を対象に、中級レベルの古典アラビア語文献の講読を行う授業です。思想系の古典文献の講読を通じて、母音記号のない文章を自ら読めるような読解力を身に付けるとともに、イスラーム思想の知識を深めることを目標とします。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第3回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第4回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第5回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第6回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第7回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第8回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第9回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第10回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第11回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第12回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第13回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
- 第14回 半期の授業のまとめ

履修上の注意

授業は、履修者による輪読形式で行います。毎回、授業の予習をしてきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習では、文章に母音記号を振り、和訳をし、音読の練習をしてください。また、文献の著者や文献中に登場する専門用語等についても調べてください。

教科書

プリント教材を授業内で配布します。

参考書

授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点評価(出席の状況、予習の程度、授業への参加度)

その他

履修者の習熟度等により、授業で扱う文献や授業内容を調整することがあります。

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本古代文学演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 山崎 健司		

授業の概要・到達目標

古代文学に関する最新の研究論文を読み、批判を加えながら、今日の新たな問題点をさぐる。

ここ10年ほどの間に発表された論文の中から、各自の問題意識に即して数編を選び、そこに引用された用例の適否、論述の内容などについて、批判的に読み込み、みずから分析してその成果を発表する。また、研究史にも触れ、残された課題が奈辺にあるかを考えることを通して、論文執筆を念頭に置いた問題発見力を涵養する。

授業全体を通し、批判力・分析力・論文執筆能力を高めることをめざす。併せて修士論文執筆予定者に対しては、論文指導の時間を兼ねる。

授業内容

- 第1回：論文の選び方について
- 第2回：論文紹介と研究発表(1)
- 第3回：論文紹介と研究発表(2)
- 第4回：論文紹介と研究発表(3)
- 第5回：論文紹介と研究発表(4)
- 第6回：論文紹介と研究発表(5)
- 第7回：論文紹介と研究発表(6)
- 第8回：論文紹介と研究発表(7)
- 第9回：論文紹介と研究発表(8)
- 第10回：論文紹介と研究発表(9)
- 第11回：論文紹介と研究発表(10)
- 第12回：論文紹介と研究発表(11)
- 第13回：論文紹介と研究発表(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

演習担当者(発表者)は事前(発表する前の回)に取り上げる論文について予告をし、その論文をコピーして参加者に配布する。担当者以外の参加者は、その論文が取り上げている素材(作品等)について事前に目を通しておくことにより、発表後の討論が活発に行われることが望まれる。なお、ここで取り上げる論文は、原則査読を経たものであること。発表担当者は、パワーポイントやプリント資料の利用など、プレゼンテーションの仕方にも注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】

担当者は、準備に際し、論文の要約と評価すべき点・問題点をわかりやすく指摘してプリント等にまとめること。

また、発表担当者以外の参加者も事前に配布された論文をじっくり読んで読み込み、授業に臨むこと。

【復習】

担当者は、発表内容に対する参加者のコメントをふりかえり、研究に生かすこと。

また、担当者以外の参加者は、各回の発表内容が自分の研究にどのような接点を持ちうるかを考えて、記録に留めておくこと。

教科書

特に用いることはせず、担当者が配布するプリント等による。

参考書

選択された論文に関連する文献を随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習の発表内容と討論への参加状況、レポートによる総合評価。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本古代文学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 山崎 健司		

授業の概要・到達目標

古代文学に関する最新の研究論文を読み、批判を加えながら、今日の新たな問題点をさぐる。

ここ10年ほどの間に発表された論文の中から、各自の問題意識に即して数編を選び、そこに引用された用例の適否、論述の内容などについて、批判的に読み込み、みずから分析してその成果を発表する。また、研究史にも触れ、残された課題が奈辺にあるかを考えることを通して、論文執筆を念頭に置いた問題発見力を涵養する。

授業全体を通し、批判力・分析力・論文執筆能力を高めることをめざす。併せて修士論文執筆予定者に対しては、論文指導の時間を兼ねる。

授業内容

- 第1回：論文の選び方について
- 第2回：論文紹介と研究発表(1)
- 第3回：論文紹介と研究発表(2)
- 第4回：論文紹介と研究発表(3)
- 第5回：論文紹介と研究発表(4)
- 第6回：論文紹介と研究発表(5)
- 第7回：論文紹介と研究発表(6)
- 第8回：論文紹介と研究発表(7)
- 第9回：論文紹介と研究発表(8)
- 第10回：論文紹介と研究発表(9)
- 第11回：論文紹介と研究発表(10)
- 第12回：論文紹介と研究発表(11)
- 第13回：論文紹介と研究発表(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

演習担当者(発表者)は事前(発表する前の回)に取り上げる論文について予告をし、その論文をコピーして参加者に配布する。担当者以外の参加者は、その論文が取り上げている素材(作品等)について事前に目を通しておくことにより、発表後の討論が活発に行われることが望まれる。なお、ここで取り上げる論文は、原則査読を経たものであること。発表担当者は、パワーポイントやプリント資料の利用など、プレゼンテーションの仕方にも注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】

担当者は、準備に際し、論文の要約と評価すべき点・問題点をわかりやすく指摘してプリント等にまとめること。

また、発表担当者以外の参加者も事前に配布された論文をじっくり読んで読み込み、授業に臨むこと。

【復習】

担当者は、発表内容に対する参加者のコメントをふりかえり、研究に生かすこと。

また、担当者以外の参加者は、各回の発表内容が自分の研究にどのような接点を持ちうるかを考えて、記録に留めておくこと。

教科書

特に用いることはせず、担当者が配布するプリント等による。

参考書

選択された論文に関連する文献を随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習の発表内容と討論への参加状況、レポートによる総合評価。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本古代文学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 山崎 健司		

授業の概要・到達目標

古代文学に関する最新の研究論文を読み、批判を加えながら、今日の問題点をさぐる。

ここ10年ほどの間に発表された論文の中から、各自の問題意識に即して数編を選び、そこに引用された用例の適否、論述の内容などについて、批判的に読み込み、みずから分析してその成果を発表する。また、研究史にも触れ、残された課題が奈辺にあるかを考えることを通して、論文執筆を念頭に置いた問題発見力を涵養する。

授業全体を通し、批判力・分析力・論文執筆能力を高めることをめざす。併せて修士論文執筆予定者に対しては、論文指導の時間を兼ねる。

授業内容

第1回：論文の選び方について
 第2回：論文紹介と研究発表(1)
 第3回：論文紹介と研究発表(2)
 第4回：論文紹介と研究発表(3)
 第5回：論文紹介と研究発表(4)
 第6回：論文紹介と研究発表(5)
 第7回：論文紹介と研究発表(6)
 第8回：論文紹介と研究発表(7)
 第9回：論文紹介と研究発表(8)
 第10回：論文紹介と研究発表(9)
 第11回：論文紹介と研究発表(10)
 第12回：論文紹介と研究発表(11)
 第13回：論文紹介と研究発表(12)
 第14回：まとめ

履修上の注意

演習担当者(発表者)は事前(発表する前の回)に取り上げる論文について予告をし、その論文をコピーして参加者に配布する。担当者以外の参加者は、その論文が取り上げている素材(作品等)について事前に目を通しておくことにより、発表後の討論が活発に行われることが望まれる。なお、ここで取り上げる論文は、原則査読を経たものであること。発表担当者は、パワーポイントやプリント資料の利用など、プレゼンテーションの仕方にも注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】

担当者は、準備に際し、論文の要約と評価すべき点・問題点をわかりやすく指摘してプリント等にまとめること。

また、発表担当者以外の参加者も事前に配布された論文をじっくり読んで読み込み、授業に臨むこと。

【復習】

担当者は、発表内容に対する参加者のコメントをふりかえり、研究に生かすこと。

また、担当者以外の参加者は、各回の発表内容が自分の研究にどのような接点を持ちうるかを考えて、記録に留めておくこと。

教科書

特に用いることはせず、担当者が配布するプリント等による。

参考書

選択された論文に関連する文献を随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習の発表内容と討論への参加状況、レポートによる総合評価。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本古代文学演習ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 山崎 健司		

授業の概要・到達目標

古代文学に関する最新の研究論文を読み、批判を加えながら、今日の問題点をさぐる。

ここ10年ほどの間に発表された論文の中から、各自の問題意識に即して数編を選び、そこに引用された用例の適否、論述の内容などについて、批判的に読み込み、みずから分析してその成果を発表する。また、研究史にも触れ、残された課題が奈辺にあるかを考えることを通して、論文執筆を念頭に置いた問題発見力を涵養する。

授業全体を通し、批判力・分析力・論文執筆能力を高めることをめざす。併せて修士論文執筆予定者に対しては、論文指導の時間を兼ねる。

授業内容

第1回：論文の選び方について
 第2回：論文紹介と研究発表(1)
 第3回：論文紹介と研究発表(2)
 第4回：論文紹介と研究発表(3)
 第5回：論文紹介と研究発表(4)
 第6回：論文紹介と研究発表(5)
 第7回：論文紹介と研究発表(6)
 第8回：論文紹介と研究発表(7)
 第9回：論文紹介と研究発表(8)
 第10回：論文紹介と研究発表(9)
 第11回：論文紹介と研究発表(10)
 第12回：論文紹介と研究発表(11)
 第13回：論文紹介と研究発表(12)
 第14回：まとめ

履修上の注意

演習担当者(発表者)は事前(発表する前の回)に取り上げる論文について予告をし、その論文をコピーして参加者に配布する。担当者以外の参加者は、その論文が取り上げている素材(作品等)について事前に目を通しておくことにより、発表後の討論が活発に行われることが望まれる。なお、ここで取り上げる論文は、原則査読を経たものであること。発表担当者は、パワーポイントやプリント資料の利用など、プレゼンテーションの仕方にも注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】

担当者は、準備に際し、論文の要約と評価すべき点・問題点をわかりやすく指摘してプリント等にまとめること。

また、発表担当者以外の参加者も事前に配布された論文をじっくり読んで読み込み、授業に臨むこと。

【復習】

担当者は、発表内容に対する参加者のコメントをふりかえり、研究に生かすこと。

また、担当者以外の参加者は、各回の発表内容が自分の研究にどのような接点を持ちうるかを考えて、記録に留めておくこと。

教科書

特に用いることはせず、担当者が配布するプリント等による。

参考書

選択された論文に関連する文献を随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習の発表内容と討論への参加状況、レポートによる総合評価。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本古代文学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 湯浅 幸代		

授業の概要・到達目標

『源氏物語』蛩巻を対象に演習を行う。蛩巻では、光源氏の恋人であった夕顔の遺児・玉鬘が、引き取られた先の養父である源氏との関係に悩んでいる。玉鬘の父は、光源氏の友人・内大臣(かつての頭中将)であるが、運命の巡りあわせで光源氏の邸に住むこととなり、周囲は源氏を実父と信じている。玉鬘は、源氏に言い寄られる中、源氏の弟・兵部卿宮からも恋心を示されている。源氏はこの宮に、蛩の光で玉鬘の姿を見せた。そのような折、玉鬘は、長雨の所在なきを物語で紛らわせていたところ、光源氏が現れ、玉鬘が夢中になっている物語について語りだす。この場面は、「物語の自己言及」とも言われ、後世の注釈書においても大いに注目された部分である。

この巻について、注釈書や資料(史料)、研究論文を参照し、本文の確定、語句の読解につとめる。その上で、物語独自の表現を指摘し、読み解く力を身につける。

発表者は、割り振られた担当箇所を精読した上で、各自、問題を設定しつつ、テーマを決めて発表してもらう。その際、古注釈が指摘する問題点も視野に入れて考察する。

授業内容

- 第1回：『源氏物語』蛩巻の概説、演習のための参考文献紹介
- 第2回：日本古代文学の研究状況について概説
- 第3回：蛩巻の演習発表と質疑1
- 第4回：蛩巻の演習発表と質疑2
- 第5回：蛩巻の演習発表と質疑3
- 第6回：蛩巻の演習発表と質疑4
- 第7回：蛩巻の演習発表と質疑5
- 第8回：蛩巻の演習発表と質疑6
- 第9回：蛩巻の演習発表と質疑7
- 第10回：蛩巻の演習発表と質疑8
- 第11回：蛩巻の演習発表と質疑9
- 第12回：蛩巻の演習発表と質疑10
- 第13回：蛩巻の演習発表と質疑11
- 第14回：総括

履修上の注意

蛩巻前後の内容については、各自あらかじめ概略をしっかりと把握しておくこと。また履修する場合(聴講の場合も同様)、担当教員が認めた特別な理由を除き、講義回数(三分の一以上遅刻・欠席した場合、それ以降の出席を認めないので注意すること)。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に次回担当範囲の本文を読んでおくこと。

教科書

新編日本古典文学全集『源氏物語』3(小学館)の本文をもとに担当者を割り振るが、持参するテキストは各自自由。
読むテキストを写本とするかどうかは、履修者のメンバーを確認してから決めることとする。

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習発表(1回以上)と考察レポート(1回) 80% 質疑応答20%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本古代文学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 湯浅 幸代		

授業の概要・到達目標

春学期の演習内容を踏まえた上で、各自、平安文学に関する演習発表を行ってもらう(春学期同様、『源氏物語』の発表も可)。注釈書や資料(史料)、研究論文を参照し、本文の確定、語句の読解につとめる。その上で、物語独自の表現を指摘し、新見を提示できる力を養う。

授業内容

- 第1回：日本古代文学の研究状況について概説
- 第2回：平安文学に関する演習発表と質疑1
- 第3回：平安文学に関する演習発表と質疑2
- 第4回：平安文学に関する演習発表と質疑3
- 第5回：平安文学に関する演習発表と質疑4
- 第6回：平安文学に関する演習発表と質疑5
- 第7回：平安文学に関する演習発表と質疑6
- 第8回：平安文学に関する演習発表と質疑7
- 第9回：平安文学に関する演習発表と質疑8
- 第10回：平安文学に関する演習発表と質疑9
- 第11回：平安文学に関する演習発表と質疑10
- 第12回：平安文学に関する演習発表と質疑11
- 第13回：平安文学に関する演習発表と質疑12
- 第14回：総括

履修上の注意

各自、演習発表者が事前に告知した作品の登場人物、内容について、できるかぎり事前に把握しておくこと。
また履修する場合(聴講の場合も同様)、担当教員が認めた特別な理由を除き、講義回数(三分の一以上遅刻・欠席した場合、それ以降の出席を認めないので注意すること)。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習発表者が発表対象とする作品の内容について把握する。

教科書

演習発表者は事前に発表対象とする作品名を参加者に告知すること。参加者は、各自、告知された作品テキストを持参すること。

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習発表(1回以上)と考察レポート(1回) 80% 質疑応答20%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本古代文学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 湯浅 幸代		

授業の概要・到達目標

『源氏物語』蛭巻を対象に演習を行う。蛭巻では、光源氏の恋人であった夕顔の遺児・玉鬘が、引き取られた先の養父である源氏との関係に悩んでいる。玉鬘の父は、光源氏の友人・内大臣(かつての頭中将)であるが、運命の巡りあわせで光源氏の邸に住むこととなり、周囲は源氏を実父と信じている。玉鬘は、源氏に言い寄られる中、源氏の弟・兵部卿宮からも恋心を示されている。源氏はこの宮に、蛭の光で玉鬘の姿を見せた。そのような折、玉鬘は、長雨の所在なきを物語で紛らわせていたところ、光源氏が現れ、玉鬘が夢中になっている物語について語りだす。この場面は、「物語の自己言及」とも言われ、後世の注釈書においても大いに注目された部分である。

この巻について、注釈書や資料(史料)、研究論文を参照し、本文の確定、語句の読解につとめる。その上で、物語独自の表現を指摘し、読み解く力を身につける。

発表者は、割り振られた担当箇所を精読した上で、各自、問題を設定しつつ、テーマを決めて発表してもらう。その際、古注釈が指摘する問題点も視野に入れて考察する。

授業内容

- 第1回：『源氏物語』蛭巻の概説、演習のための参考文献紹介
- 第2回：日本古代文学の研究状況について概説
- 第3回：蛭巻の演習発表と質疑1
- 第4回：蛭巻の演習発表と質疑2
- 第5回：蛭巻の演習発表と質疑3
- 第6回：蛭巻の演習発表と質疑4
- 第7回：蛭巻の演習発表と質疑5
- 第8回：蛭巻の演習発表と質疑6
- 第9回：蛭巻の演習発表と質疑7
- 第10回：蛭巻の演習発表と質疑8
- 第11回：蛭巻の演習発表と質疑9
- 第12回：蛭巻の演習発表と質疑10
- 第13回：蛭巻の演習発表と質疑11
- 第14回：総括

履修上の注意

蛭巻前後の内容については、各自あらかじめ概略をしっかりと把握しておくこと。また履修する場合(聴講の場合も同様)、担当教員が認めた特別な理由を除き、講義回数(三分の一以上遅刻・欠席した場合、それ以降の出席を認めないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に次回担当範囲の本文を読んでおくこと。

教科書

新編日本古典文学全集『源氏物語』3(小学館)の本文をもとに担当者を割り振るが、持参するテキストは各自自由。
読むテキストを写本とするかどうかは、履修者のメンバーを確認してから決めることとする。

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習発表(1回以上)と考察レポート(1回) 80% 質疑応答20%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本古代文学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 湯浅 幸代		

授業の概要・到達目標

春学期の演習内容を踏まえた上で、各自、平安文学に関する演習発表を行ってもらう(春学期同様、『源氏物語』の発表も可)。注釈書や資料(史料)、研究論文を参照し、本文の確定、語句の読解につとめる。その上で、物語独自の表現を指摘し、新見を提示できる力を養う。

授業内容

- 第1回：日本古代文学の研究状況について概説
- 第2回：平安文学に関する演習発表と質疑1
- 第3回：平安文学に関する演習発表と質疑2
- 第4回：平安文学に関する演習発表と質疑3
- 第5回：平安文学に関する演習発表と質疑4
- 第6回：平安文学に関する演習発表と質疑5
- 第7回：平安文学に関する演習発表と質疑6
- 第8回：平安文学に関する演習発表と質疑7
- 第9回：平安文学に関する演習発表と質疑8
- 第10回：平安文学に関する演習発表と質疑9
- 第11回：平安文学に関する演習発表と質疑10
- 第12回：平安文学に関する演習発表と質疑11
- 第13回：平安文学に関する演習発表と質疑12
- 第14回：総括

履修上の注意

各自、演習発表者が事前に告知した作品の登場人物、内容について、できるかぎり事前に把握しておくこと。
また履修する場合(聴講の場合も同様)、担当教員が認めた特別な理由を除き、講義回数(三分の一以上遅刻・欠席した場合、それ以降の出席を認めないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習発表者が発表対象とする作品の内容について把握する。

教科書

演習発表者は事前に発表対象とする作品名を参加者に告知すること。参加者は、各自、告知された作品テキストを持参すること。

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習発表(1回以上)と考察レポート(1回) 80% 質疑応答20%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本中世文学演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	牧野 淳司	

授業の概要・到達目標

授業の概要
 唱導と注釈を扱う。唱導資料と古注釈を読解しつつ、日本古典文学との関係性を追究する。
 唱導とは、仏の教えを広く人々に説き聞かせることを指す。仏教伝来以来、僧侶による唱導説経は盛んに行われた。しかし、口頭での説経はその場限りの営みであり、記録されることが少なかったため、奈良時代・平安時代の説経の実態は不明な点が多い。しかし、平安時代末(院政期)になると、説経を文字として記録することが行われるようになる。その結果、院政期から鎌倉時代以降の唱導説経資料が数多く残されることとなった。これらは、文学史的・文化史的価値の高いものであるが、日本文学・日本史学・仏教史学など関連諸分野で十分に読解・活用されているとは言えない。
 また中世には、大量の注釈書が生み出された。古今注・伊勢注・源氏注・朗詠注の領域が開拓されて数十年が経過した。「中世日本紀」や「中世史記」の世界も広がっている。中世文学がこれらと深い関係を持つことはよく知られているが、まだ読解されていない資料も多い。古注釈の世界に分け入りながら、中世文学を見直す作業が必要である。
 本授業では、唱導資料や古注釈を読解しつつ、日本の古典文学との関係性を追究していく。
到達目標
 日本中世の唱導資料・古注釈を通して、資料読解能力を身に付ける。日本中世の唱導資料や古注釈の文学史的・文化史的意義を理解する。唱導・注釈と日本古典文学との関係性を追究しつつ、古典文学を見る目を養う。

授業内容

- (1) 唱導の世界
- (2) 中国の唱導・講経
- (3) 唱導資料について
- (4) 平安時代の説経
- (5) 院政期の唱導—澄憲・弁暁・貞慶—
- (6) 澄憲の唱導資料読解—鎮護国家の唱導
- (7) 澄憲の唱導資料読解—追善仏事の唱導
- (8) 弁暁の唱導資料読解—内乱と政治思想
- (9) 弁暁の唱導資料読解—後白河法皇との関係
- (10) 貞慶の唱導資料読解—神仏への信仰の形
- (11) 貞慶の唱導資料読解—講式の世界
- (12) 鎌倉時代の唱導資料
- (13) 南北朝・室町時代の唱導資料
- (14) まとめ

履修上の注意

資料に粘り強く、正面から向き合う真摯な姿勢が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当する資料について読解資料を作成し報告する。また関連資料を調査し提示する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiにレポートについて講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度60% レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本中世文学演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	牧野 淳司	

授業の概要・到達目標

授業の概要
 唱導と注釈を扱う。唱導資料と古注釈を読解しつつ、日本古典文学との関係性を追究する。
 唱導とは、仏の教えを広く人々に説き聞かせることを指す。仏教伝来以来、僧侶による唱導説経は盛んに行われた。しかし、口頭での説経はその場限りの営みであり、記録されることが少なかったため、奈良時代・平安時代の説経の実態は不明な点が多い。しかし、平安時代末(院政期)になると、説経を文字として記録することが行われるようになる。その結果、院政期から鎌倉時代以降の唱導説経資料が数多く残されることとなった。これらは、文学史的・文化史的価値の高いものであるが、日本文学・日本史学・仏教史学など関連諸分野で十分に読解・活用されているとは言えない。
 また中世には、大量の注釈書が生み出された。古今注・伊勢注・源氏注・朗詠注の領域が開拓されて数十年が経過した。「中世日本紀」や「中世史記」の世界も広がっている。中世文学がこれらと深い関係を持つことはよく知られているが、まだ読解されていない資料も多い。古注釈の世界に分け入りながら、中世文学を見直す作業が必要である。
 本授業では、唱導資料や古注釈を読解しつつ、日本の古典文学との関係性を追究していく。
到達目標
 日本中世の唱導資料・古注釈を通して、資料読解能力を身に付ける。日本中世の唱導資料や古注釈の文学史的・文化史的意義を理解する。唱導・注釈と日本古典文学との関係性を追究しつつ、古典文学を見る目を養う。

授業内容

- (1) 注釈の世界
- (2) 注釈と物語
- (3) 注釈の作成と古典化の営み
- (4) 歌人と注釈
- (5) 古注釈の読解—歌道家との関わり
- (6) 古注釈の読解—伝授
- (7) 古注釈の読解—神話
- (8) 古注釈の読解—儀礼
- (9) 古注釈の読解—寺院文化圏の中で
- (10) 注釈世界の広がり
- (11) 注釈世界と学問の展開
- (12) 注釈の地方的展開
- (13) 注釈と文化的権威
- (14) まとめ

履修上の注意

資料に粘り強く、正面から向き合う真摯な姿勢が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当する資料について読解資料を作成し報告する。また関連資料を調査し提示する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiにレポートについて講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度60% レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本中世文学演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 牧野 淳司		

授業の概要・到達目標

授業の概要
 唱導と注釈を扱う。唱導資料と古注釈を読解しつつ、日本古典文学との関係性を追究する。
 唱導とは、仏の教えを広く人々に説き聞かせることを指す。仏教伝来以来、僧侶による唱導説経は盛んに行われた。しかし、口頭での説経はその場限りの営みであり、記録されることが少なかったため、奈良時代・平安時代の説経の実態は不明な点が多い。しかし、平安時代末(院政期)になると、説経を文字として記録することが行われるようになる。その結果、院政期から鎌倉時代以降の唱導説経資料が数多く残されることとなった。これらは、文学史的・文化史的価値の高いものであるが、日本文学・日本史学・仏教史学など関連諸分野で十分に読解・活用されているとは言えない。
 また中世には、大量の注釈書が生み出された。古今注・伊勢注・源氏注・朗詠注の領域が開拓されて数十年が経過した。「中世日本紀」や「中世史記」の世界も広がっている。中世文学がこれらと深い関係を持つことはよく知られているが、まだ読解されていない資料も多い。古注釈の世界に分け入りながら、中世文学を見直す作業が必要である。
 本授業では、唱導資料や古注釈を読解しつつ、日本の古典文学との関係性を追究していく。
到達目標
 日本中世の唱導資料・古注釈を通して、資料読解能力を身に付ける。日本中世の唱導資料や古注釈の文学史的・文化史的意義を理解する。唱導・注釈と日本古典文学との関係性を追究しつつ、古典文学を見る目を養う。

授業内容

- (1) 唱導の世界
- (2) 中国の唱導・講経
- (3) 唱導資料について
- (4) 平安時代の説経
- (5) 院政期の唱導—澄憲・弁暁・貞慶—
- (6) 澄憲の唱導資料読解—鎮護国家の唱導
- (7) 澄憲の唱導資料読解—追善仏事の唱導
- (8) 弁暁の唱導資料読解—内乱と政治思想
- (9) 弁暁の唱導資料読解—後白河法皇との関係
- (10) 貞慶の唱導資料読解—神仏への信仰の形
- (11) 貞慶の唱導資料読解—講式の世界
- (12) 鎌倉時代の唱導資料
- (13) 南北朝・室町時代の唱導資料
- (14) まとめ

履修上の注意

資料に粘り強く、正面から向き合う真摯な姿勢が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当する資料について読解資料を作成し報告する。また関連資料を調査し提示する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiにレポートについて講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度60% レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本中世文学演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 牧野 淳司		

授業の概要・到達目標

授業の概要
 唱導と注釈を扱う。唱導資料と古注釈を読解しつつ、日本古典文学との関係性を追究する。
 唱導とは、仏の教えを広く人々に説き聞かせることを指す。仏教伝来以来、僧侶による唱導説経は盛んに行われた。しかし、口頭での説経はその場限りの営みであり、記録されることが少なかったため、奈良時代・平安時代の説経の実態は不明な点が多い。しかし、平安時代末(院政期)になると、説経を文字として記録することが行われるようになる。その結果、院政期から鎌倉時代以降の唱導説経資料が数多く残されることとなった。これらは、文学史的・文化史的価値の高いものであるが、日本文学・日本史学・仏教史学など関連諸分野で十分に読解・活用されているとは言えない。
 また中世には、大量の注釈書が生み出された。古今注・伊勢注・源氏注・朗詠注の領域が開拓されて数十年が経過した。「中世日本紀」や「中世史記」の世界も広がっている。中世文学がこれらと深い関係を持つことはよく知られているが、まだ読解されていない資料も多い。古注釈の世界に分け入りながら、中世文学を見直す作業が必要である。
 本授業では、唱導資料や古注釈を読解しつつ、日本の古典文学との関係性を追究していく。
到達目標
 日本中世の唱導資料・古注釈を通して、資料読解能力を身に付ける。日本中世の唱導資料や古注釈の文学史的・文化史的意義を理解する。唱導・注釈と日本古典文学との関係性を追究しつつ、古典文学を見る目を養う。

授業内容

- (1) 注釈の世界
- (2) 注釈と物語
- (3) 注釈の作成と古典化の営み
- (4) 歌人と注釈
- (5) 古注釈の読解—歌道家との関わり
- (6) 古注釈の読解—伝授
- (7) 古注釈の読解—神話
- (8) 古注釈の読解—儀礼
- (9) 古注釈の読解—寺院文化圏の中で
- (10) 注釈世界の広がり
- (11) 注釈世界と学問の展開
- (12) 注釈の地方的展開
- (13) 注釈と文化的権威
- (14) まとめ

履修上の注意

資料に粘り強く、正面から向き合う真摯な姿勢が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当する資料について読解資料を作成し報告する。また関連資料を調査し提示する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiにレポートについて講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度60% レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近世文学演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	杉田 昌彦	

授業の概要・到達目標

日本近世文学に関して、院生各自の研究対象を追究する演習を行う。その場合、どのジャンル・作家・作品を取り扱う場合においても、活字化されていない原資料(写本・板本・草稿類等)を扱うことが必須となる。

そのため、前期課程1年生、とりわけその春学期においては、この演習を通じて、草書体で書かれた原資料を読みこなし、それらを十二分に扱える力を養成することを、第一の目標とする。また、各自の修士論文作成に向けて、二年間を見通した研究計画を立案してもらう。

授業内容

1. イントロダクション
2. 原資料講読演習①
3. 原資料講読演習②
4. 原資料講読演習③
5. 原資料講読演習④
6. 原資料講読演習⑤
7. 原資料講読演習⑥
8. 原資料講読演習⑦
9. 修士論文研究計画作成①
10. 修士論文研究計画作成②
11. 修士論文研究計画作成③
12. 修士論文研究計画作成④
13. 修士論文研究計画作成⑤
14. 修士論文研究計画作成⑥

履修上の注意

草書体で記された古典一次資料を扱う演習となるので、そうした原資料を用いた学習に意欲的な学生の履修が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習担当者は十分な調査・準備を行った上で発表に臨み、発表をふまえ、レポートの作成までにさらなる調査・分析を行うこと。また発表者以外の学生も、原資料の講読箇所などについて十分な予習を行うこと。

教科書

テキストは、授業時に資料を適宜配布する。

参考書

授業時に適時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にて適宜指示する。

成績評価の方法

演習発表およびレポートなどの努力度・理解度・習熟度などを基準とする評価(70%)に加え、授業時の学習態度なども評価の対象(30%)とする。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近世文学演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	杉田 昌彦	

授業の概要・到達目標

日本近世文学に関して、院生各自の研究対象を追究する演習を行う。

前期課程1年生の秋学期においては、春学期から学んできた原資料や作品を読みこなし、それらを取り扱える力をより十分なものにするとともに、具体的な仮説の形成・先行研究の整理・批判など、各自の論文作成に向けての指導を行っている。

授業内容

1. イントロダクション
2. 資料・作品講読演習①
3. 資料・作品講読演習②
4. 資料・作品講読演習③
5. 資料・作品講読演習④
6. 資料・作品講読演習⑤
7. 資料・作品講読演習⑥
8. 資料・作品講読演習⑦
9. 論文仮説形成指導①
10. 論文仮説形成指導②
11. 論文仮説形成指導③
12. 論文仮説形成指導④
13. 論文仮説形成指導⑤
14. 論文仮説形成指導⑥

履修上の注意

草書体で記された古典一次資料を扱う演習となるので、そうした原資料を用いた学習に意欲的な学生の履修が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習担当者は十分な調査・準備を行った上で発表に臨み、発表をふまえ、レポートの作成までにさらなる調査・分析を行うこと。また発表者以外の学生も、原資料や作品の講読箇所などについて十分な予習を行うこと。

教科書

テキストは、授業時に資料を適宜配布する。

参考書

授業時に適時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にて適宜指示する。

成績評価の方法

演習発表およびレポートなどの努力度・理解度・習熟度などを基準とする評価(70%)に加え、授業時の学習態度なども評価の対象(30%)とする。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近世文学演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	杉田	昌彦

授業の概要・到達目標

日本近世文学に関して、院生各自の研究対象を追究する演習を行う。

前期課程2年生の春学期においては、原資料を縦横に駆使し、古典文学を「解釈」し「読む」ということの意味合いについてさらに深い考究を行うとともに、自身の研究テーマに即して資料を批判し考察する応用力を付けていってほしい。また、先行研究の批判をふまえた仮説の検証など、各自の論文作成に向けての指導も行っていきたい。

授業内容

1. イントロダクション
2. 資料・作品考察演習①
3. 資料・作品考察演習②
4. 資料・作品考察演習③
5. 資料・作品考察演習④
6. 資料・作品考察演習⑤
7. 資料・作品考察演習⑥
8. 資料・作品考察演習⑦
9. 論文考証内容指導①
10. 論文考証内容指導②
11. 論文考証内容指導③
12. 論文考証内容指導④
13. 論文考証内容指導⑤
14. 論文考証内容指導⑥

履修上の注意

草書体で記された古典一次資料を扱う演習となるので、そうした原資料を用いた学習に意欲的な学生の履修が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習担当者は十分な調査・準備を行った上で発表に臨み、発表をふまえ、レポートの作成までにさらなる調査・分析を行うこと。また発表者以外の学生も、原資料や作品の講読箇所などについて十分な予習を行うこと。

教科書

テキストは、授業時に資料を適宜配布する。

参考書

授業時に適時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にて適宜指示する。

成績評価の方法

演習発表およびレポートなどの努力度・理解度・習熟度などを基準とする評価(70%)に加え、授業時の学習態度なども評価の対象(30%)とする。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近世文学演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	杉田	昌彦

授業の概要・到達目標

日本近世文学に関して、院生各自の研究対象を追究する演習を行う。

前期課程2年生の秋学期においては、原資料を用いて古典文献を研究するという手法を完全に我がものとするとともに、それを自身の研究テーマの完成に結びつけていってほしい。また、各自の修士論文の執筆・完成に向けて、この授業中における指導・支援を役立ててもらえれば幸いである。

授業内容

1. イントロダクション
2. 古典文献研究演習①
3. 古典文献研究演習②
4. 古典文献研究演習③
5. 古典文献研究演習④
6. 古典文献研究演習⑤
7. 古典文献研究演習⑥
8. 古典文献研究演習⑦
9. 修士論文執筆指導①
10. 修士論文執筆指導②
11. 修士論文執筆指導③
12. 修士論文執筆指導④
13. 修士論文執筆指導⑤
14. 修士論文執筆指導⑥

履修上の注意

草書体で記された古典一次資料を扱う演習となるので、そうした原資料を用いた学習に意欲的な学生の履修が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

演習担当者は十分な調査・準備を行った上で発表に臨み、発表をふまえ、レポートの作成までにさらなる調査・分析を行うこと。また発表者以外の学生も、原資料や作品の講読箇所などについて十分な予習を行うこと。

教科書

テキストは、授業時に資料を適宜配布する。

参考書

授業時に適時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にて適宜指示する。

成績評価の方法

演習発表およびレポートなどの努力度・理解度・習熟度などを基準とする評価(70%)に加え、授業時の学習態度なども評価の対象(30%)とする。

その他

博士前期課程

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 竹内 栄美子		

授業の概要・到達目標

東アジアのなかの近代日本を問いながら、19世紀後半から20世紀前半にかけての中国、台湾、朝鮮半島における「日本人」の体験を考察した論文を読むことで「日本」「近代」「文学」を再検討する。

人文学と批評の意義を考え、日本近代文学研究をグローバルな観点から批判的に考察する視点を養う。また、修士論文作成に向けて学生諸君の研究テーマに従った発表をおこない、各自研究テーマの考究にとつとめることを目的とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
 - 第2回 スケジュールおよび発表者の担当決定
 - 第3回 論文の批判的読解1
 - 第4回 論文の批判的読解2
 - 第5回 論文の批判的読解3
 - 第6回 論文の批判的読解4
 - 第7回 論文の批判的読解5
 - 第8回 論文の批判的読解6
 - 第9回 論文の批判的読解7
 - 第10回 修士論文作成のための発表1
 - 第11回 修士論文作成のための発表2
 - 第12回 修士論文作成のための発表3
 - 第13回 修士論文作成のための発表4
 - 第14回 修士論文作成のための発表5
- *学習成果を高めるために、授業内容は適宜変更する場合がある。

履修上の注意

発表者の報告をもとにした議論をおこなう。報告にあたってはレジュメを用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者以外の参加者も事前に論文あるいはテキストを読んで問題点を検討してほしい。事前学習として、テキストの該当箇所を読み、次回の授業内容に関係する専門用語や社会的背景について調べておくこと。事後学習として、授業で扱った該当箇所を復習すること。

教科書

参考書

日本社会学会編『社会文学の三〇年』(青柿堂)、朴裕河『引揚げ文学論序説』(人文書院)、坪井秀人編『戦後日本を読みかえる』(臨川書院)、西成彦『外地巡礼「越境的」日本語文学論』(みすず書房)、和田博文・黄翠娥編『「異郷」としての大連・上海・台北』(勉誠出版)、金哲著・渡辺直紀訳『植民地の腹話術師たち』(平凡社)、ジャック・デリダ『たった一つの、私のものではない言葉』(岩波書店)、岩崎稔・島村輝・成田龍一編『アジアの戦争と記憶』(勉誠出版)、田中ひかる編『アナキズムを読む』(皓星社)、飯田祐子・中谷いずみ・笹尾佳代編『プロレタリア文学とジェンダー』(青弓社)、竹内栄美子ほか編『堀田善衛研究論集 世界を見据えた文学と思想』(桂書房)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

解説の時間を設けて発表に対するコメントをおこなう。

成績評価の方法

発表内容および考察レポート70%、授業中の発言や授業への取り組み姿勢30%によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 竹内 栄美子		

授業の概要・到達目標

東アジアのなかの近代日本を問いながら、19世紀後半から20世紀前半にかけての中国、台湾、朝鮮半島における「日本人」の体験を考察した論文を読むことで「日本」「近代」「文学」を再検討する。

人文学と批評の意義を考え、日本近代文学研究をグローバルな観点から批判的に考察する視点を養う。また、修士論文作成に向けて学生諸君の研究テーマに従った発表をおこない、各自研究テーマの考究にとつとめることを目的とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
 - 第2回 スケジュールおよび発表者の担当決定
 - 第3回 論文の批判的読解1
 - 第4回 論文の批判的読解2
 - 第5回 論文の批判的読解3
 - 第6回 論文の批判的読解4
 - 第7回 論文の批判的読解5
 - 第8回 論文の批判的読解6
 - 第9回 論文の批判的読解7
 - 第10回 修士論文作成のための発表1
 - 第11回 修士論文作成のための発表2
 - 第12回 修士論文作成のための発表3
 - 第13回 修士論文作成のための発表4
 - 第14回 修士論文作成のための発表5
- *学習成果を高めるために、授業内容は適宜変更する場合がある。

履修上の注意

発表者の報告をもとにした議論をおこなう。報告にあたってはレジュメを用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者以外の参加者も事前に論文あるいはテキストを読んで問題点を検討してほしい。事前学習として、テキストの該当箇所を読み、次回の授業内容に関係する専門用語や社会的背景について調べておくこと。事後学習として、授業で扱った該当箇所を復習すること。

教科書

参考書

日本社会学会編『社会文学の三〇年』(青柿堂)、朴裕河『引揚げ文学論序説』(人文書院)、坪井秀人編『戦後日本を読みかえる』(臨川書院)、西成彦『外地巡礼「越境的」日本語文学論』(みすず書房)、和田博文・黄翠娥編『「異郷」としての大連・上海・台北』(勉誠出版)、金哲著・渡辺直紀訳『植民地の腹話術師たち』(平凡社)、ジャック・デリダ『たった一つの、私のものではない言葉』(岩波書店)、岩崎稔・島村輝・成田龍一編『アジアの戦争と記憶』(勉誠出版)、田中ひかる編『アナキズムを読む』(皓星社)、飯田祐子・中谷いずみ・笹尾佳代編『プロレタリア文学とジェンダー』(青弓社)、竹内栄美子ほか編『堀田善衛研究論集 世界を見据えた文学と思想』(桂書房)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

解説の時間を設けて発表に対するコメントをおこなう。

成績評価の方法

発表内容および考察レポート70%、授業中の発言や授業への取り組み姿勢30%によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 竹内 栄美子		

授業の概要・到達目標

東アジアのなかの近代日本を問いながら、19世紀後半から20世紀前半にかけての中国、台湾、朝鮮半島における「日本人」の体験を考察した論文を読むことで「日本」「近代」「文学」を再検討する。
人文学と批評の意義を考え、日本近代文学研究をグローバルな観点から批判的に考察する視点を養う。また、修士論文作成に向けて学生諸君の研究テーマに従った発表をおこない、各自研究テーマの考究にとつとめることを目的とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
 - 第2回 スケジュールおよび発表者の担当決定
 - 第3回 論文の批判的読解1
 - 第4回 論文の批判的読解2
 - 第5回 論文の批判的読解3
 - 第6回 論文の批判的読解4
 - 第7回 論文の批判的読解5
 - 第8回 論文の批判的読解6
 - 第9回 論文の批判的読解7
 - 第10回 修士論文作成のための発表1
 - 第11回 修士論文作成のための発表2
 - 第12回 修士論文作成のための発表3
 - 第13回 修士論文作成のための発表4
 - 第14回 修士論文作成のための発表5
- *学習成果を高めるために、授業内容は適宜変更する場合がある。

履修上の注意

発表者の報告をもとにした議論をおこなう。報告にあたってはレジュメを用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者以外の参加者も事前に論文あるいはテキストを読んで問題点を検討してほしい。事前学習として、テキストの該当箇所を読み、次回の授業内容に関係する専門用語や社会的背景について調べておくこと。事後学習として、授業で扱った該当箇所を復習すること。

教科書

参考書

日本社会学会編『社会文学の三〇年』(青柿堂)、朴裕河『引揚げ文学論序説』(人文書院)、坪井秀人編『戦後日本を読みかえる』(臨川書院)、西成彦『外地巡礼「越境的」日本語文学論』(みすず書房)、和田博文・黄翠娥編『「異郷」としての大連・上海・台北』(勉誠出版)、金哲著・渡辺直紀訳『植民地の腹話術師たち』(平凡社)、ジャック・デリダ『たった一つの、私のものではない言葉』(岩波書店)、岩崎稔・島村輝・成田龍一編『アジアの戦争と記憶』(勉誠出版)、田中ひかる編『アナキズムを読む』(皓星社)、飯田祐子・中谷いずみ・笹尾佳代編『プロレタリア文学とジェンダー』(青弓社)、竹内栄美子ほか編『堀田善衛研究論集 世界を見据えた文学と思想』(桂書房)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

解説の時間を設けて発表に対するコメントをおこなう。

成績評価の方法

発表内容および考察レポート70%、授業中の発言や授業への取り組み姿勢30%によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 竹内 栄美子		

授業の概要・到達目標

東アジアのなかの近代日本を問いながら、19世紀後半から20世紀前半にかけての中国、台湾、朝鮮半島における「日本人」の体験を考察した論文を読むことで「日本」「近代」「文学」を再検討する。
人文学と批評の意義を考え、日本近代文学研究をグローバルな観点から批判的に考察する視点を養う。また、修士論文作成に向けて学生諸君の研究テーマに従った発表をおこない、各自研究テーマの考究にとつとめることを目的とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
 - 第2回 スケジュールおよび発表者の担当決定
 - 第3回 論文の批判的読解1
 - 第4回 論文の批判的読解2
 - 第5回 論文の批判的読解3
 - 第6回 論文の批判的読解4
 - 第7回 論文の批判的読解5
 - 第8回 論文の批判的読解6
 - 第9回 論文の批判的読解7
 - 第10回 修士論文作成のための発表1
 - 第11回 修士論文作成のための発表2
 - 第12回 修士論文作成のための発表3
 - 第13回 修士論文作成のための発表4
 - 第14回 修士論文作成のための発表5
- *学習成果を高めるために、授業内容は適宜変更する場合がある。

履修上の注意

発表者の報告をもとにした議論をおこなう。報告にあたってはレジュメを用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者以外の参加者も事前に論文あるいはテキストを読んで問題点を検討してほしい。事前学習として、テキストの該当箇所を読み、次回の授業内容に関係する専門用語や社会的背景について調べておくこと。事後学習として、授業で扱った該当箇所を復習すること。

教科書

参考書

日本社会学会編『社会文学の三〇年』(青柿堂)、朴裕河『引揚げ文学論序説』(人文書院)、坪井秀人編『戦後日本を読みかえる』(臨川書院)、西成彦『外地巡礼「越境的」日本語文学論』(みすず書房)、和田博文・黄翠娥編『「異郷」としての大連・上海・台北』(勉誠出版)、金哲著・渡辺直紀訳『植民地の腹話術師たち』(平凡社)、ジャック・デリダ『たった一つの、私のものではない言葉』(岩波書店)、岩崎稔・島村輝・成田龍一編『アジアの戦争と記憶』(勉誠出版)、田中ひかる編『アナキズムを読む』(皓星社)、飯田祐子・中谷いずみ・笹尾佳代編『プロレタリア文学とジェンダー』(青弓社)、竹内栄美子ほか編『堀田善衛研究論集 世界を見据えた文学と思想』(桂書房)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

解説の時間を設けて発表に対するコメントをおこなう。

成績評価の方法

発表内容および考察レポート70%、授業中の発言や授業への取り組み姿勢30%によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近代文学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 田口 麻奈		

授業の概要・到達目標

近現代詩に関する評論(詩論)や研究論文を読み、詩の概念や創作における諸実践を歴史的な連関において捉える。それによって、日本近・現代文学とその研究を多層的に把握し直すことを目標とする。またそれと並行して履修者が各自の研究テーマを探求し、口頭発表と議論を通して修士論文の構想を具体化することを目指す。

授業内容

- 第1回: 概説・導入
 - 第2回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(1)
 - 第3回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(2)
 - 第4回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(3)
 - 第5回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(4)
 - 第6回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(5)
 - 第7回: 中間レビュー
 - 第8回: 修士論文に向けての作業報告(1)
 - 第9回: 修士論文に向けての作業報告(2)
 - 第10回: 修士論文に向けての作業報告(3)
 - 第11回: 修士論文に向けての作業報告(4)
 - 第12回: 修士論文に向けての作業報告(5)
 - 第13回: 期末レビュー
 - 第14回: まとめ
- ※履修人数や議論の進捗状況に応じて計画を変更することがあります。

履修上の注意

授業は各回の発表担当者による報告とフロアの議論に基づいて進行する。発表担当者は、適宜必要な配布物を用意するとともに、適切な事前予告(目を通しておいてほしい文献や資料などの指示)を行うこと。他の履修者はその予告内容に従い、聴く準備を十全に整えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業時に、次回のテーマや報告に関する予告を行うので、その都度の指示にそって指定された文献や資料をあらかじめ読み込んでくること。また、当該の授業内で扱った話題や情報について、理解が不十分な箇所がある場合は文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

各回の授業の中で必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表60%, 平常点40%で評価する。平常点は、発言や出席状況、議論への参加姿勢によって総合的に判断する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近代文学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 田口 麻奈		

授業の概要・到達目標

近現代詩に関する評論(詩論)や研究論文を読み、詩の概念や創作における諸実践を歴史的な連関において捉える。それによって、日本近・現代文学とその研究を多層的に把握し直すことを目標とする。またそれと並行して履修者が各自の研究テーマを探求し、口頭発表と議論を通して修士論文の構想を具体化することを目指す。

授業内容

- 第1回: 概説・導入
 - 第2回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(1)
 - 第3回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(2)
 - 第4回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(3)
 - 第5回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(4)
 - 第6回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(5)
 - 第7回: 中間レビュー
 - 第8回: 修士論文に向けての作業報告(1)
 - 第9回: 修士論文に向けての作業報告(2)
 - 第10回: 修士論文に向けての作業報告(3)
 - 第11回: 修士論文に向けての作業報告(4)
 - 第12回: 修士論文に向けての作業報告(5)
 - 第13回: 期末レビュー
 - 第14回: まとめ
- ※履修人数や議論の進捗状況に応じて計画を変更することがあります。

履修上の注意

授業は各回の発表担当者による報告とフロアの議論に基づいて進行する。発表担当者は、適宜必要な配布物を用意するとともに、適切な事前予告(目を通しておいてほしい文献や資料などの指示)を行うこと。他の履修者はその予告内容に従い、聴く準備を十全に整えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業時に、次回のテーマや報告に関する予告を行うので、その都度の指示にそって指定された文献や資料をあらかじめ読み込んでくること。また、当該の授業内で扱った話題や情報について、理解が不十分な箇所がある場合は文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

各回の授業の中で必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表60%, 平常点40%で評価する。平常点は、発言や出席状況、議論への参加姿勢によって総合的に判断する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 田口 麻奈		

授業の概要・到達目標

近現代詩に関する評論(詩論)や研究論文を読み、詩の概念や創作における諸実践を歴史的な連関において捉える。それによって、日本近・現代文学とその研究を多層的に把握し直すことを目標とする。またそれと並行して履修者が各自の研究テーマを探求し、口頭発表と議論を通して修士論文の構想を具体化することを目指す。

授業内容

- 第1回: 概説・導入
 - 第2回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(1)
 - 第3回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(2)
 - 第4回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(3)
 - 第5回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(4)
 - 第6回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(5)
 - 第7回: 中間レビュー
 - 第8回: 修士論文に向けての作業報告(1)
 - 第9回: 修士論文に向けての作業報告(2)
 - 第10回: 修士論文に向けての作業報告(3)
 - 第11回: 修士論文に向けての作業報告(4)
 - 第12回: 修士論文に向けての作業報告(5)
 - 第13回: 期末レビュー
 - 第14回: まとめ
- ※履修人数や議論の進捗状況に応じて計画を変更することがあります。

履修上の注意

授業は各回の発表担当者による報告とフロアの議論に基づいて進行する。発表担当者は、適宜必要な配布物を用意するとともに、適切な事前予告(目を通しておいてほしい文献や資料などの指示)を行うこと。他の履修者はその予告内容に従い、聴く準備を十全に整えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業時に、次回のテーマや報告に関する予告を行うので、その都度の指示にそって指定された文献や資料をあらかじめ読み込んでくること。また、当該の授業内で扱った話題や情報について、理解が不十分な箇所がある場合は文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

各回の授業の中で必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表60%, 平常点40%で評価する。平常点は、発言や出席状況、議論への参加姿勢によって総合的に判断する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 田口 麻奈		

授業の概要・到達目標

近現代詩に関する評論(詩論)や研究論文を読み、詩の概念や創作における諸実践を歴史的な連関において捉える。それによって、日本近・現代文学とその研究を多層的に把握し直すことを目標とする。またそれと並行して履修者が各自の研究テーマを探求し、口頭発表と議論を通して修士論文の構想を具体化することを目指す。

授業内容

- 第1回: 概説・導入
 - 第2回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(1)
 - 第3回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(2)
 - 第4回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(3)
 - 第5回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(4)
 - 第6回: 近現代詩論ないし研究論文の読解・考察(5)
 - 第7回: 中間レビュー
 - 第8回: 修士論文に向けての作業報告(1)
 - 第9回: 修士論文に向けての作業報告(2)
 - 第10回: 修士論文に向けての作業報告(3)
 - 第11回: 修士論文に向けての作業報告(4)
 - 第12回: 修士論文に向けての作業報告(5)
 - 第13回: 期末レビュー
 - 第14回: まとめ
- ※履修人数や議論の進捗状況に応じて計画を変更することがあります。

履修上の注意

授業は各回の発表担当者による報告とフロアの議論に基づいて進行する。発表担当者は、適宜必要な配布物を用意するとともに、適切な事前予告(目を通しておいてほしい文献や資料などの指示)を行うこと。他の履修者はその予告内容に従い、聴く準備を十全に整えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業時に、次回のテーマや報告に関する予告を行うので、その都度の指示にそって指定された文献や資料をあらかじめ読み込んでくること。また、当該の授業内で扱った話題や情報について、理解が不十分な箇所がある場合は文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

各回の授業の中で必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表60%, 平常点40%で評価する。平常点は、発言や出席状況、議論への参加姿勢によって総合的に判断する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 生方 智子		

授業の概要・到達目標

日本近代文学研究における近年までの研究成果を踏まえ、優れた修士論文を書くために必要な知識と技術を身に付けることを目標とする。授業は演習形式で行い、受講者には学会誌「日本近代文学」の掲載論文に関する分析・報告、および、修士論文のテーマの報告や中間発表を求める。また、適宜、最新の研究論文を取り上げて検証していく予定。

授業内容

- 第1回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その1
 - 第2回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その2
 - 第3回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その3
 - 第4回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その4
 - 第5回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その5
 - 第6回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その6
 - 第7回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その7
 - 第8回：修士論文に向けたテーマ発表—その1
 - 第9回：修士論文に向けたテーマ発表—その2
 - 第10回：修士論文に向けたテーマ発表—その3
 - 第11回：修士論文に向けたテーマ発表—その4
 - 第12回：修士論文中間発表—その1
 - 第13回：修士論文中間発表—その2
 - 第14回：論文構想最終発表
- ※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

日本近代文学関係の学会誌には常に目を通しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に調査しておくこと。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容(70%)、ディスカッションの貢献度(30%)で評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 生方 智子		

授業の概要・到達目標

日本近代文学研究における近年までの研究成果を踏まえ、優れた修士論文を書くために必要な知識と技術を身に付けることを目標とする。授業は演習形式で行い、受講者には学会誌「日本近代文学」の掲載論文に関する分析・報告、および、修士論文のテーマの報告や中間発表を求める。また、適宜、最新の研究論文を取り上げて検証していく予定。

授業内容

- 第1回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その1
 - 第2回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その2
 - 第3回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その3
 - 第4回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その4
 - 第5回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その5
 - 第6回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その6
 - 第7回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その7
 - 第8回：修士論文に向けたテーマ発表—その1
 - 第9回：修士論文に向けたテーマ発表—その2
 - 第10回：修士論文に向けたテーマ発表—その3
 - 第11回：修士論文に向けたテーマ発表—その4
 - 第12回：修士論文中間発表—その1
 - 第13回：修士論文中間発表—その2
 - 第14回：論文構想最終発表
- ※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

日本近代文学関係の学会誌には常に目を通しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に調査しておくこと。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容(70%)、ディスカッションの貢献度(30%)で評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 生方 智子		

授業の概要・到達目標

日本近代文学研究における近年までの研究成果を踏まえ、優れた修士論文を書くために必要な知識と技術を身に着けることを目標とする。授業は演習形式で行い、受講者には学会誌「日本近代文学」の掲載論文に関する分析・報告、および、修士論文のテーマの報告や中間発表を求める。また、適宜、最新の研究論文を取り上げて検証していく予定。

授業内容

- 第1回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その1
 - 第2回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その2
 - 第3回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その3
 - 第4回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その4
 - 第5回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その5
 - 第6回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その6
 - 第7回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その7
 - 第8回：修士論文に向けたテーマ発表—その1
 - 第9回：修士論文に向けたテーマ発表—その2
 - 第10回：修士論文に向けたテーマ発表—その3
 - 第11回：修士論文に向けたテーマ発表—その4
 - 第12回：修士論文中間発表—その1
 - 第13回：修士論文中間発表—その2
 - 第14回：論文構想最終発表
- ※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

日本近代文学関係の学会誌には常に目を通しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に調査しておくこと。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容(70%)、ディスカッションの貢献度(30%)で評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) LIT612J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 生方 智子		

授業の概要・到達目標

日本近代文学研究における近年までの研究成果を踏まえ、優れた修士論文を書くために必要な知識と技術を身に着けることを目標とする。授業は演習形式で行い、受講者には学会誌「日本近代文学」の掲載論文に関する分析・報告、および、修士論文のテーマの報告や中間発表を求める。また、適宜、最新の研究論文を取り上げて検証していく予定。

授業内容

- 第1回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その1
 - 第2回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その2
 - 第3回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その3
 - 第4回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その4
 - 第5回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その5
 - 第6回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その6
 - 第7回：「日本近代文学」掲載論文の批評的読解—その7
 - 第8回：修士論文に向けたテーマ発表—その1
 - 第9回：修士論文に向けたテーマ発表—その2
 - 第10回：修士論文に向けたテーマ発表—その3
 - 第11回：修士論文に向けたテーマ発表—その4
 - 第12回：修士論文中間発表—その1
 - 第13回：修士論文中間発表—その2
 - 第14回：論文構想最終発表
- ※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

日本近代文学関係の学会誌には常に目を通しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に調査しておくこと。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容(70%)、ディスカッションの貢献度(30%)で評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) LIN532J			
日本文学専攻	備考		
科目名	国語学演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	小野 正弘	

授業の概要・到達目標

研究論文の作成ならびに読解・評価の方法を学ぶ。先行研究の内容が理解でき、問題点を指摘できるとともに、無理のない論理展開の論文を作成できるようになることが到達目標となる。

授業内容

演習担当者が、自分の研究分野に関する論文（内容は、語学的な問題を扱ったもの）を1本選び、全体的な内容を報告した後、少しずつ区切りながら説明を行なって、質疑に応じるというスタイルを通して、研究論文を読む際の視点、また、論文執筆上、配慮すべき点を学ぶ。

また、後期課程の院生および前期課程2年による、それぞれの研究テーマに関する、演習時間内の発表を聴講して、積極的な質疑を行なうことにより、発表に対する姿勢や聴き方を学ぶ。

全体として、論文を作成するということについての意識を高め、修士論文・雑誌論文等を執筆するための基礎力を養うことを目的とする。前期課程1年次配当の演習Aでは、修士論文を作成するための基礎力を養うことに主眼を置く。

1. 研究論文を作成する、とは？(aモジュールで終了)
2. 受講生による論文・研究発表(1-12)
3. まとめ

履修上の注意

国語学専攻以外の専攻生でも、語学的な論文を持ち寄って、多人数の中で共に読むことにより、一人では気づかないようなところも判明することもあるかと思われるので、積極的な参加を望みたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

1. 過不足のないレジюме（資料）を作成、問題点等をチェックしておく（発表者）。発表者の予告に基づいて関係論文を読んでおく（その他の受講者）。
2. 理解が曖昧な術語・概念については、参考書をもとにして確認しておく。

[復習]

1. 授業中に生まれた問題等について、他の研究論文などをさらに読んでみる。
2. 授業中に出てきた術語・概念等を、後述の辞典等で確認しておく。

教科書

用いない。演習担当者の配布するプリント（資料）、および、教員の適宜配布するプリント（資料）。

参考書

飛田良文他編『日本語学研究事典』（明治書院）
日本語学会編『日本語学大辞典』（東京堂出版）

課題に対するフィードバックの方法

当該回で積み残した課題は、次週にフィードバックする。

成績評価の方法

期末レポート1回(60%)と平常点(40%、演習発表：30%および質問等参加状況：10%)で、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) LIN532J			
日本文学専攻	備考		
科目名	国語学演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	小野 正弘	

授業の概要・到達目標

研究論文の作成ならびに読解・評価の方法を学ぶ。無理のない論理展開の論文を作成できるようになることが到達目標となる。

授業内容

演習担当者が、自分の研究分野に関する論文（内容は、語学的な問題を扱ったもの）を1本選び、全体的な内容を報告した後、少しずつ区切りながら説明を行なって、質疑に応じるというスタイルを通して、研究論文を読む際の視点、また、論文執筆上、配慮すべき点を学ぶ。

また、後期課程の院生および前期課程2年による、それぞれの研究テーマに関する、演習時間内の発表を聴講して、積極的な質疑を行なうことにより、発表に対する姿勢や聴き方を学ぶ。

全体として、論文を作成するということについての意識を高め、修士論文・雑誌論文等を執筆するための基礎力を養うことを目的とする。前期課程1年次配当の演習Bでは、修士論文作成の構想を立てていくことに主眼を置く。

1. 先行研究をどう読み解くか(aモジュールで終了)
2. 受講生による論文・研究発表(1-12)
3. まとめ

履修上の注意

国語学専攻以外の専攻生でも、語学的な論文を持ち寄って、多人数の中で共に読むことにより、一人では気づかないようなところも判明することもあるかと思われるので、積極的な参加を望みたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

1. 過不足のないレジюме（資料）を作成、問題点等をチェックしておく（発表者）。発表者の予告に基づいて関係論文を読んでおく（その他の受講者）。
2. 理解が曖昧な術語・概念については、参考書をもとにして確認しておく。

[復習]

1. 授業中に生まれた問題等について、他の研究論文などをさらに読んでみる。
2. 授業中に出てきた術語・概念等を、後述の辞典等で確認しておく。

教科書

用いない。演習担当者の配布するプリント（資料）、および、教員の適宜配布するプリント（資料）。

参考書

飛田良文他編『日本語学研究事典』（明治書院）
日本語学会編『日本語学大辞典』（東京堂出版）

課題に対するフィードバックの方法

当該回で積み残した課題は、次週にフィードバックする。

成績評価の方法

期末レポート1回(60%)と平常点(40%、演習発表：30%および質問等参加状況：10%)で、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) LIN632J			
日本文学専攻	備考		
科目名	国語学演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	小野 正弘	

授業の概要・到達目標

研究論文の作成ならびに読解・評価の方法を学ぶ。無理のない論理展開の論文を作成できるようになることが到達目標となる。

授業内容

演習担当者が、自分の研究分野に関する論文（内容は、語学的な問題を扱ったもの）を1本選び、全体的な内容を報告した後、少しずつ区切りながら説明を行なって、質疑に応じるというスタイルを通して、研究論文を読む際の視点、また、論文執筆上、配慮すべき点を学ぶ。

また、後期課程の院生および前期課程2年による、それぞれの研究テーマに関する、演習時間内の発表を聴講して、積極的な質疑を行なうことにより、発表に対する姿勢や聴き方を学ぶ。

全体として、論文を作成するということについての意識を高め、修士論文・雑誌論文等を執筆するための基礎力を養うことを目的とする。前期課程2年次配当の演習Cでは、修士論文作成を実際に進めていくことに資することをあわせて目的とする。

1. 先行研究をどう読み解くか(aモジュールで終了)
2. 受講生による論文・研究発表(1-12)
3. まとめ

履修上の注意

国語学専攻以外の専攻生でも、語学的な論文を持ち寄って、多人数の中で共に読むことにより、一人では気づかないようなところも判明することもあるかと思われるので、積極的な参加を望みたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

1. 過不足のないレジュメ（資料）を作成、問題点等をチェックしておく（発表者）。発表者の予告に基づいて関係論文を読んでおく（その他の受講者）。
2. 理解が曖昧な術語・概念については、参考書をもとにして確認しておく。

[復習]

1. 授業中に生まれた問題等について、他の研究論文などをさらに読んでみる。
2. 授業中に出てきた術語・概念等を、後述の辞典等で確認しておく。

教科書

用いない。演習担当者の配布するプリント(資料)、および、教員の適宜配布するプリント(資料)。

参考書

飛田良文他編『日本語学研究事典』(明治書院)
日本語学会編『日本語学大辞典』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

当該回で積み残した課題は、次週にフィードバックする。

成績評価の方法

期末レポート1回(60%)と平常点(40%、演習発表：30%および質問等参加状況:10%)で、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) LIN632J			
日本文学専攻	備考		
科目名	国語学演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	小野 正弘	

授業の概要・到達目標

研究論文の作成ならびに読解・評価の方法を学ぶ。無理のない論理展開の論文を作成できるようになることが到達目標となる。

授業内容

演習担当者が、自分の研究分野に関する論文（内容は、語学的な問題を扱ったもの）を1本選び、全体的な内容を報告した後、少しずつ区切りながら説明を行なって、質疑に応じるというスタイルを通して、研究論文を読む際の視点、また、論文執筆上、配慮すべき点を学ぶ。

また、後期課程の院生および前期課程2年による、それぞれの研究テーマに関する、演習時間内の発表を聴講して、積極的な質疑を行なうことにより、発表に対する姿勢や聴き方を学ぶ。

全体として、論文を作成するということについての意識を高め、修士論文・雑誌論文等を執筆するための基礎力を養うことを目的とする。前期課程2年次配当の演習Dでは、修士論文を完成させる最終チェックを行なうための時間という位置づけを持つ。

1. 先行研究をどう読み解くか(aモジュールで終了)
2. 受講生による論文・研究発表(1-12)
3. まとめ

履修上の注意

国語学専攻以外の専攻生でも、語学的な論文を持ち寄って、多人数の中で共に読むことにより、一人では気づかないようなところも判明することもあるかと思われるので、積極的な参加を望みたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

1. 過不足のないレジュメ（資料）を作成、問題点等をチェックしておく（発表者）。発表者の予告に基づいて関係論文を読んでおく（その他の受講者）。
2. 理解が曖昧な術語・概念については、参考書をもとにして確認しておく。

[復習]

1. 授業中に生まれた問題等について、他の研究論文などをさらに読んでみる。
2. 授業中に出てきた術語・概念等を、後述の辞典等で確認しておく。

教科書

用いない。演習担当者の配布するプリント(資料)、および、教員の適宜配布するプリント(資料)。

参考書

飛田良文他編『日本語学研究事典』(明治書院)
日本語学会編『日本語学大辞典』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

当該回で積み残した課題は、次週にフィードバックする。

成績評価の方法

期末レポート1回(70%)と平常点(30%、演習発表および参加状況)を総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT542J			
日本文学専攻		備考	
科目名	漢文学演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 甲斐 雄一		

授業の概要・到達目標

『文選』は、中国・梁代に編纂された、詩文をジャンル別に分類したアンソロジーである。中国では官吏任用試験である科挙受験の必読書となり、また日本においても広く流行した。中国古典文学の歴史的展開を考える上で重要な地位を占める書物である。

本授業では、『文選』所収作品を、詩を中心に読んでいく。本文及び注釈(旧注)を対象に、テキストの校勘(日本伝存の旧鈔本・和刻本を含む)を行って訓読・日本語訳を作成し、本文批判を中心とした文献学の知識・技術、訓読を含めた中国古典の文言文テキストの読解力を養成することを身につけることを目標とする。さらに、先行する日本語訳3種を比較することで、解釈が分かれる箇所及びその原因について把握し、文学テキストに対して問いを立てるための着眼点を養うことを目指す。

授業内容

- 第01回：『文選』について—内容・編纂の背景・受容・諸テキスト
 - 第02回：漢文訓読の基礎知識(日本語と漢語・訓点)
 - 第03回：漢文訓導の基礎知識(再読文字・返読文字)
 - 第04回：『文選』所収作品読解1
 - 第05回：『文選』所収作品読解2
 - 第06回：『文選』所収作品読解3
 - 第07回：『文選』所収作品読解4
 - 第08回：『文選』所収作品読解5
 - 第09回：『文選』所収作品読解6
 - 第10回：『文選』所収作品読解7
 - 第11回：『文選』所収作品読解8
 - 第12回：『文選』所収作品読解9
 - 第13回：『文選』所収作品読解10
 - 第14回a:まとめ(五言詩の成立と発展について、詩と典故について)
- *具体的な読解対象は、受講者の専門・関心・リクエストを考慮に入れて決定する。
*一回の読解量は、注釈と併せて半丁(半葉)を目安とする。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を重視する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は作品の校勘・訓読・日本語訳と注釈(旧注及び担当者注)を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。その他の参加者も次回読む箇所を予習しておき、授業後不明な・誤読していた箇所は辞書等を使って確認しておくこと。

教科書

なし。

参考書

- 内田泉之助・網祐次・中島千秋『文選』(新釈漢文大系, 明治書院)
- 小尾郊一著『文選』(全釈漢文大系, 集英社)
- 川合康三等『文選 詩篇』(岩波文庫)

- 富永一登『文選李善注の研究』(研文出版)
- 岡村繁『文選の研究』(岩波書店)
- 清水凱夫『新文選学—『文選』の新研究—』(研文出版)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習発表(55%), 質疑応答における発言(参加態度を含む, 45%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhoneアプリ有)。
ジャパンナレッジの大漢和辞典と「本棚」の新釈漢文大系に触れておくことを推奨する。

科目ナンバー：(AL) LIT542J			
日本文学専攻		備考	
科目名	漢文学演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 甲斐 雄一		

授業の概要・到達目標

『文選』は、中国・梁代に編纂された、詩文をジャンル別に分類したアンソロジーである。中国では官吏任用試験である科挙受験の必読書となり、また日本においても広く流行した。中国古典文学の歴史的展開を考える上で重要な地位を占める書物である。

本授業では、『文選』巻29所収作品を読む。本文及び注釈(旧注)を対象に、テキストの校勘(日本伝存の旧鈔本・和刻本を含む)を行って訓読・日本語訳を作成し、本文批判を中心とした文献学の知識・技術、訓読を含めた中国古典の文言文テキストの読解力を養成することを身につけることを目標とする。さらに、先行する日本語訳3種を比較することで、解釈が分かれる箇所及びその原因について把握し、文学テキストに対して問いを立てるための着眼点を養うことを目指す。

授業内容

- 第01回a:『文選』李善注について1:李善以前の文選注
 - 第02回：『文選』李善注について2:李善と『文選学』
 - 第03回：張協(張景陽)「雜詩十首」その三 第1-8句読解
 - 第04回：張協(張景陽)「雜詩十首」その三 第9-14句読解
 - 第05回：張協(張景陽)「雜詩十首」その四読解
 - 第06回：張協(張景陽)「雜詩十首」その五 第1-6句読解
 - 第07回：張協(張景陽)「雜詩十首」その五 第7-14句読解
 - 第08回：研究報告会
 - 第09回：張協(張景陽)「雜詩十首」その六 第1-8句読解
 - 第10回：張協(張景陽)「雜詩十首」その六 第9-16句読解
 - 第11回：張協(張景陽)「雜詩十首」その七 第1-10句読解
 - 第12回：張協(張景陽)「雜詩十首」その七 第11-16句読解
 - 第13回：張協(張景陽)「雜詩十首」その七 第17-20句読解
 - 第14回：研究報告会
- *発表担当者数や注釈の多寡に合わせて進行を調整することがある。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を重視する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は作品の校勘・訓読・日本語訳と注釈(旧注及び担当者注)を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。その他の参加者も次回読む箇所を予習しておき、授業後不明な・誤読していた箇所は辞書等を使って確認しておくこと。

教科書

なし。

参考書

- 内田泉之助・網祐次・中島千秋『文選』(新釈漢文大系, 明治書院)
- 小尾郊一著『文選』(全釈漢文大系, 集英社)
- 川合康三等『文選 詩篇』(岩波文庫)
- 岡村繁『文選の研究』(岩波書店)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習発表(55%), 質疑応答における発言(参加態度を含む, 45%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhoneアプリ有)。

科目ナンバー：(AL) LIT642J			
日本文学専攻		備考	
科目名	漢文学演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 甲斐 雄一		

授業の概要・到達目標

『文選』は、中国・梁代に編纂された、詩文をジャンル別に分類したアンソロジーである。中国では官吏任用試験である科挙受験の必読書となり、また日本においても広く流行した。中国古典文学の歴史的展開を考える上で重要な地位を占める書物である。

本授業では、『文選』所収作品を、詩を中心に読んでいく。本文及び注釈(旧注)を対象に、テキストの校勘(日本伝存の旧鈔本・和刻本を含む)を行って訓読・日本語訳を作成し、本文批判を中心とした文学史の知識・技術、訓読を含めた中国古典の文言文テキストの読解力を養成することを身につけることを目標とする。さらに、先行する日本語訳3種を比較することで、解釈が分かれる箇所及びその原因について把握し、文学テキストに対して問いを立てるための着眼点を養うことを目指す。

授業内容

- 第01回a:『文選』受容に関して
- 第02回:『文選』に関する基礎知識
- 第03回:『文選』所収作品読解1
- 第04回:『文選』所収作品読解2
- 第05回:『文選』所収作品読解3
- 第06回:『文選』所収作品読解4
- 第07回:『文選』所収作品読解5
- 第08回:『文選』所収作品読解6
- 第09回:『文選』所収作品読解7
- 第10回:『文選』所収作品読解8
- 第11回:『文選』所収作品読解9
- 第12回:『文選』所収作品読解10
- 第13回:『文選』所収作品読解11
- 第14回:『文選』所収作品読解12
- *具体的な読解対象は、受講者の専門・関心・リクエストを考慮に入れて決定する。
- *一回の読解量は、注釈と併せて半丁(半葉)を目安とする。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を重視する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は作品の校勘・訓読・日本語訳と注釈(旧注及び担当者注)を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。その他の参加者も次回読む箇所を予習しておき、授業後不明な・誤読していた箇所は辞書等を使って確認しておくこと。

教科書

なし。

参考書

- 内田泉之助・網祐次・中島千秋『文選』(新釈漢文大系, 明治書院)
- 小尾郊一著『文選』(全釈漢文大系, 集英社)
- 川合康三等『文選 詩篇』(岩波文庫)

- 富永一登『文選李善注の研究』(研文出版)
- 岡村繁『文選の研究』(岩波書店)
- 清水凱夫『新文選学—『文選』の新研究—』(研文出版)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習発表(55%), 質疑応答における発言(参加態度を含む, 45%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhoneアプリ有)。
 ジャパンナレッジの大漢和辞典と「本棚」の新釈漢文大系に触れておくことを推奨する。

科目ナンバー：(AL) LIT642J			
日本文学専攻		備考	
科目名	漢文学演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 甲斐 雄一		

授業の概要・到達目標

『文選』は、中国・梁代に編纂された、詩文をジャンル別に分類したアンソロジーである。中国では官吏任用試験である科挙受験の必読書となり、また日本においても広く流行した。中国古典文学の歴史的展開を考える上で重要な地位を占める書物である。

本授業では、『文選』巻29所収作品を読む。本文及び注釈(旧注)を対象に、テキストの校勘(日本伝存の旧鈔本・和刻本を含む)を行って訓読・日本語訳を作成し、本文批判を中心とした文学史の知識・技術、訓読を含めた中国古典の文言文テキストの読解力を養成することを身につけることを目標とする。さらに、先行する日本語訳3種を比較することで、解釈が分かれる箇所及びその原因について把握し、文学テキストに対して問いを立てるための着眼点を養うことを目指す。

授業内容

- 第01回a:『文選』李善注について1:李善以前の文選注
- 第02回:『文選』李善注について2:李善と『文選学』
- 第03回:張協(張景陽)「雜詩十首」その三 第1-8句読解
- 第04回:張協(張景陽)「雜詩十首」その三 第9-14句読解
- 第05回:張協(張景陽)「雜詩十首」その四読解
- 第06回:張協(張景陽)「雜詩十首」その五 第1-6句読解
- 第07回:張協(張景陽)「雜詩十首」その五 第7-14句読解
- 第08回:研究報告会
- 第09回:張協(張景陽)「雜詩十首」その六 第1-8句読解
- 第10回:張協(張景陽)「雜詩十首」その六 第9-16句読解
- 第11回:張協(張景陽)「雜詩十首」その七 第1-10句読解
- 第12回:張協(張景陽)「雜詩十首」その七 第11-16句読解
- 第13回:張協(張景陽)「雜詩十首」その七 第17-20句読解
- 第14回:研究報告会
- *発表担当者数や注釈の多寡に合わせて進行を調整することがある。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を重視する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は作品の校勘・訓読・日本語訳と注釈(旧注及び担当者注)を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。その他の参加者も次回読む箇所を予習しておき、授業後不明な・誤読していた箇所は辞書等を使って確認しておくこと。

教科書

なし。

参考書

- 内田泉之助・網祐次・中島千秋『文選』(新釈漢文大系, 明治書院)
- 小尾郊一著『文選』(全釈漢文大系, 集英社)
- 川合康三等『文選 詩篇』(岩波文庫)
- 岡村繁『文選の研究』(岩波書店)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習発表(55%), 質疑応答における発言(参加態度を含む, 45%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhoneアプリ有)。

科目ナンバー：(AL) CUL521J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本文学演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 郭 南燕		

授業の概要・到達目標

本演習は「西洋人の日本研究」をテーマとする。日本文化は常に世界から注目されてきている。1549年にフランシスコ・ザビエルが日本に到来してから、日本の情報を書き記して、インドとヨーロッパに発信していた。それ以来、日本の言語、社会、宗教が多くの西洋人によって行われてきた。本演習は、キリシタン世紀と江戸時代（禁教以降から幕末まで）において、日本がいかに西洋人によって観察され、言語化されたのかを検証して、演習発表を行うことを目的とする。

本演習は、指定教科書を読み通し、授業で議論を重ねて、演習と期末レポートにおいて、研究成果をまとめる。

授業内容

- 第1回 テーマと課題、履修の心得、発表と論文執筆の方法を紹介。ザビエルの日本語能力の検討
- 第2回 西洋人の日本研究(キリシタン世紀)
- 第3回 西洋人の日本研究(キリシタン世紀)
- 第4回 西洋人の日本研究(キリシタン世紀)
- 第5回 西洋人の日本研究(キリシタン世紀)
- 第6回 西洋人の日本研究(江戸時代)
- 第7回 西洋人の日本研究(江戸時代)
- 第8回 西洋人の日本研究(江戸時代)
- 第9回 西洋人の日本研究(江戸時代)
- 第10回 西洋人の日本研究(江戸時代)
- 第11回 演習発表
- 第12回 演習発表
- 第13回 演習発表
- 第14回 演習発表、総括

履修上の注意

配布資料と指定教科書の熟読を前提とし、参考書を利用し、関連文献の調査方法を学び、研究内容を発表し、討論を行い、理解を深め、期末レポートを書き、最終発表をする。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定教科書を熟読し、関連文献を独自で調べ、教員と相談し、有意義な研究テーマを見つける。

教科書

- ①杉本つとむ『西洋人の日本語発見』（講談社、2008年）
- ②海老沢有道『キリシタン南蛮文学入門』（教文館、1991年）
- ③クレインス『十七世紀のオランダ人が見た日本』（臨川書店、2010年）

授業開始までに、各自で購入する(書店かネット)。

参考書

- ①海老沢有道『南蛮文化 日欧文化交渉』（至文堂、1958）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加と討論40%、演習50%、期末レポート(6,000字前後) :10%
 期末レポートの提出メ切:2025年7月15日(火曜) 20:00。

その他

科目ナンバー：(AL) CUL521J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本文学演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 郭 南燕		

授業の概要・到達目標

「外国人の日本観察(幕末から近代へ)」をテーマとする。日本は長らく、来日外国人に観察され、記録されてきた国である。他者の目に映った日本は、日本人にとって客観的で、驚異的である一方、はたして何を射たものかどうかわかる部分もある。本演習は、日本語に堪能で、日本人と頻りに交流し、日本社会と深く関わっている海外の知識人の著述を取り上げて、日本文化がどのように理解されているのかを検討し、異文化交流の核心に迫る。

授業内容

- 第1回 E・サトウ『一外交官の見た明治維新』
- 第2回 E・サトウ『一外交官の見た明治維新』
- 第3回 I・バード『日本奥地紀行』
- 第4回 I・バード『日本奥地紀行』
- 第5回 B. H. チェンバレン『日本事物誌』
- 第6回 B. H. チェンバレン『日本事物誌』
- 第7回 戴季陶『日本論』
- 第8回 戴季陶『日本論』
- 第9回 金素雲『天の涯に生くるとも』
- 第10回 金素雲『天の涯に生くるとも』
- 第11回 演習発表
- 第12回 演習発表
- 第13回 演習発表
- 第14回 演習発表、総括

履修上の注意

配布資料の熟読を前提とし、参考書を利用し、関連文献の調査方法を学び、研究内容を発表し、討論を行い、理解を深め、期末レポートを書き、最終発表をする。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布資料を熟読し、関連文献を独自で調べ、教員と相談し、有意義な研究テーマを見つける。

教科書

主に配布資料を用いる。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

- 1、演習発表に対して、教員がコメントする。
- 2、期末レポートに対して、詳細なコメントを記入してから、学生に返却する。

成績評価の方法

授業参加:40%、演習発表:50%、期末レポート(6,000字前後) :10%
 期末レポートの提出メ切:2026年1月13日(火曜) 20:00

その他

科目ナンバー：(AL) CUL522J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本文学演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 郭 南燕		

授業の概要・到達目標

本演習は「西洋人の日本研究」をテーマとする。日本文化は常に世界から注目されてきている。1549年にフランシスコ・ザビエルが日本に到来してから、日本の情報を書き記して、インドとヨーロッパに発信していた。それ以来、日本の言語、社会、宗教が多くの西洋人によって行われてきた。本演習は、キリシタン世紀と江戸時代(禁教以降から幕末まで)において、日本がいかに西洋人によって観察され、言語化されたのかを検証して、演習発表を行うことを目的とする。

本演習は、指定教科書を読み通し、授業で議論を重ねて、演習と期末レポートにおいて、研究成果をまとめる。

授業内容

- 第1回 テーマと課題、履修の心得、発表と論文執筆の方法を紹介。ザビエルの日本語能力の検討
- 第2回 西洋人の日本研究(キリシタン世紀)
- 第3回 西洋人の日本研究(キリシタン世紀)
- 第4回 西洋人の日本研究(キリシタン世紀)
- 第5回 西洋人の日本研究(キリシタン世紀)
- 第6回 西洋人の日本研究(江戸時代)
- 第7回 西洋人の日本研究(江戸時代)
- 第8回 西洋人の日本研究(江戸時代)
- 第9回 西洋人の日本研究(江戸時代)
- 第10回 西洋人の日本研究(江戸時代)
- 第11回 演習発表
- 第12回 演習発表
- 第13回 演習発表
- 第14回 演習発表、総括

履修上の注意

配布資料と指定教科書の熟読を前提とし、参考書を利用し、関連文献の調査方法を学び、研究内容を発表し、討論を行い、理解を深め、期末レポートを書き、最終発表をする。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定教科書を熟読し、関連文献を独自で調べ、教員と相談し、有意義な研究テーマを見つける。

教科書

- ①杉本つとむ『西洋人の日本語発見』(講談社、2008年)
- ②海老沢有道『キリシタン南蛮文学入門』(教文館、1991年)
- ③クレインス『十七世紀のオランダ人が見た日本』(臨川書店、2010年)

授業開始までに、各自で購入する(書店かネット)。

参考書

- ①海老沢有道『南蛮文化 日欧文化交渉』(至文堂、1958)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加と討論40%、演習50%、期末レポート(6,000字前後):10%
 期末レポートの提出メ切:2025年7月15日(火曜)20:00。

その他

科目ナンバー：(AL) CUL522J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本文学演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 郭 南燕		

授業の概要・到達目標

「外国人の日本観察(中世から近現代へ)」をテーマとする。日本は長らく、来日外国人に観察され、記録されてきた国である。他者の目に映った日本は、日本人にとって客観的で、驚異的である一方、はたして射たものかどうかと思われる部分もある。本演習は、日本語に堪能で、日本人と頻りに交流し、日本社会と深く関わっている知識人である宣教師の著述を取り上げて、日本文化がどのように理解されているのかを検討し、異文化交流の核心に迫る。

授業内容

- 第1回 演習テーマの紹介、履修の心得、発表の方法、論文執筆の方法 16世紀の日本観察(F.ザビエル) 1
- 第2回 16世紀の日本観察(F.ザビエル) 2
- 第3回 16世紀の日本観察(F.ザビエル) 3
- 第4回 16世紀の日本観察(A.ヴァリニャーノ) 1
- 第5回 16-17世紀の日本観察(A.ヴァリニャーノ) 2
- 第6回 19世紀の日本観察(J.ロドリゲス) 1
- 第7回 1950年代の日本観察(J.ロドリゲス) 2
- 第8回 1950年代の日本観察(J.ロドリゲス) 3
- 第9回 1950-70年代の日本観察(F.リギョール)
- 第10回 1950-90年代の日本観察(S.カンドウ) 1
- 第11回 1970-80年代の日本観察(S.カンドウ) 2
- 第12回 1970-1990年代の日本観察(H.ホイヴェルス) 1
- 第13回 1960-1990年代の日本観察(H.ホイヴェルス) 2
- 第14回 最終発表と総括

履修上の注意

配布資料の熟読を前提とし、参考書を利用し、関連文献の調査方法を学び、研究内容を発表し、討論を行い、理解を深め、期末レポートを書き、最終発表をする。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布資料を熟読し、関連文献を独自で調べ、教員と相談し、有意義な研究テーマを見つける。

教科書

主に配布資料を用いる。

参考書

- ①松田毅一『南蛮のバテレン』(朝文社、1993年)
- ②キリスト教史学会編『宣教師と日本人』(教文館、2012年)
- ③郭南燕編『宣教師の日本語文学 研究と目録』(勉誠出版、2023年)

課題に対するフィードバックの方法

- 1、発表に対して、教員がコメントする。
- 2、期末レポートに対して、詳細なコメントを記入してから、学生に返却する。

成績評価の方法

授業参加と演習:50%、最終発表:20%、期末レポート(6,000字前後):30%

期末レポートの提出メ切:2026年1月13日(火曜)20:00

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本古代文学特論ⅠB		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	山崎 健司	

授業の概要・到達目標

萬葉集の作家と作品―人麻呂・金村・家持

作品を分析するにあたっては、さまざまな方法が考えられる。本年度のこの授業では、作家ごとに異なるアプローチを試みながら、作品の形成過程やその特徴を浮かび上がらせる。

取り上げる作家は天武・持統・文武朝の宮廷で活躍した柿本人麻呂、聖武朝奈良時代前半の宮廷でかつての人麻呂のような活躍を見せた笠金村、奈良時代後半に独自の境地を開拓した大伴家持の三名。授業では各作家の特徴が良く表れている作品を取り上げて読み、それぞれの独自性と後の時代への影響を明らかにする。

本講義では、研究の基礎となる文献学を理解し、先行研究の取り扱い方、ことばに即してテキストを読解する方法、具体的な調査分析の仕方を身に付けることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 本授業の目標と取り上げる歌人・歌について
- 第2回 「献弓削皇子歌三首」(人麻呂)：「カクル」の特徴からみる「雲隠る」
- 第3回 「献弓削皇子歌三首」(人麻呂)：「カクル」における一七〇三番歌の特異性と後世への影響
- 第4回 「献弓削皇子歌三首」(人麻呂)：上代日本文学に見える人麻呂以前の「雲」と「霧」
- 第5回 「献弓削皇子歌三首」(人麻呂)：「献弓削皇子歌三首」後の「雲」と「霧」―「雲隠る雁」に焦点をあてて―
- 第6回 作品の特徴から見た笠金村：志貴皇子挽歌(二三〇～四)
- 第7回 作品の特徴から見た笠金村：行幸娘子関係歌(五四三～五、五四六～八)
- 第8回 作品の特徴から見た笠金村：吉野讃歌(九〇七～一二、九二〇～二)
- 第9回 作品の特徴から見た笠金村：入唐使に贈る歌(一四五三～五)
- 第10回 大伴家持における先行作品の受容と創造：安積皇子挽歌(四七五～七、四七八～八〇)
- 第11回 大伴家持における先行作品の受容と創造：越中の旅愁歌群(四〇一七～二〇)
- 第12回 大伴家持における先行作品の受容と創造：尾張少昨を教諭する歌(四一〇六～九)
- 第13回 大伴家持における先行作品の受容と創造：天平勝宝二年の出挙の時の歌(四一六四～五)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

学部の「日本文学講義ⅡA」と合同の授業である。
 第1回および第10回～第14回は山崎による講義。
 第2回～第9回は、院生が各テーマについての調査結果を授業の中で報告していく。

準備学習（予習・復習等）の内容

- 【予習】
 担当者はテーマについての調査を行い、報告に向けての準備をすること。
 担当者以外の受講者は、予定されている作品について下読みを必ず行うこと。
- 【復習】
 授業後にOh-ol Meijiのクラスウェブを利用して考えたことを書くことによって、次の回の予習につなげていく。

教科書

佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著『補訂版 萬葉集本文篇』(塙書房)
 坂本信幸・毛利正守編『万葉事始』(和泉書院)
 また、プリントによる補助資料を随時配布する。

参考書

山崎『大伴家持の歌群と編纂』(塙書房)
 その他、授業の中で随時紹介する予定。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート(70%)、授業中の発言・授業後のリアクション(30%)により評価。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本古代文学特論ⅡB		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(文学)	湯浅 幸代	

授業の概要・到達目標

『枕草子』の注釈書である北村季吟『枕草子春曙抄』(延宝二年/1674成立)を中心に、複数の注釈書や現代の注釈書を読み比べる。

授業内容

- 第1回：『枕草子春曙抄』概説
- 第2回：『枕草子春曙抄』の読解と報告1
- 第3回：『枕草子春曙抄』の読解と報告2
- 第4回：『枕草子春曙抄』の読解と報告3
- 第5回：『枕草子春曙抄』の読解と報告4
- 第6回：『枕草子春曙抄』の読解と報告5
- 第7回：『枕草子春曙抄』の読解と報告6
- 第8回：『枕草子春曙抄』の読解と報告7
- 第9回：『枕草子春曙抄』の読解と報告8
- 第10回：『枕草子春曙抄』の読解と報告9
- 第11回：『枕草子春曙抄』の読解と報告10
- 第12回：『枕草子春曙抄』の読解と報告11
- 第13回：『枕草子春曙抄』の読解と報告12
- 第14回：まとめ

履修上の注意

履修する場合(聴講の場合も同様)、担当教員が認めた特別な理由を除き、講義回数三分の一以上遅刻・欠席した場合、それ以降の出席を認めないので注意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に次回担当範囲の本文を読んでおくこと。

教科書

テキストのコピーを配布する。

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

こちらから指示した報告(1回以上)30%、学期末のレポート40%、質疑の内容30%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本中世文学特論A		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	牧野 淳司	

授業の概要・到達目標

授業の概要
日本古典文学と仏教との関係性について考える。
日本古典文学を理解するためには仏教について知る必要がある。「文学」と「仏教」とを切り離すのではなく、仏教と出会うことで文学がどのような性質を獲得したか、仏教によりどのような文学の可能性が開けたのか、追究する。中世文学を中心に扱ったが、平安時代からの流れも重視する。仏教については、最澄・空海・安然・源信・法然・親鸞・道元ら先徳祖師の思想ばかりでなく、唱導説経(仏の教えを広く説くこと)の場にも注目する。文学との関係性が深いのは、むしろ後者であると考えられるからである。

到達目標
日本中世の文学が仏教と出会うことで獲得した性質を理解する。
日本古代中世における仏教のあり方について理解を深める。
日本中世に盛んであった唱導説経とその資料に触れ、その文化について知る。

授業内容

- (1) 文学と仏教をめぐる研究
- (2) 唱導説経と仏教文化
- (3) 平安時代の唱導資料(1)
- (4) 平安時代の唱導資料(2)
- (5) 仏教儀礼の世界
- (6) 和歌と唱導説経
- (7) 物語と唱導説経
- (8) 院政期の唱導資料
- (9) 寺院における歴史叙述
- (10) 高僧をめぐる伝記
- (11) 願文の世界
- (12) 講式の世界
- (13) 仏教と文学の交錯
- (14) 仏教から見た中世文学史の課題

履修上の注意

講義内容に関連する事柄について、積極的な調査と報告を求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

扱うテキスト・資料を事前に読むこと。
講義に関連する事柄についての調査と報告。

教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考書

参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

レポートの講評をOh-ol Meijiに掲示する。

成績評価の方法

授業への参加度(調査報告、問題提起など)60% レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近世文学特論B		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	杉田 昌彦	

授業の概要・到達目標

前年度の日本近世文学特論Aに引き続き、曲亭馬琴作・萩原広道補作の『開巻驚奇侠客伝』を、輪読を中心とする形式で読み進めていき、馬琴の稗史創作の到達点を探るとともに、広道に受け継がれたものを浮き彫りにする。

各自の発表担当箇所については、精密な現代語訳ができることを目標とする。

※日本近世文学特論Aを履修していない学生でも、問題なく履修できる内容となる予定である。また、本年度日本近世文学特論Bを履修し、来年度日本文学特論Aを履修することも可能としたい。

※状況によっては、授業内容を適宜大きく変更することもあり得る。

授業内容

- 第1回:『開巻驚奇侠客伝』輪読⑧
- 第2回:『開巻驚奇侠客伝』輪読⑨
- 第3回:『開巻驚奇侠客伝』輪読⑩
- 第4回:『開巻驚奇侠客伝』輪読⑪
- 第5回:『開巻驚奇侠客伝』輪読⑫
- 第6回:『開巻驚奇侠客伝』輪読⑬
- 第7回:『開巻驚奇侠客伝』輪読⑭
- 第8回:『開巻驚奇侠客伝』輪読⑮
- 第9回:『開巻驚奇侠客伝』輪読⑯
- 第10回:『開巻驚奇侠客伝』輪読⑰
- 第11回:『開巻驚奇侠客伝』輪読⑱
- 第12回:『開巻驚奇侠客伝』輪読⑲
- 第13回:まとめI
- 第14回:まとめII

履修上の注意

日本古典文学、とりわけ近世文学を学ぶことに情熱のある学生の参加を希望する。

準備学習(予習・復習等)の内容

輪読形式をとるので、発表者はもちろん、それ以外の学生も各自輪読担当箇所の予習を十分に行って授業に臨むこと。
発表担当者は、担当箇所の精密な現代語訳を発表までに必ず作成して授業に臨むこと。

教科書

新日本古典文学大系87『開巻驚奇侠客伝』(岩波書店)を使用する予定。

参考書

授業時に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にて適宜指示する。

成績評価の方法

レポートなどを適宜課すことにより努力度・理解度・習熟度などを基準とする評価(70%)を行うとともに、授業時の学習態度なども評価の対象(30%)とする。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT511J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学特論ⅠB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 竹内 栄美子		

授業の概要・到達目標

戦後文化運動と雑誌メディアをテーマとする。1945年の敗戦を契機として、日本の各地に展開したさまざまな文化運動のなかには、戦時翼賛文化から継続しているものもあれば、戦前のプロレタリア文化の復活を意図したものもあった。文化はそのときどきの政治体制や政治意識と結びつく場合が多いが、敗戦を一区切りとして民主主義、平和思想、人権思想を掲げた文化運動が広範な広がりを見せたことは否定できない。本講義では、中野重治や花田清輝らの「新日本文学」を中心に中国との関係において戦争責任問題を、朝鮮との関係において植民地問題を検討し、堀田善衛が深く関与したアジア・アフリカ作家会議の活動も視野におさめながら、戦後文化運動がどう展開していったかについて議論したい。

文化運動や戦後思想の観点から日本近代文学をより深く学ぶことを目的とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「新日本文学」1
- 第3回 「新日本文学」2
- 第4回 「新日本文学」3
- 第5回 「新日本文学」4
- 第6回 「新日本文学」5
- 第7回 「近代文学」1
- 第8回 「近代文学」2
- 第9回 「近代文学」3
- 第10回 「近代文学」4
- 第11回 「コスモス」1
- 第12回 「コスモス」2
- 第13回 「コスモス」3
- 第14回 「コスモス」4

*学習効果を高めるために、授業内容は適宜変更する場合がある。

履修上の注意

文学史的な背景を把握しておいてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習として、授業で扱う文献の専門用語や社会的背景について調べておくこと。事後学習として、授業で扱った内容の関連書籍を読むこと。

教科書

使用しない。

参考書

『物語戦後文学史』本多秋五(岩波書店・同時代ライブラリー)、赤澤史朗・北河賢三・黒川みどり編『戦後知識人と民衆観』(影書房)、宇野田尚哉・川口隆行・坂口博・鳥羽耕史・中谷いずみ・道場親信編『「サークルの時代」を読む 戦後文化運動研究への招待』(影書房)、竹内栄美子『中野重治と戦後文化運動 デモクラシーのために』(論創社)、竹内栄美子編『コレクション戦後詩誌9 大衆とサークル誌』(ゆまに書房)、竹内栄美子・丸山瑠一編『中野重治・堀田善衛往復書簡1953-1979』(影書房)、黒川みどり・藤野豊『差別の日本近現代史』(岩波書店)、無らい県運動研究会編『ハンセン病絶対隔離政策と日本社会 無らい県運動の研究』(六花出版)、牧原憲夫『牧原憲夫著作選集』上下巻(有志舎)、黒川創編『(外地)の日本語文学選』(新宿書房)など。

課題に対するフィードバックの方法

解説の時間を設けてレポートに対するコメントを行う。

成績評価の方法

期末レポート50%、授業中の発言や提出物など授業への参加姿勢50%によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー: (AL) LIT511J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本近代文学特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(文学) 田口 麻奈		

授業の概要・到達目標

寺山修司(1935-1983)の短歌、現代詩、歌論、評論などを読む。

寺山は、塚本邦雄や岡井隆などとともに戦後の前衛短歌を代表する歌人として出発し、その後、ラジオドラマや映画、演劇といった多様な芸術様式の実践者として後代に大きな影響を及ぼした。現在までの研究状況としては、演劇や映画を中心に、メディアミックスの先駆者として注目されることが多く、学生運動との親和性についても再評価されるなど、総じて活発な批評・研究状況が続いていると言って良い。

他方、そうした幅広い展開を見せる以前の初期の文筆活動については相対的に関心が低い傾向もあり、代表歌集をめぐる表現論的な分析や、同時期に展開した「様式論争」等の歌論史的な検証など、歌人としての寺山をめぐる本格的な研究は決して多くはない。映像化などのわかりやすいメディアミックスの実践以前に、現代歌人として、「私」の方法論的な虚構化を言い、詩的言語とフォルム(定型)の問題を論理化しようとした寺山の初期の試みから受け取るべき問題は今なお多く残されている。

本授業では、まずは寺山の初期短歌に向き合いつつ、上述の評釈や歌論、詩論、その他の創作を総合的に検証して、寺山の特質や批評・研究の課題を確認し、そこから新たに発見してくる問題を探りたい。

授業内容

- 第1回:概説・導入
- 第2回:寺山修司論の現在(1)
- 第3回:寺山修司論の現在(2)
- 第4回:レビュー【1】
- 第5回:寺山修司『われに五月を』を読む(1)
- 第6回:寺山修司『われに五月を』を読む(2)
- 第7回:寺山修司『われに五月を』を読む(3)
- 第8回:寺山修司『われに五月を』を読む(4)
- 第9回:レビュー【2】
- 第10回:寺山修司『田園に死す』を読む(1)
- 第11回:寺山修司『田園に死す』を読む(2)
- 第12回:寺山修司『田園に死す』を読む(3)
- 第13回:レビュー【3】
- 第14回:まとめ

*履修人数や進捗状況に応じて計画を変更する場合があります。

履修上の注意

授業内で局所的に取り上げた資料や文献についても、各自で積極的に全体を読んで把握に努めてほしい。また授業の双方向的な進行のため、履修者にはそれぞれ寺山に関するテキストのうち興味のあるものをとりあげ、授業内で発表・報告する作業を求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業ごとに指定された文献や資料がある場合はあらかじめ読み込んでおくこと。また、当該の授業内で扱った話題や情報について、理解が不十分な箇所がある場合は文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

齋藤慎爾編『寺山修司の<歌>と<うた>』(春陽堂書店2021)、藤原龍一郎編『寺山修司の首首』(ふらんす堂2022)、小菅麻起子『初期寺山修司研究』(翰林書房2013)など。その他、各回の授業時に必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の発表や質疑に対する講評は授業内でおこなう。また、期末レポートに関する講評はクラスウェブ(Oh-ol Meiji)を通しておこなう。

成績評価の方法

期末レポート50%、平常点50%で評価する。平常点は、出席状況、授業内の提出物、授業への参加姿勢によって総合的に判断する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本近代文学特論ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	生方	智子

授業の概要・到達目標

日本近代文学研究を行う際に必要となる作品分析の方法を身に付けることを目標とする。授業は講義形式で行い、近代から現代までの文学史的展開に重要となる文学作品を取り上げ、実際に作品を分析的・批評的に読解していく。また、作品読解を重ねることによって、日本の近代から現代にかけての文学や文化の展開についての知識を深めることも目指す。

授業内容

- 第1回：日本近代から現代にかけての文化的展開
 - 第2回：近代における文学作品の分析的読解—その1
 - 第3回：近代における文学作品の分析的読解—その2
 - 第4回：近代における文学作品の分析的読解—その3
 - 第5回：近代における文学作品の分析的読解—その4
 - 第6回：近代における文学作品の分析的読解—その5
 - 第7回：近代における文学作品の分析的読解—その6
 - 第8回：現代における文学作品の分析的読解—その1
 - 第9回：現代における文学作品の分析的読解—その2
 - 第10回：現代における文学作品の分析的読解—その3
 - 第11回：現代における文学作品の分析的読解—その4
 - 第12回：現代における文学作品の分析的読解—その5
 - 第13回：現代における文学作品の分析的読解—その6
 - 第14回：近代から現代にかけての文学的展開
- ※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

先行研究や文学理論・現代思想に関する文献を積極的にリサーチすること、分析的に文学作品を読むことを求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に調査しておくこと。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業の議論への貢献度(70%)に加え、授業の最終回に文学作品の理論的読解を行ったレポートを求める(30%)。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) LIN531J			
日本文学専攻	備考		
科目名	国語学特論A		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	小野	正弘

授業の概要・到達目標

テーマ：翻訳作品のオノマトペ

翻訳作品における、訳語オノマトペと、その原文(原語)との関係を調査して、整理し、データベース化する。

授業内容

アガサ・クリスティーの『スリーピング・マörder』における、訳語としてのオノマトペについて、原文、ならびに原語との対応を調査考察して、Excelファイルにまとめ、それを利用しながら、オノマトペ翻訳の方法を追究していく。

もし、途中で終了した場合は、同じく、アガサ・クリスティーの『カーテン』を対象として、同様の調査・報告を継続していく。『スリーピング・マörder』のデータと重ね合わせることによって、訳者の違いによる、訳出のありかたの違いも見えてくることになろう。

1. 翻訳とオノマトペ[aモジュール]
2. 『スリーピング・マörder』のオノマトペとその採取法
3. 受講生による、調査・分析報告(1-11)
4. 全体のまとめ—翻訳にとってオノマトペとは何か—

履修上の注意

語学的な方法を中心とはするが、表現論的な問題も考慮していくので、他専修・他専攻からの参加も大いに歓迎したい。

準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

1. 翻訳書ならびに原文の全体を通読して、話の流れを把握しておく。
2. 次回範囲を通読して、オノマトペによる訳語と原語との対応をチェックする。

[復習]

1. 授業中に生まれた問題等について、他の研究論文などをさらに読んでみる。
2. 授業で問題になった術語・概念について、後述の辞書等によって再確認する。

教科書

アガサ・クリスティー／綾川梓訳『スリーピング・マörder』(ハヤカワ文庫)
Agatha Christie, *Sleeping Murder*, 1976

アガサ・クリスティー／田口俊樹訳『カーテン ポワロ最後の事件』(ハヤカワ文庫)
Agatha Christie, *Curtain: Poirot's Last Case*, 1975

上記を、各自、適宜入手しておくこと

参考書

- 亀井孝他編『言語学大辞典』(三省堂)
- 飛田良文他編『日本語学研究事典』(明治書院)
- 日本語学会編『日本語学大辞典』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

当該回の課題は、次週にフィードバックするようにする。

成績評価の方法

期末レポート1回(70%)と平常点(30%)、演習発表および質問等の参加状況を総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) CUL522J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(人文科学) 郭 南燕		

授業の概要・到達目標

「日本文化におけるキリスト教」をテーマとして、日本の歴史、言語、文学、メディア、美術に浸透しているキリスト教の思想とシンボルを取り上げて、日本社会とキリスト教との深い関係を検討し、日本文化における多層性を理解する。学生は、文学のテキスト、大河ドラマの場面、木版画などを通して、本テーマと取り組むことが要求される。

授業内容

- 第1回 講義の内容、履修の心得、論文執筆の方法を紹介。キリスト教の到来と南蛮文化
- 第2回 キリシタン文学 1
- 第3回 キリシタン文学 2
- 第4回 キリシタン文学 3
- 第5回 キリシタン文学 4
- 第6回 大河ドラマにおけるキリシタン 1
- 第7回 大河ドラマにおけるキリシタン 2
- 第8回 プティジャン版とド・ロ神父 1
- 第9回 プティジャン版とド・ロ神父 2
- 第10回 プティジャン版とド・ロ神父 3
- 第11回 キリスト教文学 1
- 第12回 キリスト教文学 2
- 第13回 キリスト教文学 3
- 第14回 期末レポートの発表

履修上の注意

配布資料、指定教科書の熟読を前提とし、参考書を利用し、関連文献の調査方法を学び、研究内容を発表し、討論を行い、理解を深め、研究論文を書く。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布資料、教科書を熟読し、関連文献を独自で調べ、教員と相談し、有意義な研究テーマを見つける。

教科書

『吉利支丹文学集』1、2（東洋文庫）（平凡社、1993）、プティジャン版

参考書

五野井隆史『キリシタンの文化』（吉川弘文館、2012）、池田敏雄『人物中心の日本カトリック史』（サンパウロ、1998）、郭南燕編『ド・ロ版画の旅』（創樹社美術出版、2019）、『キリスト教文化事典』（丸善出版、2022）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加：40%、レポート（6,000字前後）：40%、口頭発表：20%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT541J			
日本文学専攻	備考		
科目名	漢文学特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(文学) 甲斐 雄一		

授業の概要・到達目標

漢文訓読と翻訳

中国古典の訳注書、例えば明治書院の新釈漢文大系を開いてみれば、白文(あるいは返り点が入った訓読文)・書き下し文・通釈が記されている。漢文訓読が翻訳の一スタイルである、という観点からこれを見れば、原文(古典中国語)・文語訳・口語訳と言い換えることができるだろう。本講義では、複数の訳注書(あるいは日本の古典に引用されたもの)を比較していくことで、古典中国語(文言文)から日本語への翻訳という営みを捉え、翻訳としての訓読について考察していくことを目的とする。また日本語で論文を執筆する際に、訳注書をどう活用すべきかについても考えてみたい。

授業内容

- 第01回：翻訳としての漢文訓読1
 - 第02回：翻訳としての漢文訓読2
 - 第03回：訳注書比較1
 - 第04回：訳注書比較2
 - 第05回：訳注書比較3
 - 第06回：訳注書比較4
 - 第07回：訳注書比較5
 - 第08回：訳注書比較6
 - 第09回：訳注書比較7
 - 第10回：訳注書比較8
 - 第11回：訳注書比較9
 - 第13回：訳注書比較10
 - 第14回a:まとめ b:期末試験
- (注) 訳注書の比較については、今期は、前半は杜甫、後半は韓愈を対象とする予定。

履修上の注意

講義形式の授業ではあるが、演習同様に積極的な質問・意見の提出を望む。

準備学習（予習・復習等）の内容

漢文訓読については、参考書に挙げている諸書を読んでおくといよい。また、訳注書比較で扱う作品についてのリクエストも歓迎する。

教科書

なし。

参考書

古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011年）
中川諭『漢文を基礎から学ぶ』（東方書店、2023年）
他、授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

期末試験（55%）、毎回の授業における質問・意見などの発言（参加態度を含む、45%）。

その他

漢和辞典を持参すること（電子辞書可）。推奨は『全訳漢辞海』（三省堂・iPhoneアプリ有）。
ジャパンナレッジの大漢和辞典と「本棚」の新釈漢文大系に触れておくことを推奨する。

科目ナンバー：(AL) ART531J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本演劇特論 I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	矢内 賢二	

授業の概要・到達目標

河竹黙阿弥の作品を中心に、幕末から明治・大正期までの戯曲を演習形式で輪読する。
 各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。
 時代背景、先行作品、社会風俗、役者・観客・興行・作者の事情等、様々な要素が編み込まれた複雑な構築物として作品をとらえ、先行研究はもとより、同時代の錦絵・写真・新聞・雑誌・文学作品等、多様な資料を駆使して報告を行ってほしい。各自の得意分野を生かした自由な視点からの発表を期待する。
 取り上げる作品については相談のうえ決定したい。
 演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：作者と作品に関する基礎知識
- 第3回：講読(1)
- 第4回：講読(2)
- 第5回：講読(3)
- 第6回：講読(4)
- 第7回：講読(5)
- 第8回：講読(6)
- 第9回：講読(7)
- 第10回：講読(8)
- 第11回：講読(9)
- 第12回：講読(10)
- 第13回：講読(11)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。
 受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本演劇特論 I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	矢内 賢二	

授業の概要・到達目標

河竹黙阿弥の作品を中心に、幕末から明治・大正期までの戯曲を演習形式で輪読する。
 各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。
 時代背景、先行作品、社会風俗、役者・観客・興行・作者の事情等、様々な要素が編み込まれた複雑な構築物として作品をとらえ、先行研究はもとより、同時代の錦絵・写真・新聞・雑誌・文学作品等、多様な資料を駆使して報告を行ってほしい。各自の得意分野を生かした自由な視点からの発表を期待する。
 取り上げる作品については相談のうえ決定したい。
 演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：作者と作品に関する基礎知識
- 第3回：講読(1)
- 第4回：講読(2)
- 第5回：講読(3)
- 第6回：講読(4)
- 第7回：講読(5)
- 第8回：講読(6)
- 第9回：講読(7)
- 第10回：講読(8)
- 第11回：講読(9)
- 第12回：講読(10)
- 第13回：講読(11)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。
 受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT522J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	野田 学	

授業の概要・到達目標

概要: William Shakespeare, *As You Like It*を題材に, 初期近代における演劇の是非をめぐる論争の概要を把握する。発表/報告担当者は, 担当トピックの整理と, 問題点の指摘を行う。その後, 集団議論を行う。

到達目標: 反演劇論争を概観することを通して, 初期近代における一次資料を作品解釈に結びつける作業を実践する。

授業内容

- 第1回: 授業の進め方の解説と例示。問題点の指摘。Tanya Pollard, *Shakespeare's Theatre: A Sourcebook*, introductionより。担当箇所の割り振り。
- 第2回: Tanya Pollard, ed., *Shakespeare's Theatre: A Sourcebook*, introductionより。
- 第3回: Gosson: *The School of Abuse* (1579)
- 第4回: Gosson: *An Apology of the School of Abuse* (1579)
- 第5回: Lodge, *A Reply to Stephen Gosson's School of Abuse* (1579)
- 第6回: 中間総括
- 第7回: Sidney, *An Apology for Poetry* (1595)
- 第8回: Rainolds, *The Overthrow of Stage-Plays* (1599)
- 第9回: Gager, *Letter to Dr. John Rainolds* (1592)
- 第10回: *Hic Mulier & Haec Vir* (1620)
- 第11回: Prynne, *Histriomastix* (1633)
- 第12回: *As You Like It*への適用(総括)
- 第13回: その他のShakespeare作品研究への適用可能性
- 第14回: 総体的研究可能性の展望

履修上の注意

シェイクスピアの時代の英語は, 基本的にModern Englishにカウントするので, 読むのにさほど苦勞はいらないはずだ。しかし正確な読解のためには時代による語彙の相違や, 若干の文法的違いなどに気をつけなければならない。そのためには(他のどの文献を読むのでも同じだが)辞書の活用が必須である。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者は準備として, 各資料の概要説明と問題点の指摘を行うので, それに向けての準備が必要である。

教科書

William Shakespeare, *As You Like It*, ed. by Juliet Dusinberre, Arden Shakespeare 3rd ser. (London: Bloomsbury, 2006). ISBN-13: 978-904271-22-2 (pbk).

参考書

- Tanya Pollard (ed.), *Shakespeare's Theater: A Sourcebook* (2004).
- K. U. Henderson & B. F. McManus (ed.), *Half Humankind: Contexts and Texts of the Controversy About Women in England, 1540-1640* (1985)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業の発表その他の貢献度50% エッセイ50%

その他

授業中, 問題点指摘等について, 活発な発言を望む。入力は出力を伴わないと効率的ではない。

科目ナンバー: (AL) LIT522J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	野田 学	

授業の概要・到達目標

概要: William Shakespeare, *Twelfth Night*を題材に, 初期近代英語一次資料の基礎的読解訓練を行う。授業は講読形式で行う。担当者は担当箇所の1)音読, 2)翻訳, 3)語句の解説, 4)問題点の指摘—を行う。途中, 理論を把握するための集団議論を交える。

履修目標は, *Oxford English Dictionary*その他参照すべき文献の把握とその活用能力の醸成である。

授業内容

- 第1回: 授業の進め方の解説と例示(辞書の引き方など)。担当箇所の割り振り。
- 第2回: 一幕①
- 第3回: 一幕②
- 第4回: 一幕③
- 第5回: 二幕①
- 第6回: 二幕②
- 第7回: 二幕③
- 第8回: 三幕①
- 第9回: 三幕②
- 第10回: 三幕③
- 第11回: 四幕①
- 第12回: 四幕②
- 第13回: 五幕①
- 第14回: 五幕②

履修上の注意

シェイクスピアの時代の英語は, 基本的にModern Englishにカウントするので, 読むのにさほど苦勞はいらないはずだ。しかし正確な読解のためには時代による語彙の相違や, 若干の文法的違いなどに気をつけなければならない。そのためには(他のどの文献を読むのでも同じだが)辞書の活用が必須である。活用を助けるための大まかな解説は随時教員から行うので, 安心して欲しい。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者は準備として, 辞書と註の活用による発音のチェックと翻訳の正確さの追求が求められる。

教科書

William Shakespeare, *Twelfth Night*, ed. by Keir Elam, Arden Shakespeare 3rd ser. (2008).

参考書

*OED online*等。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業の発表その他の貢献度50% エッセイ50%

その他

授業中, 問題点指摘等について, 活発な発言を望む。入力は出力を伴わないと効率的ではない。

科目ナンバー：(AL) LIT622J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		野田 学

授業の概要・到達目標

概要：William Shakespeare, *As You Like It*を題材に、初期近代英語一次資料の基礎的読解訓練を行う。授業は講読形式で行う。担当者は担当箇所①の1)音読、2)翻訳、3)語句の解説、4)問題点の指摘—を行う。途中、理論を把握するための集団議論を交える。

履修目標は、*Oxford English Dictionary*その他参照すべき文献の把握とその活用能力の醸成である。

同時にこの授業ではジェンダーをめぐる不安と、演劇的想像力のあり方についても考察する。

授業内容

第1回：授業の進め方の解説と例示(辞書の引き方など)。担当箇所の割り振り。

- 第2回：一幕①
- 第3回：一幕②
- 第4回：一幕③
- 第5回：二幕①
- 第6回：二幕②
- 第7回：二幕③
- 第8回：三幕①
- 第9回：三幕②
- 第10回：三幕③
- 第11回：四幕①
- 第12回：四幕②
- 第13回：五幕①
- 第14回：五幕②

履修上の注意

シェイクスピアの時代の英語は、基本的にModern Englishにカウントするので、読むのにさほど苦勞はいらないはずだ。しかし正確な読解のためには時代による語彙の相違や、若干の文法的違いなどに気をつけなければならない。そのためには(他のどの文献を読むのでも同じだが)辞書の活用が必須である。活用を助けるため的大まかな解説は随時教員から行うので、安心して欲しい。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者は準備として、辞書と註の活用による発音のチェックと翻訳の正確さの追求が求められる。

教科書

William Shakespeare, *As You Like It*, ed. by Juliet Dusinberre, Arden Shakespeare 3rd ser. (London: Bloomsbury, 2006). ISBN-13: 978-904271-22-2 (pbk).

参考書

OED online等。なお、ジェンダー関係の資料は追って指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業の発表その他の貢献度50% エッセイ50%

その他

授業中、問題点指摘等について、活発な発言を望む。入力は出力を伴わないと効率的ではない。

科目ナンバー：(AL) LIT622J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		野田 学

授業の概要・到達目標

概要：William Shakespeare, *As You Like It*を題材に、初期近代における演劇の是非をめぐる論争の概要を把握する。発表/報告担当者は、担当トピックの整理と、問題点の指摘を行う。その後、集団議論を行う。

到達目標：反演劇論争を概観することを通して、初期近代における一次資料を作品解釈に結びつける作業を実践する。

授業内容

第1回：授業の進め方の解説と例示。問題点の指摘。Tanya Pollard, Shakespeare's Theatre: A Sourcebook, introductionより。担当箇所の割り振り。

第2回：Tanya Pollard, ed., *Shakespeare's Theatre: A Sourcebook*, introductionより。

第3回：Gosson: *The School of Abuse* (1579)

第4回：Gosson: *An Apology of the School of Abuse* (1579)

第5回：Lodge, *A Reply to Stephen Gosson's School of Abuse* (1579)

第6回：中間総括

第7回：Sidney, *An Apology for Poetry* (1595)

第8回：Rainolds, *The Overthrow of Stage-Plays* (1599)

第9回：Gager, *Letter to Dr. John Rainolds* (1592)

第10回：*Hic Mulier & Haec Vir* (1620)

第11回：Prynne, *Histriomastix* (1633)

第12回：*As You Like It*への適用(総括)

第13回：その他のShakespeare作品研究への適用可能性

第14回：総体的研究可能性の展望

履修上の注意

シェイクスピアの時代の英語は、基本的にModern Englishにカウントするので、読むのにさほど苦勞はいらないはずだ。しかし正確な読解のためには時代による語彙の相違や、若干の文法的違いなどに気をつけなければならない。そのためには(他のどの文献を読むのでも同じだが)辞書の活用が必須である。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者は準備として、各資料の概要説明と問題点の指摘を行うので、それに向けての準備が必要である。

教科書

William Shakespeare, *As You Like It*, ed. by Juliet Dusinberre, Arden Shakespeare 3rd ser. (London: Bloomsbury, 2006). ISBN-13: 978-904271-22-2 (pbk).

参考書

Tanya Pollard (ed.), *Shakespeare's Theater: A Sourcebook* (2004).

K. U. Henderson & B. F. McManus (ed.), *Half Humankind: Contexts and Texts of the Controversy About Women in England, 1540-1640* (1985)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業の発表その他の貢献度50% エッセイ50%

その他

授業中、問題点指摘等について、活発な発言を望む。入力は出力を伴わないと効率的ではない。

科目ナンバー: (AL) LIT522J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	大山 るみこ	

授業の概要・到達目標

Literature and Multimodality
 近年教育現場での読解力の問題が指摘されていますが、このクラスではまず「テキスト」とは何か、そして「テキスト」を「読む」とはどういうことなのか、という問題から出発します。英語で書かれた文学テキストを読む際、文法訳読方式は1つの有効な方法ですが、このクラスでは文字以外の媒体(画像・映像・音像など)を対象テキストの読解や解釈の過程に介在させる「マルチモーダルな読み」を試みます。「作家-作品(テキスト)-読者」の関係性について受容理論やBarthesの「作家の死」論などを今一度読み直した上で、文体論及び認知詩学の基礎をカバーします。毎回の授業では1) 関連理論の方法論の理解、2) 1)をベースにした文学テキスト(主にショートストーリー)分析実践を行います。

授業内容

- 第1回: Ways of Reading (Introduction: Issues to be addressed)
- 第2回: Introduction to Stylistics (Ch.1 What is stylistics?)
- 第3回: Introduction to Stylistics (Ch.2 Developing Stylistics Toolkit)
- 第4回: Analytical Framework-1 (Ch.3 Doing Stylistics)
- 第5回: Analytical Framework-2 (Ch.3 Doing Stylistics)
- 第6回: Analytical Framework-3 (Ch.3 Doing Stylistics)
- 第7回: Reading Practice-1
- 第8回: Reading Practice-2
- 第9回: Cognitive Poetics-1 (Ch.5 Stylistics and Mind)
- 第10回: Cognitive Poetics-2 (Ch.5 Stylistics and Mind)
- 第11回: Cognitive Poetics-3 (Ch.5 Stylistics and Mind)
- 第12回: Term-end Presentation
- 第13回: Term-end Paper Feedback and discussion
- 第14回: General Review: Multimodal ways of reading literary texts

履修上の注意

授業では毎時間英語でのディスカッションも一部取り入れます。日本語だけでなく英語で自分の考えを簡潔かつ的確に表現するための練習です。専門領域の知識の習得をめざすとともに、アカデミック・ライティング、プレゼンテーションのスキル上達も念頭に入れた指導をします。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回指定された箇所(理論・方法論および文学テキスト)は必ず読んでくること。特に指定の文学テキストについてはその表現・内容についての質問を最低3点は用意した上で授業にのぞむこと。

教科書

『The Language of Literature: An Introduction to Stylistics』Giovannelli, Marcello and Jessica Mason 著 (Cambridge University Press) 2018年

参考書

- 『The Act of Reading: A Theory of Aesthetic Response』Iser, Wolfgang 著 (Johns Hopkins University Press) 1978年
- 『Cognitive Poetics: An introduction』Stockwell, Peter 著 (Routledge) 2002年
- 『Image, Music, Text』Barthes, Roland 著 (Fontana) 1977年
- 『Multimodality, Cognition, and Experimental Literature』Gibbons, Alison 著 (Routledge) 2012年
- 『Ways of Reading: Advanced Reading Skills for Students of English Literature 4th edition』Montgomery, Martin 他 (Routledge) 2013年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- Written assignments and contribution to discussion 50%
- Term-end paper/presentation 50%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT522J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	大山 るみこ	

授業の概要・到達目標

Reading multimodal texts
 このクラスでは前学期に修得した文体論的、認知詩学的方法論の基礎を確認した上で、マルチ・モーダル分析理論の基礎を学んでいきます。背景理論として体系機能文法 (Systemic Functional Linguistics), social semiotics (社会記号学) にも軽く触れます。取り扱うテキスト媒体は新聞、広告、雑誌、インターネット記事などのnon-literary texts がメインとなります。文字と画像・映像、そして音像が共存するこれらのテキストをどのような手法で分析考察していったら良いかを関連理論に参照しながら考えていきます。また、これらのマルチ・モーダルテキスト分析に比較文化的視点も取り入れ、特に英国と日本のテキストデータの比較なども行います。このようなマルチ・モーダルテキストの分析実践を通じて、身の回りに溢れるあらゆるマルチモーダルな情報を受動的に受け取るだけでなく、複眼的かつ批判的(クリティカルに)「読む」ことができるようになるマルチ・モーダルリテラシーの習得をめざします。

授業内容

- 第1回: Ways of reading and multimodality (Introduction)
- 第2回: Multimodality (Ch.1: Navigating the diverse field)
- 第3回: Multimodality (Ch.1-Ch.2 continued)
- 第4回: Why engaged in multimodality?
- 第5回: Systemic Functional Linguistics and its application to textual analysis
- 第6回: Social semiotics and its application to textual analysis
- 第7回: Reading Images (visual semiotics)-1
- 第8回: Reading Images (visual semiotics)-2
- 第9回: Reading Images (visual semiotics)-3
- 第10回: Reading practice-1
- 第11回: Reading practice-2
- 第12回: Term-end Presentation
- 第13回: Term-end Paper Feedback and discussion
- 第14回: General Review: Multimodal ways of reading

履修上の注意

授業では毎時間英語でのディスカッションも一部取り入れます。日本語だけでなく英語で自分の考えを簡潔かつ的確に表現するための練習です。専門領域の知識の習得をめざすとともに、アカデミック・ライティング、プレゼンテーションのスキル上達も念頭に入れた指導をします。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回指定された箇所(理論・方法論および文学テキスト)は必ず読んでくること。授業で扱うテキストについては、こちらが用意するものだけでなく、履修者が自ら収集・選択したものも併せて使用していく。テキスト選定の根拠がすでに分析考察の入り口となるため、なぜそのテキストを選んだのかを明確に説明できるようにしておくこと。

教科書

『Introducing Multimodality』Jewitte, Carey, Kay O'Halloran, and Jeff Bessemer 著 (Routledge) 2016年

参考書

- 『Cognitive Poetics: An introduction』Stockwell, Peter 著 (Routledge) 2002年
- 『Image, Music, Text』Barthes, Roland 著 (Fontana) 1977年
- 『Ways of Reading: Advanced Reading Skills for Students of English Literature 4th edition』Montgomery, Martin 他 (Routledge) 2013年
- 『Reading Images: The grammar of visual design 3rd ed.』Kress, Gunther and Theo van Leeuwen 著 (Routledge) 2021年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- Written assignments and contribution to discussion 50%
- Term-end paper/presentation 50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT622J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	大山 るみこ	

授業の概要・到達目標

Literature and Multimodality

近年教育現場での読解力の問題が指摘されていますが、このクラスではまず「テキスト」とは何か、そして「テキスト」を「読む」とはどういうことなのか、という問題から出発します。英語で書かれた文学テキストを読む際、文法訳読方式は1つの有効な方法ですが、このクラスでは文字以外の媒体(画像・映像・音像など)を対象テキストの読解や解釈の過程に介在させる「マルチモーダルな読み」を試みます。「作家—作品(テキスト)—読者」の関係性について受容理論やBarthesの「作家の死」論などを今一度読み直した上で、文体論及び認知詩学の基礎をカバーします。毎回の授業では1) 関連理論の方法論の理解、2) 1) をベースにした文学テキスト(主にショートストーリー)分析実践を行います。

授業内容

- 第1回：Ways of Reading (Introduction: Issues to be addressed)
- 第2回：Introduction to Stylistics (Ch.1 What is stylistics?)
- 第3回：Introduction to Stylistics (Ch.2 Developing Stylistics Toolkit)
- 第4回：Analytical Framework-1 (Ch.3 Doing Stylistics)
- 第5回：Analytical Framework-2 (Ch.3 Doing Stylistics)
- 第6回：Analytical Framework-3 (Ch.3 Doing Stylistics)
- 第7回：Reading Practice-1
- 第8回：Reading Practice-2
- 第9回：Cognitive Poetics-1 (Ch.5 Stylistics and Mind)
- 第10回：Cognitive Poetics-2 (Ch.5 Stylistics and Mind)
- 第11回：Cognitive Poetics-3 (Ch.5 Stylistics and Mind)
- 第12回：Term-end Presentation
- 第13回：Term-end Paper Feedback and discussion
- 第14回：General Review: Multimodal ways of reading literary texts

履修上の注意

授業では毎時間英語でのディスカッションも一部取り入れます。日本語だけでなく英語で自分の考えを簡潔かつ的確に表現するための練習です。専門領域の知識の習得をめざすとともに、アカデミック・ライティング、プレゼンテーションのスキル上達も念頭に入れた指導をします。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回指定された箇所(理論・方法論および文学テキスト)は必ず読んでくること。特に指定の文学テキストについては表現・内容についての質問を最低3点は用意した上で授業にのぞむこと。

教科書

『The Language of Literature: An Introduction to Stylistics』Giovannelli, Marcello and Jessica Mason 著 (Cambridge University Press) 2018年

参考書

- 『The Act of Reading: A Theory of Aesthetic Response』Iser, Wolfgang 著 (Johns Hopkins University Press) 1978年
- 『Cognitive Poetics: An introduction』Stockwell, Peter 著 (Routledge) 2002年
- 『Image, Music, Text』Barthes, Roland 著 (Fontana) 1977年
- 『Multimodality, Cognition, and Experimental Literature』Gibbons, Alison 著 (Routledge) 2012年
- 『Ways of Reading: Advanced Reading Skills for Students of English Literature 4th edition』Montgomery, Martin 他 (Routledge) 2013年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- Written assignments and contribution to discussion 50%
- Term-end paper/presentation 50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT622J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	大山 るみこ	

授業の概要・到達目標

Reading multimodal texts

このクラスでは前学期に修得した文体論的、認知詩学的方法論の基礎を確認した上で、マルチ・モーダル分析理論の基礎を学んでいきます。背景理論として体系機能文法 (Systemic Functional Linguistics), social semiotics (社会記号学) にも軽く触れます。取り扱うテキスト媒体は新聞、広告、雑誌、インターネット記事などのnon-literary texts がメインとなります。文字と画像・映像、そして音像が共存するこれらのテキストをどのような手法で分析考察していったら良いかを関連理論に参照しながら考えていきます。また、これらのマルチ・モーダルテキスト分析に比較文化的視点も取り入れ、特に英国と日本のテキストデータの比較なども行います。このようなマルチ・モーダルテキストの分析実践を通じて、身の回りに溢れるあらゆるマルチモーダルな情報を受動的に受け取るだけでなく、複眼的かつ批判的(クリティカルに)「読む」ことができるようになるマルチ・モーダルリテラシーの習得をめざします。

授業内容

- 第1回：Ways of reading and multimodality (Introduction)
- 第2回：Multimodality (Ch.1: Navigating the diverse field)
- 第3回：Multimodality (Ch.1-Ch.2 continued)
- 第4回：Why engaged in multimodality?
- 第5回：Systemic Functional Linguistics and its application to textual analysis
- 第6回：Social semiotics and its application to textual analysis
- 第7回：Reading Images (visual semiotics)-1
- 第8回：Reading Images (visual semiotics)-2
- 第9回：Reading Images (visual semiotics)-3
- 第10回：Reading practice-1
- 第11回：Reading practice-2
- 第12回：Term-end Presentation
- 第13回：Term-end Paper Feedback and discussion
- 第14回：General Review: Multimodal ways of reading

履修上の注意

授業では毎時間英語でのディスカッションも一部取り入れます。日本語だけでなく英語で自分の考えを簡潔かつ的確に表現するための練習です。専門領域の知識の習得をめざすとともに、アカデミック・ライティング、プレゼンテーションのスキル上達も念頭に入れた指導をします。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回指定された箇所(理論・方法論および文学テキスト)は必ず読んでくること。授業で扱うテキストについては、こちらが用意するものだけでなく、履修者が自ら収集・選択したものも併せて使用していく。テキスト選定の根拠がすでに分析考察の入り口となるため、なぜそのテキストを選んだのかを明確に説明できるようにしておくこと。

教科書

『Introducing Multimodality』Jewitte, Carey, Kay O'Halloran, and Jeff Bessemer 著 (Routledge) 2016年

参考書

- 『Cognitive Poetics: An introduction』Stockwell, Peter 著 (Routledge) 2002年
- 『Image, Music, Text』Barthes, Roland 著 (Fontana) 1977年
- 『Ways of Reading: Advanced Reading Skills for Students of English Literature 4th edition』Montgomery, Martin 他 (Routledge) 2013年
- 『Reading Images: The grammar of visual design 3rd ed.』Kress, Gunther and Theo van Leeuwen 著 (Routledge) 2021年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- Written assignments and contribution to discussion 50%
- Term-end paper/presentation 50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT522E			
英文学専攻		備考	
科目名	英文学演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil. ワトソン, アレックス		

授業の概要・到達目標

Orientalisms: Western Representations of the East, 1706-2024
オリエンタリズム：西洋による東洋の表象、1706-2024年

This course examines how the Eastern world (or "Orient") has been represented in Western countries, primarily Britain and America. As we will see, the publication of Antoine Galland's translation of One Thousand and One Nights at the beginning of the eighteenth century launched a craze for Eastern stories, images, fashion, ceramics, architecture, scenery and clothing that coincided with the rise of European imperialism. In the eighteenth and nineteenth centuries, new knowledge about the Orient brought forth innovative waves of cultural creativity. More recently, popular novels and films have recycled and revised these earlier representations. We will investigate these Western representations of the East in light of Edward Said's famous critique of Orientalism and recent scholarly discussion. このコースでは、東洋の世界（または「オリエンツ」）が西洋諸国（主にイギリスとアメリカ）でどのように表現されてきたかを検証する。18世紀初頭にアントワーン・ガランが「千夜一夜物語」を翻訳出版したことで、東洋の物語、イメージ、ファッション、陶磁器、建築、風景、衣服などに対する熱狂が始まり、それはヨーロッパ帝国主義の台頭と重なるものであった。18世紀から19世紀にかけて、東洋に関する新しい知識は、文化的創造性の革新的な波をもたらした。さらに最近では、大衆小説や映画が、こうした以前の表象を再利用し、改訂している。本講義では、エドワード・サイードによる有名なオリエンタリズム批判や最近の学術的議論に照らして、西洋における東洋の表象について考察する。

For more details, please see the webpage explaining this course on my website available at: <https://www.alexwatson.info/teaching>
詳しくは、私のウェブサイトにあるこのコースの説明ページをご覧ください: <https://www.alexwatson.info/teaching>

授業内容

1. What is Orientalism? 1: Case Study: Aladdin (1992)
1. オリエンタリズムとは何か？ 1: ケーススタディ「アラジン」(1992年)
2. What is Orientalism? 2: Edward Said's Orientalism (1978)
2. オリエンタリズムとは何か？ 2: エドワード・サイードのオリエンタリズム (1978)
3. What is Orientalism? 3: Critiquing Edward Said's Orientalism (1978)
3. オリエンタリズムとは何か？ 3: エドワード・サイードの「オリエンタリズム」(1978年)を批評する
4. Eighteenth-Century Orientalism 1: Arabian Nights
4. 18世紀のオリエンタリズム 1: アラビアンナイト
5. Eighteenth-Century Orientalism 2: Persian Letters (1721)
5. 18世紀のオリエンタリズム 2: ペルシアの手紙 (1721年)
6. Eighteenth-Century Orientalism 3: Samuel Johnson, The History of Rasselas, Prince of Abissinia (1759)
6. 18世紀のオリエンタリズム 3: サミュエル・ジョンソン「アビシニアの王子ラッセラスの歴史」(1759年)
7. Eighteenth-Century Orientalism 4: Mary Wortley Montagu, Turkish Embassy Letters, 1716-18 (1763)
7. 18世紀のオリエンタリズム 4: メアリー・ウォートリー・モンタグ「トルコ大使館書簡集」1716-18 (1763年)
8. Eighteenth-Century Orientalism 5: Presentations
8. 18世紀のオリエンタリズム 5: プレゼンテーション
9. Romantic Orientalism 1: William Beckford, The History of the Caliph Vathek (1786)
9. ロマン主義的オリエンタリズム 1: ウィリアム・ベックフォード「カリフ・ヴァテークの歴史」(1786年)
10. Romantic Orientalism 2: Percy Bysshe Shelley, "Ozymandias" (1818) and Constantin-Francois de Volney, The Ruins: or a Survey of the Revolutions of Empires (extracts from translation in English) (1791)
10. ロマン主義的オリエンタリズム 2: パーシー・バイシェン・シェリー「オズマンディアス」(1818年)とコンスタンタン・フランクフォード・ヴォルニー「廢墟:あるいは帝国の革命に関する調査」(英訳より抜粋) (1791年)
11. Romantic Orientalism 3: Thomas Moore, "The Fire-Eaters" from Lalla Rookh (1817)
11. ロマン主義的オリエンタリズム 3: トマス・ムーア、「ララルーク」(1817年)より「火喰い人」。
12. Romantic Orientalism 4: extract from Thomas De Quincey, Confessions of an English Opium-Eater (1821)
12. ロマン主義的オリエンタリズム 4: トマス・デクイーンシー「ある英国人アヘン常用者の告白」(1821年)より抜粋
13. Romantic Orientalism 5: Presentations
13. ロマン主義的オリエンタリズム 5: プレゼンテーション

履修上の注意

All reading and discussion will be conducted in English. Students are welcome to consult translated texts in their original language, but the version used for class discussion will be in English. リーディングとディスカッションはすべて英語で行われる。原語で翻訳されたテキストを参照することは自由であるが、クラスでのディスカッションに使用するのは英語である。

準備学習（予習・復習等）の内容

In addition to assessed essays and presentations, there will be regular homeworks and students will be required to read extracts of set texts for class. エッセイやプレゼンテーションの準備に加え、定期的な宿題が出され、授業では指定されたテキストの抜粋を読むことが求められる。

教科書

Students should buy Edward Said, Orientalism (Penguin Modern Classics) (2003) 2449 yen at time of writing. エドワード・サイード「オリエンタリズム」(ペンギン・モダンクラシックス、2003年) 2449円(執筆時)。

参考書

Additional reading is provided in the longer course outline available here: <https://www.alexwatson.info/teaching>
その他の参考文献は、こちら (<https://www.alexwatson.info/teaching>) のコース概要に掲載されている。

課題に対するフィードバックの方法

Students will be given feedback on their written assignments and oral presentations. 受講生は、提出した課題や口頭発表に対してフィードバックを受ける。

成績評価の方法

Assessment is 40 per cent presentations; 10 per cent regular homeworks; 50 per cent mid-term and end-of-term writing projects. 発表 40パーセント。定期的な課題 10パーセント。中間及び学期末のレポート課題 50%。

その他

I would encourage graduate students taking majors outside of literature to also join this course. However, please note that eligibility to take the course depends on the rules of the department in which the student is majoring. If you are interested, please double-check with your department and advisor if this is possible. 文学以外の専攻の大学院生にもこのコースに参加することを勧めたい。ただし、受講資格があるかどうかは、専攻している学科の規定によりしますのでご注意ください。興味のある方は、自分の専攻する学科や指導教官に受講可能かどうかを確認してください。

科目ナンバー：(AL) LIT522E			
英文学専攻		備考	
科目名	英文学演習ⅣB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil. ワトソン, アレックス		

授業の概要・到達目標

Orientalisms: Western Representations of the East, 1706-2024
オリエンタリズム：西洋による東洋の表象、1706-2024年

This course examines how the Eastern world (or "Orient") has been represented in Western countries, primarily Britain and America. As we will see, the publication of Antoine Galland's translation of One Thousand and One Nights at the beginning of the eighteenth century launched a craze for Eastern stories, images, fashion, ceramics, architecture, scenery and clothing that coincided with the rise of European imperialism. In the eighteenth and nineteenth centuries, new knowledge about the Orient brought forth innovative waves of cultural creativity. More recently, popular novels and films have recycled and revised these earlier representations. We will investigate these Western representations of the East in light of Edward Said's famous critique of Orientalism and recent scholarly discussion. このコースでは、東洋の世界（または「オリエンツ」）が西洋諸国（主にイギリスとアメリカ）でどのように表現されてきたかを検証する。18世紀初頭にアントワーン・ガランが「千夜一夜物語」を翻訳出版したことで、東洋の物語、イメージ、ファッション、陶磁器、建築、風景、衣服などに対する熱狂が始まり、それはヨーロッパ帝国主義の台頭と重なるものであった。18世紀から19世紀にかけて、東洋に関する新しい知識は、文化的創造性の革新的な波をもたらした。さらに最近では、大衆小説や映画が、こうした以前の表象を再利用し、改訂している。本講義では、エドワード・サイードによる有名なオリエンタリズム批判や最近の学術的議論に照らして、西洋における東洋の表象について考察する。

For more details, please see the webpage explaining this course on my website available at: <https://www.alexwatson.info/teaching>
詳しくは、私のウェブサイトにあるこのコースの説明ページをご覧ください: <https://www.alexwatson.info/teaching>

授業内容

1. Imperial Orientalism 1: Nineteenth-Century Painting
1. 帝国的オリエンタリズム 1: 19世紀の絵画2
2. Imperial Orientalism 3: Wilkie Collins, The Moonstone (1868) 1
2. 帝国的オリエンタリズム 2: ウィルキー・コリンズ「月の石」(1868年) 1
3. Imperial Orientalism 3: Wilkie Collins, The Moonstone (1868) 2
3. 帝国的オリエンタリズム 2: ウィルキー・コリンズ「月の石」(1868年) 2
4. Imperial Orientalism 4: Auto-Orientalism and Indian Nationalism in Bankim Chandra Chatterjee's Anandamath (1882)
4. 帝国的オリエンタリズム 4: パンキム・チャンドラ・チャタージー「不動明王」(1882)における自己オリエンタリズムとインドナショナリズム
5. Imperial Orientalism 5: Rudyard Kipling, "Without Benefit of Clergy" 1890
5. 帝国的オリエンタリズム 5: ラドヤード・キップリング「聖職者の恩恵にあずかることなく」1890年
6. Imperial Orientalism 6: Oscar Wilde, Salome: A Tragedy in One Act
6. 帝国的オリエンタリズム 6: オскар・ワイルド「サロメ」: 一幕の悲劇
7. Imperial Orientalism 7: The Thief of Baghdad (1940)
7. 帝国的オリエンタリズム 7: 「バグダッドの盗賊」(1940年)
8. Post-Imperial Orientalism: Ruth Benedict's The Chrysanthemum and the Sword: Patterns of Japanese Culture (1946)
8. 帝国以後のオリエンタリズム: ルース・ベネディクト「菊と刀-日本文化のパターン」(1946年)
9. Post-Imperial Orientalism: Blade Runner (1982)
9. 帝国以後のオリエンタリズム: ブレードランナー」(1982)
10. Post-Imperial Orientalism: Dune: Part One (2021)
10. 帝国以後のオリエンタリズム: デューン パート1 (2021)
11. Orientalism and Pop Music
11. オリエンタリズムとポップミュージック
12. Orientalism and Popular Culture Presentations
12. オリエンタリズムと大衆文化に関するプレゼンテーション
13. Revisiting Edward Said's Orientalism (1978)
13. エドワード・サイード「オリエンタリズム」(1978年)の再検討

履修上の注意

Students on this course will read literature in English of various genres, compare literature with art, architecture, anthropology music and other forms and disciplines, and examine critical arguments and evaluate their merits. The course will enhance students' ability to relate texts to their broader contexts, to understand and apply complex theoretical writing independently, to present original, relevant perspectives on different texts and to contribute to complex discussions in English.

このコースでは、様々なジャンルの英文学を読み、文学と美術、建築、人類学、音楽、その他の形式や学問分野を比較し、批評的な議論を検討し、その是非を評価します。テキストをより広い文脈と関連づけ、複雑な理論的文章を独自に理解し、応用し、さまざまなテキストについて独創的で適切な視点を提示し、英語で複雑な議論に貢献する能力を高めます。

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are advised to buy and read Wilkie Collins' The Moonstone over the summer. To make the most of class time, they will be expected to find and watch all films in their own time. 生徒には、夏にウィルキー・コリンズの「月の石」を買って読むことを勧める。授業時間を最大限に活用するため、すべての映画を自分の時間に探し、鑑賞することが求められる。

教科書

Students must buy the following:
Wilkie Collins, The Moonstone, Francis O'Gorman (ed) (Oxford World Classics, 2019) 1100 yen.
学生は以下を購入すること:
ウィルキー・コリンズ「月の石」フランシス・オゴマン編(オックスフォード・ワールドクラシックス、2019年) 1100円。

参考書

Additional reading is provided in the longer course outline available here: <https://www.alexwatson.info/teaching>
その他の参考文献は、こちら (<https://www.alexwatson.info/teaching>) のコース概要に掲載されている。

課題に対するフィードバックの方法

Students will be given feedback on their written assignments and oral presentations. 受講生は、提出した課題や口頭発表に対してフィードバックを受ける。

成績評価の方法

Assessment is 40 per cent presentations; 10 per cent regular homeworks; 50 per cent mid-term and end-of-term writing projects. 発表 40パーセント。定期的な課題 10パーセント。中間及び学期末のレポート課題 50%。

その他

I would encourage graduate students taking majors outside of literature to also join this course. However, please note that eligibility to take the course depends on the rules of the department in which the student is majoring. If you are interested, please double-check with your department and advisor if this is possible. 文学以外の専攻の大学院生にもこのコースに参加することを勧めたい。ただし、受講資格があるかどうかは、専攻している学科の規定によりしますのでご注意ください。興味のある方は、自分の専攻する学科や指導教官に受講可能かどうかを確認してください。

科目ナンバー：(AL) LIT622E			
英文学専攻		備考	
科目名	英文学演習IVC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil. ワトソン, アレックス		

授業の概要・到達目標

Orientalisms: Western Representations of the East, 1706-2024
 オリエンタリズム: 西洋による東洋の表象、1706-2024年

This course examines how the Eastern world (or "Orient") has been represented in Western countries, primarily Britain and America. As we will see, the publication of Antoine Galland's translation of One Thousand and One Nights at the beginning of the eighteenth century launched a craze for Eastern stories, images, fashion, ceramics, architecture, scenery and clothing that coincided with the rise of European imperialism. In the eighteenth and nineteenth centuries, new knowledge about the Orient brought forth innovative waves of cultural creativity. More recently, popular novels and films have recycled and revised these earlier representations. We will investigate these Western representations of the East in light of Edward Said's famous critique of Orientalism and recent scholarly discussion.

このコースでは、東洋の世界(または「オリエンツ」)が西洋諸国(主にイギリスとアメリカ)でどのように表現されてきたかを検証する。18世紀初頭にアントワーヌ・ガランが「千夜一夜物語」を翻訳出版したことで、東洋の物語、イメージ、ファッション、陶磁器、建築、風景、衣服などに対する熱狂が始まり、それはヨーロッパ帝国主義の台頭と重なるものであった。18世紀から19世紀にかけて、東洋に関する新しい知識は、文化的創造性の革新的な波をもたらした。さらに最近では、大衆小説や映画が、こうした以前の表象を再利用し、改訂している。本講義では、エドワード・サイードによる有名なオリエンタリズム批判や最近の学術的議論に照らして、西洋における東洋の表象について考察する。

For more details, please see the webpage explaining this course on my website available at: <https://www.alexwatson.info/teaching>
 詳しくは、私のウェブサイトにあるこのコースの説明ページをご覧ください: <https://www.alexwatson.info/teaching>

授業内容

1. What is Orientalism? 1: Case Study: Aladdin (1992)
2. オリエンタリズムとは何か? 1: ケーススタディ「アラジン」(1992年)
3. What is Orientalism? 2: Edward Said's Orientalism (1978)
4. オリエンタリズムとは何か? 2: エドワード・サイードのオリエンタリズム (1978年)
5. What is Orientalism? 3: Critiquing Edward Said's Orientalism (1978)
6. オリエンタリズムとは何か? 3: エドワード・サイードの「オリエンタリズム」(1978年)を批評する
7. Eighteenth-Century Orientalism 1: Arabian Nights
8. 18世紀のオリエンタリズム 1: アラビアンナイツ
9. Eighteenth-Century Orientalism 2: Persian Letters (1721)
10. 18世紀のオリエンタリズム 2: ペルシアの手紙 (1721年)
11. Eighteenth-Century Orientalism 3: Samuel Johnson, The History of Rasselas, Prince of Abissinia (1759)
12. 18世紀のオリエンタリズム 3: サミュエル・ジョンソン「アビシニアの王子ラッセラスの歴史」(1759年)
13. Eighteenth-Century Orientalism 4: Mary Wortley Montagu, Turkish Embassy Letters, 1716-18 (1763)
14. 18世紀のオリエンタリズム 4: メアリー・ウォートリー・モンタグ「トルコ大使館書簡集」1716-18 (1763年)
15. Eighteenth-Century Orientalism 5: Presentations
16. 18世紀のオリエンタリズム 5: プレゼンテーション
17. Romantic Orientalism 1: William Beckford, The History of the Caliph Vathek (1786)
18. ロマン主義的オリエンタリズム 1: ウィリアム・ベックフォード「カリフ・ヴァテックの歴史」(1786年)
19. Romantic Orientalism 2: Percy Bysshe Shelley, "Ozymandias" (1818) and Constantin-Francois de Volney, The Ruins: or a Survey of the Revolutions of Empires (extracts from translation in English) (1791)
20. ロマン主義的オリエンタリズム 2: パーシー・バイシェン・シェリー「オズマンディアス」(1818年)とコンスタンタン・フランクフォード・ヴォルニー「廢墟:あるいは帝国の革命に関する調査」(英訳より抜粋) (1791年)
21. Romantic Orientalism 3: Thomas Moore, "The Fire-Eaters" from Lalla Rookh (1817)
22. ロマン主義的オリエンタリズム 3: トマス・ムーア、「ララルク」(1817年)より「火喰い人」。
23. Romantic Orientalism 4: extract from Thomas De Quincey, Confessions of an English Opium-Eater (1821)
24. ロマン主義的オリエンタリズム 4: トマス・デクイーンシー「ある英国人アヘン常用者の告白」(1821年)より抜粋
25. Romantic Orientalism 5: Presentations
26. ロマン主義的オリエンタリズム 5: プレゼンテーション

履修上の注意

All reading and discussion will be conducted in English. Students are welcome to consult translated texts in their original language, but the version used for class discussion will be in English.
 リーディングとディスカッションはすべて英語で行われる。原語で翻訳されたテキストを参照することは自由であるが、クラスでのディスカッションに使用するのは英語である。

準備学習 (予習・復習等) の内容

In addition to assessed essays and presentations, there will be regular homeworks and students will be required to read extracts of set texts for class.

エッセイやプレゼンテーションの評価に加え、定期的な宿題が出され、授業では指定されたテキストの抜粋を読むことが求められる。

教科書

Students should buy Edward Said, Orientalism (Penguin Modern Classics) (2003) 2449 yen at time of writing.
 エドワード・サイード「オリエンタリズム」(ペンギン・モダンクラシックス、2003年) 2449円(執筆時)。

参考書

Additional reading is provided in the longer course outline available here: <https://www.alexwatson.info/teaching>
 その他の参考文献は、こちら (<https://www.alexwatson.info/teaching>) のコース概要に掲載されている。

課題に対するフィードバックの方法

Students will be given feedback on their written assignments and oral presentations.
 受講生は、提出した課題や口頭発表に対してフィードバックを受ける。

成績評価の方法

Assessment is 40 per cent presentations; 10 per cent regular homeworks; 50 per cent mid-term and end-of-term writing projects.
 発表 40パーセント。定期的な課題 10パーセント。中間及び学期末のレポート課題 50%。

その他

I would encourage graduate students taking majors outside of literature to also join this course. However, please note that eligibility to take the course depends on the rules of the department in which the student is majoring. If you are interested, please double-check with your department and advisor if this is possible.
 文学以外の専攻の大学院生にもこのコースに参加することを勧めたい。ただし、受講資格があるかどうかは、専攻している学科の規定によりしますのでご注意ください。興味のある方は、自分の専攻する学科や指導教官に受講可能かどうか再確認してください。

科目ナンバー：(AL) LIT622E			
英文学専攻		備考	
科目名	英文学演習IV D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 D.Phil. ワトソン, アレックス		

授業の概要・到達目標

Orientalisms: Western Representations of the East, 1706-2024
 オリエンタリズム: 西洋による東洋の表象、1706-2024年

This course examines how the Eastern world (or "Orient") has been represented in Western countries, primarily Britain and America. As we will see, the publication of Antoine Galland's translation of One Thousand and One Nights at the beginning of the eighteenth century launched a craze for Eastern stories, images, fashion, ceramics, architecture, scenery and clothing that coincided with the rise of European imperialism. In the eighteenth and nineteenth centuries, new knowledge about the Orient brought forth innovative waves of cultural creativity. More recently, popular novels and films have recycled and revised these earlier representations. We will investigate these Western representations of the East in light of Edward Said's famous critique of Orientalism and recent scholarly discussion.

このコースでは、東洋の世界(または「オリエンツ」)が西洋諸国(主にイギリスとアメリカ)でどのように表現されてきたかを検証する。18世紀初頭にアントワーヌ・ガランが「千夜一夜物語」を翻訳出版したことで、東洋の物語、イメージ、ファッション、陶磁器、建築、風景、衣服などに対する熱狂が始まり、それはヨーロッパ帝国主義の台頭と重なるものであった。18世紀から19世紀にかけて、東洋に関する新しい知識は、文化的創造性の革新的な波をもたらした。さらに最近では、大衆小説や映画が、こうした以前の表象を再利用し、改訂している。本講義では、エドワード・サイードによる有名なオリエンタリズム批判や最近の学術的議論に照らして、西洋における東洋の表象について考察する。

For more details, please see the webpage explaining this course on my website available at: <https://www.alexwatson.info/teaching>
 詳しくは、私のウェブサイトにあるこのコースの説明ページをご覧ください: <https://www.alexwatson.info/teaching>

授業内容

1. Imperial Orientalism 1: Nineteenth-Century Painting
2. 帝国的オリエンタリズム 1: 19世紀の絵画2
3. Imperial Orientalism 3: Wilkie Collins, The Moonstone (1868) 1
4. 帝国的オリエンタリズム 3: ウィルキー・コリンズ「月の石」(1868年) 1
5. Imperial Orientalism 3: Wilkie Collins, The Moonstone (1868) 2
6. 帝国的オリエンタリズム 3: ウィルキー・コリンズ「月の石」(1868年) 2
7. Imperial Orientalism 4: Auto-Orientalism and Indian Nationalism in Bankim Chandra Chatterjee's Anandamath (1882)
8. 帝国的オリエンタリズム 4: パンキム・チャンドラチャタージー「不動明王」(1882)における自己オリエンタリズムとインドナショナリズム
9. Imperial Orientalism 5: Rudyard Kipling, "Without Benefit of Clergy" 1890
10. 帝国的オリエンタリズム 5: ラドヤード・キップリング「聖職者の恩恵にあずかることなく」1890年
11. Imperial Orientalism 6: Oscar Wilde, Salome: A Tragedy in One Act
12. 帝国的オリエンタリズム 6: オскар・ワイルド「サロメ」- 一幕の悲劇
13. Imperial Orientalism 7: The Thief of Baghdad (1940)
14. 帝国的オリエンタリズム 7: 「バグダッドの盗賊」(1940年)
15. Post-Imperial Orientalism: Ruth Benedict's The Chrysanthemum and the Sword: Patterns of Japanese Culture (1946)
16. 帝国以後のオリエンタリズム: ルース・ベネディクト「菊と刀-日本文化のパターン」(1946年)
17. Post-Imperial Orientalism: Blade Runner (1982)
18. 帝国以後のオリエンタリズム: ブレードランナー (1982)
19. Post-Imperial Orientalism: Dune: Part One (2021)
20. 帝国以後のオリエンタリズム: デューン パート1 (2021)
21. Orientalism and Pop Music
22. オリエンタリズムとポップミュージック
23. Orientalism and Popular Culture: Presentations
24. オリエンタリズムと大衆文化に関するプレゼンテーション
25. Revisiting Edward Said's Orientalism (1978)
26. エドワード・サイード「オリエンタリズム」(1978年)の再検討

履修上の注意

Students on this course will read literature in English of various genres, compare literature with art, architecture, anthropology music and other forms and disciplines, and examine critical arguments and evaluate their merits. The course will enhance students' ability to relate texts to their broader contexts, to understand and apply complex theoretical writing independently, to present original, relevant perspectives on different texts and to contribute to complex discussions in English.

このコースでは、様々なジャンルの英文学を読み、文学と美術、建築、人類学、音楽、その他の形式や学問分野を比較し、批評的な議論を検討し、その是非を評価します。テキストをより広い文脈と関連づけ、複雑な理論的文章を独自に理解し、応用し、さまざまなテキストについて独創的で適切な視点を提示し、英語で複雑な議論に貢献する能力を高めます。

準備学習 (予習・復習等) の内容

In addition to assessed essays and presentations, there will be regular homeworks and students will be required to read extracts of set texts for class.

エッセイやプレゼンテーションの評価に加え、定期的な宿題が出され、授業では指定されたテキストの抜粋を読むことが求められる。

教科書

Students must buy the following:
 Wilkie Collins, The Moonstone, Francis O'Gorman (ed) (Oxford World Classics, 2019) 1100 yen.
 学生は以下を購入すること:
 ウィルキー・コリンズ「月の石」フランシス・オゴマン編(オックスフォード・ワールドクラシックス、2019年) 1100円。

参考書

Additional reading is provided in the longer course outline available here: <https://www.alexwatson.info/teaching>
 その他の参考文献は、こちら (<https://www.alexwatson.info/teaching>) のコース概要に掲載されている。

課題に対するフィードバックの方法

Students will be given feedback on their written assignments and oral presentations.
 受講生は、提出した課題や口頭発表に対してフィードバックを受ける。

成績評価の方法

Assessment is 40 per cent presentations; 10 per cent regular homeworks; 50 per cent mid-term and end-of-term writing projects.
 発表 40パーセント。定期的な課題 10パーセント。中間及び学期末のレポート課題 50%。

その他

I would encourage graduate students taking majors outside of literature to also join this course. However, please note that eligibility to take the course depends on the rules of the department in which the student is majoring. If you are interested, please double-check with your department and advisor if this is possible.
 文学以外の専攻の大学院生にもこのコースに参加することを勧めたい。ただし、受講資格があるかどうかは、専攻している学科の規定によりしますのでご注意ください。興味のある方は、自分の専攻する学科や指導教官に受講可能かどうか再確認してください。

科目ナンバー: (AL) LIT522J			
英文学専攻	備考		
科目名	米文学演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 Ph.D.	横山 晃	

授業の概要・到達目標

文学批評理論、あるいは批評理論について書かれた文章を読み、それが文学作品の解釈にどのように生かせるか、またアプローチの仕方がどのように変わるか、ということを考えます。毎回、異なる批評理論のキーワードをとりあげ、テキスト分析を行います。対象となるテキストは文学作品だけでなく、映像作品も含まれます。

発表担当者は決めずに、毎回ポイントとなる箇所や単語・フレーズの正確な意味、作品の文化・歴史的背景について、クラス内で考察を深めていきます。最終的にはクラス内で扱った批評理論をベースに、特定のテキストを分析し、文学批評としてレポートにまとめる方法論を確立することを目指します。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン(進め方について)
- 第2回 批評のキーワード(1)
- 第3回 批評のキーワード(2)
- 第4回 批評のキーワード(3)(批評のリサーチについて)
- 第5回 批評のキーワード(4)
- 第6回 批評のキーワード(5)
- 第7回 批評のキーワード(6)(批評のリサーチまとめ)
- 第8回 批評のキーワード(7)
- 第9回 批評のキーワード(8)
- 第10回 批評のキーワード(9)(プロポーザル提出予定)
- 第11回 批評のキーワード(10)
- 第12回 批評のキーワード(11)
- 第13回 批評のキーワード(12)
- 第14回 批評のキーワード(13)

履修上の注意

辞書がなければ作品を精読することは困難です。新英和大辞典やリーダーズ+プラスを引いて意味を調べてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

分からない箇所を把握する、という作業が重要です。意味の取り方の分からない単語、解釈が難しい会話のやり取りなど、分からなかった点がどこかを把握することが肝要です。

教科書

授業時に決定します。

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点30%、批評まとめ・プロポーザル30%、最終レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT522J			
英文学専攻	備考		
科目名	米文学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師 Ph.D.	横山 晃	

授業の概要・到達目標

文学批評理論、あるいは批評理論について書かれた文章を読み、それが文学作品の解釈にどのように生かせるか、またアプローチの仕方がどのように変わるか、ということを考えます。毎回、異なる批評理論のキーワードをとりあげ、テキスト分析を行います。対象となるテキストは文学作品だけでなく、映像作品も含まれます。

発表担当者は決めずに、毎回ポイントとなる箇所や単語・フレーズの正確な意味、作品の文化・歴史的背景について、クラス内で考察を深めていきます。最終的にはクラス内で扱った批評理論をベースに、特定のテキストを分析し、文学批評としてレポートにまとめる方法論を確立することを目指します。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン(進め方について)
- 第2回 批評のキーワード(1)
- 第3回 批評のキーワード(2)
- 第4回 批評のキーワード(3)(批評のリサーチについて)
- 第5回 批評のキーワード(4)
- 第6回 批評のキーワード(5)
- 第7回 批評のキーワード(6)(批評のリサーチまとめ)
- 第8回 批評のキーワード(7)
- 第9回 批評のキーワード(8)
- 第10回 批評のキーワード(9)(プロポーザル提出予定)
- 第11回 批評のキーワード(10)
- 第12回 批評のキーワード(11)
- 第13回 批評のキーワード(12)
- 第14回 批評のキーワード(13)

履修上の注意

辞書がなければ作品を精読することは困難です。新英和大辞典やリーダーズ+プラスを引いて意味を調べてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

分からない箇所を把握する、という作業が重要です。意味の取り方の分からない単語、解釈が難しい会話のやり取りなど、分からなかった点がどこかを把握することが肝要です。

教科書

授業時に決定します。

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点30%、批評まとめ・プロポーザル30%、最終レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT622J			
英文学専攻	備考		
科目名	米文学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 Ph.D.	横山 晃	

授業の概要・到達目標

文学批評理論、あるいは批評理論について書かれた文章を読み、それが文学作品の解釈にどのように生かせるか、またアプローチの仕方がどのように変わるか、ということを考えます。毎回、異なる批評理論のキーワードをとりあげ、テキスト分析を行います。対象となるテキストは文学作品だけでなく、映像作品も含まれます。

発表担当者は決めずに、毎回ポイントとなる箇所や単語・フレーズの正確な意味、作品の文化・歴史的背景について、クラス内で考察を深めていきます。最終的にはクラス内で扱った批評理論をベースに、特定のテキストを分析し、文学批評としてレポートにまとめる方法論を確立することを目指します。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン(進め方について)
- 第2回 批評のキーワード(1)
- 第3回 批評のキーワード(2)
- 第4回 批評のキーワード(3)(批評のリサーチについて)
- 第5回 批評のキーワード(4)
- 第6回 批評のキーワード(5)
- 第7回 批評のキーワード(6)(批評のリサーチまとめ)
- 第8回 批評のキーワード(7)
- 第9回 批評のキーワード(8)
- 第10回 批評のキーワード(9)(プロポーザル提出予定)
- 第11回 批評のキーワード(10)
- 第12回 批評のキーワード(11)
- 第13回 批評のキーワード(12)
- 第14回 批評のキーワード(13)

履修上の注意

辞書がなければ作品を精読することは困難です。新英和大辞典やリーダーズ+プラスを引いて意味を調べてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

分からない箇所を把握する、という作業が重要です。意味の取り方の分からない単語、解釈が難しい会話のやり取りなど、分からなかった点がどこかを把握することが肝要です。

教科書

授業時に決定します。

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点30%、批評まとめ・プロポーザル30%、最終レポート40%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT622J			
英文学専攻	備考		
科目名	米文学演習ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師 Ph.D.	横山 晃	

授業の概要・到達目標

文学批評理論、あるいは批評理論について書かれた文章を読み、それが文学作品の解釈にどのように生かせるか、またアプローチの仕方がどのように変わるか、ということを考えます。毎回、異なる批評理論のキーワードをとりあげ、テキスト分析を行います。対象となるテキストは文学作品だけでなく、映像作品も含まれます。

発表担当者は決めずに、毎回ポイントとなる箇所や単語・フレーズの正確な意味、作品の文化・歴史的背景について、クラス内で考察を深めていきます。最終的にはクラス内で扱った批評理論をベースに、特定のテキストを分析し、文学批評としてレポートにまとめる方法論を確立することを目指します。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン(進め方について)
- 第2回 批評のキーワード(1)
- 第3回 批評のキーワード(2)
- 第4回 批評のキーワード(3)(批評のリサーチについて)
- 第5回 批評のキーワード(4)
- 第6回 批評のキーワード(5)
- 第7回 批評のキーワード(6)(批評のリサーチまとめ)
- 第8回 批評のキーワード(7)
- 第9回 批評のキーワード(8)
- 第10回 批評のキーワード(9)(プロポーザル提出予定)
- 第11回 批評のキーワード(10)
- 第12回 批評のキーワード(11)
- 第13回 批評のキーワード(12)
- 第14回 批評のキーワード(13)

履修上の注意

辞書がなければ作品を精読することは困難です。新英和大辞典やリーダーズ+プラスを引いて意味を調べてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

分からない箇所を把握する、という作業が重要です。意味の取り方の分からない単語、解釈が難しい会話のやり取りなど、分からなかった点がどこかを把握することが肝要です。

教科書

授業時に決定します。

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点30%、批評まとめ・プロポーザル30%、最終レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT522E			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	サトウ, ゲイルK.	

授業の概要・到達目標

Two keywords—R.E.A.D.I.N.G. and narrative therapy—frame this seminar's examination of the ways in which Asian/American narratives of the Asia Pacific War perform their artistic, psychological, and political work, and what this work means for the author and readers of the text in addition to the text's fictionalized or autobiographical characters. R.E.A.D.I.N.G. is an acronym for a definition of a liberal arts education: Read a lot; Examine the reading; Analyze the examination; Discuss the analysis; Imagine reading as muscle training; Navigate your life; Germinate your own words. In this seminar, R.E.A.D.I.N.G. is applied to the analysis of plots of narrative literacy in Murakami Haruki's *KAFKA ON THE SHORE*. Specifically, the first phenomenology of R.E.A.D.I.N.G.—“Read a lot”—will be deployed to make sense of this novel's hyper-abundant references to verbal and musical texts or their authors and performers, and to interpret the many conversations about reading that occur in libraries. This entire representation of “reading a lot” will be examined as an expression of Murakami's inquiry into the meaning of remembering WWII, in Tokyo, in the first decade of the 21st century.

授業内容

1. Our Everyday Memory of the Asia Pacific War
2. War Memory in Murakami's Corpus
3. Story: Libraries
4. Reading I: Kafka
5. Reading II: Natsume Sōseki & ARABIAN NIGHTS
6. Story: Oshima & Miss Saeki
7. Story: Johnnie Walker & Colonel Sanders
8. Reading III: Carl von Clausewitz & Adolf Eichmann
9. Story: Nakata & Cats
10. Story: Hoshino & “The Archduke Trio”
11. Reading IV: Prince, Beethoven, Schubert, Etc.
12. Reading V: OEDIPUS & ANTI-OEDIPUS
13. Reading VI: SNOW WHITE AND THE SEVEN DWARFS
14. 1941–1945 & 1968–1969

履修上の注意

The following language skills and experience are needed to do well in this seminar:
 (1) Reading: You can read at least 50 pages of history, criticism, or literature in English per week without too much trouble. You have read at least 50 whole works of American, British, or other Anglophone literature (individual novels, memoirs, collections of poetry, essays, stories) in the original or in translation.
 (2) Writing: Your undergraduate thesis was written in English, or you have written at least one 10-page academic paper in English.
 (3) Speaking and listening: You are comfortable conversing entirely in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

There is never enough time to read everything. I recommend the Oxford University Press series, *VERY SHORT INTRODUCTIONS*, as one way to fill holes in your knowledge of global cultures, histories, and the history of ideas. Here is how the series describes itself: “Very Short Introductions are for anyone wanting a stimulating and accessible way in to a new subject. They are written by experts, and have been published in more than 25 languages worldwide. The series began in 1995, and now represents a wide variety of topics in history, philosophy, religion, science, and the humanities.”

教科書

Print copies of *KAFKA ON THE SHORE* in both Japanese and English translation are required.

参考書

Upon request, I can suggest additional reading to advance your understanding of Asian North American literature and its treatment of WWII.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

50% PPT presentation/s and Class Participation
 50% Final Paper (minimum length is 3,000 words in English)
 *If there is evidence of plagiarism in any form or to any extent, you will receive a grade of “F” for the entire course. It is your responsibility to understand what plagiarism means. Saying “I didn't know I was committing plagiarism” will not be considered a valid excuse.

その他

I think it's important to not lose sight of the basics when teaching or taking a graduate course. For me, that means staying anchored to the ethics of narrative literacy and responsible citizenship, no matter where one is on the spectrum from novice to expert reader. What does it mean to be a good human being? What is social justice? What are the relationships between personal goodness, social justice, and narrative literacy?

科目ナンバー：(AL) LIT622E			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	サトウ, ゲイルK.	

授業の概要・到達目標

Two keywords—R.E.A.D.I.N.G. and narrative therapy—frame this seminar's examination of the ways in which Asian/American narratives of the Asia Pacific War perform their artistic, psychological, and political work, and what this work means for the author and readers of the text in addition to the text's fictionalized or autobiographical characters. R.E.A.D.I.N.G. is an acronym for a definition of a liberal arts education: Read a lot; Examine the reading; Analyze the examination; Discuss the analysis; Imagine reading as muscle training; Navigate your life; Germinate your own words. In this seminar, R.E.A.D.I.N.G. is applied to Wing Tek Lum's *THE NANJING MASSACRE: POEMS*, in which historical studies, memoir and oral history, public and private collections of photographs, and other forms of testimony provide a basis for the author's sustained act of postmemory witnessing of the Nanjing Massacre. Lum's treatment of his subject is intensely graphic, producing a kind of “atrocity photo poetry” for which the third phenomenology of R.E.A.D.I.N.G.—“Examine the reading”—provides a useful analytical tool. We will examine Lum's Nanjing poems up close and in depth to see how he has turned the act itself of scanner-like examination into a poetic methodology of ethical seeing, which by re-attaching humanity and meaningfulness to victims and perpetrators alike, restores that narrative dimension identified by Susan Sontag in *REGARDING THE PAIN OF OTHERS* as a necessary antidote to the otherwise numbing power of photographs of atrocity.

授業内容

1. Our Everyday Memory of the Nanjing Massacre
2. Story: Part I
3. Examination I: Iris Chang
4. Examination II: Shi Young & James Yin
5. Story: Part II
6. Examination III: Katsuichi Honda
7. Examination IV: Yasukuni Shrine
8. Story: Part III, Part IV
9. Examination V: Histories of the Nanjing Massacre
10. Examination VI: Elaine Scarry, Susan Sontag, Marianne Hirsch
11. Story: Part V
12. Story: Dedication + Epilogue
13. Examination VII: Auto-Bio-Graphical Witnessing
14. Lum's Post-Nanjing Poetry

履修上の注意

The following language skills and experience are needed to do well in this seminar:
 (1) Reading: You can read at least 50 pages of history, criticism, or literature in English per week without too much trouble. You have read at least 50 whole works of American, British, or other Anglophone literature (individual novels, memoirs, collections of poetry, essays, stories) in the original or in translation.
 (2) Writing: Your undergraduate thesis was written in English, or you have written at least one 10-page academic paper in English.
 (3) Speaking and listening: You are comfortable conversing entirely in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

There is never enough time to read everything. I recommend the Oxford University Press series, *VERY SHORT INTRODUCTIONS*, as one way to fill holes in your knowledge of global cultures, histories, and the history of ideas. Here is how the series describes itself: “Very Short Introductions are for anyone wanting a stimulating and accessible way in to a new subject. They are written by experts and have been published in more than 25 languages worldwide. The series began in 1995, and now represents a wide variety of topics in history, philosophy, religion, science, and the humanities.”

教科書

A print copy in English of *THE NANJING MASSACRE: POEMS* is required.

参考書

Upon request, I can suggest additional reading to advance your understanding of Asian North American literature and its treatment of WWII.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

50% PPT presentation/s and Class Participation
 50% Final Paper (minimum length is 3,000 words in English)
 *If there is evidence of plagiarism in any form or to any extent, you will receive a grade of “F” for the entire course. It is your responsibility to understand what plagiarism means. Saying “I didn't know I was committing plagiarism” will not be considered a valid excuse.

その他

I think it's important to not lose sight of the basics when teaching or taking a graduate course. For me, that means staying anchored to the ethics of narrative literacy and responsible citizenship, no matter where one is on the spectrum from novice to expert reader. What does it mean to be a good human being? What is social justice? What are the relationships between personal goodness, social justice, and narrative literacy?

科目ナンバー：(AL) LIT522J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		竹内 理矢

授業の概要・到達目標

アメリカモダニズム作家William Faulkner (1897-1962)の小説・エッセイ・対談などを精読し、それらが作者の心情／信条と特殊な文化的・歴史的な事情から生成された実状を考察していく。フォークナー独特の前衛的な語り的手法とそこから描き出される芸術世界を味わいながら、人間の悲哀や懊悩、人間と大地との関係性を精緻に読み解き、小説・エッセイ・対談がどのような時代の諸相を浮き彫りにしているのか、明らかにしていく。フォークナーと他国の作家との影響関係も視野に入れ、世界文学のフィールドでもフォークナーを捉え直したいと考えている。

まずは文学それ自体を論じることで、文学作品の本質を捉える力を養うことを目標とするが、演習を通して、また最終レポート(論文)執筆に向けて、伝記・歴史・文化・先行研究・理論なども調査しながら、文学を深く論じ批評する意義と方途をつかまえてほしい。

授業内容

発表担当者は、担当箇所の要約・語注・考察・疑問点をまとめたハンド・アウトを用意する。発表を皮切りに、クラス全体でディスカッションを行い、解釈を深めていく。

- 1) イントロダクション(シラバス確認、担当者決め、フォークナーについて)
- 2) フォークナーのエッセイ I
- 3) フォークナーのエッセイ II
- 4) フォークナーのエッセイ III
- 5) フォークナーの対談 I
- 6) フォークナーの対談 II
- 7) フォークナーの対談 III
- 8) フォークナーの短編小説 I
- 9) フォークナーの短編小説 II
- 10) フォークナーの短編小説 III
- 11) フォークナーの中編小説 I
- 12) フォークナーの中編小説 II
- 13) フォークナーの中編小説 III
- 14) フォークナーの中編小説 IV

履修上の注意

授業は担当者の発表を土台に、受講生全員で議論を行うため、授業前にテキストを精読しておく必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前にテキストを精読すると同時に、自らの解釈を述べられるように準備しておくこと。

教科書

プリント配布予定、Oh-ol Meijiからダウンロードし、プリントアウトしてください。

参考書

『フォークナー』フォークナー協会編集室、松柏社。
『フォークナー事典』日本ウィリアム・フォークナー協会、松柏社。
その他、授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーにコメントをし、理解を深めます。

成績評価の方法

最終レポート50%、平常点(口頭発表、議論への参加、出席)50%。

その他

文学に関心をもつ受講生の積極的な参加を期待します。

科目ナンバー：(AL) LIT522J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		竹内 理矢

授業の概要・到達目標

春学期に引き続いて、アメリカモダニズム作家William Faulkner (1897-1962)の小説を精読し、作家の心情／信条と特殊な文化的・歴史的な事情から生成された実状を考察していく。フォークナー独特の前衛的な語り的手法とそこから描き出される芸術世界を味わいながら、人間の悲哀や懊悩、人間と大地の関係性を精緻に読み解き、小説がどのような時代の諸相を浮き彫りにしているのか、明らかにしていく。フォークナーと他国の作家との影響関係も視野に入れ、世界文学のフィールドでもフォークナーを捉え直したいと考えている。

まずは文学それ自体を論じることで、文学作品の本質を捉える力を養うことを目標とするが、演習を通して、また最終レポート(論文)執筆に向けて、伝記・歴史・文化・先行研究・理論なども調査しながら、文学を深く論じ批評する意義と方途をつかまえてほしい。

授業内容

発表担当者は、担当箇所の要約・語注・考察・疑問点をまとめたハンド・アウトを用意する。発表を皮切りに、クラス全体でディスカッションを行い、解釈を深めていく。

- 1) イントロダクション(シラバス確認、担当者決め、フォークナーについて)
- 2) フォークナーの短編小説 I
- 3) フォークナーの短編小説 II
- 4) フォークナーの短編小説 I
- 5) フォークナーの短編小説 II
- 6) フォークナーの短編小説 III
- 7) フォークナーの長編小説 I
- 8) フォークナーの長編小説 II
- 9) フォークナーの長編小説 III
- 10) フォークナーの長編小説 IV
- 11) フォークナーの長編小説 V
- 12) フォークナーの長編小説 VI
- 13) フォークナーの長編小説 VII
- 14) フォークナーの長編小説 VIII

履修上の注意

授業は担当者の発表を土台に、受講生全員で議論を行うため、授業前にテキストを精読しておく必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前にテキストを精読すると同時に、自らの解釈を述べられるように準備しておくこと。

教科書

プリント配布予定、Oh-ol Meijiからダウンロードし、プリントアウトしてください。

参考書

『フォークナー』フォークナー協会編集室、松柏社。
『フォークナー事典』日本ウィリアム・フォークナー協会、松柏社。
その他、授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーにコメントし、理解を深めます。

成績評価の方法

最終レポート50%、平常点(口頭発表、議論への参加、出席)50%。

その他

文学に関心をもつ受講生の積極的な参加を期待します。

科目ナンバー：(AL) LIT622J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	竹内 理矢	

授業の概要・到達目標

アメリカモダニズム作家William Faulkner (1897-1962)の小説・エッセイ・対談などを精読し、それらが作者の心情／信条と特殊な文化的・歴史的な事情から生成された実状を考察していく。フォークナー独特の前衛的な語り手法とそこから描き出される芸術世界を味わいながら、人間の悲哀や懊悩、人間と大地との関係性を精緻に読み解き、小説・エッセイ・対談がどのような時代の諸相を浮き彫りにしているのか、明らかにしていく。フォークナーと他国の作家との影響関係も視野に入れ、世界文学のフィールドでもフォークナーを捉え直したいと考えている。

まずは文学それ自体を論じることで、文学作品の本質を捉える力を養うことを目標とするが、演習を通して、また最終レポート(論文)執筆に向けて、伝記・歴史・文化・先行研究・理論なども調査しながら、文学を深く論じ批評する意義と方途をつかまえてほしい。

授業内容

発表担当者は、担当箇所の要約・語注・考察・疑問点をまとめたハンド・アウトを用意する。発表を皮切りに、クラス全体でディスカッションを行い、解釈を深めていく。

- 1) イントロダクション(シラバス確認、担当者決め、フォークナーについて)
- 2) フォークナーのエッセイ I
- 3) フォークナーのエッセイ II
- 4) フォークナーのエッセイ III
- 5) フォークナーの対談 I
- 6) フォークナーの対談 II
- 7) フォークナーの対談 III
- 8) フォークナーの短編小説 I
- 9) フォークナーの短編小説 II
- 10) フォークナーの短編小説 III
- 11) フォークナーの中編小説 I
- 12) フォークナーの中編小説 II
- 13) フォークナーの中編小説 III
- 14) フォークナーの中編小説 IV

履修上の注意

授業は担当者の発表を土台に、受講生全員で議論を行うため、授業前にテキストを精読しておく必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前にテキストを精読すると同時に、自らの解釈を述べられるように準備しておくこと。

教科書

プリント配布予定、Oh-ol Meijiからダウンロードし、プリントアウトしてください。

参考書

『フォークナー』フォークナー協会編集室、松柏社。
『フォークナー事典』日本ウィリアム・フォークナー協会、松柏社。
その他、授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーにコメントをし、理解を深めます。

成績評価の方法

最終レポート50%、平常点(口頭発表、議論への参加、出席)50%。

その他

文学に関心をもつ受講生の積極的な参加を期待します。

科目ナンバー：(AL) LIT622J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	竹内 理矢	

授業の概要・到達目標

春学期に引き続いて、アメリカモダニズム作家William Faulkner (1897-1962)の小説を精読し、作家の心情／信条と特殊な文化的・歴史的な事情から生成された実状を考察していく。フォークナー独特の前衛的な語り手法とそこから描き出される芸術世界を味わいながら、人間の悲哀や懊悩、人間と大地の関係性を精緻に読み解き、小説・エッセイがどのような時代の諸相を浮き彫りにしているのか、明らかにしていく。フォークナーと他国の作家との影響関係も視野に入れ、世界文学のフィールドでもフォークナーを捉え直したいと考えている。

まずは文学それ自体を論じることで、文学作品の本質を捉える力を養うことを目標とするが、演習を通して、また最終レポート(論文)執筆に向けて、伝記・歴史・文化・先行研究・理論なども調査しながら、文学を深く論じ批評する意義と方途をつかまえてほしい。

授業内容

発表担当者は、担当箇所の要約・語注・考察・疑問点をまとめたハンド・アウトを用意する。発表を皮切りに、クラス全体でディスカッションを行い、解釈を深めていく。

- 1) イントロダクション(シラバス確認、担当者決め、フォークナーについて)
- 2) フォークナーの短編小説 I
- 3) フォークナーの短編小説 II
- 4) フォークナーの短編小説 III
- 5) フォークナーの短編小説 IV
- 6) フォークナーの短編小説 V
- 7) フォークナーの短編小説 VI
- 8) フォークナーの短編小説 VII
- 9) フォークナーの短編小説 VIII
- 10) フォークナーの長編小説 I
- 11) フォークナーの長編小説 II
- 12) フォークナーの長編小説 III
- 13) フォークナーの長編小説 IV
- 14) フォークナーの長編小説 V
- 15) フォークナーの長編小説 VI
- 16) フォークナーの長編小説 VII
- 17) フォークナーの長編小説 VIII

履修上の注意

授業は担当者の発表を土台に、受講生全員で議論を行うため、授業前にテキストを精読しておく必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前にテキストを精読すると同時に、自らの解釈を述べられるように準備しておくこと。

教科書

プリント配布予定、Oh-ol Meijiからダウンロードし、プリントアウトしてください。

参考書

『フォークナー』フォークナー協会編集室、松柏社。
『フォークナー事典』日本ウィリアム・フォークナー協会、松柏社。
その他、授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーにコメントし、理解を深めます。

成績評価の方法

最終レポート50%、平常点(口頭発表、議論への参加、出席)50%。

その他

文学に関心をもつ受講生の積極的な参加を期待します。

科目ナンバー：(AL) LIT522J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 梶原 照子		

授業の概要・到達目標

〈アメリカ詩における悲痛—Emily DickinsonとLouise Glückを中心に—〉
 アメリカ詩において悲痛はどのように表現されてきたのか。あるいは、逆に、詩人が抱く悲痛が詩を生み出す根源的な力となっているのではないかと問う方が適切か。古典アメリカ詩を代表する女性詩人Emily Dickinson(1830-56)と現代アメリカ詩を代表するノーベル文学賞詩人Louise Glück(1943-2023)の詩作品を中心に、悲痛と詩の関係について考察してみよう。

授業内容

学期前半は、ディキンソンの詩作品から悲痛 (Grief, Pain, Wo) を主題にした詩篇を取り挙げて精読していく。

学期後半は、グリユックの *Vita Nova*(1999)を中心に、*The Wild Iris*(1992)や*Ararat*(1990)から数篇、主題上重要な作品を取り挙げて考察していく。グリユックの評論を参照枠に、履修者の関心によっては、Sylvia Plath (1932-63)の作品も取り挙げる。

全体を通して、テキストを分析・批評し、学術論文を書く技術については、授業中の発表(担当する詩作品・散文の精読・分析、批評の紹介)と最終レポートの作成を通して、具体的に学ぶ。

授業予定

1. イントロダクション
2. Dickinson①
3. Dickinson②
4. Dickinson③
5. Dickinson④
6. Dickinson⑤
7. Louise Glück評論、その他Dickinson批評
8. Louise Glück①
9. Louise Glück②
10. Louise Glück③
11. Louise Glück④
12. Louise Glück⑤
13. Louise Glück⑥
14. 全体講評会

履修者の習熟度や関心に合わせて上記の予定表には多少の変更あり。

履修上の注意

授業は担当者の発表を中心に進められるが、担当者以外の学生も授業前に作品を精読し、積極的に議論に参加してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は配布資料の作成と共に口頭発表の準備をする。各自、詩作品を精読し、自分なりの問いを明確に持って授業に臨む。

教科書

- ① Dickinson, Emily. *The Poems of Emily Dickinson: Reading Edition*. Edited by R. W. Franklin. 1998. Harvard UP, 2005.
- ② Glück, Louise. *Vita Nova*. 1999. Ecco Press, 2001.

参考書

- ③ Glück, Louise. *The Wild Iris*. 1992. Ecco Press, 1993.
- ④ Glück, Louise. *Proofs and Theories*. Ecco Press, 1994.
- ⑤ Glück, Louise. *Poems 1962-2012*. 2012. Farrar, Straus and Giroux, 2013. ②③も収録されている。

課題に対するフィードバックの方法

発表については教場で改善点を指導し、レポートについては(希望者に)添削コメントを返却する。

成績評価の方法

最終レポート 50%。平常点(口頭発表、議論への参加、出席) 50%。原則として全授業回数の3分の2以上の出席が必要。

その他

アメリカ詩を今まであまり読んでこなかった人も、関心のある人は是非参加して下さい。これまでの知識の有無ではなく、授業参加後の積極性・努力を評価します。

科目ナンバー：(AL) LIT522J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習ⅣB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 梶原 照子		

授業の概要・到達目標

〈アメリカ詩における喪失と愛—Li-Young Leeを中心に—〉
 アメリカ詩では喪失と愛をどのように表現しているのか。あるいは、逆に、詩人が体感する喪失と愛が詩を生み出す根源的な力なのではないかと問う方が適切か。このような喪失と愛と詩作の関係を紐解いているように思えるのが、現代アメリカ詩人Li-Young Leeの詩作品である。中国系アメリカ人の詩人リーは、言語における“foreignness”(異質性)を、移民体験に由来するものではなく、人間に普遍的なある種の真実として詩作品で表現し、また、インタビューで語ってきた。この授業では、リーの最新作*The Invention of the Darling* (2024)を中心に、まさに今現在の私達にとっての喪失と愛と言葉の問題について考えてみたい。

授業内容

リー・ヤン・リーの初期の代表作から出発し、学期始めの数は1986年の*Rose*から2018年の*The Undressing*までの詩作を辿る。学期の中盤から、最新作*The Invention of the Darling* (2024)を精読していく。

全体を通して、テキストを分析・批評し、学術論文を書く技術については、授業中の発表(担当する詩作品・散文の精読・分析、批評の紹介)と最終レポートの作成を通して、具体的に学ぶ。

授業予定

1. イントロダクション
2. Li-Young Lee. *Rose* (1986)
3. *The City in Which I Love You* (1990)
4. *Book of My Nights* (2001); *Behind My Eyes* (2008).
5. *The Undressing* (2018)
6. *The Invention of the Darling* (2024)①
7. *The Invention of the Darling* ②
8. *The Invention of the Darling* ③
9. *The Invention of the Darling* ④
10. *The Invention of the Darling* ⑤
11. *The Invention of the Darling* ⑥
12. *The Invention of the Darling* ⑦
13. *The Invention of the Darling* ⑧
14. 全体講評会

履修者の習熟度や関心に合わせて、上記の予定表には多少の変更あり。

履修上の注意

授業は担当者の発表を中心に進められるが、担当者以外の学生も授業前に作品を精読し、積極的に議論に参加してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は配布資料の作成と共に口頭発表の準備をする。各自、テキストを精読し、自分なりの問いを明確に持って授業に臨む。

教科書

- ① Lee, Li-Young. *The Invention of the Darling*. W. W. Norton, 2024.

参考書

- ② Lee, Li-Young. *Rose*. BOA, 1986.
- ③ Lee, Li-Young. *The City in Which I Love You*. BOA, 1990.
- ④ Lee, Li-Young. *Book of My Nights*. BOA, 2001.
- ⑤ Lee, Li-Young. *Behind My Eyes*. W. W. Norton, 2008.
- ⑥ Lee, Li-Young. *The Undressing: Poems*. W. W. Norton, 2018.
- ⑦ Lee, Li-Young. *From Blossoms: Selected Poems*. Bloodaxe, 2007.
- *②~④の一部は、この⑦の選詩集に収録されている。
- ⑧ Lee, Li-Young. *The Winged Seed: A Remembrance*. Hungry Mind, 1995.
- ⑨ Lee, Li-Young. *Breaking the Alabaster Jar: Conversations with Li-Young Lee*. BOA, 2006.

課題に対するフィードバックの方法

授業中の発表については教場で改善点を指導し、レポートについては(希望者に)添削コメントを返却する。

成績評価の方法

最終レポート 50%。平常点(口頭発表、議論への参加、出席) 50%。原則として全授業回数の3分の2以上の出席が必要。

その他

アメリカ詩を今まであまり読んでこなかった人も、関心のある人は是非参加して下さい。これまでの知識の有無ではなく、授業参加後の積極性・努力を評価します。

科目ナンバー：(AL) LIT622J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習IVC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	梶原 照子	

授業の概要・到達目標

〈アメリカ詩における悲痛—Emily DickinsonとLouise Glückを中心に—〉
 アメリカ詩において悲痛はどのように表現されてきたのか。あるいは、逆に、詩人が抱く悲痛が詩を生み出す根源的な力となっているのではないかと問う方が適切か。古典アメリカ詩を代表する女性詩人Emily Dickinson(1830-56)と現代アメリカ詩を代表するノーベル文学賞詩人Louise Glück(1943-2023)の詩作品を中心に、悲痛と詩の関係について考察してみよう。

授業内容

学期前半は、デイキンソンの詩作品から悲痛 (Grief, Pain, Wo) を主題にした詩篇を取り挙げて精読していく。

学期後半は、グリュックの *Vita Nova*(1999)を中心に、*The Wild Iris*(1992)や *Ararat*(1990)から数篇、主題上重要な作品を取り挙げて考察していく。グリュックの評論を参照枠に、履修者の関心によっては、Sylvia Plath (1932-63)の作品も取り挙げる。

全体を通して、テキストを分析・批評し、学術論文を書く技術については、授業中の発表(担当する詩作品・散文の精読・分析、批評の紹介)と最終レポートの作成を通して、具体的に学ぶ。

授業予定

1. イントロダクション
2. Dickinson①
3. Dickinson②
4. Dickinson③
5. Dickinson④
6. Dickinson⑤
7. Louise Glück評論、その他Dickinson批評
8. Louise Glück①
9. Louise Glück②
10. Louise Glück③
11. Louise Glück④
12. Louise Glück⑤
13. Louise Glück⑥
14. 全体講評会

履修者の習熟度や関心に合わせて上記の予定表には多少の変更あり。

履修上の注意

授業は担当者の発表を中心に進められるが、担当者以外の学生も授業前に作品を精読し、積極的に議論に参加してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は配布資料の作成と共に口頭発表の準備をする。各自、詩作品を精読し、自分なりの問いを明確に持って授業に臨む。

教科書

- ① Dickinson, Emily. *The Poems of Emily Dickinson: Reading Edition*. Edited by R. W. Franklin. 1998. Harvard UP, 2005.
- ② Glück, Louise. *Vita Nova*. 1999. Ecco Press, 2001.

参考書

- ③ Glück, Louise. *The Wild Iris*. 1992. Ecco Press, 1993.
- ④ Glück, Louise. *Proofs and Theories*. Ecco Press, 1994.
- ⑤ Glück, Louise. *Poems 1962-2012*. 2012. Farrar, Straus and Giroux, 2013. ②
- ③も収録されている。

課題に対するフィードバックの方法

発表については教場で改善点などを指導し、レポートについては(希望者に)添削コメントを返却する。

成績評価の方法

最終レポート 50%。平常点(口頭発表、議論への参加、出席) 50%。原則として全授業回数の3分の2以上の出席が必要。

その他

アメリカ詩を今まであまり読んでこなかった人も、関心のある人は是非参加して下さい。これまでの知識の有無ではなく、授業参加後の積極性・努力を評価します。

科目ナンバー：(AL) LIT622J			
英文学専攻		備考	
科目名	米文学演習IVD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	梶原 照子	

授業の概要・到達目標

〈アメリカ詩における喪失と愛—Li-Young Leeを中心に—〉
 アメリカ詩では喪失と愛をどのように表現しているのか。あるいは、逆に、詩人が体感する喪失と愛が詩を生み出す根源的な力なのではないかと問う方が適切か。このような喪失と愛と詩作の関係を紐解いているように思えるのが、現代アメリカ詩人Li-Young Leeの詩作品である。中国系アメリカ人の詩人リーは、言語における“foreignness”(異質性)を、移民体験に由来するものではなく、人間に普遍的なある種の真実として詩作品で表現し、また、インタビューで語ってきた。この授業では、リーの最新作 *The Invention of the Darling* (2024)を中心に、まさに今現在の私達にとっての喪失と愛と言葉の問題について考えてみたい。

授業内容

リー・ヤン・リーの初期の代表作から出発し、学期始めの数は1986年の *Rose*から2018年の *The Undressing*までの詩作を辿る。学期の中盤から、最新作 *The Invention of the Darling*(2024)を精読していく。

全体を通して、テキストを分析・批評し、学術論文を書く技術については、授業中の発表(担当する詩作品・散文の精読・分析、批評の紹介)と最終レポートの作成を通して、具体的に学ぶ。

授業予定

1. イントロダクション
2. Li-Young Lee, *Rose* (1986)
3. *The City in Which I Love You* (1990)
4. *Book of My Nights* (2001); *Behind My Eyes* (2008).
5. *The Undressing* (2018)
6. *The Invention of the Darling* (2024)①
7. *The Invention of the Darling* ②
8. *The Invention of the Darling* ③
9. *The Invention of the Darling* ④
10. *The Invention of the Darling* ⑤
11. *The Invention of the Darling* ⑥
12. *The Invention of the Darling* ⑦
13. *The Invention of the Darling* ⑧
14. 全体講評会

履修者の習熟度や関心に合わせて、上記の予定表には多少の変更あり。

履修上の注意

授業は担当者の発表を中心に進められるが、担当者以外の学生も授業前に作品を精読し、積極的に議論に参加してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は配布資料の作成と共に口頭発表の準備をする。各自、テキストを精読し、自分なりの問いを明確に持って授業に臨む。

教科書

- ① Lee, Li-Young. *The Invention of the Darling*. W. W. Norton, 2024.

参考書

- ② Lee, Li-Young. *Rose*. BOA, 1986.
- ③ Lee, Li-Young. *The City in Which I Love You*. BOA, 1990.
- ④ Lee, Li-Young. *Book of My Nights*. BOA, 2001.
- ⑤ Lee, Li-Young. *Behind My Eyes*. W. W. Norton, 2008.
- ⑥ Lee, Li-Young. *The Undressing: Poems*. W. W. Norton, 2018.
- ⑦ Lee, Li-Young. *From Blossoms: Selected Poems*. Bloodaxe, 2007.
- *②~④の一部は、この⑦の選詩集に収録されている。
- ⑧ Lee, Li-Young. *The Winged Seed: A Remembrance*. Hungry Mind, 1995.
- ⑨ Lee, Li-Young. *Breaking the Alabaster Jar: Conversations with Li-Young Lee*. BOA, 2006.

課題に対するフィードバックの方法

授業中の発表については教場で改善点を指導し、レポートについては(希望者に)添削コメントを返却する。

成績評価の方法

最終レポート 50%。平常点(口頭発表、議論への参加、出席) 50%。原則として全授業回数の3分の2以上の出席が必要。

その他

アメリカ詩を今まであまり読んでこなかった人も、関心のある人は是非参加して下さい。これまでの知識の有無ではなく、授業参加後の積極性・努力を評価します。

科目ナンバー：(AL) LIN542J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師	新城 真里奈	

授業の概要・到達目標

この授業は、英語音声学・音韻論に関する専門性の高い英語論文を読み解く場とします。履修学生に自身の研究に必要な論文を持ち寄っていただき、英文を正確に理解するだけでなく、論文で用いられている手法や結果・考察についてを批判的に検討する力を養います。英語音声学の中級程度の知識があることを前提として進めます。論文は英語音声学に関するものであれば、トピックは問いません。ご自身の研究テーマに合った論文を選んでください。自身の興味のあるテーマに関する知識を深めるだけでなく、他の履修者が持ち寄る論文を通して様々な研究上の手法や理論に触れ、幅広い知識を身に付けることを目標とします。

履修を希望する場合は、必ず初回の授業に出席してください。特殊な事情で出席できない場合は、必ずメール等で連絡すること。

授業内容

授業の内容や進度は受講者にあわせて調整する可能性があるが、以下の通りに予定している。

第1回

ガイダンス

第2～13回

英語論文を批判的に読む

(持ち寄る論文によって調整しますが、2週に1本程度のペースを予定しています。履修者全員が事前に論文を読んできていることを前提として授業を進めます。)

第14回

春学期のまとめ

履修上の注意

英語音声学に関する中級程度の知識を前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分が選んだ論文はもちろんのこと、他の学生が選んだ論文も事前に読んで来る必要があります。事前の予習の段階で、疑問点や批判点を見つけて、議論に参加できる状態で授業に出席すること。

教科書

特にありません。履修者に論文を選んでいただきます。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での貢献度50%，学期末レポート50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN542J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師	新城 真里奈	

授業の概要・到達目標

この授業は、英語音声学・音韻論に関する専門性の高い英語論文を読み解く場とします。履修学生に自身の研究に必要な論文を持ち寄っていただき、英文を正確に理解するだけでなく、論文で用いられている手法や結果・考察についてを批判的に検討する力を養います。英語音声学の中級程度の知識があることを前提として進めます。論文は英語音声学に関するものであれば、トピックは問いません。ご自身の研究テーマに合った論文を選んでください。自身の興味のあるテーマに関する知識を深めるだけでなく、他の履修者が持ち寄る論文を通して様々な研究上の手法や理論に触れ、幅広い知識を身に付けることを目標とします。

履修を希望する場合は、必ず初回の授業に出席してください。特殊な事情で出席できない場合は、必ずメール等で連絡すること。

授業内容

授業の内容や進度は受講者にあわせて調整する可能性があるが、以下の通りに予定している。

第1回

ガイダンス

第2～13回

英語論文を批判的に読む

(持ち寄る論文によって調整しますが、2週に1本程度のペースを予定しています。履修者全員が事前に論文を読んできていることを前提として授業を進めます。)

第14回

秋学期のまとめ

履修上の注意

英語音声学に関する中級程度の知識を前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分が選んだ論文はもちろんのこと、他の学生が選んだ論文も事前に読んで来る必要があります。事前の予習の段階で、疑問点や批判点を見つけて、議論に参加できる状態で授業に出席すること。

教科書

特にありません。履修者に論文を選んでいただきます。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度50%，学期末レポート50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN642J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習 IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師	新城 真里奈	

授業の概要・到達目標

この授業は、英語音声学・音韻論に関する専門性の高い英語論文を読み解く場とします。履修学生に自身の研究に必要な論文を持ち寄っていただき、英文を正確に理解するだけでなく、論文で用いられている手法や結果・考察についてを批判的に検討する力を養います。英語音声学の中級程度の知識があることを前提として進めます。論文は英語音声学に関するものであれば、トピックは問いません。ご自身の研究テーマに合った論文を選んでください。自身の興味のあるテーマに関する知識を深めるだけでなく、他の履修者が持ち寄る論文を通して様々な研究上の手法や理論に触れ、幅広い知識を身に付けることを目標とします。

履修を希望する場合は、必ず初回の授業に出席してください。特殊な事情で出席できない場合は、必ずメール等で連絡すること。

授業内容

授業の内容や進度は受講者にあわせて調整する可能性があるが、以下の通りに予定している。

第1回

ガイダンス

第2～13回

英語論文を批判的に読む

(持ち寄る論文によって調整しますが、2週に1本程度のペースを予定しています。履修者全員が事前に論文を読んできていることを前提として授業を進めます。)

第14回

春学期のまとめ

履修上の注意

英語音声学に関する中級程度の知識を前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分が選んだ論文はもちろんのこと、他の学生が選んだ論文も事前に読んで来る必要があります。事前の予習の段階で、疑問点や批判点を見つけて、議論に参加できる状態で授業に出席すること。

教科書

特にありません。履修者に論文を選んでいただきます。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度50%、学期末レポート50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN642J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習 ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師	新城 真里奈	

授業の概要・到達目標

この授業は、英語音声学・音韻論に関する専門性の高い英語論文を読み解く場とします。履修学生に自身の研究に必要な論文を持ち寄っていただき、英文を正確に理解するだけでなく、論文で用いられている手法や結果・考察についてを批判的に検討する力を養います。英語音声学の中級程度の知識があることを前提として進めます。論文は英語音声学に関するものであれば、トピックは問いません。ご自身の研究テーマに合った論文を選んでください。自身の興味のあるテーマに関する知識を深めるだけでなく、他の履修者が持ち寄る論文を通して様々な研究上の手法や理論に触れ、幅広い知識を身に付けることを目標とします。

履修を希望する場合は、必ず初回の授業に出席してください。特殊な事情で出席できない場合は、必ずメール等で連絡すること。

授業内容

授業の内容や進度は受講者にあわせて調整する可能性があるが、以下の通りに予定している。

第1回

ガイダンス

第2～13回

英語論文を批判的に読む

(持ち寄る論文によって調整しますが、2週に1本程度のペースを予定しています。履修者全員が事前に論文を読んできていることを前提として授業を進めます。)

第14回

秋学期のまとめ

履修上の注意

英語音声学に関する中級程度の知識を前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分が選んだ論文はもちろんのこと、他の学生が選んだ論文も事前に読んで来る必要があります。事前の予習の段階で、疑問点や批判点を見つけて、議論に参加できる状態で授業に出席すること。

教科書

特にありません。履修者に論文を選んでいただきます。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度50%、学期末レポート50%

その他

科目ナンバー: (AL) LIN542J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	石井 透	

授業の概要・到達目標

この授業では, Hornstein, Nunes, and Grohmann (2005) Understanding Minimalism をテキストに用いて, 生成文法でのGB理論および極小主義モデルを概観します。

具体的には, GB理論から極小主義モデルへの変遷, theta 領域, 格領域, 移動と最小性, 句構造について, 具体的な統語現象の分析と練習問題を通じて徐々に身に付けていく予定です。

授業内容

1. Introduction
2. The Minimalist Project
3. Some Architectural Issues in a Minimalist Setting (1)
4. Some Architectural Issues in a Minimalist Setting (2)
5. Theta Domains (1)
6. Theta Domains (2)
7. Theta Domains (3)
8. Case Domains (1)
9. Case Domains (2)
10. Case Domains (3)
11. Movement and Minimality Effects (1)
12. Movement and Minimality Effects (2)
13. Phrase Structure (1)
14. Phrase Structure (2)

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の該当箇所は事前に読んで下さい。

教科書

Hornstein, Norbert, Jairo Nunes, and Kleanthes Grohmann (2005) Understanding Minimalism, Cambridge University Press.

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法**成績評価の方法**

Presentations and Class Participation 20%, Homework 30%, Take-home Mid-term 20%, Final Squib 30%

その他

科目ナンバー: (AL) LIN542J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	石井 透	

授業の概要・到達目標

この授業では, Hornstein, Nunes, and Grohmann (2005) Understanding Minimalism をテキストに用いて, 生成文法でのGB理論および極小主義モデルを概観します。

具体的には, 線状化, 束縛理論, 素性解釈性と素性照合, 派生的経済性について, 具体的な統語現象の分析と練習問題を通じて徐々に身に付けていく予定です。

授業内容

1. Linearization (1)
2. Linearization (2)
3. Linearization (3)
4. Binding Theory (1)
5. Binding Theory (2)
6. Binding Theory (3)
7. Feature Interpretability and Feature Checking (1)
8. Feature Interpretability and Feature Checking (2)
9. Feature Interpretability and Feature Checking (3)
10. Derivational Economy (1)
11. Derivational Economy (2)
12. Derivational Economy (3)
13. Review (1)
14. Review (2)

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の該当箇所は事前に読んで下さい。

教科書

Hornstein, Norbert, Jairo Nunes, and Kleanthes Grohmann (2005) Understanding Minimalism, Cambridge University Press.

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法**成績評価の方法**

Presentations and Class Participation 20%, Homework 30%, Take-home Mid-term 20%, Final Squib 30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN642J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	石井 透	

授業の概要・到達目標

この授業では、Hornstein, Nunes, and Grohmann (2005) Understanding Minimalism をテキストに用いて、生成文法でのGB理論および極小主義モデルを概観します。

具体的には、GB理論から極小主義モデルへの変遷、theta領域、格領域、移動と最小性、句構造について、具体的な統語現象の分析と練習問題を通じて徐々に身に付けていく予定です。

授業内容

1. Introduction
2. The Minimalist Project
3. Some Architectural Issues in a Minimalist Setting (1)
4. Some Architectural Issues in a Minimalist Setting (2)
5. Theta Domains (1)
6. Theta Domains (2)
7. Theta Domains (3)
8. Case Domains (1)
9. Case Domains (2)
10. Case Domains (3)
11. Movement and Minimality Effects (1)
12. Movement and Minimality Effects (2)
13. Phrase Structure (1)
14. Phrase Structure (2)

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の該当箇所は事前に読んで下さい。

教科書

Hornstein, Norbert, Jairo Nunes, and Kleanthes Grohmann (2005) Understanding Minimalism, Cambridge University Press.

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

Presentations and Class Participation 20 % , Homework 30% , Take-home Mid-term 20% , Final Squib 30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN642J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	石井 透	

授業の概要・到達目標

この授業では、Hornstein, Nunes, and Grohmann (2005) Understanding Minimalism をテキストに用いて、生成文法でのGB理論および極小主義モデルを概観します。

具体的には、線状化、束縛理論、素性解釈性と素性照合、派生的経済性について、具体的な統語現象の分析と練習問題を通じて徐々に身に付けていく予定です。

授業内容

1. Linearization (1)
2. Linearization (2)
3. Linearization (3)
4. Binding Theory (1)
5. Binding Theory (2)
6. Binding Theory (3)
7. Feature Interpretability and Feature Checking (1)
8. Feature Interpretability and Feature Checking (2)
9. Feature Interpretability and Feature Checking (3)
10. Derivational Economy (1)
11. Derivational Economy (2)
12. Derivational Economy (3)
13. Review (1)
14. Review (2)

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の該当箇所は事前に読んで下さい。

教科書

Hornstein, Norbert, Jairo Nunes, and Kleanthes Grohmann (2005) Understanding Minimalism, Cambridge University Press.

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

Presentations and Class Participation 20 % , Homework 30% , Take-home Mid-term 20% , Final Squib 30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN542J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授	久保田 俊彦	

授業の概要・到達目標

Aarts, Cushing & Hudson (2018) を手がかりに、学校における英文法教育について考える。教科書は英国内の英語教員(国語教員)に向けて書かれたものであるが、日本の教育現場に応用可能な論点、アイデアに富んでいる。

英国内で英語(国語)文法がどのように教えられているかについて知ったのち、伝統的・教育的文法の中でのバリエーションを確認する。中学・高校英語教員を志望する受講者には特に有益な内容となるはずである。

授業内容

- 以下の進行を予定している。
- National Curriculumと学習指導要領
 - National Curriculum
 - 学習指導要領
 - 教育のトレンド
 - Aarts, Cushing & Hudson (2018)
 - Ch. 13. Creating meaning
 - Ch. 14. The language of conversation
 - Ch. 15. Grammar and spelling
 - Ch. 16. Punctuation
 - Ch. 17. Viewpoint
 - Ch. 18. Variation
 - その他の各論
 - トピック1
 - トピック2

履修上の注意

随時受講者による報告・発表を行なってもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

自身が高校で使用した教科書、参考書の記述も確認すると良い。

教科書

Aarts, B. (2024). *English Syntax and Argumentation* (6th ed.). London: Palgrave Macmillan.

Aarts, B., Cushing, I., & Hudson, R. (2018). *How to Teach Grammar*. Oxford: Oxford University Press.

参考書

Biber, D., Johansson, S., Leech, G., Conrad, S., & Finegan, E. (1999). *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson Education.

Huddleston, R. D., & Pullum, G. K. (2002). *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.

Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G., & Svartvik, J. (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Harlow: Longman.

各種日本の文法書。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

授業内での発表等65%、レポート35%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN542J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授	久保田 俊彦	

授業の概要・到達目標

計量的なテキスト分析の応用分野の中から、著者推定問題を扱う。重要な論文の講読し、使用された手法の意味を理解してもらう。期間中あるいは期末のレポートとして受講者による分析例を報告してもらう。

授業内容

以下の進行を予定している。

- 計量的著者推定とは
 - 史的概観 (1)
 - 史的概観 (2)
 - 手法入門 (1) テキスト操作
 - 手法入門 (2) 数値・統計
 - 手法入門 (3) 数値・統計
- 文学作品と著者推定
 - 論文1 (1)
 - 論文1 (2)
 - 論文2 (1)
 - 論文2 (2)
 - まとめ
- より高度な著者推定
 - 論文3 (1)
 - 論文3 (2)
 - 論文4 (1)
 - 論文4 (2)

履修上の注意

この分野についてある程度の知識を持っていることが望ましいが、実際の受講者のレベルに応じて内容、進度を調整する。

準備学習(予習・復習等)の内容

分析対象のテキストについて、よく理解しておくこと。

教科書

研究論文を使用するため特定の書籍教科書は使用しない予定。

参考書

Oakes, M. P. (2014) *Literary Detective Work on the Computer*. Amsterdam: John Benjamins.

石川慎一郎他(2010)『言語研究のための統計入門』東京：くろしお出版。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

授業内での発表等65%、レポート35%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN642J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 久保田 俊彦		

授業の概要・到達目標

Aarts, Cushing & Hudson (2018) を手がかりに、学校における英文法教育について考える。教科書は英国内の英語教員(国語教員)に向けて書かれたものであるが、日本の教育現場に応用可能な論点、アイデアに富んでいる。

英国内で英語(国語)文法がどのように教えられているかについて知ったのち、伝統的・教育的文法の中でのバリエーションを確認する。中学・高校英語教員を志望する受講者には特に有益な内容となるはずである。

授業内容

以下の進行を予定している。

1. National Curriculumと学習指導要領
 - 1.1 National Curriculum
 - 1.2 学習指導要領
 - 1.3 教育のトレンド
2. Aarts, Cushing & Hudson (2018)
 - 2.1 Ch. 13. Creating meaning
 - 2.2 Ch. 14. The language of conversation
 - 2.3 Ch. 15. Grammar and spelling
 - 2.4 Ch. 16. Punctuation
 - 2.5 Ch. 17. Viewpoint
 - 2.6 Ch. 18. Variation
3. その他の各論
 - 3.1 トピック1
 - 3.2 トピック2

履修上の注意

随時受講者による報告・発表を行なってもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

自身が高校で使用した教科書、参考書の記述も確認すると良い。

教科書

Aarts, B. (2024). *English Syntax and Argumentation* (6th ed.). London: Palgrave Macmillan.

Aarts, B., Cushing, I., & Hudson, R. (2018). *How to Teach Grammar*. Oxford: Oxford University Press.

参考書

Biber, D., Johansson, S., Leech, G., Conrad, S., & Finegan, E. (1999). *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson Education.

Huddleston, R. D., & Pullum, G. K. (2002). *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.

Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G., & Svartvik, J. (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Harlow: Longman.

各種日本の文法書。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

授業内での発表等65%、レポート35%

その他

科目ナンバー：(AL) LIN642J			
英文学専攻	備考		
科目名	英語学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 久保田 俊彦		

授業の概要・到達目標

計量的なテキスト分析の応用分野の中から、著者推定問題を扱う。重要な論文の講読し、使用された手法の意味を理解してもらう。期間中あるいは期末のレポートとして受講者による分析例を報告してもらう。

授業内容

以下の進行を予定している。

1. 計量的著者推定とは
 - 1.1 史的概観 (1)
 - 1.2 史的概観 (2)
 - 1.3 手法入門 (1) テキスト操作
 - 1.4 手法入門 (2) 数値・統計
 - 1.5 手法入門 (3) 数値・統計
2. 文学作品と著者推定
 - 2.1 論文1 (1)
 - 2.2 論文1 (2)
 - 2.3 論文2 (1)
 - 2.4 論文2 (2)
 - 2.5 まとめ
3. より高度な著者推定
 - 3.1 論文3 (1)
 - 3.2 論文3 (2)
 - 3.3 論文4 (1)
 - 3.4 論文4 (2)

履修上の注意

この分野についてある程度の知識を持っていることが望ましいが、実際の受講者のレベルに応じて内容、進度を調整する。

準備学習(予習・復習等)の内容

分析対象のテキストについて、よく理解しておくこと。

教科書

研究論文を使用するため特定の書籍教科書は使用しない予定。

参考書

Oakes, M. P. (2014) *Literary Detective Work on the Computer*. Amsterdam: John Benjamins.

石川慎一郎他(2010)『言語研究のための統計入門』東京：くろしお出版。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

授業内での発表等65%、レポート35%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT521J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特論I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼担教授		辻 昌宏

授業の概要・到達目標

《授業の概要》エリザベス朝から17世紀末にいたる英詩を時代順に選んで精読しながら、詩の形式、リズムと詩らしい表現の味わい方を習得する。個々の詩を精読すると同時に、詩人の生涯及び詩人の生きた時代についても理解を深めていく。

《到達目標》英詩の韻律の基礎を理解し、詩の形式の特徴を理解し、詩が産み出された各時代の政治的・文化的背景、詩人の生涯を調べながら、詩の歴史の概要を把握する。つまり、詩をめぐって、詩の表現技法を把握する手法を身につけると同時に、詩を生み出す個人、時代、詩の伝統を総合的に理解できるようにする。

授業内容

英詩の基礎的な約束事、レトリックを理解し、16世紀から18世紀にわたる英詩の特徴をとらえていく。

- 第1回 イントロダクション(詩とは何だろうか?)
- 第2回 16, 17世紀のソネット その1
- 第3回 16, 17世紀のソネット その2
- 第4回 16, 17世紀のソネット その3
- 第5回 形而上詩人の詩 その1
- 第6回 形而上詩人の詩 その2
- 第7回 形而上詩人の詩 その3
- 第8回 ミルトン その1
- 第9回 ミルトン その2
- 第10回 ミルトン その3
- 第11回 ドライデン その1
- 第12回 ドライデン その2
- 第13回 ドライデン その3
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

詩を読む際には、あらゆる感覚を全開にして、なぜ「この表現」あるいはこのレトリックが選ばれたのかを考えながら読むようにして欲しい。また、どんな韻を用いているか、あるいは自由詩(無韻)なのかを区別しながら読みすすめていく。詩を読んだ経験は前提とせず、詩を読む基礎からすすめていく。詩人の生涯、生きた時代についても関心を持ち調べることを。

授業内容は暫定的なもので、履修者が読むことを希望する詩人があれば、可能なかぎり希望に応じます。遠慮なく申し出てください。

準備学習(予習・復習等)の内容

詩を音読し、リズムや韻の響きあいを感じてみることを。
詩人の生涯やその時代について文学辞典やインターネットで調べてみることを。

教科書

プリントを配布する。

参考書

Margaret Ferguson, Tim Kendall ed. *The Norton Anthology of Poetry*を基本とし、詩人ごとに順次紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

メールでコメントを付けて返却する。

成績評価の方法

1. 授業で自分が担当した詩や批評に関する発表 50%
2. 授業中の意見・解釈表明や質問 25%
3. レポート(半期に1回の予定) 25%

その他

詩を読むことに不慣れな人、ほとんど読んで経験のない人も歓迎します。詩の基本的形式・レトリックについては、初歩から丁寧に説明していきます。

科目ナンバー：(AL) LIT521J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特論I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼担教授		辻 昌宏

授業の概要・到達目標

《授業の概要》18世紀の詩、ロマン派の詩、19世紀末の詩そして現代詩にいたる様々な時代、多様なジャンルの英詩を精読しながら、詩の表現、リズム、韻律を学んでいく。ロマン主義については、それを産み出した時代の状況、思想についても深掘りしていく。

《到達目標》英詩の韻律の基本を理解する。その上で、さらに、韻律の基本から逸脱したフリーヴァースを理解し、味わい方を習得する。定型詩とフリーヴァースそれぞれの特徴を解析し、味わえるようにする。ロマン主義の特徴とそれが出現した時代状況を理解する。各詩人の生涯を知り、詩人の詩作品と生涯、時代の相互に入り組んだ関係を把握する。

授業内容

- 第1回 ポープの詩 その1
- 第2回 ポープの詩 その2
- 第3回 ポープの詩 その3
- 第4回 ロマン派の詩 その1
- 第5回 ロマン派の詩 その2
- 第6回 ロマン派の詩 その3
- 第7回 ロマン派の詩 その4
- 第8回 ヴィクトリア朝詩人の詩 その1
- 第9回 ヴィクトリア朝詩人の詩 その2
- 第10回 ヴィクトリア朝詩人の詩 その3
- 第11回 世紀末詩人の詩
- 第12回 20世紀の詩 その1
- 第13回 20世紀の詩 その2
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

詩を読む際には、あらゆる感覚を全開にして、なぜ「この表現」あるいは「このレトリック」が選ばれたのかを考えてみよう。

詩人の生涯を調べ、生きた時代を知り、詩人の個性、詩の表現の形成された背景を知ろう。

取り上げる詩については、受講者の希望を尊重します。

準備学習(予習・復習等)の内容

詩の音読をすること。
詩人の生涯を文学辞典やインターネットで調べることを。

教科書

プリントを配布する。

参考書

Margaret Ferguson, Tim Kendall ed. *The Norton Anthology of Poetry*を基本とし、詩人ごとに順次紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

メールでコメントを付けて返却する。

成績評価の方法

1. 授業で自分が担当した詩や批評に関する発表 50%
2. 授業中の意見・解釈表明や質問 25%
3. レポート(半期に1回の予定) 25%

その他

詩を読むことに不慣れな人、経験の乏しい人も歓迎します。詩の基本的形式・レトリックについては、初歩から説明していきます。楽しく詩を読み、それぞれの時代に詩人はどう個性的だったり、時には差別を受けたりしたのか、どういう悩みや抑圧があったのか、それが転じてユニークな言語表現を産出するにいたったのかを考察してみよう。

科目ナンバー：(AL) LIT521J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任講師	塚田 麻里子	

授業の概要・到達目標

第一次世界大戦前後に書かれたイギリスの小説、ならびに詩を読み、「戦争」という主題が文学作品のなかでどのように表現されているのかを考察します。第一次世界大戦では大量殺戮兵器が登場し、これまで見たことのないような光景に人類を直面させました。もはや「英雄」の存在しないその戦争は、「勇気」の概念をも変えたと言われています(S・ハインズ『兵士の物語』参照)。戦争体験はいかにして物語る・伝達することができるのか、今日の読者として「戦争文学」にどのように向き合うのか—これらの問題について、視聴覚資料も活用しながら考えていく予定です。

授業内容

- 以下は、あくまで予定ですので、一部変更することもあります。
- 第1回：授業内容・予定の説明/初回アンケート
 - 第2回：第一次世界大戦について(1)：大量殺戮兵器の登場、塹壕戦
 - 第3回：第一次世界大戦について(2)：シェルショック、戦線離脱、良心的兵役拒否
 - 第4回：第一次世界大戦について(3)：西部戦線以外の戦場、「世界」大戦
 - 第5回：戦争詩人(1)：第一次大戦期の詩について(CD鑑賞を含む)
 - 第6回：戦争詩人(2)：SassoonとGraves/OwenとSassoonの関係など
 - 第7回：第一次世界大戦を題材にした小説の紹介(1)
 - 第8回：第一次世界大戦を題材にした小説の紹介(2)
 - 第9回：第一次世界大戦を題材にした小説の紹介(3)
 - 第10回：参考文献(批評)の紹介・一部読解
 - 第11回：ドキュメントタリー上映
 - 第12回：映画紹介・一部上映(1)：『彼らは生きていた』『素晴らしき戦争』『突撃』『銃殺』『トレンチ』など
 - 第13回：映画紹介・一部上映(2)
 - 第14回：春学期のまとめ/課題レポートについて説明

履修上の注意

資料としてプリントを多数用意します(データ、もしくは紙媒体で)。各自しっかり保管してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

第一次世界大戦について、何らかの資料(書籍や映像など)に触れておくと良いと思います。たとえば『映像の世紀』などのドキュメンタリーや上記の映画などがおすすめです。

教科書

プリントを配布予定。

参考書

必要に応じて、授業内で紹介・解説します。

課題に対するフィードバックの方法

各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-ol Meijiシステム等を利用して実施する予定です。

成績評価の方法

1. 平常点 40%
(意見・解釈の表明、各自担当分での発表などをもって判断します。)
2. レポート 60%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT521J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師	塚田 麻里子	

授業の概要・到達目標

第一次世界大戦前後に書かれたイギリスの小説、ならびに詩を読み、「戦争」という主題が文学作品のなかでどのように表現されているのかを考察します。第一次世界大戦では大量殺戮兵器が登場し、これまで見たことのないような光景に人類を直面させました。もはや「英雄」の存在しないその戦争は、「勇気」の概念をも変えたと言われています(S・ハインズ『兵士の物語』参照)。戦争体験はいかにして物語る・伝達することができるのか、今日の読者として戦争文学にどのように向き合うのか—これらの問題について、視聴覚資料も活用しながら考えていく予定です。今期では、春学期に取り上げることのできなかったイースター蜂起やスペイン内戦を中心に据えます。

授業内容

- 以下は、あくまで予定です。
- 第1回：授業内容・予定の説明/初回アンケート
 - 第2回：イースター蜂起について(1)：アイルランド問題とは何か
 - 第3回：イースター蜂起について(2)：Roger Casementをめぐる(その1)
 - 第4回：イースター蜂起について(3)：Roger Casementをめぐる(その2)
 - 第5回：イースター蜂起について(4)：Roger Casementをめぐる(その3)
 - 第6回：映画紹介・一部上映(1)：『麦の穂をゆらす風』などのケン・ローチ作品
 - 第7回：映画紹介・一部上映(2)
 - 第8回：映画紹介・一部上映(3)：『マイケル・コリンズ』など
 - 第9回：スペイン内戦について(1)：『武器をとる作家たち』
 - 第10回：スペイン内戦について(2)：George Orwellを中心に(その1)
 - 第11回：スペイン内戦について(3)：George Orwellを中心に(その2)
 - 第12回：映画紹介・一部上映(1)：『大地と自由』
 - 第13回：映画紹介・一部上映(2)
 - 第14回：秋学期のまとめ/課題レポートについて説明

履修上の注意

資料としてプリントを多数用意します(データ、あるいは紙媒体で)。各自しっかり保管してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

上記の映画を上映する場合、時間の都合上、授業内では一部しか上映できないので、あらかじめ全編通して見ておくことをお勧めします。

教科書

プリントを配布予定。参考書

参考書

必要に応じて、授業内で紹介・解説します。

課題に対するフィードバックの方法

各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-ol Meijiシステム等を利用して実施する予定です。

成績評価の方法

1. 平常点 40%
(意見・解釈の表明、各自担当分での発表などをもって判断します。)
2. レポート 60%

その他

科目ナンバー: (AL) LIN541J			
英文学専攻		備考	
科目名	英語学特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 市橋 久美子		

授業の概要・到達目標

毎回 課題とされた論文を読み進めながら、認知言語学（意味論・語用論・機能言語学を含む広義的な）に関する基本的な概念を学ぶ。その知識をもとに、英語の様々な現象を、特に意味や機能・認知の観点から分析できるようになることを目標とする。

授業内容

それぞれのトピックにおいて課題とされた論文を読み解き、必要な解説を加えたうえでディスカッションを行う。参加者の基礎知識レベルや興味に応じ、内容については柔軟に対応していく。

- 第1回 Orientation: Formal / Functional linguistics
- 第2回 Categorization
- 第3回 Semantic categories (1)
- 第4回 Semantic categories (2)
- 第5回 Iconicity
- 第6回 Lexical categories (1)
- 第7回 Lexical categories (2)
- 第8回 Lexical categories (3)
- 第9回 Lexical categories (4)
- 第10回 Lexical choice / pragmatics
- 第11回 Grammaticalization
- 第12回 Dative shift
- 第13回 Frequency effects
- 第14回 Presentation

履修上の注意

言語学の基礎知識があると望ましいが、必須ではない。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題とされた参考書・論文の該当箇所を授業前に読んでおくこと。

教科書

必要な論文はPDFで配布予定。

参考書

Grammar, Meaning and Pragmatics, edited by F. Brisard, et al. 2009 (John Benjamins)
「認知言語学と談話機能言語学の有機的接点」 中山俊秀・大谷直輝 編、2020（ひつじ書房）
「ファンダメンタル認知言語学」 野村益寛、2014（ひつじ書房）
「認知意味論」(シリーズ認知言語学入門第3巻) 松本曜 編、2003（大修館書店）

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説・講評を行う。

成績評価の方法

授業への取り組み:60%

学期中に各自1本課題論文を担当し概要を発表する。

レポート:40%

講義の内容をもとに各自のデータを使って最終回に発表、レポートにまとめて提出する。

その他

科目ナンバー: (AL) LIN541J			
英文学専攻		備考	
科目名	英語学特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 市橋 久美子		

授業の概要・到達目標

毎回 課題とされた論文を読み進めながら、認知言語学（意味論・語用論・機能言語学を含む広義的な）に関する基本的な概念を学ぶ。その知識をもとに、英語の様々な現象を、特に意味や機能・認知の観点から分析できるようになることを目標とする。

授業内容

それぞれのトピックにおいて課題とされた論文を読み解き、必要な解説を加えたうえでディスカッションを行う。参加者の基礎知識レベルや興味に応じ、内容については柔軟に対応していく。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Information flow
- 第3回 Discourse and grammar
- 第4回 Preferred Argument Structure
- 第5回 Transitivity (1)
- 第6回 Transitivity (2)
- 第7回 Topic continuity / cohesion (1)
- 第8回 Topic continuity / cohesion (2)
- 第9回 Rhetorical Structure Theory (RST)
- 第10回 Subordination (1)
- 第11回 Subordination (2)
- 第12回 Emergent Grammar / Usage-based Grammar (1)
- 第13回 Emergent Grammar / Usage-based Grammar (2)
- 第14回 Presentation

履修上の注意

春学期の英語学特論Aからの継続的内容。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題とされた参考書・論文の該当箇所を授業前に読んでおくこと。

教科書

必要な論文はPDFで配布予定。

参考書

Grammar, Meaning and Pragmatics, edited by F. Brisard, et al. 2009 (John Benjamins)
「認知言語学と談話機能言語学の有機的接点」 中山俊秀・大谷直輝 編、2020（ひつじ書房）
「ファンダメンタル認知言語学」 野村益寛、2014（ひつじ書房）
「認知意味論」(シリーズ認知言語学入門第3巻) 松本曜 編、2003（大修館書店）

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説・講評を行う。

成績評価の方法

授業への取り組み:60%

学期中に各自1本課題論文を担当し概要を発表する。

レポート:40%

講義の内容をもとに各自のデータを使って最終回に発表、レポートにまとめて提出する。

前期のレポートの内容を発展拡張させたものでも、全く別のトピックでも可。

その他

科目ナンバー: (AL) LIN561J			
英文学専攻		備考	
科目名	英語教職特論ⅠA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 吉村 由佳		

授業の概要・到達目標

普遍文法を科学的に記述しようとする「生成文法」とは違い、いわゆる「学校文法」は言語の用法を重視し、対象言語を習得するにあたって必要とされる文法といえる。本科目は主に英語教員志望の学生を想定し、Quirk et al. (1985) や Huddleston and Pullum (2002, 2005) などに見られる伝統文法の枠組みを理解することで、英語の習得に資する文法理論を概観する。また、英語学習者が知るべき言語現象が辞書ではどのように記述されているかを見ることで、中学・高校などの教育現場で活用できる英文法への理解を深める。

授業内容

毎回、授業初めに復習内容について的小テストをOh-ol Meijiを利用して行います。その後、教科書と配布資料を使って講義を行います。最後に授業内容の振り返りとしてOh-ol Meijiを利用して掲示板への書き込み活動を行います。

- 第1回 文法理論とは何か?
- 第2回 第1章前半、英文資料1
- 第3回 第1章後半、英文資料2
- 第4回 第2章前半、英文資料3
- 第5回 第2章後半、英文資料4
- 第6回 第3章前半、英文資料5
- 第7回 第3章後半、英文資料6
- 第8回 第4章前半、英文資料7
- 第9回 第4章後半、英文資料8
- 第10回 第5章前半、英文資料9
- 第11回 第5章後半、英文資料10
- 第12回 第6章前半、英文資料11
- 第13回 ここまでの達成度確認
- 第14回 a試験、bまとめ、解説

履修上の注意

理由のない欠席が3分の1を超える場合、単位認定はできません。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習部分や復習部分は毎週指示します。課題についてもその都度、指示します。

教科書

『英米の文法書に学ぶ 英文法基礎論』田子内 健介著(開拓社)
ISBN: 978-4758922944

参考書

- 1 辞書
学習英和辞典(『ウィズダム英和辞典』『ジーニアス英和辞典』など)や学習英英辞典(Longman Dictionary of Contemporary Englishなど)を必ず持参すること。紙の辞書・電子辞書・アプリ・オンライン辞書などメディアにはこだわらなくても、用法や例文を確認できるものを用意すること。
- 2 本
Biber, Johansson, Leech, Conrad, and Finegan (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Longman.
Huddleston and Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, Cambridge University Press.
Huddleston and Pullum (2005) *A Student's Introduction to English Grammar*. Cambridge University Press.
南出康世 (1998) 『英語の辞書と辞書学』大修館書店。
Quirk et al. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
Swan, M. (2017) *Practical English Usage (4th)*. Oxford University Press.
八木克正 (2011) 『英語の疑問 新解決法—伝統文法と言語理論を統合して』三省堂。

課題に対するフィードバックの方法

授業内もしくはOh-ol Meijiを使って説明します。

成績評価の方法

平常点(小テスト・書き込み活動・授業への貢献度など) 50%、期末試験50%

その他

科目ナンバー: (AL) LIN561J			
英文学専攻		備考	
科目名	英語教職特論ⅡA		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学) 中村 文紀		

授業の概要・到達目標

このクラスでは、英語の分析において役立つ意味論と語用論について学びます。言葉の意味は一見当たり前のように思えますが、厳密に分析しようとすると捉えどころがないものです。このような言葉の意味を探る分野が意味論です。また、表現の持つ意味を理解したとしても、実際の使用状況においては別の意味で使われることがあります。この文字通りの意味と使用状況における意味の違いを分析するのに役立つ概念を学ぶのが語用論です。この授業では、学んだ内容を活用して問題解決ができることを目標とします。意味論と語用論における概念や手法を、実際の言語現象に適用して説明することが評価の基準になります。理解と実践の間に存在するギャップは、思われているよりも大きいものです。この授業を通じて、単に意味論や語用論を知っているだけでなく、具体的な問題を解決するための実用的な知識と知恵を身につけていただきたいと思います。

授業内容

初めに担当者(グループ)を決めて、発表してもらい形で進めます。各回の授業進行は大きくは以下のように予定しています。

1. 担当者による教科書担当箇所の発表によって理解する。(理解)
2. 教員による発展的内容・具体的な研究事例の紹介によって使い方を考える。(発展)
3. 実際の(日)英語の例題・文例を用いて、実際に分析を試みる。(応用)

- 第1週 イントロダクション(担当者決め)、(目には見えない)意味とは何か?
- 第2週 Textbook Chapter 1 Studying meaning
- 第3週 Textbook Chapter 2 Sense relations
- 第4週 Textbook Chapter 3 Nouns
- 第5週 Textbook Chapter 4 Adjectives
- 第6週 Textbook Chapter 5 Verbs
- 第7週 Textbook Chapter 6 Tense and aspect
- 第8週 Textbook Chapter 7 Modality, scope and quantification
- 第9週 意味論と語用論の連続性: Today's semantics is yesterday's pragmatics.
- 第10週 Textbook Chapter 8 Pragmatic Inference
- 第11週 Textbook Chapter 9 Figurative language
- 第12週 Textbook Chapter 10 Utterance in context
- 第13週 Textbook Chapter 11 Doing things with words
- 第14週 意味の揺り、最終課題発表

受講者の人数・理解度によって授業方法・速度について変更があります。

履修上の注意

関連する授業(統語論、音声学、コーパス言語学、意味論)を取っておくと言語学全体における意味論・語用論の位置付けと有用性がより明確に理解できると思います。

準備学習（予習・復習等）の内容

<予習>
担当しているかどうかに関わらず、教科書の指定範囲を必ず読んで下さい。章末のExercisesについても担当者は(間違っても良いので)解答して下さい。

<復習>
学んだ内容と関連する日英語の実例を集め、分析してください。その時、どのようなデータが適切か考え選択できることも、意味論・語用論を使う上で重要な技能になります。

教科書

Griffiths, Patrick. (2023). *An Introduction to English Semantics and Pragmatics*. 3rd edition. Edinburgh University Press. ISBN: 9781399504614

参考書

- 関連する文献は、授業内で適宜紹介しますが、授業全体を通しては以下の書籍を参考文献として紹介します。
- Cruse, Alan D. (2006). *Glossary of Semantics and Pragmatics*. Edinburgh University Press.
- Cruse, Alan D. (2011). *Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics*. Oxford University Press. (片岡宏仁 (訳)). (2012). 『言語における意味: 意味論と語用論』. 東京電機大学出版局.)
- Lyons, John. (1977) *Semantics*. 2vols. Cambridge University Press.

課題に対するフィードバックの方法

発表については、その場でコメントします。書かれたものについてはフィードバックを書き込んで返却する予定です。

成績評価の方法

授業内課題(担当箇所発表、Exercise解答、その他授業内ディスカッション、50%)、最終課題(50%)

その他

言葉の意味は、誰しもが話すことができる以上、知っていると思われがちですが、少し考えてみると多くの謎があります。たとえば、「恋」と「愛」の違いについて自信をもって説明できますか? 「sweet」と「甘い」は、何が同じで何が異なるのでしょうか? 「Good morning」や「Hello」という表現の意味は何でしょうか? 「How are you?」や「What do you do?」には、単語と文法だけでは解釈できない特別な意味が含まれています。「I wish I could.」や「行けたら行くわ。」が断りの意味を持つのはなぜでしょうか? これらは言語の謎のほんの一部に過ぎません。これらの素朴な疑問に答えるために、意味論や語用論を含む言語学という学問は、時間をかけて必要な概念やツール、実証方法を開発してきました。言語の謎に言語学のツールを用いて挑むことで、研究という活動の難しさと面白さを体験していただきたいと思います。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	近代仏文学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		小島 久和

授業の概要・到達目標

フランス・ルネサンス期の女流詩人Pernette du Guilletの作品を精読していきます。これによってリヨン派に属した詩人の作品の特長を理解すると同時に、16世紀フランス語の文法と語彙の習得を目指します。

授業内容

Pernette du Guilletの*Rymes* (1545) をテキストに選んで、精読していきます。この作品は10音綴10行詩(エピグラム)を基本構造とする「恋愛詩」で、リヨン派を代表する作品の一つに数えられています。16世紀のフランス語は現代のフランス語とや文法(統辞法)や綴字法に違いがあるので、一つ一つの単語を丁寧に調べて文の構造を分析してください。

〈授業の進度〉1回の授業で2編のエピグラムを読解します。

- (第1回) Pernette du Guilletの文学史上の位置について
- (第2回) Epigramme I, II
- (第3回) Epigramme III, IV
- (第4回) Epigramme V, VI
- (第5回) Epigramme VII, VIII
- (第6回) Epigramme IX, X
- (第7回) Epigramme XI, XII
- (第8回) Epigramme XIII, XIV
- (第9回) Epigramme XV, XVI
- (第10回) Epigramme XVII, XVIII
- (第11回) Epigramme XIX, XX
- (第12回) Epigramme XXI, XXII
- (第13回) Epigramme XXIII, XXIV
- (第14回) Epigramme XXV, XXVI

履修上の注意

慣れない16世紀フランス語で書かれたテキストを読むには、それなりの時間をかけなければなりません。語句の意味を調べるためには、手持ちの辞書の他に、Edmond Huguet, *Dictionnaire de la Langue française du Seizieme siecle*, A. J. Greimas, T. M. Keane, *Dictionnaire du Moyen français (la Renaissance)*を必ず参照してください。これらの辞書は明治大学中央図書館に開架されています。

また、文法事項の確認のためには、『新フランス文法事典』朝倉季雄著、木下光一校閲(白水社)や『フランス語統辞論』島岡茂著(大学書林)を参照すると良いでしょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内容の項で記したように、毎回2編のエピグラムを精読しますので、複数の辞書を使って、単語を丁寧に調べる必要があります。特に、現代のフランス語では当たり前の文型や語順が守られているとは限りませんので、文の構造をよく調べてください。

教科書

Pernette du Guillet, *Rymes*, Edition de Françoise Charpentier, Gallimard, 1983.
プリント配布の予定です。

参考書

参考書は適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性(単語の丁寧な下調べ、訳文の正確さ)(70%)、レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	近代仏文学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		小島 久和

授業の概要・到達目標

フランス・ルネサンス期の詩作品の中から、Pernette du Guilletの*Rymes* (1545)をテキストに選んで、精読していきます。これによって、リヨン派に属した詩人の作品の特長を理解すると同時に、16世紀フランス語の文法と語彙の習得を目標とします。

授業内容

Pernette du Guilletの*Rymes* (1545) をテキストに選んで、精読していきます。この作品は10音綴10行詩(エピグラム)を基本構造とする「恋愛詩」で、リヨン派を代表する作品の一つに数えられています。16世紀のフランス語は現代のフランス語とや文法(統辞法)や綴字法に違いがあるので、一つ一つの単語を丁寧に調べて文の構造を分析してください。

〈授業の進度〉1回の授業で2編のエピグラムを読解します。

- (第1回) Pernette du Guilletの文学史上の位置について再確認。
- (第2回) Epigramme XXIV, XXVI
- (第3回) Epigramme XXVII, XXVIII
- (第4回) Epigramme XXIX, XXX
- (第5回) Epigramme XXXI, XXXII
- (第6回) Epigramme XXXIII, XXXIV
- (第7回) Epigramme XXXV, XXXVI
- (第8回) Epigramme XXXVII, XXXVIII
- (第9回) Epigramme XXXIX, XL
- (第10回) Epigramme XLI, XLII
- (第11回) Epigramme XLIII, XLIV
- (第12回) Epigramme XLV, XLVI
- (第13回) Epigramme XLVII, XLVIII
- (第14回) Epigramme XLIX, L

履修上の注意

慣れないフランス語で書かれたテキストを読むには、それなりの時間をかけなければなりません。語句の意味を調べるためには、手持ちの辞書の他に、Edmond Huguet, *Dictionnaire de la Langue française du Seizieme siecle*, A. J. Greimas, T. M. Keane, *Dictionnaire du Moyen français (la Renaissance)*を必ず参照してください。これらの辞書は明治大学中央図書館に開架されています。

また、文法事項の確認のためには、『新フランス文法事典』朝倉季雄著、木下光一校閲(白水社)や『フランス語統辞論』島岡茂著(大学書林)を参照すると良いでしょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回2編のエピグラムを精読しますので、事前に複数の辞書を使って、単語を丁寧に調べてください。

教科書

Pernette du Guillet, *Rymes*, Edition de Françoise Charpentier, Gallimard, 1983.
プリント配布の予定です。

参考書

参考書は適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性(70%)、レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻	備考		
科目名	近代仏文学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	小島 久和	

授業の概要・到達目標

フランス・ルネサンス期の詩作品の中から、Pernette du Guilletの*Rymes*を選び、精読していきます。
これによって、作品の理解並びに16世紀フランス語の文法と語彙の習得を目指します。

授業内容

Pernette du Guilletの*Rymes* (1545)をテキストに選んで、精読していきます。この作品は10音綴10行詩(エピグラム)を基本構造とする「恋愛詩」で、リヨン派を代表する作品の一つに数えられています。16世紀のフランス語は現代のフランス語とや文法(統辞法)や綴字法に違いがあるので、一つ一つの単語を丁寧に調べて文の構造を分析してください。

〈授業の進度〉1回の授業で2編のエピグラムを読解します。
(第1回) Pernette du Guilletの文学史上の位置について説明。
(第2回) Epigramme I, II
(第3回) Epigramme III, IV
(第4回) Epigramme V, VI
(第5回) Epigramme VII, VIII
(第6回) Epigramme IX, X
(第7回) Epigramme XI, XII
(第8回) Epigramme XIII, XIV
(第9回) Epigramme XV, XVI
(第10回) Epigramme XVII, XVIII
(第11回) Epigramme XIX, XX
(第12回) Epigramme XXI, XXII
(第13回) Epigramme XXIII, XXIV
(第14回) Epigramme XXV, XXVI

履修上の注意

慣れないフランス語で書かれたテキストを読むには、それなりの時間をかけなければなりません。語句の意味を調べるためには、手持ちの辞書の他に、Edmond Huguet, *Dictionnaire de la Langue française du Seizieme siecle*, A. J. Greimas, T. M. Keane, *Dictionnaire du Moyen français (la Renaissance)*を必ず参照してください。これらの辞書は明治大学中央図書館に開架されています。

また、文法事項の確認のためには、朝倉季雄著、木下光一校閲『新フランス文法事典』(白水社)や島岡茂『フランス語統辞論』(大学書林)を参照すると良いでしょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内容の項で記したように、毎回2編のエピグラムを精読しますので、複数の辞書を使って、単語を丁寧に調べる必要があります。

また、現代のフランス語では当たり前の文型や語順が守られているとは限りませんので、文の構造を調べてください。

教科書

Pernette du Guillet, *Rymes*, Edition de Françoise Charpentier, Gallimard, 1983.
プリント配布の予定です。

参考書

授業中に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(予習の緻密さ)(70%)、レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻	備考		
科目名	近代仏文学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	小島 久和	

授業の概要・到達目標

フランス・ルネサンス期の詩作品を精読し、リヨン派に属した詩人の作品の特長を理解すると同時に、16世紀フランス語の文法と語彙の習得を目標とします。

授業内容

Pernette du Guilletの*Rymes* (1545)をテキストに選んで、精読していきます。この作品は10音綴10行詩(エピグラム)を基本構造とする「恋愛詩」で、リヨン派を代表する作品の一つに数えられています。16世紀のフランス語は現代のフランス語とや文法(統辞法)や綴字法に違いがあるので、一つ一つの単語を丁寧に調べて文の構造を分析してください。

〈授業の進度〉1回の授業で2編のエピグラムを読解します。
(第1回) Pernette du Guilletの文学史上の位置について解説。
(第2回) Epigramme XXV, XXVI
(第3回) Epigramme XXVII, XXVIII
(第4回) Epigramme XXIX, XXX
(第5回) Epigramme XXXI, XXXII
(第6回) Epigramme XXXIII, XXXIV
(第7回) Epigramme XXXV, XXXVI
(第8回) Epigramme XXXVII, XXXVIII
(第9回) Epigramme XXXIX, XL
(第10回) Epigramme XLI, XLII
(第11回) Epigramme XLIII, XLIV
(第12回) Epigramme XLV, XLVI
(第13回) Epigramme XLVII, XLVIII
(第14回) Epigramme XLIX, L

履修上の注意

慣れないフランス語で書かれたテキストを読むには、それなりの時間をかけなければなりません。語句の意味を調べるためには、手持ちの辞書の他に、Edmond Huguet, *Dictionnaire de la Langue française du Seizieme siecle*, A. J. Greimas, T. M. Keane, *Dictionnaire du Moyen français (la Renaissance)*を必ず参照してください。これらの辞書は明治大学中央図書館に開架されています。

また、文法事項の確認のためには、朝倉季雄著、木下光一校閲『新フランス文法事典』(白水社)や島岡茂『フランス語統辞論』(大学書林)を参照すると良いでしょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回2編のエピグラムを精読しますので、事前に複数の辞書を使って、単語を丁寧に調べてください。

教科書

Pernette du Guillet, *Rymes*, Edition de Françoise Charpentier, Gallimard, 1983.
プリント配布の予定です。

参考書

授業中に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(予習の緻密さ)(70%)、レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) PHL612J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 合田 正人		

授業の概要・到達目標

フランス国籍のユダヤ系哲学者エマニュエル・レヴィナス(1905-1995)の博士論文『全体性と無限』(Totalité et infini)が出版されたのは1961年のことで、それからすでに60年を超える歳月が流れた。その間、同書は様々な言語に翻訳され、数え切れないほどの論文が同書をす主題として書かれた。日本語訳については三種類の日本語訳が出版されている。では、語られるべきことはすでに語られたのかということ、決してそうではない。多様な解釈を許容する箇所が数多あるのに加えて、本年、同書の成立過程で書かれた草稿などが『レヴィナス全集』第4巻として遂に出版されたのである。この出版によって、レヴィナス研究は新しい局面を迎えると言っても決して過言ではあるまい。授業では、レヴィナス哲学とはどのようなものか、『全体性と無限』とはどのような書物かをまず提示したうえで、出版されたばかりの全集四巻を読み進める。なお、授業参加者はレヴィナスについて予備知識を有している必要はない。

授業内容

- 第1回：講義の概要と進め方
- 第2回：レヴィナス哲学概説①
- 第3回：レヴィナス哲学概説②
- 第4回：レヴィナス哲学概説③
- 第5回：『全体性と無限』について①
- 第6回：『全体性と無限』について②
- 第7回：『全体性と無限』について③
- 第8回：『レヴィナス全集』第4巻について
- 第9回：『レヴィナス全集』第4巻を読む①
- 第10回：続き②
- 第11回：続き③
- 第12回：続き④
- 第13回：続き⑤
- 第14回：春学期のまとめ

履修上の注意

受講者には、講義で取り上げるテキストの訳読やさまざまな調査を担当してもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

読解するテキストの当該箇所についてあらかじめしっかり調査し、担当でない場合にも訳文を作成し、問題点をまとめておくこと。また、講義後にも、そこで問題となった諸点について思考を継続すること。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書

適宜指示する。資料も適宜配布する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的貢献度100%

その他

科目ナンバー：(AL) PHL612J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅠB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 合田 正人		

授業の概要・到達目標

フランス国籍のユダヤ系哲学者エマニュエル・レヴィナス(1905-1995)の博士論文『全体性と無限』(Totalité et infini)が出版されたのは1961年のことで、それからすでに60年を超える歳月が流れた。その間、同書は様々な言語に翻訳され、数え切れないほどの論文が同書をす主題として書かれた。日本語訳については三種類の日本語訳が出版されている。では、語られるべきことはすでに語られたのかということ、決してそうではない。多様な解釈を許容する箇所が数多あるのに加えて、本年、同書の成立過程で書かれた草稿などが『レヴィナス全集』第4巻として遂に出版されたのである。この出版によって、レヴィナス研究は新しい局面を迎えると言っても決して過言ではあるまい。授業では、レヴィナス哲学とはどのようなものか、『全体性と無限』とはどのような書物かをまず提示したうえで、出版されたばかりの全集四巻を読み進める。なお、授業参加者はレヴィナスについて予備知識を有している必要はない。

授業内容

- 第1回：講義の概要と進め方
- 第2回：『レヴィナス全集』第4巻を読む
- 第3回：続き②
- 第4回：続き③
- 第5回：続き④
- 第6回：続き⑤
- 第7回：続き⑥
- 第8回：続き⑦
- 第9回：続き⑧
- 第10回：続き⑨
- 第11回：受講者による発表
- 第12回：受講者による発表②
- 第13回：受講者による発表③
- 第14回：春学期のまとめ

履修上の注意

受講者には、講義で取り上げるテキストの訳読やさまざまな調査を担当してもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

読解するテキストの当該箇所についてあらかじめしっかり調査し、担当でない場合にも訳文を作成し、問題点をまとめておくこと。また、講義後にも、そこで問題となった諸点について思考を継続すること。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書

適宜指示する。資料も適宜配布する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的貢献度100%

その他

科目ナンバー：(AL) PHL612J			
仏文学専攻	備考		
科目名	現代仏文学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	合田 正人	

授業の概要・到達目標

フランス国籍のユダヤ系哲学者エマニュエル・レヴィナス(1905-1995)の博士論文『全体性と無限』(Totalité et infini)が出版されたのは1961年のことで、それからすでに60年を超える歳月が流れた。その間、同書は様々な言語に翻訳され、数え切れないほどの論文が同書を主題として書かれた。日本語訳については三種類の日本語訳が出版されている。では、語られるべきことはすでに語られたのかということ、決してそうではない。多様な解釈を許容する箇所が数多あるのに加えて、本年、同書の成立過程で書かれた草稿などが『レヴィナス全集』第4巻として遂に出版されたのである。この出版によって、レヴィナス研究は新しい局面を迎えると言っても決して過言ではあるまい。授業では、レヴィナス哲学とはどのようなものか、『全体性と無限』とはどのような書物かをまず提示したうえで、出版されたばかりの全集四巻を読み進める。なお、授業参加者はレヴィナスについて予備知識を有している必要はない。

授業内容

- 第1回：講義の概要と進め方
- 第2回：レヴィナス哲学概説①
- 第3回：レヴィナス哲学概説②
- 第4回：レヴィナス哲学概説③
- 第5回：『全体性と無限』について①
- 第6回：『全体性と無限』について②
- 第7回：『全体性と無限』について③
- 第8回：『レヴィナス全集』第4巻について
- 第9回：『レヴィナス全集』第4巻を読む①
- 第10回：続き②
- 第11回：続き③
- 第12回：続き④
- 第13回：続き⑤
- 第14回：春学期のまとめ

履修上の注意

受講者には、講義で取り上げるテキストの訳読やさまざまな調査を担当してもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

読解するテキストの当該箇所についてあらかじめしっかり調査し、担当でない場合にも訳文を作成し、問題点をまとめておくこと。また、講義後にも、そこで問題となった諸点について思考を継続すること。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書

適宜指示する。資料も適宜配布する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的貢献度100%

その他

科目ナンバー：(AL) PHL612J			
仏文学専攻	備考		
科目名	現代仏文学演習ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	合田 正人	

授業の概要・到達目標

16世紀フランスの文豪モンテーニュと17世紀オランダの哲学者スピノザについて考える。正確な読解能力を養うとともに、みずからの関心に即して対象を論じ、様々な質問にも答えることのできる力をつけることを目標とする。

授業内容

- 第1回：講義の概要と進め方
- 第2回：スピノザ『エチカ』を読む①
- 第3回：続き②
- 第4回：続き③
- 第5回：続き④
- 第6回：続き⑤
- 第7回：続き⑥
- 第8回：スピノザ『神学政治論』を読む①
- 第9回：続き②
- 第10回：続き③
- 第11回：続き④
- 第12回：続き⑤
- 第13回：受講者による研究発表①
- 第14回：続き②

履修上の注意

受講者には、講義で取り上げるテキストの訳読やさまざまな調査を担当してもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

読解するテキストの当該箇所についてあらかじめしっかり調査し、担当でない場合にも訳文を作成し、問題点をまとめておくこと。また、講義後にも、そこで問題となった諸点について思考を継続すること。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書

適宜指示する。資料も適宜配布する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632F			
仏文学専攻	備考		
科目名	現代仏文学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 学術博士	根本	美作子

授業の概要・到達目標

Nous allons lire le livre de Souleymane Bachir Diagne, De langue à langue, pour aborder d'une part la notion d'asymétrie des langues et d'autre part celle de la traduction. La première notion nous permettra de situer le problème de la traduction dans la réalité actuelle du monde. Nous visiterons à cet effet, quelques passages de La Langue mondiale. Traduction et domination de Pascale Casanova, ou de Translation : le marché de la traduction en France à l'heure de la mondialisation de Gisèle Sapiro.

授業内容

Semaine 2-13 : lecture de De Langue à langue, en nous arrêtant à chaque référence de taille comme celle de P. Casanova ou G. Sapiro mentionnée dans la description du cours ci-dessus.

履修上の注意

Le cours aura principalement lieu en français, sauf lorsqu'il s'agira de traduire en japonais.

準備学習（予習・復習等）の内容

Lire les textes à l'avance et les préparer : chercher à poser de questions, à problématiser ce que l'on aura lu.

教科書

Souleymane Bachi Diagne, De langue à langue, coll. « Espaces libres », Albin Michel, 2024

参考書

J'indiquerai au fur et à mesure pendant les cours.

課題に対するフィードバックの方法

Tout se passe en cours. Mais évidemment, vous pouvez vous adresser à moi à tout moment (sauf pendant les vacances et jours fériés) par email et nous parlerons de vos travaux.

成績評価の方法

Participation au cours (50%) , travail écrit final (50%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632F			
仏文学専攻	備考		
科目名	現代仏文学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 学術博士	根本	美作子

授業の概要・到達目標

Nous continuerons d'étudier le livre de Souleymane Bachir Diagne. Ce semestre nous y ajouterons des ateliers de traduction, des textes littéraires japonais à traduire ensemble en français. Nous réfléchirons à partir de ces pratiques aux problèmes de traduction soulevés par Souleymane Bachir Diagne en réfléchissant notamment à l'histoire de la traduction des œuvres littéraires japonaises en français.

授業内容

Semaine 1 : presentation du cours
Semaine 2-13 : lecture de De Langue à langue, agrémentée d'ateliers de traduction de textes littéraires japonais en français.

履修上の注意

Le cours aura principalement lieu en français, sauf lorsqu'il s'agira de traduire en japonais.

準備学習（予習・復習等）の内容

Lire les textes à l'avance et les préparer : chercher à poser de questions, à problématiser ce que l'on aura lu. Préparer les traductions des textes japonais en français même si nous reprendrons ces traductions tous ensemble pendant le cours.

教科書

Souleymane Bachi Diagne, De langue à langue, coll. « Espaces libres », Albin Michel, 2024

参考書

J'indiquerai au fur et à mesure pendant les cours.

課題に対するフィードバックの方法

Discussions actives en cours. Vous êtes également libres de prendre rendez-vous avec moi par email à tout moment de l'année sauf les vacances et jours fériés.

成績評価の方法

Participation 30-50%- + devoir écrit 50-70%.

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632F			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 学術博士 根本 美作子		

授業の概要・到達目標

Nous allons lire le livre de Souleymane Bachir Diagne, De langue à langue, pour aborder d'une part la notion d'asymétrie des langues et d'autre part celle de la traduction. La première notion nous permettra de situer le problème de la traduction dans la réalité actuelle du monde. Nous visiterons à cet effet, quelques passages de La Langue mondiale. Traduction et domination de Pascale Casanova, ou de Translating : le marché de la traduction en France à l'heure de la mondialisation de Gisèle Sapiro.

授業内容

Semaine 1 : presentation du cours
Semaine 2- 13 : lecture de De Langue à langue, en nous arrêtant à chaque référence de taille comme celle de P. Casanova ou G. Sapiro mentionnée dans la description du cours ci-dessus.

履修上の注意

Le cours aura principalement lieu en français, sauf lorsqu'il s'agira de traduire en japonais.

準備学習（予習・復習等）の内容

Lire les textes à l'avance et les préparer : chercher à poser de questions, à problématiser ce que l'on aura lu.

教科書

Souleymane Bachi Diagne, De langue à langue, coll. « Espaces libres », Albin Michel, 2024

参考書

J'indiquerai au fur et à mesure pendant les cours.

課題に対するフィードバックの方法

Tout se passe en cours. Mais évidemment, vous pouvez vous adresser à moi à tout moment (sauf pendant les vacances et jours fériés) par email et nous parlerons de vos travaux.

成績評価の方法

Participation au cours (50%) , travail écrit final (50%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632F			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 学術博士 根本 美作子		

授業の概要・到達目標

Nous continuerons d'étudier le livre de Souleymane Bachir Diagne. Ce semestre nous y ajouterons des ateliers de traduction, des textes littéraires japonais à traduire ensemble en français. Nous réfléchirons à partir de ces pratiques aux problèmes de traduction soulevés par Souleymane Bachir Diagne en réfléchissant notamment à l'histoire de la traduction des œuvres littéraires japonaises en français.

授業内容

Semaine 1 : presentation du cours
Semaine 2- 13 : lecture de De Langue à langue, agrémentée d'ateliers de traduction de textes littéraires japonais en français.

履修上の注意

Le cours aura principalement lieu en français, sauf lorsqu'il s'agira de traduire en japonais.

準備学習（予習・復習等）の内容

Lire les textes à l'avance et les préparer : chercher à poser de questions, à problématiser ce que l'on aura lu. Préparer les traductions des textes japonais en français même si nous reprendrons ces traductions tous ensemble pendant le cours.

教科書

Souleymane Bachi Diagne, De langue à langue, coll. « Espaces libres », Albin Michel, 2024

参考書

J'indiquerai au fur et à mesure pendant les cours.

課題に対するフィードバックの方法

Discussions actives en cours. Vous êtes également libres de prendre rendez-vous avec moi par email à tout moment de l'année sauf les vacances et jours fériés.

成績評価の方法

Participation 30-50%- + devoir écrit 50-70%.

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 谷口 亜沙子		

授業の概要・到達目標

Alain Parrau, *Écrire les camps*, Belin, 1995を講読しながら、「収容所文学」が提起する問題について考えます。収容所における極限体験やそれをめぐる言葉について考えることは、人間存在、表現、記憶、歴史、フィクション等について考えることでもあります。授業は訳読、要約、発表、対話によって進めますが、毎回なんらかのかたちで、各人が自分自身の論文執筆のためのヒントや手掛かりを引き出してください。

授業内容

- 第1回 Témoin et survivant
- 第2回 Témoignage et vérité
- 第3回 Le survivant: Autour d'Elias Canetti
- 第4回 Modèle raciste et modèle guerrier
- 第5回 Une écriture sous condition
- 第6回 Savoir et vérité de l'inhumain
- 第7回 Travail de la fiction
- 第8回 Langage et oppression
- 第9回 La littérature comme résistance à l'inhumain
- 第10回 La littérature dans les camps
- 第11回 Littérature et survie
- 第12回 Littérature abaissée, littérature complice
- 第13回 L'exemple d'Essenine
- 第14回 Ethique de la science et "Lyrisme"

履修上の注意

毎週の授業の進め方は履修者と相談しながら決めますので、変更もありえます。

準備学習（予習・復習等）の内容

この本を読みながら気になったもの（他の著作、映画、歴史書等）に、なんであれ手を伸ばすようにしてみてください。

教科書

Alain Parrau, *Écrire les camps*, Belin, 1995

参考書

ロバート・イーグルストン『ホロコーストとポストモダン』田尻芳樹・太田晋訳、みすず書房、2013年。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題を課した場合には、ワードコメントで添削を行い、教室でアドバイスをします。

成績評価の方法

平常点（課題に対する取り組み方、音読の正確さ、訳読の達成度、解釈における厳密さ、ディスカッションにおける主体性等）。学期中に小レポートを課す可能性もあります。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習ⅣB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 谷口 亜沙子		

授業の概要・到達目標

春学期の講義で得た知識を土台として、様々な収容所文学や証言作品、日記等を取りあげます。とくに、女性の書き手による作品を中心に、文学と証言の境界、詩的言語と声、等の問題について考えます。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Primo Levi, *Si c'est un homme*
- 第3回 Sarah Helm, *Si c'est une femme*
- 第4回 Micheline Maurel, *Un camp tres ordinaire Poche*
- 第5回 Charlotte Delbo, *Auschwitz et apres*
- 第6回 Hélene Berr, *Journal*
- 第7回 Magda Hollander-Lafon, *Quatre petits bouts de pain*
- 第8回 Sarah Kofman, *Rue Ordener, rue Labat*
- 第9回 Germaine Tillion, *Ravensbruck*
- 第10回 Margarete Buber-neumann, *Deportée à Ravensbruck*
- 第11回 Simone Veil, *Une vie, une jeunesse au temps de la Shoah*
- 第12回 Madeleine Goldstein, *On se retrouvera*
- 第13回 Annette Muller, *La petite fille du Vel d'Hiv*
- 第14回 Valentine Goby, *Kinderzimmer: roman*

履修上の注意

春学期から継続して履修することが望ましいです。

準備学習（予習・復習等）の内容

翻訳でもよいので、授業で扱う本をなるべくたくさん読み、関連する映画やドキュメンタリーに触れるように心がけてください。

教科書

Charlotte Delbo, *Auschwitz et apres I, II, III*, Minuit, 1970, 1971. 他

参考書

ジャン＝F・フォルジュ『21世紀の子どもたちにアウシュヴィッツをいかに教えるか』高橋武智訳、作品社、2000年。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題を出した場合には、ワードのコメント機能等で添削を行い、教室でアドバイス等をします。

成績評価の方法

平常点（課題に対する取り組み方、音読の正確さ、訳読の達成度、解釈における厳密さ、ディスカッションにおける主体性等）。学期中に小レポートを課す可能性もあります。小レポートを課す可能性もあります。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習IVC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 谷口 亜沙子		

授業の概要・到達目標

Alain Parrau, *Écrire les camps*, Belin, 1995を講読しながら、「収容所文学」が提起する問題について考えます。収容所における極限体験やそれをめぐる言葉について考えることは、人間存在、表現、記憶、歴史、フィクション等について考えることでもあります。授業は訳読、要約、発表、対話によって進めますが、毎回なんらかのかたちで、各人が自分自身の論文執筆のためのヒントや手掛かりを引き出してください。

授業内容

- 第1回 Témoin et survivant
- 第2回 Témoignage et vérité
- 第3回 Le survivant: Autour d'Elias Canetti
- 第4回 Modèle raciste et modèle guerrier
- 第5回 Une écriture sous condition
- 第6回 Savoir et vérité de l'inhumain
- 第7回 Travail de la fiction
- 第8回 Langage et oppression
- 第9回 La littérature comme résistance à l'inhumain
- 第10回 La littérature dans les camps
- 第11回 Littérature et survie
- 第12回 Littérature abaissée, littérature complice
- 第13回 L'exemple d'Essenine
- 第14回 Ethique de la science et "Lyrisme"

履修上の注意

毎週の授業の進め方は履修者と相談しながら決めますので、変更もあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

この本を読みながら気になったもの（他の著作、映画、歴史書等）に、なんであれ手を伸ばすようにしてみてください。

教科書

Alain Parrau, *Écrire les camps*, Belin, 1995

参考書

ロバート・イーグルストン『ホロコーストとポストモダン』田尻芳樹・太田晋訳、みすず書房、2013年。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題を課した場合には、ワードコメントで添削を行い、教室でアドバイスをします。

成績評価の方法

平常点（課題に対する取り組み方、音読の正確さ、訳読の達成度、解釈における厳密さ、ディスカッションにおける主体性等）。学期中に小レポートを課す可能性もあります。学期中に小レポートを課す可能性もあります。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学演習IVD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 谷口 亜沙子		

授業の概要・到達目標

春学期の講義で得た知識を土台として、様々な収容所文学や証言作品、日記等を取りあげます。とくに、女性の書き手による作品を中心に、文学と証言の境界、詩的言語と声、等の問題について考えます。

授業内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Primo Levi, *Si c'est un homme*
- 第3回 Sarah Helm, *Si c'est une femme*
- 第4回 Micheline Maurel, *Un camp très ordinaire Poche*
- 第5回 Charlotte Delbo, *Auschwitz et après*
- 第6回 Hélène Berr, *Journal*
- 第7回 Magda Hollander-Lafon, *Quatre petits bouts de pain*
- 第8回 Sarah Kofman, *Rue Ordener, rue Labat*
- 第9回 Germaine Tillion, *Ravensbruck*
- 第10回 Margarete Buber-neumann, *Deportée à Ravensbruck*
- 第11回 Simone Veil, *Une vie, une jeunesse au temps de la Shoah*
- 第12回 Madeleine Goldstein, *On se retrouvera*
- 第13回 Annette Muller, *La petite fille du Vel d'Hiv*
- 第14回 Valentine Goby, *Kinderzimmer: roman*

履修上の注意

春学期から継続して履修することが望ましいです。

準備学習（予習・復習等）の内容

翻訳でもよいので、授業で扱う本をなるべくたくさん読み、関連する映画やドキュメンタリーに触れるように心がけてください。

教科書

Charlotte Delbo, *Auschwitz et après I, II, III*, Minuit, 1970, 1971. 他

参考書

ジャン＝F・フォルジュ『21世紀の子どもたちにアウシュヴィッツをいかに教えるか』高橋武智訳、作品社、2000年。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題を出した場合には、ワードのコメント機能等で添削を行い、教室でアドバイス等をします。

成績評価の方法

平常点（課題に対する取り組み方、音読の正確さ、訳読の達成度、解釈における厳密さ、ディスカッションにおける主体性等）。学期中に小レポートを課す可能性もあります。小レポートを課す可能性もあります。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT631J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学特論I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. フランソワ, ビゼ		

授業の概要・到達目標

Ce cours a pour objectif d'aider les apprenants à améliorer leur maîtrise des techniques de rédaction de textes à visée argumentative en langue française. Différentes compétences seront travaillées à travers divers exercices : résumer et commenter un texte, exposer un sujet et ses enjeux, en développer la problématique de façon dynamique en l'appuyant sur des exemples ou en la confrontant à des points de vue différents. Les textes qui serviront de base aux exercices seront choisis parmi des textes théoriques ou critiques de Roland Barthes, Jacques Rancière et Annie Ernaux. Un travail écrit sera exigé régulièrement.

授業内容

- 第1回 : Introduction ; présentation de la méthode de travail et des textes de référence
- 第2回 : Lecture et analyse d'un article de Barthes extrait de Mythologies
- 第3回 : Examen des propositions de résumé de l'article de Barthes
- 第4回 : Mise en perspective historique de l'article de Barthes
- 第5回 : Préparation collective puis rédaction individuelle d'un bref commentaire de l'article de Barthes
- 第6回 : Correction du commentaire
- 第7回 : Lecture et analyse du texte de Rancière extrait du Maître ignorant
- 第8回 : Examen des propositions de résumé du texte de Rancière
- 第9回 : Mise en perspective historique du texte de Rancière
- 第10回 : Préparation collective puis rédaction individuelle d'un bref commentaire du texte de Rancière
- 第11回 : Correction du commentaire
- 第12回 : Lecture et analyse d'un extrait de la conférence d'Annie Ernaux lors de la réception du prix Nobel de Littérature 2022
- 第13回 : Préparation collective puis rédaction individuelle du texte d'Annie Ernaux
- 第14回 : Correction du commentaire

履修上の注意

Une participation au cours et un travail régulier seront exigés.

準備学習（予習・復習等）の内容

Lire très attentivement les textes proposés comme base pour les exercices d'écriture, et réfléchir à des questions à poser lors du cours suivant.

教科書

Photocopies

参考書

Néant

課題に対するフィードバックの方法

Néant

成績評価の方法

Devoirs écrits : 60% Activités en cours : 40%

その他

Néant

科目ナンバー：(AL) LIT631J			
仏文学専攻		備考	
科目名	現代仏文学特論I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 Ph.D. フランソワ, ビゼ		

授業の概要・到達目標

Ce cours a pour objectif d'aider les apprenants à améliorer leur maîtrise des techniques de rédaction de textes à visée argumentative en langue française. Différentes compétences seront travaillées à travers divers exercices : expliquer un texte littéraire, développer un commentaire composé et dynamique en l'appuyant sur des exemples. Les textes qui serviront de base aux exercices seront choisis parmi des textes théoriques ou critiques d'Annie Ernaux, Nathalie Sarraute, Monique Wittig et Marguerite Duras. Un travail écrit sera exigé régulièrement.

授業内容

- 第1回 : Lecture et analyse d'un texte d'Annie Ernaux extrait des Années
- 第2回 : Examen d'un commentaire composé possible sur le texte d'Annie Ernaux (1)
- 第3回 : Examen d'un commentaire composé possible sur le texte d'Annie Ernaux (2)
- 第4回 : Lecture et analyse d'un texte de Nathalie Sarraute extrait de Enfance (1)
- 第5回 : Lecture et analyse d'un texte de Nathalie Sarraute extrait de Enfance (2)
- 第6回 : Examen collectif d'un commentaire composé possible sur le texte de Nathalie Sarraute
- 第7回 : Correction du commentaire
- 第8回 : Lecture et analyse d'un texte de Monique Wittig extrait de L'Opoanax (1)
- 第9回 : Lecture et analyse d'un texte de Monique Wittig extrait de L'Opoanax (2)
- 第10回 : Examen collectif d'un commentaire composé possible sur le texte de Monique Wittig
- 第11回 : Correction du commentaire
- 第12回 : Lecture et analyse d'un texte de Marguerite Duras extrait de L'Amour (1)
- 第13回 : Lecture et analyse d'un texte de Marguerite Duras extrait de L'Amour (2)
- 第14回 : Examen collectif d'un commentaire composé possible sur le texte de Marguerite Duras

履修上の注意

Une participation au cours et un travail régulier seront exigés.

準備学習（予習・復習等）の内容

Lire très attentivement les textes proposés comme base pour les exercices d'écriture, et réfléchir à des questions à poser lors du cours suivant.

教科書

Photocopies

参考書

Néant

課題に対するフィードバックの方法

Néant

成績評価の方法

Devoirs écrits : 60% Activités en cours : 40%

その他

Néant

科目ナンバー: (AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	フランス文学理論・思想研究I		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 文学博士 田母神 顯二郎		

授業の概要・到達目標

主として20世紀以降のフランスの文学理論や思想について研究し、研究に必要な基本的な知識を身につけるとともに、それを自分自身の研究に応用したり、活かしたりできるようにします。

授業内容

2024年度から設置された授業なので、まだいろいろな試行錯誤がありますが、春学期は、文学研究の基礎となる言語学的アプローチ能力を高めるため、文学作品の分析を扱った言語学的論文を読んでいくつもりです（昨年度は、Roman JakobsonとClaude Lévi-Straussの「Les Chats de Baudelaire」を読みました）。この授業を通し、受講者が「言語論的転回」を特徴とする現代思想の基礎知識を幅広く深めていくことを期待します。

履修上の注意

授業では、フランス語のテキストの読解を主としながら、20世紀の思想潮流やキーコンセプト、キーパーソンなどについて調べ、発表を行ってもらいます。いろいろなサポートは行いますが、基本的に「自分で調べ、自分で学ぶ」という姿勢が必要です。

準備学習（予習・復習等）の内容

言語学的なテキストを毎回輪読形式で読み進めるので、フランス語原文を訳せるように下調べしておく必要があります。また、分担を決めてキーコンセプトやキーパーソン、その他の重要事項について調べてきてもらい、それを授業で発表してもらおうという形を取ろうと思っています。

教科書

開講時にプリントを配布する予定です。

参考書

最初の授業で紹介する他、適宜、授業中に指示します。できれば、Saussure以降の現代言語学や Lévi-Straussら構造主義関連の本を幾つか読んでおくことで授業の理解も進むと思います。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の発表についてはその場でアドバイスを与え、レポートなど提出物については添削し、コメントを付して返却するつもりです。

成績評価の方法

平常点 (60%)および学期末レポート(40%)によって評価します。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT632J			
仏文学専攻		備考	
科目名	フランス文学理論・思想研究II		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 文学博士 田母神 顯二郎		

授業の概要・到達目標

主として20世紀以降のフランスの文学理論や思想について研究し、研究に必要な基本的な知識を身につけるとともに、それを自分自身の研究に応用したり、活かしたりできるようにします。

授業内容

秋学期は、Roland Barthes のテキストを読んでいきたいと思っています。候補としては今のところ、バルト後期の重要なテキスト論である「De l'oeuvre au texte」を考えています。

履修上の注意

授業では、フランス語のテキストの読解を主としながら、20世紀の思想潮流やキーコンセプト、キーパーソンなどについて調べ、発表を行ってもらいます。いろいろなサポートは行いますが、基本的に「自分で調べ、自分で学ぶ」という姿勢が必要です。

準備学習（予習・復習等）の内容

言語学的なテキストを毎回輪読形式で読み進めるので、フランス語原文を訳せるように下調べしておく必要があります。また、分担を決めてキーコンセプトやキーパーソン、その他の重要事項について調べてきてもらい、それを授業で発表してもらおうという形を取ろうと思っています。

教科書

開講時にプリントを配布する予定です。

参考書

最初の授業で紹介する他、適宜、授業中に指示します。できれば、Saussure以降の現代言語学や Lévi-Straussら構造主義関連の本を幾つか読んでおくことで授業の理解も進むと思います。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の発表についてはその場でアドバイスを与え、レポートなど提出物については添削し、コメントを付して返却するつもりです。

成績評価の方法

平常点 (60%)および学期末レポート(40%)によって評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	岡本 和子	

授業の概要・到達目標

20世紀初頭のドイツ散文作品から、Robert MusilおよびThomas Mannの短篇を並行して読みます。

第一次世界大戦を経て、19世紀の市民階級の生は、それを取り巻く環境も、社会における立場も、知覚のあり方も、人間どうしの関係も、大きく変わりました。その変化のなかに、近代における生き方の模索を読み取り、それを現代の読者であるわたしたちがどのような意味を持ちうるかを考えることが、この授業の目標です。

授業内容

- 第1回：20世紀初頭のドイツ語圏の作家たち
- 第2回：Musil短篇読解1
- 第3回：Musil短篇読解2
- 第4回：Musil短篇読解3
- 第5回：Musil短篇読解4
- 第6回：Thomas Mann短篇読解1
- 第7回：Thomas Mann短篇読解2
- 第8回：Thomas Mann短篇読解3
- 第9回：Thomas Mann短篇読解4
- 第10回：Musil短篇読解5
- 第11回：Musil短篇読解6
- 第12回：Musil短篇読解7
- 第13回：Musil短篇読解8
- 第14回：レポートの発表と討論

履修上の注意

同時代のほかの作家の作品にも親しんでおくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、原文読解のていねいな予習をしてくること。

教科書

Thomas Mann: Frühe Erzählungen 1893-1912: In der Fassung der Großen kommentierten Frankfurter Ausgabe (Fischer, 2012) ISBN- 978-3596904051
Robert Musilについては<http://musilonline.at/>を参照。

またはプリントを配布。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

学期末に提出するレポートはコメントを付して返却する。

成績評価の方法

授業中の発表内容60%、レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	岡本 和子	

授業の概要・到達目標

20世紀初頭のドイツ長篇小説Robert Musilの“Der Mann ohne Eigenschaften”を読みます。

第一次世界大戦を経て、19世紀の市民階級の生は、それを取り巻く環境も、社会における立場も、知覚のあり方も、人間どうしの関係も、大きく変わりました。その変化のなかに、近代における生き方の模索を読み取り、それを現代の読者であるわたしたちがどのような意味を持ちうるかを考えることが、この授業の目標です。

授業内容

- 第1回：Wagnerとドイツ文学
- 第2回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解1
- 第3回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解2
- 第4回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解3
- 第5回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解4
- 第6回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解5
- 第7回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解6
- 第8回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解7
- 第9回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解8
- 第10回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解9
- 第11回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解10
- 第12回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解11
- 第13回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解12
- 第14回：レポートの発表と討論

履修上の注意

同時代のほかの作家の作品にも親しんでおくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、原文読解のていねいな予習をしてくること。

教科書

Robert Musil: Der Mann ohne Eigenschaften I: Erstes und Zweites Buch (Rowohlt, 2014) ISBN-1 978-3499267802

またはプリントを配布。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

学期末に提出するレポートはコメントを付して返却する。

成績評価の方法

授業中の発表内容60%、レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	岡本 和子	

授業の概要・到達目標

20世紀初頭のドイツ散文作品から、Robert MusilおよびThomas Mannの短篇を並行して読みます。
 第一次世界大戦を経て、19世紀の市民階級の生は、それを取り巻く環境も、社会における立場も、知覚のあり方も、人間どうしの関係も、大きく変わりました。その変化のなかに、近代における生き方の模索を読み取り、それを現代の読者であるわたしたちがどのような意味を持ちうるかを考えることが、この授業の目標です。

授業内容

- 第1回：20世紀初頭のドイツ語圏の作家たち
- 第2回：Musil短篇読解1
- 第3回：Musil短篇読解2
- 第4回：Musil短篇読解3
- 第5回：Musil短篇読解4
- 第6回：Thomas Mann短篇読解1
- 第7回：Thomas Mann短篇読解2
- 第8回：Thomas Mann短篇読解3
- 第9回：Thomas Mann短篇読解4
- 第10回：Musil短篇読解5
- 第11回：Musil短篇読解6
- 第12回：Musil短篇読解7
- 第13回：Musil短篇読解8
- 第14回：レポートの発表と討論

履修上の注意

同時代のほかの作家の作品にも親しんでおくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、原文読解のていねいな予習をしてくること。

教科書

Thomas Mann: Frühe Erzählungen 1893-1912: In der Fassung der Großen kommentierten Frankfurter Ausgabe (Fischer, 2012) ISBN- 978-3596904051
 Robert Musilについては<http://musilonline.at/>を参照。

またはプリントを配布。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

学期末に提出するレポートはコメントを付して返却する。

成績評価の方法

授業中の発表内容60%、レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	岡本 和子	

授業の概要・到達目標

20世紀初頭のドイツ長篇小説Robert Musilの“Der Mann ohne Eigenschaften”を読みます。
 第一次世界大戦を経て、19世紀の市民階級の生は、それを取り巻く環境も、社会における立場も、知覚のあり方も、人間どうしの関係も、大きく変わりました。その変化のなかに、近代における生き方の模索を読み取り、それを現代の読者であるわたしたちがどのような意味を持ちうるかを考えることが、この授業の目標です。

授業内容

- 第1回：Wagnerとドイツ文学
- 第2回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解1
- 第3回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解2
- 第4回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解3
- 第5回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解4
- 第6回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解5
- 第7回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解6
- 第8回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解7
- 第9回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解8
- 第10回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解9
- 第11回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解10
- 第12回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解11
- 第13回：Musil“Der Mann ohne Eigenschaften”読解12
- 第14回：レポートの発表と討論

履修上の注意

同時代のほかの作家の作品にも親しんでおくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、原文読解のていねいな予習をしてくること。

教科書

Robert Musil: Der Mann ohne Eigenschaften I: Erstes und Zweites Buch (Rowohlt, 2014) ISBN-1 978-3499267802

またはプリントを配布。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

学期末に提出するレポートはコメントを付して返却する。

成績評価の方法

授業中の発表内容60%、レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	富重 与志生	

授業の概要・到達目標

AI化が進む現代，次第にあらわになっているのは人間の道具化の先鋭化であると同時に，そこから逃れようとしつつも逃れられない人間の姿だろう。この人間の道具化が始まったのが，いわゆる近代とともにであるとすれば，十九世紀という時代はまさにその近代たけなわの時代だったということが出来る。この時代の文学作品は，したがってきわめて現代的といってもよいだろう。とりわけドイツ文学は，その波に乗ることができない者の苦闘の記録として読むことができるものである。そのような十九世紀の文学作品の中から，参加者に各自作家作品を選んでもらい，これを読んでいくことによって，自分なりの読みの力を養ってもらうことが目標である。

これと合わせて，ロマン，ノヴェレ，枠物語等の代表的な文芸学上の概念について理解し，作品を分析し解釈するための道具を手に入れることも目標とする。

授業内容

授業は，参加者が十九世紀ドイツ文学作品の中から，上の目標に沿って特に考察してみたい作家と作品を選んでもらい，これを精読した上で，レポートしていただく。

履修上の注意

精読をするということもだが，あわせてスピーディーに読んでいくことも心掛けてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，その回に読む範囲を十分読解しておくこと。

教科書

クラスウェブにテキストをアップする。他，適宜必要に応じてプリント等配布する。

参考書

必要があれば授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

この演習への熱意（遅刻なき出席）と貢献度（担当・発言）によって評価する。

その他

特にない。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	富重 与志生	

授業の概要・到達目標

AI化が進む現代，次第にあらわになっているのは人間の道具化の先鋭化であると同時に，そこから逃れようとしつつも逃れられない人間の姿だろう。この人間の道具化が始まったのが，いわゆる近代とともにであるとすれば，十九世紀という時代はまさにその近代たけなわの時代だったということが出来る。この時代の文学作品は，したがってきわめて現代的といってもよいだろう。とりわけドイツ文学は，その波に乗ることができない者の苦闘の記録として読むことができるものである。そのような十九世紀の文学作品の中から，参加者に各自作家作品を選んでもらい，これを読んでいくことによって，自分なりの読みの力を養ってもらうことが目標である。

これと合わせて，ロマン，ノヴェレ，枠物語等の代表的な文芸学上の概念について理解し，作品を分析し解釈するための道具を手に入れることも目標とする。

授業内容

授業は，参加者が十九世紀ドイツ文学作品の中から，上の目標に沿って特に考察してみたい作家と作品を選んでもらい，これを精読した上で，レポートしていただく。

履修上の注意

精読をするということもだが，あわせてスピーディーに読んでいくことも心掛けてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，その回に読む範囲を十分読解しておくこと。

教科書

クラスウェブにテキストをアップする。他，適宜必要に応じてプリント等配布する。

参考書

必要があれば授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

この演習への熱意（遅刻なき出席）と貢献度（担当・発言）によって評価する。

その他

特にない。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	富重 与志生	

授業の概要・到達目標

AI化が進む現代、次第にあらわになっているのは人間の道具化の先鋭化であると同時に、そこから逃れようとしつつも逃れられない人間の姿だろう。この人間の道具化が始まったのが、いわゆる近代とともにであるとすれば、十九世紀という時代はまさにその近代たけなわの時代だったということが出来る。この時代の文学作品は、したがってきわめて現代的といってもよいだろう。とりわけドイツ文学は、その波に乗ることができない者の苦闘の記録として読むことができるものである。そのような十九世紀の文学作品の中から、参加者に各自作家作品を選んでもらい、これを読んでいくことによって、自分なりの読みの力を養ってもらうことが目標である。

これと合わせて、ロマン、ノヴェレ、枠物語等の代表的な文芸学上の概念について理解し、作品を分析し解釈するための道具を手に入れることも目標とする。

授業内容

授業は、参加者が十九世紀ドイツ文学作品の中から、上の目標に沿って特に考察してみたい作家と作品を選んでもらい、これを精読した上で、レポートしていただく。

履修上の注意

精読をするということもだが、あわせてスピーディーに読んでいくことも心掛けてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、その回に読む範囲を十分読解しておくこと。

教科書

クラスウェブにテキストをアップする。他、適宜必要に応じてプリント等配布する。

参考書

必要があれば授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

この演習への熱意(遅刻なき出席)と貢献度(担当・発言)によって評価する。

その他

特にない。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	近代独文学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	富重 与志生	

授業の概要・到達目標

AI化が進む現代、次第にあらわになっているのは人間の道具化の先鋭化であると同時に、そこから逃れようとしつつも逃れられない人間の姿だろう。この人間の道具化が始まったのが、いわゆる近代とともにであるとすれば、十九世紀という時代はまさにその近代たけなわの時代だったということが出来る。この時代の文学作品は、したがってきわめて現代的といってもよいだろう。とりわけドイツ文学は、その波に乗ることができない者の苦闘の記録として読むことができるものである。そのような十九世紀の文学作品の中から、参加者に各自作家作品を選んでもらい、これを読んでいくことによって、自分なりの読みの力を養ってもらうことが目標である。

これと合わせて、ロマン、ノヴェレ、枠物語等の代表的な文芸学上の概念について理解し、作品を分析し解釈するための道具を手に入れることも目標とする。

授業内容

授業は、参加者が十九世紀ドイツ文学作品の中から、上の目標に沿って特に考察してみたい作家と作品を選んでもらい、これを精読した上で、レポートしていただく。

履修上の注意

精読をするということもだが、あわせてスピーディーに読んでいくことも心掛けてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、その回に読む範囲を十分読解しておくこと。

教科書

クラスウェブにテキストをアップする。他、適宜必要に応じてプリント等配布する。

参考書

必要があれば授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

この演習への熱意(遅刻なき出席)と貢献度(担当・発言)によって評価する。

その他

特にない。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	現代独文学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 福間 具子		

授業の概要・到達目標

ドイツ近現代詩作品研究

ドイツ語詩を読みつつ、それらをアクチュアルな視点から読む研究法を併せて学んでゆく。

主に19世紀後半から今日まで、ドイツ語で書かれた詩で有名なものを中心に読んでゆくが、分析手法としては、むしろ新しい文学批評理論を用いてみたい。単に読むだけではなく、研究する場合どこに注目すべきかという批評の実践として読むことに努める。担当者は担当する詩人の伝記を調べてくること。詩篇自体は全員が事前に読んでくること。

授業内容に入れた詩人名はとりあえず仮のもので、希望によって入れ替えることもある。

授業内容

- 第一回 イントロダクションー詩と批評について
- 第二回 アイヒェンドルフの詩篇 読解と批評
- 第三回 ハイネの詩篇 読解と批評
- 第四回 ドロステ＝ヒュルスホフの詩篇 読解と批評
- 第五回 メーリケの詩篇 読解と批評
- 第六回 シュトルムの詩篇 読解と批評
- 第七回 ゲオルゲの詩篇 読解と批評
- 第八回 シュベルバーの詩篇 読解と批評
- 第九回 ホーフマンスタールの詩篇 読解と批評
- 第十回 リルケの詩篇 読解と批評
- 第十一回 ベンの詩篇 読解と批評
- 第十二回 トラークルの詩篇 読解と批評
- 第十三回 フーヘルスの詩篇 読解と批評
- 第十四回 総括としてのディスカッションー近現代詩とポストモダン批評の可能性

履修上の注意

春学期と秋学期を合わせて、通年で履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は事前に担当する詩人の伝記を調べてくること。
授業では訳読をし、そのうえで全員で解釈を行うので、全員が事前に読んでくるのが望ましい。

教科書

Hanspeter Brode(Hg.): Deutsche Lyrik. Eine Anthologie. Suhrkamp 1990

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業で口頭で行うが、希望に応じて、メール等で返信することも可能である。

成績評価の方法

平常点（訳読や資料読解などを通じての授業への貢献度などから総合的に判断）70%、担当時の発表内容30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	現代独文学演習ⅠB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 福間 具子		

授業の概要・到達目標

ドイツ近現代詩作品研究

春学期に引き続き、ドイツ語詩を読みつつ、それらをアクチュアルな視点から読む研究法を併せて学んでゆく。

主に19世紀後半から今日まで、ドイツ語で書かれた詩で有名なものを中心に読んでゆくが、分析手法としては、むしろ新しい文学批評理論を用いてみたい。単に読むだけではなく、研究する場合どこに注目すべきかという批評の実践として読むことに努める。担当者は担当する詩人の伝記を調べてくること。詩篇自体は全員が事前に読んでくること。

授業内容に入れた詩人名はとりあえず仮のもので、希望によって入れ替えることもある。

授業内容

- 第一回 イントロダクションー詩と批評について
- 第二回 プレヒトの詩篇 読解と批評
- 第三回 アイヒの詩篇 読解と批評
- 第四回 ボプロフウスキーの詩篇 読解と批評
- 第五回 ツェランの詩篇 読解と批評
- 第六回 ヤーンドルの詩篇 読解と批評
- 第七回 バッハマンの詩篇 読解と批評
- 第八回 グラスの詩篇 読解と批評
- 第九回 エンツェンスベルガーの詩篇 読解と批評
- 第十回 プリンクマンの詩篇 読解と批評
- 第十一回 シンデルの詩篇 読解と批評
- 第十二回 グリュンバインの詩篇 読解と批評
- 第十三回 ゼーバルトの詩篇 読解と批評
- 第十四回 総括としてのディスカッションー近現代詩とポストモダン批評の可能性

履修上の注意

春学期と秋学期を合わせて、通年で履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は事前に担当する詩人の伝記を調べてくること。
授業では訳読をし、そのうえで全員で解釈を行うので、全員が事前に読んでくるのが望ましい。

教科書

Hanspeter Brode(Hg.): Deutsche Lyrik. Eine Anthologie. Suhrkamp 1990

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業で口頭で行うが、希望に応じて、メール等で返信することも可能である。

成績評価の方法

平常点（訳読や資料読解などを通じての授業への貢献度などから総合的に判断）70%、担当時の発表内容30%

その他

博士前期課程

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	現代独文学演習 IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	福間 具子	

授業の概要・到達目標

ドイツ近現代詩作品研究

ドイツ語詩を読みつつ、それらをアクチュアルな視点から読む研究方法を併せて学んでゆく。

主に19世紀後半から今日まで、ドイツ語で書かれた詩で有名なものを中心に読んでゆくが、分析手法としては、むしろ新しい文学批評理論を用いてみたい。単に読むだけでなく、研究する場合どこに注目すべきかという批評の実践として読むことに努める。
担当者は担当する詩人の伝記を調べてくること。詩篇自体は全員が事前に読んでくること。

授業内容に入れた詩人名はとりあえず仮のもので、希望によって入れ替えることもある。

授業内容

- 第一回 インTRODクシヨーン詩と批評について
- 第二回 アイヒェンドルフの詩篇 読解と批評
- 第三回 ハイネの詩篇 読解と批評
- 第四回 ドロステ=ヒュルスホフの詩篇 読解と批評
- 第五回 メーリケの詩篇 読解と批評
- 第六回 シュトルムの詩篇 読解と批評
- 第七回 ゲオルゲの詩篇 読解と批評
- 第八回 シュベルバーの詩篇 読解と批評
- 第九回 ホーフマンスタールの詩篇 読解と批評
- 第十回 リルケの詩篇 読解と批評
- 第十一回 ベンの詩篇 読解と批評
- 第十二回 トラクルの詩篇 読解と批評
- 第十三回 フーヘルムの詩篇 読解と批評
- 第十四回 総括としてのディスカッション—近現代詩とポストモダン批評の可能性

履修上の注意

春学期と秋学期を合わせて、通年で履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は事前に担当する詩人の伝記を調べてくること。
授業では訳読をし、そのうえで全員で解釈を行うので、全員が事前に読んでくることが望ましい。

教科書

Hanspeter Brode(Hg.): Deutsche Lyrik. Eine Anthologie. Suhrkamp 1990

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業で口頭で行うが、希望に応じて、メール等で返信することも可能である。

成績評価の方法

平常点（訳読や資料読解などを通じての授業への貢献度などから総合的に判断）70%、担当時の発表内容30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	現代独文学演習 ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	福間 具子	

授業の概要・到達目標

ユダヤ系詩人の作品研究

昨年度に引き続き、ドイツ語圏のユダヤ系詩人の作品読解を行う。昨年は春学期にヴォルフスケール、秋学期は出席者の希望に応じて(ユダヤ系ではないが)ノサック、ゼーバルトの詩を読んだ。そこで感じたことは、多様な詩を読むことの重要性である。詩人により作風や主題、主題の表現方法が実に多種多様であり、詩を知るためには複数読むことが肝要であると考えさせられた。

そこで、とりあえずは2023年10月に出版されたローベルト・シンデルの最新詩集『Flussgang』を読むことにするが、その他希望に応じて20世紀以降の詩をたくさん読んでみたい。シラバスには便宜的にブコヴィナ地方出身のユダヤ系詩人を入れておくが、変更の可能性もあることをご承知おき頂きたい。

その際、詩の基本的解釈方法、伝統的な分析方法、資料の調べ方、新しい観点からの捉え方など、研究方法を随時指導していきたい。

授業内容

- 第一回 インTRODクシヨーン詩を読むとは何か。
- 第二回 ローベルト・シンデルの後期詩篇について
- 第三回 シンデルの詩篇(1)読解と鑑賞
- 第四回 シンデルの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第五回 シンデルの詩篇(3)読解と鑑賞
- 第六回 ブコヴィナの詩人たちについて
- 第七回 シュベルバーの詩篇(1)読解と鑑賞
- 第八回 シュベルバーの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第九回 ヴァイスグラースの詩篇(1)読解と鑑賞
- 第十回 ヴァイスグラースの詩篇(2)読解と鑑賞
- 第十一回 アルフレート・ゴングの詩篇(初期)読解と鑑賞
- 第十二回 アルフレート・ゴングの詩篇(中期)読解と鑑賞
- 第十三回 アルフレート・ゴングの詩篇(後期)読解と鑑賞
- 第十四回 総括としてのディスカッション—詩の形式と主題の関係について

履修上の注意

春学期と秋学期を合わせて、通年で履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

履修者の人数によるが、基本的には担当者は作品の和訳を作成してくる。授業では訳読をし、そのうえで全員で解釈を行うので、全員が事前に読んでくることが望ましい。

教科書

特に指定しない。
適宜コピーを配布する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業で口頭で行うが、希望に応じて、メール等で返信することも可能である。

成績評価の方法

平常点（訳読や資料読解などを通じての授業への貢献度などから総合的に判断）70%、担当時の発表内容30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	現代独文学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	新本 史斉	

授業の概要・到達目標

現代ドイツ語圏越境文学における脱領土的思考の展開
 前期の授業では、文学、宗教学、美学、政治評論、ルポルター
 ジュなど多数の分野を横断して執筆活動を展開しているドイ
 ツ語圏の越境作家Navid Kermaniの作品をとりあげ、文学的
 思考、人文学的思考とアクチュアルな国際関係がどのように
 交差しうるかについて、考察していきます。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：Navid Kermani の宗教論を読む(1)
- 第3回：Navid Kermani の宗教論を読む(2)
- 第4回：Navid Kermani の宗教論を読む(3)
- 第5回：Navid Kermani の宗教論を読む(4)
- 第6回：Navid Kermani の宗教論を読む(5)
- 第7回：Navid Kermani の宗教論を読む(6)
- 第8回：Navid Kermani の文学論を読む(1)
- 第9回：Navid Kermani の文学論を読む(2)
- 第10回：Navid Kermani の文学論を読む(3)
- 第11回：Navid Kermani の文学論を読む(4)
- 第12回：Navid Kermani の文学論を読む(5)
- 第13回：Navid Kermani の文学論を読む(6)
- 第14回：まとめの議論

履修上の注意

(参考書の欄を参照。)

準備学習（予習・復習等）の内容

それぞれの回のドイツ語テキストを丁寧に読んだ上で参加す
 ること。

教科書

Navid Kermani:
 Ungläubiges Staunen. Über das Christentum (2016)
 Jeder soll von da, wo er ist einen Schritt näher kommen:
 Fragen nach Gott(2021)
 Zwischen Koran und Kafka. (2014)
 Dein Name. Roman. (2011)
 などから抜粋したテキストを読みます。

参考書

I・ラケーザ(編)『ヨーロッパは書く』(鳥影社 2008)
 I・ラケーザ『ラングザマー』(共和国 2016)
 H・ミュラー『いつも同じ雪といつもおなじおじさん』(三修社
 2025)
 など、現代ドイツの越境文学作品。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのクラスウェブを使って、授業で考えたことを言
 語化してもらい、次週の授業でコメントします。

成績評価の方法

授業中の発表 60%, レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	現代独文学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	新本 史斉	

授業の概要・到達目標

<戦略としての素朴さ>—20世紀、21世紀スイス文学・美術
 を読み解く
 後期の授業では、20世紀前半のスイス文学を代表するRobert
 Walser, Friedrich Glauser, 現代スイス文学を代表する作家
 Peter Bichsel, Friedrich Dürrenmatt などの作品、さらには
 20世紀前半のスイス美術を代表するPaul Klee, 現代スイスの
 アーティストYves Netzhammerなどの作品をとりあげ、一
 見「素朴」に見える作品に隠された彼らの創作戦略を読み解い
 ていきます。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 Friedrich Dürrenmattの散文を読む(1)
- 第3回 Friedrich Dürrenmattの散文を読む(2)
- 第4回 Friedrich Dürrenmattの散文を読む(3)
- 第5回 Peter Bichselの物語を読む(1)
- 第6回 Peter Bichselの物語を読む(2)
- 第7回 Peter Bichselの物語を読む(3)
- 第8回 Friedrich Glauserの小説を読む(1)
- 第9回 Friedrich Glauserの小説を読む(2)
- 第10回 Friedrich Glauserの小説を読む(3)
- 第11回 Friedrich Glauserの小説を読む(4)
- 第12回 スイス美術講義(1)
- 第13回 スイス美術講義(2)
- 第14回 まとめ議論

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

それぞれの回のドイツ語テキストを丁寧に読んだ上で参加す
 ること。

教科書

Friedrich Dürrenmatt: Der Tunnel.
 Peter Bichsel: Kindergeschichten.
 Friedrich Glauser: Matt regiert.
 などから抜粋したテキストを読みます。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのクラスウェブを使って、授業で考えたことを言
 語化してもらい、次週の授業でコメントします。

成績評価の方法

授業中の発表 60%, レポート40%

その他

スイス美術の回については外部講師による講義を予定してい
 ます。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	現代独文学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	新本 史斉	

授業の概要・到達目標

現代ドイツ語圏越境文学における脱領土的思考の展開
前期の授業では、文学、宗教学、美学、政治評論、ルポルタージュなど多数の分野を横断して執筆活動を展開しているドイツ語圏の越境作家Navid Kermaniの作品をとりあげ、文学的思考、人文学的思考とアクチュアルな国際関係がどのように交差しうるかについて、考察していきます。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：Navid Kermani の宗教論を読む(1)
- 第3回：Navid Kermani の宗教論を読む(2)
- 第4回：Navid Kermani の宗教論を読む(3)
- 第5回：Navid Kermani の宗教論を読む(4)
- 第6回：Navid Kermani の宗教論を読む(5)
- 第7回：Navid Kermani の宗教論を読む(6)
- 第8回：Navid Kermani の文学論を読む(1)
- 第9回：Navid Kermani の文学論を読む(2)
- 第10回：Navid Kermani の文学論を読む(3)
- 第11回：Navid Kermani の文学論を読む(4)
- 第12回：Navid Kermani の文学論を読む(5)
- 第13回：Navid Kermani の文学論を読む(6)
- 第14回：まとめの議論

履修上の注意

(参考書の欄を参照。)

準備学習（予習・復習等）の内容

それぞれの回のドイツ語テキストを丁寧に読んだ上で参加すること。

教科書

Navid Kermani:
Ungläubiges Staunen. Über das Christentum (2016)
Jeder soll von da, wo er ist einen Schritt näher kommen:
Fragen nach Gott(2021)
Zwischen Koran und Kafka. (2014)
Dein Name. Roman. (2011)
などから抜粋したテキストを読みます。

参考書

I・ラケーザ(編)『ヨーロッパは書く』(鳥影社 2008)
I・ラケーザ『ラングザマー』(共和国 2016)
H・ミュラー『いつも同じ雪といつもおなじおじさん』(三修社 2025)
など、現代ドイツの越境文学作品。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのクラスウェブを使って、授業で考えたことを言語化してもらい、次週の授業でコメントします。

成績評価の方法

授業中の発表 60%, レポート40%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻	備考		
科目名	現代独文学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	新本 史斉	

授業の概要・到達目標

<戦略としての素朴さ>—20世紀、21世紀スイス文学・美術を読み解く
後期の授業では、20世紀前半のスイス文学を代表するRobert Walser, Friedrich Glauser, 現代スイス文学を代表する作家Peter Bichsel, Friedrich Dürrenmatt などの作品、さらには20世紀前半のスイス美術を代表するPaul Klee, 現代スイスのアーティストYves Netzhammerなどの作品をとりあげ、一見「素朴」に見える作品に隠された彼らの創作戦略を読み解いていきます。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 Friedrich Dürrenmattの散文を読む(1)
- 第3回 Friedrich Dürrenmattの散文を読む(2)
- 第4回 Friedrich Dürrenmattの散文を読む(3)
- 第5回 Peter Bichselの物語を読む(1)
- 第6回 Peter Bichselの物語を読む(2)
- 第7回 Peter Bichselの物語を読む(3)
- 第8回 Friedrich Glauserの小説を読む(1)
- 第9回 Friedrich Glauserの小説を読む(2)
- 第10回 Friedrich Glauserの小説を読む(3)
- 第11回 Friedrich Glauserの小説を読む(4)
- 第12回 スイス美術講義(1)
- 第13回 スイス美術講義(2)
- 第14回 まとめ議論

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

それぞれの回のドイツ語テキストを丁寧に読んだ上で参加すること。

教科書

Friedrich Dürrenmatt: Der Tunnel.
Peter Bichsel: Kindergeschichten.
Friedrich Glauser: Matt regiert.
などから抜粋したテキストを読みます。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのクラスウェブを使って、授業で考えたことを言語化してもらい、次週の授業でコメントします。

成績評価の方法

授業中の発表 60%, レポート40%

その他

スイス美術の回については外部講師による講義を予定しています。

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	ドイツ文芸思想史演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil. マンデラルツ, ミヒヤエル		

授業の概要・到達目標

Literaturtheorien von der Antike bis zur Gegenwart I

Der Nutzen von Literaturtheorien bei der praktischen Arbeit des Literaturwissenschaftlers ist begrenzt, denn die Anwendung von Theorien auf die Literatur liefert an sich keine neuen Erkenntnisse, sondern bringt die Texte lediglich auf vorgegebene Bahnen. Der Erkenntnisprozess wird durch Theorien also zunächst einmal eher behindert als gefördert, denn je konsequenter man sich auf eine Theorie bzw. ihre Anwendung als Methode einlässt, desto mehr wird aus dem Erkenntnisprozess ausgeschlossen. Dennoch sollte der Literaturwissenschaftler die wichtigen Theorien seines Faches kennen, denn jede ‚Bahn‘ der Erkenntnis, die er sich aneignet, erweitert das Repertoire seiner Erkenntnismöglichkeiten. Das praktische Vorgehen im Umgang mit Literatur hängt dann eher vom Charakter des Wissenschaftlers als von den Theorien ab. Das wichtigste Mittel, um ein Ausufern der Erkenntnis in unplausible Interpretationen zu verhindern, ist die Logik: Es gilt, Widersprüche zwischen früheren Interpretationen zu erkennen, einen Weg ‚dazwischen‘ zu finden, Widersprüche in der eigenen Auslegung zu verhindern und darauf zu achten, dass sie mit dem Text und dem kulturhistorischen Umfeld in Übereinstimmung zu bringen ist. (Fortsetzung s. Wintersemester)

授業内容

- (1) Einführung. Thomas S. Kuhn: [Revolutionen als Wandlungen des Weltbildes]
- (2) Aristoteles: Poetik. Antike und Mittelalter. Allegorese
- (3) Frühe Neuzeit: Hermeneutik. Hans-Georg Gadamer: Einführung (Flacius, Chladenius, Baumgarten. Übergang zur romantischen Hermeneutik)
- (4) 19. Jahrhundert. Hermeneutik: Friedrich Schleiermacher (1)
- (5) 19. Jahrhundert. Hermeneutik: Friedrich Schleiermacher (2)
- (6) Positivismus und Nationalismus. Erich Schmidt: Wege und Ziele der deutschen Literaturgeschichte / Wilhelm Scherer: Die neue Generation
- (7) Geistesgeschichte (1). Wilhelm Dilthey: Das Erlebnis und die Dichtung
- (8) Geistesgeschichte (2). Rudolf Unger: Philosophische Probleme in der neueren Literaturgeschichte / Friedrich Gundolf: Goethe
- (9) Materialismus: Karl Marx, Georg Lukács
- (10) Nationalismus und Nationalsozialismus: Josef Nadler und Walther Linden
- (11) Immanente Interpretation (1). Wolfgang Kayser: Der Gegenstand der Literaturwissenschaft
- (12) Immanente Interpretation (2). Emil Staiger: Die Kunst der Interpretation
- (13) Eine Debatte: Eduard Mörikes Gedicht ‚Auf eine Lampe‘. Emil Staiger, Martin Heidegger, Leo Spitzer
- (14) Rückblick

履修上の注意

Regelmäßige Teilnahme ist erwünscht.

準備学習（予習・復習等）の内容

Neben Übersetzung und Diskussion sollten gelegentlich Referate gehalten werden. Die Sitzungen sollten ziemlich regelmäßig in kurzen Protokollen festgehalten und zu Beginn der folgenden Sitzung vorgelesen werden.

教科書

-

参考書

- Aristoteles: Vom Himmel - Von der Seele - Von der Dichtkunst. Übers. v. Olaf Gigon. München: dtv 1983
- Dilthey, Wilhelm: Das Erlebnis und die Dichtung. Lessing - Goethe - Novalis - Hölderlin. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht 1970 (zuerst 1905). 335 S.
- Gundolf, Friedrich: Goethe. 9. unveränd. Aufl. Berlin: Georg Bondi 1920 (zuerst 1916). 795 S.
- Kayser, Wolfgang: Der Gegenstand der Literaturwissenschaft. In: Albert Klein und Jochen Vogt: Dokumentation, S. 121-127 et al.

課題に対するフィードバックの方法

Während des Seminars

成績評価の方法

Die Benotung erfolgt nach mündlicher und schriftlicher Mitarbeit an den Sitzungen, Protokollen, Referaten und Anwesenheit.

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	ドイツ文芸思想史演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil. マンデラルツ, ミヒヤエル		

授業の概要・到達目標

Klassische und romantische Kunsttheorie, Teil II / Gesprächsforum Abschlussarbeiten

Das Seminar bietet neben der Arbeit am Thema Kunsttheorie die Gelegenheit, Referate zum vorläufigen Stand der Magisterarbeiten bzw. Dissertationen auf Deutsch vorzutragen und zu diskutieren. - Zum Thema: (Fortsetzung vom Sommersemester) Während der Napoleonischen Kriege verfestigten sich die Positionen weiter. Friedrich und August Wilhelm Schlegel begründeten das Bündnis zwischen Religion und Kunst theoretisch und historisch. Der sog. ‚Ramdohr-Streit‘ um C. D. Friedrichs Tetschener Altar (1808) zeigte, dass die Positionen - regelbasierte, intellektuelle, am ‚Fortschritt‘ der Kunst orientierte gegen subjektive, gefühlsbetonte und von der Kunstgeschichte absehbare Kunstauffassung - nicht mehr zu vermitteln waren. Johann Heinrich Meyers und Goethes Aufsatz Neu-deutsch religiös-patriotische Kunst von 1817 ordnete die nationalen Tendenzen der Romantik historisch ein. 1819 eskalierte der Streit noch einmal um die Ausstellung der Nazarener im Palazzo Caffarelli in Rom, aber bald danach setzte sich die romantische Kunst in Deutschland durch. Ihre führenden Vertreter erhielten Stellen an den Kunstakademien.

授業内容

- (1) Andreas Beyer: Die Kunst des Klassizismus und der Romantik (2011)
- (2) Adam Müller: Etwas über Landschaftsmalerei (1808)
- (3) Heinrich von Kleist: Empfindungen vor Friedrichs Seelandschaft (1810)
- (4) Goethe: Ruysdael als Dichter (1816)
- (5) Carl Gustav Carus: Neun Briefe über Landschaftsmalerei (1815 / 1831)
- (6) Frank Büttner: Abwehr der Romantik (1994) / Der Streit um die die Neu-deutsche religiös-patriotische Kunst (1983) /
- (7) Heinrich Meyer: Neu-deutsche religiös-patriotische Kunst (1817)
- (8) Karl Friedrich Schinkel: Gedanken und Bemerkungen über Kunst (o. J.)
- (9) Frank Büttner: Schinkel, Goethe und die „... Landschaftsmalerei“ (2004)
- (10) Joseph Görres: Die Zeiten (zu: Ph. O. Runge) (1808)
- (11) Frank Büttner: Philipp Otto Runge (2010)
- (12) Carl Gustav Carus: Friedrich der Landschaftsmaler (1840) / Werner Busch: Caspar David Friedrichs Tetschener Altar (1998)
- (13) Werner Busch: Caspar David Friedrich. Ästhetik und Religion (2008)
- (14) Rückblick

履修上の注意

Regelmäßige Teilnahme ist erwünscht.

準備学習（予習・復習等）の内容

Neben Übersetzung und Diskussion sollten gelegentlich Referate gehalten werden. Die Sitzungen sollten regelmäßig in kurzen Protokollen festgehalten werden, die zu Beginn der folgenden Sitzung vorgelesen werden.

教科書

-

参考書

- (Fortsetzung vom Sommersemester)
- Hofmann, Werner: Caspar David Friedrich. Naturwirklichkeit und Kunstwahrheit. München: Beck 2000
 - Schlegel, Friedrich: Kritische Friedrich-Schlegel-Ausgabe. Hrsg. v. Ernst Behler u. a. München, Paderborn, Wien: Schöningh 1958-1987, Bd. 4
 - Tieck, Ludwig: Werke in vier Bänden. Hrsg. v. Marianne Thalmann. München: Winkler 1963-1966
 - Schulze, Sabine (Hrsg.): Goethe und die Kunst. Katalog zur Ausstellung in der Schirn Kunsthalle. Stuttgart: Hatje 1994
 - Traeger, Jörg: Philipp Otto Runge und sein Werk. Monographie und kritischer Katalog. München: Prestel 1975
 - Wackenroder, Wilhelm Heinrich: Sämtliche Werke und Briefe. Historisch-kritische Ausgabe. Hrsg. v. Silvio Vietta. Heidelberg: Winter 1991 et al.

課題に対するフィードバックの方法

Während des Seminars

成績評価の方法

Die Benotung erfolgt nach Vorbereitung auf die Sitzungen, Referaten, mündlicher Mitarbeit und Anwesenheit.

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	ドイツ文芸思想史演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil. マンデラルツ, ミヒヤエル		

授業の概要・到達目標

Literaturtheorien von der Antike bis zur Gegenwart I

Der Nutzen von Literaturtheorien bei der praktischen Arbeit des Literaturwissenschaftlers ist begrenzt, denn die Anwendung von Theorien auf die Literatur liefert an sich keine neuen Erkenntnisse, sondern bringt die Texte lediglich auf vorgegebene Bahnen. Der Erkenntnisprozess wird durch Theorien also zunächst einmal eher behindert als gefördert, denn je konsequenter man sich auf eine Theorie bzw. ihre Anwendung als Methode einlässt, desto mehr wird aus dem Erkenntnisprozess ausgeschlossen. Dennoch sollte der Literaturwissenschaftler die wichtigen Theorien seines Faches kennen, denn jede ‚Bahn‘ der Erkenntnis, die er sich aneignet, erweitert das Repertoire seiner Erkenntnismöglichkeiten. Das praktische Vorgehen im Umgang mit Literatur hängt dann eher vom Charakter des Wissenschaftlers als von den Theorien ab. Das wichtigste Mittel, um ein Ausufern der Erkenntnis in unplausible Interpretationen zu verhindern, ist die Logik: Es gilt, Widersprüche zwischen früheren Interpretationen zu erkennen, einen Weg ‚dazwischen‘ zu finden, Widersprüche in der eigenen Auslegung zu verhindern und darauf zu achten, dass sie mit dem Text und dem kulturhistorischen Umfeld in Übereinstimmung zu bringen ist. (Fortsetzung s. Wintersemester)

授業内容

- (1) Einführung. Thomas S. Kuhn: [Revolutionen als Wandlungen des Weltbildes]
- (2) Aristoteles: Poetik. Antike und Mittelalter. Allegorese
- (3) Frühe Neuzeit: Hermeneutik. Hans-Georg Gadamer: Einführung (Flacius, Chladenius, Baumgarten. Übergang zur romantischen Hermeneutik)
- (4) 19. Jahrhundert. Hermeneutik: Friedrich Schleiermacher (1)
- (5) 19. Jahrhundert. Hermeneutik: Friedrich Schleiermacher (2)
- (6) Positivismus und Nationalismus. Erich Schmidt: Wege und Ziele der deutschen Literaturgeschichte / Wilhelm Scherer: Die neue Generation
- (7) Geistesgeschichte (1). Wilhelm Dilthey: Das Erlebnis und die Dichtung
- (8) Geistesgeschichte (2). Rudolf Unger: Philosophische Probleme in der neueren Literaturgeschichte / Friedrich Gundolf: Goethe
- (9) Materialismus: Karl Marx, Georg Lukács
- (10) Nationalismus und Nationalsozialismus: Josef Nadler und Walther Linden
- (11) Immanente Interpretation (1). Wolfgang Kayser: Der Gegenstand der Literaturwissenschaft
- (12) Immanente Interpretation (2). Emil Staiger: Die Kunst der Interpretation
- (13) Eine Debatte: Eduard Mörikes Gedicht ‚Auf eine Lampe‘. Emil Staiger, Martin Heidegger, Leo Spitzer
- (14) Rückblick

履修上の注意

Regelmäßige Teilnahme ist erwünscht.

準備学習（予習・復習等）の内容

Neben Übersetzung und Diskussion sollten gelegentlich Referate gehalten werden. Die Sitzungen sollten ziemlich regelmäßig in kurzen Protokollen festgehalten und zu Beginn der folgenden Sitzung vorgelesen werden.

教科書

-

参考書

- Aristoteles: Vom Himmel - Von der Seele - Von der Dichtkunst. Übers. v. Olaf Gigon. München: dtv 1983
- Dilthey, Wilhelm: Das Erlebnis und die Dichtung. Lessing - Goethe - Novalis - Hölderlin. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht 1970 (zuerst 1905). 335 S.
- Gundolf, Friedrich: Goethe. 9. unveränd. Aufl. Berlin: Georg Bondi 1920 (zuerst 1916). 795 S.
- Kayser, Wolfgang: Der Gegenstand der Literaturwissenschaft. In: Albert Klein und Jochen Vogt: Dokumentation, S. 121-127 et al.

課題に対するフィードバックの方法

Während des Seminars

成績評価の方法

Die Benotung erfolgt nach mündlicher und schriftlicher Mitarbeit an den Sitzungen, Protokollen, Referaten und Anwesenheit.

その他

科目ナンバー：(AL) LIT632J			
独文学専攻		備考	
科目名	ドイツ文芸思想史演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil. マンデラルツ, ミヒヤエル		

授業の概要・到達目標

Klassische und romantische Kunsttheorie, Teil II / Gesprächsforum Abschlussarbeiten

Das Seminar bietet neben der Arbeit am Thema Kunsttheorie die Gelegenheit, Referate zum vorläufigen Stand der Magisterarbeiten bzw. Dissertationen auf Deutsch vorzutragen und zu diskutieren. - Zum Thema: (Fortsetzung vom Sommersemester) Während der Napoleonischen Kriege verfestigten sich die Positionen weiter. Friedrich und August Wilhelm Schlegel begründeten das Bündnis zwischen Religion und Kunst theoretisch und historisch. Der sog. ‚Ramdohr-Streit‘ um C. D. Friedrichs Tetschener Altar (1808) zeigte, dass die Positionen - regelbasierte, intellektuelle, am ‚Fortschritt‘ der Kunst orientierte gegen subjektive, gefühlsbetonte und von der Kunstgeschichte absehbare Kunstauffassung - nicht mehr zu vermitteln waren. Johann Heinrich Meyers und Goethes Aufsatz ‚Neu-deutsch religiös-patriotische Kunst von 1817 ordnete die nationalen Tendenzen der Romantik historisch ein. 1819 eskalierte der Streit noch einmal um die Ausstellung der Nazarener im Palazzo Caffarelli in Rom, aber bald danach setzte sich die romantische Kunst in Deutschland durch. Ihre führenden Vertreter erhielten Stellen an den Kunstakademien.

授業内容

- (1) Andreas Beyer: Die Kunst des Klassizismus und der Romantik (2011)
- (2) Adam Müller: Etwas über Landschaftsmalerei (1808)
- (3) Heinrich von Kleist: Empfindungen vor Friedrichs Seelandschaft (1810)
- (4) Goethe: Ruysdael als Dichter (1816)
- (5) Carl Gustav Carus: Neun Briefe über Landschaftsmalerei (1815 / 1831)
- (6) Frank Büttner: Abwehr der Romantik (1994) / Der Streit um die die Neu-deutsche religiös-patriotische Kunst (1983) /
- (7) Heinrich Meyer: Neu-deutsche religiös-patriotische Kunst (1817)
- (8) Karl Friedrich Schinkel: Gedanken und Bemerkungen über Kunst (o. J.)
- (9) Frank Büttner: Schinkel, Goethe und die „... Landschaftsmalerei“ (2004)
- (10) Joseph Görres: Die Zeiten (zu: Ph. O. Runge) (1808)
- (11) Frank Büttner: Philipp Otto Runge (2010)
- (12) Carl Gustav Carus: Friedrich der Landschaftsmaler (1840) / Werner Busch: Caspar David Friedrichs Tetschener Altar (1998)
- (13) Werner Busch: Caspar David Friedrich. Ästhetik und Religion (2008)
- (14) Rückblick

履修上の注意

Regelmäßige Teilnahme ist erwünscht.

準備学習（予習・復習等）の内容

Neben Übersetzung und Diskussion sollten gelegentlich Referate gehalten werden. Die Sitzungen sollten regelmäßig in kurzen Protokollen festgehalten werden, die zu Beginn der folgenden Sitzung vorgelesen werden.

教科書

-

参考書

- (Fortsetzung vom Sommersemester)
- Hofmann, Werner: Caspar David Friedrich. Naturwirklichkeit und Kunstwahrheit. München: Beck 2000
 - Schlegel, Friedrich: Kritische Friedrich-Schlegel-Ausgabe. Hrsg. v. Ernst Behler u. a. München, Paderborn, Wien: Schöningh 1958-1987, Bd. 4
 - Tieck, Ludwig: Werke in vier Bänden. Hrsg. v. Marianne Thalmann. München: Winkler 1963-1966
 - Schulze, Sabine (Hrsg.): Goethe und die Kunst. Katalog zur Ausstellung in der Schirn Kunsthalle. Stuttgart: Hatje 1994
 - Traeger, Jörg: Philipp Otto Runge und sein Werk. Monographie und kritischer Katalog. München: Prestel 1975
 - Wackenroder, Wilhelm Heinrich: Sämtliche Werke und Briefe. Historisch-kritische Ausgabe. Hrsg. v. Silvio Vietta. Heidelberg: Winter 1991 et al.

課題に対するフィードバックの方法

Während des Seminars

成績評価の方法

Die Benotung erfolgt nach Vorbereitung auf die Sitzungen, Referaten, mündlicher Mitarbeit und Anwesenheit.

その他

科目ナンバー: (AL) LIN612J			
独文学専攻		備考	
科目名	独語学演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		渡辺 学

授業の概要・到達目標

学部段階で習得した中級ドイツ語の総合力(特に読解力)の礎となる知識を随時確認・強化しながら、(現代)ドイツ語の諸相(語彙・文法にも注意を払いつつ、関連するトピック相互間の関わりを問うことにも意を注ぐ)を把握するテキストを読む。適宜簡単な授業時課題の報告やディスカッションの機会を設ける。今学期はさしあたり、昨年度のドイツへの移民のドイツ語からフォーカスをより原理的にして汎用性の高い言語論・コミュニケーション論に移して概説的なテキストを中心に読むことを考えている。

受講者がドイツ語の中級から上級段階の知識(主として語彙力、読解力)を得、合わせて、言語研究・言語学に親しみ、その方法や視点・発想を身につけることが到達目標である。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 現代ドイツ語の傾向:文法、語彙、文体(その1)
- 第3回 現代ドイツ語の傾向:文法、語彙、文体(その2)
- 第4回 言語とは何か、いかに働くか(その1)
- 第5回 言語とは何か、いかに働くか(その2)
- 第6回 言語とは何か、いかに働くか(その3)
- 第7回 コミュニケーションとは何か、コミュニケーションによる何が起るか(その1)
- 第8回 コミュニケーションとは何か、コミュニケーションによる何が起るか(その2)
- 第9回 コミュニケーションとは何か、コミュニケーションによる何が起るか(その3)
- 第10回 言語とコミュニケーションの関係(日独語対照も踏まえて)(その1)
- 第11回 言語とコミュニケーションの関係(日独語対照も踏まえて)(その2)
- 第12回 言語とコミュニケーションの関係(日独語対照も踏まえて)(その3)
- 第13回 言語とコミュニケーションの関係(日独語対照も踏まえて)(その4)
- 第14回 全体のまとめ

履修上の注意

詳しい説明を行う第一回目の授業に出席のこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時に配る資料にあらかじめ目を通し、読解しておくこと。また、授業時の内容を言語学の術語・方法に注意しながら復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しないが、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiを用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

授業への参加度等の平常点(40%)と学期末のレポート(60%)を総合して評価する。

その他

ドイツ語や言語(学)に関する本を日頃から積極的に読むことをお勧めする。言語感覚や言語意識を研ぎ澄ますためである。

科目ナンバー: (AL) LIN612J			
独文学専攻		備考	
科目名	独語学演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	兼任講師		成田 節

授業の概要・到達目標

日本語の小説のドイツ語訳を精読する。語彙および文構造を正確に捉えながらドイツ語文章を読解し、その上で、日本語原文と照らし合わせて、日本語とドイツ語の表現の仕方にどのような相違が見られるかを考察する。文章の精読と並行して、人称代名詞、主語選択、視点、受動態、恩恵・迷惑の表現、時制などを中心に日独語対照研究の成果も紹介する。

文の構造を正しくとらえて、ドイツ語の文章を正確に読解することを第一の目標とする。また、普段無意識に使っている日本語の文法を意識的に見直し、日本語についての認識を新たにすることも目標とする。吉村昭「仮釈放」(新潮文庫)のSabine Mandoldによるドイツ語訳Unauslöschlich (Verlag C. H. Beck)の第1章と第2章をテキストとする。

授業内容

- 第1回 概説的導入
- 第2回 Unauslöschlich (第1章)精読1
- 第3回 Unauslöschlich (第1章)精読2
- 第4回 Unauslöschlich (第1章)精読3
- 第5回 Unauslöschlich (第1章)精読4
- 第6回 Unauslöschlich (第1章)精読5
- 第7回 Unauslöschlich (第1章)精読6
- 第8回 Unauslöschlich (第1章)精読7
- 第9回 Unauslöschlich (第2章)精読1
- 第10回 Unauslöschlich (第2章)精読2
- 第11回 Unauslöschlich (第2章)精読3
- 第12回 Unauslöschlich (第2章)精読4
- 第13回 Unauslöschlich (第2章)精読5
- 第14回 総括

履修上の注意

十分なドイツ語読解力があることを前提とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

十分な予習は当然だが、予習以上に復習を徹底的に行うことを推奨する。

教科書

読解テキストは電子ファイルにして教育用ポータルサイトで配布する。原文の日本語の小説は各自で用意すること。

参考書

三瓶裕文・成田節(編)『ドイツ語を考える ことばについて的小論集』三修社、2008年
その他授業中に随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

教育用ポータルサイトで毎授業後にコメントシートを提出してもらい、次の授業で補足説明などを行う。

成績評価の方法

学期末レポート(60%)。授業への出席は前提とし、提出されたコメントの内容と合わせて平常点(40%)として評価する。

その他

健康に留意し、毎回確実に授業に参加してください。

科目ナンバー: (AL) LIN612J			
独文学専攻		備考	
科目名	独語学演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		渡辺 学

授業の概要・到達目標

学部段階で習得した中級ドイツ語の総合力(特に読解力)の礎となる知識を随時確認・強化しながら、(現代)ドイツ語の諸相(語彙・文法にも注意を払いつつ、関連するトピック相互間の関わりを問うことにも意を注ぐ)を把握するテキストを読む。適宜簡単な授業時課題の報告やディスカッションの機会を設ける。今学期はさしあたり、昨年度のドイツへの移民のドイツ語からフォーカスをより原理的にして汎用性の高い言語論・コミュニケーション論に移して概説的なテキストを中心に読むことを考えている。

受講者がドイツ語の中級から上級段階の知識(主として語彙力、読解力)を得、合わせて、言語研究・言語学に親しみ、その方法や視点・発想を身につけることが到達目標である。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 現代ドイツ語の傾向:文法, 語彙, 文体(その1)
- 第3回 現代ドイツ語の傾向:文法, 語彙, 文体(その2)
- 第4回 言語とは何か、いかに動くか(その1)
- 第5回 言語とは何か、いかに動くか(その2)
- 第6回 言語とは何か、いかに動くか(その3)
- 第7回 コミュニケーションとは何か、コミュニケーションによる何が起るか(その1)
- 第8回 コミュニケーションとは何か、コミュニケーションによる何が起るか(その2)
- 第9回 コミュニケーションとは何か、コミュニケーションによる何が起るか(その3)
- 第10回 言語とコミュニケーションの関係(日独語対照も踏まえて)(その1)
- 第11回 言語とコミュニケーションの関係(日独語対照も踏まえて)(その2)
- 第12回 言語とコミュニケーションの関係(日独語対照も踏まえて)(その3)
- 第13回 言語とコミュニケーションの関係(日独語対照も踏まえて)(その4)
- 第14回 全体のまとめ

履修上の注意

詳しい説明を行う第一回目の授業に出席のこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時に配る資料にあらかじめ目を通し、読解しておくこと。また、授業時の内容を言語学の術語・方法に注意しながら復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しないが、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiを用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

授業への参加度等の平常点(40%)と学期末のレポート(60%)を総合して評価する。

その他

ドイツ語や言語(学)に関する本を日頃から積極的に読むことをお勧めする。言語感覚や言語意識を研ぎ澄ますためである。

科目ナンバー: (AL) LIN612J			
独文学専攻		備考	
科目名	独語学演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	兼任講師		成田 節

授業の概要・到達目標

日本語の小説のドイツ語訳を精読する。語彙および文構造を正確に捉えながらドイツ語文章を読解し、その上で、日本語原文と照らし合わせて、日本語とドイツ語の表現の仕方にどのような相違が見られるかを考察する。文章の精読と並行して、人称代名詞、主語選択、視点、受動態、恩恵・迷惑の表現、時制などを中心に日独語対照研究の成果も紹介する。

文の構造を正しくとらえて、ドイツ語の文章を正確に読解することを第一の目標とする。また、普段無意識に使っている日本語の文法を意識的に見直し、日本語についての認識を新たにすることも目標とする。吉村昭「仮釈放」(新潮文庫)のSabine Mandoldによるドイツ語訳Unauslöschlich (Verlag C. H. Beck)の第1章と第2章をテキストとする。

授業内容

- 第1回 概説的導入
- 第2回 Unauslöschlich (第1章)精読1
- 第3回 Unauslöschlich (第1章)精読2
- 第4回 Unauslöschlich (第1章)精読3
- 第5回 Unauslöschlich (第1章)精読4
- 第6回 Unauslöschlich (第1章)精読5
- 第7回 Unauslöschlich (第1章)精読6
- 第8回 Unauslöschlich (第1章)精読7
- 第9回 Unauslöschlich (第2章)精読1
- 第10回 Unauslöschlich (第2章)精読2
- 第11回 Unauslöschlich (第2章)精読3
- 第12回 Unauslöschlich (第2章)精読4
- 第13回 Unauslöschlich (第2章)精読5
- 第14回 総括

履修上の注意

十分なドイツ語読解力があることを前提とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

十分な予習は当然だが、予習以上に復習を徹底的に行うことを推奨する。

教科書

読解テキストは電子ファイルにして教育用ポータルサイトで配布する。原文の日本語の小説は各自で用意すること。

参考書

三瓶裕文・成田節(編)『ドイツ語を考える ことばについて的小論集』三修社、2008年
その他授業中に随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

教育用ポータルサイトで毎授業後にコメントシートを提出してもらい、次の授業で補足説明などを行う。

成績評価の方法

学期末レポート(60%)。授業への出席は前提とし、提出されたコメントの内容と合わせて平常点(40%)として評価する。

その他

健康に留意し、毎回確実に授業に参加してください。

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	井上 優	

授業の概要・到達目標

各受講生の学習の目標(修士論文・博士論文の執筆, 学会発表, 日常の研究成果の研鑽)のための取り組みを行い, 意見交換を行うことで受講生相互の見識を深めることを目標とする。

授業内容

手順としては, 基本的に毎回分担を決め, 担当者が分担箇所を報告し, それを基に全員で議論をしていく形をとる。進行予定は以下のとおり。

第1回: 授業の概要の説明 分担決定

第2回~第13回: 受講生の発表

第14回: 最終討論, まとめ, 振り返り。

履修上の注意

授業に関連した演劇公演, 学外での催し(講演, 学会など)には積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生相互の理解のため, 事前に発表に関連して指示されたテキストを予習しておくこと。

また次回の討論のため, 必ず毎回の授業内容(発表内容)は復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でその回を担当した受講生に毎回成果についてフィードバックを行う。

成績評価の方法

期末に小論文規模のレポートを課し, それをもって評価とする。ただし, 演習ゆえ, 積極的に議論に参加することが何よりも求められる。無断欠席も厳禁。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	井上 優	

授業の概要・到達目標

各受講生の学習の目標(修士論文・博士論文の執筆, 学会発表, 日常の研究成果の研鑽)のための取り組みを行い, 意見交換を行うことで受講生相互の見識を深めることを目標とする。

原則的に春学期の進行に準ずる。

授業内容

手順としては, 基本的に毎回分担を決め, 担当者が分担箇所を報告し, それを基に全員で議論をしていく形をとる。進行予定は以下のとおり。

第1回: 授業の概要の説明 分担決定

第2回~第13回: 受講生の発表

第14回: 最終討論, まとめ, 振り返り。

履修上の注意

授業に関連した演劇公演, 学外での催し(講演, 学会など)には積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生相互の理解のため, 事前に発表に関連して指示されたテキストを予習しておくこと。

また次回の討論のため, 必ず毎回の授業内容(発表内容)は復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の担当者に直接フィードバックを行う。

成績評価の方法

期末に小論文規模のレポートを課し, それをもって評価とする。ただし, 演習ゆえ, 積極的に議論に参加することが何よりも求められる。無断欠席も厳禁。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	井上 優	

授業の概要・到達目標

各受講生の学習の目標(修士論文・博士論文の執筆, 学会発表, 日常の研究成果の研鑽)のための取り組みを行い, 意見交換を行うことで受講生相互の見識を深めることを目標とする。

授業内容

手順としては, 基本的に毎回分担を決め, 担当者が分担箇所を報告し, それを基に全員で議論をしていく形をとる。進行予定は以下のとおり。

- 第1回：授業の概要の説明 分担決定
- 第2回～第13回：受講生の発表
- 第14回：最終討論, まとめ, 振り返り。

履修上の注意

授業に関連した演劇公演, 学外での催し(講演, 学会など)には積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生相互の理解のため, 事前に発表に関連して指示されたテキストを予習しておくこと。

また次回の討論のため, 必ず毎回の授業内容(発表内容)は復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

期末に小論文規模のレポートを課し, それをもって評価とする。ただし, 演習ゆえ, 積極的に議論に参加することが何よりも求められる。無断欠席も厳禁。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	井上 優	

授業の概要・到達目標

各受講生の学習の目標(修士論文・博士論文の執筆, 学会発表, 日常の研究成果の研鑽)のための取り組みを行い, 意見交換を行うことで受講生相互の見識を深めることを目標とする。

原則的に春学期の進行に準ずる。

授業内容

手順としては, 基本的に毎回分担を決め, 担当者が分担箇所を報告し, それを基に全員で議論をしていく形をとる。進行予定は以下のとおり。

- 第1回：授業の概要の説明 分担決定
- 第2回～第13回：受講生の発表
- 第14回：最終討論, まとめ, 振り返り。

履修上の注意

授業に関連した演劇公演, 学外での催し(講演, 学会など)には積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生相互の理解のため, 事前に発表に関連して指示されたテキストを予習しておくこと。

また次回の討論のため, 必ず毎回の授業内容(発表内容)は復習しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

期末に小論文規模のレポートを課し, それをもって評価とする。ただし, 演習ゆえ, 積極的に議論に参加することが何よりも求められる。無断欠席も厳禁。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	演劇学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 大林 のり子		

授業の概要・到達目標

演習は原則として大林ゼミの学生の個別指導が中心になる。授業内容はその一例として、受講生により変更あり。演劇における多様性の表現が、国際化する世界において常に様々に試行錯誤されているが、たとえば、民族的な表象あるいは、演劇と民族の関係がドラマや身体表現、社会問題としていかに扱われてきたのかについて、考えてみる。

授業内容

- 1 Introduction
- 2 Social protest and the politics of representation (1)
- 3 Social protest and the politics of representation (2)
- 4 Social protest and the politics of representation (3)
- 5 Social protest and the politics of representation (4)
- 6 Cultural traditions, cultural memory, and performance (1)
- 7 Cultural traditions, cultural memory, and performance (2)
- 8 Cultural traditions, cultural memory, and performance (3)
- 9 Cultural traditions, cultural memory, and performance (4)
- 10 Intersections of race and gender (1)
- 11 Intersections of race and gender (2)
- 12 Intersections of race and gender (3)
- 13 Intersections of race and gender (4)
- 14 まとめ

履修上の注意

演習については、基本的には出席者の関心および研究内容に合わせて、必要な資料収集および講読を進めていく。英語のみならずドイツ語の文献にも目を配っていくこともある。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は事前に該当テキストに関するレジюмеを準備し、参加者は同テキストに目を通しておくこと。

教科書

参考図書

- 1) Daphne A. Brooks, African American Performance and Theater History: A Critical Reader, Oxford University Press, 2001
- 2) Robbie Aitken, Black Germany, Cambridge University Press 2015

参考書

講義にて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

参加の意欲と課題への取り組みの総合で判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	演劇学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 大林 のり子		

授業の概要・到達目標

演習は原則として大林ゼミの学生の個別指導が中心になる。授業内容はその一例として、受講生により変更あり。欧米演劇における多様性の表現の中で、海外における日本または日本演劇についての考察を深める機会としたい。

授業内容

- 1 イントロダクション 授業の進め方
- 2 "America's Japan," the Performing Arts, and Japan Society (1)
- 3 "America's Japan," the Performing Arts, and Japan Society (2)
- 4 "America's Japan," the Performing Arts, and Japan Society (3)
- 5 Negotiating the Foreign: Language, American Audiences, and Theater from Japan (1)
- 6 Negotiating the Foreign: Language, American Audiences, and Theater from Japan (2)
- 7 Negotiating the Foreign: Language, American Audiences, and Theater from Japan (3)
- 8 Postdramatic theatre's artistic thinking (1)
- 9 Postdramatic theatre's artistic thinking (2)
- 10 Postdramatic theatre's artistic thinking (3)
- 11 The viewpoint of non-white narratives (1)
- 12 The viewpoint of non-white narratives (2)
- 13 The viewpoint of non-white narratives (3)
- 14 まとめ

履修上の注意

演習については、基本的には出席者の関心および研究内容に合わせて、必要な資料収集および講読を進めていく。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は事前にテキストについてのレジюмеを作成し、参加者はテキストに目を通しておくこと。

教科書

- 1) Barbara E. Thornbury, America's Japan and Japan's Performing Arts: Cultural Mobility and Exchange in New York, 1952-201, University of Michigan Press 2016
- 2) Sean Mayes, Conversations in Color: Exploring the World of Musical Theatre, Bloomsbury Methuen Drama 2022
- 3) Kai Tuchmann, Postdramatic Dramaturgies: Resonances Between Asia and Europe, Transcript Publishing 2022

参考書

講義にて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

参加の意欲と課題への取り組みの総合で判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	演劇学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 大林 のり子		

授業の概要・到達目標

演習は原則として大林ゼミの学生の個別指導が中心になる。授業内容はその一例として、受講生により変更あり。演劇における多様性の表現が、国際化する世界において常に様々に試行錯誤されてきたように思う。民族的な表象あるいは、演劇と民族の関係がドラマや身体表現、社会問題としていかに扱われてきたのかについて考える。

授業内容

- 1 Introduction
- 2 Social protest and the politics of representation (1)
- 3 Social protest and the politics of representation (2)
- 4 Social protest and the politics of representation (3)
- 5 Social protest and the politics of representation (4)
- 6 Cultural traditions, cultural memory, and performance (1)
- 7 Cultural traditions, cultural memory, and performance (2)
- 8 Cultural traditions, cultural memory, and performance (3)
- 9 Cultural traditions, cultural memory, and performance (4)
- 10 Intersections of race and gender (1)
- 11 Intersections of race and gender (2)
- 12 Intersections of race and gender (3)
- 13 Intersections of race and gender (4)
- 14 まとめ

履修上の注意

演習については、基本的には出席者の関心および研究内容に合わせて、必要な資料収集および講読を進めていく。英語のみならずドイツ語の文献にも目を配っていくこともある。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は事前に該当テキストに関するレジюмеを準備し、参加者は同テキストに目を通しておくこと。

教科書

参考図書

- 1) Daphne A. Brooks, African American Performance and Theater History: A Critical Reader. Oxford University Press, 2001.
- 2) Robbie Aitken, Black Germany, Cambridge University Press 2015.

参考書

講義にて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

参加の意欲と課題への取り組みの総合で判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	演劇学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 大林 のり子		

授業の概要・到達目標

演習は原則として大林ゼミの学生の個別指導が中心になる。授業内容はその一例として、受講生により変更あり。欧米演劇における多様性の表現の中で、海外における日本または日本演劇についての考察を深める。

授業内容

- 1 イントロダクション 授業の進め方
- 2 “America’s Japan,” the Performing Arts, and Japan Society (1)
- 3 “America’s Japan,” the Performing Arts, and Japan Society (2)
- 4 “America’s Japan,” the Performing Arts, and Japan Society (3)
- 5 Negotiating the Foreign: Language, American Audiences, and Theater from Japan (1)
- 6 Negotiating the Foreign: Language, American Audiences, and Theater from Japan (2)
- 7 Negotiating the Foreign: Language, American Audiences, and Theater from Japan (3)
- 8 Postdramatic theatre’s artistic thinking (1)
- 9 Postdramatic theatre’s artistic thinking (2)
- 10 Postdramatic theatre’s artistic thinking (3)
- 11 The viewpoint of non-white narratives (1)
- 12 The viewpoint of non-white narratives (2)
- 13 The viewpoint of non-white narratives (3)
- 14 まとめ

履修上の注意

演習については、基本的には出席者の関心および研究内容に合わせて、必要な資料収集および講読を進めていく。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は事前にテキストについてのレジюмеを作成し、参加者はテキストに目を通しておくこと。

教科書

- 1) Barbara E. Thornbury, America’s Japan and Japan’s Performing Arts: Cultural Mobility and Exchange in New York, 1952-201, University of Michigan Press 2016
- 2) Sean Mayes, Conversations in Color: Exploring the World of Musical Theatre, Bloomsbury Methuen Drama 2022
- 3) Kai Tuchmann, Postdramatic Dramaturgies: Resonances Between Asia and Europe, Transcript Publishing 2022

参考書

講義にて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

参加の意欲と課題への取り組みの総合で判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授		伊藤 愉

授業の概要・到達目標

革命期を中心とした20世紀前半のロシア演劇史を、劇作家・演出家であるニコライ・エヴレイノフの活動を中心に考察する。「マス・スペクタクル」や「アマチュア演劇」など大衆と演劇の関わりを考えると同時に、社会における「演劇」の「機能」や「効果」に注目して分析を進めていく。

授業内容

- 1 Introduction
- 2 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (1)
- 3 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (2)
- 4 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (3)
- 5 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (4)
- 6 Mass Festivals as Performance (1)
- 7 Mass Festivals as Performance (2)
- 8 Mass Festivals as Performance (3)
- 9 The Storming of the Winter Palace (1)
- 10 The Storming of the Winter Palace (2)
- 11 The Storming of the Winter Palace (3)
- 12 N. Evreinov and the Soviet theatre (1)
- 13 N. Evreinov and the Soviet theatre (2)
- 14 Conclusion

履修上の注意

演習は基本的にゼミ生を対象としています。英語文献およびロシア語文献を中心としてテキストを読み進めていく予定です。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者は課題テキストを読んでくること。

教科書

参考書

Татьяна Джурова. Концепция театральнойности в творчестве Н. Н. Евреинова. 2010
 Inke Arns, Sylvia Sasse, Igor Chubarov (eds.), *Nikolai Evreinov & Others - The Storming of the Winter Palace, 2017*
 など

課題に対するフィードバックの方法

履修者の報告（口頭、テキスト）を基本として、内容に対して毎回フィードバックを行なう。

成績評価の方法

授業への参加度と課題への取り組みで評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授		伊藤 愉

授業の概要・到達目標

革命期を中心とした20世紀前半のロシア演劇史を、劇作家・演出家であるニコライ・エヴレイノフの活動を中心に考察する。「マス・スペクタクル」や「アマチュア演劇」など大衆と演劇の関わりを考えると同時に、社会における「演劇」の「機能」や「効果」に注目して分析を進めていく。

授業内容

- 1 Introduction
- 2 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (1)
- 3 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (2)
- 4 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (3)
- 5 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (4)
- 6 Mass Festivals as Performance (1)
- 7 Mass Festivals as Performance (2)
- 8 Mass Festivals as Performance (3)
- 9 The Storming of the Winter Palace (1)
- 10 The Storming of the Winter Palace (2)
- 11 The Storming of the Winter Palace (3)
- 12 N. Evreinov and the Soviet theatre (1)
- 13 N. Evreinov and the Soviet theatre (2)
- 14 Conclusion

履修上の注意

演習は基本的にゼミ生を対象としています。英語文献およびロシア語文献を中心としてテキストを読み進めていく予定です。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者は課題テキストを読んでくること。

教科書

参考書

Татьяна Джурова. Концепция театральнойности в творчестве Н. Н. Евреинова. 2010
 Inke Arns, Sylvia Sasse, Igor Chubarov (eds.), *Nikolai Evreinov & Others - The Storming of the Winter Palace, 2017*
 など

課題に対するフィードバックの方法

履修者の報告（口頭、テキスト）を基本として、内容に対して毎回フィードバックを行なう。

成績評価の方法

授業への参加度と課題への取り組みで評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授		伊藤 愉

授業の概要・到達目標

革命期を中心とした20世紀前半のロシア演劇史を、劇作家・演出家であるニコライ・エヴレイノフの活動を中心に考察する。「マス・スペクタクル」や「アマチュア演劇」など大衆と演劇の関わりを考えると同時に、社会における「演劇」の「機能」や「効果」に注目して分析を進めていく。

授業内容

- 1 Introduction
- 2 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (1)
- 3 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (2)
- 4 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (3)
- 5 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (4)
- 6 Mass Festivals as Performance (1)
- 7 Mass Festivals as Performance (2)
- 8 Mass Festivals as Performance (3)
- 9 The Storming of the Winter Palace (1)
- 10 The Storming of the Winter Palace (2)
- 11 The Storming of the Winter Palace (3)
- 12 N. Evreinov and the Soviet theatre (1)
- 13 N. Evreinov and the Soviet theatre (2)
- 14 Conclusion

履修上の注意

演習は基本的にゼミ生を対象としています。英語文献およびロシア語文献を中心としてテキストを読み進めていく予定です。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者は課題テキストを読んでくること。

教科書

参考書

Татьяна Джурова. Концепция театральности в творчестве Н. Н. Евреинова. 2010
 Inke Arns, Sylvia Sasse, Igor Chubarov (eds.), *Nikolai Evreinov & Others - The Storming of the Winter Palace*, 2017
 など

課題に対するフィードバックの方法

履修者の報告（口頭、テキスト）を基本として、内容に対して毎回フィードバックを行なう。

成績評価の方法

授業への参加度と課題への取り組みで評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授		伊藤 愉

授業の概要・到達目標

革命期を中心とした20世紀前半のロシア演劇史を、劇作家・演出家であるニコライ・エヴレイノフの活動を中心に考察する。「マス・スペクタクル」や「アマチュア演劇」など大衆と演劇の関わりを考えると同時に、社会における「演劇」の「機能」や「効果」に注目して分析を進めていく。

授業内容

- 1 Introduction
- 2 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (1)
- 3 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (2)
- 4 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (3)
- 5 The concept of theatricality in the work of N. Evreinov (4)
- 6 Mass Festivals as Performance (1)
- 7 Mass Festivals as Performance (2)
- 8 Mass Festivals as Performance (3)
- 9 The Storming of the Winter Palace (1)
- 10 The Storming of the Winter Palace (2)
- 11 The Storming of the Winter Palace (3)
- 12 N. Evreinov and the Soviet theatre (1)
- 13 N. Evreinov and the Soviet theatre (2)
- 14 Conclusion

履修上の注意

演習は基本的にゼミ生を対象としています。英語文献およびロシア語文献を中心としてテキストを読み進めていく予定です。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者は課題テキストを読んでくること。

教科書

参考書

Татьяна Джурова. Концепция театральности в творчестве Н. Н. Евреинова. 2010
 Inke Arns, Sylvia Sasse, Igor Chubarov (eds.), *Nikolai Evreinov & Others - The Storming of the Winter Palace*, 2017
 など

課題に対するフィードバックの方法

履修者の報告（口頭、テキスト）を基本として、内容に対して毎回フィードバックを行なう。

成績評価の方法

授業への参加度と課題への取り組みで評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 伊藤 真紀		

授業の概要・到達目標

近代の日本演劇についての考察を中心とする。我が国の演劇は西欧の近代演劇の影響を受けつつ、新しい演劇観を構築してきた。演劇をとりまく環境も近代に入ると大きく変化する。こうした変化は様々な演劇ジャンルにおいてみられるものであるが、この演習では、近代の演劇人に焦点をあて、その自伝、評伝等を取りあげつつ、順番に発表を行うかたちで考えていくこととしたい。履修者は論点を整理して発表をするよう心がけること。

授業内容

- 第1回：近代の日本演劇・概説(1)自伝と評伝
- 第2回：近代の日本演劇・概説(2)人物と履歴
- 第3回：近代の日本演劇・概説(3)時代区分
- 第4回：近代の日本演劇・概説(4)資料収集
- 第5回：演劇人の自伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第6回：演劇人の自伝・発表と討議(2)レジュメ作成方法
- 第7回：演劇人の自伝・発表と討議(3)進行計画
- 第8回：演劇人の自伝・発表と討議(4)個人発表
- 第9回：演劇人の自伝・発表と討議(5)コメント
- 第10回：演劇人とその評伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第11回：演劇人とその評伝・発表と討議(2)レジュメ作成方法
- 第12回：演劇人とその評伝・発表と討議(3)進行計画
- 第13回：演劇人とその評伝・発表と討議(4)個人発表
- 第14回：演劇人とその評伝・発表と討議(5)コメント

履修上の注意

各自の研究の進捗状況をみながら、発表や報告を課す。発表や報告は、あらかじめ担当を決めて行う。限られた時間のなかで、履修者どうしの意見交換が活発にできるように、十分な準備をして授業にのぞむことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布されたプリントに書かれていることを熟読し、分からない語句などについては、辞書等で調べておくこと。

教科書

テーマに合わせて、その都度プリント等を配布する。教科書は使用しない。

参考書

履修者各自のテーマに合わせてその都度紹介していく。全体に共通の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に「課題」(発表等)について、講評をおこなう。研究方法についての助言をふくめて履修者全員に有益となるように説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、提出物の内容により評価する。授業への貢献度50%、レポート50%

その他

基本的に「演劇」関係の自伝・評伝等を扱うが、「演劇」の領域を広く捉えてよい。周辺領域の人物も含めて考察してほしい。

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 伊藤 真紀		

授業の概要・到達目標

近代の日本演劇についての考察を中心とする。我が国の演劇は西欧の近代演劇の影響を受けつつ、新しい演劇観を構築してきた。演劇をとりまく環境も近代に入ると大きく変化する。こうした変化は様々な演劇ジャンルにおいてみられるものであるが、この演習では、近代の演劇人に焦点をあて、その随筆、戯曲作品等を取りあげつつ、順番に発表を行うかたちで考えていくこととしたい。履修者は論点を整理して発表をするよう心がけること。

授業内容

- 第1回：近代の日本演劇・概説(1)戯曲作品のジャンル
- 第2回：近代の日本演劇・概説(2)代表的戯曲作品
- 第3回：近代の日本演劇・概説(3)演劇関係者の随筆
- 第4回：近代の日本演劇・概説(4)資料収集
- 第5回：演劇人の自伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第6回：演劇人の自伝・発表と討議(2)レジュメ作成方法
- 第7回：演劇人の自伝・発表と討議(3)進行計画
- 第8回：演劇人の自伝・発表と討議(4)個人発表
- 第9回：演劇人の自伝・発表と討議(5)コメント
- 第10回：演劇人とその評伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第11回：演劇人とその評伝・発表と討議(2)レジュメ作成方法
- 第12回：演劇人とその評伝・発表と討議(3)進行計画
- 第13回：演劇人とその評伝・発表と討議(4)個人発表
- 第14回：演劇人とその評伝・発表と討議(5)コメント

履修上の注意

各自の研究の進捗状況をみながら、発表や報告を課す。発表や報告は、あらかじめ担当を決めて行う。限られた時間のなかで、履修者どうしの意見交換が活発にできるように、十分な準備をして授業にのぞむことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布されたプリントに書かれていることを熟読し、分からない語句などについては、辞書等で調べておくこと。

教科書

テーマに合わせて、その都度プリント等を配布する。教科書は使用しない。

参考書

履修者各自のテーマに合わせてその都度紹介していく。全体に共通の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に「課題」(発表等)について、講評をおこなう。研究方法についての助言をふくめて履修者全員に有益となるように説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、提出物の内容により評価する。授業への貢献度50%、レポート50%

その他

基本的に「演劇」関係の随筆や戯曲作品を扱うが、「演劇」の領域を広く捉えてよい。周辺領域の人物による随筆や、「脚色台本」なども含めて考察してほしい。

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	日本演劇演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	伊藤 真紀	

授業の概要・到達目標

近代の日本演劇についての考察を中心とする。我が国の演劇は西欧の近代演劇の影響を受けつつ、新しい演劇観を構築してきた。演劇をとりまく環境も近代に入ると大きく変化する。こうした変化は様々な演劇ジャンルにおいてみられるものであるが、この演習では、近代の演劇人に焦点をあて、その自伝、評伝等を取りあげつつ、順番に発表を行うかたちで考えていくこととしたい。履修者は論点を整理して発表をするよう心がけること。

授業内容

- 第1回：近代の日本演劇・概説(1)自伝と評伝
- 第2回：近代の日本演劇・概説(2)人物と履歴
- 第3回：近代の日本演劇・概説(3)時代区分
- 第4回：近代の日本演劇・概説(4)資料収集
- 第5回：演劇人の自伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第6回：演劇人の自伝・発表と討議(2)レジュメ作成方法
- 第7回：演劇人の自伝・発表と討議(3)進行計画
- 第8回：演劇人の自伝・発表と討議(4)個人発表
- 第9回：演劇人の自伝・発表と討議(5)コメント
- 第10回：演劇人とその評伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第11回：演劇人とその評伝・発表と討議(2)レジュメ作成方法
- 第12回：演劇人とその評伝・発表と討議(3)進行計画
- 第13回：演劇人とその評伝・発表と討議(4)個人発表
- 第14回：演劇人とその評伝・発表と討議(5)コメント

履修上の注意

各自の研究の進捗状況をみながら、発表や報告を課す。発表や報告は、あらかじめ担当を決めて行う。限られた時間のなかで、履修者どうしの意見交換が活発にできるように、十分な準備をして授業にのぞむことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布されたプリントに書かれていることを熟読し、分からない語句などについては、辞書等で調べておくこと。

教科書

テーマに合わせて、その都度プリント等を配布する。教科書は使用しない。

参考書

履修者各自のテーマに合わせてその都度紹介していく。全体に共通の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に「課題」(発表)について、講評をおこなう。研究方法についての助言をふくめて履修者全員に有益となるように説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、提出物の内容により評価する。授業への貢献度50%、レポート50%

その他

基本的に「演劇」関係の自伝・評伝等を扱うが、「演劇」の領域を広く捉えてよい。周辺領域の人物も含めて考察してほしい。

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻	備考		
科目名	日本演劇演習ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	伊藤 真紀	

授業の概要・到達目標

近代の日本演劇についての考察を中心とする。我が国の演劇は西欧の近代演劇の影響を受けつつ、新しい演劇観を構築してきた。演劇をとりまく環境も近代に入ると大きく変化する。こうした変化は様々な演劇ジャンルにおいてみられるものであるが、この演習では、近代の演劇人に焦点をあて、その随筆、戯曲作品等を取りあげつつ、順番に発表を行うかたちで考えていくこととしたい。履修者は論点を整理して発表をするよう心がけること。

授業内容

- 第1回：近代の日本演劇・概説(1)戯曲作品のジャンル
- 第2回：近代の日本演劇・概説(2)代表的戯曲作品
- 第3回：近代の日本演劇・概説(3)演劇関係者の随筆
- 第4回：近代の日本演劇・概説(4)資料収集
- 第5回：演劇人の自伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第6回：演劇人の自伝・発表と討議(2)レジュメ作成方法
- 第7回：演劇人の自伝・発表と討議(3)進行計画
- 第8回：演劇人の自伝・発表と討議(4)個人発表
- 第9回：演劇人の自伝・発表と討議(5)コメント
- 第10回：演劇人とその評伝・発表と討議(1)キーワード検討
- 第11回：演劇人とその評伝・発表と討議(2)レジュメ作成方法
- 第12回：演劇人とその評伝・発表と討議(3)進行計画
- 第13回：演劇人とその評伝・発表と討議(4)個人発表
- 第14回：演劇人とその評伝・発表と討議(5)コメント

履修上の注意

各自の研究の進捗状況をみながら、発表や報告を課す。発表や報告は、あらかじめ担当を決めて行う。限られた時間のなかで、履修者どうしの意見交換が活発にできるように、十分な準備をして授業にのぞむことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布されたプリントに書かれていることを熟読し、分からない語句などについては、辞書等で調べておくこと。

教科書

テーマに合わせて、その都度プリント等を配布する。教科書は使用しない。

参考書

履修者各自のテーマに合わせてその都度紹介していく。全体に共通の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義時間内に「課題」(発表)について、講評をおこなう。研究方法についての助言をふくめて履修者全員に有益となるように説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度と、提出物の内容により評価する。授業への貢献度50%、レポート50%

その他

基本的に「演劇」関係の随筆や戯曲作品を扱うが、「演劇」の領域を広く捉えてよい。周辺領域の人物による随筆や、「脚色台本」なども含めて考察してほしい。

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 矢内 賢二		

授業の概要・到達目標

日本古典演劇の戯曲・劇書や、演劇に関連の深い文学作品を演習形式で輪読する。
 各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。
 取り上げる作品は相談のうえ決定するので、希望があれば遠慮なく申し出ること。
 また参加者各自の研究テーマに関する発表を組み込み、論文執筆の一助としたい。
 演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：講読(1)
- 第3回：講読(2)
- 第4回：講読(3)
- 第5回：講読(4)
- 第6回：講読(5)
- 第7回：講読(6)
- 第8回：講読(7)
- 第9回：講読(8)
- 第10回：講読(9)
- 第11回：講読(10)
- 第12回：研究発表(1)
- 第13回：研究発表(2)
- 第14回：研究発表(3)

履修上の注意

テキストとして近世のくずし字による資料を用いることがあるが、初学者には配慮する。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。
 受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 矢内 賢二		

授業の概要・到達目標

日本古典演劇の戯曲・劇書や、演劇に関連の深い文学作品を演習形式で輪読する。
 各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。
 取り上げる作品は相談のうえ決定するので、希望があれば遠慮なく申し出ること。
 また参加者各自の研究テーマに関する発表を組み込み、論文執筆の一助としたい。
 演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：講読(1)
- 第3回：講読(2)
- 第4回：講読(3)
- 第5回：講読(4)
- 第6回：講読(5)
- 第7回：講読(6)
- 第8回：講読(7)
- 第9回：講読(8)
- 第10回：講読(9)
- 第11回：講読(10)
- 第12回：研究発表(1)
- 第13回：研究発表(2)
- 第14回：研究発表(3)

履修上の注意

テキストとして近世のくずし字による資料を用いることがあるが、初学者には配慮する。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。
 受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	矢内 賢二	

授業の概要・到達目標

日本古典演劇の戯曲・劇書や、演劇に関連の深い文学作品を演習形式で輪読する。
各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。
取り上げる作品は相談のうえ決定するので、希望があれば遠慮なく申し出ること。
また参加者各自の研究テーマに関する発表を組み込み、論文執筆の一助としたい。
演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：講読(1)
第3回：講読(2)
第4回：講読(3)
第5回：講読(4)
第6回：講読(5)
第7回：講読(6)
第8回：講読(7)
第9回：講読(8)
第10回：講読(9)
第11回：講読(10)
第12回：研究発表(1)
第13回：研究発表(2)
第14回：研究発表(3)

履修上の注意

テキストとして近世のくずし字による資料を用いることがあるが、初学者には配慮する。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。
受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART632J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	矢内 賢二	

授業の概要・到達目標

日本古典演劇の戯曲・劇書や、演劇に関連の深い文学作品を演習形式で輪読する。
各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。
取り上げる作品は相談のうえ決定するので、希望があれば遠慮なく申し出ること。
また参加者各自の研究テーマに関する発表を組み込み、論文執筆の一助としたい。
演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：講読(1)
第3回：講読(2)
第4回：講読(3)
第5回：講読(4)
第6回：講読(5)
第7回：講読(6)
第8回：講読(7)
第9回：講読(8)
第10回：講読(9)
第11回：講読(10)
第12回：研究発表(1)
第13回：研究発表(2)
第14回：研究発表(3)

履修上の注意

テキストとして近世のくずし字による資料を用いることがあるが、初学者には配慮する。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。
受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしてくること。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学特論I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師		上野 房子

授業の概要・到達目標

文献精読および作品映像の鑑賞を通して、パフォーマンス・アーツとしてのダンスの特色を研究する。

重要なエポックとして19世紀前半のロマンチック・バレエ、19世紀後半のロシア・バレエ、20世紀前半のバレエ・リュスに着目し、各々の代表的な作品を鑑賞し、考察する。

映像の視聴に重点を置き、異なる演出による同一作品を緻密に視聴し、ダンス作品の理解力、分析力を高める。

精読文献および視聴作品は、受講者の要望に応じて変更する場合がある。

授業内容

- 1) ロマンチック・バレエ概論
- 2) 『ジゼル』(アメリカン・バレエ・シアター)
- 3) 『ジゼル』(ミラノ・スカラ座)
- 4) 『ジゼル』(イングリッシュ・ナショナル・バレエ / アクラム・カーン版)
- 5) ロシア・バレエ概論
- 6) 『バヤデル』(パリ・オペラ座)
- 7) 『白鳥の湖』(マリインスキー・バレエ)
- 8) 『白鳥の湖』(ボリショイ・バレエ)
- 9) 『白鳥の湖』(マシュー・ボーン版)
- 10) バレエ・リュス概論
- 11) フォーキン振付『ペトルーシユカ』
- 12) フォーキン振付『火の鳥』
- 13) ニジンスカ振付『結婚』
- 14) 各自のテーマに則した研究発表

精読文献(予定)：

- 1) Selma Jean Cohen, "Dance as a Theatre Art; Source Readings in Dance History from 1581 to the Present, Second Edition."
- 2) Sally Banes, "Dancing Women: Female Bodies on Stage."
- 3) Marcia B. Siegel, "The Shapes of Change."
- 4) 佐々木涼子「バレエ・ギャラリー」(学習研究社)

履修上の注意

ダンス研究において最も重要な資料である作品(映像)を徹底的に視聴し、鑑賞技術を磨く。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業内容に即した映像を各自で視聴し、関連資料を精読する。

教科書

上記文献他より、授業の際に指定する。
視聴作品は、本学メディアライブラリーの所蔵映像等を用いる。

参考書

Debra Craine and Judith Mackrell, "Oxford Dictionary of Dance." Oxford: Oxford University Press, 2010.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時の積極性、春学期末に実施する研究発表などを総合的に判断して評価する。
(授業への参加度70%、研究発表30%)

その他

踊ることを主たる表現手段とする「バレエ」の醍醐味を探求されたい。

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学特論I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師		上野 房子

授業の概要・到達目標

文献精読および作品映像の鑑賞を通して、パフォーマンス・アーツとしてのダンスの特色を研究する。

20世紀アメリカのダンスに着目し、バレエおよびモダンダンスの代表的な作品を重点的に鑑賞し、考察する。

映像の視聴に重点を置き、ダンス作品の理解力、分析力を高める。

精読文献および視聴作品は、受講者の要望に応じて変更する場合がある。

授業内容

- 1) ジョージ・バランシン概論
- 2) バランシン振付『放蕩息子』
- 3) バランシン振付『セレナーデ』
- 4) バランシン振付『テーマとヴァリエーション』
- 5) バランシン振付『ジュエルズ』
- 6) バランシン振付『フォー・テンベラメント』
- 7) モダンダンス概論
- 8) マーサ・グラハム振付『ナイト・ジャーニー』
- 9) マース・カニングハム振付『ポイント・イン・スペース』
- 10) アルビン・エイリー振付『リヴェレーションズ』
- 11) トワイラ・サープ振付『ブッシュ・カムズ・トゥ・ショヴ』
- 12) ケネス・マクミラン振付『ロメオとジュリエット』
- 13) ジョン・クラシコ振付『オネーギン』
- 14) 各自のテーマに則した研究発表

精読文献(予定)：

- 1) Selma Jean Cohen, "Dance as a Theatre Art; Source Readings in Dance History from 1581 to the Present, Second Edition."
- 2) Sally Banes, "Dancing Women: Female Bodies on Stage."
- 3) Marcia B. Siegel, "The Shapes of Change."

履修上の注意

ダンス研究において最も重要な資料である作品(映像)を徹底的に視聴し、鑑賞技術を磨く。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業内容に即した映像を各自で視聴し、関連資料を精読する。

教科書

上記文献他より、授業の際に指定する。
視聴作品は、本学メディアライブラリー所蔵映像等を用いる。

参考書

Debra Craine and Judith Mackrell, "Oxford Dictionary of Dance." Oxford: Oxford University Press, 2010.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時の積極性、秋学期末に実施する研究発表などを総合的に判断して評価する。
(授業への参加度70%、研究発表30%)

その他

踊ることを主たる表現手段とする「ダンス」の醍醐味を探求されたい。

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	演劇学特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(文学)	森 佳子

授業の概要・到達目標

音楽でドラマが進行していく演劇である、オペラの歴史と形式について理解する。さまざまな時代や国のオペラ作品を分析する方法について研究する。文献や視聴作品は、受講者の状況によって変更する場合がある。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：イタリアにおけるオペラの誕生
- 第3回：イタリア・フランスにおけるオペラの発展
- 第4回：18世紀のオペラ概説
- 第5回：19世紀・20世紀のオペラ概説
- 第6回：音楽用語—序曲、オーケストラ
- 第7回：音楽用語—レチタティーヴォ
- 第8回：音楽用語—アリア
- 第9回：音楽用語—アンサンブル
- 第10回：作品研究—ヘンデル(1)
- 第11回：作品研究—ヘンデル(2)
- 第12回：作品研究—モーツァルト(1)
- 第13回：作品研究—モーツァルト(2)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

履修者とのコミュニケーションを重視する。音楽的知識は問わない。
秋学期 演劇学特論IIBを継続して受講することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布資料を読んでおくこと。

教科書

授業中にプリントを配布。

参考書

Denise Gallo. The basics opera. Routledge, 2006.
丸本隆ほか編『キーワードで読む オペラ／音楽劇研究ハンドブック』アルテスパブリッシング、2017年

課題に対するフィードバックの方法

授業内にコメントを公表する。

成績評価の方法

レポート(40%)、授業への貢献度(60%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	演劇学特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(文学)	森 佳子

授業の概要・到達目標

音楽でドラマが進行していく演劇である、オペラの歴史と形式について理解する。さまざまな時代や国のオペラ作品を分析する方法について研究する。文献や視聴作品は、受講者の状況によって変更する場合がある。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：音楽とテキスト
- 第3回：オペラ歌手とは
- 第4回：オペラ制作の現場
- 第5回：悲劇的なジャンル(オペラ・セーリア、トラジェディ・リリック)
- 第6回：悲劇的なジャンル(ヴェリズモ・オペラ)
- 第7回：喜劇的なジャンル(オペラ・ブッフア、オペラ・コミック)
- 第8回：喜劇的なジャンル(オペレッタ)
- 第9回：作品研究—ヴェルディ(1)
- 第10回：作品研究—ヴェルディ(2)
- 第11回：作品研究—オッフェンバック(1)
- 第12回：作品研究—オッフェンバック(2)
- 第13回：各自のテーマ発表
- 第14回：まとめ

履修上の注意

履修者とのコミュニケーションを重視する。音楽的知識は問わない。
春学期 演劇学特論IIAを継続して受講することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布資料を読んでおくこと。

教科書

授業中にプリントを配布。

参考書

Denise Gallo. The basics opera. Routledge, 2006.
丸本隆ほか編『キーワードで読む オペラ／音楽劇研究ハンドブック』アルテスパブリッシング、2017年

課題に対するフィードバックの方法

授業内にコメントを公表する。

成績評価の方法

レポート(40%)、授業への貢献度(60%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇特論 I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	矢内 賢二	

授業の概要・到達目標

河竹黙阿弥の作品を中心に、幕末から明治・大正期までの戯曲を演習形式で輪読する。

各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。

時代背景、先行作品、社会風俗、役者・観客・興行・作者の事情等、様々な要素が編み込まれた複雑な構築物として作品をとらえ、先行研究はもとより、同時代の錦絵・写真・新聞・雑誌・文学作品等、多様な資料を駆使して報告を行ってほしい。各自の得意分野を生かした自由な視点からの発表を期待する。

取り上げる作品については相談のうえ決定したい。

演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：作者と作品に関する基礎知識

第3回：講読(1)

第4回：講読(2)

第5回：講読(3)

第6回：講読(4)

第7回：講読(5)

第8回：講読(6)

第9回：講読(7)

第10回：講読(8)

第11回：講読(9)

第12回：講読(10)

第13回：講読(11)

第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。

受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしておくこと。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	日本演劇特論 I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	矢内 賢二	

授業の概要・到達目標

河竹黙阿弥の作品を中心に、幕末から明治・大正期までの戯曲を演習形式で輪読する。

各回の担当者が注釈・論点の提示等を行い、参加者全員で議論を行う。

時代背景、先行作品、社会風俗、役者・観客・興行・作者の事情等、様々な要素が編み込まれた複雑な構築物として作品をとらえ、先行研究はもとより、同時代の錦絵・写真・新聞・雑誌・文学作品等、多様な資料を駆使して報告を行ってほしい。各自の得意分野を生かした自由な視点からの発表を期待する。

取り上げる作品については相談のうえ決定したい。

演劇作品を的確に理解する能力と、学術的な発想・発表・議論の方法を身に付けることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：作者と作品に関する基礎知識

第3回：講読(1)

第4回：講読(2)

第5回：講読(3)

第6回：講読(4)

第7回：講読(5)

第8回：講読(6)

第9回：講読(7)

第10回：講読(8)

第11回：講読(9)

第12回：講読(10)

第13回：講読(11)

第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、テキストや配布資料を読み、不明点について調べてくること。

受講者は論点の提供や質問を積極的にできるよう、本文や文献の内容を把握し発言の準備をしておくこと。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での報告・発表70%、授業への参加度30%。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻	備考		
科目名	西洋劇文学史特論ⅠA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授	伊藤 愉	

授業の概要・到達目標

本講義では「現実」を扱うドキュメンタリー演劇の特性を踏まえ、演劇と社会の関係を考える。ヨーロッパを中心としたドキュメンタリー演劇の実践と理論を整理し、「ドキュメンタリー演劇」の概要を把握することを第一の目的とする。なお、本講義では「ドキュメンタリー演劇」の概念を緩やかな枠組みとして設定し、「現実」を舞台上で扱うことの意味、問題点を自身の言葉で論じられるようになること、演劇を論じる際の新たな視点・論点を獲得することを最終的な目標として設定する。

授業内容

- 1 Introduction
- 2 Origins and definitions (1)
- 3 Origins and definitions (2)
- 4 Acting and Not-acting (1)
- 5 Acting and Not-acting (2)
- 6 Acting and Not-acting (3)
- 7 In Search of Authenticity (1)
- 8 In Search of Authenticity (2)
- 9 In Search of Authenticity (3)
- 10 The Promise of Documentary (1)
- 11 The Promise of Documentary (2)
- 12 Bodies of Evidence (1)
- 13 Bodies of Evidence (2)
- 14 Conclusion

履修上の注意

課題テキストは必ず読んでくること。自身が担当の回は、抄訳を含めたレジュメを準備すること。学期末にレポートの提出があることを前提として、各自で議論を整理し、消化するよう努めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題テキストの予習・復習

教科書

特になし（課題テキストは教場で決定する）

参考書

Forsyth, Alison and Megson, Chris (eds.), *Get Real: Documentary Theatre Past and Present*, 2009
 Garde, Ulrike and Mumford, Meg, *Theatre of Real People, Diverse Encounters at Berlin's Hebbel am Ufer and Beyond*, 2016
 Kirby, Michael, *A Formalist Theatre*, 1987
 Martin, Carol (ed.), *Dramaturgy of the Real on the World Stage*, 2010
 Martin, Carol, *Theatre of The Real*, 2013
 Paget, Derek, *True Stories? Documentary Drama on Radio, Screen and Stage*, 1990
 Schulze, Daniel, *Authenticity in Contemporary Theatre and Performance: Make it Real*, 2017
 Tomlin, Liz, *Acts and Apparitions: Discourses on the Real in Performance Practice and Theory, 1990-2010*, 2013
 など

課題に対するフィードバックの方法

履修者は授業中に講読テキストの担当箇所を報告し、その内容に対して適宜フィードバックを実施する。

成績評価の方法

平常点70%+レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻	備考		
科目名	西洋劇文学史特論ⅠB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授	伊藤 愉	

授業の概要・到達目標

本講義では「現実」を扱うドキュメンタリー演劇の特性を踏まえ、演劇と社会の関係を考える。ヨーロッパを中心としたドキュメンタリー演劇の実践と理論を整理し、「ドキュメンタリー演劇」の概要を把握することを第一の目的とする。なお、本講義では「ドキュメンタリー演劇」の概念を緩やかな枠組みとして設定し、「現実」を舞台上で扱うことの意味、問題点を自身の言葉で論じられるようになること、演劇を論じる際の新たな視点・論点を獲得することを最終的な目標として設定する。

授業内容

- 1 Introduction
- 2 Origins and definitions (1)
- 3 Origins and definitions (2)
- 4 Acting and Not-acting (1)
- 5 Acting and Not-acting (2)
- 6 Acting and Not-acting (3)
- 7 In Search of Authenticity (1)
- 8 In Search of Authenticity (2)
- 9 In Search of Authenticity (3)
- 10 The Promise of Documentary (1)
- 11 The Promise of Documentary (2)
- 12 Bodies of Evidence (1)
- 13 Bodies of Evidence (2)
- 14 Conclusion

履修上の注意

課題テキストは必ず読んでくること。自身が担当の回は、抄訳を含めたレジュメを準備すること。学期末にレポートの提出があることを前提として、各自で議論を整理し、消化するよう努めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題テキストの予習・復習

教科書

特になし（課題テキストは教場で決定する）

参考書

Forsyth, Alison and Megson, Chris (eds.), *Get Real: Documentary Theatre Past and Present*, 2009
 Garde, Ulrike and Mumford, Meg, *Theatre of Real People, Diverse Encounters at Berlin's Hebbel am Ufer and Beyond*, 2016
 Kirby, Michael, *A Formalist Theatre*, 1987
 Martin, Carol (ed.), *Dramaturgy of the Real on the World Stage*, 2010
 Martin, Carol, *Theatre of The Real*, 2013
 Paget, Derek, *True Stories? Documentary Drama on Radio, Screen and Stage*, 1990
 Schulze, Daniel, *Authenticity in Contemporary Theatre and Performance: Make it Real*, 2017
 Tomlin, Liz, *Acts and Apparitions: Discourses on the Real in Performance Practice and Theory, 1990-2010*, 2013
 など

課題に対するフィードバックの方法

履修者は授業中に講読テキストの担当箇所を報告し、その内容に対して適宜フィードバックを実施する。

成績評価の方法

平常点70%+レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻	備考		
科目名	西洋劇文学史特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 大林 のり子		

授業の概要・到達目標

20世紀以後、演劇の受容は、特定の閉じられたコミュニティから、広く一般大衆にも開かれたものへと変容していく。しかしながら、映画やテレビなどによる通信メディアによる受容の広がりに対して、いまだ演劇は劇場や特定の場所に足を運び、かつ、製作や運営にかかる労力などから、経済的にも時間的にも余裕のある層に閉じられたものであるかもしれない。あらためて現代における舞台芸術や演劇とはなにかを再考するため、この授業では、ポピュラーカルチャー、またはエンターテインメントに関する考察を深めたい。

授業内容

- 1 イントロダクション 授業の進め方について
- 2 Politics and performance in twentieth-century drama and Film.(1)
- 3 Politics and performance in twentieth-century drama and Film.(2)
- 4 Politics and performance in twentieth-century drama and Film.(3)
- 5 The politics of the popular?- from melodrama to television.
- 6 Public art/art's public.(1)
- 7 Public art/art's public.(2)
- 8 Sporting arenas and field of play.(1)
- 9 Sporting arenas and field of play.(2)
- 10 Culture shows. (1)
- 11 Culture shows. (2)
- 12 Power, politics and protest. (1)
- 13 Power, politics and protest. (2)
- 14 まとめ

履修上の注意

受講者は、それぞれ関心に近い論考を選択し、担当論文についての翻訳および内容把握した上で発表する。各回の論文読解を踏まえ、欧米の演出に関する現代的な問題点について理解を深める。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は担当論文を熟読した上で発表。事前にレジュメ等を準備する。参加者はテキストに目を通しておくこと。

教科書

- 1) D.Bradby, L. James and B.Sharratt(ed.), Performance and Politics in Popular Drama. Cambridge U.P. 1980.
- 2) Sharon Mazer, Performance in Popular Culture. Routledge 2024.
- 3) Millie Taylor, Musical Theatre, Realism and Entertainment. Routledge 2016.
- 4) Myron Matlaw(ed.), American Popular Entertainment- Papers and Proceedings of the Conference on the History of American Popular Entertainment. Greenwood Press 1977.
- 5) J.Dean and J. Gabiét, European Readings of American Popular Culture. Greenwood Press 1996.

参考書

講義にて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

参加の意欲と課題への取り組みの総合で判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻	備考		
科目名	西洋劇文学史特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 大林 のり子		

授業の概要・到達目標

現代の欧米演劇におけるアダプテーションは、文字テキストから文字テキストのみならず、文字テキストから上演テキスト、古典の現代化などさまざまなレベルで実践され、また研究が進んでいる。その個別の事例を扱った英語論文を読む。

授業内容

- 1 イントロダクション 授業の進め方
- 2 Company and Directorial Approaches to Adaptation (1)
- 3 Company and Directorial Approaches to Adaptation (2)
- 4 Company and Directorial Approaches to Adaptation (3)
- 5 Re-mediate the Book to the Stage (1)
- 6 Re-mediate the Book to the Stage (2)
- 7 Re-mediate the Book to the Stage (3)
- 8 Reinscribing the Other in Contemporary Adaptaion (1)
- 9 Reinscribing the Other in Contemporary Adaptaion (2)
- 10 Reinscribing the Other in Contemporary Adaptaion (3)
- 11 Postmodern Meta-Theatrical Adaptation (1)
- 12 Postmodern Meta-Theatrical Adaptation (2)
- 13 Postmodern Meta-Theatrical Adaptation (3)
- 14 まとめ

履修上の注意

演習については、基本的には出席者の関心および研究内容に合わせて、必要な資料収集および講義を進めていく。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当者は事前にテキストについてのレジュメを作成し、参加者はテキストに目を通しておくこと。

教科書

- 1) Kara Reilly (ed.), Contemporary Approaches to Adaptation in Theatre, Palgrave Macmillan 2018.

参考書

講義にて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

参加の意欲と課題への取り組みの総合で判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	西洋劇文学史特論ⅢA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		井上 優

授業の概要・到達目標

近代演劇を特徴付ける重要な要素は、周知のとおり演出家という職能の確立であろう。この授業では、近代以降、古今東西の演出家たちがいかに各自のヴィジョンを実践に移したのかをたどる。授業の中では、教科書に列挙された演出家の活動をたどると同時に、映像でその仕事の検証を行うことになる。

授業内容

- 第1回：授業の取り組みについての諸注意
- 第2回～第13回：分担された演出家の取り組みについての報告と検討
- 第14回：作品鑑賞 討論

履修上の注意

授業に関連した演劇公演には積極的に参加すること。特に教科書で取り上げられた作品が上演される場合、課外授業として鑑賞を課す。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの輪読であるため、入念な事前調査が必要となる。また、次の回の議論のため、しっかり復習しておくこと。

教科書

Contemporary European Theatre Directors (Edited By Maria M. Delgado, Dan Rebellato)を使用予定。

参考書

授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の取り組みの中で各自にフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点（日常的な発表）と期末のレポートの総合で判断する。比率は一對一だが、無断欠席を続けた受講生にはレポートの提出資格はない。

その他

科目ナンバー：(AL) ART531J			
演劇学専攻		備考	
科目名	西洋劇文学史特論ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		井上 優

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き古今東西の演出家たちの実践における格闘したのかをたどる。授業の中では、教科書に列挙された演出家の活動をたどると同時に、映像でその仕事の検証を行うことになる。

授業内容

- 第1回：授業の取り組みについての諸注意
- 第2回：第2回～第13回：分担された演出家の取り組みについての報告と検討
- 第14回：作品鑑賞 討論

履修上の注意

授業に関連した演劇公演には積極的に参加すること。特に教科書で取り上げられた作品が上演される場合、課外授業として鑑賞を課す。上述したように、秋学期は特に上演面での効果の検証を目的としているため、劇場に足を運ぶことが重要となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの輪読であるため、入念な事前調査が必要となる。また、次の回の議論のため、しっかり復習しておくこと。

教科書

Contemporary European Theatre Directors (Edited By Maria M. Delgado, Dan Rebellato)を使用予定。

参考書

授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の取り組みの中で各自にフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点（日常的な発表）と期末のレポートの総合で判断する。比率は一對一だが、無断欠席を続けた受講生にはレポートの提出資格はない。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子		

授業の概要・到達目標

お伽草子『狭衣の草子』(奈良絵本)の翻刻と、諸本の比較および整理検討を行う。奈良絵本文の位置づけと語釈、周辺資料の検討を通して、新たな読みの可能性を探りたい。

授業内容

第1回: イントロダクション
 第2回: 翻刻と諸本比較(1)
 第3回: 翻刻と諸本比較(2)
 第4回: 翻刻と諸本比較(3)
 第5回: 翻刻と諸本比較(4)
 第6回: 翻刻と諸本比較(5)
 第7回: 翻刻と諸本比較(6)
 第8回: 翻刻と諸本比較(7)
 第9回: 問題の所在
 第10回: 先行研究の調査(1)
 第11回: 先行研究の調査(2)
 第12回: 研究報告(1)
 第13回: 研究報告(2)
 第14回: まとめ

履修上の注意

問題意識をもって臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で取り上げる事柄に関する事前調査は必須。演習を完了する時間にするためには、受講生各自が積極的に準備をしていく必要がある。

教科書

なし。

参考書

中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院。
 『室町時代物語大成』全15巻、角川書店。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

授業への参加態度50% 発表内容50%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子		

授業の概要・到達目標

春学期に続いて、お伽草子『狭衣の草子』(奈良絵本)の翻刻と、諸本の比較および整理検討を行う。奈良絵本文の位置づけと語釈、周辺資料の検討を通して、新たな読みの可能性を探りたい。

授業内容

第1回: イントロダクション
 第2回: 翻刻と諸本比較(1)
 第3回: 翻刻と諸本比較(2)
 第4回: 翻刻と諸本比較(3)
 第5回: 翻刻と諸本比較(4)
 第6回: 翻刻と諸本比較(5)
 第7回: 翻刻と諸本比較(6)
 第8回: 翻刻と諸本比較(7)
 第9回: 問題の所在
 第10回: 先行研究の調査(1)
 第11回: 先行研究の調査(2)
 第12回: 研究報告(1)
 第13回: 研究報告(2)
 第14回: まとめ

履修上の注意

問題意識をもって臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で取り上げる事柄に関する事前調査は必須。演習を完了する時間にするためには、受講生各自が積極的に準備をしていく必要がある。

教科書

なし。

参考書

中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院。
 『室町時代物語大成』全15巻、角川書店。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

授業への参加態度50% 発表内容50%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子		

授業の概要・到達目標

お伽草子『狭衣の草子』(奈良絵本)の翻刻と、諸本の比較および整理検討を行う。奈良絵本文の位置づけと語釈、周辺資料の検討を通して、新たな読みの可能性を探りたい。

授業内容

第1回: イントロダクション
 第2回: 翻刻と諸本比較(1)
 第3回: 翻刻と諸本比較(2)
 第4回: 翻刻と諸本比較(3)
 第5回: 翻刻と諸本比較(4)
 第6回: 翻刻と諸本比較(5)
 第7回: 翻刻と諸本比較(6)
 第8回: 翻刻と諸本比較(7)
 第9回: 問題の所在
 第10回: 先行研究の調査(1)
 第11回: 先行研究の調査(2)
 第12回: 研究報告(1)
 第13回: 研究報告(2)
 第14回: まとめ

履修上の注意

問題意識をもって臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で取り上げる事柄に関する事前調査は必須。演習を実りある時間にするためには、受講生各自が積極的に準備をしていく必要がある。

教科書

なし。

参考書

中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院。
 『室町時代物語大成』全15巻、角川書店。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

授業への参加態度50% 発表内容50%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子		

授業の概要・到達目標

春学期に続いて、お伽草子『狭衣の草子』(奈良絵本)の翻刻と、諸本の比較および整理検討を行う。奈良絵本文の位置づけと語釈、周辺資料の検討を通して、新たな読みの可能性を探りたい。

授業内容

第1回: イントロダクション
 第2回: 翻刻と諸本比較(1)
 第3回: 翻刻と諸本比較(2)
 第4回: 翻刻と諸本比較(3)
 第5回: 翻刻と諸本比較(4)
 第6回: 翻刻と諸本比較(5)
 第7回: 翻刻と諸本比較(6)
 第8回: 翻刻と諸本比較(7)
 第9回: 問題の所在
 第10回: 先行研究の調査(1)
 第11回: 先行研究の調査(2)
 第12回: 研究報告(1)
 第13回: 研究報告(2)
 第14回: まとめ

履修上の注意

問題意識をもって臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で取り上げる事柄に関する事前調査は必須。演習を実りある時間にするためには、受講生各自が積極的に準備をしていく必要がある。

教科書

なし。

参考書

中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院。
 『室町時代物語大成』全15巻、角川書店。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

授業への参加態度50% 発表内容50%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	内村 和至	

授業の概要・到達目標

井原西鶴『好色一代男』を考究する。春学期は、西鶴の生涯と著作を概観した後、原本の複製を用いて、巻一冒頭から順次、受講生の発表を中心として考察していく。

授業内容

- 第1回 井原西鶴の生涯と著作活動
- 第2回 巻一ノ一「けした所が戀はじめ」第一回
- 第3回 巻一ノ一「けした所が戀はじめ」第二回
- 第4回 巻一ノ一「けした所が戀はじめ」第三回
- 第5回 巻一ノ二「はづかしながら文言葉」第一回
- 第6回 巻一ノ二「はづかしながら文言葉」第二回
- 第7回 巻一ノ二「はづかしながら文言葉」第三回
- 第8回 巻一ノ三「人には見せぬところ」第一回
- 第9回 巻一ノ三「人には見せぬところ」第二回
- 第10回 巻一ノ三「人には見せぬところ」第三回
- 第11回 巻一ノ四「袖の時雨はかゝるが幸」第一回
- 第12回 巻一ノ四「袖の時雨はかゝるが幸」第二回
- 第13回 巻一ノ四「袖の時雨はかゝるが幸」第三回
- 第14回 近世文学研究における作家論の位相と可能性

履修上の注意

原本複製本を用いるので、変体仮名や崩し字に習熟していない者の受講は不可とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う編以外は自ら読み、また、西鶴の他の作品をも読まなければならない。

教科書

複製本を複写して配布する。

参考書

前田金五郎『好色一代男全注釈』上下(角川書店)

課題に対するフィードバックの方法

随時課すレポートに成績評価に反映させる。

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)・レポート(20%)・定期試験(30%)の三点について評価を下す。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	内村 和至	

授業の概要・到達目標

井原西鶴『好色一代男』を考究する。春学期に引き続き、原本の複製を用いて、受講生の発表を中心として考察していく。なお、Bでは、関係論文の相互検討を行い、自らの作品論を構築する一助とする。

授業内容

- 第1回 巻一ノ五「たづねてきくほどちぎり」第一回
- 第2回 巻一ノ五「たづねてきくほどちぎり」第二回
- 第3回 巻一ノ五「たづねてきくほどちぎり」第三回
- 第4回 巻一ノ六「ほんのうの垢かき」第一回
- 第5回 巻一ノ六「ほんのうの垢かき」第二回
- 第6回 巻一ノ六「ほんのうの垢かき」第三回
- 第7回 巻一ノ七「わかれば當座はらひ」第一回
- 第8回 巻一ノ七「わかれば當座はらひ」第二回
- 第9回 巻一ノ七「わかれば當座はらひ」第三回
- 第10回 『好色一代男』関係論文を読む第一回
- 第11回 『好色一代男』関係論文を読む第二回
- 第12回 『好色一代男』関係論文を読む第三回
- 第13回 近世文学における作品論の位相
- 第14回 近世文学における作品論の可能性

履修上の注意

原本複製本を用いるので、変体仮名や崩し字に習熟していない者の受講は不可とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う編以外は自ら読み、また、西鶴の他の作品をも読まなければならない。

教科書

複製本を複写して配布する。

参考書

前田金五郎『好色一代男全注釈』上下(角川書店)

課題に対するフィードバックの方法

随時課すレポートは成績評価に反映させる。

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)・レポート(20%)・定期試験(30%)の三点について評価を下す。

その他

博士前期課程

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	内村 和至	

授業の概要・到達目標

井原西鶴『好色一代男』を考究する。春学期は、西鶴の生涯と著作を概観した後、原本の複製を用いて、巻一冒頭から順次、受講生の発表を中心として考察していく。

授業内容

- 第1回 井原西鶴の生涯と著作活動
- 第2回 巻一ノ一「けした所が戀はじめ」第一回
- 第3回 巻一ノ一「けした所が戀はじめ」第二回
- 第4回 巻一ノ一「けした所が戀はじめ」第三回
- 第5回 巻一ノ二「はづかしながら文言葉」第一回
- 第6回 巻一ノ二「はづかしながら文言葉」第二回
- 第7回 巻一ノ二「はづかしながら文言葉」第三回
- 第8回 巻一ノ三「人には見せぬところ」第一回
- 第9回 巻一ノ三「人には見せぬところ」第二回
- 第10回 巻一ノ三「人には見せぬところ」第三回
- 第11回 巻一ノ四「袖の時雨はかゝるが幸」第一回
- 第12回 巻一ノ四「袖の時雨はかゝるが幸」第二回
- 第13回 巻一ノ四「袖の時雨はかゝるが幸」第三回
- 第14回 近世文学研究における作家論の位相と可能性

履修上の注意

原本複製本を用いるので、変体仮名や崩し字に習熟していない者の受講は不可とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う編以外は自ら読み、また、西鶴の他の作品をも読まなければならない。

教科書

複製本を複写して配布する。

参考書

前田金五郎『好色一代男全注釈』上下(角川書店)

課題に対するフィードバックの方法

随時課すレポートに成績評価に反映させる。

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)・レポート(20%)・定期試験(30%)の三点について評価を下す。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	内村 和至	

授業の概要・到達目標

井原西鶴『好色一代男』を考究する。春学期に引き続き、原本の複製を用いて、受講生の発表を中心として考察していく。なお、Bでは、関係論文の相互検討を行い、自らの作品論を構築する一助とする。

授業内容

- 第1回 巻一ノ五「たづねてきくほどちぎり」第一回
- 第2回 巻一ノ五「たづねてきくほどちぎり」第二回
- 第3回 巻一ノ五「たづねてきくほどちぎり」第三回
- 第4回 巻一ノ六「ほんのうの垢かき」第一回
- 第5回 巻一ノ六「ほんのうの垢かき」第二回
- 第6回 巻一ノ六「ほんのうの垢かき」第三回
- 第7回 巻一ノ七「わかれば當座はらひ」第一回
- 第8回 巻一ノ七「わかれば當座はらひ」第二回
- 第9回 巻一ノ七「わかれば當座はらひ」第三回
- 第10回 『好色一代男』関係論文を読む第一回
- 第11回 『好色一代男』関係論文を読む第二回
- 第12回 『好色一代男』関係論文を読む第三回
- 第13回 近世文学における作品論の位相
- 第14回 近世文学における作品論の可能性

履修上の注意

原本複製本を用いるので、変体仮名や崩し字に習熟していない者の受講は不可とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う編以外は自ら読み、また、西鶴の他の作品をも読まなければならない。

教科書

複製本を複写して配布する。

参考書

前田金五郎『好色一代男全注釈』上下(角川書店)

課題に対するフィードバックの方法

随時課すレポートは成績評価に反映させる。

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)・レポート(20%)・定期試験(30%)の三点について評価を下す。

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 能地 克宜		

授業の概要・到達目標

演習科目担当者の指導のもとで受講者が修士論文を書くにあたり、日本近現代文学を主な分析対象とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講者の研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料読解・分析の方法、テーマに沿った考察の方法、答え(結論)の提示の仕方を、例えば以下のようなテーマに沿った演習活動を通して修得していく。

- ・室生犀星研究、犀星周辺作家の研究
- ・大正時代の文学、昭和初年代の文学
- ・浅草文芸研究、都市と文学の研究
- ・言葉と想像力をめぐる近現代文学研究
- ・文学教育をめぐる諸問題の研究

授業内容

- 第1回: イントロダクション
 第2回: 演習参加者による発表とディスカッション(1)
 第3回: 演習参加者による発表とディスカッション(2)
 第4回: 演習参加者による発表とディスカッション(3)
 第5回: 演習参加者による発表とディスカッション(4)
 第6回: 演習参加者による発表とディスカッション(5)
 第7回: 演習参加者による発表とディスカッション(6)
 第8回: 演習参加者による発表とディスカッション(7)
 第9回: 演習参加者による発表とディスカッション(8)
 第10回: 演習参加者による発表とディスカッション(9)
 第11回: 演習参加者による発表とディスカッション(10)
 第12回: 演習参加者による発表とディスカッション(11)
 第13回: 演習参加者による発表とディスカッション(12)
 第14回: まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

- 発表資料の作成に向けての諸々の準備をしておくこと。
- 扱うテキストや指定された論文を必ず読んでくること。
- 発表内容を論文化するための準備をしておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回発表に対する講評を行う。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT512J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 能地 克宜		

授業の概要・到達目標

演習科目担当者の指導のもとで受講者が修士論文を書くにあたり、日本近現代文学を主な分析対象とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講者の研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料読解・分析の方法、テーマに沿った考察の方法、答え(結論)の提示の仕方を、例えば以下のようなテーマに沿った演習活動を通して修得していく。

- ・室生犀星研究、犀星周辺作家の研究
- ・大正時代の文学、昭和初年代の文学
- ・浅草文芸研究、都市と文学の研究
- ・言葉と想像力をめぐる近現代文学研究
- ・文学教育をめぐる諸問題の研究

授業内容

- 第1回: イントロダクション
 第2回: 演習参加者による発表とディスカッション(1)
 第3回: 演習参加者による発表とディスカッション(2)
 第4回: 演習参加者による発表とディスカッション(3)
 第5回: 演習参加者による発表とディスカッション(4)
 第6回: 演習参加者による発表とディスカッション(5)
 第7回: 演習参加者による発表とディスカッション(6)
 第8回: 演習参加者による発表とディスカッション(7)
 第9回: 演習参加者による発表とディスカッション(8)
 第10回: 演習参加者による発表とディスカッション(9)
 第11回: 演習参加者による発表とディスカッション(10)
 第12回: 演習参加者による発表とディスカッション(11)
 第13回: 演習参加者による発表とディスカッション(12)
 第14回: まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

- 発表資料の作成に向けての諸々の準備をしておくこと。
- 扱うテキストや指定された論文を必ず読んでくること。
- 発表内容を論文化するための準備をしておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回発表に対する講評を行う。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 能地 克宜		

授業の概要・到達目標

演習科目担当者の指導のもとで受講者が修士論文を書くにあたり、日本近現代文学を主な分析対象とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講者の研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料読解・分析の方法、テーマに沿った考察の方法、答え(結論)の提示の仕方を、例えば以下のようなテーマに沿った演習活動を通して修得していく。

- ・室生犀星研究、犀星周辺作家の研究
- ・大正時代の文学、昭和初年代の文学
- ・浅草文芸研究、都市と文学の研究
- ・言葉と想像力をめぐる近現代文学研究
- ・文学教育をめぐる諸問題の研究

授業内容

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: 演習参加者による発表とディスカッション(1)
- 第3回: 演習参加者による発表とディスカッション(2)
- 第4回: 演習参加者による発表とディスカッション(3)
- 第5回: 演習参加者による発表とディスカッション(4)
- 第6回: 演習参加者による発表とディスカッション(5)
- 第7回: 演習参加者による発表とディスカッション(6)
- 第8回: 演習参加者による発表とディスカッション(7)
- 第9回: 演習参加者による発表とディスカッション(8)
- 第10回: 演習参加者による発表とディスカッション(9)
- 第11回: 演習参加者による発表とディスカッション(10)
- 第12回: 演習参加者による発表とディスカッション(11)
- 第13回: 演習参加者による発表とディスカッション(12)
- 第14回: まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

- 発表資料の作成に向けての諸々の準備をしておくこと。
- 扱うテキストや指定された論文を必ず読んでくること。
- 発表内容を論文化するための準備をしておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回発表に対する講評を行う。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

科目ナンバー: (AL) LIT612J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 能地 克宜		

授業の概要・到達目標

演習科目担当者の指導のもとで受講者が修士論文を書くにあたり、日本近現代文学を主な分析対象とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講者の研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料読解・分析の方法、テーマに沿った考察の方法、答え(結論)の提示の仕方を、例えば以下のようなテーマに沿った演習活動を通して修得していく。

- ・室生犀星研究、犀星周辺作家の研究
- ・大正時代の文学、昭和初年代の文学
- ・浅草文芸研究、都市と文学の研究
- ・言葉と想像力をめぐる近現代文学研究
- ・文学教育をめぐる諸問題の研究

授業内容

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: 演習参加者による発表とディスカッション(1)
- 第3回: 演習参加者による発表とディスカッション(2)
- 第4回: 演習参加者による発表とディスカッション(3)
- 第5回: 演習参加者による発表とディスカッション(4)
- 第6回: 演習参加者による発表とディスカッション(5)
- 第7回: 演習参加者による発表とディスカッション(6)
- 第8回: 演習参加者による発表とディスカッション(7)
- 第9回: 演習参加者による発表とディスカッション(8)
- 第10回: 演習参加者による発表とディスカッション(9)
- 第11回: 演習参加者による発表とディスカッション(10)
- 第12回: 演習参加者による発表とディスカッション(11)
- 第13回: 演習参加者による発表とディスカッション(12)
- 第14回: まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

- 発表資料の作成に向けての諸々の準備をしておくこと。
- 扱うテキストや指定された論文を必ず読んでくること。
- 発表内容を論文化するための準備をしておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回発表に対する講評を行う。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

科目ナンバー：(AL) SOC592J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 中江 桂子		

授業の概要・到達目標

メディア文化論やメディア史を主な研究領域とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講学生それぞれの研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料収集の方法と読み方、テーマの析出の仕方、そこから導かれる考察の方法、答え(結論)などについて、講読や議論を通じて個々が深めていくことを目標とする。たんにメディアといても多様であるが、研究に際してテーマに関する文字資料のあるものとする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：演習参加者による発表とディスカッション(1)
- 第3回：演習参加者による発表とディスカッション(2)
- 第4回：演習参加者による発表とディスカッション(3)
- 第5回：演習参加者による発表とディスカッション(4)
- 第6回：演習参加者による発表とディスカッション(5)
- 第7回：演習参加者による発表とディスカッション(6)
- 第8回：演習参加者による発表とディスカッション(7)
- 第9回：演習参加者による発表とディスカッション(8)
- 第10回：演習参加者による発表とディスカッション(9)
- 第11回：演習参加者による発表とディスカッション(10)
- 第12回：演習参加者による発表とディスカッション(11)
- 第13回：演習参加者による発表とディスカッション(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で扱う文献や論文は必ず読んでおくことが必須である。発表の際には、発表資料を準備すること。学んだことを自分の論文に反映させるための準備を日々おこなうこと。

教科書

演習内で指定する。

参考書

演習内で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

発表やディスカッションの中で講評する。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) SOC592J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習ⅣB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 中江 桂子		

授業の概要・到達目標

メディア文化論やメディア史を主な研究領域とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講学生それぞれの研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料収集の方法と読み方、テーマの析出の仕方、そこから導かれる考察の方法、答え(結論)などについて、講読や議論を通じて個々が深めていくことを目標とする。たんにメディアといても多様であるが、研究に際してテーマに関する文字資料のあるものとする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：演習参加者による発表とディスカッション(1)
- 第3回：演習参加者による発表とディスカッション(2)
- 第4回：演習参加者による発表とディスカッション(3)
- 第5回：演習参加者による発表とディスカッション(4)
- 第6回：演習参加者による発表とディスカッション(5)
- 第7回：演習参加者による発表とディスカッション(6)
- 第8回：演習参加者による発表とディスカッション(7)
- 第9回：演習参加者による発表とディスカッション(8)
- 第10回：演習参加者による発表とディスカッション(9)
- 第11回：演習参加者による発表とディスカッション(10)
- 第12回：演習参加者による発表とディスカッション(11)
- 第13回：演習参加者による発表とディスカッション(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で扱う文献や論文は必ず読んでおくことが必須である。発表の際には、発表資料を準備すること。学んだことを自分の論文に反映させるための準備を日々おこなうこと。

教科書

演習内で指定する。

参考書

演習内で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

発表やディスカッションの中で講評する。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) SOC692J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習IVC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 中江 桂子		

授業の概要・到達目標

メディア文化論やメディア史を主な研究領域とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講学生それぞれの研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料収集の方法と読み方、テーマの析出の仕方、そこから導かれる考察の方法、答え(結論)などについて、講読や議論を通じて個々が深めていくことを目標とする。たんにメディアといても多様であるが、研究に際してテーマに関する文字資料のあるものとする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：演習参加者による発表とディスカッション(1)
- 第3回：演習参加者による発表とディスカッション(2)
- 第4回：演習参加者による発表とディスカッション(3)
- 第5回：演習参加者による発表とディスカッション(4)
- 第6回：演習参加者による発表とディスカッション(5)
- 第7回：演習参加者による発表とディスカッション(6)
- 第8回：演習参加者による発表とディスカッション(7)
- 第9回：演習参加者による発表とディスカッション(8)
- 第10回：演習参加者による発表とディスカッション(9)
- 第11回：演習参加者による発表とディスカッション(10)
- 第12回：演習参加者による発表とディスカッション(11)
- 第13回：演習参加者による発表とディスカッション(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で扱う文献や論文は必ず読んでおくことが必須である。発表の際には、発表資料を準備すること。学んだことを自分の論文に反映させるための準備を日々おこなうこと。

教科書

演習内で指定する。

参考書

演習内で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

発表やディスカッションの中で講評する。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) SOC692J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習IVD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 中江 桂子		

授業の概要・到達目標

メディア文化論やメディア史を主な研究領域とした研究を行う際に必要な種々の方法を学び、受講学生それぞれの研究テーマに沿った修士論文を作成するためのスキルを修得することを目標とする。問いの立て方(テーマの設定方法)、資料収集の方法と読み方、テーマの析出の仕方、そこから導かれる考察の方法、答え(結論)などについて、講読や議論を通じて個々が深めていくことを目標とする。たんにメディアといても多様であるが、研究に際してテーマに関する文字資料のあるものとする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：演習参加者による発表とディスカッション(1)
- 第3回：演習参加者による発表とディスカッション(2)
- 第4回：演習参加者による発表とディスカッション(3)
- 第5回：演習参加者による発表とディスカッション(4)
- 第6回：演習参加者による発表とディスカッション(5)
- 第7回：演習参加者による発表とディスカッション(6)
- 第8回：演習参加者による発表とディスカッション(7)
- 第9回：演習参加者による発表とディスカッション(8)
- 第10回：演習参加者による発表とディスカッション(9)
- 第11回：演習参加者による発表とディスカッション(10)
- 第12回：演習参加者による発表とディスカッション(11)
- 第13回：演習参加者による発表とディスカッション(12)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

演習で扱う文献や論文は必ず読んでおくことが必須である。発表の際には、発表資料を準備すること。学んだことを自分の論文に反映させるための準備を日々おこなうこと。

教科書

演習内で指定する。

参考書

演習内で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

発表やディスカッションの中で講評する。

成績評価の方法

発表内容 50% レポート 50%

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) LIT592J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習VA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師	相良 剛	

授業の概要・到達目標

日本における「読書」といういとなみの歴史をふまえ、現状の問題点を考察する。

授業内容

第1回：発表について一準備の仕方、レジメの書式
 第2回：出版のいとなみとは
 第3回：発表1
 第4回：発表2
 第5回：発表3
 第6回：発表4
 第7回：資料確認1—文献前半の該当資料
 第8回：レビュー1
 第9回：発表5
 第10回：発表6
 第11回：発表7
 第12回：発表8
 第13回：資料確認2—文献後半の該当資料
 第14回：レビュー2

履修上の注意

発表に際しては、基本文献以外の文献や、各種データを適宜調べてのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの各回の該当箇所事前に目を通し、質問を準備すること。また配布された発表資料を十分に復習すること。

教科書

演習内で示す。

参考書

川井良介『出版メディア入門（第2版）』日本評論社、2012、日本出版学会編『白書 出版産業2010 データとチャートで読む出版の現在』文化通信社、2010、ほか演習内で適宜、提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習での発表・質疑応答60%、レポート類40%。ただし授業への貢献度がきわめて悪い場合は、単位を認めないことがある。

その他

現代日本のおもな出版物・出版社や誌名、著者の人名に関して基本的知識があることを受講の前提とする。

科目ナンバー：(AL) LIT592J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習VB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師	相良 剛	

授業の概要・到達目標

日本における「読書」といういとなみの歴史をふまえ、現状の問題点を考察する。

授業内容

第1回：発表について一準備の仕方、レジメの書式
 第2回：編集のいとなみとは
 第3回：発表1
 第4回：発表2
 第5回：発表3
 第6回：発表4
 第7回：資料確認1—文献前半の該当資料
 第8回：レビュー1
 第9回：発表5
 第10回：発表6
 第11回：発表7
 第12回：発表8
 第13回：資料確認2—文献後半の該当資料
 第14回：レビュー2

履修上の注意

発表に際しては、基本文献以外の文献や、各種データを適宜調べてのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの各回の該当箇所事前に目を通し、質問を準備すること。また配布された発表資料を十分に復習すること。

教科書

演習内で示す。

参考書

川井良介『出版メディア入門（第2版）』日本評論社、2012、日本出版学会編『白書 出版産業2010 データとチャートで読む出版の現在』文化通信社、2010、ほか演習内で適宜、提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習での発表・質疑応答60%、レポート類40%。ただし授業への貢献度がきわめて悪い場合は、単位を認めないことがある。

その他

現代日本のおもな出版物・出版社や誌名、著者の人名に関して基本的知識があることを受講の前提とする。

科目ナンバー：(AL) LIT692J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習VC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師	相良 剛	

授業の概要・到達目標

日本における「読書」といういとなみの歴史をふまえ、現状の問題点を考察する。

授業内容

- 第1回：発表について一準備の仕方、レジメの書式
- 第2回：出版のいとなみとは
- 第3回：発表1
- 第4回：発表2
- 第5回：発表3
- 第6回：発表4
- 第7回：資料確認1—文献前半の該当資料
- 第8回：レビュー1
- 第9回：発表5
- 第10回：発表6
- 第11回：発表7
- 第12回：発表8
- 第13回：資料確認2—文献後半の該当資料
- 第14回：レビュー2

履修上の注意

発表に際しては、基本文献以外の文献や、各種データを適宜調べてのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの各回の該当箇所事前に目を通し、質問を準備すること。また配布された発表資料を十分に復習すること。

教科書

演習内で示す。

参考書

川井良介『出版メディア入門（第2版）』日本評論社、2012、日本出版学会編『白書 出版産業2010 データとチャートで読む出版の現在』文化通信社、2010、ほか演習内で適宜、提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習での発表・質疑応答60%、レポート類40%。ただし授業への貢献度がきわめて悪い場合は、単位を認めないことがある。

その他

現代日本のおもな出版物・出版社や誌名、著者の人名に関して基本的知識があることを受講の前提とする。

科目ナンバー：(AL) LIT692J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア演習VD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師	相良 剛	

授業の概要・到達目標

日本における「読書」といういとなみの歴史をふまえ、現状の問題点を考察する。

授業内容

- 第1回：発表について一準備の仕方、レジメの書式
- 第2回：編集のいとなみとは
- 第3回：発表1
- 第4回：発表2
- 第5回：発表3
- 第6回：発表4
- 第7回：資料確認1—文献前半の該当資料
- 第8回：レビュー1
- 第9回：発表5
- 第10回：発表6
- 第11回：発表7
- 第12回：発表8
- 第13回：資料確認2—文献後半の該当資料
- 第14回：レビュー2

履修上の注意

発表に際しては、基本文献以外の文献や、各種データを適宜調べてのぞむこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの各回の該当箇所事前に目を通し、質問を準備すること。また配布された発表資料を十分に復習すること。

教科書

演習内で示す。

参考書

川井良介『出版メディア入門（第2版）』日本評論社、2012、日本出版学会編『白書 出版産業2010 データとチャートで読む出版の現在』文化通信社、2010、ほか演習内で適宜、提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習での発表・質疑応答60%、レポート類40%。ただし授業への貢献度がきわめて悪い場合は、単位を認めないことがある。

その他

現代日本のおもな出版物・出版社や誌名、著者の人名に関して基本的知識があることを受講の前提とする。

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア特論II A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		内村 和至

授業の概要・到達目標

日本の小説史の中でも、江戸時代は極めて多くの小説が刊行された時期である。この授業では、御伽草子・仮名草紙・浮世草子の形成と展開を論じつつ、「小説とは何か」をメディア論的に考えていく。

授業内容

- 第1回 近世小説史の概観1
- 第2回 近世小説史の概観2
- 第3回 御伽草子1
- 第4回 御伽草子2・奈良絵本
- 第5回 仮名草子1 仮名草子をめぐる時代状況・知育と啓蒙・娯楽と恋愛
- 第6回 仮名草子2 パロディーと雑談・怪異譚の系譜
- 第7回 仮名草子3 浅井了意
- 第8回 浮世草子発生の時代状況
- 第9回 井原西鶴1 略歴
- 第10回 井原西鶴2 俳諧師・西鶴
- 第11回 井原西鶴3 浮世草子作者・西鶴1
- 第12回 井原西鶴4 浮世草子作者・西鶴2
- 第13回 西鶴以後1 都の錦・北条団水・西沢一風
- 第14回 西鶴以後2 江嶋其積、自笑・その他の作者

履修上の注意

原本のコピーを使用するので、変体仮名を読解できない者の受講は不可とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う作品は予習段階でそれを読み、復習段階では関連文献に目を通さなければならない。

教科書

プリントを配布する。

参考書

ドナルド・キーン『日本文学の歴史』第7～9巻・近世篇1～3（中央公論社）・松崎仁ほか編『年表資料 近世文学史』（笠間書院）・新潮日本古典文学アルバム『お伽草子・伊曾保物語』『井原西鶴』。

課題に対するフィードバックの方法

随時課すレポートは成績評価に反映させる。

成績評価の方法

授業への参加態度(40%)・レポート(30%)・定期試験(30%)の三点について評価を下す。

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア特論II B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		内村 和至

授業の概要・到達目標

日本の小説史の中でも、江戸時代は極めて多くの小説が刊行された時期である。この授業では、近世後期の洒落本・読本の形成と展開を論じつつ、「小説とは何か」をメディア論的に考えていく。

授業内容

- 第1回 近世後期小説史概観
- 第2回 洒落本概説1 江戸時代における遊里
- 第3回 洒落本概説2 遊里と文学
- 第4回 洒落本各説1 前期の洒落本
- 第5回 洒落本各説2 後期の洒落本1
- 第6回 洒落本各説3 後期の洒落本2
- 第7回 読本概説
- 第8回 読本各説1 前期読本1 中国小説との関連
- 第9回 読本各説2 前期読本2 上田秋成
- 第10回 読本各説3 後期読本1 山東京伝
- 第11回 読本各説4 後期読本2 曲亭馬琴1
- 第12回 読本各説5 後期読本3 曲亭馬琴2
- 第13回 戯作論1 「戯作」の概念
- 第14回 戯作論2 「戯作」の系譜

履修上の注意

原本のコピーを使用するので、変体仮名を読解できない者の受講は不可とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う作品は予習段階でそれを読み、復習段階では関連文献に目を通さなければならない。

教科書

プリントを配布する。

参考書

ドナルド・キーン『日本文学の歴史』第7～9巻・近世篇1～3（中央公論社）・松崎仁ほか編『年表資料 近世文学史』（笠間書院）・新潮日本古典文学アルバム『上田秋成』『滝沢馬琴』『江戸戯作』

課題に対するフィードバックの方法

随時課すレポートは成績評価に反映させる。

成績評価の方法

授業への参加態度(40%)・レポート(30%)・試験(30%)の3点について評価を下す。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC591J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア特論IVA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(社会学) 中江 桂子		

授業の概要・到達目標

メディア文化論および文化社会学の古典を読み、研究の基礎をかためる。各学生の研究の構想へと発展させる。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 研究テーマの検討
- 第3回 先行研究の調査
- 第4回 先行研究リストの作成
- 第5回 先行研究の検討1
- 第6回 先行研究の検討2
- 第7回 先行研究から該当論文のオリジナリティの検討
- 第8回 中間の振り返り
- 第9回 実証調査・文献調査の見取り図の検討
- 第10回 実証調査・文献調査の遂行1
- 第11回 実証調査・文献調査の遂行2
- 第12回 論文構想の問題とその修正
- 第13回 論文構想の再検討
- 第14回 まとめ

履修上の注意

出席、報告、および論文の進捗状況の連絡については、必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分の研究テーマにかんしては、それに関連するできるだけ広い範囲の情報収集を心がけること。その素地がなければ、新しい発見を見出すことは難しい。読むことに手を抜かないこと。

教科書

とくになし。研究テーマに応じて指示する。

参考書

とくになし。授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点70%，調査等への熱意20%，その他10%

その他

とくになし。

科目ナンバー：(AL) SOC591J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	文芸メディア特論IVB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(社会学) 中江 桂子		

授業の概要・到達目標

メディア文化論および文化社会学の古典を読み、研究の基礎をかためる。各学生の研究の構想へと発展させる。

授業内容

- 第1回 夏休み中の研究成果報告—理論
- 第2回 夏休み中の研究成果報告—調査
- 第3回 論文構想の再検討と執筆1
- 第4回 論文構想の再検討と執筆2
- 第5回 執筆指導1—理論的飛躍が無いかの吟味
- 第6回 執筆指導2—調査などの作業の整合性の吟味
- 第7回 執筆指導3—全体的な調整
- 第8回 中間の振り返り
- 第9回 論文の校閲1
- 第10回 論文の校閲2
- 第11回 論文の注釈等の確認
- 第12回 論文全体の振り返り
- 第13回 論文完成への残された課題確認
- 第14回 まとめ

履修上の注意

出席、報告、および論文の進捗状況の連絡については、必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分の研究テーマにかんしては、それに関連するできるだけ広い範囲の情報収集を心がけること。その素地がなければ、新しい発見を見出すことは難しい。読むことに手を抜かないこと。

教科書

とくになし。研究テーマに応じて指示する。

参考書

とくになし。授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点70%，調査等への熱意20%，その他10%

その他

とくになし。

科目ナンバー：(AL) LIT591J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	メディア分析特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任講師		相良 剛

授業の概要・到達目標

新聞を中心に適宜、書籍・雑誌・テレビなどを参照し、主張が錯綜する 이슈（今年度は沖縄をめぐる諸問題）について、主張の配置を分析する。さまざまな言説を、受講生自らが位置づけできるようになることを目標とする。

授業内容

新聞の送り手分析を中心に扱う

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 沖縄のメディア概論
- 第3回 テキスト第1章(前半)
- 第4回 第1章(後半)
- 第5回 第2章(前半)
- 第6回 第2章(後半)
- 第7回 第3章(前半)
- 第8回 第3章(後半)
- 第9回 第4章
- 第10回 第5章
- 第11回 第6章
- 第12回 第7章・エピローグ
- 第13回 文庫版書下ろし
- 第14回 レビュー

履修上の注意

新聞、雑誌、書籍に対する広い関心と、沖縄をめぐる 이슈への関心を持って履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書及び教室配布もしくは Oh-o! Meijiにて提供する授業資料にあらかじめ目を通し、質問事項などを用意して授業に臨むこと。

教科書

安田浩一『沖縄の新聞は本当に「偏向」しているか』（朝日文庫）。

参考書

阿部岳『ルポ 沖縄 国家の暴力 現場記者が見た「高江165日」の真実』（朝日文庫）
畑仲哲雄『沖縄で新聞記者になる一本土出身記者たちが語る 沖縄とジャーナリズム』（ポーター新書）ほか。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度 70%
レポート(1回) 30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT591J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	メディア分析特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師		相良 剛

授業の概要・到達目標

新聞を中心に適宜、書籍・雑誌・テレビなどを参照し、主張が錯綜する 이슈（今年度は沖縄をめぐる諸問題）について、主張の配置を分析する。さまざまな言説を、受講生自らが位置づけできるようになることを目標とする。

授業内容

報道テキスト(主に新聞)を扱う。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 沖縄問題とは何か
- 第3回 1959年宮森小学校米軍機墜落
- 第4回 1995年米兵少女暴行事件(その1)
- 第5回 1995年米兵少女暴行事件(その2)
- 第6回 1996年沖縄県知事代理署名拒否
- 第7回 2004年沖縄国際大学ヘリ墜落事故
- 第8回 2007年教科書検定問題
- 第9回 2014年沖縄県知事選挙
- 第10回 2016年オスプレイ墜落事故
- 第11回 2018年沖縄県知事選挙
- 第12回 2019年沖縄県民投票
- 第13回 2022年沖縄県知事選挙
- 第14回 レビュー

履修上の注意

新聞、雑誌、書籍に対する広い関心と、沖縄をめぐる政治 이슈への関心を持って履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義科目ではあるが、クラスからの質問を重視し、部分的には反転授業的な運営をするため、教室での配布資料及び Oh-o! Meijiでの提示資料を授業前に目を通し、質問事項などを考えて授業に臨むこと。

教科書

なし(授業で資料を配布)

参考書

山田健太『沖縄報道』（ちくま新書）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度 60%
小課題(3回程度) 15%
レポート(1回) 25%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	近現代文芸特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(学術) 能地 克宜		

授業の概要・到達目標

室生犀星はおよそ40年間の文学活動において、俳句、詩、小説、戯曲、童話、評論、随筆など、多岐にわたるジャンルの著作を残した。しかしこれらの全てを収めた全集は未だに刊行されおらず、例えば、小説においては未刊行作品集、詩は全詩集、童話は童話全集など、ジャンルごとにまとめられたこれらの書物が全集を補完しているのだが、これらの書物も全てを網羅しているわけではない。特に、初出紙誌に発表の後、一度も刊行されていない著作が多いのが随筆である。本科目は、室生犀星の著作のうち、初出紙誌掲載の後、一度も刊行されていない随筆を主な分析対象として、犀星文学における随筆の特徴を受講者とともに検討していくことを目標とする。主に、1910年代～1930年代に発表された随筆を読むことを通して、犀星文学のみならず、同時代の文学や文化的背景の特質にも見識を深めていくこととする。

授業内容

- 第1回 インTRODククション
- 第2回 1910年代の随筆(1)
- 第3回 1910年代の随筆(2)
- 第4回 1910年代の随筆(3)
- 第5回 1910年代の随筆(4)
- 第6回 1920年代の随筆(1)
- 第7回 1920年代の随筆(2)
- 第8回 1920年代の随筆(3)
- 第9回 1920年代の随筆(4)
- 第10回 1930年代の随筆(1)
- 第11回 1930年代の随筆(2)
- 第12回 1930年代の随筆(3)
- 第13回 1930年代の随筆(4)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

講義内容に対して関心を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むこと。
毎回、授業の最後にコメント(口頭または記述)を求めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテキストは事前に必ず読んでおくこと。授業後は扱ったテキスト相互の関係をふまえ、自分なりの見解をまとめておくこと。

教科書

授業で扱うテキストはプリント配布の予定である。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート(80%)、授業への参加態度(20%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	近現代文芸特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(学術) 能地 克宜		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》自らの生い立ちを語る自伝小説を書くことから小説家室生犀星の文学活動は始まり、晩年に至るまで何度も自伝小説を書き続けた。その間犀星は、同時代の文学潮流や文化事象、トピックなどを自らの創作に取り込んできた。室生犀星の小説を読むことを通して、主に1910年代から1930年代の文学潮流や同時代のトピックを辿り、文芸メディアと同時代状況との関わりについて考察する。

《到達目標》室生犀星の文学の特徴、同時代の文学潮流やトピックの特徴について、受講者が知識を深め説明できることを目標とする。

授業内容

- 第1回 インTRODククション、室生犀星の文学
- 第2回 詩から小説へ(1)
- 第3回 詩から小説へ(2)
- 第4回 大正10年前後の小説(1)
- 第5回 大正10年前後の小説(2)
- 第6回 大正10年前後の小説(3)
- 第7回 昭和初期の詩
- 第8回 昭和10年前後の小説(1)
- 第9回 昭和10年前後の小説(2)
- 第10回 昭和10年前後の小説(3)
- 第11回 自伝小説(1)
- 第12回 自伝小説(2)
- 第13回 自伝小説(3)
- 第14回 晩年の小説、まとめ

履修上の注意

講義内容に対して関心を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテキストは事前に必ず読んでおくこと。授業後は扱ったテキスト相互の関係をふまえ、自分なりの見解をまとめておくこと。

教科書

能地克宜編『都会の底の底に生きる人々 室生犀星 短篇アンソロジー』(田畑書店)

参考書

能地克宜『犀星という仮構』(森話社)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート(70%)、授業への参加態度(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	伝承文学特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子		

授業の概要・到達目標

文字で記された記載文芸と口伝えの口承文芸との接点を探り、相互の影響関係を検討することをテーマとする。

具体的には『今昔物語集』天竺の部を取り上げる。収録説話から『今昔』の説話選択・編纂姿勢を考えるとともに、『今昔』以降の日本の説話や口承文芸への影響を把握することを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：『今昔物語集』1-1・2話(1)
- 第3回：『今昔物語集』1-3・4話(2)
- 第4回：『今昔物語集』1-5・6・7話(3)
- 第5回：『今昔物語集』1-8・9・10話(4)
- 第6回：『今昔物語集』1-11・12・13・14話(5)
- 第7回：『今昔物語集』1-15・16・17話(6)
- 第8回：『今昔物語集』1-18・19話(7)
- 第9回：典拠と周辺資料(1)
- 第10回：典拠と周辺資料(2)
- 第11回：日本の説話に見える影響(1)
- 第12回：日本の説話に見える影響(2)
- 第13回：口承文芸との関係(1)
- 第14回：口承文芸との関係(2)

履修上の注意

問題意識をもって授業に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストを事前に読み、問題点となる事柄について調査していただくことが求められる。

教科書

新日本古典文学大系『今昔物語集 一』岩波書店。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加態度70% レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) LIT511J			
文芸メディア専攻	備考		
科目名	伝承文学特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師 博士(文学) 佐伯 和香子		

授業の概要・到達目標

文字で記された記載文芸と口伝えの口承文芸との接点を探り、相互の影響関係を検討することをテーマとする。

具体的には春学期に引き続き、『今昔物語集』天竺の部を取り上げる。収録説話から『今昔』の説話選択・編纂姿勢を考えるとともに、『今昔』以降の日本の説話や口承文芸への影響を把握することを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：『今昔物語集』1-21・22話(1)
- 第3回：『今昔物語集』1-23・25話(2)
- 第4回：『今昔物語集』1-26・27話(3)
- 第5回：『今昔物語集』1-28・29・30話(4)
- 第6回：『今昔物語集』1-31・32話(5)
- 第7回：『今昔物語集』1-33・34・35話(6)
- 第8回：『今昔物語集』1-36・37・38話(7)
- 第9回：典拠と周辺資料(1)
- 第10回：典拠と周辺資料(2)
- 第11回：日本の説話に見える影響(1)
- 第12回：日本の説話に見える影響(2)
- 第13回：口承文芸との関係(1)
- 第14回：口承文芸との関係(2)

履修上の注意

問題意識をもって授業に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストを事前に読み、問題点となる事柄について調査していただくことが求められる。

教科書

新日本古典文学大系『今昔物語集 一』岩波書店。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加態度70% レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究 I A		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(工学)	松山 恵	

授業の概要・到達目標

日本近代史の中でもおもに都市史・都市文化史に関する史料講読と基本文献の輪読、ならびに、受講生による研究報告によって授業を進める。

今年度は、明治大正期の東京を対象に、以下のようなテーマ・事象に焦点をあてる。史料については、これらの内容に則した明治期の東京府文書(「順立帳」など)を講読・検討する予定である。なお、受講生の問題関心や研究状況を勘案して、授業の進め方・内容を変更することもある。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：日本都市史全体の研究動向
- 第3回：日本近代都市史の研究動向
- 第4回：巨大城下町・江戸
- 第5回：東京「遷都」について(1)
- 第6回：同上(2)
- 第7回：文明開化の都市空間
- 第8回：明治初年における東京の諸相(1)
- 第9回：同上(2)
- 第10回：東京防火令
- 第11回：「東京」時代—明治初中期の地域社会—
- 第12回：都市下層の生活世界
- 第13回：東京改造の思想(1)
- 第14回：同上(2)

履修上の注意

演習において、報告担当者はかならずレジュメを作成し、無断欠席をしないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者のみならず他の受講者も、取りあげる箇所は予習し、論点・疑問点などを積極的に発言して欲しい(評価の対象として重視する)。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度および他者の報告に対する質疑などをもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究 I B		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(工学)	松山 恵	

授業の概要・到達目標

日本近代史の中でもおもに都市史・都市文化史に関する史料講読と基本文献の輪読、ならびに、受講生による研究報告によって授業を進める。

今年度は、明治大正期の東京を対象に、以下のようなテーマ・事象に焦点をあてる。史料については、これらの内容に則した明治期の東京府文書(「順立帳」など)を講読・検討する予定である。なお、受講生の問題関心や研究状況を勘案して、授業の進め方・内容を変更することもある。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：東京市区改正(1)
- 第3回：同上(2)
- 第4回：欧化主義と官庁集中計画(1)
- 第5回：同上(2)
- 第6回：土地制度と不動産経営(1)
- 第7回：同上(2)
- 第8回：百貨店の誕生
- 第9回：「大東京」空間の形成
- 第10回：「田園都市」と郊外文化(1)
- 第11回：同上(2)
- 第12回：関東大震災とその復興実態(1)
- 第13回：同上(2)
- 第14回：モダン東京の盛り場

履修上の注意

演習において、報告担当者はかならずレジュメを作成し、無断欠席をしないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者のみならず他の受講者も、取りあげる箇所は予習し、論点・疑問点などを積極的に発言して欲しい(評価の対象として重視する)。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度および他者の報告に対する質疑などをもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究IC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(工学)		松山 恵

授業の概要・到達目標

日本近代史の中でもおもに都市史・都市文化史に関する史料講読と基本文献の輪読、ならびに、受講生による研究報告によって授業を進める。

今年度は、明治大正期の東京を対象に、以下のようなテーマ・事象に焦点をあてる。史料については、これらの内容に則した明治期の東京府文書(「順立帳」など)を講読・検討する予定である。なお、受講生の問題関心や研究状況を勘案して、授業の進め方・内容を変更することもある。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：日本都市史全体の研究動向
- 第3回：日本近代都市史の研究動向
- 第4回：巨大城下町・江戸
- 第5回：東京「遷都」について(1)
- 第6回：同上(2)
- 第7回：文明開化の都市空間
- 第8回：明治初年における東京の諸相(1)
- 第9回：同上(2)
- 第10回：東京防火令
- 第11回：「東京」時代—明治初中期の地域社会—
- 第12回：都市下層の生活世界
- 第13回：東京改造の思想(1)
- 第14回：同上(2)

履修上の注意

演習において、報告担当者はかならずレジュメを作成し、無断欠席をしないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者のみならず他の受講者も、取りあげる箇所は予習し、論点・疑問点などを積極的に発言して欲しい(評価の対象として重視する)。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度および他者の報告に対する質疑などをもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ID		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(工学)		松山 恵

授業の概要・到達目標

日本近代史の中でもおもに都市史・都市文化史に関する史料講読と基本文献の輪読、ならびに、受講生による研究報告によって授業を進める。

今年度は、明治大正期の東京を対象に、以下のようなテーマ・事象に焦点をあてる。史料については、これらの内容に則した明治期の東京府文書(「順立帳」など)を講読・検討する予定である。なお、受講生の問題関心や研究状況を勘案して、授業の進め方・内容を変更することもある。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：東京市区改正(1)
- 第3回：同上(2)
- 第4回：欧化主義と官庁集中計画(1)
- 第5回：同上(2)
- 第6回：土地制度と不動産経営(1)
- 第7回：同上(2)
- 第8回：百貨店の誕生
- 第9回：「大東京」空間の形成
- 第10回：「田園都市」と郊外文化(1)
- 第11回：同上(2)
- 第12回：関東大震災とその復興実態(1)
- 第13回：同上(2)
- 第14回：モダン東京の盛り場

履修上の注意

演習において、報告担当者はかならずレジュメを作成し、無断欠席をしないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者のみならず他の受講者も、取りあげる箇所は予習し、論点・疑問点などを積極的に発言して欲しい(評価の対象として重視する)。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度および他者の報告に対する質疑などをもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	野尻 泰弘	

授業の概要・到達目標

史料整理・調査，史料講読・翻刻，研究報告によって授業を進める。

整理・調査対象の史料は近世・近代以降のものである。史料講読・翻刻の史料は，幕領・藩領のものである。史料から基礎データを作成する。

演習については，受講生の研究関心に基づく研究報告を求める。

到達目標は，史料整理・調査についての基礎的手順の学習，史料の保存・公開・活用に対する理解の深化，修士論文に向けた精度の高い研究などである。

受講生の問題関心や研究状況により，授業の内容・進め方を若干変更する場合がある。

一回目の授業で進め方を相談する。

授業内容

1. 授業の進め方について
2. 史料の説明と配布
3. 史料整理・調査1
4. 史料講読・翻刻1
5. 研究報告1
6. 史料整理・調査2
7. 史料講読・翻刻2
8. 研究報告2
9. 史料整理・調査3
10. 史料講読・翻刻3
11. 研究報告3
12. 史料整理・調査4
13. 史料講読・翻刻，研究報告4
14. 考察とまとめ

履修上の注意

受講者全員の十分な予習と討論への積極的な参加を期待する。

国文学研究資料館主催のアーカイブズ・カレッジや各種の史料調査・整理への参加が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

史料の事前調査，授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧に行うこと。

教科書

特になし。

参考書

歴史学研究会編『日本史年表』（岩波書店）
 児玉幸多編『くずし字解説辞典 普及版』（東京堂出版）
 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版）

課題に対するフィードバックの方法

史料講読・翻刻，研究報告，調査中に適宜行う。

成績評価の方法

報告内容と討論への参加などをもとに，総合的に評価する。

その他

長期休暇中にまとまった史料整理・調査を行う場合がある。

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	野尻 泰弘	

授業の概要・到達目標

史料整理・調査，史料講読・翻刻，研究報告によって授業を進める。

整理・調査対象の史料は近世・近代以降のものである。史料講読・翻刻の史料は，幕領・藩領のものである。史料から基礎データを作成する。

演習については，受講生の研究関心に基づく研究報告を求める。

到達目標は，史料整理・調査についての基礎的手順の学習，史料翻刻の実践，研究史の理解，修士論文に向けた精度の高い研究などである。

受講生の問題関心や研究状況により，授業の内容・進め方を若干変更する場合がある。

一回目の授業で進め方を相談する。

授業内容

1. 授業の進め方について
2. 史料の説明と配布
3. 史料整理・調査1
4. 史料講読・翻刻1
5. 研究報告1
6. 史料整理・調査2
7. 史料講読・翻刻2
8. 研究報告2
9. 史料整理・調査3
10. 史料講読・翻刻3
11. 研究報告3
12. 史料整理・調査4
13. 史料講読・翻刻，研究報告4
14. 考察と展望

履修上の注意

受講者全員の十分な予習と討論への積極的な参加を期待する。

国文学研究資料館主催のアーカイブズ・カレッジや各種の史料調査・整理への参加が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

史料の事前調査，授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧に行うこと。

教科書

特になし。

参考書

歴史学研究会編『日本史年表』（岩波書店）
 児玉幸多編『くずし字解説辞典 普及版』（東京堂出版）
 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版）

課題に対するフィードバックの方法

史料講読・翻刻，研究報告，調査中に適宜行う。

成績評価の方法

報告内容と討論への参加などをもとに，総合的に評価する。

その他

長期休暇中にまとまった史料整理・調査を行う場合がある。

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅡC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	野尻 泰弘	

授業の概要・到達目標

史料整理・調査、史料講読・翻刻、研究報告によって授業を進める。

整理・調査対象の史料は近世・近代以降のものである。史料講読・翻刻の史料は、幕領・藩領のものである。史料から基礎データを作成する。

演習については、受講生の研究関心に基づく研究報告を求める。

到達目標は、史料整理・調査についての基礎的手順の学習、史料の保存・公開・活用に対する理解の深化、修士論文に向けた精度の高い研究などである。

受講生の問題関心や研究状況により、授業の内容・進め方を若干変更する場合がある。

一回目の授業で進め方を相談する。

授業内容

1. 授業の進め方について
2. 史料の説明と配布
3. 史料整理・調査1
4. 史料講読・翻刻1
5. 研究報告1
6. 史料整理・調査2
7. 史料講読・翻刻2
8. 研究報告2
9. 史料整理・調査3
10. 史料講読・翻刻3
11. 研究報告3
12. 史料整理・調査4
13. 史料講読・翻刻、研究報告4
14. 考察とまとめ

履修上の注意

受講者全員の十分な予習と討論への積極的な参加を期待する。

国文学研究資料館主催のアーカイブズ・カレッジや各種の史料調査・整理への参加が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

史料の事前調査、授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧に行うこと。

教科書

特になし。

参考書

歴史学研究会編『日本史年表』(岩波書店)
 児玉幸多編『くずし字解説辞典 普及版』(東京堂出版)
 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

史料講読・翻刻、研究報告、調査中に適宜行う。

成績評価の方法

報告内容と討論への参加などをもとに、総合的に評価する。

その他

長期休暇中にまとまった史料整理・調査を行う場合がある。

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅡD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	野尻 泰弘	

授業の概要・到達目標

史料整理・調査、史料講読・翻刻、研究報告によって授業を進める。

整理・調査対象の史料は近世・近代以降のものである。史料講読・翻刻の史料は、幕領・藩領のものである。史料から基礎データを作成する。

演習については、受講生の研究関心に基づく研究報告を求める。

到達目標は、史料整理・調査についての基礎的手順の学習、史料翻刻の実践、研究史の理解、修士論文に向けた精度の高い研究などである。

受講生の問題関心や研究状況により、授業の内容・進め方を若干変更する場合がある。

一回目の授業で進め方を相談する。

授業内容

1. 授業の進め方について
2. 史料の説明と配布
3. 史料整理・調査1
4. 史料講読・翻刻1
5. 研究報告1
6. 史料整理・調査2
7. 史料講読・翻刻2
8. 研究報告2
9. 史料整理・調査3
10. 史料講読・翻刻3
11. 研究報告3
12. 史料整理・調査4
13. 史料講読・翻刻、研究報告4
14. 考察と展望

履修上の注意

受講者全員の十分な予習と討論への積極的な参加を期待する。

国文学研究資料館主催のアーカイブズ・カレッジや各種の史料調査・整理への参加が望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

史料の事前調査、授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧に行うこと。

教科書

特になし。

参考書

歴史学研究会編『日本史年表』(岩波書店)
 児玉幸多編『くずし字解説辞典 普及版』(東京堂出版)
 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

史料講読・翻刻、研究報告、調査中に適宜行う。

成績評価の方法

報告内容と討論への参加などをもとに、総合的に評価する。

その他

長期休暇中にまとまった史料整理・調査を行う場合がある。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅢA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

日本古代における法制史料とりわけ行政法である令の私撰註釈集である『令集解』の注釈方式について講義を行う。おのおのの註釈スタイルなどを講義し、実例を用いて検討する。
 古代史料には、引用が複数にわたり複雑かつ難解な文章が多数存在する。本講義を通じて、各論文執筆に向けた古代史料の読解力を高めることを目標とする。

授業内容

『令集解』における註釈、集解部分の記述に引用される諸註釈をそれぞれに抜き出して検討を加える。
 各註釈の特性をつかみ、『令集解』読解の基礎となる構成を見抜く力と、実例を検討していくことで読解力全般をも養成していく。
 第1回 『令義解』『令集解』について
 第2回 写本・テキストについて
 第3回 法令引用について
 第4回 古記について
 第5回 古令・古答について
 第6回 令釈について
 第7回 跡記について
 第8回 穴記について(1)
 第9回 穴記について(2)
 第10回 讀記について
 第11回 朱説について
 第12回 額説他について
 第13回 異質令集解について
 第14回 構成の実践と惟宗直本の記述

履修上の注意

漢文の読解力や漢字の知識、古代史上の用語については常日頃から鍛錬をして授業に臨むこと。
 履修者の欠席はなるべく避けること。教員、もしくは他の参加者に欠席理由を伝えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告などに当たる以外の受講者も『令集解』当該条を読みこんでおくこと。
 授業内における項目については、史料・論考などを確認すること。
 予習・復習にかかわらず、日本古代史に関する幅広い知識の習得に努めること。

教科書

レジュメ、使用史料プリントは各回配付する。
 国史大系『令集解』は個別に保持していることが望ましい。

参考書

戸川・新井・今駒編『令集解引書索引』訂正版、汲古書院、1995年。
 中野高行『令集解の注釈書』山中裕・森田悌編『論争 日本古代史』河出書房新社、1991年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告や質疑応答などへの参加度による平常点を重視する。
 また、評価の一助として史料の読解や簡単な調査報告やレポートを課す。

その他

次の時限の演習と連続して受講すること。
 一部修士論文などの準備に当てることもある。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

日本古代における法制史料とその周縁の史料の注釈方式、法令引用について講義を行う。おのおのの註釈スタイルや先行法令の引用形式などを講義し、実例を用いて検討する。
 古代史料には、引用が複数にわたり複雑かつ難解な文章が多数存在する。本講義を通じて、各論文執筆に向けた古代史料の読解力を高めることを目標とする。

授業内容

『令集解』に近い各種法制史料における註釈、先行法令の引用形式の記述スタイルの検討を通し、『令集解』読解に加え、古代法制史料全般の読解力をも養成していく。
 第1回 古代法制史料について
 第2回 『本朝月令』について(1)
 第3回 『本朝月令』について(2)
 第4回 『政事要略』について(1)
 第5回 『政事要略』について(2)
 第6回 『政事要略』について(3)
 第7回 『法曹類林』について
 第8回 『法曹至要抄』について(1)
 第9回 『法曹至要抄』について(2)
 第10回 年中行事書について(1)
 第11回 年中行事書について(2)
 第12回 年中行事書について(3)
 第13回 『令抄』について
 第14回 『令聞書』について

履修上の注意

漢文の読解力や漢字の知識、古代史上の用語については常日頃から鍛錬をして授業に臨むこと。
 履修者の欠席はなるべく避けること。教員、もしくは他の参加者に欠席理由を伝えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告などに当たる以外の受講者も『令集解』当該条を読みこんでおくこと。
 授業内における項目については、史料・論考などを確認すること。
 予習・復習にかかわらず、日本古代史に関する幅広い知識の習得に努めること。

教科書

レジュメ、使用史料プリントは各回配付する。
 群書類従6巻・続群書類従10上巻を個別に保持しているとよい。

参考書

虎尾俊哉『古代典籍文書論考』吉川弘文館、1982年。
 『国史大系書目解題』吉川弘文館や『群書解題』続群書類従完成会といった解題書。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告や質疑応答などへの参加度による平常点を重視する。
 また、評価の一助として史料の読解や簡単な調査報告やレポートを課す。

その他

次の時限の演習と連続して受講すること。
 一部修士論文などの準備に当てることもある。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅢC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

日本古代における法制史料とりわけ行政法である令の私撰註釈集である『令集解』の注釈方式について講義を行う。おのおのの註釈スタイルなどを講義し、実例を用いて検討する。
古代史料には、引用が複数にわたり複雑かつ難解な文章が多数存在する。本講義を通じて、各論文執筆に向けた古代史料の読解力を高めることを目標とする。

授業内容

『令集解』における註釈、集解部分の記述に引用される諸註釈をそれぞれに抜き出して検討を加える。
各註釈の特性をつかみ、『令集解』読解の基礎となる構成を見抜く力と、実例を検討していくことで読解力全般をも養成していく。
第1回 『令義解』『令集解』について
第2回 写本・テキストについて
第3回 法令引用について
第4回 古記について
第5回 古令・古答について
第6回 令釈について
第7回 跡記について
第8回 穴記について(1)
第9回 穴記について(2)
第10回 讀記について
第11回 朱説について
第12回 額説他について
第13回 異質令集解について
第14回 構成の実践と惟宗直本の記述

履修上の注意

漢文の読解力や漢字の知識、古代史上の用語については常日頃から鍛錬をして授業に臨むこと。
履修者の欠席はなるべく避けること。教員、もしくは他の参加者に欠席理由を伝えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告などに当たる以外の受講者も『令集解』当該条を読みこんでおくこと。
授業内における項目については、史料・論考などを確認すること。
予習・復習にかかわらず、日本古代史に関する幅広い知識の習得に努めること。

教科書

レジュメ、使用史料プリントは各回配付する。
国史大系『令集解』は個別に保持していることが望ましい。

参考書

戸川・新井・今駒編『令集解引書索引』訂正版、汲古書院、1995年。
中野高行『令集解』の注釈書』山中裕・森田悌編『論争 日本古代史』河出書房新社、1991年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告や質疑応答などへの参加度による平常点を重視する。
また、評価の一助として史料の読解や簡単な調査報告やレポートを課す。

その他

次の時限の演習と連続して受講すること。
一部修士論文などの準備に当てることもある。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅢD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

日本古代における法制史料とその周縁の史料の注釈方式、法令引用について講義を行う。おのおのの註釈スタイルや先行法令の引用形式などを講義し、実例を用いて検討する。
古代史料には、引用が複数にわたり複雑かつ難解な文章が多数存在する。本講義を通じて、各論文執筆に向けた古代史料の読解力を高めることを目標とする。

授業内容

『令集解』に近い各種法制史料における註釈、先行法令の引用形式の記述スタイルの検討を通し、『令集解』読解に加え、古代法制史料全般の読解力をも養成していく。
第1回 古代法制史料について
第2回 『本朝月令』について(1)
第3回 『本朝月令』について(2)
第4回 『政事要略』について(1)
第5回 『政事要略』について(2)
第6回 『政事要略』について(3)
第7回 『法曹類林』について
第8回 『法曹至要抄』について(1)
第9回 『法曹至要抄』について(2)
第10回 年中行事書について(1)
第11回 年中行事書について(2)
第12回 年中行事書について(3)
第13回 『令抄』について
第14回 『令聞書』について

履修上の注意

漢文の読解力や漢字の知識、古代史上の用語については常日頃から鍛錬をして授業に臨むこと。
履修者の欠席はなるべく避けること。教員、もしくは他の参加者に欠席理由を伝えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告などに当たる以外の受講者も『令集解』当該条を読みこんでおくこと。
授業内における項目については、史料・論考などを確認すること。
予習・復習にかかわらず、日本古代史に関する幅広い知識の習得に努めること。

教科書

レジュメ、使用史料プリントは各回配付する。
群書類従6巻・続群書類従10上巻を個別に保持しているとよい。

参考書

虎尾俊哉『古代典籍文書論考』吉川弘文館、1982年。
『国史大系書目解題』吉川弘文館や『群書類目』続群書類従完成会といった解題書。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告や質疑応答などへの参加度による平常点を重視する。
また、評価の一助として史料の読解や簡単な調査報告やレポートを課す。

その他

次の時限の演習と連続して受講すること。
一部修士論文などの準備に当てることもある。

科目ナンバー: (AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅣA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 清水 有子		

授業の概要・到達目標

近世初期の対外関係に関する重要史料を手がかりに、ゼミ生各自の研究テーマを深めていくことを目的とする。
受講生は近世長崎で施行された法令類のうち、自分の課題に近い法令を教員、ゼミ生と協議のうえ選択して、最新の研究状況を踏まえて報告する。
対外関係史料を正確に読解する力、先行研究を適切に評価する力をつけ、質の高い修士論文の作成能力向上を目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ(授業の説明と報告日程)
- 第2回 壬辰戦争関係史料の講読(1)
- 第3回 同上(2)
- 第4回 同上(3)
- 第5回 同上(4)
- 第6回 キリシタン関係史料の講読(1)
- 第7回 同上(2)
- 第8回 同上(3)
- 第9回 同上(4)
- 第10回 「鎖国」関係史料の講読(1)
- 第11回 同上(2)
- 第12回 同上(3)
- 第13回 同上(4)
- 第14回 論点の総括と議論

履修上の注意

中世ないし近世の古文書の基礎を学んでいることが受講要件となる。
修論の中間報告を2回行なうこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生全員が授業前に輪読テキストの該当部分を精読し、当日の議論に備えておくこと。

教科書

『近世長崎法制史料集(1)』(岩田書院)ほか。コピーを配布する。

参考書

『岩波講座日本歴史 第10巻: 近世1』(岩波書店、2014年)
『日本近世史を見通す1 列島の平和と統合-近世前期-』(吉川弘文館、2023年)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

修論に関する課題のやりとりはすべてクラスウェブを通じて行なう。

成績評価の方法

報告(6割)・修論に関する課題(4割)の内容を総合して評価する。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅣB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 清水 有子		

授業の概要・到達目標

近世初期の対外関係に関する重要史料を手がかりに、ゼミ生各自の研究テーマを深めていくことを目的とする。
受講生は近世長崎で施行された法令類のうち、自分の課題に近い法令を教員、ゼミ生と協議のうえ選択して、最新の研究状況を踏まえて報告する。
対外関係史料を正確に読解する力、先行研究を適切に評価する力をつけ、質の高い修士論文の作成能力向上を目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ(授業の説明と報告日程)
- 第2回 壬辰戦争関係史料の講読(1)
- 第3回 同上(2)
- 第4回 同上(3)
- 第5回 同上(4)
- 第6回 キリシタン関係史料の講読(1)
- 第7回 同上(2)
- 第8回 同上(3)
- 第9回 同上(4)
- 第10回 「鎖国」関係史料の講読(1)
- 第11回 同上(2)
- 第12回 同上(3)
- 第13回 同上(4)
- 第14回 論点の総括と議論

履修上の注意

中世ないし近世の古文書の基礎を学んでいることが受講要件となる。
修論の中間報告を2回行なうこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生全員が授業前に輪読テキストの該当部分を精読し、当日の議論に備えておくこと。

教科書

『近世長崎法制史料集(1)』(岩田書院)ほか。コピーを配布する。

参考書

『岩波講座日本歴史 第10巻: 近世1』(岩波書店、2014年)
『日本近世史を見通す1 列島の平和と統合-近世前期-』(吉川弘文館、2023年)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

修論に関する課題のやりとりはすべてクラスウェブを通じて行なう。

成績評価の方法

報告(6割)・修論に関する課題(4割)の内容を総合して評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究IVC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 清水 有子		

授業の概要・到達目標

近世初期の対外関係に関する重要史料を手がかりに、ゼミ生各自の研究テーマを深めていくことを目的とする。
受講生は近世長崎で施行された法令類のうち、自分の課題に近い法令を教員、ゼミ生と協議のうえ選択して、最新の研究状況を踏まえて報告する。
対外関係史料を正確に読解する力、先行研究を適切に評価する力をつけ、質の高い修士論文の作成能力向上を目指す。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ(授業の説明と報告日程)
第2回 壬辰戦争関係史料の講読(1)
第3回 同上(2)
第4回 同上(3)
第5回 同上(4)
第6回 キリシタン関係史料の講読(1)
第7回 同上(2)
第8回 同上(3)
第9回 同上(4)
第10回 「鎖国」関係史料の講読(1)
第11回 同上(2)
第12回 同上(3)
第13回 同上(4)
第14回 論点の総括と議論

履修上の注意

中世ないし近世の古文書の基礎を学んでいることが受講要件となる。
修論の中間報告を2回行なうこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生全員が授業前に輪読テキストの該当部分を精読し、当日の議論に備えておくこと。

教科書

『近世長崎法制史料集(1)』(岩田書院)ほか。コピーを配布する。

参考書

『岩波講座日本歴史 第10巻：近世1』(岩波書店、2014年)
『日本近世史を見通す1 列島の平和と統合-近世前期-』(吉川弘文館、2023年)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

修論に関する課題のやりとりはすべてクラスウェブを通じて行なう。

成績評価の方法

報告(6割)・修論に関する課題(4割)の内容を総合して評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究IVD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 清水 有子		

授業の概要・到達目標

近世初期の対外関係に関する重要史料を手がかりに、ゼミ生各自の研究テーマを深めていくことを目的とする。
受講生は近世長崎で施行された法令類のうち、自分の課題に近い法令を教員、ゼミ生と協議のうえ選択して、最新の研究状況を踏まえて報告する。
対外関係史料を正確に読解する力、先行研究を適切に評価する力をつけ、質の高い修士論文の作成能力向上を目指す。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ(授業の説明と報告日程)
第2回 壬辰戦争関係史料の講読(1)
第3回 同上(2)
第4回 同上(3)
第5回 同上(4)
第6回 キリシタン関係史料の講読(1)
第7回 同上(2)
第8回 同上(3)
第9回 同上(4)
第10回 「鎖国」関係史料の講読(1)
第11回 同上(2)
第12回 同上(3)
第13回 同上(4)
第14回 論点の総括と議論

履修上の注意

中世ないし近世の古文書の基礎を学んでいることが受講要件となる。
修論の中間報告を2回行なうこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生全員が授業前に輪読テキストの該当部分を精読し、当日の議論に備えておくこと。

教科書

『近世長崎法制史料集(1)』(岩田書院)ほか。コピーを配布する。

参考書

『岩波講座日本歴史 第10巻：近世1』(岩波書店、2014年)
『日本近世史を見通す1 列島の平和と統合-近世前期-』(吉川弘文館、2023年)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

修論に関する課題のやりとりはすべてクラスウェブを通じて行なう。

成績評価の方法

報告(6割)・修論に関する課題(4割)の内容を総合して評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究VA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	山田 朗	

授業の概要・到達目標

授業の概要

世界史的な視野から日本現代史、とりわけ1920年代から1970年代までの政治・軍事・天皇制・植民地・戦争責任などの諸問題および現代における歴史教育・歴史叙述のあり方について検討する。

まず最初に、現代における政治史・天皇制研究の問題の所在を明らかにした著作を検討し、その後は、参加者の課題意識に応じて、協議の上でテキストとする著作・論文を決定する。授業計画は以下の通りであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

到達目標

現代史研究者としての研究作法、先行研究の評価の仕方、自らの研究の枠組の構築方法を修得する。

歴史教育者としての視点、問題意識、現在の歴史教育の方法論について修得する。

授業内容

- (1) イントロダクション(日程・報告者などの決定)
- (2) 近現代天皇制の検討Ⅰ(その1)
- (3) 同上(その2)
- (4) 同上(その3)
- (5) 近現代天皇制の検討Ⅱ(その1)
- (6) 同上(その2)
- (7) 同上(その3)
- (8) 近代日本の植民地・占領地支配の検討(その1)
- (9) 同上(その2)
- (10) 同上(その3)
- (11) 戦争責任論と戦後補償問題の検討(その1)
- (12) 同上(その2)
- (13) 同上(その3)
- (14) まとめ(総合討論)

履修上の注意

受講生は卒論報告と課題研究での報告を必ず行うこと。報告者は、原則として報告時間45分以内、レジュメ(史料含む)はA4用紙(片面)10枚以内にまとめること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は、必ず事前にテキストを精読し、ゼミに際しては必ず質問・意見を述べること。

教科書

歴史科学協議会編『天皇・天皇制をよむ』(東京大学出版会、2008年)
課題研究のテキストは、開講後ゼミ幹事と課題研究の担当者が中心となって、テーマにふさわしい著作・論文を決定する。また、教員が特に指定する場合もある。

参考書

歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』第8～10巻(東京大学出版会、2004～2005年)、『岩波講座 アジア・太平洋戦争』全8巻(岩波書店、2006年)、『岩波講座 日本歴史』近代・現代の巻(岩波書店、2015～2016年)を参考書あるいは課題研究のテキストとして使用する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのレポート機能を使って提出したレポート等は添削・採点の上、Oh-ol Meijiで返却する。

成績評価の方法

成績は、授業への貢献度、ゼミでの報告内容と期末のレポートによって評価する。

授業への貢献度50%、ゼミでの報告内容・レポート合計50%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究VB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	山田 朗	

授業の概要・到達目標

授業の概要

世界史的な視野から日本現代史、とりわけ1920年代から1970年代までの政治・軍事・天皇制・植民地・戦争責任などの諸問題および現代における歴史教育・歴史叙述のあり方について検討する。

まず最初に、現代における政治史・天皇制研究の問題の所在を明らかにした著作を検討し、その後は、参加者の課題意識に応じて、協議の上でテキストとする著作・論文を決定する。授業計画は以下の通りであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

到達目標

現代史研究者としての研究作法、先行研究の評価の仕方、自らの研究の枠組の構築方法を修得する。

修論の構想を立てられるだけの方法論、資料分析の能力を修得する。
歴史教育者としての視点、問題意識、現在の歴史教育の方法論について修得する。

授業内容

- (1) イントロダクション(日程・報告者などの決定)
- (2) 近現代日本の軍事史に関する検討(その1)
- (3) 同上(その2)
- (4) 同上(その3)
- (5) 近代日本の国家戦略の検討Ⅰ(その1)
- (6) 同上(その2)
- (7) 同上(その3)
- (8) 近代日本の国家戦略の検討Ⅱ(その1)
- (9) 同上(その2)
- (10) 同上(その3)
- (11) 歴史教育・歴史叙述の諸問題の検討(その1)
- (12) 同上(その2)
- (13) 同上(その3)
- (14) まとめ(総合討論)

履修上の注意

受講生は修論構想報告と課題研究での報告を必ず行うこと。報告者は、原則として報告時間45分以内、レジュメ(史料含む)はA4用紙(片面)10枚以内にまとめること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は、必ず事前にテキストを精読し、ゼミに際しては必ず質問・意見を述べること。

教科書

歴史科学協議会編『天皇・天皇制をよむ』(東京大学出版会、2008年)
課題研究のテキストは、開講後ゼミ幹事と課題研究の担当者が中心となって、テーマにふさわしい著作・論文を決定する。また、教員が特に指定する場合もある。

参考書

歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』第8～10巻(東京大学出版会、2004～2005年)、『岩波講座 アジア・太平洋戦争』全8巻(岩波書店、2006年)、『岩波講座 日本歴史』近代・現代の巻(岩波書店、2015～2016年)を参考書あるいは課題研究のテキストとして使用する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのレポート機能を使って提出したレポート等は添削・採点の上、Oh-ol Meijiで返却する。

成績評価の方法

成績は、授業への貢献度、ゼミでの報告内容と期末のレポートによって評価する。

授業への貢献度50%、ゼミでの報告内容・レポート合計50%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究VC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	山田 朗	

授業の概要・到達目標

授業の概要

世界史的な視野から日本現代史、とりわけ1920年代から1970年代までの政治・軍事・天皇制・植民地・戦争責任などの諸問題および現代における歴史教育・歴史叙述のあり方について検討する。

まず最初に、現代における政治史・天皇制研究の問題の所在を明らかにした著作を検討し、その後は、参加者の課題意識に応じて、協議の上でテキストとする著作・論文を決定する。授業計画は以下の通りであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

到達目標

現代史研究者としての研究作法、先行研究の評価の仕方、自らの研究の枠組の構築方法を修得する。

修士論文を作成するにあたって必要な方法論、資料分析能力を修得する。

歴史教育者としての視点、問題意識、現在の歴史教育の方法論について修得する。

授業内容

- (1) イントロダクション(日程・報告者などの決定)
- (2) 近現代天皇制の検討 I (その1)
- (3) 同上(その2)
- (4) 同上(その3)
- (5) 近現代天皇制の検討 II (その1)
- (6) 同上(その2)
- (7) 同上(その3)
- (8) 近代日本の植民地・占領地支配の検討(その1)
- (9) 同上(その2)
- (10) 同上(その3)
- (11) 戦争責任論と戦後補償問題の検討(その1)
- (12) 同上(その2)
- (13) 同上(その3)
- (14) まとめ(総合討論)

履修上の注意

受講生は修論中間報告(第1回)と課題研究での報告を必ず行うこと。報告者は、原則として報告時間45分以内、レジュメ(史料含む)はA4用紙(片面)10枚以内にまとめること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は、必ず事前にテキストを精読し、ゼミに際しては必ず質問・意見を述べること。

教科書

歴史科学協議会編『天皇・天皇制をよむ』(東京大学出版会、2008年)
課題研究のテキストは、開講後ゼミ幹事と課題研究の担当者が中心となって、テーマにふさわしい著作・論文を決定する。また、教員が特に指定する場合もある。

参考書

歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』第8～10巻(東京大学出版会、2004～2005年)、『岩波講座 アジア・太平洋戦争』全8巻(岩波書店、2006年)、『岩波講座 日本歴史』近代・現代の巻(岩波書店、2015～2016年)を参考書あるいは課題研究のテキストとして使用する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのレポート機能を使って提出したレポート等は添削・採点の上、Oh-ol Meijiで返却する。

成績評価の方法

成績は、授業への貢献度、ゼミでの報告内容と期末のレポートによって評価する。

授業への貢献度50%、ゼミでの報告内容・レポート合計50%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究VD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	山田 朗	

授業の概要・到達目標

授業の概要

世界史的な視野から日本現代史、とりわけ1920年代から1970年代までの政治・軍事・天皇制・植民地・戦争責任などの諸問題および現代における歴史教育・歴史叙述のあり方について検討する。

まず最初に、現代における政治史・天皇制研究の問題の所在を明らかにした著作を検討し、その後は、参加者の課題意識に応じて、協議の上でテキストとする著作・論文を決定する。授業計画は以下の通りであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

到達目標

現代史研究者としての研究作法、先行研究の評価の仕方、自らの研究の枠組の構築方法を修得する。

修士論文を完成させるまでに方法論と資料分析の能力を高める。

歴史教育者としての視点、問題意識、現在の歴史教育の方法論について修得する。

授業内容

- (1) イントロダクション(日程・報告者などの決定)
- (2) 近現代日本の軍事史に関する検討(その1)
- (3) 同上(その2)
- (4) 同上(その3)
- (5) 近代日本の国家戦略の検討 I (その1)
- (6) 同上(その2)
- (7) 同上(その3)
- (8) 近代日本の国家戦略の検討 II (その1)
- (9) 同上(その2)
- (10) 同上(その3)
- (11) 歴史教育・歴史叙述の諸問題の検討(その1)
- (12) 同上(その2)
- (13) 同上(その3)
- (14) まとめ(総合討論)

履修上の注意

受講生は修論中間報告(第2回)を必ず行うこと。報告者は、原則として報告時間45分以内、レジュメ(史料含む)はA4用紙(片面)10枚以内にまとめること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は、必ず事前にテキストを精読し、ゼミに際しては必ず質問・意見を述べること。

教科書

山田朗『兵士たちの戦場』(岩波書店、2015年)、山田朗『昭和天皇の戦争』(岩波書店、2017年)

課題研究のテキストは、開講後ゼミ幹事と課題研究の担当者が中心となって、テーマにふさわしい著作・論文を決定する。また、教員が特に指定する場合もある。

参考書

歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』第8～10巻(東京大学出版会、2004～2005年)、『岩波講座 アジア・太平洋戦争』全8巻(岩波書店、2006年)、『岩波講座 日本歴史』近代・現代の巻(岩波書店、2015～2016年)を参考書あるいは課題研究のテキストとして使用する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのレポート機能を使って提出したレポート等は添削・採点の上、Oh-ol Meijiで返却する。

成績評価の方法

成績は、授業への貢献度、ゼミでの報告内容と期末のレポートによって評価する。

授業への貢献度50%、ゼミでの報告内容・レポート合計50%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅥA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	高橋	一樹

授業の概要・到達目標

日本中世の転換期に位置する鎌倉時代後期(13世紀後半)の政治・外交・経済・社会・文化について考えるための基礎史料(古記録)のひとつである、『兼仲卿記』(『勘仲記』とも)を継続的に講読・検討する。

中世の記録史料を読解するうえでの基本的なスキルを身につけるとともに、この古記録の裏側に大量に残されている古文書(紙背文書)にも目を配り、日本中世の記録と文書の有機的な分析方法についても実践的に考察する。その際、国立歴史民俗博物館に所蔵される『兼仲卿記』原本の調査をも組み込む。

授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更もありうる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス(テキストをめぐる先行研究、報告日程の決定)
- 第2回 『兼仲卿記』の輪読①
- 第3回 『兼仲卿記』の輪読②
- 第4回 『兼仲卿記』の輪読③
- 第5回 『兼仲卿記』の輪読④
- 第6回 『兼仲卿記』の輪読⑤
- 第7回 『兼仲卿記』の輪読⑥
- 第8回 『兼仲卿記』の輪読⑦
- 第9回 『兼仲卿記』の輪読⑧
- 第10回 『兼仲卿記』の輪読⑨
- 第11回 『兼仲卿記』の輪読⑩
- 第12回 『兼仲卿記』の輪読⑪
- 第13回 『兼仲卿記』の輪読⑫
- 第14回 成果と課題の集約・討論

履修上の注意

毎回報告者1名を決めて、語句・人名・地名の説明および現代語訳などからなるレジュメを作成してもらい(紙背文書も含む)、輪読形式で内容を検討していく。受講生は授業前にテキストを精読し、語句の意味などを調べて授業に臨むこと。詳細は履修者の数に応じて、相談することとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の報告者もとより、他の受講生の十分な予習と報告をふまえたディスカッションへの積極的な参加を期待する。

教科書

テキストは、最新の良質な翻刻本である『史料纂集 勘仲記』第一(高橋秀樹他編、八木書店)を用いる。受講生は、事前に該当記事を複写するなどして入手しておくことをもとめる。また、毎回の報告者はもちろん、すべての受講生は、国立歴史民俗博物館のHPを利用して、あらかじめ当該記事の原本画像を確認しておくこと。

参考書

毎回の授業で検討する当該記事・紙背文書に関する論文等を中心に、授業のなかで適宜、指示・紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

ゼミでの報告や発言の内容を総合的に評価する。評価の基準や配点などは、第1回において説明する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅥB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	高橋	一樹

授業の概要・到達目標

日本中世の転換期に位置する鎌倉時代後期(13世紀後半)の政治・外交・経済・社会・文化について考えるための基礎史料(古記録)のひとつである、『兼仲卿記』(『勘仲記』とも)を継続的に講読・検討する。秋学期は、春学期に引き続いて読み進めていく。

中世の記録史料を読解するうえでの基本的なスキルを身につけるとともに、この古記録の裏側に大量に残されている古文書(紙背文書)にも目を配り、日本中世の記録と文書の有機的な分析方法についても実践的に考察する。その際、国立歴史民俗博物館に所蔵される『兼仲卿記』原本の調査をも組み込む。

授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更もありうる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス(テキストをめぐる先行研究、報告日程の決定)
- 第2回 『兼仲卿記』の輪読①
- 第3回 『兼仲卿記』の輪読②
- 第4回 『兼仲卿記』の輪読③
- 第5回 『兼仲卿記』の輪読④
- 第6回 『兼仲卿記』の輪読⑤
- 第7回 『兼仲卿記』の輪読⑥
- 第8回 『兼仲卿記』の輪読⑦
- 第9回 『兼仲卿記』の輪読⑧
- 第10回 『兼仲卿記』の輪読⑨
- 第11回 『兼仲卿記』の輪読⑩
- 第12回 『兼仲卿記』の輪読⑪
- 第13回 『兼仲卿記』の輪読⑫
- 第14回 成果と課題の集約・討論

履修上の注意

毎回報告者1名を決めて、語句・人名・地名の説明および現代語訳などからなるレジュメを作成してもらい(紙背文書も含む)、輪読形式で内容を検討していく。受講生は授業前にテキストを精読し、語句の意味などを調べて授業に臨むこと。詳細は履修者の数に応じて、相談することとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の報告者もとより、他の受講生の十分な予習と報告をふまえたディスカッションへの積極的な参加を期待する。

教科書

テキストは、最新の良質な翻刻本である『史料纂集 勘仲記』第一(高橋秀樹他編、八木書店)を用いる。受講生は、事前に該当記事を複写するなどして入手しておくことをもとめる。また、毎回の報告者はもちろん、すべての受講生は、国立歴史民俗博物館のHPを利用して、あらかじめ当該記事の原本画像を確認しておくこと。

参考書

毎回の授業で検討する当該記事・紙背文書に関する論文等を中心に、授業のなかで適宜、指示・紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

ゼミでの報告や発言の内容を総合的に評価する。評価の基準や配点などは、第1回において説明する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究VIC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	高橋	一樹

授業の概要・到達目標

日本中世の転換期に位置する鎌倉時代後期(13世紀後半)の政治・外交・経済・社会・文化について考えるための基礎史料(古記録)のひとつである、『兼仲卿記』(『勘仲記』とも)を継続的に講読・検討する。

中世の記録史料を読解するうえでの基本的なスキルを身につけるとともに、この古記録の裏側に大量に残されている古文書(紙背文書)にも目を配り、日本中世の記録と文書の有機的な分析方法についても実践的に考察する。その際、国立歴史民俗博物館に所蔵される『兼仲卿記』原本の調査をも組み込む。

授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更もありうる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス(テキストをめぐる先行研究、報告日程の決定)
- 第2回 『兼仲卿記』の輪読①
- 第3回 『兼仲卿記』の輪読②
- 第4回 『兼仲卿記』の輪読③
- 第5回 『兼仲卿記』の輪読④
- 第6回 『兼仲卿記』の輪読⑤
- 第7回 『兼仲卿記』の輪読⑥
- 第8回 『兼仲卿記』の輪読⑦
- 第9回 『兼仲卿記』の輪読⑧
- 第10回 『兼仲卿記』の輪読⑨
- 第11回 『兼仲卿記』の輪読⑩
- 第12回 『兼仲卿記』の輪読⑪
- 第13回 『兼仲卿記』の輪読⑫
- 第14回 成果と課題の集約・討論

履修上の注意

毎回報告者1名を決めて、語句・人名・地名の説明および現代語訳などからなるレジュメを作成してもらい(紙背文書も含む)、輪読形式で内容を検討していく。受講生は授業前にテキストを精読し、語句の意味などを調べて授業に臨むこと。詳細は履修者の数に応じて、相談することとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の報告者のもとより、他の受講生の十分な予習と報告をふまえたディスカッションへの積極的な参加を期待する。

教科書

テキストは、最新の良質な翻刻本である『史料纂集 勘仲記』第一(高橋秀樹他編、八木書店)を用いる。受講生は、事前に該当記事を複写するなどして入手しておくことをもとめる。また、毎回の報告者はもちろん、すべての受講生は、国立歴史民俗博物館のHPを利用して、あらかじめ当該記事の原本画像を確認しておくこと。

参考書

毎回の授業で検討する当該記事・紙背文書に関する論文等を中心に、授業のなかで適宜、指示・紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

ゼミでの報告や発言の内容を総合的に評価する。評価の基準や配点などは、第1回において説明する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究VID		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	高橋	一樹

授業の概要・到達目標

日本中世の転換期に位置する鎌倉時代後期(13世紀後半)の政治・外交・経済・社会・文化について考えるための基礎史料(古記録)のひとつである、『兼仲卿記』(『勘仲記』とも)を継続的に講読・検討する。秋学期は、春学期に引き続いて読み進めていく。

中世の記録史料を読解するうえでの基本的なスキルを身につけるとともに、この古記録の裏側に大量に残されている古文書(紙背文書)にも目を配り、日本中世の記録と文書の有機的な分析方法についても実践的に考察する。その際、国立歴史民俗博物館に所蔵される『兼仲卿記』原本の調査をも組み込む。

授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更もありうる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス(テキストをめぐる先行研究、報告日程の決定)
- 第2回 『兼仲卿記』の輪読①
- 第3回 『兼仲卿記』の輪読②
- 第4回 『兼仲卿記』の輪読③
- 第5回 『兼仲卿記』の輪読④
- 第6回 『兼仲卿記』の輪読⑤
- 第7回 『兼仲卿記』の輪読⑥
- 第8回 『兼仲卿記』の輪読⑦
- 第9回 『兼仲卿記』の輪読⑧
- 第10回 『兼仲卿記』の輪読⑨
- 第11回 『兼仲卿記』の輪読⑩
- 第12回 『兼仲卿記』の輪読⑪
- 第13回 『兼仲卿記』の輪読⑫
- 第14回 成果と課題の集約・討論

履修上の注意

毎回報告者1名を決めて、語句・人名・地名の説明および現代語訳などからなるレジュメを作成してもらい(紙背文書も含む)、輪読形式で内容を検討していく。受講生は授業前にテキストを精読し、語句の意味などを調べて授業に臨むこと。詳細は履修者の数に応じて、相談することとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の報告者のもとより、他の受講生の十分な予習と報告をふまえたディスカッションへの積極的な参加を期待する。

教科書

テキストは、最新の良質な翻刻本である『史料纂集 勘仲記』第一(高橋秀樹他編、八木書店)を用いる。受講生は、事前に該当記事を複写するなどして入手しておくことをもとめる。また、毎回の報告者はもちろん、すべての受講生は、国立歴史民俗博物館のHPを利用して、あらかじめ当該記事の原本画像を確認しておくこと。

参考書

毎回の授業で検討する当該記事・紙背文書に関する論文等を中心に、授業のなかで適宜、指示・紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

ゼミでの報告や発言の内容を総合的に評価する。評価の基準や配点などは、第1回において説明する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅦA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	落合 弘樹	

授業の概要・到達目標

明治維新を理解するためには、19世紀全体を見渡すレベルで国家体制や政治運動を幅広く把握することが必要である。当授業では、文久3年から慶応元年の『防長回天史』を輪読し、長州藩の藩論構築をめぐる政局の推移を検討していく。

授業内容

報告の箇所に合わせ、関連史料を用意し解説を加えること。また、当該時期の研究状況についても報告するように求める。

- (1) イントロダクション
- (2) 8月18日政変と木戸
- (3) 参与会議
- (4) 横浜鎖港体制と関門海峡封鎖
- (5) 進発論の台頭
- (6) 池田屋事件
- (7) 禁門の変1
- (8) 禁門の変2
- (9) 木戸の出石潜伏
- (10) 第一次征長
- (11) 俗論党の政権掌握
- (12) 高杉の挙兵
- (13) 武備恭順態勢
- (14) まとめとふりかえり

履修上の注意

全員が討論に参加することを原則とする。履修者相互の切磋琢磨を期待する。

準備学習（予習・復習等）の内容

提示した資料を事前に精読してくる。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告・討論・レポート・授業への貢献度により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅦB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	落合 弘樹	

授業の概要・到達目標

明治維新を理解するためには、19世紀全体を見渡すレベルで国家体制や政治運動を幅広く把握することが必要である。当授業では、慶応1年から2年の『防長回天史』を輪読し、攘夷論をめぐる政局の推移を検討していく。

授業内容

報告の箇所に合わせ、関連史料を用意し解説を加えること。また、当該時期の研究状況についても報告するように求める。

- (1) イントロダクション
- (2) 長州再征論
- (3) 長州藩の軍事改革
- (4) 薩長提携論
- (5) 井上・伊藤の長崎出張
- (6) 島津家との和解
- (7) 長州再征の勅
- (8) 木戸の京都潜入
- (9) 薩長の盟約
- (10) 広島での交渉
- (11) 四境戦争1
- (12) 四境戦争2
- (13) 将軍空位と長州藩
- (14) まとめとふりかえり

履修上の注意

全員が討論に参加することを原則とする。履修者相互の切磋琢磨を期待する。

準備学習（予習・復習等）の内容

提示した資料を事前に精読してくる。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告・討論・レポート・授業への貢献度により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅦC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	落合 弘樹	

授業の概要・到達目標

明治維新を理解するためには、19世紀全体を見渡すレベルで国家体制や政治運動を幅広く把握することが必要である。当授業では、文久3年から慶応元年の『防長回天史』を輪読し、長州藩の藩論構築をめぐる政局の推移を検討していく。

授業内容

報告の箇所に合わせ、関連史料を用意し解説を加えること。また、当該時期の研究状況についても報告するように求める。

- (1) イントロダクション
- (2) 8月18日政変と木戸
- (3) 参与会議
- (4) 横浜鎖港体制と関門海峡封鎖
- (5) 進発論の台頭
- (6) 池田屋事件
- (7) 禁門の変1
- (8) 禁門の変2
- (9) 木戸の出石潜伏
- (10) 第一次征長
- (11) 俗論党の政権掌握
- (12) 高杉の挙兵
- (13) 武備恭順態勢
- (14) まとめとふりかえり

履修上の注意

全員が討論に参加することを原則とする。履修者相互の切磋琢磨を期待する。

準備学習（予習・復習等）の内容

提示した資料を事前に精読してくる。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告・討論・レポート・授業への貢献度により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅦD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	落合 弘樹	

授業の概要・到達目標

明治維新を理解するためには、19世紀全体を見渡すレベルで国家体制や政治運動を幅広く把握することが必要である。当授業では、慶応1年から2年の『防長回天史』を輪読し、攘夷論をめぐる政局の推移を検討していく。

授業内容

報告の箇所に合わせ、関連史料を用意し解説を加えること。また、当該時期の研究状況についても報告するように求める。

- (1) イントロダクション
- (2) 長州再征論
- (3) 長州藩の軍事改革
- (4) 薩長提携論
- (5) 井上・伊藤の長崎出張
- (6) 島津家との和解
- (7) 長州再征の勅
- (8) 木戸の京都潜入
- (9) 薩長の盟約
- (10) 広島での交渉
- (11) 四境戦争1
- (12) 四境戦争2
- (13) 将軍空位と長州藩
- (14) まとめとふりかえり

履修上の注意

全員が討論に参加することを原則とする。履修者相互の切磋琢磨を期待する。

準備学習（予習・復習等）の内容

提示した資料を事前に精読してくる。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告・討論・レポート・授業への貢献度により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅧA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(社会学)	愼	蒼宇

授業の概要・到達目標

東アジア史、世界史の観点から日本近現代史研究を再検討することを目標に、文献・あるいは研究論文(雑誌の特集など)を講読します。この再検討とは、関係史、比較史、同時代史、民衆史、グローバルヒストリーなど、多様な方法に基づきます。参加者とともに講読テーマ、方法の一つを選択し、古典とここ数年の研究の比較講読を行いたい。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 講読テーマ、講読文献・論文の選定①
- 第3回 同上②
- 第4回 文献Ⅰを読む①
- 第5回 同上②
- 第6回 同上③
- 第7回 同上④
- 第8回 同上⑤
- 第9回 文献Ⅱを読む①
- 第10回 同上②
- 第11回 同上③
- 第12回 同上④
- 第13回 同上⑤
- 第14回 総合討論

履修上の注意

参加者はかならず第2回演習で選定された文献・論文を読み、毎回交替で報告していただきます。そのうえで、全員で討議します。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の内容部分を読んでください。報告者はレジメを作成してください。

教科書

講義のなかで選定した文献・論文

参考書

とくに定めません。

課題に対するフィードバックの方法

報告と議論に対する講評をします。

成績評価の方法

報告の内容、ゼミでの討論への参加、貢献度などの平常点を総合的に判断します。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究ⅧB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(社会学)	愼	蒼宇

授業の概要・到達目標

受講者の論文構想、すでに執筆した研究論文など、個人研究の報告を行っていただきます。受講者の研究対象や取り扱う地域が多様であるほど、相互の刺激は大きく、得られる知見の幅も広がります。また、それぞれの研究が歴史においてどのような関係を取り結ぶのかを考えることで、より豊かな歴史認識を構築する機会としていただきたいと思います。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 報告①
- 第3回 報告②
- 第4回 報告③
- 第5回 報告④
- 第6回 報告⑤
- 第7回 報告⑥
- 第8回 報告⑦
- 第9回 報告⑧
- 第10回 報告⑨
- 第11回 報告⑩
- 第12回 報告⑪
- 第13回 報告⑫
- 第14回 総合討論

履修上の注意

報告者数によって報告機会の回数に変動がある場合があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告者は前週に次の週の報告課題について簡単に説明していただき、参加者は事前にその課題について予習してきてください。報告者はレジメを作成し、報告をしていただきます。

教科書

とくに定めません。

参考書

とくに定めません。

課題に対するフィードバックの方法

報告や議論の内容に関して講評を行います。

成績評価の方法

報告の内容、ゼミでの討論への参加、貢献度などの平常点を総合的に判断します。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅧC		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(社会学) 愼 蒼宇		

授業の概要・到達目標

東アジア史、世界史の観点から日本近現代史研究を再検討することを目標に、文献・あるいは研究論文(雑誌の特集など)を講読します。この再検討とは、関係史、比較史、同時代史、民衆史、グローバルヒストリーなど、多様な方法に基づきます。参加者とともに講読テーマ、方法の一つを選択し、古典とここ数年の研究の比較講読を行いたい。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 講読テーマ、講読文献・論文の選定①
- 第3回 同上②
- 第4回 文献Ⅰを読む①
- 第5回 同上②
- 第6回 同上③
- 第7回 同上④
- 第8回 同上⑤
- 第9回 文献Ⅱを読む①
- 第10回 同上②
- 第11回 同上③
- 第12回 同上④
- 第13回 同上⑤
- 第14回 総合討論

履修上の注意

参加者はかならず第2回演習で選定された文献・論文を講読し、毎回交替で報告していただきます。そのうえで、全員で討議します。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の内容部分を読んできてください。報告者はレジメを作成してください。

教科書

講義のなかで選定した文献・論文

参考書

とくに定めません。

課題に対するフィードバックの方法

報告と議論に対する講評をします。

成績評価の方法

報告の内容、ゼミでの討論への参加、貢献度などの平常点を総合的に判断します。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅧD		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(社会学) 愼 蒼宇		

授業の概要・到達目標

受講者の論文構想、すでに執筆した研究論文など、個人研究の報告を行っていただきます。受講者の研究対象や取り扱う地域が多様であるほど、相互の刺激は大きく、得られる知見の幅も広がります。また、それぞれの研究が歴史においてどのような関係を取り結ぶのかを考えることで、より豊かな歴史認識を構築する機会としていただきたい。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 報告①
- 第3回 報告②
- 第4回 報告③
- 第5回 報告④
- 第6回 報告⑤
- 第7回 報告⑥
- 第8回 報告⑦
- 第9回 報告⑧
- 第10回 報告⑨
- 第11回 報告⑩
- 第12回 報告⑪
- 第13回 報告⑫
- 第14回 総合討論第1回

履修上の注意

報告者数によって報告機会の回数に変動がある場合があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告者は前週に次の週の報告課題について簡単に説明していただき、参加者は事前にその課題について予習してきてください。報告者はレジメを作成し、報告をしていただきます。

教科書

とくに定めません。

参考書

とくに定めません。

課題に対するフィードバックの方法

報告や議論の内容に関して講評を行います。

成績評価の方法

報告の内容、ゼミでの討論への参加、貢献度などの平常点を総合的に判断します。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅨA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学) 仁藤 敦史		

授業の概要・到達目標

弘仁格の復原的研究【式部下篇】
 古代法令史料の扱いに習熟することを目標として『類聚三代格』等に収載された格文を『弘仁格抄』の配列に随って順次検討する。従来、律令と『延喜式』が古代法制史を検討する場合の二大史料として位置づけられてきた。その中間期に位置する「弘仁格」を「弘仁格抄」の配列に従って復原的に解釈することにより、両者とは異なる平安初期における法制と社会実態との緊張関係がうかがわれる新たな史料群としての位置づけを行いたい。弘仁期における有効法の視角を採用することにより、従来は編纂の勝手とされてきた正史と格との記載のズレについても整合的な解釈が可能となる。格式研究の現状を概観したのちに、前期は「弘仁格抄」の編目のうち「式部下」に掲載された格を中心とした検討を報告形式でおこなう。
 具体的な史料読解および史料操作を個々の格文の検討により習熟する。

授業内容

- 第1回 格式研究の概説
- 第2回 式下7の検討〈1〉格文の復元 転擬郡司(大領・少領)の向京停止
- 第3回 同〈2〉制度史的検討
- 第4回 同〈3〉
- 第5回 式下8の検討〈1〉格文の復元 転擬郡司(主政・主帳)の向京停止
- 第6回 同〈2〉制度史的検討
- 第7回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第8回 式下9の検討〈1〉格文の復元 式部詮議の規定
- 第9回 同〈2〉制度史的検討
- 第10回 同〈3〉弘仁格としての位置付け 主政以下の初任叙位
- 第11回 式下12の検討〈1〉格文の復元
- 第12回 同〈2〉制度史的検討
- 第13回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第14回 まとめ

履修上の注意

格式を検討するうえで必要な基礎的な律令の知識を習得していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に格式関係の論考を学習し、毎週関係格の先行研究を予習しておくことが望ましい。

教科書

国史大系本『類聚三代格・弘仁格抄』(吉川弘文館)を活用する。

参考書

福井俊彦編『弘仁格の復原的研究』民部篇、(吉川弘文館)
 仁藤敦史『古代王権と官僚制』(臨川書店)
 「復原弘仁格史料集」(『国立歴史民俗博物館』研究報告135)

課題に対するフィードバックの方法

期末に報告内容のまとめレポートを提出して論評する。

成績評価の方法

授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)などにより総合的に判断する。

その他

講義中における議論への積極的参加を希望する。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅨB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学) 仁藤 敦史		

授業の概要・到達目標

弘仁格の復原的研究【式部下篇】
 古代法令史料の扱いに習熟することを目標として『類聚三代格』等に収載された格文を『弘仁格抄』の配列に随って順次検討する。従来、律令と『延喜式』が古代法制史を検討する場合の二大史料として位置づけられてきた。その中間期に位置する「弘仁格」を「弘仁格抄」の配列に従って復原的に解釈することにより、両者とは異なる平安初期における法制と社会実態との緊張関係がうかがわれる新たな史料群としての位置づけを行いたい。弘仁期における有効法の視角を採用することにより、従来は編纂の勝手とされてきた正史と格との記載のズレについても整合的な解釈が可能となる。格式研究の現状を概観したのちに、後期は「弘仁格抄」の編目のうち「式部下」に掲載された格を中心とした検討を報告形式でおこなう。
 具体的な史料読解および史料操作を個々の格文の検討により習熟する。

授業内容

- 第1回 格式研究の概説
- 第2回 式下13の検討〈1〉格文の復元 郡司の遭喪解任規定
- 第3回 同〈2〉制度史的検討
- 第4回 同〈3〉
- 第5回 式下14の検討〈1〉格文の復元 郡司の服解復任規定
- 第6回 同〈2〉制度史的検討
- 第7回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第8回 式下15の検討〈1〉格文の復元 不善郡司の解任規定
- 第9回 同〈2〉制度史的検討
- 第10回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第11回 式下16の検討〈1〉格文の復元 衛府舍人の主政・主帳任用規定
- 第12回 同〈2〉制度史的検討
- 第13回 同〈3〉弘仁格としての位置付け
- 第14回 まとめ

履修上の注意

格式を検討するうえで必要な基礎的な律令の知識を習得していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に格式関係の論考を学習し、毎週関係格の先行研究を予習しておくことが望ましい。

教科書

国史大系本『類聚三代格・弘仁格抄』(吉川弘文館)を活用する。

参考書

福井俊彦編『弘仁格の復原的研究』民部篇、(吉川弘文館)
 仁藤敦史『古代王権と官僚制』(臨川書店)
 「復原弘仁格史料集」(『国立歴史民俗博物館』研究報告135)

課題に対するフィードバックの方法

期末に報告内容のレポートを提出し論評する。

成績評価の方法

授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)などにより総合的に判断する。

その他

講義中における議論への積極的参加を希望する。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅨC		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学) 仁藤 敦史		

授業の概要・到達目標

弘仁格の復原的研究【式部下篇】
 古代法令史料の扱いに習熟することを目標として『類聚三代格』等に収載された格文を『弘仁格抄』の配列に随って順次検討する。従来、律令と『延喜式』が古代法制史を検討する場合の二大史料として位置づけられてきた。その中間期に位置する「弘仁格」を「弘仁格抄」の配列に従って復原的に解釈することにより、両者とは異なる平安初期における法制と社会実態との緊張関係がうかがわれる新たな史料群としての位置づけを行いたい。弘仁期における有効法の視角を採用することにより、従来は編纂の不便とされてきた正史と格との記載のズレについても整合的な解釈が可能となる。格式研究の現状を概観したのちに、前期は「弘仁格抄」の編目のうち「式部下」に掲載された格を中心とした検討を報告形式でおこなう。
 具体的な史料読解および史料操作を個々の格文の検討により習熟する。

授業内容

- 第1回 格式研究の概説
- 第2回 式下7の検討<1>格文の復元 転擬郡司(大領・少領)の向京停止
- 第3回 同<2>制度史的検討
- 第4回 同<3>
- 第5回 式下8の検討<1>格文の復元 転擬郡司(主政・主帳)の向京停止
- 第6回 同<2>制度史的検討
- 第7回 同<3>弘仁格としての位置付け
- 第8回 式下9の検討<1>格文の復元 式部詮議の規定
- 第9回 同<2>制度史的検討
- 第10回 同<3>弘仁格としての位置付け 主政以下の初任叙位
- 第11回 式下12の検討<1>格文の復元
- 第12回 同<2>制度史的検討
- 第13回 同<3>弘仁格としての位置付け
- 第14回 まとめ

履修上の注意

格式を検討するうえで必要な基礎的な律令の知識を習得していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に格式関係の論考を学習し、毎週関係格の先行研究を予習しておくことが望ましい。

教科書

国史大系本『類聚三代格・弘仁格抄』(吉川弘文館)を活用する。

参考書

福井俊彦編『弘仁格の復原的研究』民部篇、(吉川弘文館)
 仁藤敦史『古代王権と官僚制』(臨川書店)
 「復原弘仁格史料集」(『国立歴史民俗博物館』研究報告135)

課題に対するフィードバックの方法

期末に報告内容のレポートを提出し論評する。

成績評価の方法

授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)などにより総合的に判断する。

その他

講義中における議論への積極的参加を希望する。

科目ナンバー：(AL) HIS511J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史学研究ⅨD		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学) 仁藤 敦史		

授業の概要・到達目標

弘仁格の復原的研究【式部下篇】
 古代法令史料の扱いに習熟することを目標として『類聚三代格』等に収載された格文を『弘仁格抄』の配列に随って順次検討する。従来、律令と『延喜式』が古代法制史を検討する場合の二大史料として位置づけられてきた。その中間期に位置する「弘仁格」を「弘仁格抄」の配列に従って復原的に解釈することにより、両者とは異なる平安初期における法制と社会実態との緊張関係がうかがわれる新たな史料群としての位置づけを行いたい。弘仁期における有効法の視角を採用することにより、従来は編纂の不便とされてきた正史と格との記載のズレについても整合的な解釈が可能となる。格式研究の現状を概観したのちに、後期は「弘仁格抄」の編目のうち「式部下」に掲載された格を中心とした検討を報告形式でおこなう。
 具体的な史料読解および史料操作を個々の格文の検討により習熟する。

授業内容

- 第1回 格式研究の概説
- 第2回 式下13の検討<1>格文の復元 郡司の遭喪解任規定
- 第3回 同<2>制度史的検討
- 第4回 同<3>
- 第5回 式下14の検討<1>格文の復元 郡司の服解復任規定
- 第6回 同<2>制度史的検討
- 第7回 同<3>弘仁格としての位置付け
- 第8回 式下15の検討<1>格文の復元 不善郡司の解任規定
- 第9回 同<2>制度史的検討
- 第10回 同<3>弘仁格としての位置付け
- 第11回 式下16の検討<1>格文の復元 衛府舍人の主政・主帳任用規定
- 第12回 同<2>制度史的検討
- 第13回 同<3>弘仁格としての位置付け
- 第14回 まとめ

履修上の注意

格式を検討するうえで必要な基礎的な律令の知識を習得していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に格式関係の論考を学習し、毎週関係格の先行研究を予習しておくことが望ましい。

教科書

国史大系本『類聚三代格・弘仁格抄』(吉川弘文館)を活用する。

参考書

福井俊彦編『弘仁格の復原的研究』民部篇、(吉川弘文館)
 仁藤敦史『古代王権と官僚制』(臨川書店)
 「復原弘仁格史料集」(『国立歴史民俗博物館』研究報告135)

課題に対するフィードバックの方法

期末に報告内容のレポートを提出し論評する。

成績評価の方法

授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)などにより総合的に判断する。

その他

講義中における議論への積極的参加を希望する。

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究 X A		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任講師 博士(歴史学) 富山 仁貴		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

日本現代史とりわけ1940年代以降の社会・経済・政治・思想・教育・地域などの諸問題、および現代における歴史認識・歴史叙述のあり方について検討する。史料・文献の講読および受講生による研究報告によって授業を進める。

春学期は、①歴史学方法論および社会史をめぐる諸問題に関する著作を検討し、②戦後日本の政治・社会思想について雑誌『思想』・『世界』・『中央公論』等を史料として講読する。なお、授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更することもありうる。

(到達目標)

- ①歴史学の研究史を踏まえた研究枠組みの構築方法を修得する。
- ②歴史資料の調査手順および正確な批判・読解方法を修得する。
- ③修士論文の作成に向けた歴史認識・歴史叙述のあり方を修得する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 歴史学方法論(その1)
- 第3回 同上(その2)
- 第4回 同上(その3)
- 第5回 社会史をめぐる諸問題(その1)
- 第6回 同上(その2)
- 第7回 同上(その3)
- 第8回 戦後日本の政治・社会思想(その1)
- 第9回 同上(その2)
- 第10回 同上(その3)
- 第11回 同上(その4)
- 第12回 同上(その5)
- 第13回 同上(その6)
- 第14回 まとめ(総合討論)

履修上の注意

報告者は必ずレジュメを作成し、無断欠席しないこと。参加者は積極的に討論に参加し、質問・意見を述べること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は事前にテキストを精読し、討論に向けた疑問点・論点などを留意しておくこと。授業後は、論点を整理して必要な調査を行なうこと。

教科書

必要に応じてコピーまたはデータを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論および講評を通じて適宜行なう。

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度(討論への積極的な参加等)をもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究 X B		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任講師 博士(歴史学) 富山 仁貴		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

日本現代史とりわけ1940年代以降の社会・経済・政治・思想・教育・地域などの諸問題、および現代における歴史認識・歴史叙述のあり方について検討する。史料・文献の講読および受講生による研究報告によって授業を進める。

春学期は、①歴史学方法論および地域史をめぐる諸問題に関する著作を検討し、②戦後日本の経済・産業について『北海道現代史 資料編2(産業・経済)』を史料として講読する。なお、授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更することもありうる。

(到達目標)

- ①歴史学の研究史を踏まえた研究枠組みの構築方法を修得する。
- ②歴史資料の調査手順および正確な批判・読解方法を修得する。
- ③修士論文の作成に向けた歴史認識・歴史叙述のあり方を修得する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 歴史学方法論(その1)
- 第3回 同上(その2)
- 第4回 同上(その3)
- 第5回 地域史をめぐる諸問題(その1)
- 第6回 同上(その2)
- 第7回 同上(その3)
- 第8回 戦後日本の経済・産業(その1)
- 第9回 同上(その2)
- 第10回 同上(その3)
- 第11回 同上(その4)
- 第12回 同上(その5)
- 第13回 同上(その6)
- 第14回 まとめ(総合討論)

履修上の注意

報告者は必ずレジュメを作成し、無断欠席しないこと。参加者は積極的に討論に参加し、質問・意見を述べること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は事前にテキストを精読し、討論に向けた疑問点・論点などを留意しておくこと。授業後は、論点を整理して必要な調査を行なうこと。

教科書

必要に応じてコピーまたはデータを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論および講評を通じて適宜行なう。

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度(討論への積極的な参加等)をもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究XC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任講師 博士(歴史学) 富山 仁貴		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

日本現代史とりわけ1940年代以降の社会・経済・政治・思想・教育・地域などの諸問題、および現代における歴史認識・歴史叙述のあり方について検討する。史料・文献の講読および受講生による研究報告によって授業を進める。

春学期は、①歴史学方法論および社会史をめぐる諸問題に関する著作を検討し、②戦後日本の政治・社会思想について雑誌『思想』・『世界』・『中央公論』等を史料として講読する。なお、授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更することもありうる。

(到達目標)

- ①歴史学の研究史を踏まえた研究枠組みの構築方法を修得する。
- ②歴史資料の調査手順および正確な批判・読解方法を修得する。
- ③修士論文の作成に向けた歴史認識・歴史叙述のあり方を修得する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 歴史学方法論(その1)
- 第3回 同上(その2)
- 第4回 同上(その3)
- 第5回 社会史をめぐる諸問題(その1)
- 第6回 同上(その2)
- 第7回 同上(その3)
- 第8回 戦後日本の政治・社会思想(その1)
- 第9回 同上(その2)
- 第10回 同上(その3)
- 第11回 同上(その4)
- 第12回 同上(その5)
- 第13回 同上(その6)
- 第14回 まとめ(総合討論)

履修上の注意

報告者は必ずレジュメを作成し、無断欠席しないこと。参加者は積極的に討論に参加し、質問・意見を述べること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は事前にテキストを精読し、討論に向けた疑問点・論点などを留意しておくこと。授業後は、論点を整理して必要な調査を行なうこと。

教科書

必要に応じてコピーまたはデータを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論および講評を通じて適宜行なう。

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度(討論への積極的な参加等)をもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS512J			
史学専攻	備考		
科目名	日本史学研究XD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任講師 博士(歴史学) 富山 仁貴		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

日本現代史とりわけ1940年代以降の社会・経済・政治・思想・教育・地域などの諸問題、および現代における歴史認識・歴史叙述のあり方について検討する。史料・文献の講読および受講生による研究報告によって授業を進める。

春学期は、①歴史学方法論および地域史をめぐる諸問題に関する著作を検討し、②戦後日本の経済・産業について『北海道現代史 資料編2(産業・経済)』を史料として講読する。なお、授業計画は以下の通りであるが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更することもありうる。

(到達目標)

- ①歴史学の研究史を踏まえた研究枠組みの構築方法を修得する。
- ②歴史資料の調査手順および正確な批判・読解方法を修得する。
- ③修士論文の作成に向けた歴史認識・歴史叙述のあり方を修得する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 歴史学方法論(その1)
- 第3回 同上(その2)
- 第4回 同上(その3)
- 第5回 地域史をめぐる諸問題(その1)
- 第6回 同上(その2)
- 第7回 同上(その3)
- 第8回 戦後日本の経済・産業(その1)
- 第9回 同上(その2)
- 第10回 同上(その3)
- 第11回 同上(その4)
- 第12回 同上(その5)
- 第13回 同上(その6)
- 第14回 まとめ(総合討論)

履修上の注意

報告者は必ずレジュメを作成し、無断欠席しないこと。参加者は積極的に討論に参加し、質問・意見を述べること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参加者は事前にテキストを精読し、討論に向けた疑問点・論点などを留意しておくこと。授業後は、論点を整理して必要な調査を行なうこと。

教科書

必要に応じてコピーまたはデータを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論および講評を通じて適宜行なう。

成績評価の方法

報告内容や授業への貢献度(討論への積極的な参加等)をもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史研究 I A		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授	高田 幸男	

授業の概要・到達目標

授業の概要

テーマ:教育史料から見た中国近現代史
 近年、中国近現代史研究は大きく変わりつつある。史料公開の進展にともない、档案とよばれる公文書や地域色豊かな地方志などの史料を駆使した研究が当たり前となってきた。一方、中国近現代史研究において、教育分野はまだ研究蓄積が比較的少ない分野である。だが、中国の地方行政や地域社会において、教育行政や教育事業は重要な構成要素であり、実際、教育行政に関する档案や教育関係の図書・雑誌は、教育史のみならず、近現代の地方政治や地域社会の実像を解明するための重要な史料となっている。本講義・演習では、日本を中心とした中国近現代史研究の歩みを概観したのち、研究方法や史料について紹介する。

到達目標

本講義・演習では、まず講義をおこなったのち、中国近現代史の教育史料をテキストとして講読をおこない、受講者が中国近現代史研究の現状を理解し、史料の収集・講読に習熟することを目指す。

授業内容

- (1) 中国近現代史研究とは
 - (2) 中国近現代史研究の歩み1—第二次世界大戦前
 - (3) 中国近現代史研究の歩み2—第二次世界大戦後から文化大革命まで
 - (4) 中国近現代史研究の歩み3—1980年代以降
 - (5) 中国近現代史研究の課題1—地域史からのアプローチ
 - (6) 中国近現代史研究の課題2—教育史からのアプローチ
 - (7) 研究の方法1—研究成果を公表する
 - (8) 研究の方法2—先行研究と向き合う
 - (9) 研究の方法3—研究の倫理・マナー
 - (10) 研究の方法4—研究会・学会
 - (11) 史料の収集分析1—IT時代の史料調査
 - (12) 史料の収集分析2—新史料の発掘
 - (13) 史料の収集分析3—オーラルヒストリー
 - (14) まとめ
- 以上の授業計画は、受講者の研究課題に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

予習を前提に授業を進める。質問や意見があれば積極的に発言してほしい。「大学院研究科間共通科目 学際系総合研究A」を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストをあらかじめよく読み、関連事項を調べておくこと。

教科書

研究史・研究課題についてのテキストは、『シリーズ20世紀中国史』全4巻、飯島渉ほか編、東京大学出版会。研究方法については、『大國化する中国の歴史と向き合う』、飯島渉編、研文出版。史料については、『新史料からみる中国現代史』、高田幸男・大澤肇編、東方書店。講読する史料は配付する。

参考書

『中国近現代史研究のスタンダード』、田中比呂志・飯島渉編、研文出版。また『中日大辞典』大修館書店は近現代史に関わる語彙が多いので必ず購入すること。『中国歴史公文書読解辞典』、山腰敏寛編、汲古書院、2004年、も史料講読の参考になる。その他、参考文献は随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度80%、レポート20%。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史研究 I B		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授	高田 幸男	

授業の概要・到達目標

授業の概要

テーマ:教育史料から見た中国近現代史
 近年、中国近現代史研究は大きく変わりつつある。史料公開の進展にともない、档案とよばれる公文書や地域色豊かな地方志などの史料を駆使した研究が当たり前となってきた。一方、中国近現代史研究において、教育分野はまだ研究蓄積が比較的少ない分野である。だが、中国の地方行政や地域社会において、教育行政や教育事業は重要な構成要素であり、実際、教育行政に関する档案や教育関係の図書・雑誌は、教育史のみならず、近現代の地方政治や地域社会の実像を解明するための重要な史料となっている。

到達目標

本講義・演習では、アジア史研究 I A にひきつづき、中国近現代史における教育と社会変容の問題、地域社会と地域エリートの問題などを、講義と史料講読を通じて検討し、受講者の問題意識を深め、史料分析能力を高めることを目指す。また、修士論文作成に向けて、受講者各自の研究史整理・史料収集を指導する。受講者は中間報告をおこない、教員の指導や受講者相互の討論を通じて論文のテーマを確定し、論文構想の具体化を目指す。

授業内容

- (1) 近代中国の中央・地方関係1—行政制度
 - (2) 近代中国の中央・地方関係2—江南地方の位置づけ
 - (3) 近代中国の中央・地方関係3—省・府・県・基層社会
 - (4) 近代中国の中央・地方関係4—宗族
 - (5) 近代中国の教育と社会変容1—科挙制度
 - (6) 近代中国の教育と社会変容2—近代教育の導入と地域エリート
 - (7) 近代中国の教育と社会変容3—近代教育と社会改革
 - (8) 近代中国の教育と社会変容4—教育会と教育界
 - (9) 近代中国の教育と社会変容5—教育運動と地域社会
 - (10) 革命と教育1—中国共産党
 - (11) 革命と教育2—抗日戦争・49年革命と江南地方
 - (12) 革命と教育3—中華人民共和国初期の教育
 - (13) 革命と教育4—中華人民共和国期教育の変遷
 - (14) まとめ
- 以上の授業計画は、受講生の研究課題に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

予習を前提に授業を進める。質問や意見があれば積極的に発言してほしい。「大学院研究科間共通科目 学際系総合研究A」を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストのほか中国近現代史の概説書をあらかじめよく読み、関連事項を調べておくこと。

教科書

研究史・研究課題についてのテキストは、『シリーズ20世紀中国史』全4巻、飯島渉ほか編、東京大学出版会。研究方法については、『大國化する中国の歴史と向き合う』、飯島渉編、研文出版。史料については、『新史料からみる中国現代史』、高田幸男・大澤肇編、東方書店。講読する史料は配付する。

参考書

『中国近現代史研究のスタンダード』、田中比呂志・飯島渉編、研文出版。また『中日大辞典』大修館書店は近現代史に関わる語彙が多いので必ず購入すること。『中国歴史公文書読解辞典』、山腰敏寛編、汲古書院、2004年、も史料講読の参考になる。その他、参考文献は随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度80%、レポート20%。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史研究 I C		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授	高田 幸男	

授業の概要・到達目標

授業の概要

テーマ:教育史料から見た中国近現代史
 近年、中国近現代史研究は大きく変わりつつある。史料公開の進展にともない、档案とよばれる公文書や地域色豊かな地方志などの史料を駆使した研究が当たり前となってきた。一方、中国近現代史研究において、教育分野はまだ研究蓄積が比較的少ない分野である。だが、中国の地方行政や地域社会において、教育行政や教育事業は重要な構成要素であり、実際、教育行政に関する档案や教育関係の図書・雑誌は、教育史のみならず、近現代の地方政治や地域社会の実像を解明するための重要な史料となっている。本講義・演習では、日本を中心とした中国近現代史研究の歩みを概観したのち、研究方法や史料について紹介する。

到達目標

本講義・演習では、アジア史研究 I B にひきつづき、中国近現代史の教育史料をテキストとして講読をおこない、受講者が中国近現代史における教育と社会・政治体制について理解を深め、史料の収集・講読・分析・考察に習熟することを目指す。

また、修士論文作成に向けて、受講者各自の研究史整理・史料収集を指導する。受講者は中間報告をおこない、教員の指導や受講者相互の討論を通じて論文のテーマを確定し、論文構成を具体化する。

授業内容

- (1) 中国近現代史研究とは
 - (2) 中国近現代史研究の歩み1—第二次世界大戦前
 - (3) 中国近現代史研究の歩み2—第二次世界大戦後から文化大革命まで
 - (4) 中国近現代史研究の歩み3—1980年代以降
 - (5) 中国近現代史研究の課題1—地域史からのアプローチ
 - (6) 中国近現代史研究の課題2—教育史からのアプローチ
 - (7) 研究の方法1—研究成果を公表する
 - (8) 研究の方法2—先行研究と向き合う
 - (9) 研究の方法3—研究の倫理・マナー
 - (10) 研究の方法4—研究会・学会
 - (11) 史料の収集分析1—IT時代の史料調査
 - (12) 史料の収集分析2—新史料の発掘
 - (13) 史料の収集分析3—オーラルヒストリー
 - (14) まとめ
- 以上の授業計画は、受講者の研究課題に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

予習を前提に授業を進める。質問や意見があれば積極的に発言してほしい。「大学院研究科間共通科目 学際系総合研究A」を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストをあらかじめよく読み、関連事項を調べておくこと。

教科書

研究史・研究課題についてのテキストは、『シリーズ20世紀中国史』全4巻、飯島涉ほか編、東京大学出版会。研究方法については、『大國化する中国の歴史と向き合う』、飯島涉編、研文出版。史料については、『新史料からみる中国現代史』、高田幸男・大澤肇編、東方書店。講読する史料は配付する。

参考書

『中国近現代史研究のスタンダード』、田中比呂志・飯島涉編、研文出版。また『中日大辞典』大修館書店は近現代史に関わる語彙が多いので必ず購入すること。『中国歴史公文書読解辞典』、山腰敏寛編、汲古書院、2004年、も史料講読の参考になる。その他、参考文献は随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度80%、レポート20%。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史研究 I D		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授	高田 幸男	

授業の概要・到達目標

授業の概要

テーマ:教育史料から見た中国近現代史
 近年、中国近現代史研究は大きく変わりつつある。史料公開の進展にともない、档案とよばれる公文書や地域色豊かな地方志などの史料を駆使した研究が当たり前となってきた。一方、中国近現代史研究において、教育分野はまだ研究蓄積が比較的少ない分野である。だが、中国の地方行政や地域社会において、教育行政や教育事業は重要な構成要素であり、実際、教育行政に関する档案や教育関係の図書・雑誌は、教育史のみならず、近現代の地方政治や地域社会の実像を解明するための重要な史料となっている。本講義・演習では、日本を中心とした中国近現代史研究の歩みを概観したのち、研究方法や史料について紹介する。

到達目標

本講義・演習では、アジア史研究 I C にひきつづき、中国近現代史における教育と社会変容の問題、地域社会と地域エリートの問題などを講義と史料講読を通じて検討し、受講者の問題意識を深め、史料分析能力を高めることを目指す。また、受講者各自の修士論文作成に重点を置き、個別に指導をおこなうと同時に、受講者の中間報告と受講者相互の討論によって、論文の構成等を確定し、執筆・完成させる。

授業内容

- (1) 近代中国の中央・地方関係1—行政制度
 - (2) 近代中国の中央・地方関係2—江南地方の位置づけ
 - (3) 近代中国の中央・地方関係3—省・府・県・基層社会
 - (4) 近代中国の中央・地方関係4—宗族
 - (5) 近代中国の教育と社会変容1—科举制度
 - (6) 近代中国の教育と社会変容2—近代教育の導入と地域エリート
 - (7) 近代中国の教育と社会変容3—近代教育と社会改革
 - (8) 近代中国の教育と社会変容4—教育会と教育界
 - (9) 近代中国の教育と社会変容5—教育運動と地域社会
 - (10) 革命と教育1—中国共産党
 - (11) 革命と教育2—抗日戦争・49年革命と江南地方
 - (12) 革命と教育3—中華人民共和国初期の教育
 - (13) 革命と教育4—中華人民共和国期教育の変遷
 - (14) まとめ
- 以上の授業計画は、受講生の研究課題に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

予習を前提に授業を進める。質問や意見があれば積極的に発言してほしい。「大学院研究科間共通科目 学際系総合研究A」を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストをあらかじめよく読み、関連事項を調べておくこと。

教科書

研究史・研究課題についてのテキストは、『シリーズ20世紀中国史』全4巻、飯島涉ほか編、東京大学出版会。研究方法については、『大國化する中国の歴史と向き合う』、飯島涉編、研文出版。史料については、『新史料からみる中国現代史』、高田幸男・大澤肇編、東方書店。講読する史料は配付する。

参考書

『中国近現代史研究のスタンダード』、田中比呂志・飯島涉編、研文出版。また『中日大辞典』大修館書店は近現代史に関わる語彙が多いので必ず購入すること。『中国歴史公文書読解辞典』、山腰敏寛編、汲古書院、2004年、も史料講読の参考になる。その他、参考文献は随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度80%、レポート20%。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 江川 ひかり		

授業の概要・到達目標

日本をはじめ、欧米およびオスマン帝国史研究の最も発達したトルコ共和国における最新の研究動向を把握する。

授業内容

オスマン帝国支配下のアナトリアおよびバルカン地域（とくに16—19世紀）における社会経済史上の諸問題を総合的に研究する。本研究は、日本をはじめ、欧米およびオスマン帝国史研究の最も発達したトルコ共和国における研究動向を把握するために、英文およびトルコ文による著書・論文を取り上げて、これらを今日的視点から批判的に検討する。あわせて修士論文執筆の指導をおこなう。授業計画は以下のとおりであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

- (1) イントロダクション（授業の進め方、基本参考文献の紹介等）
- (2) Darling, Linda T., *A History of Social Justice and Political Power in the Middle East: The Circle of Justice from Mesopotamia to Globalization*(New York: Routledge, 2012)の輪読(その1)
- (3) 同上 (その2)
- (4) 同上 (その3)
- (5) 同上 (その4)
- (6) 同上 (その5)
- (7) 同上 (その6)
- (8) 同上 (その7)
- (9) H. Inalcik, *The Ottoman Empire Classical Age: 1300-1600*の輪読(その1)
- (10) 同上 (その2)
- (11) 15世紀の年代記『アーシュク・パシヤザーデの歴史』(オスマン語)の輪読(その1)
- (12) 同上 (その2)
- (13) 同上 (その3)
- (14) 総合討論: オスマン史研究の課題

履修上の注意

受講生は現代トルコ語、あるいはペルシア語、アラビア語を修得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

講読するテキストの直筆ノートを作成・予習して授業に臨むことが不可欠である。

教科書

受講生の顔ぶれをみて決定し、プリントを配布する。

参考書

永田雄三（編著）『新版世界各国史西アジア史2 イラン・トルコ』山川出版社、2002年。
林佳世子『オスマン帝国500年の平和』（興亡の世界史10）講談社、2008年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度50%、授業での報告・発表・取組の積極性50%

その他

科目ナンバー: (AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 江川 ひかり		

授業の概要・到達目標

日本をはじめ、欧米およびオスマン帝国史研究の最も発達したトルコ共和国における最新の研究動向を把握する。

授業内容

オスマン帝国支配下のアナトリアおよびバルカン地域（とくに16—19世紀）における社会経済史上の諸問題を総合的に研究する。本研究は、日本をはじめ、欧米およびオスマン帝国史研究の最も発達したトルコ共和国における研究動向を把握するために、英文およびトルコ文による著書・論文を取り上げて、これらを今日的視点から批判的に検討する。あわせて修士論文執筆の指導をおこなう。授業計画は以下のとおりであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

- (1) イントロダクション（授業の進め方、基本参考文献の紹介等）
- (2) H. Inalcik & D. Quataert (eds), *An Economic and Social History of the Ottoman Empire 1300-1914*の輪読(その1)
- (3) 同上 (その2)
- (4) 同上 (その3)
- (5) 同上 (その4)
- (6) 同上 (その5)
- (7) 同上 (その6)
- (8) 同上 (その7)
- (9) 16世紀の年代記『セラーニキーの歴史』(オスマン語)(その1)
- (10) 同上 (その2)
- (11) 同上 (その3)
- (12) 同上 (その4)
- (13) 同上 (その5)
- (14) 総合討論: オスマン史研究の課題

履修上の注意

受講生は現代トルコ語、あるいはペルシア語、アラビア語を修得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

講読するテキストの直筆ノートを作成・予習して授業に臨むことが不可欠である。

教科書

受講生の顔ぶれをみて決定し、プリントを配布する。

参考書

永田雄三（編著）『新版世界各国史西アジア史2 イラン・トルコ』山川出版社、2002年。
林佳世子『オスマン帝国500年の平和』（興亡の世界史10）講談社、2008年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度50%、授業での報告・発表・取組の積極性50%

その他

科目ナンバー: (AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅡC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 江川 ひかり		

授業の概要・到達目標

修士論文執筆に向けて、論文テーマの決定、論文の構成、研究動向の整理をおこなう。

授業内容

オスマン帝国支配下のアナトリアおよびバルカン地域（とくに16—19世紀）における社会経済史上の諸問題を総合的に研究する。本研究は、日本をはじめ、欧米およびオスマン帝国史研究の最も発達したトルコ共和国における研究動向を把握するために、英文およびトルコ文による著書・論文を取り上げて、これらを今日的視点から批判的に検討する。あわせて修士論文執筆の指導をおこなう。授業計画は以下のとおりであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

- (1) イントロダクション（授業の進め方、基本参考文献の紹介等）
- (2) Suraiya N. Faroqhi (ed.), *The Cambridge History of Turkey: vol. 3 The Later Ottoman Empire, 1603-1839.* の輪読(その1)
- (3) 同上 (その2)
- (4) 同上 (その3)
- (5) 同上 (その4)
- (6) 同上 (その5)
- (7) 同上 (その6)
- (8) 同上 (その7)
- (9) 17世紀の年代記『ナイマーの歴史』(オスマン語)(その1)
- (10) 同上 (その2)
- (11) 同上 (その3)
- (12) 同上 (その4)
- (13) 同上 (その5)
- (14) 総合討論:オスマン史研究の課題

履修上の注意

受講生は現代トルコ語、あるいはペルシア語、アラビア語を修得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

講読するテキストの直筆ノートを作成・予習して授業に臨むことが不可欠である。

教科書

受講生の顔ぶれをみて決定し、プリントを配布する。

参考書

永田雄三（編著）『新版世界各国史西アジア史2イラン・トルコ』山川出版社、2002年。

林佳世子『オスマン帝国500年の平和』（興亡の世界史10）講談社、2008年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度50%、授業での報告・発表・取組の積極性50%

その他

科目ナンバー: (AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅡD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 江川 ひかり		

授業の概要・到達目標

修士論文執筆に向けて、論文テーマの決定、論文の構成、研究動向の整理をおこなう。

授業内容

オスマン帝国支配下のアナトリアおよびバルカン地域（とくに16—19世紀）における社会経済史上の諸問題を総合的に研究する。本研究は、日本をはじめ、欧米およびオスマン帝国史研究の最も発達したトルコ共和国における研究動向を把握するために、英文およびトルコ文による著書・論文を取り上げて、これらを今日的視点から批判的に検討する。あわせて修士論文執筆の指導をおこなう。授業計画は以下のとおりであるが、受講生の研究課題に応じて変更もありうる。

- (1) イントロダクション（授業の進め方、基本参考文献の紹介等）
- (2) H. Inalcik & D. Quataert (eds.) *An Economic and Social History of the Ottoman Empire 1300-1914.* の輪読(その1)
- (3) 同上 (その2)
- (4) 同上 (その3)
- (5) 同上 (その4)
- (6) 同上 (その5)
- (7) 同上 (その6)
- (8) 同上 (その7)
- (9) 18世紀の年代記『ヴァースフの歴史』(オスマン語)(その1)
- (10) 同上 (その2)
- (11) 同上 (その3)
- (12) 同上 (その4)
- (13) 同上 (その5)
- (14) 総合討論:オスマン史研究の課題

履修上の注意

受講生は現代トルコ語、あるいはペルシア語、アラビア語を修得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

講読するテキストの直筆ノートを作成・予習して授業に臨むことが不可欠である。

教科書

受講生の顔ぶれをみて決定し、プリントを配布する。

参考書

永田雄三（編著）『新版世界各国史西アジア史2イラン・トルコ』山川出版社、2002年。

林佳世子『オスマン帝国500年の平和』（興亡の世界史10）講談社、2008年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度・貢献度50%、授業での報告・発表・取組の積極性50%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史研究ⅢA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	櫻井 智美	

授業の概要・到達目標

明代の政治と制度

明代史の研究は、中国の他時代の研究に比してけっして盛んとは言えない。なぜそのような状況になっているのかは、当時の史料編纂や流伝、その背景にある政治状況にさかのぼって考える必要がある。

そこで、本講義・演習では、明代史に関わる新旧の研究状況を把握し、政治や制度の諸問題およびその相互関係について、講義と史料講読を通じて自ら分析をおこなう。また、修士論文作成に向けて、受講者各自の研究史整理・史料収集を指導する。

受講者は修士論文に向けて、資料読解能力を高めるとともに、中間報告を複数回おこない、論文の構想を練り、論文としての完成度を高めていくことが目標となる。

授業内容

- 第1回 明代史研究の諸論点
- 第2回 日本における明代史の新視点
- 第3回 海外における明代史と近年の諸課題
- 第4回 『明史』『明実録』『大明会典』の講読(1)
- 第5回 同上(2)
- 第6回 同上(3)
- 第7回 同上(4)
- 第8回 『明清史料』講読(1)
- 第9回 同上(2)
- 第10回 同上(3)
- 第11回 同上(4)
- 第12回 『皇明條法事類纂』の講読(1)
- 第13回 同上(2)
- 第14回 同上(3)

資料の講読箇所は履修者の研究テーマに応じて決定する。また、履修者は複数回中間報告を行う。履修者の研究テーマによって、講読の順序等を変更する場合がある。

履修上の注意

適切な漢和辞典・中国語辞典を準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎授業、履修者全員に無作為に当てて史料等を読み、関連事項について説明してもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書

研究動向や方法については、『中国歴史研究入門』（礪波護・岸本美緒・杉山正明編、名古屋大学出版会）。

課題に対するフィードバックの方法

添削して返却する。

成績評価の方法

授業への貢献度60%、レポート（3000字以上）40%。レポートは、学術雑誌等への投稿・掲載によって代えることもできる。総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史研究ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	櫻井 智美	

授業の概要・到達目標

元代の政治と文化

近年、日本における元代史研究は、モンゴルによるユーラシア各地の支配という視点を強調する流れとなっている。多言語史料を駆使し、漢文史料での記述との比較検討をおこなう方法論は、徐々に確立してきている。一方、いわゆる『元典章』やバイリンガル史料など、元朝にかかる漢文史料も、他の時代とは異なる特徴を持つ。これら史料や研究方法の多様性を熟知し、史料読解の能力を高めることは、元代史研究の出発点となり、次のステップへの具体的な準備ともなる。

本講義・演習では、元代の政治と文化について、とりわけ、中国文化と政権の関係性を主眼において、講義と史料講読を通じた分析をおこなう。また、修士論文作成に向けて、受講者各自の研究史整理・史料収集を指導する。

履修者は修士論文に向けて、資料読解能力を高めるとともに、中間報告を複数回おこない、論文の構想を練り、論文としての完成度を高めていくことが目標となる。

授業内容

- 第1回 元代史研究への扉を開く
- 第2回 元代史研究の新視点
- 第3回 『大元聖政国朝典章』の講読と分析(1)
- 第4回 同上(2) 吏部
- 第5回 同上(3) 戸部
- 第6回 同上(4) 礼部
- 第7回 同上(5) 兵部
- 第8回 同上(6) 刑部
- 第9回 同上(7) 工部
- 第10回 最新研究書の講読と分析
- 第11回 関連石刻史料の講読と分析(1) バイリンガル碑
- 第12回 同上(2) 官庁碑刻
- 第13回 同上(3) 祭祀碑刻
- 第14回 同上(4) 神道碑と墓誌銘

資料の講読箇所は履修者の研究テーマに応じて決定する。また、履修者は複数回中間報告を行う。履修者の研究テーマによって、講読の順序等を変更する場合がある。

履修上の注意

適切な漢和辞典・中国語辞典を準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎授業、履修者全員に無作為に当てて史料等を読み、関連事項について説明してもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書

『元朝の歴史』（櫻井智美他編、勉誠出版）。研究動向や方法については、『中国歴史研究入門』（礪波護ら編、名古屋大学出版会）。

課題に対するフィードバックの方法

添削して返却する。

成績評価の方法

授業への貢献度50%、レポート（8000字以上）50%。レポートは、学術雑誌への投稿・掲載によって代えることもできる。総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅢC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	櫻井 智美	

授業の概要・到達目標

明代の政治と制度

明代史の研究は、中国の他時代の研究に比してけっして盛んとは言えない。なぜそのような状況になっているのかは、当時の史料編纂や流伝、その背景にある政治状況にさかのぼって考える必要がある。

そこで、本講義・演習では、明代史に関わる新旧の研究状況を把握し、政治や制度の諸問題およびその相互関係について、講義と史料講読を通じて自ら分析をおこなう。また、修士論文作成に向けて、受講者各自の研究史整理・史料収集を指導する。

受講者は修士論文に向けて、資料読解能力を高めるとともに、中間報告を複数回おこない、論文の構想を練り、論文としての完成度を高めていくことが目標となる。

授業内容

- 第1回 明代史研究の諸論点
- 第2回 日本における明代史の新視点
- 第3回 海外における明代史と近年の諸課題
- 第4回 『明史』『明実録』『大明会典』の講読(1)
- 第5回 同上(2)
- 第6回 同上(3)
- 第7回 同上(4)
- 第8回 『明清史料』講読(1)
- 第9回 同上(2)
- 第10回 同上(3)
- 第11回 同上(4)
- 第12回 『皇明條法事類纂』の講読(1)
- 第13回 同上(2)
- 第14回 同上(3)

資料の講読箇所は履修者の研究テーマに応じて決定する。また、履修者は複数回中間報告を行う。履修者の研究テーマによって、講読の順序等を変更する場合がある。

履修上の注意

適切な漢和辞典・中国語辞典を準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎授業、履修者全員に無作為に当てて史料等を読み、関連事項について説明してもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書

研究動向や方法については、『中国歴史研究入門』(礪波護・岸本美緒・杉山正明編、名古屋大学出版会)。

課題に対するフィードバックの方法

添削して返却する。

成績評価の方法

授業への貢献度60%、レポート(3000字以上)40%。レポートは、学術雑誌等への投稿・掲載によって代えることもできる。総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅢD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	櫻井 智美	

授業の概要・到達目標

元代の政治と文化

近年、日本における元代史研究は、モンゴルによるユーラシア各地の支配という視点を強調する流れとなっている。多言語史料を駆使し、漢文史料での記述との比較検討をおこなう方法論は、徐々に確立してきている。一方、いわゆる『元典章』やバイリンガル史料など、元朝にかかる漢文史料も、他の時代とは異なる特徴を持つ。これら史料や研究方法の多様性を熟知し、史料読解の能力を高めることは、元代史研究の出発点となり、次のステップへの具体的な準備ともなる。

本講義・演習では、元代の政治と文化について、とりわけ、中国文化と政権の関係性を主眼において、講義と史料講読を通じた分析をおこなう。また、修士論文作成に向けて、受講者各自の研究史整理・史料収集を指導する。

履修者は修士論文に向けて、資料読解能力を高めるとともに、中間報告を複数回おこない、論文の構想を練り、論文としての完成度を高めていくことが目標となる。

授業内容

- 第1回 元代史研究への扉を開く
- 第2回 元代史研究の新視点
- 第3回 『大元聖政国朝典章』の講読と分析(1)
- 第4回 同上(2)吏部
- 第5回 同上(3)戸部
- 第6回 同上(4)礼部
- 第7回 同上(5)兵部
- 第8回 同上(6)刑部
- 第9回 同上(7)工部
- 第10回 最新研究書の講読と分析
- 第11回 関連石刻史料の講読と分析(1)バイリンガル碑
- 第12回 同上(2)官庁碑刻
- 第13回 同上(3)祭祀碑刻
- 第14回 同上(4)神道碑と墓誌銘

資料の講読箇所は履修者の研究テーマに応じて決定する。また、履修者は複数回中間報告を行う。履修者の研究テーマによって、講読の順序等を変更する場合がある。

履修上の注意

適切な漢和辞典・中国語辞典を準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎授業、履修者全員に無作為に当てて史料等を読み、関連事項について説明してもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書

『元朝の歴史』(櫻井智美他編、勉誠出版)。研究動向や方法については、『中国歴史研究入門』(礪波護ら編、名古屋大学出版会)。

課題に対するフィードバックの方法

添削して返却する。

成績評価の方法

授業への貢献度50%、レポート50%。レポートは、学術雑誌への投稿・掲載によって代えることもできる。総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅣA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	高村 武幸	

授業の概要・到達目標

現在の中国古代史研究の現状を理解し、特に研究に欠かせない簡牘史料について、その史料性格を理解することを目的とする。

この授業では、第二次大戦後の日本における簡牘史料の研究状況を踏まえつつ、簡牘史料をどのように扱い、研究に用いるかを検討していく。単なる講義形式では表面的な知識を得るのみとなってしまうので、実際の簡牘史料を講読しつつ、必要な知識を紹介する。現時点では、律令簡牘(張家山336号墓簡牘)などを考えている。

授業内容

- 第一回 授業内容の説明と簡牘概説
- 第二回 秦漢律令簡牘の講読1
- 第三回 秦漢律令簡牘の講読2
- 第四回 秦漢律令簡牘の講読3
- 第五回 秦漢律令簡牘の講読4
- 第六回 秦漢律令簡牘の講読5
- 第七回 秦漢律令簡牘の講読6
- 第八回 秦漢律令簡牘の講読7
- 第九回 秦漢律令簡牘の講読8
- 第十回 秦漢律令簡牘の講読9
- 第十一回 秦漢律令簡牘の講読10
- 第十二回 秦漢律令簡牘の講読11
- 第十三回 秦漢律令簡牘の講読12
- 第十四回 秦漢律令簡牘の講読13

履修上の注意

初回時に受講者の関心に応じて、授業内容の調整を行う。特に、講読史料の決定を実施する。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習…事前に次回講読分の簡牘史料を書き下し・日本現代語訳しておく。
 復習…講義中に説明した事柄については整理しておき、次回講義の際にそれを生かした予習を行えるようにしておく。

教科書

特定の教科書はなく、必要な資料は当方から配布する。

参考書

講義では参考書を使用しない。講義中に必要が生じた際に、個別の必要に応じた参考書の紹介を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義へ出席の上での予習・議論の状況(70%) + レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究ⅣB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	高村 武幸	

授業の概要・到達目標

現在の中国古代史研究に欠かせない簡牘史料について、その内容を理解し、研究に用いるための基礎力を獲得することを目的とする。

この授業では、秦代の簡牘「里耶秦簡」の講読を実施し、独力で中国古代の公文書を読解し、その内容の概要を理解できるようになることに努める。なお、公文書については受講者との相談で変更することもある。

授業内容

- 第一回 授業内容の説明
- 第二回 里耶秦簡の講読1
- 第三回 里耶秦簡の講読2
- 第四回 里耶秦簡の講読3
- 第五回 里耶秦簡の講読4
- 第六回 里耶秦簡の講読5
- 第七回 里耶秦簡の講読6
- 第八回 里耶秦簡の講読7
- 第九回 里耶秦簡の講読8
- 第十回 里耶秦簡の講読9
- 第十一回 里耶秦簡の講読10
- 第十二回 里耶秦簡の講読11
- 第十三回 里耶秦簡の講読12
- 第十四回 里耶秦簡の講読13

履修上の注意

初回講義時に受講者の関心に応じて講読史料を変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習…次回講読分の史料の書き下し・現代日本語訳をしておく。
 復習…講読史料を読み直して、次回講読分に類似のものが出た場合指摘できるようにする。

教科書

特定の教科書は使用せず、当方から配布する。

参考書

特定の参考書は使用せず、必要に応じて講義時に個別に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義へ出席の上での予習・議論の状況(70%) + レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究IVC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	高村 武幸	

授業の概要・到達目標

現在の中国古代史研究の現状を理解し、特に研究に欠かせない簡牘史料を利用した研究を理解した上で、史料に基づいて批評できるようにすることを目的とする。この授業では、第二次大戦後の日本を中心に、歴史学史料として簡牘を用いた中国古代史研究の代表的な研究を紹介するが、具体的な史料とともに各研究の意義を確認できないと意味がないため、律令簡牘を中心に講読しつつ、各研究を随時紹介する形をとる。具体的には、張家山漢簡336号墓簡牘などを考えている。

授業内容

- 第一回 授業内容の説明
 - 第二回 律令関係簡牘の講読(1)
 - 第三回 律令関係簡牘の講読(2)
 - 第四回 律令関係簡牘の講読(3)
 - 第五回 律令関係簡牘の講読(4)
 - 第六回 律令関係簡牘の講読(5)
 - 第七回 律令関係簡牘の講読(6)
 - 第八回 律令関係簡牘の講読(7)
 - 第九回 律令関係簡牘の講読(8)
 - 第十回 律令関係簡牘の講読(9)
 - 第十一回 律令関係簡牘の講読(10)
 - 第十二回 律令関係簡牘の講読(11)
 - 第十三回 律令関係簡牘の講読(12)
 - 第十四回 律令関係簡牘の講読(13)
- ※受講者との協議により、内容の変更や増減、回数的前後が発生することがある。

履修上の注意

初回授業時に受講者の関心に応じて内容を調整する。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習…前回の講義内容を理解した上で、次の範囲についてどのような内容になりそうかを予測しておくこと。
 復習…講義内容についてまとめておくこと。適宜講義の中で内容を把握しているか問うことがある。

教科書

特定の教科書は使用せず、当方から必要な資料は配布する。

参考書

特定の参考書は使用しない。必要に応じて、講義の中で個別に紹介していく。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義へ出席の上での予習・議論の状況(70%) + レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究IVD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	高村 武幸	

授業の概要・到達目標

現在の中国古代史研究に欠かせない簡牘史料について、その内容を理解した上で、自己の研究に適切な形で利用できるようになることを目的とする。

この授業では、公文書簡牘の講読を実施し、独力で中国古文書・簿籍を読解し、その内容を把握した上で研究にどのように利用するかを考える。現時点では里耶秦簡を考えているが、必要に応じて、典籍文献の講読または里耶秦簡以外の講読などに切り替えることがある。

授業内容

- 第一回 授業内容の説明と漢簡の概観
- 第二回 里耶秦簡の講読(1)
- 第三回 里耶秦簡の講読(2)
- 第四回 里耶秦簡の講読(3)
- 第五回 里耶秦簡の講読(4)
- 第六回 里耶秦簡の講読(5)
- 第七回 里耶秦簡の講読(6)
- 第八回 里耶秦簡の講読(7)
- 第九回 里耶秦簡の講読(8)
- 第十回 里耶秦簡の講読(9)
- 第十一回 里耶秦簡の講読(10)
- 第十二回 里耶秦簡の講読(11)
- 第十三回 里耶秦簡の講読(12)
- 第十四回 里耶秦簡の講読(13)

履修上の注意

初回授業時に講読内容について受講者と協議する。特に、簡牘史料は新しく公開されるものも多いため、その時点での簡牘史料の状況をみながら、随時切り替えることも検討する。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習…次回講読箇所を書き下し・日本現代語訳をおこなう。
 復習…法律用語をはじめとする各種用語についてまとめておき、同様の事例が出てきた際にすぐに理解できるようにしておく。

教科書

特定の教科書は使用せず、当方から資料を配布する。

参考書

特定の参考書は使用せず、講義時に必要が生じたときに個別に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義へ出席の上での予習・議論の状況(70%) + レポート(30%)

その他

科目ナンバー: (AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究VA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	博士(文学)	鈴木 開

授業の概要・到達目標

史料の読解と研究をつうじて、東アジア近世史を世界史的な観点からとらえなおすことを目標とする。資料の収集整理、先行研究の読解、フィールドワーク、史料講読の四方面から研究の進め方や歴史観の構築方法を学んでいく。資料の収集整理では明治大学中央図書館、フィールドワークでは関連史料の所蔵機関や史跡を訪問し、研究の進め方を体感しながら習得する。整備がすすむデジタル資料の活用についても議論する。先行研究の読解では、中国語、韓国語、英語の各言語圏の研究動向を把握するほか、1950年以前の著作をもとりあげ、史学史的な問題意識を涵養することを目指す。史料講読では、公牘体といわれる明清公文書の文体、朝鮮漢文、満洲語を習得するとともに、それら史料を研究に活用する方法論についても探究していく。

授業内容

第1回 概説 東アジア近世史の研究
 第2・3・4回 資料の収集整理
 第5・6・7回 先行研究の読解
 第8・9・10回 フィールドワーク
 第11・12・13回 史料講読
 第14回 総括 東アジア近世史の新たな研究方向

履修上の注意

希望するテーマの研究状況についてあらかじめ調べておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

講読を希望する史料言語についてあらかじめ習熟しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』（ミネルヴァ書房，2022年）
 『ハンドブック 近代中国外交史：明清交替から満洲事変まで』（ミネルヴァ書房，2019年）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席状況、授業での報告内容、期末のレポートを総合して評価する。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究VB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	博士(文学)	鈴木 開

授業の概要・到達目標

明清と朝鮮の関係を軸に前近代東アジア国際関係の実態を解明する。法令、随筆、文学、地図、絵画、写真など幅広い資料に目配りし、近世から近代への時代の移りかわりを多様な観点から理解することを目標とする。档案に代表される手書き史料については、いわゆる「くずし字」の解読トレーニングも実施する。漢籍をはじめとする資料学分野の研究動向にも目配りする。明清史料、朝鮮史料、図像資料(地図、地誌含む)、手書き史料の四段階にわけて、史料読解の方法論を体得し、個々のテーマに沿って論文を作成する能力を身につける。

授業内容

第1回 はじめに一東アジア国際関係史の資料と方法
 第2・3・4回 明清史料の読解
 第5・6・7回 朝鮮史料の読解
 第8・9・10回 図像資料の読解
 第11・12・13回 手書き史料の読解
 第14回 おわりに一東アジア国際関係史の新視点

履修上の注意

とりあげてほしい資料がある場合には考慮するので、あらかじめ書誌情報などを調査しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

参考書をつうじて研究動向や史料状況を把握しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

『デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル』（漢字文献情報処理研究会編，好文出版，2021年）
 『中国歴史公文書読解辞典』（山腰敏寛，汲古書院，2004年）
 『中国近世法制史料読解ハンドブック』（山本英史編，2019年，<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>よりダウンロード）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度、出席、レポートなどを総合的に評価する。レポートでは自身の論文構想をまとめてもらう。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS522J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究VC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	博士(文学)	鈴木 開

授業の概要・到達目標

史料の読解と研究をつうじて、東アジア近世史を世界史的な観点からとらえなおすことを目標とする。資料の収集整理、先行研究の読解、フィールドワーク、史料講読の四方面から研究の進め方や歴史観の構築方法を学んでいく。資料の収集整理では明治大学中央図書館、フィールドワークでは関連史料の所蔵機関や史跡を訪問し、研究の進め方を体感しながら習得する。整備がすすむデジタル資料の活用についても議論する。先行研究の読解では、中国語、韓国語、英語の各言語圏の研究動向を把握するほか、1950年以前の著作をもとりあげ、史学史的な問題意識を涵養することを目指す。史料講読では、公牘体といわれる明清公文書の文体、朝鮮漢文、満洲語を習得するとともに、それら史料を研究に活用する方法論についても探究していく。

授業内容

- 第1回 概説 東アジア近世史の研究
- 第2・3・4回 資料の収集整理
- 第5・6・7回 先行研究の読解
- 第8・9・10回 フィールドワーク
- 第11・12・13回 史料講読
- 第14回 総括 東アジア近世史の新たな研究方向

履修上の注意

希望するテーマの研究状況についてあらかじめ調べておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

講読を希望する史料言語についてあらかじめ習熟しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

- 『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』（ミネルヴァ書房，2022年）
- 『ハンドブック 近代中国外交史：明清交替から満洲事変まで』（ミネルヴァ書房，2019年）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席状況、授業での報告内容、期末のレポートを総合して評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS622J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史研究VD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	博士(文学)	鈴木 開

授業の概要・到達目標

明清と朝鮮の関係を軸に前近代東アジア国際関係の実態を解明する。法令、随筆、文学、地図、絵画、写真など幅広い資料に目配りし、近世から近代への時代の移りかわりを多様な観点から理解することを目標とする。档案に代表される手書き史料については、いわゆる「くずし字」の解読トレーニングも実施する。漢籍をはじめとする資料学分野の研究動向にも目配りする。明清史料、朝鮮史料、図像資料(地図、地誌含む)、手書き史料の四段階にわけて、史料読解の方法論を体得し、個々のテーマに沿って論文を作成する能力を身につける。

授業内容

- 第1回 はじめに一東アジア国際関係史の資料と方法
- 第2・3・4回 明清史料の読解
- 第5・6・7回 朝鮮史料の読解
- 第8・9・10回 図像資料の読解
- 第11・12・13回 手書き史料の読解
- 第14回 おわりに一東アジア国際関係史の新視点

履修上の注意

とりあげてほしい資料がある場合には考慮するので、あらかじめ書誌情報などを調査しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

参考書をつうじて研究動向や史料状況を把握しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

- 『デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル』（漢字文献情報処理研究会編，好文出版，2021年）
- 『中国歴史公文書読解辞典』（山腰敏寛，汲古書院，2004年）
- 『中国近世法制史料読解ハンドブック』（山本英史編，2019年，<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>よりダウンロード）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度、出席、レポートなどを総合的に評価する。レポートでは自身の論文構想をまとめてもらう。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究 I A		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授		古山 夕城

授業の概要・到達目標

ギリシア古代世界のアルカイック期から古典期のポリスにおける国家制度と社会構造を考察するにあたり、必須の手掛かりとなる碑文史料のテキスト読解に必要な基礎的な技術と知識を体得することが目標である。

授業内容

- 第1回：イントロダクションA=ギリシア語碑文の諸特徴
- 第2回：碑文テキストへのアプローチ(1)=支持体の種類・分類
- 第3回：碑文テキストへのアプローチ(2)=記載の形式
- 第4回：碑文テキストへのアプローチ(3)=年代の推定
- 第5回：碑文テキストへのアプローチ(4)=復元と捕逸
- 第6回：碑文テキストへのアプローチ(5)=文字と方言
- 第7回：アッティカ方言(1)=民会決議
- 第8回：アッティカ方言(2)=財産没収競売碑文
- 第9回：アッティカ方言(3)=宗教関連碑文
- 第10回：アッティカ方言(4)=墓碑銘文
- 第11回：その他の方言碑文(1)=イオニア
- 第12回：その他の方言碑文(2)=アイオリス
- 第13回：その他の方言碑文(3)=ドーリス
- 第14回：エピローグA=春学期の授業まとめ

履修上の注意

事前の読み込み・事項の調査確認を十分行なっておくこと。古代ギリシア語テキストを教材にするため、古典ギリシア語・ラテン語・英語・フランス語・ドイツ語のすべてを読めることが履修の条件(イタリア語を読めることも望ましい)。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布するテキストを熟読し、十分な読解をしておくこと。

教科書

R. Meiggs & D. Lewis eds. A Selection of Greek Historical Inscriptions to the End of the Fifth Century B. C. (1969)
 M. N. Tod ed. Greek Historical Inscriptions from the Sixth Century B. C. to the Death of Alexander the Great. (1985)
 ほか、適宜必要な碑文史料を提示する。
 読解実践のための碑文テキストについては、授業開始時に紹介し必要部分をコピーして配布するので、とくに購入の必要はない。

参考書

授業時に適宜、紹介するが、古典ギリシア語碑文の入門書として、次の書籍を参考にすること。
 A. G. Woodhead, The Study of Greek Inscriptions. 2nd edition (1981)
 E. Roberts, An Introduction to Greek Epigraphy (Cambridge Library Collection-Classics) (2011)
 C. D. Buck, Introduction to the Study of the Greek Dialects: Grammar, Selected Inscriptions, Glossary. (2009)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への取組姿勢(60%)を重視するが、テキストの理解度についても加味する(40%)。ただし、欠席の回数により減点する。

その他

このシラバスは、2024年11月段階の計画予定である。2025年度開始時期において、内容の一部または全部を変更することがある(その場合は開講時に説明する)。

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究 I B		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授		古山 夕城

授業の概要・到達目標

ギリシア古代世界のアルカイック期から古典期のポリスにおける国家制度と社会構造を考察するにあたり、必須の手掛かりとなる碑文史料のテキスト読解に必要な基礎的な技術と知識を体得することが目標である。

授業内容

- 第1回：イントロダクションA=ギリシア語碑文の諸特徴
- 第2回：碑文テキストへのアプローチ(1)=支持体の種類・分類
- 第3回：碑文テキストへのアプローチ(2)=記載の形式
- 第4回：碑文テキストへのアプローチ(3)=年代の推定
- 第5回：碑文テキストへのアプローチ(4)=復元と捕逸
- 第6回：碑文テキストへのアプローチ(5)=文字と方言
- 第7回：アッティカ方言(1)=民会決議
- 第8回：アッティカ方言(2)=財産没収競売碑文
- 第9回：アッティカ方言(3)=宗教関連碑文
- 第10回：アッティカ方言(4)=墓碑銘文
- 第11回：その他の方言碑文(1)=イオニア
- 第12回：その他の方言碑文(2)=アイオリス
- 第13回：その他の方言碑文(3)=ドーリス
- 第14回：エピローグA=春学期の授業まとめ

履修上の注意

事前の読み込み・事項の調査確認を十分行なっておくこと。古代ギリシア語テキストを教材にするため、古典ギリシア語・ラテン語・英語・フランス語・ドイツ語のすべてを読めることが履修の条件(イタリア語を読めることも望ましい)。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布するテキストを熟読し、十分な読解をしておくこと。

教科書

R. Meiggs & D. Lewis eds. A Selection of Greek Historical Inscriptions to the End of the Fifth Century B. C. (1969)
 M. N. Tod ed. Greek Historical Inscriptions from the Sixth Century B. C. to the Death of Alexander the Great. (1985)
 ほか、適宜必要な碑文史料を提示する。
 読解実践のための碑文テキストについては、授業開始時に紹介し必要部分をコピーして配布するので、とくに購入の必要はない。

参考書

授業時に適宜、紹介するが、古典ギリシア語碑文の入門書として、次の書籍を参考にすること。
 A. G. Woodhead, The Study of Greek Inscriptions. 2nd edition (1981)
 E. Roberts, An Introduction to Greek Epigraphy (Cambridge Library Collection-Classics) (2011)
 C. D. Buck, Introduction to the Study of the Greek Dialects: Grammar, Selected Inscriptions, Glossary. (2009)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への取組姿勢(60%)を重視するが、テキストの理解度についても加味する(40%)。ただし、欠席の回数により減点する。

その他

このシラバスは、2024年11月段階の計画予定である。2025年度開始時期において、内容の一部または全部を変更することがある(その場合は開講時に説明する)。

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究IC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授		古山 夕城

授業の概要・到達目標

ギリシア語古典史料の講読を行なう。古代ギリシア語の読解能力の習得と向上だけでなく、史料批判と史料分析の実践的学習を行なう。また、当該史料における記述内容の歴史的背景および他の資料からの情報との突き合わせによって、さらに踏み込んだ理解へのアプローチについても実践的に学習する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション＝テキストの概要
- 第2回：史料著者の略歴と作品の歴史的背景
- 第3回：テキスト講読(1)＝アカイア序章〔1〕
- 第4回：テキスト講読(2)＝アカイア序章〔2〕
- 第5回：テキスト講読(3)＝イオニア〔1〕
- 第6回：テキスト講読(4)＝イオニア〔2〕
- 第7回：テキスト講読(5)＝イオニア〔3〕
- 第8回：テキスト講読(6)＝イオニア〔4〕
- 第9回：テキスト講読(7)＝イオニア〔5〕
- 第10回：テキスト講読(8)＝イオニア〔6〕
- 第11回：テキスト講読(9)＝イオニア〔7〕
- 第12回：テキスト講読(10)＝イオニア〔8〕
- 第13回：テキスト講読(11)＝イオニア〔9〕
- 第14回：まとめ＝「イオニア」の総括

履修上の注意

ビュテ版テキストを利用するので、古典ギリシア語の能力だけでなく、フランス語の読解力も必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に配布するテキストを熟読し、内容の報告ができるようにしておくこと。

教科書

Pausanias, *Description de la Grece. Livre VII: L'Achaïa*. (trad. et Comm. Yves Lafond 2000, Les Belles Lettres) 授業開始時に紹介し、必要部分を配布するので、とくに購入の必要はない。

参考書

とくに指定しないが、パウサニアスおよびイオニア地方に関する基本情報を得られる文献・論文を自分で調べて、史料の読解に必要な知識を獲得しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への取り組み姿勢(50%)と読解のための事前準備(30%)を重視する。さらにテキストの理解度(20%)を加味する。

その他

このシラバスは、2024年11月段階の計画・予定である。2025年度の開始時期において、内容の一部または全部を変更することがある（その場合は開講時に説明する）。

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ID		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授		古山 夕城

授業の概要・到達目標

古典文献の史料利用に際して必要な技術と知識を身につけるため、散文テキスト講読を行なう。古代ギリシア語の読解能力の習得と向上だけでなく、史料批判と史料分析の実践的学習を行なう。また、当該史料における記述内容の歴史的背景および他の資料からの情報との突き合わせによって、さらに踏み込んだ理解へのアプローチについても実践的に学習する。

授業内容

- 第1回：テキスト講読(12)＝アカイア本章〔1〕
- 第2回：テキスト講読(13)＝アカイア本章〔2〕
- 第3回：テキスト講読(14)＝アカイア本章〔3〕
- 第4回：テキスト講読(15)＝アカイア本章〔4〕
- 第5回：テキスト講読(16)＝アカイア本章〔5〕
- 第6回：テキスト講読(17)＝アカイア本章〔6〕
- 第7回：テキスト講読(18)＝アカイア本章〔7〕
- 第8回：テキスト講読(19)＝アカイア本章〔8〕
- 第9回：テキスト講読(20)＝アカイア本章〔9〕
- 第10回：テキスト講読(21)＝アカイア終章〔1〕
- 第11回：テキスト講読(22)＝アカイア終章〔2〕
- 第12回：テキスト講読(23)＝アカイア終章〔3〕
- 第13回：テキスト講読(24)＝アカイア終章〔4〕
- 第14回：まとめ＝アカイア総括

履修上の注意

ビュテ版テキストを利用するので、古典ギリシア語の能力だけでなく、フランス語の読解力も必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に配布するテキストを熟読し、内容の報告ができるようにしておくこと。

教科書

Pausanias, *Description de la Grece. Livre VII: L'Achaïa*. (trad. et Comm. Yves Lafond 2000, Les Belles Lettres) 授業開始時に紹介し、必要部分を配布するので、とくに購入の必要はない。ただし、テキストについては状況に応じて、法廷演説や演劇作品を採り上げていくことも考えている。

参考書

とくに指定しないが、アカイア地方およびテキストに登場する具体的名称に関する基本情報を自分で調べて、読解に必要な参考文献や学術論文を読んでおくこと。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

取組姿勢(60%)を重視するが、テキストの理解度についても加味する(40%)。ただし、欠席の回数により減点する。

その他

このシラバスは、2024年11月段階の計画・予定である。2025年度の開始時期において、内容の一部または全部を変更することがある（その場合は開講時に説明する）。

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、ドイツ語による西洋史の専門基本文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「ドイツ人の歴史」を軸に、19世紀～20世紀ヨーロッパ史の諸問題に関する主要理論の習得を目指す。

とくに近現代ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献（著書あるいは論文）の講読と討論を行い、ドイツ人の歴史に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。受講生によるテーマ報告を最低一回は行なってもらおう。

授業内容

- 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ国民の境界論1）
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ国民の境界論2）
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ国民の境界論3）
- 受講生の報告(その1)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ系マイノリティ1）
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ系マイノリティ2）
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ系マイノリティ3）
- 受講生の報告(その2)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ系マイノリティ4）
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ系マイノリティ5）
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ系マイノリティ6）
- 受講生の報告(その3)
- 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語のテキストを扱うため、ドイツ語中級以上の学習歴があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

追って指示する。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションやコメントの返却を通じて定期的に行う予定である。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、ドイツ語による西洋史の専門基本文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「ドイツ人の歴史」を軸に、19世紀～20世紀ヨーロッパ史の諸問題に関する主要理論の習得を目指す。

とくに近現代ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献（著書あるいは論文）の講読と討論を行い、ドイツ人の歴史に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。受講生によるテーマ報告を最低一回は行なってもらおう。

授業内容

- 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ国民の境界論1）
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ国民の境界論2）
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ国民の境界論3）
- 受講生の報告(その1)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ系マイノリティ1）
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ系マイノリティ2）
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ系マイノリティ3）
- 受講生の報告(その2)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ系マイノリティ4）
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ系マイノリティ5）
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論（ドイツ系マイノリティ6）
- 受講生の報告(その3)
- 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語のテキストを扱うため、ドイツ語中級以上の学習歴があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

追って指示する。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションやコメントの返却を通じて定期的に行う予定である。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅡC		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、ドイツ語による西洋史の専門基本文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「ドイツ人の歴史」を軸に、19世紀～20世紀ヨーロッパ史の諸問題に関する主要理論の習得を目指す。

とくに近現代ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の精読と討論を行い、ドイツ人の歴史に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。受講生によるテーマ報告を最低一回は行なってもらおう。

授業内容

- 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ国民の境界論1)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ国民の境界論2)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ国民の境界論3)
- 受講生の報告(その1)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ系マイノリティ1)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ系マイノリティ2)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ系マイノリティ3)
- 受講生の報告(その2)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ系マイノリティ4)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ系マイノリティ5)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ系マイノリティ6)
- 受講生の報告(その3)
- 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語のテキストを扱うため、ドイツ語中級以上の学習歴があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

追って指示する。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションやコメントの返却を通じて定期的に行う予定である。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅡD		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、ドイツ語による西洋史の専門基本文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「ドイツ人の歴史」を軸に、19世紀～20世紀ヨーロッパ史の諸問題に関する主要理論の習得を目指す。

とくに近現代ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の精読と討論を行い、ドイツ人の歴史に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。受講生によるテーマ報告を最低一回は行なってもらおう。

授業内容

- 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ国民の境界論1)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ国民の境界論2)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ国民の境界論3)
- 受講生の報告(その1)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ系マイノリティ1)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ系マイノリティ2)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ系マイノリティ3)
- 受講生の報告(その2)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ系マイノリティ4)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ系マイノリティ5)
- [20世紀ヨーロッパの歴史と国民] 関連の文献講読と討論(ドイツ系マイノリティ6)
- 受講生の報告(その3)
- 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語のテキストを扱うため、ドイツ語中級以上の学習歴があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

追って指示する。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションやコメントの返却を通じて定期的に行う予定である。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、外国語（とくにドイツ語）による西洋史の専門文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「ドイツ国民の境界」の観点から、近現代ヨーロッパ史の根幹とも言えるべき「国民社会」とその対立の歴史をユダヤ、ドイツ人及びジェンダーを含むマイノリティの観点から掘り下げて議論することを旨とする。

とくに19～20世紀ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の講読と討論を行い、国民国家の問題に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。また、受講生によるテーマ報告を最低一回は行ってもらう。

授業内容

- (1) 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- (2) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論1)
- (3) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論2)
- (4) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論3)
- (5) 受講生の報告(その1)
- (6) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(周縁と境界1)
- (7) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(周縁と境界2)
- (8) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(周縁と境界3)
- (9) 受講生の報告(その2)
- (10) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ1)
- (11) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ2)
- (12) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ3)
- (13) 受講生の報告(その3)
- (14) 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語中級以上を習得済みであること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

追って指示する。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッション及びコメント返却を通して随時行う。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、外国語（とくにドイツ語）による西洋史の専門文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「ドイツ国民の境界」の観点から、近現代ヨーロッパ史の根幹とも言えるべき「国民社会」とその対立の歴史をユダヤ、ドイツ人及びジェンダーを含むマイノリティの観点から掘り下げて議論することを旨とする。

とくに19～20世紀ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の講読と討論を行い、国民国家の問題に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。また、受講生によるテーマ報告を最低一回は行ってもらう。

授業内容

- (1) 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- (2) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論1)
- (3) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論2)
- (4) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論3)
- (5) 受講生の報告(その1)
- (6) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(周縁と境界1)
- (7) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(周縁と境界2)
- (8) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(周縁と境界3)
- (9) 受講生の報告(その2)
- (10) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ1)
- (11) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ2)
- (12) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ3)
- (13) 受講生の報告(その3)
- (14) 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語中級以上を習得済みであること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

追って指示する。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッション及びコメント返却を通して随時行う。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、外国語（とくにドイツ語）による西洋史の専門文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「ドイツ国民の境界」の観点から、近現代ヨーロッパ史の根幹とも言えるべき「国民社会」とその対立の歴史をユダヤ、ドイツ人及びジェンダーを含むマイノリティの観点から掘り下げて議論することを目指す。

とくに19～20世紀ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の講読と討論を行い、国民国家の問題に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。また、受講生によるテーマ報告を最低一回は行ってもらう。

授業内容

- (1) 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- (2) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論1)
- (3) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論2)
- (4) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論3)
- (5) 受講生の報告(その1)
- (6) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(周縁と境界1)
- (7) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(周縁と境界2)
- (8) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(周縁と境界3)
- (9) 受講生の報告(その2)
- (10) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ1)
- (11) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ2)
- (12) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ3)
- (13) 受講生の報告(その3)
- (14) 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語中級以上を習得済みであること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

追って指示する。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッション及びコメント返却を通して随時行う。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

本授業では、外国語（とくにドイツ語）による西洋史の専門文献を精読する。これにより、20世紀ヨーロッパの歴史について批判的に考察する基礎力を養うとともに、史料批判の仕方、すなわち文献・史料にある記述の歴史的根拠を調査する方法を習得する。今年度は、「ドイツ国民の境界」の観点から、近現代ヨーロッパ史の根幹とも言えるべき「国民社会」とその対立の歴史をユダヤ、ドイツ人及びジェンダーを含むマイノリティの観点から掘り下げて議論することを目指す。

とくに19～20世紀ヨーロッパの歴史に関するドイツ語文献(著書あるいは論文)の講読と討論を行い、国民国家の問題に関する理解を深める。授業初回に受講生にテキスト講読の担当分を割り当て、順番に輪読する形式をとる。ただし、あらかじめ用意した訳文を読み上げるのではなく、実際にテキストを見ながら日本語に読み下す方法で精読する同時通訳方式を採用する。担当者は内容と基礎的語句等に関する詳細なレジュメを作成し、授業時に配布、説明すること。また、受講生によるテーマ報告を最低一回は行ってもらう。

授業内容

- (1) 導入(本テーマの説明・テキストの選定・報告者の日程など)
- (2) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論1)
- (3) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論2)
- (4) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(国民社会論3)
- (5) 受講生の報告(その1)
- (6) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(周縁と境界1)
- (7) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(周縁と境界2)
- (8) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(周縁と境界3)
- (9) 受講生の報告(その2)
- (10) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ1)
- (11) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ2)
- (12) 「近現代ヨーロッパの歴史と国民国家」関連の文献講読と討論(マイノリティ3)
- (13) 受講生の報告(その3)
- (14) 全体的まとめ(受講生全員の報告と討論)

履修上の注意

ドイツ語中級以上を習得済みであること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回テキストの事前準備が必要となる。

教科書

追って指示する。

参考書

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッション及びコメント返却を通して随時行う。

成績評価の方法

授業への貢献度【50%】と最後に提出してもらったレポート【50%】を総合して評価する。

その他

新型コロナウイルス等の感染症の動向を注視しつつ、できる限り対面で授業を行う。ただし、状況に応じてオンラインによる授業を行うこともありうる。

科目ナンバー: (AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅢA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	青谷 秀紀	

授業の概要・到達目標

中世末期、ヴァロワ・ブルゴーニュ公家はドイツとフランスの間に一大領域国家を形成する。公国はヴァロワ家四代の君主の死をもって崩壊するが、そこでは他地域に先駆けて華やかな宮廷文化が形成された。また、公家支配下のネーデルラント(現在のベルギー・オランダ地域)は当時のヨーロッパでもっとも都市化が進んだ地域であり、都市文化も大いに発展した。本講義では、これら宮廷文化と都市文化の発展を個別にたどるとともに、様々な儀礼や祝祭を題材にして両文化の接触と交流(そしてときに衝突)の諸相をも明らかにする。また、教会やギルド、兄弟団といった組織・社会集団をとりあげ、これらを結節点とする宮廷人と都市市民の交流および社会的結合関係にも注目したい。

授業内容

- 第1回 インTRODククシヨン
- 第2回 ブルゴーニュ公四代の歴史1
- 第3回 同上2
- 第4回 宮廷文化の開花 —騎士的理想と金羊毛騎士団—1
- 第5回 同上2
- 第6回 同上3
- 第7回 都市と祝祭 —プロセシヨンと競技会—1
- 第8回 同上2
- 第9回 同上3
- 第10回 文学・芸術と都市社会、宮廷 —芸術の社会史—1
- 第11回 同上2
- 第12回 信仰と社会的結合 —教会と兄弟団—1
- 第13回 同上2
- 第14回 まとめ

履修上の注意

講義はパワーポイントを使用し、視聴覚的素材を利用しながら行う予定。授業後にリアクシヨン・ペーパーを提出してもらう場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時に紹介する参考文献を講義の前後に読み、授業内容の理解を深めてほしい。

教科書

とくに使用しない。

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点と定期試験に基づいて、総合的に評価を行う。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	青谷 秀紀	

授業の概要・到達目標

ブルゴーニュ公支配下のネーデルラントにおける政治文化を考察する。中世後期のヨーロッパでもっとも都市化が進んだこの地域を対象として、君主と都市、都市政府と市民の対立・友好関係のうちに確認できる彼らの政治的行動様式・思考様式の総体を明らかにするよう試みる。15世紀のネーデルラントが中心だが、比較的観点から考察し、歴史的展開を把握するために、14世紀のネーデルラントやイタリアにおける反乱もとりあげるつもりである。

授業内容

- 第1回 インTRODククシヨン
- 第2回 ブルゴーニュ期ネーデルラントの歴史概観1
- 第3回 同上2
- 第4回 ブルゴーニュ公の都市支配 —フランドルとブラバントの比較—1
- 第5回 同上2
- 第6回 同上3
- 第7回 旗と雄弁、そして都市空間 —都市反乱における政治集団の形成とそのメカニズム—1
- 第8回 同上2
- 第9回 同上3
- 第10回 政治的コミュニケーションの諸形態 —儀礼と処罰—1
- 第11回 同上2
- 第12回 同上3
- 第13回 ハプスブルク支配への移行
- 第14回 まとめ

履修上の注意

講義はパワーポイントを使用し、視聴覚的素材を利用しながら行う予定。授業後にリアクシヨン・ペーパーを提出してもらう場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時に紹介する参考文献を講義の前後に読み、授業内容の理解を深めてほしい。

教科書

とくに使用しない。

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点と定期試験に基づいて、総合的に評価を行う。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS632J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅢC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学) 青谷 秀紀		

授業の概要・到達目標

中世末期、ヴァロワ・ブルゴーニュ公家はドイツとフランスの間に一大領域国家を形成する。公国はヴァロワ家四代の君主の死をもって崩壊するが、そこでは他地域に先駆けて華やかな宮廷文化が形成された。また、公家支配下のネーデルラント(現在のベルギー・オランダ地域)は当時のヨーロッパでもっとも都市化が進んだ地域であり、都市文化も大いに発展した。本講義では、これら宮廷文化と都市文化の発展を個別にたどるとともに、様々な儀礼や祝祭を題材にして両文化の接触と交流(そしてときに衝突)の諸相をも明らかにする。また、教会やギルド、兄弟団といった組織・社会集団をとりあげ、これらを結節点とする宮廷人と都市市民の交流および社会的結合関係にも注目したい。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2回 ブルゴーニュ公四代の歴史1
- 第3回 同上2
- 第4回 宮廷文化の開花 —騎士的理想と金羊毛騎士団—1
- 第5回 同上2
- 第6回 同上3
- 第7回 都市と祝祭 —プロセシヨソと競技会—1
- 第8回 同上2
- 第9回 同上3
- 第10回 文学・芸術と都市社会、宮廷 —芸術の社会史—1
- 第11回 同上2
- 第12回 信仰と社会的結合 —教会と兄弟団—1
- 第13回 同上2
- 第14回 まとめ

履修上の注意

講義はパワーポイントを使用し、視聴覚的素材を利用しながら行う予定。授業後にリアクシヨソ・ペーパーを提出してもらう場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時に紹介する文献を講義の前後に読んで、授業内容の理解を深めてもらいたい。

教科書

とくに使用しない。

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点と定期試験に基づいて、総合的に評価を行う。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS632J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅢD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学) 青谷 秀紀		

授業の概要・到達目標

ブルゴーニュ公支配下のネーデルラントにおける政治文化を考察する。中世後期のヨーロッパでもっとも都市化が進んだこの地域を対象として、君主と都市、都市政府と市民の対立・友好関係のうちに確認できる彼らの政治的行動様式・思考様式の総体を明らかにするよう試みる。15世紀のネーデルラントが中心だが、比較的観点から考察し、歴史的展開を把握するために、14世紀のネーデルラントやイタリアにおける反乱もとりあげるつもりである。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2回 ブルゴーニュ期ネーデルラントの歴史概観1
- 第3回 同上2
- 第4回 ブルゴーニュ公の都市支配 —フランドルとブラバントの比較—1
- 第5回 同上2
- 第6回 同上3
- 第7回 旗と雄弁、そして都市空間 —都市反乱における政治集団の形成とそのメカニズム—1
- 第8回 同上2
- 第9回 同上3
- 第10回 政治的コミュニケーションの諸形態 —儀礼と処罰—1
- 第11回 同上2
- 第12回 同上3
- 第13回 ハプスブルク支配への移行
- 第14回 まとめ

履修上の注意

講義はパワーポイントを使用し、視聴覚的素材を利用しながら行う予定。授業後にリアクシヨソ・ペーパーを提出してもらう場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時に紹介する参考文献を講義の前後に読み、授業内容の理解を深めてほしい。

教科書

とくに使用しない。

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点と定期試験に基づいて、総合的に評価を行う。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅣA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	鰐淵 秀一	

授業の概要・到達目標

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。参加者は授業で取り上げる英語文献を毎週読み、数回に一度の報告を担当するとともに、関連する研究のレビューを提出することが求められる。英語文献を読みこなし、先行研究のマッピングや批判的読解といった歴史研究の基礎力を身につけることが目標となる。

授業内容

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。E. MorganやD. B. Davisの古典的研究から近年のenslaved peopleの主体性や反奴隷制運動に関する研究を批判的に検討し、今日どのようなアプローチから新たなアメリカ革命史像を描くことが可能になるのか模索する。

- (1) 授業の進め方と文献の紹介
- (2-14) 文献の輪読

履修上の注意

英語文献の読解をベースに授業を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎週30-50ページの英語文献をしっかり読むことが要求される。また、数回に一度レジユメを作成し、授業中に報告することが求められる。期末には6000-8000字のレビューエッセイもしくはリサーチペーパーを提出する。

教科書

初回に指示する。

参考書

以下の文献を事前に読んでおくことが望ましい。

ブレンダ・スティーヴンソン、所 康弘訳『奴隷制の歴史』ちくま学芸文庫、2023年

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業中の報告に対するコメント
- ・ペーパーの添削

成績評価の方法

授業参加30%、報告30%、期末ペーパー 40%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究ⅣB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	鰐淵 秀一	

授業の概要・到達目標

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。参加者は授業で取り上げる英語文献を毎週読み、数回に一度の報告を担当するとともに、関連する研究のレビューを提出することが求められる。英語文献を読みこなし、先行研究のマッピングや批判的読解といった歴史研究の基礎力を身につけることが目標となる。

授業内容

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。E. MorganやD. B. Davisの古典的研究から近年のenslaved peopleの主体性や反奴隷制運動に関する研究を批判的に検討し、今日どのようなアプローチから新たなアメリカ革命史像を描くことが可能になるのか模索する。

- (1) 授業の進め方と文献の紹介
- (2-14) 文献の輪読

履修上の注意

英語文献の読解をベースに授業を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎週30-50ページの英語文献をしっかり読むことが要求される。また、数回に一度レジユメを作成し、授業中に報告することが求められる。期末には6000-8000字のレビューエッセイもしくはリサーチペーパーを提出する。

教科書

初回に指示する。

参考書

以下の文献を事前に読んでおくことが望ましい。

ブレンダ・スティーヴンソン、所 康弘訳『奴隷制の歴史』ちくま学芸文庫、2023年

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業中の報告に対するコメント
- ・ペーパーの添削

成績評価の方法

授業参加30%、報告30%、期末ペーパー 40%

その他

科目ナンバー: (AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究IVC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	鰐淵 秀一	

授業の概要・到達目標

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。参加者は授業で取り上げる英語文献を毎週読み、数回に一度の報告を担当するとともに、関連する研究のレビューを提出することが求められる。英語文献を読みこなし、先行研究のマッピングや批判的読解といった歴史研究の基礎力を身につけることが目標となる。

授業内容

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。E. MorganやD. B. Davisの古典的研究から近年のenslaved peopleの主体性や反奴隷制運動に関する研究を批判的に検討し、今日どのようなアプローチから新たなアメリカ革命史像を描くことが可能になるのか模索する。

- (1) 授業の進め方と文献の紹介
- (2-14) 文献の輪読

履修上の注意

英語文献の読解をベースに授業を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎週30-50ページの英語文献をしっかりと読むことが要求される。また、数回に一度レジユメを作成し、授業中に報告することが求められる。期末には6000-8000字のレビューエッセイもしくはリサーチペーパーを提出する。

教科書

初回に指示する。

参考書

以下の文献を事前に読んでおくことが望ましい。

ブレンダ・スティーヴンソン、所 康弘訳『奴隷制の歴史』ちくま学芸文庫、2023年

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業中の報告に対するコメント
- ・ペーパーの添削

成績評価の方法

授業参加30%、報告30%、期末ペーパー 40%

その他

科目ナンバー: (AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究IVD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任准教授	鰐淵 秀一	

授業の概要・到達目標

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。参加者は授業で取り上げる英語文献を毎週読み、数回に一度の報告を担当するとともに、関連する研究のレビューを提出することが求められる。英語文献を読みこなし、先行研究のマッピングや批判的読解といった歴史研究の基礎力を身につけることが目標となる。

授業内容

本演習では、近年の初期アメリカ史における奴隷制研究の進展を踏まえて、アメリカ革命期における奴隷制の問題を取り上げる。E. MorganやD. B. Davisの古典的研究から近年のenslaved peopleの主体性や反奴隷制運動に関する研究を批判的に検討し、今日どのようなアプローチから新たなアメリカ革命史像を描くことが可能になるのか模索する。

- (1) 授業の進め方と文献の紹介
- (2-14) 文献の輪読

履修上の注意

英語文献の読解をベースに授業を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎週30-50ページの英語文献をしっかりと読むことが要求される。また、数回に一度レジユメを作成し、授業中に報告することが求められる。期末には6000-8000字のレビューエッセイもしくはリサーチペーパーを提出する。

教科書

初回に指示する。

参考書

以下の文献を事前に読んでおくことが望ましい。

ブレンダ・スティーヴンソン、所 康弘訳『奴隷制の歴史』ちくま学芸文庫、2023年

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業中の報告に対するコメント
- ・ペーパーの添削

成績評価の方法

授業参加30%、報告30%、期末ペーパー 40%

その他

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究VA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	豊川 浩一	

授業の概要・到達目標

近代ロシアの国家と社会について、その歴史的な歩みを考えることによって、理解と分析能力を高めることを目標としている。そのための文献講読と発表が中心となる。

授業内容

近代ロシアの国家と社会について考察する。時代的には18世紀から20世紀初頭までを見通しながら、近代ロシアの特質を考えようとするものである。

講義では、近代ロシアの国制に関する研究文献(ロシア語ないしは英語)を読みながら問題点を探り出し、それについて受講者と一緒に考える。演習では、近代ロシアの社会の動向に注目して、それに関連する史料あるいは最新の研究(ロシア語ないしは英語)を読む。また、参加者自身の研究に沿った報告も行ってもらう予定である。なお、具体的なテキスト(史料・文献)や授業の進め方については受講者との話し合いの上で決める。以下は授業の進め方である。

- (1・2)導入:授業の方針について受講者と討議する。
(3～14)講読と報告

履修上の注意

受講者は毎回出席を原則とし、かつ授業への積極的参加が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

上に記したように、授業の初回に受講者との話し合いの上で決定する。

参考書

テキストを決めた後、受講者と相談して決める。その際、受講者自身も授業に沿って何を読むべきか考え、その参考文献一覧表を作成する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、前回の授業内容と課題についてのフィードバックを口頭で行う。

成績評価の方法

毎回の授業への積極的参加の度合いによって判断する(100%)。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS532J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究VB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	豊川 浩一	

授業の概要・到達目標

東ヨーロッパやロシアの近代に関する基礎的な知識の習得とその整理を行いながら、ヨーロッパ近代を理解する際に重要となる幾つかのポイントを探し、それについて考えることが目標である。今年度は上記の地域に関連して多国間の関係史をめぐる問題、あるいはロシアか東ヨーロッパの国に関する英文史料を講読し、またそれに関係する発表を交えて授業を進める予定である。

授業内容

テーマに即して参加者各人(グループ)が英文史料(副次的に邦語文献)の講読と報告をする。講読、レジュメに基づいた口頭発表とそれに対する質問や批判、さらには最後の小論文の提出に至るまでの一連のプロセスを通してヨーロッパ近代・近世史の基礎を養う。なお今年度のテーマは最初の授業のときに参加者との話し合いで決めるが、14回の授業は次のような構成で授業を進める予定である。

- (1)～(2)導入:授業全体の年間テーマや演習の進め方、さらには教材・参考書について参加者全員での討議。春学期報告者の決定。同時に、図書館やインターネット検索の方法に関しても実習する。
(3)～(14)講読と報告。講読は、初回の授業できめた年間テーマに沿った内容の英文(場合によっては邦文)文献の講読を行う。報告の際には、報告者は以下の要領に従って行う。
(ア)史料の書かれた社会的背景について様々な文献で調べる。
(イ)日本の研究状況(先行研究)を調べ、かつ文献リストを作成する。
(ウ)文献リストに沿って研究状況を追う。その上で何が分かり、何がわからないかを整理し、それをレポートにし、かつ口頭で報告する。
(エ)以上の内容をA4版1～2枚程度に要約し、あらかじめ教員に提出する。
(オ)報告は夏休み前に集中して行う。

履修上の注意

演習という小人数授業では臆することなく積極的に自分の考えや意見を述べるのが大切である。その際、考え方を鍛えるというためにも、参加者からの批判に耳を傾け、それに真摯に受け答えする努力が必要である。また講読では毎回の予習は不可欠である。特別な理由を除いて遅刻・欠席は認めない。参加者は、報告に際して、必ず分担のレジュメ(内容の正確な要約)を作成し、論文で扱われている事項・史料について自ら調べることを。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、講読のための予習と復習は欠かせない。

教科書

授業中に配布予定。また、各自、ロシア・東欧の近現代史文献を読むこと。ただし、参加者各人が作成する報告要旨・参考文献一覧も導きの糸となる。

参考書

中野隆生・中嶋毅共編『文献解説 西洋近現代史1・2・3』南窓社、2011～2012年

課題に対するフィードバックの方法

毎回、前回の課題に対するフィードバックを口頭で行う。

成績評価の方法

成績評価の内訳は次のとおりである。グループや個人による講読・報告・レポートおよび小論文提出(70%)、平常点となる授業への積極的参加の様子も重要である(30%)。

その他

参加者は無断欠席をせず、根気よく取り組み、やる気(「気力」)を示すこと。

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究VC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	豊川 浩一	

授業の概要・到達目標

近代ロシアの国家と社会について、その歴史的な歩みを考えることによって、理解と分析能力を高めることを目標としている。そのための文献講読と発表が中心となる。

授業内容

近代ロシアの国家と社会について考察する。時代的には18世紀から20世紀初頭までを見通しながら、近代ロシアの特質を考えようとするものである。

講義では、近代ロシアの国制に関する研究文献(ロシア語ないしは英語)を読みながら問題点を探り出し、それについて受講者と一緒に考える。演習では、近代ロシアの社会の動向に注目して、それに関連する史料あるいは最新の研究(ロシア語ないしは英語)を読む。また、参加者自身の研究に沿った報告も行ってもらう予定である。なお、具体的なテキスト(史料・文献)や授業の進め方については受講者との話し合いの上で決める。以下は授業の進め方である。

(1・2)導入:授業の方針について受講者と討議する。
(3～14)講読と報告

履修上の注意

受講者は毎回出席を原則とし、かつ授業への積極的参加が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

次の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

上に記したように、授業の初回に受講者との話し合いの上で決定する。

参考書

テキストを決めた後、受講者と相談して決める。その際、受講者自身も授業に沿って何を読むべきか考え、その参考文献一覧表を作成する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、前回の授業内容と課題についてのフィードバックを口頭で行う。

成績評価の方法

毎回の授業への積極的参加の度合いによって判断する(100%)。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究VD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(文学)	豊川 浩一	

授業の概要・到達目標

近代ロシアの国家と社会について、その歴史的な歩みを考えることによって、理解と分析能力を高めることを目標としている。そのための文献講読と発表が中心となる。

授業内容

近代ロシアの国家と社会について考察する。時代的には18世紀から20世紀初頭までを見通しながら、近代ロシアの特質を考えようとするものである。

講義では、近代ロシアの国制に関する研究文献(ロシア語ないしは英語)を読みながら問題点を探り出し、それについて受講者と一緒に考える。演習では、近代ロシアの社会の動向に注目して、それに関連する史料あるいは最新の研究(ロシア語ないしは英語)を読む。また、参加者自身の研究に沿った報告も行ってもらう予定である。なお、具体的なテキスト(史料・文献)や授業の進め方については受講者との話し合いの上で決める。以下は授業の進め方である。

(1・2)導入:授業の方針について受講者と討議する。
(3～14)講読と報告

履修上の注意

受講者は毎回出席を原則とし、かつ授業への積極的参加が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

次の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

上に記したように、授業の初回に受講者との話し合いの上で決定する。

参考書

テキストを決めた後、受講者と相談して決める。その際、受講者自身も授業に沿って何を読むべきか考え、その参考文献一覧表を作成する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、前回の授業内容と課題についてのフィードバックを口頭で行う。

成績評価の方法

毎回の授業への積極的参加の度合いによって判断する(100%)。

その他

科目ナンバー: (AL) HIS532J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅥA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任講師	博士(文学)	谷口 良生

授業の概要・到達目標

本演習では、近代フランス史に関する文献(フランス語)を精読する。それによって、欧語文献を正確に理解し、その内容を批判的に摂取する能力を養う。あつかう文献は、フランス共和政(とくにフランス最長の第三共和政)をさまざまなテーマから批判的に描くものであり、近代フランス史をとりまくさまざまなテーマを理解し、フランス共和政とその歴史叙述をどのようにとらえることができるかを考えることも目標となる。

授業は文献の精読と参加者による研究報告からなる。文献の精読では担当分を参加者で割り当て、それぞれが内容を要約したレジュメを作成する。それをもとに全員で輪読、議論する。

授業内容

上記のとおり、あつかう予定の文献は、フランス共和政(とくにフランス最長の第三共和政)をさまざまなテーマから批判的に描くものである。そのなかから参加者の関心にしたがっていくつかのテーマを選び、それを輪読する。くわえて、参加者には少なくとも1回研究報告をしてもらう。

- 第1回 インTRODクシヨン:演習の説明と文献の紹介/講読
テーマの決定
- 第2～13回 文献講読と討論/研究報告
- 第14回 全体のまとめ

履修上の注意

フランス語文献をもとに進めるため、フランス語の学習歴があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布したテキストを事前に読み、関連する事項について事前に調査していただくことが求められる。

教科書

Marion Fontaine, Frédéric Monier et Christophe Prochasson (dir.), Une contre-histoire de la IIIe République, La Découverte, Paris, 2013 ; Vincent Duclert et Christophe Prochasson (dir.), Dictionnaire critique de la République, Flammarion, Paris, 2007. なお、テキストについては配布するため、購入する必要はない。

参考書

テキストの各テーマに関する日本語・英語・フランス語文献を授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

受講生による報告に対してはコメントを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度(50%)と期末レポート(50%)をもとに総合的に評価する。

その他

授業内容は受講生の専門などを加味して変更する可能性がある(その場合は開講時に説明する)。

科目ナンバー: (AL) HIS532J			
史学専攻		備考	
科目名	西洋史学研究ⅥB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任講師	博士(文学)	谷口 良生

授業の概要・到達目標

本演習では、近代フランス史に関する文献(フランス語)を精読する。それによって、欧語文献を正確に理解し、その内容を批判的に摂取する能力を養う。あつかう文献は、フランス共和政(とくにフランス最長の第三共和政)をさまざまなテーマから批判的に描くものであり、近代フランス史をとりまくさまざまなテーマを理解し、フランス共和政とその歴史叙述をどのようにとらえることができるかを考えることも目標となる。

授業は文献の精読と参加者による研究報告からなる。文献の精読では担当分を参加者で割り当て、それぞれが内容を要約したレジュメを作成する。それをもとに全員で輪読、議論する。

授業内容

上記のとおり、あつかう予定の文献は、フランス共和政(とくにフランス最長の第三共和政)をさまざまなテーマから批判的に描くものである。そのなかから参加者の関心にしたがっていくつかのテーマを選び、それを輪読する。くわえて、参加者には少なくとも1回研究報告をしてもらう。

- 第1回 インTRODクシヨン:演習の説明と文献の紹介/講読
テーマの決定
- 第2～13回 文献講読と討論/研究報告
- 第14回 全体のまとめ

履修上の注意

フランス語文献をもとに進めるため、フランス語の学習歴があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布したテキストを事前に読み、関連する事項について事前に調査していただくことが求められる。

教科書

Marion Fontaine, Frédéric Monier et Christophe Prochasson (dir.), Une contre-histoire de la IIIe République, La Découverte, Paris, 2013 ; Vincent Duclert et Christophe Prochasson (dir.), Dictionnaire critique de la République, Flammarion, Paris, 2007. なお、テキストについては配布するため、購入する必要はない。

参考書

テキストの各テーマに関する日本語・英語・フランス語文献を授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

受講生による報告に対してはコメントを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度(50%)と期末レポート(50%)をもとに総合的に評価する。

その他

授業内容は受講生の専門などを加味して変更する可能性がある(その場合は開講時に説明する)。

科目ナンバー: (AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究VIC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任講師 博士(文学)	谷口 良生	

授業の概要・到達目標

本演習では、近代フランス史に関する文献(フランス語)を精読する。それによって、欧語文献を正確に理解し、その内容を批判的に摂取する能力を養う。あつかう文献は、フランス共和政(とくにフランス最長の第三共和政)をさまざまなテーマから批判的に描くものであり、近代フランス史をとりまくさまざまなテーマを理解し、フランス共和政とその歴史叙述をどのようにとらえることができるかを考えることも目標となる。

授業は文献の精読と参加者による研究報告からなる。文献の精読では担当分を参加者で割り当て、それぞれが内容を要約したレジュメを作成する。それをもとに全員で輪読、議論する。

授業内容

上記のとおり、あつかう予定の文献は、フランス共和政(とくにフランス最長の第三共和政)をさまざまなテーマから批判的に描くものである。そのなかから参加者の関心にしたがっていくつかのテーマを選び、それを輪読する。くわえて、参加者には少なくとも1回研究報告をしてもらう。

第1回 インTRODクシヨ:演習の説明と文献の紹介/講読
テーマの決定
第2～13回 文献講読と討論/研究報告
第14回 全体のまとめ

履修上の注意

フランス語文献をもとに進めるため、フランス語の学習歴があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布したテキストを事前に読み、関連する事項について事前に調査してることが求められる。

教科書

Marion Fontaine, Frédéric Monier et Christophe Prochasson (dir.), Une contre-histoire de la IIIe République, La Découverte, Paris, 2013 ; Vincent Duclert et Christophe Prochasson (dir.), Dictionnaire critique de la République, Flammarion, Paris, 2007. なお、テキストについては配布するため、購入する必要はない。

参考書

テキストの各テーマに関する日本語・英語・フランス語文献を授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

受講生による報告に対してはコメントを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度(50%)と期末レポート(50%)をもとに総合的に評価する。

その他

授業内容は受講生の専門などを加味して変更する可能性がある(その場合は開講時に説明する)。

科目ナンバー: (AL) HIS632J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史学研究VID		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任講師 博士(文学)	谷口 良生	

授業の概要・到達目標

本演習では、近代フランス史に関する文献(フランス語)を精読する。それによって、欧語文献を正確に理解し、その内容を批判的に摂取する能力を養う。あつかう文献は、フランス共和政(とくにフランス最長の第三共和政)をさまざまなテーマから批判的に描くものであり、近代フランス史をとりまくさまざまなテーマを理解し、フランス共和政とその歴史叙述をどのようにとらえることができるかを考えることも目標となる。

授業は文献の精読と参加者による研究報告からなる。文献の精読では担当分を参加者で割り当て、それぞれが内容を要約したレジュメを作成する。それをもとに全員で輪読、議論する。

授業内容

上記のとおり、あつかう予定の文献は、フランス共和政(とくにフランス最長の第三共和政)をさまざまなテーマから批判的に描くものである。そのなかから参加者の関心にしたがっていくつかのテーマを選び、それを輪読する。くわえて、参加者には少なくとも1回研究報告をしてもらう。

第1回 インTRODクシヨ:演習の説明と文献の紹介/講読
テーマの決定
第2～13回 文献講読と討論/研究報告
第14回 全体のまとめ

履修上の注意

フランス語文献をもとに進めるため、フランス語の学習歴があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布したテキストを事前に読み、関連する事項について事前に調査してることが求められる。

教科書

Marion Fontaine, Frédéric Monier et Christophe Prochasson (dir.), Une contre-histoire de la IIIe République, La Découverte, Paris, 2013 ; Vincent Duclert et Christophe Prochasson (dir.), Dictionnaire critique de la République, Flammarion, Paris, 2007. なお、テキストについては配布するため、購入する必要はない。

参考書

テキストの各テーマに関する日本語・英語・フランス語文献を授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

受講生による報告に対してはコメントを行う。

成績評価の方法

授業への貢献度(50%)と期末レポート(50%)をもとに総合的に評価する。

その他

授業内容は受講生の専門などを加味して変更する可能性がある(その場合は開講時に説明する)。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究 I A		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	阿部 芳郎	

授業の概要・到達目標

本科目は先史時代の研究の現状を理解し、自らの研究について年間で達成できる具体的なテーマを設定し、論文の作成を通じて相互に議論することで授業を構成する。また議論の過程で学生の興味に応じた事象やテーマについても適宜取り上げて研究の目的意識を高めることを目標とする。

授業内容

授業は以下のテーマに従い、進める。

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 専門とする時代の基礎認識の確認
- 第3回 研究テーマの提示
- 第4回 研究テーマの先行研究の確認
- 第5回 学史的な問題の研究法についての相談
- 第6回 学史的な関連研究の探索
- 第7回 分析テーマの学史的な位置の報告
- 第8回 分析試料の観察方法の確立
- 第9回 資料集成方法の相談
- 第10回 資料の試分析の結果報告
- 第11回 分析方法と研究目的の確認
- 第12回 研究の学術的意義の報告と相談
- 第13回 論文作成計画の最終確認
- 第14回 研究構想の発表

履修上の注意

毎回の授業の成果を各自の研究の目的と方法の中に位置づけて図式化できるように心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に課題として提示した論文や資料については、かならず読解・予習をおこない発表用のレジュメやパワーポイントを作成しておくこと。

教科書

特にない。

参考書

特にない。

課題に対するフィードバックの方法

第2回目以降、毎回の授業のはじめに、前回授業に対する質問や意見を取り上げてコメントし、毎回の授業の連続性を意識できるように配慮する。

成績評価の方法

成績は授業における各発表内容・毎回の授業態度と出席により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究 I B		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	阿部 芳郎	

授業の概要・到達目標

本科目は先史時代の研究の現状を理解し、自らの研究について年間で達成できる具体的なテーマを設定し、論文の作成を通じて相互に議論することで授業を構成する。また議論の過程で学生の興味に応じた事象やテーマについても適宜取り上げて研究の目的意識を高めることを目標とする。

授業内容

授業は以下のテーマに従い、進める。

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 専門とする時代の基礎認識の確認
- 第3回 研究テーマの設定と相談
- 第4回 研究テーマの先行研究の確認
- 第5回 分析対象資料の観察方法の確認
- 第6回 資料集成の方法の相談
- 第7回 予測される結論についての討議
- 第8回 資料分析の結果報告
- 第9回 課題の修正に関わる相談
- 第10回 論文作成計画の最終確認
- 第11回 分析結果の報告
- 第12回 課題の確認
- 第13回 修正案の提示
- 第14回 論文の構想の発表

履修上の注意

毎回の授業の成果を各自の研究の目的と方法の中に位置づけて図式化できるように心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に課題として提示した論文や資料については、かならず読解・予習をおこない発表用のレジュメやパワーポイントを作成しておくこと。

教科書

特にない。

参考書

特にない。

課題に対するフィードバックの方法

第2回目以降、毎回の授業のはじめに、前回授業に対する質問や意見を取り上げてコメントし、毎回の授業の連続性を意識できるように配慮する。

成績評価の方法

成績は授業における各発表内容・毎回の授業態度と出席により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻	備考		
科目名	考古学研究IC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	阿部 芳郎	

授業の概要・到達目標

本科目は縄文時代の研究の現状を理解し、自らの研究に応用するための基礎的な内容についてテーマを設定し、相互に議論することを中心に授業を構成する。また議論の過程で学生の興味に応じた事象やテーマについても適宜取り上げて縄文文化研究の目的意識を高めることを目標とする。

授業内容

授業は以下のテーマに従い、進める。

第1回	縄文時代の道具に関する研究	型式学1
第2回	縄文時代の道具に関する研究	型式学2
第3回	縄文時代の道具に関する研究	型式学3
第4回	縄文時代の道具に関する研究	型式学4
第5回	縄文時代の道具に関する研究	型式学5
第6回	縄文時代の道具に関する研究	型式学6
第7回	縄文時代の道具に関する研究	土器製作
第8回	縄文時代の道具に関する研究	土器製作
第9回	縄文時代の道具に関する研究	土器製作
第10回	縄文時代の道具に関する研究	石器製作
第11回	縄文時代の社会に関する研究	石器製作
第12回	縄文時代の社会に関する研究	石器製作
第13回	縄文時代の社会に関する研究	骨角器製作
第14回	縄文時代の社会に関する研究	骨角器製作

履修上の注意

毎回具体的な研究事例を提示するので、各研究の目的と方法、結論を図式化して理解できるように心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に課題として提示した論文や資料については、かならず読解・予習をおこない発表用のレジュメやパワーポイントを作成しておくこと。

教科書

特にない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する理解度と課題点は次回授業のはじめに取り上げて説明を加え、毎回の授業の連続性と理解が深められるように配慮する。

成績評価の方法

成績は授業における各発表内容・作成レジュメの完成度・毎回の授業態度。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻	備考		
科目名	考古学研究ID		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 博士(史学)	阿部 芳郎	

授業の概要・到達目標

基本的には修士論文であつかう資料の方法論の検討と基礎的な資料の蓄積に目標をおく。

授業内容

第1回～第14回 研究計画の策定方法と展開

授業では個人のテーマを主題にした発表をおこなう。そして先行研究の学史的な検討をおこないながら課題を整理し、研究を拡張する方向性について議論する。基本的には自身があつかう資料の分析事例を論文形式でまとめるが、学会誌などへの投稿も視野に入れた論文作成をおこなう。

こうした研究は春学期から継続するものであるが、その過程で生まれてきた共通の課題や受講生が関連する共通の話題を議論のテーマとする授業をおこなうこともある。

授業は以下のテーマに従い、進める。

第1回	縄文時代の道具に関する研究	貝器製作1
第2回	縄文時代の道具に関する研究	貝器製作2
第3回	縄文時代の道具に関する研究	貝器製作3
第4回	縄文時代の道具に関する研究	遺構研究1
第5回	縄文時代の道具に関する研究	遺構研究2
第6回	縄文時代の道具に関する研究	遺構研究3
第7回	縄文時代の道具に関する研究	貝塚研究1
第8回	縄文時代の道具に関する研究	貝塚研究2
第9回	縄文時代の道具に関する研究	貝塚研究3
第10回	縄文時代の道具に関する研究	貝塚研究4
第11回	縄文時代の社会に関する研究	集落研究1
第12回	縄文時代の社会に関する研究	集落研究2
第13回	縄文時代の社会に関する研究	資源利用史研究1
第14回	縄文時代の社会に関する研究	資源利用史研究2

履修上の注意

大学院での研究はゼロからはじまるのではなく、すでに卒業論文の作成によってスタートしているものと考えること。そのためには、一度提出した論文を再検討し、自らの課題を見出すことが必要である。また、演習における個人発表と議論を通じて、自分の考え方や論理の展開を第3者に伝える技術を習得してほしい。春学期・秋学期を通じて、ほぼ各週で発表をおこなうスタイルで授業をおこなう。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業範囲にかかわる関連・先行研究について、把握しておくこと。

教科書

特には指定しないが、必要に応じてプリント・関連資料を作成・配布する。

参考書

特には指定しないが、必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績評価は授業への貢献度と、授業における議論への参加態度によっておこなう。

その他

博士前期課程

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 Ph.D.	佐々木 憲一	

授業の概要・到達目標

関東の古墳文化を詳しく検討することを目的とする。特に、畿内にはない、関東の特質を抽出し、関東在地豪族が中央の王権からは自律的に動いていた可能性を探る。

授業内容

- 第1回 様々な国家形成論：部族同盟論、首長同盟論、初期国家論
- 第2回 上野の古墳時代前・中期
- 第3回 上野の古墳時代後期
- 第4回 下野の古墳時代前・中期
- 第5回 下野の古墳時代後期
- 第6回 常陸の古墳時代前・中期
- 第7回 常陸の古墳時代後期(1)
- 第8回 常陸の古墳時代後期(2)
- 第9回 房総半島の古墳時代前・中期
- 第10回 房総半島の古墳時代後期
- 第11回 武蔵の古墳時代前・中期
- 第12回 武蔵の古墳時代後期
- 第13回 相模の古墳時代
- 第14回 総括：在地豪族の主体性・自律性

履修上の注意

講義・演習を同時に履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

考古学実習室でできる限り時間を過ごして、ナマの考古資料に触れる時間を意識して確保すること。

教科書

特になし

参考書

毎回紹介する。

課題に対するフィードバックの方法**成績評価の方法**

レポート100%

その他

考古学研究ⅢCと合同で行う。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 Ph.D.	佐々木 憲一	

授業の概要・到達目標

修士論文作成に向けて、古墳時代考古学の方法論や理論的枠組みを改めて学ぶ。2年生は修士論文の進捗状況を、1年生は修士論文のテーマに関係のある論文・発掘調査報告書を選んで、その内容を発表する。

授業内容

- 第1回：古墳時代考古学の枠組み
- 第2回：墳丘の研究(1)
- 第3回：墳丘の研究(2)
- 第4回：墳丘の研究(3)
- 第5回：埋葬施設の研究(1)
- 第6回：埋葬施設の研究(2)
- 第7回：埋葬施設の研究(3)
- 第8回：青銅鏡の研究(1)
- 第9回：青銅鏡の研究(2)
- 第10回：鉄製武器の研究(1)
- 第11回：鉄製武器の研究(2)
- 第12回：馬具の研究(1)
- 第13回：馬具の研究(2)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

授業は演習形式で進められる。つまり、参加者が毎週レジュメを準備して、発表すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表があたっていないとも、課せられた箇所は精読して授業に臨むこと。

教科書**参考書**

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法**成績評価の方法**

毎回の発表レジメに基づく。

その他

考古学研究ⅢBと合同で行う。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅡC		
開講期	春学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 Ph.D.	佐々木 憲一	

授業の概要・到達目標

関東の古墳文化を詳しく検討することを目的とする。特に、畿内にはない、関東の特質を抽出し、関東在地豪族が中央の王権からは自律的に動いていた可能性を探る。

授業内容

- 第1回 様々な国家形成論：部族同盟論，首長同盟論，初期国家論
- 第2回 上野の古墳時代前・中期
- 第3回 上野の古墳時代後期
- 第4回 下野の古墳時代前・中期
- 第5回 下野の古墳時代後期
- 第6回 常陸の古墳時代前・中期
- 第7回 常陸の古墳時代後期(1)
- 第8回 常陸の古墳時代後期(2)
- 第9回 房総半島の古墳時代前・中期
- 第10回 房総半島の古墳時代後期
- 第11回 武蔵の古墳時代前・中期
- 第12回 武蔵の古墳時代後期
- 第13回 相模の古墳時代
- 第14回 総括：在地豪族の主体性・自律性

履修上の注意

講義・演習を同時に履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

考古学実習室でナマの考古資料に触れる時間をできるだけ確保すること。

教科書

特になし

参考書

毎回紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート100%

その他

考古学研究ⅢAと合同で行う。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅡD		
開講期	秋学期	単位	講2・演2
担当者	専任教授 Ph.D.	佐々木 憲一	

授業の概要・到達目標

修士論文作成に向けて、古墳時代考古学の方法論や理論的枠組みを改めて学ぶ。2年生は修士論文の進捗状況を、1年生は修士論文のテーマに関係のある論文・発掘調査報告書を選んで、その内容を発表する。

授業内容

- 第1回：古墳時代考古学の枠組み
- 第2回：墳丘の研究(1)
- 第3回：墳丘の研究(2)
- 第4回：墳丘の研究(3)
- 第5回：埋葬施設の研究(1)
- 第6回：埋葬施設の研究(2)
- 第7回：埋葬施設の研究(3)
- 第8回：青銅鏡の研究(1)
- 第9回：青銅鏡の研究(2)
- 第10回：鉄製武器の研究(1)
- 第11回：鉄製武器の研究(2)
- 第12回：馬具の研究(1)
- 第13回：馬具の研究(2)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

授業は演習形式で進められる。つまり、参加者が毎週レジュメを準備して、発表すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表があたっていないと、課せられた箇所は精読して授業に臨むこと。

教科書

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の発表レジメに基づく。

その他

考古学研究ⅢBと合同で行う。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅢA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学) 藤山 龍造		

授業の概要・到達目標

先史考古学の諸問題と題して、研究の現状と課題を整理する。日本列島の旧石器時代(先土器時代)と縄文時代を中心に取り上げるが、必要に応じて海外の事例などへ目を向け、幅広い視野のもとに日本列島の先史時代を思考する予定である。

授業内容

第1回：総論

第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。

第14回：総括

履修上の注意

講義形式の授業であるが、受講生との意見交換を重視する。事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで講義に臨むこと。なお、受講生の興味関心に応じて、講義内容を調整することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回のテーマに関して、あらかじめ課題を提示するため、入念な事前学習を求めたい。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢(50%)と課題レポート(50%)により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅢB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学) 藤山 龍造		

授業の概要・到達目標

先史考古学の諸問題と題して、研究の現状と課題を整理する。日本列島の旧石器時代(先土器時代)と縄文時代を中心に取り上げるが、必要に応じて海外の事例などへ目を向け、幅広い視野のもとに日本列島の先史時代を思考する予定である。

授業内容

第1回：総論

第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。

第14回：総括

履修上の注意

講義形式の授業であるが、受講生との意見交換を重視する。事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで講義に臨むこと。なお、受講生の興味関心に応じて、講義内容を調整することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回のテーマに関して、あらかじめ課題を提示するため、入念な事前学習を求めたい。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢(50%)と課題レポート(50%)により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅢC		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学) 藤山 龍造		

授業の概要・到達目標

先史考古学の諸問題と題して、研究の現状と課題を整理する。日本列島の旧石器時代(先土器時代)と縄文時代を中心に取り上げるが、必要に応じて海外の事例などへ目を向け、幅広い視野のもとに日本列島の先史時代を思考する予定である。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
 第14回：総括

履修上の注意

講義形式の授業であるが、受講生との意見交換を重視する。事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで講義に臨むこと。なお、受講生の興味関心に応じて、講義内容を調整することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回のテーマに関して、あらかじめ課題を提示するため、入念な事前学習を求めたい。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢(50%)と課題レポート(50%)により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅢD		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学) 藤山 龍造		

授業の概要・到達目標

先史考古学の諸問題と題して、研究の現状と課題を整理する。日本列島の旧石器時代(先土器時代)と縄文時代を中心に取り上げるが、必要に応じて海外の事例などへ目を向け、幅広い視野のもとに日本列島の先史時代を思考する予定である。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
 第14回：総括

履修上の注意

講義形式の授業であるが、受講生との意見交換を重視する。事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで講義に臨むこと。なお、受講生の興味関心に応じて、講義内容を調整することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回のテーマに関して、あらかじめ課題を提示するため、入念な事前学習を求めたい。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢(50%)と課題レポート(50%)により評価する。

その他

博士前期課程

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学) 藤山 龍造		

授業の概要・到達目標

大学院生による個人研究の深化を目標とする。関連文献の精読と討議を通じて、研究の現状と課題を把握し、同時に解決策を模索する。また、個人研究の成果発表と意見交換、さらには実際の資料操作を通じて、学外に向けた研究発表や論文作成を支援する。資料操作や成果発表の技法を含めて、研究者としての基盤を確立できるよう配慮したい。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
 第14回：総括

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで臨むこと。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法**成績評価の方法**

研究発表の内容によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学) 藤山 龍造		

授業の概要・到達目標

大学院生による個人研究の深化を目標とする。関連文献の精読と討議を通じて、研究の現状と課題を把握し、同時に解決策を模索する。また、個人研究の成果発表と意見交換、さらには実際の資料操作を通じて、学外に向けた研究発表や論文作成を支援する。資料操作や成果発表の技法を含めて、研究者としての基盤を確立できるよう配慮したい。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
 第14回：総括

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで臨むこと。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法**成績評価の方法**

研究発表の内容によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学) 藤山 龍造		

授業の概要・到達目標

大学院生による個人研究の深化を目標とする。関連文献の精読と討議を通じて、研究の現状と課題を把握し、同時に解決策を模索する。また、個人研究の成果発表と意見交換、さらには実際の資料操作を通じて、学外に向けた研究発表や論文作成を支援する。資料操作や成果発表の技法を含めて、研究者としての基盤を確立できるよう配慮したい。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
 第14回：総括

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで臨むこと。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法**成績評価の方法**

研究発表の内容によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学) 藤山 龍造		

授業の概要・到達目標

大学院生による個人研究の深化を目標とする。関連文献の精読と討議を通じて、研究の現状と課題を把握し、同時に解決策を模索する。また、個人研究の成果発表と意見交換、さらには実際の資料操作を通じて、学外に向けた研究発表や論文作成を支援する。資料操作や成果発表の技法を含めて、研究者としての基盤を確立できるよう配慮したい。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に応じて、初回に詳細な内容を決定する。
 第14回：総括

履修上の注意**準備学習（予習・復習等）の内容**

事前に各回の具体的な内容を提示するため、各自が基本的な事項を十分に理解したうえで臨むこと。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法**成績評価の方法**

研究発表の内容によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PAC511J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅣA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、その現状と課題を整理する。
あわせて、最新動向や担当教員の研究実践を取り上げる。必要に応じて朝鮮半島の事例などにも目を向ける。討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。
また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論
第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する
第14回：総括

履修上の注意

講義形式を基本とするが、受講生の積極的な授業参加を求める。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

若狭徹2017『前方後円墳と東国社会』吉川弘文館 ISBN 9784642068185
若狭徹2021『古墳時代東国の地域経営』吉川弘文館 ISBN 9784642093613

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と課題レポート50%により評価する。

その他

博物館見学や遺跡現地の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅣB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、その現状と課題を整理する。
あわせて、最新動向や担当教員の研究実践を取り上げる。必要に応じて朝鮮半島の事例などにも目を向ける。討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。
また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論
第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する
第14回：総括

履修上の注意

講義形式を基本とするが、受講生の積極的な授業参加を求める。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

若狭徹2017『前方後円墳と東国社会』吉川弘文館 ISBN 9784642068185
若狭徹2021『古墳時代東国の地域経営』吉川弘文館 ISBN 9784642093613

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と課題レポート50%により評価する。

その他

博物館見学や遺跡現地の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC511J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IVC		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、その現状と課題を整理する。

あわせて、最新動向や担当教員の研究実践を取り上げる。必要に応じて朝鮮半島の事例などにも目を向ける。討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。

また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論

第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する

第14回：総括

履修上の注意

講義形式を基本とするが、受講生の積極的な授業参加を求める。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

若狭徹2017『前方後円墳と東国社会』吉川弘文館 ISBN 9784642068185

若狭徹2021『古墳時代東国の地域経営』吉川弘文館 ISBN 9784642093613

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と課題レポート50%により評価する。

その他

博物館見学や遺跡現地の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IVD		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、その現状と課題を整理する。

あわせて、最新動向や担当教員の研究実践を取り上げる。必要に応じて朝鮮半島の事例などにも目を向ける。討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。

また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論

第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する

第14回：総括

履修上の注意

講義形式を基本とするが、受講生の積極的な授業参加を求める。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

若狭徹2017『前方後円墳と東国社会』吉川弘文館 ISBN 9784642068185

若狭徹2021『古墳時代東国の地域経営』吉川弘文館 ISBN 9784642093613

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と課題レポート50%により評価する。

その他

博物館見学や遺跡現地の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC511J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、学史や最新動向を踏まえつつ、履修生の研究課題解決のための演習を行う。発表、討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する
 第14回：総括

履修上の注意

演習形式を基本とし、教員と受講生、受講生間の討議により研究課題の深化を踏む。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と研究発表内容50%により評価する。

その他

博物館・遺跡現地見学の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究ⅣB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、学史や最新動向を踏まえつつ、履修生の研究課題解決のための演習を行う。発表、討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論
 第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する
 第14回：総括

履修上の注意

演習形式を基本とし、教員と受講生、受講生間の討議により研究課題の深化を踏む。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義に取り組む姿勢50%と研究発表内容50%により評価する。

その他

博物館・遺跡現地見学の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC511J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IVC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、学史や最新動向を踏まえつつ、履修生の研究課題解決のための演習を行う。発表、討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論

第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する

第14回：総括

履修上の注意

演習形式を基本とし、教員と受講生、受講生間の討議により研究課題の深化を踏む。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法**成績評価の方法**

講義に取り組む姿勢50%と研究発表内容50%により評価する。

その他

博物館・遺跡現地見学の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) PAC512J			
史学専攻		備考	
科目名	考古学研究IVD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

日本における古墳時代研究の諸問題について、学史や最新動向を踏まえつつ、履修生の研究課題解決のための演習を行う。発表、討議を重視し、専攻分野へのより深い理解を促す。また、考古学はフィールド重視の学問であることから、博物館調査、学会参加、古墳探査の校外授業も実施する。

授業内容

第1回：総論

第2回～第13回：受講生の研究課題に対応して、初回に詳細な内容を決定する

第14回：総括

履修上の注意

演習形式を基本とし、教員と受講生、受講生間の討議により研究課題の深化を踏む。事前に基本事項を提示するので、事前学習のうえ臨むこと。進行の状況に応じて内容を調整することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に内容を提示するので、事前学習をしっかりと行うこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法**成績評価の方法**

講義に取り組む姿勢50%と研究発表内容50%により評価する。

その他

博物館・遺跡現地見学の交通費などの経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史特論 I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 久留島 典子		

授業の概要・到達目標

本授業では日本中世の基本史料を取り上げ、その読解をしながら日本中世の社会のあり方について考えます。到達目標は下記の3点です。
1) 日本中世史料の内容・特色についての理解、2) 日本中世史料に関する専門的読解力、3) 史料をもとに日本中世社会の特質を考察する能力。
具体的な史料としては、東寺百合文書中の僧侶組織の会議事録である「鎮守八幡宮評定引付」を取り上げて、順番に読み進めていきますが、この史料講読のなかで関連史料・参考文献も参照しつつ、日本中世社会の特質について考察します。春学期は永享3年(1431)年分から始める予定です。授業計画は下記のとおりですが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更もありえます。

授業内容

- 授業計画は下記のとおりです。
- 第1回 ガイダンス1(授業形態と報告日程等の相談・決定)
 - 第2回 ガイダンス2「東寺関係史料のなかの『評定引付』」
 - 第3回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(1)
 - 第4回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(2)
 - 第5回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(3)
 - 第6回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(4)
 - 第7回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(5)
 - 第8回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(6)
 - 第9回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(7)
 - 第10回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(8)
 - 第11回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(9)
 - 第12回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(10)
 - 第13回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(11)
 - 第14回 総括

履修上の注意

毎回報告者を定め輪読形式で読み進めていきますので、報告者は必ずテキストの担当部分の読み、解釈、関係文書、問題点等に関するレジュメを作成し発表してください。なお授業形態の詳細は、履修者数に応じて、相談のうえ決定します。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告者はもちろん、それ以外の受講生も、必ずテキストを読み、自身の疑問点等を整理して、授業のディスカッションに臨むようにしてください。

教科書

京都府立京都学・歴史館が公開している東寺百合文書WEB(<https://hyakugo.pref.kyoto.lg.jp/>)中の「東寺鎮守八幡宮評定引付」(東寺百合文書ワ函46～)をダウンロードしてテキストとします。

参考書

授業中に適宜紹介しますが、上記、東寺百合文書WEBが参考資料の中心です。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告内容および授業中のディスカッションへの参加状況などを総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史特論 I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 久留島 典子		

授業の概要・到達目標

本授業では日本中世の基本史料を取り上げ、その読解をしながら日本中世の社会のあり方について考えます。到達目標は下記の3点です。
1) 日本中世史料の内容・特色についての理解、2) 日本中世史料に関する専門的読解力、3) 史料をもとに日本中世社会の特質を考察する能力。
具体的な史料としては、東寺百合文書中の僧侶組織の会議事録である「鎮守八幡宮評定引付」を取り上げて、順番に読み進めていきますが、この史料講読のなかで関連史料・参考文献も参照しつつ、日本中世社会の特質について考察します。秋学期は春学期の続きから始める予定です。授業計画は下記のとおりですが、受講生の問題関心や研究課題に応じて変更もありえます。

授業内容

- 授業計画は下記のとおりです。
- 第1回 ガイダンス1(授業形態と報告日程等の相談・決定)
 - 第2回 ガイダンス2「東寺関係史料のなかの『評定引付』」
 - 第3回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(1)
 - 第4回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(2)
 - 第5回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(3)
 - 第6回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(4)
 - 第7回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(5)
 - 第8回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(6)
 - 第9回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(7)
 - 第10回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(8)
 - 第11回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(9)
 - 第12回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(10)
 - 第13回 「鎮守八幡宮評定引付」の輪読(11)
 - 第14回 総括

履修上の注意

毎回報告者を定め輪読形式で読み進めていきますので、報告者は必ずテキストの担当部分の読み、解釈、問題点等に関するレジュメを作成し発表してください。なお授業形態の詳細は、履修者数に応じて、相談のうえ決定します。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告者はもちろん、それ以外の受講生も、必ずテキストを読み、自身の疑問点等を整理して、授業のディスカッションに臨むようにしてください。

教科書

京都府立京都学・歴史館が公開している東寺百合文書WEB(<https://hyakugo.pref.kyoto.lg.jp/>)中の「東寺鎮守八幡宮評定引付」(東寺百合文書ワ函46～)をダウンロードしてテキストとします。

参考書

授業中に適宜紹介しますが、上記、東寺百合文書WEBが参考資料の中心となります。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告内容および授業中のディスカッションへの参加状況などを総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(文学)	渡辺 浩一

授業の概要・到達目標

近年自然災害が頻発しています。私たちがどのように災害に向き合っていけばよいのかを考えるために、歴史学でも過去の災害について研究することが必要です。さらには、地球気候危機が進行していることも考えると、自然災害を通じて自然と人間の関係を問い直すことも必要です。こうした問題関心から江戸の水害を中心に講義します。あわせて、講義で引用する史料を用いて、活字の候文を読むことができるようになることも目標です。

授業内容

- 第1回 ガイダンス—問題意識と前提条件—
- 第2回 受講者の研究紹介
- 第3回 序章—研究史と課題
- 第4回 近世の大火・水害・地震
- 第5回 災害対応と文書行政
- 第6回 水害記録と対策マニュアルの形成
- 第7回 江戸水害における住民の避難行動
- 第8回 災害復興をめぐる近世都市政策と地域社会
- 第9回 江戸の天明期連続複合災害
- 第10回 江戸の安政期連続複合災害
- 第11回 江戸水害と都市インフラ
- 第12回 水系と水害
- 第13回 1742年水害後の多摩川流域の復興
- 第14回 1742年水害後の奥多摩溪谷と鮎

履修上の注意

基本は講義です。最後に質問の時間を設けるのでそこで積極的に質問する。第5回以降は、講義で引用する史料を受講者に読んでもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の引用史料を読むようにしておく。

教科書

渡辺浩一『近世都市江戸の水害—災害史から環境史へ—』（吉川弘文館、2022年）、それ以外の論文は配布ないし配信する。

参考書

渡辺浩一、マシュー・デービス編『近世都市の常態と非常態—人為的自然環境と災害—』（勉誠出版、2020年）

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で質疑応答の時間を設ける。

成績評価の方法

毎回の質問内容50%、引用史料の読解50%。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	日本史特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(文学)	渡辺 浩一

授業の概要・到達目標

自立して歴史研究を行うためには史料を読解しなければなりません。ここでは、地震と台風で被災した後の江戸の経済政策に関するくずし字の史料を用いて、史料文言を空間と人的関係のなかで解釈し、事実に接近できるようになることを目的とします。

授業内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文講読 横山伊徳「老中久世広周と町奉行所諸色潤沢取調御用鈴木藤吉郎」
- 第3回 史料講読「安政4年2月講武所永統内慮伺書」（「市中取締続類集」199、旧幕府引継文書、国会図書館永久寄託）
- 第4回 史料講読「買下ヶ地之儀に付調」
- 第5回 史料講読「諸色潤沢取調懸組之者之儀申上候書付」
- 第6回 史料講読「諸色潤沢方并ニ銭相場之儀ニ付調」（「諸色調続類集」1）
- 第7回 史料講読「安政5年市中潤沢筋調窺」（「雑件録」1）
- 第8回 史料講読「同上見込ノ趣太田備後守ヨリ尋問」
- 第9回 史料講読「同上見込ノ趣町奉行申出」
- 第10回 史料講読「市中融通ノ儀ニ付町奉行申出」
- 第11回 受講者による研究発表（例：新田村落の水利用）
- 第12回 受講者による研究発表（例：在村国学の研究）
- 第13回 受講者による研究発表（例：藩の飢饉対策）
- 第14回 総括討論—研究方法をめぐって

履修上の注意

毎回報告者を決めて、くずし字の史料を読解し、そこからどのような論点を引き出せるのかを発表する。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表者はレジュメを作成し配布する。発表者でない人は史料を読んでおく。

教科書

横山伊徳「老中久世広周と町奉行所諸色潤沢取調御用鈴木藤吉郎」（『東京大学日本史学研究室紀要』27）、配信する。

参考書

横山伊徳「世界の中の幕末日本」（『日本史の現在4 近世』山川出版社）

課題に対するフィードバックの方法

発表に対して教員がコメントする。

成績評価の方法

発表が60%、発表でない時の討論が40%。

その他

博士前期課程

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	文化史特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(史学)	三舟 隆之	

授業の概要・到達目標

『今昔物語集』などに大きな影響を与えた日本最古の仏教説話である『日本霊異記』を史料として、さまざまな視点から古代の日本人の思想や地域の歴史を考察する。

授業の概要は、『日本霊異記』を史料として、各地方の地名説話や伝承などがどのように仏教説話化したか、その伝承の歴史的背景を探りながら、古代伝承の特質と地域の歴史を理解する。『日本霊異記』は九世紀の初頭に薬師寺僧景戒が編纂した仏教説話であるが、上中下三巻の百十六話からなる。説話の分布の範囲は東北から九州にかけて広範であり、この授業では主に各地方の説話を探り上げ、その形成過程について明らかにする。従来古代の仏教史研究は国家仏教研究が中心であったが、本講義では地方や民間仏教からのアプローチによって、古代仏教の解明を試みる。

従来『日本霊異記』は国文学の分野からの研究が主で、編者の景戒の思想を研究することが中心であったが、最近では歴史学の分野でも採り上げられることが多く、その史料性をどのように検証していくか注目されている。歴史学と文学の方法論の違いを理解しながら、新しい日本史学の方法論を目指していく講義である。この講義では、従来学習してきた日本史学とは異なり、多様な歴史学的方法論を身につけることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回：『日本霊異記』の成立と特質
平安時代初期に成立した仏教説話である『日本霊異記』について、今後の学習に必要な基本的な概説を行う。
- 第2回：『東大寺講論文稿』と『日本霊異記』『日本感靈録』
同時期に成立した『東大寺講論文稿』と『日本感靈録』についても解説し、当時の仏教世界について概説する。
- 第3回：美濃・尾張の道場法師系説話(1)
尾張国愛知郡を中心とした、道場法師の物語を理解する。
- 第4回：美濃・尾張の道場法師系説話(2)
美濃国小郡郡に伝承された説話が同類異話であり、その分布範囲から国分寺僧が関与した可能性が高いことを、歴史地理の観点から理解する。
- 第5回：武蔵・防人の世界
古代の東国が王権の武力基盤であったことを知ると同時に、この3つの説話が国分寺僧によって創作されたことを理解する。
- 第6回：信濃・『霊異記』に見える地獄観
信濃国小郡郡に残る二つの説話が同類異話であり、その分布範囲から国分寺僧が関与した可能性が高いことを、歴史地理の観点から理解する。
- 第7回：讃岐・鬼の賄賂
讃岐の3話が、実は地獄冥界説話で共通することを理解する。
- 第8回：伊予・建都造寺
寺院縁起と『日本書紀』の歴史的事実を照らし合わせて、その物語の成立した背景を理解する。
- 第9回：備後・亀と錨の恩返し
二つの説話が報恩譚という内容で共通すること、中国の説話の影響を受けている点と、海辺と山間地になぜ伝承されたか、その経路について地図を使って理解する。
- 第10回：遠江・鶴田寺、磐田寺の寺院縁起
『霊異記』の説話が、地方寺院の縁起をベースにしていることを理解する。
- 第11回：紀伊・古代寺院の世界①-『堂』と『寺』
古代寺院において、『堂』と『寺』の用語に区別があるのか、史料から検証する。
- 第12回：紀伊・古代寺院の世界②-寺院の経済機能
古代寺院が宗教的機能のみならず、経済的機能も果たしていたことを理解する。
- 第13回：東北・東北地方への交通路
東北地方への交通路を『日本霊異記』の説話から考察し、併せて東北地方の仏教世界を再検討する。
- 第14回：九州の『霊異記』説話
九州の『霊異記』説話が、それぞれ大宰府を中心とした交通路に説話が残っていることを理解する。

履修上の注意

3分の2以上の出席がなければ、成績評価を行わない。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で該当する史料は、事前に目を通しておくこと。

教科書

授業では毎回プリントを配布し、教材とする。必要に応じて、パワーポイントも使用する。

参考書

三舟隆之『『日本霊異記』説話の地域史的研究』(法蔵館 2016など。その他、必要に応じて授業で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート100%で評価を行う。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻		備考	
科目名	文化史特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(史学)	三舟 隆之	

授業の概要・到達目標

『今昔物語集』などに大きな影響を与えた日本最古の仏教説話である『日本霊異記』を史料として、さまざまな視点から古代の日本人の思想や地域の歴史を考察する。『日本霊異記』は九世紀の初頭に薬師寺僧景戒が編纂した仏教説話であるが、上中下三巻の百十六話からなる。秋学期では、『日本霊異記』の各地方の地名説話や伝承などが、どのように仏教説話化したか、その伝承の歴史的背景を探りながら、古代伝承の特質と地域の歴史を理解する。そして説話の中でも主に各地方の説話を探り上げ、その形成過程について明らかにする。従来古代の仏教史研究は国家仏教研究が中心であったが、本講義では地方や民間仏教からのアプローチによって、古代仏教の解明を試みる。

従来『日本霊異記』は国文学の分野からの研究が主で、編者の景戒の思想を研究することが中心であったが、最近では歴史学の分野でも採り上げられることが多く、その史料性をどのように検証していくか注目されている。歴史学と文学の方法論の違いを理解しながら、新しい日本史学の方法論を目指していく講義である。この講義では、従来学習してきた日本史学とは異なり、多様な歴史学的方法論を身につけることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回：『日本書紀』と『日本霊異記』(上1・4・5、25、中31)
聖徳太子の片岡山説話や大正輪氏、長屋王を中心に『日本書紀』と関係する説話について比較検証を行い、『日本霊異記』の史料性について検証する。
- 第2回：山背地方の説話-蟹の報恩譚(中8・12、上12・19、中6・18・35)
大和・山背地方に分布する同類異話の蟹の報恩譚を交通路からその成立を検証し、行基集団によって布教された可能性を理解し、併せて山背地方の寺院(高麗寺)のネットワークについて考察する。
- 第3回：摂津地方の説話(上14・中5)
百濟寺と那天堂縁起、漢神祭祀を解説する。光を発する僧(上22)との比較を行う。
- 第4回：和泉地方の説話(中2・10・13・22・37)
血淨山寺・尽忠寺などの寺院を舞台としたさまざまな説話を考察する。
- 第5回：河内地方の説話(1)：行基説話(中29・30)
民間布教で有名な行基に関する説話から行基像を探り、またその行動範囲を検証する。
- 第6回：河内地方の説話(2)：山寺(上35・中19・37・38、下5)
平群の山寺と市、珍努上山寺・信天原山寺・馬庭山寺の説話から、山寺の機能を考える。
- 第7回：河内地方の説話(3)：地獄の悪報(上20・21・27、中7・41)
地獄冥界と化牛説話や野中寺に関する悪報を理解する。
- 第8回：大和地方の説話(1)：大安寺文化圏(上23・32、中20・24・28、下3)
大安寺文化圏と添上郡の説話を検証し、地域の文化圏を考察する。
- 第9回：大和地方の説話(2)：貧窮と病(盲目)(中14・28、下11・12・21)
『日本霊異記』に見える貧窮者と病者の救済について、仏教の功徳を示す説話を検証する。
- 第10回：大和地方の説話(3)：吉野と山寺(上13・26・31、中21・26、下6・9)
『日本霊異記』に見える神仏思想を概説する。また吉野を中心とする山寺での修行についても考察する。
- 第11回：畿備梅過と父母供養
『日本霊異記』に見える畿備梅過と父母供養の説話を集約し、古代ではどのような法会が行われていたか検証する。
- 第12回：『日本霊異記』と中国の説話
『冥報記』などの中国の説話が『日本霊異記』にどのような影響を与えているか、検証する。
- 第13回：『日本霊異記』とその後の日本の仏教説話
『日本霊異記』がその後の日本の仏教説話である『三宝絵詞』や『今昔物語集』にどのような影響を与えているか、説話の比較を行う。
- 第14回：まとめ

履修上の注意

3分の2以上の出席がなければ、成績評価を行わない。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で該当する『日本霊異記』の説話は、事前に目を通しておくこと。

教科書

授業では毎回プリントを配布し、教材とする。必要に応じてパワーポイントを使用する。

参考書

三舟隆之『『日本霊異記』説話の地域史的研究』(法蔵館 2016)、三浦佑之『日本霊異記の世界』(角川選書 2010)、『日本霊異記』上・中・下 講談社学術文庫・ちくま学芸文庫など。その他、必要に応じて授業で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

60%レポートと40%報告内容を勘案する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻	備考		
科目名	思想史特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(文学)	若尾 政希

授業の概要・到達目標

歴史を読み解く能力を身につける。
私は、人の意識・思想の焦点をあわせた歴史研究を思想史と呼んでいる。人類の歴史を研究対象とするとき、その主体である人の意識・思想を抜きにして、その歴史を語ることができない。よって思想史の研究は、政治史・経済史・社会史……、いずれの分科史を専攻するにせよ、重要になってくると私は考えている。このような思想史研究の世界に、皆さん方を招待するとともに、優秀な歴史研究者を育てたいと思う。

授業内容

授業はゼミ形式で行う。参加人数によるが、受講生の研究報告を中心とする。

研究報告については、各自の研究の成果を報告してもらい、討議したい。また、適宜、史料所蔵機関等でフィールドワークを行いたい。

1. ガイダンス
2. 思想史とは何か
3. ゼミ報告1
4. ゼミ報告2
5. ゼミ報告3
6. ゼミ報告4
7. ゼミ報告5
8. ゼミ報告6
9. フィールドワーク1
10. ゼミ報告7
11. ゼミ報告8
12. フィールドワーク2
13. 文献輪読1
14. 文献輪読2

履修上の注意

ゼミ形式の授業であるので、必ず出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

受講生と相談して決めたい。

参考書

適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(ゼミでの報告や発言)により評価する。

その他

私自身の専門は日本近世史ですが、日本以外の地域、あるいは近世以外の時代を専門とする院生の積極的な参加を期待しています。

科目ナンバー：(AL) HIS611J			
史学専攻	備考		
科目名	思想史特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(文学)	若尾 政希

授業の概要・到達目標

歴史を読み解く能力を身につける。
私は、人の意識・思想の焦点をあわせた歴史研究を思想史と呼んでいる。人類の歴史を研究対象とするとき、その主体である人の意識・思想を抜きにして、その歴史を語ることができない。よって思想史の研究は、政治史・経済史・社会史……、いずれの分科史を専攻するにせよ、重要になってくると私は考えている。このような思想史研究の世界に、皆さん方を招待するとともに、優秀な歴史研究者を育てたいと思う。

授業内容

春学期に引き続き、授業はゼミ形式で行う。参加人数によるが、受講生の研究報告を中心とする。

研究報告については、各自の研究の成果を報告してもらい、討議したい。また、適宜、史料所蔵機関等でフィールドワークを行いたい。

研究報告については、各自の研究の成果を報告してもらい、討議したい。

1. ゼミ報告1
2. ゼミ報告2
3. ゼミ報告3
4. 思想史研究の現在
5. 「書物・出版と社会変容」研究の現在
6. 文献輪読1
7. 文献輪読2
8. 文献輪読3
9. フィールドワーク
10. ゼミ報告4
11. ゼミ報告5
12. 歴史研究の現在
13. 文献輪読4
14. 文献輪読5

履修上の注意

ゼミ形式の授業であるので、必ず出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

講読の文献は、ゼミ生と話しあって決めたい。

参考書

適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(ゼミでの報告や発言)により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) HIS621J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史特論 I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師		津田 資久

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

本講義では、魏晉南北朝時代の文献史料に関する特徴を検討し、史料論という分析方法によって、どのように新たな歴史像が描けるのかを議論します。その材料として唐の許嵩『建康実録』を扱います。授業は、漢文史料を用いた史料講読を中心に展開します。内容を考察するに当たって、履修者諸君に複数回のレジュメ作成担当が見込まれます。

なお、具体的な授業内容の実施に関しては、ガイダンス時に改めて相談して決めることとします。

〔到達目標〕

以下の4点を設定します。

1. アジア史における中国魏晉南北朝時代の特徴を説明できる。
2. 魏晉南北朝史が、これまでどのような視座から議論されてきたかを具体的に説明できる。
3. 文献史料をふまえつつ、先行研究の成果と限界を指摘できる。
4. 文献史料をふまえつつ、自分なりの魏晉南北朝に関する議論を提示できる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス：授業内容に関する概要の説明と以後の授業展開に関する打ち合わせ
- 第2回 『建康実録』に関する基礎的データの確認
- 第3回 『建康実録』の流伝問題
- 第4回 『建康実録』の成立年代に関する問題
- 第5回 『建康実録』の叙述傾向
- 第6回 『建康実録』の撰述目的
- 第7回 『建康実録』に描かれた孫呉部分の史料の特徴及び独自性
- 第8回 『建康実録』に描かれた東晋部分の史料の特徴及び独自性
- 第9回 『建康実録』に描かれた劉宋部分の史料の特徴及び独自性
- 第10回 『建康実録』に描かれた南齐部分の史料の特徴及び独自性
- 第11回 『建康実録』に描かれた北魏部分の史料の特徴及び独自性
- 第12回 『建康実録』に描かれた梁部分の史料の特徴及び独自性
- 第13回 『建康実録』に描かれた後梁部分の史料の特徴及び独自性
- 第14回 『建康実録』に描かれた陳部分の史料の特徴及び独自性

履修上の注意

漢文史料講読を伴うことから、履修者各自に当てて解釈や意見を聞くことができるので、漢文読解に関する授業を既に修得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布された漢文史料に関する事前の読解や当該時代に関する概説を予め読んでおくこと。また割り振られたテーマについて担当してもらうので、その場合はレジュメを作成すること。

教科書

教科書は使用しませんが、『建康実録』のテキストは、各自でコピーして事前に準備してください。

『建康実録』の点校本には、以下のものがあります。

- ①張忱石点校『建康実録』（A5版全2冊、中華書局、1986年初出。のち一部改訂版、2009年） ISBN:978-7-101-06084-3
- ②孟昭庚・孫述圻・伍貽業点校『建康実録』（A5版全1冊、上海古籍出版社、1987年）
- ③張学鋒・陸帥整理『建康実録』（A4版全1冊（横組み簡体字版精装本）、南京出版社「文学之都經典文庫」、2020年） ISBN:978-7-5533-2864-5

内容説明に関するプリントは、適宜配布します。

参考書

授業内で適宜指示します。

当面は、今回扱う文献史料がどのようなものであるかを図書館で検索し、その実物（様々な版本や標点本）を確認しておいてください。

また当該時代を扱う概説書は、多くありますが、『南北朝時代 五胡十六国から隋の統一まで』、会田大輔、中央公論新社・中公新書、2021年が平易かつ最新のものですので、一例として挙げておきます。

課題に対するフィードバックの方法

主に授業内での指摘や指示を通じて行いますが、問題が多岐にわたる場合や複雑な場合にはメールやプリントで整理して行うこともあります。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性(史料読解、レジュメ作成を含む)：50%、レポート：50%

その他

なるべく双方向的なやり取りのできる授業展開にしたいと思っています。積極的な参加姿勢に期待します。

科目ナンバー：(AL) HIS621J			
史学専攻		備考	
科目名	アジア史特論 I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師		津田 資久

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

本講義では、魏晉南北朝時代の文献史料の性質・信憑性について、唐・許嵩『建康実録』巻1～4・孫呉部分の講読を通じて議論します。授業は、漢文史料を用いた史料講読を中心に展開します。毎回、各自で丁寧な出典調べを行っていただきますが、履修者諸君には複数回のレジュメ作成担当が見込まれます。

具体的な実施内容に関しては、ガイダンス時に相談して決めることにします。

〔到達目標〕

以下の4点を設定します。

1. 『建康実録』が「正史」とどのような関係にあるかを説明できる。
2. 出典調べを通じて、『建康実録』が依拠した資料の特徴や、そこに改変を加えた意図を説明できる。
3. 『建康実録』の読解を通じて、先行研究の成果と問題点を指摘できる。
4. 以上を十分に踏まえつつ、自分なりの『建康実録』をめぐる六朝時代史に対する見方を具体的に提示できる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス：授業内容に関する概要の説明と以後の授業展開に関する打ち合わせ
- 第2回 現代の点校本『建康実録』各種のテキストとしての優劣
- 第3回 『建康実録』序文の検討
- 第4回 『建康実録』巻1・建康沿革の検討
- 第5回 『建康実録』巻1・太祖上の孫堅及び孫策部分の検討
- 第6回 『建康実録』巻1・太祖上の赤壁戦役までの検討
- 第7回 『建康実録』巻1・太祖上の赤壁以後の検討
- 第8回 『建康実録』巻2・太祖下の諸葛瑾瑜伝までの検討
- 第9回 『建康実録』巻2・太祖下の孫権崩御までの検討
- 第10回 『建康実録』巻3・糜帝亮の検討
- 第11回 『建康実録』巻3・景皇帝休の検討
- 第12回 『建康実録』巻4・後主の丁固附伝までの検討
- 第13回 『建康実録』巻4・後主の吾彦附伝までの検討
- 第14回 『建康実録』巻4・後主の孫呉滅亡までの検討

履修上の注意

漢文史料講読を伴うことから、履修者各自に当てて解釈や意見を聞きますので、漢文読解に関する授業を既に修得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布された漢文史料に関する事前の読解や当該時代に関する概説を予め読んでおくこと。また割り振られたテーマについて担当してもらうので、その場合はレジュメを作成すること。

教科書

教科書は使用しませんが、『建康実録』のテキストは、各自でコピーして事前に準備してください。

『建康実録』の点校本には、以下のものがあります。

- ①張忱石点校『建康実録』（A5版全2冊、中華書局、1986年初出。のち一部改訂版、2009年） ISBN:978-7-101-06084-3
- ②孟昭庚・孫述圻・伍貽業点校『建康実録』（A5版全1冊、上海古籍出版社、1987年）
- ③張学鋒・陸帥整理『建康実録』（A4版全1冊（横組み簡体字版精装本）、南京出版社「文学之都經典文庫」、2020年） ISBN:978-7-5533-2864-5

内容説明に関するプリントは、適宜配布します。

参考書

授業内で適宜指示します。

当面は、今回扱う文献史料がどのようなものであるかを図書館で検索し、その実物（様々な版本や標点本）を確認しておいてください。

また当該時代を扱う概説書は、多くありますが、金文京『中国の歴史4 三国志の世界』、講談社・講談社学術文庫、2020年を一例として挙げておきます。

課題に対するフィードバックの方法

主に授業内での指摘や指示を通じて行いますが、問題が多岐にわたる場合や複雑な場合にはメールやプリントで整理して行うこともあります。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性(史料読解、レジュメ作成を含む)：50%、レポート：50%

その他

なるべく双方向的なやり取りのできる授業展開にしたいと思っています。積極的な参加姿勢に期待します。

科目ナンバー：(AL) HIS621J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学)	平野 豊	

授業の概要・到達目標

今年度は、'Abdi Beyg Shirazi, *Takmelat ol-Akhbar*, 'Abdol-Hoseyn Navai (ed.), Tehran(1369AHS/1991). を読む。

原著『タクメラト・ル＝アフバル』は、宇宙の創造からヒジュラ暦978年(ユリウス暦1571年)に至る、イランを中心としたイスラーム通史である。本書は其中でも特に史料的価値の高い第4部第2講話「大ガイバの時代」のうち「第3集」と「補遺」、「結語」だけをシングルカットした刊本である。研究の材料として本書が利用された事例を見ると、「第3集：12イマーム派のサファヴィー朝の諸王について」の記事である場合がほとんどだが、本書にはそれとは別に「補遺：ルーム及びミスル、シャーム、ヒジャーズ、イラーケ・アラブ、ディヤルバクル、モスルにおけるサファヴィー朝の諸王と同時代の君主たちについて」という興味深い項目が収録されている。年代記が書かれる場合、どうしても王都や宮廷中心になりがちだが、著者アブディー・ベイグはその不備を補うものとして、領内の辺境地域や近隣諸国についての知見を地域別にまとめている。これらのうち、いまだ不明点が多いイラン南部やペルシア湾岸地域の項目については、特に有用な情報が得られる可能性がある。

[到達目標]

1. テキスト講読の過程で、領内辺境地域や同時代の近隣諸国についての概略的な知識を身につけ、各自の研究の視野を広げる。
2. 広大なサファヴィー朝の版図のうち、中央政府の直接的な支配が及んでいたのはどの辺りまでかについて、一応の見通しを得る。

授業内容

第1回：ガイダンス:授業の概要説明

第2回：「補遺：ルーム及びミスル、シャーム、ヒジャーズ、イラーケ・アラブ、ディヤルバクル、モスルにおけるサファヴィー朝の諸王と同時代の君主たちについて」より「序説」の講読(pp.133-134)

第3回：「シルワーン」の講読(pp.134-135)

第4回：「ギーラーン州ラーヒジャーン」の講読(pp.135-136)

第5回：同上(pp.136-137)

第6回：「ヌール・ルスタムダール」(pp.137-138)

第7回：「クジュール・ルスタムダール」(pp.138-139)

第8回：「タバリストーン地方チョラーウィーの支配者たち」及び「マーザンダラーン」の講読(pp.139-140)

第9回：「ルーズアフズーン族」(pp.140-141)

第10回：「フージスターン州のサイドの名家マシュアシュ家」(pp.141-142)

第11回：「ラアナシー族について」(pp.142-143)

第12回：「ルリストーン州」(pp.143-144)

第13回：「ラルの諸王について」及び「ホルムズ島の諸王について」(pp.144-145)

第14回：「フラースーン州のゲールカーン家の諸王について」(pp.145-146)

履修上の注意

基礎的なペルシア語文法を習得した上での参加が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講読予定箇所について、ペルシア語原文にエザーフェ記号を書き加えたものとその訳文をレジュメにまとめて来ること。

教科書

テキストは事前にコピーを配布する。

参考書

論文抜刷を配布予定。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中の口頭発表の出来により評価する。(訳文の正確さ50%+レジュメの完成度50%)

その他

科目ナンバー：(AL) HIS621J			
史学専攻	備考		
科目名	アジア史特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(文学)	平野 豊	

授業の概要・到達目標

今年度は、'Abdi Beyg Shirazi, *Takmelat ol-Akhbar*, 'Abdol-Hoseyn Navai (ed.), Tehran(1369AHS/1991). を読む。

原著『タクメラト・ル＝アフバル』は、宇宙の創造からヒジュラ暦978年(ユリウス暦1571年)に至る、イランを中心としたイスラーム通史である。本書は其中でも特に史料的価値の高い第4部第2講話「大ガイバの時代」のうち「第3集」と「補遺」、「結語」だけをシングルカットした刊本である。研究の材料として本書が利用された事例を見ると、「第3集：12イマーム派のサファヴィー朝の諸王について」の記事である場合がほとんどだが、本書にはそれとは別に「補遺：ルーム及びミスル、シャーム、ヒジャーズ、イラーケ・アラブ、ディヤルバクル、モスルにおけるサファヴィー朝の諸王と同時代の君主たちについて」という興味深い項目が収録されている。年代記が書かれる場合、どうしても王都や宮廷中心になりがちだが、著者アブディー・ベイグはその不備を補うものとして、領内の辺境地域や近隣諸国についての知見を地域別にまとめている。これらのうち、いまだ不明点が多いイラン南部やペルシア湾岸地域の項目については、特に有用な情報が得られる可能性がある。

[到達目標]

1. テキスト講読の過程で、領内辺境地域や同時代の近隣諸国についての概略的な知識を身につけ、各自の研究の視野を広げる。
2. 広大なサファヴィー朝の版図のうち、中央政府の直接的な支配が及んでいたのはどの辺りまでかについて、一応の見通しを得る。

授業内容

第1回：ガイダンス:授業の概要説明

第2回：「ルーム及びミスル、シャーム、ヒジャーズ、イラーケ・アラブ、ディヤルバクル、モスルにおけるサファヴィー朝の諸王と同時代の君主たちについて」より「フラースーン州のゲールカーン家の諸王について」の講読(p.146)

第3回：同(p.147)

第4回：同(p.148)

第5回：同(p.149)

第6回：「トルコ及びトゥルキスターンのハーカーンたちについて」(pp.150-151)

第7回：同(pp.151-152)

第8回：「第1グループ：オゴタイ・カーアーン家の子孫たち」(pp.152-153)

第9回：「第2グループ：ジャガタイ・ハーン家について」(pp.153-154)

第10回：同(pp.154-155)

第11回：「第3グループ：チンギス・ハーンの最も偉大な息子ジュチ・ハーン及びジュチ家について」(pp.155-156)

第12回：「ゲュク・オルダ集団」(pp.156-157)

第13回：「アク・オルダに招集された遊牧集団」(pp.157-158)

第14回：同(pp.158-159)

履修上の注意

基礎的なペルシア語文法を習得した上での参加が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講読予定箇所について、ペルシア語原文にエザーフェ記号を書き加えたものとその訳文をレジュメにまとめて来ること。

教科書

テキストは事前にコピーを配布する。

参考書

論文抜刷を配布予定。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中の口頭発表の出来により評価する。(訳文の正確さ50%+レジュメの完成度50%)

その他

科目ナンバー：(AL) HIS531J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史特論ⅡA		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師	小澤 弘明	

授業の概要・到達目標

長い19世紀から短い20世紀にかけてのヨーロッパ世界を中心とした近現代史の展開の特徴を理解するために、一次史料と二次文献の双方を批判的に読解する。これにより史料の特徴と研究史の現在の双方についての理解を深める。合わせて、参加者個々人の研究内容に応じて修士論文等の執筆に至る研究の計画と遂行についても指導を行う。

授業内容

- 第1回 授業全体の概要の説明
- 第2回 ヨーロッパの民族(エトノス)と国民(ネーション)についての研究状況
- 第3回 ヨーロッパのナショナリズムについての文献研究(1)
- 第4回 ヨーロッパのナショナリズムについての文献研究(2)
- 第5回 ヨーロッパのナショナリズムについての文献研究(3)
- 第6回 ヨーロッパのエトノスについての文献研究(1)
- 第7回 ヨーロッパのエトノスについての文献研究(2)
- 第8回 ヨーロッパのエトノスについての文献研究(3)
- 第9回 ヨーロッパの民衆生活・民衆世界に関する文献研究(1)
- 第10回 ヨーロッパの民衆生活・民衆世界に関する文献研究(2)
- 第11回 ヨーロッパの民衆生活・民衆世界に関する文献研究(3)
- 第12回 ヨーロッパ近現代史に関わる個別報告(1)
- 第13回 ヨーロッパ近現代史に関わる個別報告(2)
- 第14回 春学期で取り上げた主題に関する総括討論

履修上の注意

欧文文献の読解を基軸とする文献研究を行うため、英語、ドイツ語、フランス語などヨーロッパ諸語について履修済みであることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキスト等については前もって、あるいは各回に資料・文献一覧を配布するので、事前・事後学習を行うこと。また、個別報告の準備を随時進めておくこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。nation/nationality, ethnic group/ethnicityに関わる文献を選択して使用テキストとする。

参考書

ベネディクト・アンダーソン、アーネスト・ゲルナー、エリック・ホブズボーム、二宮宏之の著作について調べておくことが望ましい。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

テキスト読解にさいしての言語の運用能力(30%)、テキストの内容の理解度(30%)、個別研究報告の内容(40%)により評価する。

その他

主体的・能動的に参加することを期待している。

科目ナンバー：(AL) HIS531J			
史学専攻	備考		
科目名	西洋史特論ⅡB		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師	小澤 弘明	

授業の概要・到達目標

長い19世紀から短い20世紀にかけてのヨーロッパ世界を中心とした近現代史の展開の特徴を理解するために、一次史料と二次文献の双方を批判的に読解する。これにより史料の特徴と研究史の現在の双方についての理解を深める。合わせて、参加者個々人の研究内容に応じて修士論文等の執筆に至る研究の計画と遂行についても指導を行う。

授業内容

- 第1回 授業全体の概要の説明
- 第2回 ヨーロッパの社会変動に関する研究状況
- 第3回 ヨーロッパの社会変動についての文献研究(1)
- 第4回 ヨーロッパの社会変動についての文献研究(2)
- 第5回 ヨーロッパの社会変動についての文献研究(3)
- 第6回 ヨーロッパの社会運動に関する研究状況
- 第7回 ヨーロッパの社会運動についての文献研究(1)
- 第8回 ヨーロッパの社会運動についての文献研究(2)
- 第9回 ヨーロッパの社会運動についての文献研究(3)
- 第10回 世界史の中のヨーロッパに関する研究状況
- 第11回 ヨーロッパ近現代史と世界史の連関についての文献研究(1)
- 第12回 ヨーロッパ近現代史と世界史の連関についての文献研究(2)
- 第13回 ヨーロッパ近現代史と世界史の連関についての文献研究(3)
- 第14回 秋学期で取り上げた主題に関する総合討論

履修上の注意

欧文文献の読解を基軸とする文献研究を行うため、英語、ドイツ語、フランス語などヨーロッパ諸語について履修済みであることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキスト等については前もって、あるいは各回に資料・文献一覧を配布するので、事前・事後学習を行うこと。また、個別報告の準備を随時進めておくこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。social change, social movement, race/racismに関わる文献を選択してテキストとする。

参考書

授業冒頭で参考文献目録を配布するので、適宜、利用されたい。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

テキスト読解にさいしての言語の運用能力(30%)、テキストの内容の理解度(30%)、個別研究報告の内容(40%)により評価する。

その他

主体的・能動的に参加することを期待している。

科目ナンバー：(AL) PAC521J			
史学専攻	備考		
科目名	考古学特論I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(理学)	米田 穰	

授業の概要・到達目標

考古学は、過去の人々に関する情報を物理・化学・生物学的な方法で抽出する研究分野である。

我が国では「文化財科学」として、保存科学と一緒に論じられることが多いが、考古学と保存科学は大きく異なる。

保存科学は文化財の形状を復元維持するための技術であるのに対し、考古学は過去の人間活動についての情報を抽出し、より強い仮説を構築する歴史科学である。

この講義では、考古学の考え方と方法を学習することで科学の考え方を学び、そのデータを物質文化に関する伝統的な考古学と統合することによって、総合的な科学分野としての考古学に発展させる方法を考察する。

授業内容

- 1) 序論:考古学と人類学の共通点と相違点
- 2) 進化論の基礎と人間行動生態学
- 3) 歴史科学としての進化論
- 4) なぜ年代測定が必要なのか
- 5) 放射性炭素年代測定の基礎
- 6) 放射性炭素年代測定の応用:較正年代
- 7) 放射性炭素年代測定の展開:海洋リザーバ効果の補正
- 8) 炭素年代データベースによる人口動態復元
- 9) 炭素・窒素同位体比による食性復元
- 10) 同位体生態学からみた縄文時代の多様性
- 11) 同位体生態学からみた弥生時代とその後の農耕社会
- 12) 歯エナメル質の同位体分析による移動復元
- 13) 動物遺存体・炭化植物による食料生産の研究
- 14) 土器付着炭化物の分析と問題点

履修上の注意

講義中の積極的な発言を評価します。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で配布する論文などの資料などを予習して、講義での議論に参加できるように準備すること。また、関連する文献などを復習として学習すること。

教科書

特に指定なし

参考書

講義単元に応じて、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業への参加度) 75%, レポート 25%

その他

質問は適宜メールにて受け付ける。メールアドレスはOh-ol Meijiクラスウェブ“シラバスの補足”を参照のこと。

科目ナンバー：(AL) PAC521J			
史学専攻	備考		
科目名	考古学特論I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(理学)	米田 穰	

授業の概要・到達目標

考古学における生態学的なアプローチは、ヒトの生物学的な側面に着目する自然人類学と考古学を結ぶ有効な視点である。

特に、人間の行動や社会も自然選択によって形づくられるとする人間行動生態学の視点は、日本考古学でも有効であると期待されるが、その応用はほとんどない。本講義では、前学期に学習した進化の理論をもとに、人間の行動や社会の複雑化にどのような理論的予想がなりたつのかを考察し、日本先史学への応用可能性を議論する。

また、生物と生物、生物と非生物の関係に着目する生態学の考え方を学習して、先史社会に応用する方法について議論する。具体的に、過去の環境や生態系を復元する方法とその限界についても学習し、先行研究を批判的にレビューする。

授業内容

- 1) 序論:考古学における生態学的研究とその課題
- 2) 進化と生態学の関係
- 3) ヒトの生物学的特徴と進化的背景
- 4) ヒトの生態学的特徴
- 5) 考古学における生態学的研究
- 6) 人間行動生態学で予想される狩猟採集民の意思決定
- 7) 人間行動生態学で予想される農耕社会の受容と発展
- 8) 民族考古学と社会進化的な視点
- 9) 縄文時代の海進・海退とハイドロアイソスタシー
- 10) 同位体による社会・集団レベルの応用研究
- 11) 同位体による個体レベルの応用研究
- 12) 先史社会における同位体比の個体差の意味
- 13) 動物考古学・考古植物学と保全生態学
- 14) 考古学を社会でどのように活かせるか

履修上の注意

講義中の積極的な発言を評価します。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で配布する論文などの資料などを予習して、講義での議論に参加できるように準備すること。また、関連する文献などを復習として学習すること。

教科書

特に指定なし

参考書

斎藤成也 編著『絵で分かる人類の進化』(講談社)
安田喜憲編(2004)『環境考古学ハンドブック』(朝倉書店)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業への参加度) 75%, レポート 25%

その他

質問は適宜メールにて受け付ける。メールアドレスはOh-ol Meijiクラスウェブ“シラバスの補足”を参照のこと。

科目ナンバー：(AL) PAC521J			
史学専攻	備考		
科目名	考古学特論ⅡA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 小澤 正人		

授業の概要・到達目標

テーマ:中国国家成立期の社会の検討～陵墓を資料として
この講義の目的は、階層上位者の墓葬である陵墓を資料として、中国先秦時代社会の特質と変遷を明らかにすることにある。

中国では紀元前2000年頃に都市国家が成立し初期王朝時代となり、やがて紀元前1300年頃には文字記録をもつ最初の国家である殷王朝が成立する。この講義では初期王朝時代から殷時代にいたる陵墓の変遷を検討することで、中国国家成立期社会の特質を明らかにしていきたいと考えている。

この授業では、①中国国家成立期の陵墓の変遷を理解すること、②中国国家成立期社会の特質を理解すること、を到達目標とする。

なお、授業の具体的な進め方は、受講生の状況を勘案して決定する。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：初期王朝時代以前の墓葬(1)
- 第3回：初期王朝時代以前の墓葬(2)
- 第4回：初期王朝時代以前の墓葬(3)
- 第5回：初期王朝時代の墓葬(1)
- 第6回：初期王朝時代の墓葬(2)
- 第7回：初期王朝時代の墓葬(3)
- 第8回：初期王朝時代の墓葬(4)
- 第9回：殷王朝の墓葬(1)
- 第10回：殷王朝の墓葬(2)
- 第11回：殷王朝の墓葬(3)
- 第12回：殷王朝の墓葬(4)
- 第13回：殷王朝の墓葬(5)
- 第14回：まとめ～中国国家成立期の社会

履修上の注意

中国史の概説を読んでおくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ読んでおいてもらいたい文献を指定することがある。

教科書

とくに指定しない。

参考書

岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫 2015 筑摩書房）
その他は授業中に提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度:80% レポート:20%

その他

科目ナンバー：(AL) PAC521J			
史学専攻	備考		
科目名	考古学特論ⅡB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 小澤 正人		

授業の概要・到達目標

テーマ:中国先秦時代社会の検討～陵墓を資料として
この講義の目的は、階層上位者の墓葬である陵墓を資料として、周時代から春秋戦国時代に到る中国先秦時代社会の特質を明らかにすることにある。

中国では紀元前1000年頃に都市国家連合である周王朝が成立し、その後春秋戦国時代になると都市国家は淘汰され領域国家が出現する。この講義では周時代から春秋戦国時代にいたる陵墓の変遷を検討することで、先秦時代社会の特質を明らかにしていきたいと考えている。

この授業では、①中国先秦時代の陵墓の変遷を理解すること、②中国先秦時代社会の特質を理解すること、を到達目標とする。

なお、授業の具体的な進め方は、受講生の状況を勘案して決定する。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：周時代の墓葬(1)
- 第3回：周時代の墓葬(2)
- 第4回：周時代の墓葬(3)
- 第5回：周時代の墓葬(4)
- 第6回：春秋時代の墓葬(1)
- 第7回：春秋時代の墓葬(2)
- 第8回：春秋時代の墓葬(3)
- 第9回：春秋時代の墓葬(4)
- 第10回：戦国時代の墓葬(1)
- 第11回：戦国時代の墓葬(2)
- 第12回：戦国時代の墓葬(3)
- 第13回：戦国時代の墓葬(4)
- 第14回：まとめ～中国先秦時代社会

履修上の注意

中国史の概説を読んでおくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ読んでおいてもらいたい文献を指定することがある。

教科書

とくに指定しない。

参考書

岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫 2015 筑摩書房）
その他は授業中に提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度:80% レポート:20%

その他

科目ナンバー：(AL) GEO522J			
地理学専攻		備考	
科目名	自然地理学演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 理学博士	梅本 亨	

授業の概要・到達目標

具体的な地域を対象とする自然地理学研究を行うための専門的な知識を身につけるとともに、最近の研究動向に対応できるような方法論について検討する。自然地理学の各分野のなかから、気候学、植生地理学という2本の柱を選び、相互の関連を研究事例について議論する。授業の形式は、当該分野の専門書(英語)の輪読と、重要な研究論文(多くの場合、英文である)の紹介・批判を柱とする室内での討論であるが、必要に応じてフィールドにおける現地討論を行うこともある。

授業内容

- 履修者の卒業研究および大学院での研究課題の紹介
- 輪読教科書とその報告分担決定
- 輪読と討論①
- 輪読内容に関する最近の学術論文の報告①
- 輪読と討論②
- 輪読内容に関する最近の学術論文の報告②
- 輪読と討論③
- 輪読内容に関する最近の学術論文の報告③
- 輪読と討論④
- 輪読内容に関する最近の学術論文の報告④
- 輪読と討論⑤
- 輪読内容に関する最近の学術論文の報告⑤
- 輪読と討論⑥
- 輪読内容に関する最近の学術論文の報告⑥

履修上の注意

自然地理学の基礎知識が十分であることを前提に演習を進める。

準備学習(予習・復習等)の内容

2回目以降、気候学・植生地理学についての日本語の専門書の該当部分を熟読して基礎知識を再確認しておく必要がある。日本の事例を扱う場合には、日本語による自然地理学的な諸概念や専門用語についても熟知しておく必要があるからである。なお、輪読用教科書の予習には、日本語(および英語)の専門辞書が必要となる：『地学事典』(平凡社)、『理化学辞典』(岩波書店)、『生物学辞典』(岩波書店)、『気象の事典』(東京堂出版)、『生態学事典』(共立出版)程度が必要となる。

教科書

H.G. Jones, 2014: Plants and microclimate. A quantitative approach to environmental plant physiology. 3rd Edition, Cambridge University Press, 407pp.

参考書

- D.L. Hartmann, 2016: Global Physical Climatology. 2nd Edition, Elsevier, 485pp.
 - G. B. Bonnan, 2002: Ecological Climatology — Concepts and applications. Cambridge University Press, 678pp.
 - R.M.M. Crawford, 2008: Plants at the margin. Ecological Limits and Climate Change. Cambridge University Press, 478pp.
- *和書については個別に適切なものを推薦する。

課題に対するフィードバックの方法

演習科目なのでオーラルコミュニケーションが主体となるが、発表時に提出するレジюмеを添削し、コメントを付して返却する。

成績評価の方法

演習における報告内容および議論への参加状況を総合的に評価する。なお、報告時には必ず紙媒体の発表要旨(レジюме)を人数分作成して配布すること。

その他

「準備学習」の項にも明記したが、授業参加のためには、その準備として各種の専門辞書を手に置く必要がある。早めに入手しておくこと。

科目ナンバー：(AL) GEO522J			
地理学専攻		備考	
科目名	自然地理学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 理学博士	梅本 亨	

授業の概要・到達目標

自然地理学的研究(特に気候学と植生地理学)の国内外の論文等を多角的に検討し、ある地域に関する研究分野における既存研究を効率的効果的にレビューする方法論と、時空間的なスケールの取り扱いについて考察する。履修者は、この討論を通じて修士論文の序論に収める先行研究のレビューを完璧なものとする事が求められる。

授業内容

- 演習方針の説明と報告分担決定
- 研究の位置づけに関する報告(広域研究分野:例えば気候学)①
- 研究の位置づけに関する報告(広域研究分野:例えば植生地理学)②
- 研究の位置づけに関する報告(狭域研究分野:例えば山地気候学)①
- 研究の位置づけに関する報告(狭域研究分野:例えば亜高山帯の植生景観論)②
- 研究の具体的テーマに関する研究史の報告①
- 研究の具体的テーマに関する研究史の報告②
- 研究の具体的テーマに関する方法論の報告①
- 研究の具体的テーマに関する方法論の報告②
- 修士論文の論理構造に関する報告①
- 修士論文の論理構造に関する報告②
- 研究成果の自己評価と応用の可能性に関する報告①
- 研究成果の自己評価と応用の可能性に関する報告②
- 研究成果の公表に関する展望の報告

履修上の注意

授業開始時までに、自身の研究分野に関する文献リストを作成しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

重要な文献の引用文献には、原則として全て目を通しておくこと。

教科書

使用せず。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

演習科目なのでオーラルコミュニケーションが主体となるが、発表時に提出するレジюмеを添削し、コメントを付して返却する。

成績評価の方法

演習における報告内容および議論への参加状況を総合的に評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) GEO622J			
地理学専攻		備考	
科目名	自然地理学演習 IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 理学博士	梅本 亨	

授業の概要・到達目標

具体的な地域を対象とする自然地理学研究を行うための専門的な知識を身につけるとともに、最近の研究動向に対応できるような方法論について検討する。自然地理学の各分野のなかから、気候学、植生地理学という2本の柱を選び、相互の関連を研究事例について議論する。授業の形式は、当該分野の専門書(英語)の輪読と、重要な研究論文(多くの場合、英文である)の紹介・批判を柱とする室内での討論であるが、必要に応じてフィールドにおける現地討論を行うこともある。

授業内容

- 履修者の卒業研究および大学院での研究課題の紹介
- 輪読教科書とその報告分担決定
- 輪読と討論①
- 輪読内容に関する最近の学術論文の報告①
- 輪読と討論②
- 輪読内容に関する最近の学術論文の報告②
- 輪読と討論③
- 輪読内容に関する最近の学術論文の報告③
- 輪読と討論④
- 輪読内容に関する最近の学術論文の報告④
- 輪読と討論⑤
- 輪読内容に関する最近の学術論文の報告⑤
- 輪読と討論⑥
- 輪読内容に関する最近の学術論文の報告⑥

履修上の注意

自然地理学の基礎知識が十分であることを前提に演習を進める。

準備学習(予習・復習等)の内容

2回目以降、気候学・植生地理学についての日本語の専門書の該当部分を熟読して基礎知識を再確認しておく必要がある。日本の事例を扱う場合には、日本語による自然地理学的な諸概念や専門用語についても熟知しておく必要があるからである。なお、輪読用教科書の予習には、日本語(および英語)の専門辞書が必要となる：『地学事典』(平凡社)、『理化学辞典』(岩波書店)、『生物学辞典』(岩波書店)、『気象の事典』(東京堂出版)、『生態学事典』(共立出版)程度が必要となる。

教科書

H.G. Jones, 2014: Plants and microclimate. A quantitative approach to environmental plant physiology. 3rd Edition, Cambridge University Press, 407pp.

参考書

- D.L. Hartmann, 2016: Global Physical Climatology. 2nd Edition, Elsevier, 485pp.
 - G. B. Bonnan, 2002: Ecological Climatology — Concepts and applications. Cambridge University Press, 678pp.
 - R.M.M. Crawford, 2008: Plants at the margin. Ecological Limits and Climate Change. Cambridge University Press, 478pp.
- *和書については個別に適切なものを推薦する。

課題に対するフィードバックの方法

演習科目なのでオーラルコミュニケーションが主体となるが、発表時に提出するレジュメを添削し、コメントを付して返却する。

成績評価の方法

演習における報告内容および議論への参加状況を総合的に評価する。なお、報告時には必ず紙媒体の発表要旨(レジュメ)を人数分作成して配布すること。

その他

「準備学習」の項にも明記したが、授業参加のためには、その準備として各種の専門辞書を手に置く必要がある。早めに入手しておくこと。

科目ナンバー：(AL) GEO622J			
地理学専攻		備考	
科目名	自然地理学演習 ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 理学博士	梅本 亨	

授業の概要・到達目標

自然地理学的研究(特に気候学と植生地理学)の国内外の論文等を多角的に検討し、ある地域に関する研究分野における既存研究を効率的効果的にレビューする方法論と、時空間的なスケールの取り扱いについて考察する。履修者は、この討論を通じて修士論文の序論に収める先行研究のレビューを完璧なものとする事が求められる。

授業内容

- 演習方針の説明と報告分担決定
- 研究の位置づけに関する報告(広域研究分野:例えば気候学)①
- 研究の位置づけに関する報告(広域研究分野:例えば植生学)②
- 研究の位置づけに関する報告(狭域研究分野:例えば極地気候学)①
- 研究の位置づけに関する報告(狭域研究分野:例えば亜高山帯の植生景観論)②
- 研究の具体的テーマに関する研究史の報告①
- 研究の具体的テーマに関する研究史の報告②
- 研究の具体的テーマに関する方法論の報告①
- 研究の具体的テーマに関する方法論の報告②
- 修士論文の論理構造に関する報告①
- 修士論文の論理構造に関する報告②
- 研究成果の自己評価と応用の可能性に関する報告①
- 研究成果の自己評価と応用の可能性に関する報告②
- 研究成果の公表に関する展望の報告

履修上の注意

授業開始時までに、自身の研究分野に関する文献リストを作成しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

重要な文献の引用文献には、原則として全て目を通しておくこと。

教科書

使用せず。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

演習科目なのでオーラルコミュニケーションが主体となるが、発表時に提出するレジュメを添削し、コメントを付して返却する。

成績評価の方法

演習における報告内容および議論への参加状況を総合的に評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) GEO522J			
地理学専攻	備考		
科目名	自然地理学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(環境学) 佐々木 夏来		

授業の概要・到達目標

国内外の書籍・論文の精読を通して、研究テーマに関する専門的な知識を獲得するとともに、近年の研究動向を把握する。論文の精読では、各自が論文紹介を担当して効果的な研究発表の方法を学び、ディスカッションを通して論理的思考と批判的思考を身につけることを目標とする。さらに、履修者には、適宜、研究の進捗状況(調査・研究計画、調査結果)を報告することが求められる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス、輪読・論文紹介の担当決め
- 第2回 研究テーマの紹介(1)
- 第3回 研究テーマの紹介(2)
- 第4回 研究計画紹介
- 第5回 輪読(1)
- 第6回 輪読(2)
- 第7回 輪読(3)
- 第8回 輪読(4)
- 第9回 論文紹介とディスカッション(1)
- 第10回 論文紹介とディスカッション(2)
- 第11回 論文紹介とディスカッション(3)
- 第12回 論文紹介とディスカッション(4)
- 第13回 論文紹介とディスカッション(5)
- 第14回 論文紹介とディスカッション(6)

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の担当内容を十分に予習し、プレゼンテーションツールを用いて発表準備すること。発表担当者でない場合にも、教科書・論文を一読し、ディスカッションできるように準備しておくこと。

教科書

初回授業時に候補となる教科書を紹介する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でコメントする。

成績評価の方法

発表内容および議論への参加状況で総合的に評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) GEO522J			
地理学専攻	備考		
科目名	自然地理学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(環境学) 佐々木 夏来		

授業の概要・到達目標

履修者自身の研究テーマに関連する国内外の学術論文をレビューし、近年の研究動向を把握するとともに、自身の研究の意義および位置付けを確認する。これまでの調査結果を多角的に検討し、ディスカッションを通して論理的思考と批判的思考を身につけることを目標とする。さらに、履修者には、適宜、研究の進捗状況(調査・研究計画、調査結果)を報告することが求められる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス、発表方法の説明、発表担当決め
- 第2回 研究内容に関する文献レビュー(1)
- 第3回 研究内容に関する文献レビュー(2)
- 第4回 研究発表(調査内容の報告)(1)
- 第5回 研究発表(調査内容の報告)(2)
- 第6回 研究発表(調査内容の報告)(3)
- 第7回 研究発表(調査内容の報告)(4)
- 第8回 論文構成に関する報告(全体、背景・目的・調査地概要)(1)
- 第9回 論文構成に関する報告(全体、背景・目的・調査地概要)(2)
- 第10回 論文構成に関する報告(方法・結果・考察)(1)
- 第11回 論文構成に関する報告(方法・結果・考察)(2)
- 第12回 研究発表(修士研究のまとめ)(1)
- 第13回 研究発表(修士研究のまとめ)(2)
- 第14回 研究テーマに関する残存課題と今後の展望

履修上の注意

学期中に複数回の報告が課せられる。また、討論への積極的な参加が必須である。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の担当回では、プレゼンテーションツールを用いて発表準備をすること。研究発表の場合には、発表要旨も作成すること。発表要旨の執筆方法は初回の授業で説明する。

教科書

使用しない

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でコメントする。

成績評価の方法

発表内容および議論への参加状況で総合的に評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) GEO622J			
地理学専攻	備考		
科目名	自然地理学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(環境学) 佐々木 夏来		

授業の概要・到達目標

国内外の書籍・論文の精読を通して、研究テーマに関する専門的な知識を獲得するとともに、近年の研究動向を把握する。論文の精読では、各自が論文紹介を担当して効果的な研究発表の方法を学び、ディスカッションを通して論理的思考と批判的思考を身につけることを目標とする。さらに、履修者には、適宜、研究の進捗状況(調査・研究計画、調査結果)を報告することが求められる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス、輪読・論文紹介の担当決め
- 第2回 研究テーマの紹介(1)
- 第3回 研究テーマの紹介(2)
- 第4回 研究計画紹介
- 第5回 輪読(1)
- 第6回 輪読(2)
- 第7回 輪読(3)
- 第8回 輪読(4)
- 第9回 論文紹介とディスカッション(1)
- 第10回 論文紹介とディスカッション(2)
- 第11回 論文紹介とディスカッション(3)
- 第12回 論文紹介とディスカッション(4)
- 第13回 論文紹介とディスカッション(5)
- 第14回 論文紹介とディスカッション(6)

履修上の注意

自身の修士論文研究に関わる複数回の報告が課せられる。また、討論への積極的な参加が必須である。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の担当内容を十分に予習し、プレゼンテーションツールを用いて発表準備すること。発表担当者でない場合にも、教科書・論文を一読し、ディスカッションできるように準備しておくこと。

教科書

初回授業時に候補となる教科書を紹介する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でコメントする。

成績評価の方法

発表内容および議論への参加状況で総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO622J			
地理学専攻	備考		
科目名	自然地理学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任講師 博士(環境学) 佐々木 夏来		

授業の概要・到達目標

履修者自身の研究テーマに関連する国内外の学術論文をレビューし、近年の研究動向を把握するとともに、自身の研究の意義および位置付けを確認する。これまでの調査結果を多角的に検討し、ディスカッションを通して論理的思考と批判的思考を身につけることを目標とする。さらに、履修者には、適宜、研究の進捗状況(調査・研究計画、調査結果)を報告することが求められる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス、発表方法の説明、発表担当決め
- 第2回 研究内容に関する文献レビュー(1)
- 第3回 研究内容に関する文献レビュー(2)
- 第4回 研究発表(調査内容の報告)(1)
- 第5回 研究発表(調査内容の報告)(2)
- 第6回 研究発表(調査内容の報告)(3)
- 第7回 研究発表(調査内容の報告)(4)
- 第8回 論文構成に関する報告(全体、背景・目的・調査地概要)(1)
- 第9回 論文構成に関する報告(全体、背景・目的・調査地概要)(2)
- 第10回 論文構成に関する報告(方法・結果・考察)(1)
- 第11回 論文構成に関する報告(方法・結果・考察)(2)
- 第12回 研究発表(修士研究のまとめ)(1)
- 第13回 研究発表(修士研究のまとめ)(2)
- 第14回 研究テーマに関する残存課題と今後の展望

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の担当回では、プレゼンテーションツールを用いて発表準備すること。研究発表の場合には、発表要旨も作成すること。発表要旨の執筆方法は初回の授業で説明する。

教科書

使用しない

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でコメントする。

成績評価の方法

発表内容および議論への参加状況で総合的に評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) GEO512J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学)	川口 太郎	

授業の概要・到達目標

都市住民の生活行動や居住地移動、地域社会への参加や帰属意識などから、生活の場としての都市を考えていく。地理学の枠組みからいえば都市地理学、社会地理学、行動地理学の複合領域ということになるが、とりあえず、上述のテーマに即した地理学の基本文献を講読していく。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 都市地理学の基本文献講読①
- (3) 同上②
- (4) 同上③
- (5) 同上④
- (6) 同上⑤
- (7) 社会地理学の基本文献講読①
- (8) 同上②
- (9) 同上③
- (10) 同上④
- (11) 行動地理学の基本文献講読①
- (12) 同上②
- (13) 同上③
- (14) 同上④

履修上の注意

毎時間出席し、与えられた課題を果たすことが最低限の条件である。往々にして授業時間が延びるので、以後の時間を空けておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告に際しては必ずレジメを用意すること。

教科書

「地理学評論」「人文地理」「経済地理学年報」掲載の論文

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況を重視する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO512J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学)	川口 太郎	

授業の概要・到達目標

人文地理学演習 I A に引き続いて同様の内容を追求し、各自の関心に応じて都市計画学や経済学、社会学、政治学、歴史学などの隣接分野の文献研究をもとに、あらたな問題提起を求めていく。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 都市計画学の基本文献講読①
- (3) 同上②
- (4) 同上③
- (5) 都市社会学の基本文献講読①
- (6) 同上②
- (7) 同上③
- (8) 都市政治学の基本文献講読①
- (9) 同上②
- (10) 同上③
- (11) 各自の隣接分野の文献報告①
- (12) 同上②
- (13) 同上③
- (14) 同上④

履修上の注意

毎時間出席し、与えられた課題を果たすことが最低限の条件である。往々にして授業時間が延びるので、以後の時間を空けておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告に際しては予めレジメを用意すること。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況を重視する。

その他

博士前期課程

科目ナンバー：(AL) GEO612J			
地理学専攻		備考	
科目名	人文地理学演習 I C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学) 川口 太郎		

授業の概要・到達目標

人文地理学演習 I A, I B の履修によって培われた各自の問題意識のもとに、修士論文作成に向けて準備をしていく。受講者は研究の進捗状況について、定期的に報告を求められる。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 修士論文構想①
- (3) 同上②
- (4) 修士論文文献報告 I ①
- (5) 同上②
- (6) 同上③
- (7) 同上④
- (8) 修士論文中間報告 I ①
- (9) 同上②
- (10) 修士論文調査企画①
- (11) 同上②
- (12) 修士論文中間報告 II ①
- (13) 同上②
- (14) 同上③

履修上の注意

毎時間出席し、与えられた課題を果たすことが最低限の条件である。往々にして授業時間が延びるので、以後の時間を空けておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告に際しては予めレジメを用意すること。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況を重視する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO612J			
地理学専攻		備考	
科目名	人文地理学演習 I D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学) 川口 太郎		

授業の概要・到達目標

人文地理学演習 I C に引き続き、修士論文の作成に向けて準備をしていく。受講者は研究の進捗状況について、定期的に報告を求められる。

授業内容

- (1) 夏休み調査報告①
- (2) 同上②
- (3) 修士論文文献報告 II ①
- (4) 同上②
- (5) 同上③
- (6) 同上④
- (7) 修士論文中間報告 III ①
- (8) 同上②
- (9) 修士論文調査報告①
- (10) 同上②
- (11) 同上③
- (12) 同上④
- (13) 修士論文最終報告①
- (14) 同上②

履修上の注意

毎時間出席し、与えられた課題を果たすことが最低限の条件である。往々にして授業時間が延びるので、以後の時間を空けておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告に際しては予めレジメを用意すること。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況を重視する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO512J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	大城 直樹	

授業の概要・到達目標

人文地理学、とくに1990年代以降の文化地理学の基礎概念をまず再確認し、それを踏まえつつ、関連文献を精読する。それによって、現代社会における文化事象と地理的文脈との関係性を理解し、学(ディシプリン)としての地理学の意義を把握出来るようにする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：基礎概念の確認：場所
- 第3回：関連文献精読1：場所
- 第4回：関連文献精読2：場所
- 第5回：基礎概念の確認：景観
- 第6回：関連文献精読1：景観
- 第7回：関連文献精読2：景観
- 第8回：基礎概念の確認：物質性
- 第9回：関連文献精読1：物質性
- 第10回：関連文献精読2：物質性
- 第11回：基礎概念の確認：情動
- 第12回：関連文献精読1：情動
- 第13回：関連文献精読2：情動
- 第14回：文化地理学の文脈の再確認

履修上の注意

毎回出席し、事前に配分された担当課題をクリアしてもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者による質問に対応できるよう、十分な準備が望まれる。

教科書

特に用いない。

参考書

授業時にリストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

課題への対応に関する講評をその都度行う。

成績評価の方法

平常点(授業への積極的姿勢(30%) + 課題処理への積極的態度(70%))

その他

科目ナンバー：(AL) GEO512J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	大城 直樹	

授業の概要・到達目標

人文地理学演習ⅡAに引き続き文化地理学の文献を精読していくが、近年の斯学の動向を整理し、それに影響を与えた隣接分野の文献についてもおさえていく。

まずは鍵概念を理解し、その文化地理学における展開の様相を把握していく。また文化地理学的なフィールドワークの在り方をその実践者たちに現地で説明してもらうことで、文化地理学の今日的位相を具体的に体得することを目指す。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：近年の文化地理学の動向整理1
- 第3回：近年の文化地理学の動向整理2
- 第4回：近年の文化地理学の動向整理3
- 第5回：鍵概念の整理1
- 第6回：鍵概念の整理2
- 第7回：鍵概念の整理3
- 第8回：隣接分野における展開の把握1
- 第9回：隣接分野における展開の把握2
- 第10回：隣接分野における展開の把握3
- 第11回：フィールドワーク1
- 第12回：フィールドワーク2
- 第13回：フィールドワーク3
- 第14回：フィールドワーク4

履修上の注意

毎回出席し、事前に配分された担当課題をクリアしてもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者による質問に対応できるよう、十分な準備が望まれる。

教科書

特に用いない。

参考書

授業時にリストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

課題への対応状況についてその都度講評していく。

成績評価の方法

平常点(授業への積極的姿勢(30%) + 課題処理への積極的態度(70%))

その他

科目ナンバー：(AL) GEO612J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	大城 直樹	

授業の概要・到達目標

人文地理学、とくに1990年代以降の文化地理学の基礎概念をまず再確認し、それを踏まえつつ、関連文献を精読する。それによって、現代社会における文化事象と地理的文脈との関係性を理解し、学(ディシプリン)としての地理学の意義を把握出来るようにする。
2年生対象なので、より深く精読することが求められる。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：基礎概念の確認：モダニティ
- 第3回：関連文献精読1：モダニティ
- 第4回：関連文献精読2：モダニティ
- 第5回：基礎概念の確認：地域文化
- 第6回：関連文献精読1：地域文化
- 第7回：関連文献精読2：地域文化
- 第8回：基礎概念の確認：アイデンティティ
- 第9回：関連文献精読1：アイデンティティ
- 第10回：関連文献精読2：アイデンティティ
- 第11回：基礎概念の確認：資本主義
- 第12回：関連文献精読1：資本主義
- 第13回：関連文献精読2：資本主義
- 第14回：文化地理学の文脈の再確認

履修上の注意

毎回出席し、事前に配分された担当課題をクリアしてもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者による質問に対応できるよう、十分な準備が望まれる。

教科書

特に用いない。

参考書

授業時にリストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対する講評をその都度行う。

成績評価の方法

平常点(授業への積極的姿勢(30%) + 課題処理への積極的態度(70%))

その他

科目ナンバー：(AL) GEO612J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	大城 直樹	

授業の概要・到達目標

人文地理学演習ⅡCに引き続き文化地理学の文献を精読していくが、近年の斯学の動向を整理し、それに影響を与えた隣接分野の文献についてもおさえていく。
まずは鍵概念を理解し、その文化地理学における展開の様相を把握していく。また文化地理学的なフィールドワークの在り方をその実践者たちに現地で説明してもらうことで、文化地理学の今日的位相を具体的に体得することを目指す。
2年次なので、より深く読解することが求められる。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：近年の文化地理学の動向整理1
- 第3回：近年の文化地理学の動向整理2
- 第4回：近年の文化地理学の動向整理3
- 第5回：鍵概念の整理1
- 第6回：鍵概念の整理2
- 第7回：鍵概念の整理3
- 第8回：隣接分野における展開の把握1
- 第9回：隣接分野における展開の把握2
- 第10回：隣接分野における展開の把握3
- 第11回：フィールドワーク1
- 第12回：フィールドワーク2
- 第13回：フィールドワーク3
- 第14回：フィールドワーク4

履修上の注意

毎回出席し、事前に配分された担当課題をクリアしてもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者による質問に対応できるよう、十分な準備が望まれる。

教科書

特に用いない。

参考書

授業時にリストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対する講評をその都度行う。

成績評価の方法

平常点(授業への積極的姿勢(30%) + 課題処理への積極的態度(70%))

その他

科目ナンバー：(AL) GEO512J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)	中澤	高志

授業の概要・到達目標

担当者の研究は、平たくいえば住まいと仕事の地理学であり、生活様式を経済地理学的に検討することである。生活様式は、必然的に空間構造を伴い、地理的・歴史的固有性を帯びて組織化されている。人々は、生活様式の下で生活様式を変えながら、生きている。そのような生活様式を経済地理学的に検討するとは、いかなることであり、どのようにして可能になるのだろうか。こうした方法論的問いに対して、もとより正解はない。そこで、履修者が自分なりの回答に至る糸口を見いだすことを本演習の目標とし、浩瀚な文献を検討することでその達成を目指す。

授業内容

- 第1回 履修者の研究テーマの確認
- 第2回 文献リストの作成とその検討
- 第3回 邦文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第4回 邦文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第5回 邦文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第6回 邦文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第7回 日本における経済地理学方法論のまとめ
- 第8回 英文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第9回 英文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第10回 英文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第11回 英文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第12回 英語圏における経済地理学方法論のまとめ
- 第13回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(1)
- 第14回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(2)

履修上の注意

文献を読むことを習慣化しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を詳細かつ批判的に検討することが演習の中心であるため、取り扱う文献については、事前に十分に読み込んでおくことが求められる。

教科書

履修者の研究課題を勘案し、それに適した文献を、主として方法論の観点から選択する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で行います。

成績評価の方法

担当回におけるレジュメ等の準備状況および演習への参加の積極性を、総合的に判断して行う。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO512J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)	中澤	高志

授業の概要・到達目標

担当者の研究は、平たくいえば住まいと仕事の地理学であり、生活様式を経済地理学的に検討することである。生活様式は、必然的に空間構造を伴い、地理的・歴史的固有性を帯びて組織化されている。人々は、生活様式の下で生活様式を変えながら、生きている。そのような生活様式を経済地理学的に検討するとは、いかなることであり、どのようにして可能になるのだろうか。こうした方法論的問いに対して、もとより正解はない。そこで、履修者が自分なりの回答に至る糸口を見いだすことを本演習の目標とし、浩瀚な文献を検討することでその達成を目指す。

授業内容

- 第1回 履修者の研究テーマの確認
- 第2回 文献リストの作成とその検討
- 第3回 邦文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第4回 邦文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第5回 邦文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第6回 邦文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第7回 日本における経済地理学方法論のまとめ
- 第8回 英文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第9回 英文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第10回 英文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第11回 英文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第12回 英語圏における経済地理学方法論のまとめ
- 第13回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(1)
- 第14回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(2)

履修上の注意

文献を読むことを習慣化しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を詳細かつ批判的に検討することが演習の中心であるため、取り扱う文献については、事前に十分に読み込んでおくことが求められる。

教科書

履修者の研究課題を勘案し、それに適した文献を、主として方法論の観点から選択する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で行います。

成績評価の方法

担当回におけるレジュメ等の準備状況および演習への参加の積極性を、総合的に判断して行う。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO612J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)	中澤	高志

授業の概要・到達目標

担当者の研究は、平たくいえば住まいと仕事の地理学であり、生活様式を経済地理学的に検討することである。生活様式は、必然的に空間構造を伴い、地理的・歴史的固有性を帯びて組織化されている。人々は、生活様式の下で生活様式を変えながら、生きている。そのような生活様式を経済地理学的に検討するとは、いかなることであり、どのようにして可能になるのだろうか。こうした方法論的問いに対して、もとより正解はない。そこで、履修者が自分なりの回答に至る糸口を見いだすことを本演習の目標とし、浩瀚な文献を検討することでその達成を目指す。

授業内容

- 第1回 履修者の研究テーマの確認
- 第2回 文献リストの作成とその検討
- 第3回 邦文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第4回 邦文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第5回 邦文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第6回 邦文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第7回 日本における経済地理学方法論のまとめ
- 第8回 英文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第9回 英文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第10回 英文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第11回 英文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第12回 英語圏における経済地理学方法論のまとめ
- 第13回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(1)
- 第14回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(2)

履修上の注意

文献を読むことを習慣化しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を詳細かつ批判的に検討することが演習の中心であるため、取り扱う文献については、事前に十分に読み込んでおくことが求められる。

教科書

履修者の研究課題を勘案し、それに適した文献を、主として方法論の観点から選択する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で行います。

成績評価の方法

担当回におけるレジュメ等の準備状況および演習への参加の積極性を、総合的に判断して行う。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO612J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)	中澤	高志

授業の概要・到達目標

担当者の研究は、平たくいえば住まいと仕事の地理学であり、生活様式を経済地理学的に検討することである。生活様式は、必然的に空間構造を伴い、地理的・歴史的固有性を帯びて組織化されている。人々は、生活様式の下で生活様式を変えながら、生きている。そのような生活様式を経済地理学的に検討するとは、いかなることであり、どのようにして可能になるのだろうか。こうした方法論的問いに対して、もとより正解はない。そこで、履修者が自分なりの回答に至る糸口を見いだすことを本演習の目標とし、浩瀚な文献を検討することでその達成を目指す。

授業内容

- 第1回 履修者の研究テーマの確認
- 第2回 文献リストの作成とその検討
- 第3回 邦文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第4回 邦文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第5回 邦文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第6回 邦文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第7回 日本における経済地理学方法論のまとめ
- 第8回 英文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第9回 英文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第10回 英文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第11回 英文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第12回 英語圏における経済地理学方法論のまとめ
- 第13回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(1)
- 第14回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(2)

履修上の注意

文献を読むことを習慣化しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を詳細かつ批判的に検討することが演習の中心であるため、取り扱う文献については、事前に十分に読み込んでおくことが求められる。

教科書

履修者の研究課題を勘案し、それに適した文献を、主として方法論の観点から選択する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で行います。

成績評価の方法

担当回におけるレジュメ等の準備状況および演習への参加の積極性を、総合的に判断して行う。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO532J			
地理学専攻	備考		
科目名	地誌学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	山本 大策	

授業の概要・到達目標

国内外の書籍・論文の講読と批判的検討を通じて、地域における生活環境、経済開発、持続性に関わる、地理学と関連分野の方法論的特徴や研究動向を把握する。毎回、各自が論文紹介を担当して報告し、ディスカッションを通して論理的・批判的思考を身につけることを目標とする。最終的に、受講者は自身の研究段階に応じて、講読の成果を反省させた文献レビュー、あるいは研究計画書を作成する。

授業内容

- 第1回 演習の方針・履修者の研究テーマの確認
- 第2回 文献解読・報告の技術
- 第3回 文献の解読報告・討論:理論・方法論 (1)
- 第4回 文献の解読報告・討論:理論・方法論 (2)
- 第5回 文献の解読報告・討論:理論・方法論 (3)
- 第6回 文献の解読報告・討論:理論・方法論 (4)
- 第7回 文献の解読報告・討論:理論・方法論 (5)
- 第8回 修士論文中間報告1
- 第9回 文献の解読報告・討論:実証研究 (1)
- 第10回 文献の解読報告・討論:実証研究 (2)
- 第11回 文献の解読報告・討論:実証研究 (3)
- 第12回 文献の解読報告・討論:実証研究 (4)
- 第13回 文献の解読報告・討論:実証研究 (5)
- 第14回 修士論文中間報告2

履修上の注意

日本語文献だけでなく、英語文献の解読も必要となる。翻訳ツールは利用してよいが、内容理解の正確さや精度に関しては、最終的に本人の責任であることを了解すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業に向けて、課題文献を熟読して、解読ノートを作成する。

教科書

特になし。

参考書

随時提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間中に口頭で評価やコメントを提示するほか、中間報告に対しては内容に関するコメントだけでなく、発表の技法などに関しても助言する。

成績評価の方法

毎回の課題・中間報告(40%)+最終報告(40%)+授業参加・貢献度(20%)
 3回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
 履修人数によって調整する可能性がある。
 より詳細な評価基準については授業内で説明する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO532J			
地理学専攻	備考		
科目名	地誌学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	山本 大策	

授業の概要・到達目標

この授業の実践的目的は、現代の人文地理学における理論的な課題や議論に裏打ちされた、実証研究の研究計画を立てることである。より具体的には、経済地理学とその隣接分野における関連文献を徹底的に読み解き、受講者が既存研究で見過ごされてきた理論的・実証的課題を同定し、検証可能な研究設問を構築した上で、研究計画書を作成することを目標とする。実証的なトピックに関しては、受講生の関心に応じて調整する。

授業内容

- 第1回 授業の概要
- 第2回 経済地理学の視点1
- 第3回 経済地理学の視点2
- 第4回 経済地理学の視点3
- 第5回 中間報告1
- 第6回 実証研究の解読1
- 第7回 実証研究の解読2
- 第8回 実証研究の解読3
- 第9回 中間報告2
- 第10回 データ分析手法の検討1
- 第11回 データ分析手法の検討2
- 第12回 データ分析手法の検討3
- 第13回 最終報告ドラフト検討
- 第14回 最終報告

履修上の注意

日本語文献だけでなく、英語文献の解読も必要となる。翻訳ツールは利用してよいが、内容理解の正確さや精度に関しては、最終的に本人の責任であることを了解すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業に向けて、課題文献を熟読して、解読ノートを作成する。

教科書

特になし。

参考書

随時提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間中に口頭で評価やコメントを提示するほか、中間報告に対しては内容に関するコメントだけでなく、発表の技法などに関しても助言する。

成績評価の方法

毎回の課題・中間報告(40%)+最終報告(40%)+ 授業参加・貢献度(20%)
 3回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
 履修人数によって調整する可能性がある。
 より詳細な評価基準については授業内で説明する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO632J			
地理学専攻		備考	
科目名	地誌学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	山本 大策	

授業の概要・到達目標

地誌学演習ⅡA、ⅡBの履修によって培われた各自の研究計画をもとにして、修士論文作成に向けて準備をしていく。受講者は研究の進捗状況について、定期的に報告を行う。

授業内容

- 第1回 演習の方針・履修者の研究計画の確認
- 第2回 修士論文計画書(1)
- 第3回 修士論文計画書(2)
- 第4回 修士論文計画書(3)
- 第5回 調査・分析方法(1)
- 第6回 調査・分析方法(2)
- 第7回 調査・分析方法(3)
- 第8回 調整回
- 第9回 調査結果中間報告(1)
- 第10回 調査結果中間報告(2)
- 第11回 調査結果中間報告(3)
- 第12回 追加調査・改善点の検討(1)
- 第13回 追加調査・改善点の検討(2)
- 第14回 追加調査・改善点の検討(3)

履修上の注意

日本語文献だけでなく、英語文献の解読も必要となる。翻訳ツールは利用してよいが、内容理解の正確さや精度に関しては、最終的に本人の責任であることを了解すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業に向けて、課題文献を熟読して、報告の準備をする。

教科書

特になし。

参考書

随時提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の課題・報告(80%)+授業参加・貢献度(20%)
3回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
履修人数によって調整する可能性がある。
より詳細な評価基準については授業内で説明する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO632J			
地理学専攻		備考	
科目名	地誌学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.	山本 大策	

授業の概要・到達目標

地誌学演習ⅡCに引き続き、修士論文完成に向けて準備をしていく。受講者は研究の進捗状況について、定期的に報告を行う。

授業内容

- 第1回 演習の方針・夏休み中の研究の進展について
- 第2回 修士論文導入部の再検討(1)
- 第3回 修士論文導入部の再検討(2)
- 第4回 修士論文導入部の再検討(3)
- 第5回 調査結果の再検討(1)
- 第6回 調査結果の再検討(2)
- 第7回 調査結果の再検討(3)
- 第8回 調整回
- 第9回 最終原稿にむけて(1)
- 第10回 最終原稿にむけて(2)
- 第11回 推敲作業(1)
- 第12回 推敲作業(2)
- 第13回 修士論文最終報告(1)
- 第14回 修士論文最終報告(2)

履修上の注意

日本語文献だけでなく、英語文献の解読も必要となる。翻訳ツールは利用してよいが、内容理解の正確さや精度に関しては、最終的に本人の責任であることを了解すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業や報告にむけて万全の準備をする。

教科書

特になし。

参考書

随時提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の課題・中間報告(40%)+最終報告(40%)+授業参加・毎回の課題・報告(80%)+授業参加・貢献度(20%)
3回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
履修人数によって調整する可能性がある。
より詳細な評価基準については授業内で説明する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO532J			
地理学専攻		備考	
科目名	地誌学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(地理学) 中川 秀一		

授業の概要・到達目標

日本における農山村に関する地理学研究について理解を深める。そのために農村地理学に関する従来のテキストや重要な展望論文等を講読する。次に産業地理学特に農業・林業を中心とする一次産業の地理学研究についてもあわせて検討し、日本における農村地理学研究の潮流を整理する。さらに隣接分野、特に農業経済学や社会学などにおける農村研究を検討し、地理学の観点から日本における農村研究の潮流を整理する。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 農村地理学の基本文献講読①
- (3) 同上②
- (4) 同上③
- (5) 山村研究の基本文献講読①
- (6) 同上②
- (7) 同上③
- (8) 農業・林業地理学の基本文献講読①
- (9) 同上②
- (10) 同上③
- (11) 農業経済学研究の基本文献講読①
- (12) 同上②
- (13) 農村に関する社会学の基本文献講読①
- (14) 同上②

履修上の注意

毎時間出席し、与えられた課題を提出すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告に際しては必ずレジメを用意すること。

教科書

岡橋秀典『現代農村の地理学』古今書院

参考書

「地理学評論」「人文地理」「経済地理学年報」掲載の論文

課題に対するフィードバックの方法

課題への対応に関する講評をその都度行う。

成績評価の方法

授業への参加・課題の提出によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO532J			
地理学専攻		備考	
科目名	地誌学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(地理学) 中川 秀一		

授業の概要・到達目標

英語圏を中心とする農山村に関する地理学研究を参照し、農村地理学について理解を深める。そのために従来の農村研究に関する英文テキストや重要な展望論文等を講読する。さらに隣接分野、特に観光・ツーリズムや農村計画などにおける研究を検討して、農村研究の潮流を整理する。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 英語圏における農村地理学の基本文献講読①
- (3) 同上②
- (4) 同上③
- (5) 同上④
- (6) 同上⑤
- (7) 農村における観光・ツーリズム研究の基本文献講読①
- (8) 同上②
- (9) 同上③
- (10) 同上④
- (11) 農村計画分野の基本文献講読①
- (12) 同上②
- (13) 同上③
- (14) 同上④

履修上の注意

毎時間出席し、与えられた課題を提出すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告に際しては必ずレジメを用意すること。

教科書

M.ウッズ『ルーラル：農村とは何か』農林統計出版（絶版のため、コピーを配布する）

参考書

Rural Studies掲載論文を中心とする英文論文及び「地理学評論」「人文地理」「経済地理学年報」「農村計画学会誌」掲載の論文
中塚雅也・山下良平・斎尾直子編『農村計画研究レビュー 2022 10年間の農村計画学を読み解く』筑波書房

課題に対するフィードバックの方法

課題への対応に関する講評をその都度行う。

成績評価の方法

授業への参加・課題の提出によって評価する。

その他

博士前期課程

科目ナンバー：(AL) GEO632J			
地理学専攻	備考		
科目名	地誌学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(地理学) 中川 秀一		

授業の概要・到達目標

地誌学演習ⅢA、ⅢBの履修によって培われた各自の問題意識のもとに、修士論文作成に向けた準備をする。受講者は研究の進捗状況について、定期的に報告を求められる。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 修士論文構想①
- (3) 同上②
- (4) 修士論文文献報告Ⅰ①
- (5) 同上②
- (6) 同上③
- (7) 同上④
- (8) 修士論文中間報告Ⅰ①
- (9) 同上②
- (10) 修士論文調査企画①
- (11) 同上②
- (12) 修士論文中間報告Ⅱ①
- (13) 同上②
- (14) 同上③

履修上の注意

毎時間出席し、与えられた課題を提出すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告に際しては必ずレジメを用意すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

随時提示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題への対応に関する講評をその都度行う。

成績評価の方法

授業への参加・課題の提出によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO632J			
地理学専攻	備考		
科目名	地誌学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(地理学) 中川 秀一		

授業の概要・到達目標

地誌学演習ⅢCに引き続き、修士論文の作成に向けて準備をしていく。受講者は研究の進捗状況について、定期的に報告を求められる。

授業内容

- (1) 夏季休業期間中の調査報告①
- (2) 同上②
- (3) 修士論文文献報告Ⅱ①
- (4) 同上②
- (5) 同上③
- (6) 同上④
- (7) 修士論文中間報告Ⅲ①
- (8) 同上②
- (9) 修士論文調査報告①
- (10) 同上②
- (11) 同上③
- (12) 同上④
- (13) 修士論文最終報告①
- (14) 同上②

履修上の注意

毎時間出席し、与えられた課題を提出すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告に際しては必ずレジメを用意すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

随時提示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題への対応に関する講評をその都度行う。

成績評価の方法

授業への参加・課題の提出によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO592J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学合同演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	川口太郎、梅本 亨、大城直樹、中澤高志、山本大策、中川秀一、佐々木夏来		

授業の概要・到達目標

地理学専攻の大学院生にとってもっとも重要な科目である。履修者は各自の研究計画に沿って文献研究による研究展望、国内外の調査分析の成果などを報告する。地理学専攻に属する全ての教員および院生が一堂に会し、その内容について討論し評価する。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 前期課程1年生による卒業論文(改訂版)発表1
- (3) 前期課程1年生による卒業論文(改訂版)発表2
- (4) 博士論文提出予定者による研究報告(その1) 1
- (5) 博士論文提出予定者による研究報告(その1) 2
- (6) 博士論文提出予定者による研究報告(その1) 3
- (7) 修士論文提出予定者による研究報告(その1) 1
- (8) 修士論文提出予定者による研究報告(その1) 2
- (9) 修士論文提出予定者による研究報告(その1) 3
- (10) 前期課程1年生による学習報告(その1) 1
- (11) 前期課程1年生による学習報告(その1) 2
- (12) 修士論文提出予定者による研究報告(その2) 1
- (13) 修士論文提出予定者による研究報告(その2) 2
- (14) 修士論文提出予定者による研究報告(その2) 3

履修上の注意

報告はパワーポイントを使用すること。
参加者全員に紙媒体でのハンドアウト(レジュメ)を用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者は学習・研究計画について各自の指導教員と十分に打ち合わせをしておく必要がある。
発表者は演習の年次計画にしたがい、予め十分に準備することはもとより、プレゼンテーションにも配慮する必要がある。

教科書

使用せず

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

報告に対する講評をその都度行う。

成績評価の方法

与えられた課題(口頭発表)を果たすことを最低限の条件とし、併せて討論への参加状況を加味して評価する。

その他

地理学合同演習Aにおける報告の成果は、討論の内容を加味して年度末までに論文形式でとりまとめ、担当教員に提出するものとする。

科目ナンバー：(AL) GEO592J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学合同演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	川口太郎、梅本 亨、大城直樹、中澤高志、山本大策、中川秀一、佐々木夏来		

授業の概要・到達目標

地理学合同演習Aに引き続き、履修者は各自の研究計画に沿って文献研究による研究展望、国内外の調査分析の成果などをふまえたうえで、学位論文の構想を報告する。地理学専攻に属する全ての教員および院生が一堂に会し、その内容について討論し評価する。

授業内容

- (1) 修士論文提出予定者による中間報告1
- (2) 修士論文提出予定者による中間報告2
- (3) 修士論文提出予定者による中間報告3
- (4) 前期課程1年生による学習報告(その2) 1
- (5) 前期課程1年生による学習報告(その2) 2
- (6) 前期課程1年生による学習報告(その2) 3
- (7) 博士論文提出予定者による包括的報告1
- (8) 博士論文提出予定者による包括的報告2
- (9) 博士論文提出予定者による包括的報告3
- (10) 前期課程1年生による修士論文構想報告1
- (11) 前期課程1年生による修士論文構想報告2
- (12) 修士論文提出予定者による最終報告1
- (13) 修士論文提出予定者による最終報告2
- (14) 修士論文公開報告会(終了後に別途口頭試問)

履修上の注意

発表はパワーポイントを使用すること。
参加者全員分の紙媒体のハンドアウト(レジュメ)を用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者は学習・研究計画について各自の指導教員と十分に打ち合わせをしておく必要がある。
発表者は演習の年次計画にしたがい、予め十分に準備することはもとより、プレゼンテーションにも配慮する必要がある。

教科書

使用せず

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

報告後その都度講評を行う。

成績評価の方法

与えられた課題(口頭発表)を果たすことを最低限の条件とし、併せて討論への参加状況を加味して評価する。

その他

地理学合同演習Bにおける報告の成果は、討論の内容を加味して年度末までに論文形式でとりまとめ、担当教員に提出するものとする。

科目ナンバー：(AL) GEO692J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学合同演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	川口太郎、梅本 亨、大城直樹、中澤高志、山本大策、中川秀一、佐々木夏来		

授業の概要・到達目標

地理学合同演習Bに引き続き、履修者は各自の研究計画に沿って文献研究による研究展望、国内外の調査分析の成果などを踏まえたうえで、学位論文の具体的計画とその途中経過を報告する。地理学専攻に属する全ての教員および院生が一堂に会し、その内容について討論し評価する。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 前期課程1年生による卒業論文(改訂版)発表1
- (3) 前期課程1年生による卒業論文(改訂版)発表2
- (4) 博士論文提出予定者による研究報告(その1) 1
- (5) 博士論文提出予定者による研究報告(その1) 2
- (6) 博士論文提出予定者による研究報告(その1) 3
- (7) 修士論文提出予定者による研究報告(その1) 1
- (8) 修士論文提出予定者による研究報告(その1) 2
- (9) 修士論文提出予定者による研究報告(その1) 3
- (10) 前期課程1年生による学習報告(その1) 1
- (11) 前期課程1年生による学習報告(その1) 2
- (12) 修士論文提出予定者による研究報告(その2) 1
- (13) 修士論文提出予定者による研究報告(その2) 2
- (14) 修士論文提出予定者による研究報告(その2) 3

履修上の注意

発表はパワーポイントを使用すること。
参加者全員分の紙媒体のハンドアウト(レジュメ)を用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者は学習・研究計画について各自の指導教員と十分に打ち合わせをしておく必要がある。
発表者は演習の年次計画にしたがい、予め十分に準備することはもとより、プレゼンテーションにも配慮する必要がある。

教科書

使用せず

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

発表後その都度講評を行う。

成績評価の方法

与えられた課題(口頭発表)を果たすことを最低限の条件とし、併せて討論への参加状況を加味して評価する。

その他

地理学合同演習Cにおける報告の成果は、討論の内容を加味して年度末までに論文形式でとりまとめ、担当教員に提出するものとする。

科目ナンバー：(AL) GEO692J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学合同演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	川口太郎、梅本 亨、大城直樹、中澤高志、山本大策、中川秀一、佐々木夏来		

授業の概要・到達目標

地理学合同演習Cに引き続き、履修者は各自の研究計画に沿って文献研究による研究展望、国内外の調査分析の成果などをふまえたうえで、学位論文の詳細な内容を報告する。地理学専攻の全教員および全院生が一堂に会し、その内容について討論し評価する。

授業内容

- (1) 修士論文提出予定者による中間報告1
- (2) 修士論文提出予定者による中間報告2
- (3) 修士論文提出予定者による中間報告3
- (4) 前期課程1年生による学習報告(その2) 1
- (5) 前期課程1年生による学習報告(その2) 2
- (6) 前期課程1年生による学習報告(その2) 3
- (7) 博士論文提出予定者による包括的報告1
- (8) 博士論文提出予定者による包括的報告2
- (9) 博士論文提出予定者による包括的報告3
- (10) 前期課程1年生による修士論文構想報告1
- (11) 前期課程1年生による修士論文構想報告2
- (12) 修士論文提出予定者による最終報告1
- (13) 修士論文提出予定者による最終報告2
- (14) 修士論文公開報告会(終了後に別途口頭試問)

履修上の注意

発表はパワーポイントを使用すること。
紙媒体でのハンドアウト(レジュメ)を参加者分用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者は学習・研究計画について各自の指導教員と十分に打ち合わせをしておく必要がある。
発表者は演習の年次計画にしたがい、予め十分に準備することはもとより、プレゼンテーションにも配慮する必要がある。

教科書

使用せず

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

発表後、その都度講評を行なう。

成績評価の方法

与えられた課題(口頭発表)を果たすことを最低限の条件とし、併せて討論への参加状況を加味して評価する。

その他

地理学合同演習Dにおける報告の成果は、討論の内容を加味して年度末までに論文形式でとりまとめ、担当教員に提出するものとする。

科目ナンバー：(AL) GEO521J			
地理学専攻	備考		
科目名	自然地理学特論 I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(理学)	須貝	俊彦

授業の概要・到達目標

自然地理学のとくに地形学を中心に最近の研究動向について研究論文やテキストを中心にレビューし、自然地理学研究の基本課題について展望する。

授業内容

- 第1回 自然地理学・地形学の最近の動向
- 第2回 河川地形学の研究動向(1)沖積低地
- 第3回 河川地形学の研究動向(2)河成段丘
- 第4回 河川地形学の研究動向(3)河谷
- 第5回 変動地形学の研究動向(1)内陸活断層
- 第6回 変動地形学の研究動向(2)プレート境界断層
- 第7回 変動地形学の研究動向(3)活褶曲地形
- 第8回 山地・火山地形学の研究動向(1)侵食小起伏面
- 第9回 山地・火山地形学の研究動向(2)斜面地形
- 第10回 山地・火山地形学の研究動向(3)成層火山地形
- 第11回 海岸地形学の研究動向(1)海岸低地
- 第12回 海岸地形学の研究動向(2)海成段丘
- 第13回 海底地形学の研究動向(3)海底地形
- 第14回 総括

履修上の注意

論文紹介していただく機会を設ける。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

なし

参考書

なし。研究論文を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO521J			
地理学専攻	備考		
科目名	自然地理学特論 I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(理学)	須貝	俊彦

授業の概要・到達目標

自然地理学の最近の研究動向について研究論文やテキストを中心にレビューし、自然地理学研究の基本課題について展望する。

授業内容

- 第1回 自然地理学の最近の動向
- 第2回 河川流域の研究動向(1)水循環と水文流出
- 第3回 河川流域の研究動向(2)豪雨災害の頻発と流域治水
- 第4回 河川流域の研究動向(3)水資源開発と水質保全
- 第5回 乾燥・半乾燥地域の研究動向、気候変動によるフラッシュ干ばつ
- 第6回 氷河地域の研究動向、気候変動による氷河の縮小
- 第7回 周氷河地域の研究動向、気候変動にともなう永久凍土の融解
- 第8回 山地・丘陵地の研究動向、気候変動に伴う土砂災害の激化
- 第9回 平野の地形、開発、保全に関わる研究動向
- 第10回 海岸の地形、開発、保全に関わる研究動向
- 第11回 温暖化にともなう、平野海岸地域の環境変化
- 第12回 海洋の研究動向、海洋酸性化、海洋プラスチック汚染
- 第13回 プラネタリーバウンダリーに関わる研究動向
- 第14回 総括

履修上の注意

論文紹介していただく機会を設ける。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

なし

参考書

なし。適宜、参考となる文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

個別にコメントをかえし、双方向での議論を深める。

成績評価の方法

平常点で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) GEO511J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学特論ⅠA		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(学術)	箸本 健二	

授業の概要・到達目標

人文地理学特論Ⅰでは、第三次産業のうち特に商業立地と商業政策を取り扱う。このうちⅠAでは、チェーンストアを中心とする商業施設の立地や配送システムの空間構造を、近代、商圈特性、情報化、取引コストなどに注目しつつ主要な業態別に議論する。また、バブル経済崩壊や少子高齢化社会の到来など、1990年代以降の社会経済的な変化の中で、小売流通資本や既存業態の成長モデルがどのような課題を抱え、既存の業態がどのような課題を抱えているかを議論する。

なお、講義内容と講読文献は、履修者の研究テーマや関心をふまえ、相談の上で適宜変更する。

授業内容

- 第1回：総論(1)：小売商業立地と地理学
- 第2回：総論(2)：「流通革命」：業種の衰退と業態の台頭
- 第3回：高次消費財の供給：百貨店の立地とその変容
- 第4回：低次消費財の供給(1)：スーパーの立地モデル
- 第5回：低次消費財の供給(2)：コンビニの立地モデル
- 第6回：小売業の郊外シフトをめぐる企業戦略
- 第7回：商品配送と店舗立地(1)：時間最小化モデル
- 第8回：商品配送と店舗立地(2)：費用最小化モデル
- 第9回：消費財流通におけるパワーシフトと取引コスト
- 第10回：商業と地域コミュニティ(1)
- 第11回：商業と地域コミュニティ(2)
- 第12回：消費の分極化と小売業態(1)高質スーパーの台頭
- 第13回：消費の分極化と小売業態(2)ローコスト業態の空間的オペレーション
- 第14回：春学期総括

履修上の注意

消費や流通は身近なテーマであり、日常の消費生活の中で気づいた点や生じた疑問を考察の切り口としてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の講義は、原則としていくつかの既出論文の知見に基づいて構成される。次回の講義で取り上げる論文について毎回紹介するので、予習・復習に利用してほしい。

教科書

特に指定しない。原則として毎回レジュメを配布する。

参考書

荒井良雄・箸本健二『日本の流通と都市空間』(古今書院)、荒井良雄・箸本健二『流通空間の再構築』(古今書院)、土屋純・兼子純『小商圈時代の流通システム』(古今書院)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度、討論への参加等を総合的に検討する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) GEO511J			
地理学専攻	備考		
科目名	人文地理学特論ⅠB		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(学術)	箸本 健二	

授業の概要・到達目標

人文地理学特論Ⅰでは、第三次産業のうち特に商業立地と商業政策を取り扱う。このうちⅠBでは、日本の地方都市で深刻化している中心市街地の空洞化問題を取り上げ、その背景にある政策の是非をめぐる議論を行う。講義では、中心市街地における事業用不動産の低未利用化(空き不動産化)に軸足を置きつつ、日本の地方都市における中心市街地問題の構造と対応、そして政策課題について考察する。

なお、授業内容や講読論文は、履修者の研究テーマや興味関心をふまえ、適宜変更する。

授業内容

- 第1回：総論(1)：経済活動の縮退と地方都市
- 第2回：総論(2)：地方都市における空き不動産問題
- 第3回：日本の中心市街地政策(1)：大店法に基づく「調整」
- 第4回：日本の中心市街地政策(2)：まちづくり3法の矛盾
- 第5回：日本の中心市街地政策(3)：改正まちづくり3法の理念と現実的課題
- 第6回：立地適正化計画—コンパクトシティはなぜ実現が難しいか
- 第7回：ケーススタディ(1)：区画整理事業を軸とする従来型再開発手法の限界
- 第8回：ケーススタディ(2)：上下(所有—利用)分離とリノベーションによるまちづくり
- 第9回：ケーススタディ(3)：不動産証券化など新しい資金調達方法
- 第10回：ケーススタディ(4)：景観・まちなみの資源化
- 第11回：ケーススタディ(5)：中心市街地のダウンサイジング型開発
- 第12回：まちづくり政策の国際比較
- 第13回：国の論理・地方の論理：まちづくりをめぐる「人文学」的視点
- 第14回：秋学期総括

履修上の注意

中心市街地問題は日本の地方都市が直面する喫緊の課題であり、受講者にとって身近な出来事を講義内容と対照しながら考察してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の講義の骨子は、原則として、いくつかの研究書と学術論文に基づいて構成される。次回の講義で取り上げる書籍・論文について毎回紹介するので、予習・復習に利用してほしい。

教科書

特に指定しない。原則として毎回レジュメを配布する。

参考書

箸本健二・武者忠彦編『空き不動産問題から考える地方都市再生』(ナカニシヤ出版)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度、討論への参加等を総合的に検討する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) GEO631J			
地理学専攻	備考		
科目名	地誌学特論I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(地理学) 中川 秀一		

授業の概要・到達目標

農村とは何か。自明のようで現代の農村の学術的な定義は必ずしも容易ではない。しかし、都市と農村とは、人類が作り出してきた定住形態として人々の思考や生活、さらには制度の基盤となってきた概念である。世界的に人口が増大してきた20世紀は、都市の時代とも呼ばれる。一方、21世紀の日本は縮小過程に入り、やがて世界人口も定常化すると推測されている。都市とは異なる生活様式のあり方の価値を考えることが重要になってきている。本講義では、「農村」について、イギリスにおける研究書を手引きとして再考することによってこのテーマを考えてみたい。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション 問題の所在
- 第2回 「ポスト資本主義」論を読む
- 第3回 「ポスト資本主義」論の課題を検討
- 第4回 「ルーラル：農村とは何か」を読む
- 第5回 農村へのアプローチ
- 第6回 農村のイメージ
- 第7回 農村の開発
- 第8回 農村の消費
- 第9回 農村の発展
- 第10回 農村の暮らし
- 第11回 農村の演技
- 第12回 農村の政策
- 第13回 農村の再構築
- 第14回 日本農村についての議論

履修上の注意

テキストを用いるので準備すること。
適宜、各自の研究の進行状況を踏まえながら議論する。

準備学習（予習・復習等）の内容

予めテキストを読んで参加すること。

教科書

M. Woods (2011) *rural*, Routledge
高柳長直・中川秀一監訳『ルーラル：農村とは何か』農林統計、2018年。

参考書

講義中に提示する。まずは次のもの。小田切徳美編（2022）『新しい地域をつくる』岩波書店。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義での報告（50%）、提出レポート（50%）を評価基準とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) GEO631J			
地理学専攻	備考		
科目名	地誌学特論I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(地理学) 中川 秀一		

授業の概要・到達目標

人口減少による縮小社会へと転じた日本の国土周辺地域の置かれている状況変化と地域からのその対応について考える。「地方消滅」や限界集落の考え方を検証し、地域再生、田園回帰、創造農村などの議論を照らし合わせながら講義を進める。文献演習を主としつつ、統計資料の分析の演習を交える。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション 問題の所在
- 第2回 「地方消滅」論を読む
- 第3回 「地方消滅」論のその後の経過についての議論
- 第4回 「田園回帰」への視角
- 第5回 田園回帰時代の農山村
- 第6回 三重県における人口変化の空間的プロセスと田園回帰
- 第7回 和歌山県下田市町村の将来人口推計と田園回帰
- 第8回 人口動向の検討
- 第9回 移住支援のモノグラフ
- 第10回 移住者受け入れによる住まいのつなぎ方
- 第11回 移住者受け入れとなりわいづくり
- 第12回 農村空間の商品化からコモンの再創造への「田園回帰」
- 第13回 社会連帯経済と「田園回帰」の接点を探る
- 第14回 田園回帰とネオ内発的發展論

履修上の注意

テキストの講読を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

参考文献にもできるだけ目を通しておくこと。

教科書

筒井一伸編（2021）『田園回帰がひらく新しい都市農山村関係 現場から理論まで』ナカニシヤ出版。

参考書

講義中に提示する。まずは次のもの。小田切徳美・筒井一伸（2016）『田園回帰の過去・現在・未来』農文協。松永桂子（2012）『創造的地域社会』新評論。増田寛也編（2014）『地方消滅』中公新書。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義での報告（50%）、提出レポート（50%）を評価基準とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) GEO591J			
地理学専攻	備考		
科目名	地理学フィールドワークA		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	川口太郎、梅本 亨、大城直樹、中澤高志、山本大策、中川秀一、佐々木夏来		

授業の概要・到達目標

地理学研究において欠かせない野外調査および統計分析やGISなどを用いた地域研究に関する方法・手法について講義する。野外調査および地域研究は修士論文作成においても必須条件としているので、前期課程1年生はできる限り受講することが望ましい。なお、講義は各教員がそれぞれの専門分野における上記の方法・手法の基礎を概論的に講義するオムニバス形式で行う。

授業内容

- (1) イントロダクション…全員
- (2) 地理学におけるフィールドワーク方法論1(人文)…川口・大城・中澤
- (3) 地理学におけるフィールドワーク方法論2(自然)…梅本・佐々木
- (4) 地理学におけるフィールドワーク方法論3(地誌)…山本・中川
- (5) 人文地理学のフィールド技法1…川口・大城・中澤
- (6) 人文地理学のフィールド技法2…川口・大城・中澤
- (7) 人文地理学のフィールド技法3…川口・大城・中澤
- (8) 自然地理学のフィールド技法1…梅本・佐々木
- (9) 自然地理学のフィールド技法2…梅本・佐々木
- (10) 自然地理学のフィールド技法3…梅本・佐々木
- (11) 地誌学のフィールド技法1…山本・中川
- (12) 地誌学のフィールド技法2…山本・中川
- (13) 地誌学のフィールド技法3…山本・中川
- (14) 地理学におけるフィールドワーク技法総論…全員

履修上の注意

集中授業の形態をとっているが、合同演習の終了後に授業を行い、そこで講義およびフィールド調査構想の検討を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当教員が別途実施する学部の野外実習に参加し、担当教員の監督の下で学生指導の実習を行うが、そのための指導案を予め作成する必要がある。

教科書

使用せず

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

フィールドワーク後、その都度講評を行う。

成績評価の方法

授業への参加状況と討論への参加状況を加味して評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) GEO591J			
地理学専攻	備考		
科目名	地理学フィールドワークB		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	川口太郎、梅本 亨、大城直樹、中澤高志、山本大策、中川秀一、佐々木夏来		

授業の概要・到達目標

地理学研究において欠かせない野外調査および統計分析やGISなどを用いた地域研究に関する方法・手法について講義する。野外調査および地域研究は修士論文作成においても必須条件としているので、前期課程1年生はできる限り受講することが望ましい。なお、講義は各教員がそれぞれの専門分野における上記の方法・手法の応用的な内容を講義するオムニバス形式で行う。

授業内容

- (1) イントロダクション…全員
- (2) 地理学におけるフィールドワーク理論1(人文)…川口・大城・中澤
- (3) 地理学におけるフィールドワーク理論2(自然)…梅本・佐々木
- (4) 地理学におけるフィールドワーク理論3(地誌)…山本・中川
- (5) 人文地理学のフィールド分析1…川口・大城・中澤
- (6) 人文地理学のフィールド分析2…川口・大城・中澤
- (7) 人文地理学のフィールド分析3…川口・大城・中澤
- (8) 自然地理学のフィールド分析1…梅本・佐々木
- (9) 自然地理学のフィールド分析2…梅本・佐々木
- (10) 自然地理学のフィールド分析3…梅本・佐々木
- (11) 地誌学のフィールド分析1…山本・中川
- (12) 地誌学のフィールド分析2…山本・中川
- (13) 地誌学のフィールド分析3…山本・中川
- (14) 地理学におけるフィールドワーク分析総論…全員

履修上の注意

集中授業の形態をとっているが、合同演習の終了後に授業を行い、そこで講義およびフィールド調査構想の検討を行う。講義の内容を十分に理解するためには、基礎的な内容の概論をおこなう地理学フィールドワークAを履修しておくことが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当教員が別途実施する学部の野外実習に参加し、担当教員の監督の下で学生指導の実習を行うが、そのための指導案を予め作成する必要がある。

教科書

使用せず

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

フィールドワーク後に、その都度講評を行う。

成績評価の方法

授業への参加状況と討論への参加状況を加味して評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) IND512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学総合演習A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	臨床人間学専攻教員全員		

授業の概要・到達目標

臨床心理学、社会学、教育学のさまざまな研究テーマについて、とりわけ本専攻の専任教員がカバーする研究領域のテーマについて、学際的な観点からの検討を行なう。そのことを通じて、臨床心理学・社会学・教育学の視点を有機的に結びつけ、本専攻の院生が単に臨床心理学あるいは社会学や教育学のそれぞれの専門性を身につけるだけでなく、心理－社会－教育の総合的な視野に立った臨床の専門家になることを主眼とする。臨床心理学・社会学・教育学の教員が共同で授業を担当し、受講生各自の研究テーマに基づく発表に対して指導・助言とディスカッションを受講生および教員間で双方向的に行なう。

授業内容

第1回：全体のオリエンテーション
 第2回～第5回：修士論文に関する研究報告とディスカッション

履修上の注意

基本的には、受講生が指導教員の下で取り組む研究テーマの推進とプレゼンテーションを軸に行われる。その際、学際的な広い視野を常に持ち続けることが望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前調査、授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧にを行うこと。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時において教員から提示された課題に対する院生の回答については、当該教員より、講評する。

成績評価の方法

プレゼンテーション、ディスカッションの内容を総合して評価する。

その他

本演習は、臨床人間学専攻の必修科目であり、他専攻の学生は受講できない。なお、本演習は、1年次・2年次ともに履修することが必要である。

科目ナンバー：(AL) IND512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学総合演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	臨床人間学専攻教員全員		

授業の概要・到達目標

臨床心理学、社会学、教育学のさまざまな研究テーマについて、とりわけ本専攻の専任教員がカバーする研究領域のテーマについて、学際的な観点からの検討を行なう。そのことを通じて、臨床心理学・社会学・教育学の視点を有機的に結びつけ、本専攻の院生が単に臨床心理学あるいは社会学や教育学のそれぞれの専門性を身につけるだけでなく、心理－社会－教育の総合的な視野に立った臨床の専門家になることを主眼とする。臨床心理学・社会学・教育学の教員が共同で授業を担当し、受講生各自の研究テーマに基づく発表に対して指導・助言とディスカッションを受講生および教員間で双方向的に行なう。

授業内容

第1回：全体のオリエンテーション
 第2回～第5回：修士論文に関する研究報告とディスカッション

履修上の注意

基本的には、受講生が指導教員の下で取り組む研究テーマの推進とプレゼンテーションを軸に行われる。その際、学際的な広い視野を常に持ち続けることが望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前調査、授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧にを行うこと。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

院生の発表内容について、教員より提示された課題に対する当該院生からの回答については、当該教員より、講評する。

成績評価の方法

プレゼンテーション、ディスカッションの内容を総合して評価する。

その他

本演習は、臨床人間学専攻の必修科目であり、他専攻の学生は受講できない。なお、本演習は、1年次・2年次ともに履修することが必要である。

科目ナンバー：(AL) IND612J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学総合演習C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	臨床人間学専攻教員全員		

授業の概要・到達目標

臨床心理学、社会学、教育学のさまざまな研究テーマについて、とりわけ本専攻の専任教員がカバーする研究領域のテーマについて、学際的な観点からの検討を行なう。そのことを通じて、臨床心理学・社会学・教育学の視点を有機的に結びつけ、本専攻の院生が単に臨床心理学あるいは社会学や教育学のそれぞれの専門性を身につけるだけでなく、心理-社会-教育の総合的な視野に立った臨床の専門家になることを主眼とする。臨床心理学・社会学・教育学の教員が共同で授業を担当し、受講生各自の研究テーマに基づく発表に対して指導・助言とディスカッションを受講生および教員間で双方向に行なう。

授業内容

第1回：全体のオリエンテーション
第2回～第5回：修士論文に関する研究報告とディスカッション

履修上の注意

基本的には、受講生が指導教員の下で取り組む研究テーマの推進とプレゼンテーションを軸に行われる。その際、学際的な広い視野を常に持ち続けることが望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前調査、授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧にを行うこと。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

院生の発表内容について、教員より提示された課題に対する当該院生からの回答については、当該教員より、講評する。

成績評価の方法

プレゼンテーション、ディスカッションの内容を総合して評価する。

その他

本演習は、臨床人間学専攻の必修科目であり、他専攻の学生は受講できない。なお、本演習は、1年次・2年次ともに履修することが必要である。

科目ナンバー：(AL) IND612J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学総合演習D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	臨床人間学専攻教員全員		

授業の概要・到達目標

臨床心理学、社会学、教育学のさまざまな研究テーマについて、とりわけ本専攻の専任教員がカバーする研究領域のテーマについて、学際的な観点からの検討を行なう。そのことを通じて、臨床心理学・社会学・教育学の視点を有機的に結びつけ、本専攻の院生が単に臨床心理学あるいは社会学や教育学のそれぞれの専門性を身につけるだけでなく、心理-社会-教育の総合的な視野に立った臨床の専門家になることを主眼とする。臨床心理学・社会学・教育学の教員が共同で授業を担当し、受講生各自の研究テーマに基づく発表に対して指導・助言とディスカッションを受講生および教員間で双方向に行なう。

授業内容

第1回：全体のオリエンテーション
第2回～第5回：修士論文に関する研究報告とディスカッション

履修上の注意

基本的には、受講生が指導教員の下で取り組む研究テーマの推進とプレゼンテーションを軸に行われる。その際、学際的な広い視野を常に持ち続けることが望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前調査、授業中に発生した疑問点の再調査などを丁寧にを行うこと。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

院生の発表内容について、教員より提示された課題に対する当該院生からの回答については、当該教員より、講評する。

成績評価の方法

プレゼンテーション、ディスカッションの内容を総合して評価する。

その他

本演習は、臨床人間学専攻の必修科目であり、他専攻の学生は受講できない。なお、本演習は、1年次・2年次ともに履修することが必要である。

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理学特論A		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(心理学) 濱田 祥子		

授業の概要・到達目標

臨床実践や臨床心理士の職務内容の特徴について検討する。心理臨床を行う上で生じる問題についても検討し、心理臨床についての理解を深める。第7回までは心理臨床に関する基本的な内容を扱う。第8回以降は子どもの心理療法及び親面接に関する内容を扱う。これらを通して、心理臨床を行う上での基本的な姿勢、認識を養うことを目標とする。

授業内容

- 第1回：オリエンテーション、授業の進め方の説明、担当の決定
- 第2回：第1章 カウンセリングとは何か
- 第3回：第2章 カウンセリングの過程
- 第4回：第3章 心の構造
- 第5回：第4章 カウンセラーの態度と理論
- 第6回：第5章 ひとつの事例
- 第7回：第6章 カウンセリングの終結と評価
- 第8回：第7章 カウンセラーの訓練と指導
- 第9回：第8章 カウンセラーとクライアントの関係
- 第10回：第9章 カウンセラーの仕事・付章 スーパーバイザーの役割
- 第11回：遊戯療法の理論と実際1
『遊戯療法』岩崎学術出版社V.M.アクスライン(著)小林治夫(訳)
- 第12回：遊戯療法の理論と実際2
『児童分析入門』岩崎学術出版社A.フロイト(著)岩村由美子・中沢たえ子(訳)
- 第13回：遊戯療法の実際
- 第14回：親面接(これまでの研究等について・事例検討)

履修上の注意

教科書、資料をもとに各回の課題について担当者がレジュメを作成する。担当者の発表をもとに、全体でディスカッションを行う。
担当に関しては、初回の授業で決定する。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当者は指定された教科書以外の専門書をもとに、レジュメを準備すること。

教科書

- 第2回から第10回：『カウンセリングの実際問題』誠信書房 河合隼雄
- 第11回から第14回の資料については、授業内で指示する。

参考書

- 『遊戯療法』岩崎学術出版社V.M.アクスライン(著)小林治夫(訳)
- 『児童分析入門』岩崎学術出版社 アンナフロイト著作集 牧田清志・黒丸正四郎監修
- 『開かれた小さな扉』日本エディタースクール出版部V.M.アクスライン(著)岡本浜江(訳)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表の内容(50%)、ディスカッションへの参加態度(50%)

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理学特論B		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(教育学) 佐々木 掌子		

授業の概要・到達目標

ジェンダーとセクシュアリティに関する臨床心理学的援助について検討する。特に、心理職側の意識化できていない「性の規範」によって、クライアントにどのような影響が及ぼされるのか考えてもらう。ジェンダーやセクシュアリティの生きづらさに加え、うつや不安、発達障害などが併発しているケースについても取り扱っていきたい。到達目標は、各テーマに関する重要概念や理論を理解すること、実際の臨床実践における基本的な心理学的援助法の方向性をイメージできるようになること、そして自らの抱く「性の規範」をメタ認知できるようにすること、である。

授業内容

- 第1回：性科学と臨床心理学(総論)
- 第2回：性機能障害(1)
- 第3回：性機能障害(2)
- 第4回：生殖医療とカウンセリング
- 第5回：性暴力被害
- 第6回：性暴力加害
- 第7回：セックスワーカーの性的健康
- 第8回：HIV/AIDSカウンセリング
- 第9回：性的指向とカウンセリング
- 第10回：性的嗜好とパラフィリア
- 第11回：性依存
- 第12回：インターセックス/性分化疾患
- 第13回：青年・成人期の性別違和
- 第14回：小児・思春期の性別違和
- ※テーマは履修者の希望によって多少変動する

履修上の注意

発表担当者ではない人たちは予め発表者に対し質問や疑問を提出する。発表者はさまざまな文献を調べてテーマに関する理論や重要概念など内容をまとめ、さらに非発表者からの疑問に答える。

準備学習(予習・復習等)の内容

非発表者は、発表者が準備の時間を十分に取れるよう、余裕をもって質問を渡すこと。

教科書

指定しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表内容(50%)、ディスカッションの貢献度(50%)により行う。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	臨床心理面接特論Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	竹松志乃、岡安孝弘		

授業の概要・到達目標

本講義では、心理支援に関する主要な理論を確認し、事例研究や体験学習を通してさらに実践的に深く修得することを目的とする。

特論Ⅰでは、まず岡安が行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法に関して、次に竹松が力動論に基づく心理療法の理論と方法、およびその他の心理療法の理論と方法に関して、それぞれ講義を担当するが、ケーススタディを通して、心理支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法を適宜選択・調整していくことの大切さを意識しながら、個人やその家族・周囲の地域社会に対する実際に即した心理支援的アプローチ方法をともに学んでいきたい。

また、臨床現場で心理支援を行う際に必要な臨床家としての基本姿勢を体験的に学習するために、代表的な非言語的面接技法である箱庭療法やコラージュ療法・描画法を各人に制作してもらい、支援を受ける側の疑似体験（「クライアント体験」、制作者以外の受講生にとっては「セラピスト体験」となる）を味わった後で、詳細なレポートにまとめてもらう予定である。

授業内容

現在のところ、以下のような構成で講義を進める予定である。

- 第1回 認知行動療法の基礎(岡安)
- 第2回 不安障害の認知行動療法(岡安)
- 第3回 うつ病の認知行動療法(岡安)
- 第4回 対人的問題における認知・行動変容(岡安)
- 第5回 その他の理論に関する理論と実践(1)(竹松)
- 第6回 力動論に関する理論と実践(1)(竹松)
- 第7回 力動論に関する理論と実践(2)(竹松)
- 第8回 クライアント理解を深める体験学習(箱庭制作1)(竹松)
- 第9回 クライアント理解を深める体験学習(箱庭制作2)(竹松)
- 第10回 クライアント理解を深める体験学習(箱庭制作3)(竹松)
- 第11回 クライアント理解を深める体験学習(コラージュ制作)(竹松)
- 第12回 クライアント理解を深める体験学習(箱庭・コラージュ制作のまとめ)(竹松)
- 第13回 クライアント理解を深める体験学習(描画法1)(竹松)
- 第14回 クライアント理解を深める体験学習(描画法2)、および全体のまとめ(竹松)

履修上の注意

本講義は1年生の「必修」授業であり、特に実際の体験学習では、グループ自体がそれぞれの参加者の「護り」として機能しなければならない。そのため、(1)「欠席や遅刻」は基本的に認められない、(2)実習外の場面で、実習中の自己および他者に関する体験について、軽々しく口外することは厳に慎むこと。

基本的に「全授業への積極的参加」が単位取得条件となる

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に資料を配布した場合、読後の感想・意見を各自がまとめて授業に持ち寄り、自分の言葉による活発なディスカッションへの積極的参加が期待される。

また、講義中に紹介する関連文献には積極的に目を通してほしい。

教科書

特に指定しない。講義中にプリントを配布する。

参考書

特に使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、提出者に対し、口頭や紙面へのコメントの形で伝達する。

成績評価の方法

必修であるため、毎回の授業への参加度はもちろんのこと、授業に関する感想レポートの内容(40%)、体験学習後に提出する大レポート(40%)、授業での発表・報告など(20%)から、総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	臨床心理面接特論Ⅱ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士(教育学)	諸富 祥彦

授業の概要・到達目標

臨床心理面接の基本的なアプローチのいくつかについて、その理論、背景となる思想、人格理論、技法論、臨床の実際などを学んでいく。本講義では、心理療法の代表的な方法の一つであり、我が国の学校カウンセリングや産業カウンセリングの分野において現在も多大な影響を与えつつあるクライエント中心療法について、さまざまな角度から学んでいく。また、この立場の代表的な方法の一つでもあるジェンドリンのフォーカシング指向心理療法についても、具体的に学んでいくこととする。

またその他にも、認知行動論、精神分析、ブリーフセラピーなどの考えや技法を取り入れながら、カウンセリングにおける統合論的なアプローチの考え方と実際を学んでいく。

授業内容

- (1) 臨床心理面接とは
- (2) 臨床心理面接の原理
- (3) 臨床心理面接の視点
- (4) 臨床心理面接のアプローチ(1)
- (5) 臨床心理面接のアプローチ(2)
- (6) クライエント中心療法の間人観
- (7) クライエント中心療法の理論
- (8) クライエント中心療法の技法(1)
- (9) クライエント中心療法の技法(2)
- (10) カウンセリングにおける統合的アプローチ(1)
- (11) カウンセリングにおける統合的アプローチ(2)
- (12) カウンセリングの初期
- (13) カウンセリングの中期
- (14) カウンセリングの後期と終結

履修上の注意

体験的な学習も盛り込むのでそのつもりで参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

体験的な学習の準備をすること。

教科書

諸富祥彦「カウンセリングの理論(上)」誠信書房

参考書

「ロジャーズ主要著作集」(1～3)岩崎学術出版
特に第3巻「自己実現の道」

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度とレポート
評価の基準と内容・配点などについては第1講において説明する。レポートの内容のみならず、授業への関与などもすべて評価の対象となる。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理基礎実習A		
開講期	春学期	単位	実2
担当者	諸富祥彦、佐々木掌子、小粥宏美、岩井昌也、高田夏子		

授業の概要・到達目標

本専攻は公認心理師および臨床心理士養成を主目的としているが、そのためには心理臨床活動に関する体験的な学習が必須のものとなる。1年次に行われる臨床心理基礎実習Aは、これまで心理臨床活動の実際に触れたことのない受講生が、自らカウンセラーとクライアントの役割を体験する「試行カウンセリング実習」により、心理臨床活動に関する実感を養うことを目的とする。この基礎的な訓練を受けることによって、臨床心理基礎実習Bで予定されている、実際のクライアントを対象とした実習（面接・検査の施行など）がスムーズに行われることを狙っている。

授業内容

受講生が学内・学外の心理相談・治療機関において実習を受けることができるための準備を行なう。ロールプレイング、試行カウンセリングによって、心理面接に関する体験学習を行う。

- (1) ガイダンス
- (2) 臨床心理基礎実習概論
- (3) カウンセリング・ロールプレイ(1)
- (4) カウンセリング・ロールプレイ(2)
- (5) 試行カウンセリングの体験(その1)
- (6) 同上(その2)
- (7) 同上(その3)
- (8) スーパービジョン(その1)
- (9) 試行カウンセリングの体験(その4)
- (10) 同上(その5)
- (11) 同上(その6)
- (12) スーパービジョン(その2)
- (13) 試行カウンセリングの体験(その7)
- (14) 同上(その8)

履修上の注意

試行カウンセリングは、時間割上の日程とは独立に行われる。受講生は、自分自身の内面を見つめることの必要性・重要性和難しさについて、覚悟と認識を持つこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

試行カウンセリングの指導時には面接を録音した逐語記録を資料として、毎回教員に提出することが求められる。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

実習への参加状況と取り組みの質を総合的に勘案して評価する。

その他

本実習は、臨床心理学専修1年次の必修授業であり、かつ他専攻・専修の学生は受講することができない。

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理基礎実習B		
開講期	秋学期	単位	実2
担当者	諸富祥彦、佐々木掌子、小粥宏美、岩井昌也、高田夏子		

授業の概要・到達目標

臨床心理基礎実習Bは、臨床心理基礎実習Aと同様に、公認心理師および臨床心理士養成を目的として心理臨床活動に関する体験的な学習を行うものである。臨床心理基礎実習Aで習得した基礎的な心理臨床技法や知識に基づいて、学内外における実際のクライアントを対象とした面接、心理検査の実施など、実践的な実習を行うことを通して、公認心理師および臨床心理士に必要なスキルを高めることを目標とする。

授業内容

学内・学外の心理相談・医療機関において、実際のクライアントを対象とした実習（面接や心理検査など）を行い、その実習記録に基づいたスーパービジョンを通して、心理臨床におけるスキルを高める。

- (1) ガイダンス
- (2) ～ (13) 学内外の心理相談、医療機関におけるカウンセリングや心理検査の実践とスーパービジョン
- (14) 総合的な事例検討会

履修上の注意

学内外での実習は、実習先の都合上、時間割の日程とは独立に行われる。受講生は、実際のクライアントに対応することになるため、大きな責任があることを自覚する必要がある。なお、何か問題を感じた場合には、些細なことでも必ず指導教員に相談すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

クライアントに対応する前には、事前に必ずクライアントの状態像を把握し、それに応じた適切な面接または心理検査ができるよう入念に準備すること。また、終了後には必ず面接記録を作成し、指導教員によるスーパービジョンを受けて、次の面接に臨むようにすること。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

実習への参加状況と取り組みの質を総合的に勘案して評価する。

その他

本実習は、臨床心理学専修1年次の必修授業であり、かつ他専攻・専修の学生は受講することができない。

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	臨床心理実習Ⅰ		
開講期	秋学期	単位	実2
担当者	岡安孝弘、伊藤直樹、高瀬由嗣、加藤尚子、竹松志乃、濱田祥子、川島義高		

授業の概要・到達目標

学外の医療機関、教育機関、福祉機関等、ならびに学内に設けられた心理臨床センターでの実習を体験することが、本授業の主たる内容である。その到達目標は、第一に、実習を通して心理的援助の現場では具体的にどのような業務が行われているかを理解すること、第二に、臨床心理学的援助に必要な職業倫理、法的義務、アセスメントと援助に関する基礎的知識や技術を身につけることである。この実習は、学生がやがて勤務するであろうさまざまな職場で、一通りの援助業務が行えるようになるために必要不可欠なものである。

授業内容

まず事前学習(座学)を行う。事前学習では、実習を行うにあたっての心構え、実習先の各機関(主に保健医療・教育・福祉機関等)の業務内容、臨床心理学領域の高度専門職業人に求められる倫理及び法的義務について学ぶ。

その後、学内の実習機関(心理臨床センター)にて、実地のトレーニングを行う。ここでは、まずインターク面接場面への陪席を通して、初期介入のあり方から、受理に至るまでの流れを体験的に学習する。ついで、心理アセスメントの実際(実施・結果の分析と解釈、報告書・支援計画等の作成、フィードバック等)を学ぶとともに、個別の事例に対する臨床心理学的援助(面接等)を実際に体験する。

学内で基礎的なトレーニングを終えたら、次に学外機関での実習を体験する。学外の実習機関は主に保健医療機関・教育機関・福祉機関である。

保健医療機関での実習は以下の内容を含む。(1)施設見学、各種の業務見学を通し、心理職の役割と他職種との連携について学ぶこと、(2)診察場面への陪席を体験すること、(3)集団療法場面への参加を体験すること、(4)心理アセスメントの実際を学ぶこと、(5)個別の事例に対する臨床心理学的援助(面接等)を実際に学ぶこと、などである。

さらに、教育機関・福祉機関においては、施設見学、各種業務への陪席等を通して、当該機関での臨床心理学的援助の実態や、地域との連携のあり方などを学ぶ。

学内外での実習を終えたら、学生は、すべての実習をふり返り、その内容を本専修の定める方法にしたがって報告するとともに、担当教員から指導を受ける。

※実習は全体で450時間以上におよぶ。ただし、学内実習機関での担当ケースの内容や状況、あるいは受入れ先の外部実習機関の事情等により、上記プログラムの順番や内容が変わることがあるので注意すること。なお、いずれの実習においても、事前・事後には、必ず本専修の指定するスーパーバイザーの指導を受けること(「臨床心理特別実習ⅠA・ⅠB(心理実践実習ⅡA・ⅡB)」及び「臨床心理特別実習ⅡA・ⅡB(心理実践実習ⅢA・ⅢB)」)。

履修上の注意

実習自体は1年次の春学期から開始されるが、単位認定は2年次の秋学期にすべての実習を終えた段階で行う。実習であるため、毎回必ず出席すること。また、クライアントや学外実習機関の都合により、所定の時間外に実習を行うこともあるので、適宜、教員の指示に従うこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

実習を行う上での留意事項についての説明を受け、特に実習上の倫理的問題について熟知しておくこと。

教科書

特に指定しないが、必要があればその都度指示する。

参考書

特に指定しないが、必要があればその都度指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

実習への取り組みの状況を総合的に評価する。

その他

実習を行う度に、所定の実習記録表に実習内容を記録すること。

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	臨床心理実習Ⅱ		
開講期	春学期	単位	実2
担当者	岡安孝弘、伊藤直樹、高瀬由嗣、加藤尚子、竹松志乃、濱田祥子、川島義高		

授業の概要・到達目標

学内外の病院や教育機関の実習を通して、心理的援助の現場で具体的にどのような援助が行われているかを体験することによって、将来勤務するであろう職場で、一通りの援助業務を行えるようになることを到達目標とする。

授業内容

心理臨床センターおよび学外施設において、各自割り当てられた実習を行う。

なお、学期の後半には、それまでに実施した実習内容についての総括的な報告会を開き、各学生が担当した事例等を題材としたディスカッションを行い、よりよい心理臨床のあり方についての理解を深める。

履修上の注意

実習であるため、毎回必ず出席すること。また、クライアントや学外施設の都合により、所定の時間外に実習を行うこともあるので、適宜、指導教員の指示に従うこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

実習を行う上での留意事項についての説明を受け、特に実習上の倫理的問題について熟知しておくこと。また、実習後は定期的にスーパーバイジョンを受けること。

教科書

特に指定しないが、必要があればその都度指示する。

参考書

特に指定しないが、必要があればその都度指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

実習への取り組みの状況を総合的に評価する。

その他

実習を行う度に、所定の実習記録表に実習内容を記録すること。

科目ナンバー：(AL) PSY552J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	臨床心理査定演習Ⅱ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(心理学) 高瀬 由嗣		

授業の概要・到達目標

本演習では、臨床心理学援助のひとつである心理査定法について、特に投射法(パフォーマンス・テスト)に焦点をあてて学習する。なかでも、投射法(パフォーマンス・テスト)の代表格とされるロールシャッハ・テスト、文章完成法(SCT)、主題統覚検査(TAT)を取り上げ、その実施・分析・解釈の基礎的な技法を身につけることを目的とする。さらに、これらのテスト結果の伝達方法(検査依頼者への報告書作成、被検査者へのフィードバック)についても検討する。

授業内容

- (1) 投射法心理検査概論: 投射法心理検査の定義、歴史的・理論的背景の概観
- (2) 文章完成法(SCT)①: 実施
- (3) 文章完成法(SCT)②: 分析・解釈
- (4) ロールシャッハ・テスト①: スコアリング(領域と決定因)
- (5) ロールシャッハ・テスト②: スコアリング(決定因と形態水準)
- (6) ロールシャッハ・テスト③: スコアリング(内容、その他思考障害に関わるスコア)
- (7) ロールシャッハ・テスト④: 解釈の理論と方法
- (8) ロールシャッハ・テスト⑤: 事例の解釈(量的分析を中心に)
- (9) ロールシャッハ・テスト⑥: 事例の解釈(継起分析を中心に)
- (10) 主題統覚検査(TAT)①: 実施と解説
- (11) 主題統覚検査(TAT)②: 解釈
- (12) 総合的なアセスメントについて—面接・行動観察・テストバッテリー等から得られた結果の統合—
- (13) アセスメント報告書の検討
- (14) 被検査者へのフィードバック方法の検討

履修上の注意

単元ごとに、各心理検査の分析・解釈結果を報告書として記述し、提出してもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

- (1) 各回、教科書・参考書の該当箇所を事前に通読しておくこと。
- (2) ロールシャッハ・テストのスコアリングと解釈に関しては、当該授業の前に、各自行ってしておくこと。

教科書

- (1) 『心理アセスメントの理論と実践』、高瀬由嗣・武藤翔太・関山徹。(岩崎学術出版社)。2020年。
- (2) 『臨床心理学の実践—アセスメント・支援・研究』、八尋華那雄(監修)高瀬由嗣・明寛光宣(編)。(金子書房)。2013年。
- (3) 『改定・新・心理診断法』、片口安史。(金子書房)。1987年。

参考書

- (1) Exner, J. E. 『The Rorschach; A comprehensive system』(John Wiley & Sons, Inc.)
- (2) グレゴリー・メイヤーほか著、高橋依子監訳『ロールシャッハ・アセスメントシステム』(金剛出版)
- (3) 鈴木陸夫『TATの世界—物語分析の実際』(誠信書房)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- (1) 報告書の内容
 - (2) 授業内での発言
- ※評価の基準、配点については第1回の授業の中で説明する。

その他

本授業は、臨床心理学専修博士前期課程1年次の必修授業であり、他専攻・専修の学生は受講することができない。

科目ナンバー：(AL) PSY552J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	臨床心理査定演習Ⅰ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(心理学) 高瀬 由嗣		

授業の概要・到達目標

臨床心理学的援助方法の1つである心理アセスメントについて学習する。

まず、インテーク面接における心理アセスメントのポイントを概観して、留意すべき点について検討する。ついで、心理検査(主に知能検査)を取り上げて学習する。本演習では特にインテーク面接と知能検査という2つのアセスメント技法の習得を目指す。

授業内容

- 第1回: オリエンテーション—心理アセスメントとは何か—
- 第2回: インテーク面接①インテーク面接の目的と留意点
- 第3回: インテーク面接②インテーク面接で聴くべきこと
- 第4回: インテーク面接③臨床現場での適用(解説とディスカッションその1)
- 第5回: インテーク面接④臨床現場での適用(解説とディスカッションその2)
- 第6回: インテーク面接⑤まとめ(履修者の体験したインテーク面接に対する総評)
- 第7回: 知能検査の理論と実際①—WAIS-IVの実施その1—
- 第8回: 知能検査の理論と実際②—WAIS-IVの実施その2—
- 第9回: 知能検査の理論と実際③—WAIS-IVの実施その3—
- 第10回: 知能検査の理論と実際④—WAIS-IVの実際のデータの分析—
- 第11回: 知能検査の理論と実際⑤—WAIS-IVの実際のデータの解釈その1—
- 第12回: 知能検査の理論と実際⑥—WAIS-IVの実際のデータの解釈その2—
- 第13回: フィードバック①—心理検査の報告書の書き方—
- 第14回: フィードバック②—検査対象者への結果のフィードバックとは—

履修上の注意

本授業では、履修者による実際のアセスメント体験に基づいて討論を進める。

準備学習(予習・復習等)の内容

各単元について事前に予習し、討論に供えること。

教科書

- (1) 『心理アセスメントの理論と実践』、高瀬由嗣、武藤翔太、関山徹。(岩崎学術出版社)。2020年。
- (2) 『日本版WAIS-IV 理論・解釈マニュアル』、日本版WAIS-IV刊行委員会(日本文化科学社)。2018年。
- (3) 『改訂・新・心理診断法』、片口安史。(金子書房)。1987年。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

アセスメント技法への取り組み50%、演習への参加度30%、レポート成績20%により、総合的に評価する。

その他

授業内容は、受講生の学習度および授業の進行によって変更することもある。

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	心理学研究法特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(人間学) 伊藤 直樹		

授業の概要・到達目標

本講義は、心理学の研究を行う際に必要となる基本的な知識を身につけることを目的とする。
 具体的には、観察法、面接法、実験法、質問紙法などの特徴と、各研究法によって得られた結果の分析方法、さらに、研究遂行に必要な倫理について学ぶ。
 また、教員による基本的な解説の後、受講者が各自の研究アイデアをもとに簡単な研究をデザインし、それをもとに分析を行うこともある。
 これらの学習を通じて、修士論文作成に必要な研究法の基礎的事項について理解を深めることを目指す。

授業内容

- 第1講 「心理学の研究」とは
- 第2講 質的調査(1) ー観察法ー
- 第3講 質的調査(2) ー面接法ー
- 第4講 質的調査(3) ーインタビューデータの分析法①:KJ法ー
- 第5講 質的調査(4) ーインタビューデータの分析法②:GTAー
- 第6講 質的調査(5) ーインタビューデータの分析法③:TEMー
- 第7講 実験の方法(1) ー実験の論理と種類ー
- 第8講 実験の方法(2) ー実験の進め方ー
- 第9講 量的調査(1) ー質問紙法①:質問紙の作り方ー
- 第10講 量的調査(2) ー質問紙法②:信頼性と妥当性ー
- 第11講 量的調査(3) ー質問紙法③:結果の基本的処理ー
- 第12講 量的調査(4) ー質問紙法④:結果の統計的分析ー
- 第13講 研究をデザインするーレビュー・論文の作成・研究倫理ー
- 第14講 まとめー心理学の研究に向けてー

履修上の注意

ノートパソコン・ワード・エクセルを使用する授業を数回予定している。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前に、授業で扱う研究法に適したテーマを考えておくことが必要になる。
 授業後に、教科書の該当箇所を読み、理解を深めることが望ましい。

教科書

指定しない。

参考書

- 南風原朝和 他著 「心理学研究法入門」東京大学出版会 2001年
- 吉田寿夫編著 「心理学研究法の新しいかたち」誠信書房 2006年
- 三浦麻子著 「なるほど!心理学研究法」北大路書房 2017年
- 村井潤一郎編著 「Progress & Application心理学研究法」サイエンス社 2012年
- 川喜多二郎 「発想法ー創造性開発のためにー」中央公論社 1967年
- 木下康仁著 「ライブ講義 M-G T Aー実証的質的研究法 修正版」グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべてー」弘文堂 2007年
- サトウタツヤ編著 「TEMではじめる質的研究ー時間とプロセスを扱う研究をめざしてー」 誠信書房 2009年
- 日本心理学会機関誌等編集委員会編 「執筆・投稿の手引き(2015年版)」日本心理学会 2015年
- 日本心理学会倫理委員会編 公益財団法人日本心理学会倫理規程 日本心理学会 2011年
- ※その他、授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合には、原則として、次の回の授業において解説を行う。

成績評価の方法

授業で指示された課題に対する取り組み、授業への貢献度を総合的に判断して評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	心理統計法特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(人間科学) 金築 優		

授業の概要・到達目標

実証に基づいた(エビデンス・ベースド)臨床心理学研究において、その要はデータである。しかし、データそれ自体は数字の並びであつたりして、一見しただけではそこに何が見えてくるかわからないものである。よって、データを仕分けし、整理し、そこから意味を探っていくこと、つまり、心理統計法が必要不可欠である。本授業では、データの中でも、主に数量的なデータを取り上げて、心理統計法を学ぶ。心理臨床に携わる者として、臨床心理学に関する研究データを正確に読み取れるようになることが、本授業の目標の一つである。授業内容に関しては、仮説検証型研究においてよく用いられる量的分析法を一通り取り上げる。電卓やパソコンを用いて、実際にデータ解析を行う機会も随時取り入れていく予定である。ただ、データ解析の背景にある心理統計学的な理論の理解を重視する。また、心理統計法を用いた臨床心理学研究の論文を受講生に発表してもらうことも予定している。本授業では、受講生のニーズに対応できるように、授業内容は柔軟に構成していく予定である。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 尺度水準について
- 第3回 代表値、偏差と分散について
- 第4回 標準化について
- 第5回 統計的仮説検定について
- 第6回 t検定について
- 第7回 F分布と分散分析について
- 第8回 分散分析と交互作用について
- 第9回 χ^2 乗検定等について
- 第10回 相関分析について
- 第11回 重回帰分析について
- 第12回 因子分析について
- 第13回 共分散構造分析について
- 第14回 総括

履修上の注意

受講生の積極的な授業関与を求める。電卓やノート・パソコンを持参してもらう場合がある。毎回の講義内容を復習し、講義に臨んでもらうことを期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

次の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

必要に応じて資料を配付する。

参考書

- 浦上昌則・脇田貴文 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 東京図書
- 南風原朝和 量的研究法 東京大学出版
- 他の参考書は、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

講義内で行う。

成績評価の方法

講義の理解度を確認するための課題、講義への積極的関与の程度および期末レポートで総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	発達心理学特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(心理学) 眞榮城 和美		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本授業では、「発達精神病理学」について理解し、福祉領域における支援活動に関わる予防心理学的理論と実践方法について学習する。「発達精神病理学」とは、人の発達がどのように生物学的、心理的、社会的要素によって影響を受けているのかについて解明することを目指している学問領域である。教科書として指定している「発達精神病理学～子どもの精神病理の発達と家族関係～」や最新の発達精神病理学的研究知見が掲載されている論文を用い、発達精神病理学的研究アプローチおよび臨床的応用(予防と治療に関する見解)について学ぶ。その際、SEL (Social and Emotional Learning: 社会性と情動の学習の基礎/情動の役割と発達)の理論と展開についても学習する。

【到達目標】

- ①発達精神病理学とは何かについて理解する。
- ②発達精神病理学的研究アプローチを理解する。
- ③子どもの問題行動を予防するアプローチ(SEL: 社会性と情動の学習の基礎/情動の役割と発達)について理解する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション - 発達精神病理学とは何か -
- 第2回 発達精神病理学の独自性「気質と個性：パーソナリティの発達」に関する視覚資料を用いた学習
- 第3回 精神病理の発達におけるダイナミックな過程の同定
- 第4回 発達精神病理学の方法論
- 第5回 発達における“道すじ”：発達の多元論について
- 第6回 影響の複雑なパターン：リスク因子と防御因子
- 第7回 子どもの発達と親のサブシステム
- 第8回 養育と子どもの発達に関する研究の新しい方向性
- 第9回 子どもの発達と夫婦のサブシステム
- 第10回 発達精神病理学の応用
- 第11回 子どもの問題の診断・分類・概念化
- 第12回 予防的アプローチ1 - ソーシャル・エモショナル・ラーニングとは - 「社会・情動発達の基礎」を中心に
- 第13回 予防的アプローチ2 - 予防心理教育活動の理解・体験的学習 -
- 第14回 総括：まとめと振り返り

履修上の注意

履修に際しては、学部段階で学ぶ発達心理学的知識を踏まえていること。また、本授業履修前に、福祉分野での支援活動に関心を持ち、何らかの形で心理臨床的な実践に従事していること(実習も含む)が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業初回時に各自が発表を担当する章を確定し、毎回の授業で担当者が発表する形式で進めていく。発表者は、担当する章について要約した資料を作成し、発表する。発表者以外の履修者も積極的にコメントできるように、授業初回時に授業担当教員が配布(掲載)した資料を読み込んでおくようにすること。

教科書

授業時に適宜紹介する。

参考書

Cummings,Davies&Campbell,2000 菅原ますみ(訳) 2006 発達精神病理学 - 子どもの精神病理の発達と家族関係 - ミネルヴァ書房
 高橋三郎(監訳) 染矢俊幸・江川純(訳) 2018 DSM-5 児童・青年期診断面接ポケットマニュアル 医学書院
 マリリー・スプレング(著), 大内朋子(翻訳), 吉田新一郎(翻訳) 2022 感情と社会性を育む学び(SEL): 子どもの今と将来が変わる 新評論

その他、授業中に適宜配布する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業最終レポート(40%)・発表時の要約資料(30%)・授業後課題への取り組み状況(20%)・授業時の積極的態度(10%)の評価を合わせ、総合評価60%以上であることを単位認定の最低基準とする。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	人格心理学特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	佐藤 秀行	

授業の概要・到達目標

パーソナリティ(人格)に関する理論、パーソナリティの発達、文化・社会からの影響について概説する。それらに基づき、パーソナリティを理解する方法としての心理的アセスメントの意義、理論と方法について体験を通して学ぶ。さらに、パーソナリティ障害の理解と治療・心理支援といった臨床心理士・公認心理師の業務にとって必要な専門的な知識についても学習する。

パーソナリティ理論、パーソナリティの発達、文化・社会の影響、パーソナリティ障害に関する知識を習得し、それらの知識を基盤として心理的アセスメントを実践するための基礎的な技術を身につけることを到達目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：パーソナリティ研究の歴史
- 第3回：パーソナリティの諸理論
- 第4回：パーソナリティの発達
- 第5回：パーソナリティと文化・社会
- 第6回：パーソナリティのアセスメントー心理的アセスメントの目的・意義・倫理ー
- 第7回：パーソナリティのアセスメントー心理的アセスメントに関する理論と方法(面接法)ー
- 第8回：パーソナリティのアセスメントー心理的アセスメントに関する理論と方法(質問紙法)ー
- 第9回：パーソナリティのアセスメントー心理的アセスメントに関する理論と方法(投射法)ー
- 第10回：パーソナリティのアセスメントー心理的アセスメントに関する理論と方法(テストバッテリー)ー
- 第11回：精神分析理論に基づいたパーソナリティの理解
- 第12回：パーソナリティ障害の理解
- 第13回：パーソナリティ障害の治療と心理支援
- 第14回：まとめと総括

履修上の注意

学部で学修する「感情・人格心理学」、「パーソナリティ心理学」、「心理的アセスメント」の内容を理解していることを前提として授業を進めていくため、事前に復習しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、学部で学んだパーソナリティや心理的アセスメントの内容を復習しておくこと。復習としては、授業の内容について自分なり関心をもって文献等を調べたり、授業で紹介された文献を講読すること。また、心理検査を体験的に学ぶため、授業後に自身の結果を解釈するなどの学習を行うこと。

教科書

教科書は使用しない。適宜、文献を紹介する。

参考書

参考書は使用しない。適宜、文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性(貢献度・参加度)(50%)、レポート(50%)を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会心理学特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(社会学) 西田 公昭		

授業の概要・到達目標

この授業は、他者や集団によって心理的支配や虐待を受けた被害者やその家族が抱える問題を社会心理学的に理解して臨床心理学的支援の対策を考える技能を身につけることを目的とする。すなわち、宗教・思想等集団のカルト、犯罪者、DV加害者やサイパシー的人格者などによって遂行される、いわゆる「マインド・コントロール」と呼ばれる心理操作についての全容を解説することによって、それを検討する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション：心理的支配現象の所在について
- 第2回 カルト事件の概要
- 第3回 カルトとは？：集団の特徴と定義
- 第4回 洗脳とマインド・コントロール1：思想改造プログラムの野心
- 第5回 洗脳とマインド・コントロール2：ハースト事件、北九州一家殲滅事件
- 第6回 世界平和統一家庭連合(旧統一教会)とは？
- 第7回 世界平和統一家庭連合の組織管理：マインド・コントロール勧誘と強化
- 第8回 オウム真理教1：なぜ人は集結したのか？
- 第9回 オウム真理教2：なぜメンバーは過激化したのか？
- 第10回 マインド・コントロールによる集団維持・強化および過激化
- 第11回 ママ友支配による児童虐待死事件やグルーミング的な性被害事件
- 第12回 カルトからの脱会とその後の苦悩
- 第13回 「宗教2世」の抱える問題
- 第14回 総括と対策の現状

履修上の注意

社会心理学についての理論や研究方法についての基礎知識を身につけていることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業後については文献などで調べることと、次回の授業範囲について事前に基礎情報を調べておくこと。

教科書

使用しない

参考書

『「信じるころ」の科学』西田公昭(サイエンス社)他、授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的な取り組み(50%)と、毎回のリアクションレポート(50%)

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	犯罪心理学特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(心理学) 室城 隆之		

授業の概要・到達目標

犯罪者・非行少年に対する司法手続き、犯罪・非行の理論について学習した後、司法・犯罪分野の司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践について、各実践領域別に学習する。基本的にテキストや配付資料に基づいて、講義、事例検討、グループ・ディスカッション、ロールプレイなどを組み合わせて授業を進める。

この講義の到達目標は、以下の通りである。

1. 犯罪者・非行少年に対する司法手続きに関する知識を習得する。
2. 犯罪・非行の理論を学習し、実践に使えるようになる。
3. 司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践について理解する。

授業内容

- 第1回 犯罪・非行についての基本的知識
- 第2回 成人犯罪者処遇の流れと少年保護事件手続
犯罪・非行の理論(1)
- 第3回 犯罪・非行の理論(2)
- 第4回 犯罪・非行の理論(3)
- 第5回 犯罪捜査と心理学
犯罪予防と心理学
- 第6回 犯罪・非行の心理学的アセスメント・小テスト
- 第7回 児童相談所における非行への対応
- 第8回 家庭裁判所の在宅事件における非行への対応
- 第9回 保護観察所での犯罪・非行への対応と少年院での処遇
- 第10回 少年事件の面接(ロールプレイ)
- 第11回 刑事施設における成人犯罪者への教育・処遇・犯罪からの立ち直り
- 第12回 家事事件についての基本的知識
- 第13回 家事事件の面接(ロールプレイ)
- 第14回 犯罪被害についての基本的知識
まとめ・小テスト

履修上の注意

履修に当たっては、積極的な受講態度が望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習においては、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習においては、講義資料、テキスト、必要に応じて参考文献を読んで理解を定着させること。

教科書

- ・『司法・犯罪心理学』森丈弓ら著(サイエンス社)
- ・その他、毎回資料を配布する。

参考書

- ・『犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるのか』大淵憲一(培風館)
- ・その他、必要に応じて講義中に指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加度(リアクション・ペーパー) 45%、レポート20%、小テスト35%

その他

大学で学ぶ司法・犯罪心理学よりも心理的支援の実践を重視した講義になる予定です。

科目ナンバー：(AL) MED511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	精神医学特論I		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(医学) 道喜 将太郎		

授業の概要・到達目標

精神医学の概論から学び、代表的な各疾患の病理、診断、治療、社会的支援について基本的な知識の理解を深める。特に、精神科医療の実践に触れるために、症例の診断や治療について議論を行う。後半では社会的に問題となっている災害時の精神医療や職域のメンタルヘルスを取り上げ、社会精神医学についても学ぶ。到達目標は、各疾患の基本的知識の習得と、臨床家がどのような考え方で治療にあたっているかの感覚を身につけることである。

授業内容

- 第1回：精神疾患概論(成因、症状、診断法)
- 第2回：統合失調症
- 第3回：気分障害(うつ病)
- 第4回：気分障害(双極性障害)
- 第5回：神経症性障害(不安障害、強迫性障害)
- 第6回：ストレス関連障害、睡眠障害
- 第7回：依存症
- 第8回：発達障害1
- 第9回：発達障害2
- 第10回：認知症
- 第11回：Case Study 1
- 第12回：災害時の精神医療
- 第13回：職域のメンタルヘルス1
- 第14回：職域のメンタルヘルス2

履修上の注意

精神医学の初学者も対象とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習の必要はない。但し、DSMやICDで授業範囲の疾患について診断基準を確認しておくことと理解が深まる。

教科書

特に定めませんが、授業の中で資料を提供する。

参考書

参考書、参考文献は授業の中で示す。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート(30%)と授業への参加度・貢献度(70%)を評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) MED511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	心身医学特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	竹内 伸	

授業の概要・到達目標

心身相関の基礎である「脳の仕組み」と「脳と身体とのつながり」について、神経細胞レベルからネットワークレベルまでを網羅し、脳の基礎から臨床まで、脳と身体との相互作用について総合的に理解する。心理療法に取り入れられている身体的介入の基礎についても学習し、広汎な臨床応用に備える。

授業内容

- 第1回：心身相関とは？
- 第2回：神経細胞の働き
- 第3回：中枢神経の成り立ち
- 第4回：脳の構造と機能—脳幹と自律神経
- 第5回：脳の構造と機能—大脳辺縁系
- 第6回：脳の構造と機能—大脳新皮質
- 第7回：ポリヴェーガル理論
- 第8回：辺縁系の機能と心理
- 第9回：デフォルトモードネットワーク
- 第10回：扁桃体と皮質
- 第11回：脳の発達とトラウマ
- 第12回：身体化障害と身体表現性解離
- 第13回：身体疾患と心理
- 第14回：向精神薬の基礎

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

脳の部位についてなど聞きなれないと難しい用語も多いため、授業ごとにそれらを確認しておくこと。

教科書

参考書

授業の中で随時紹介する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況、発言、及び授業内でのレポートなどを総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	障害者(児)心理学特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	山崎 晃史	

授業の概要・到達目標

障害(特に発達障害)をもつ児童や人の心理社会的課題を理解する。また、その支援について、障害福祉を中心に、保健、医療、教育、労働を含めた諸視点、諸制度をふまえながら検討できるようになる。加えて、インクルーシブな保育、教育の視点も参照できるようになる。授業はテキストを分担して発表し、質疑、ディスカッションを行い、理解を深めていくスタイルである。発表者は関連する論文も紹介する。教員は臨床経験を元にさまざまな疑問に答え、補足して解説していく。これらにより、福祉分野に関わる公認心理師のあり方を具体的に考察していくことにもなる。

授業内容

- 第1回 障害領域における心理支援のあり方
- 第2回 発達障害をめぐる基礎知識
- 第3回 障害をもつ人の人権と障害理解のあり方
- 第4回 発達障害の原因を巡る諸視点
- 第5回 専門職連携協働実践を基盤とした心理支援
- 第6回 社会資源を知る
- 第7回 調査発表1
- 第8回 調査発表2
- 第9回 発達支援1
- 第10回 発達支援2
- 第11回 学童期の支援とインクルーシブ教育
- 第12回 青年期以降の支援1
- 第13回 青年期以降の支援2
- 第14回 まとめ

履修上の注意

知的障害を含めた広義の発達障害の理解と支援の基本を学んでいることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

知的発達症、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害の基本的知識を事前に整理しておくこと。

教科書

『公認心理師・臨床心理士のための発達障害論』大石幸二監修・山崎晃史編著、2019(学苑社)

参考書

- 『発達障害の心理臨床—子どもと家族を支える療育支援と心理臨床的援助』田中千穂子ほか、2005(有斐閣)
- 『軽度発達障害—繋がりがあって生きる』田中康雄、2008(金剛出版)
- 『子どもの感情コントロールと心理臨床』大河原美以、2015(日本評論社)
- 『発達障害のいま』杉山登志郎、2011(講談社)
- 『子ども虐待という第四の発達障害』杉山登志郎、2007(学習研究社)
- 『注意欠如・多動症-ADHD-の診断・治療ガイドライン第4版』ADHDの診断・治療指針に関する研究会・齊藤万比古編集、2016(じほう)
- 『発達障害の子のライフスキル・トレーニング』梅永雄二監修、2015(講談社)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)および授業での報告発表内容(50%)により評価する。

その他

発達障害の理解と支援のあり方は、さまざまな領域の課題とも関連しているため、発達領域を専門にしない場合でも受講することを推奨する。

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	健康心理学特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(心理学) 岡安 孝弘		

授業の概要・到達目標

心の病気を予防し、健康を増進することを目的とした健康心理学について、特に行動理論に基づいた健康リスクの高い行動の変容を目指す技法について解説する。また、受講者自身の健康リスク行動を同定し、それを変容するための実践を行う。それらを通して、被援助者に対する健康増進のための実践的な介入技法について習得することを目標とする。

授業内容

- 健康心理学における疾病予防および健康増進のための介入の具体的技法について、さまざまな文献を講読しながら解説する。主な内容は以下の通りである。
- (1)健康心理学の考え方と介入目標
 - (2)健康心理学的アセスメント技法
 - (3)不安のマネジメント技法(1)
 - (4)不安のマネジメント技法(2)
 - (5)うつのマネジメント技法(1)
 - (6)うつのマネジメント技法(2)
 - (7)不登校・ひきこもりの支援
 - (8)ストレスマネジメントの基礎
 - (9)職場におけるストレスマネジメント
 - (10)学校におけるストレスマネジメント
 - (11)ソーシャルスキル・トレーニング
 - (12)アサーション・トレーニング
 - (13)インターネット依存への支援
 - (14)健康心理学的地域支援のあり方

履修上の注意

毎回必ず出席すること。各回において、提示された論文を輪読し、その内容についてディスカッションを行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回において講読した文献の内容に基づいて、それを臨床実践にどのように活用できるかを検討しておくこと。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書は使用しない。各回の講義時に、講読する論文を配布する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の講義時に、学生間でのディスカッションの内容について講評を行う。

成績評価の方法

授業における発表内容(50%)、ディスカッションへの参加(50%)により評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	心理療法特論		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師	富士見 ユキオ	

授業の概要・到達目標

心理療法について、諸学派の基本姿勢、理論、技法、臨床の実践などについて、具体的な事例をもとに多角的に考察を加える。臨床への基本的な姿勢を、具体的なアプローチを通して学ぶ。

授業内容

- 第1回 心理療法とは
- 第2回 心理療法の基本姿勢
- 第3回 心理療法の本質(1)
- 第4回 心理療法の本質(2)
- 第5回 心理療法のパースペクティヴ(1)
- 第6回 心理療法のパースペクティヴ(2)
- 第7回 心理療法のアプローチ(1)
- 第8回 心理療法のアプローチ(2)
- 第9回 心理療法のアプローチ(3)
- 第10回 心理療法のアプローチ(4)
- 第11回 心理療法のアプローチ(5)
- 第12回 心理療法の技法(1)
- 第13回 心理療法の技法(2)
- 第14回 心理療法の実践

履修上の注意

集中講義のため、原則として全日参加が可能であること。
臨床心理の研修者として、真剣に、本気で学ぶ姿勢でくること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習は、藤見著を初回までに読んでおくこと。ミンデル著を最終回までに読んでおくこと。復習は、授業の後、毎回(A)授業のまとめ、質問、意見をA4レポート1枚にまとめ、提出すること。

教科書

藤見著『痛みと身体の心理学』(新潮社)

参考書

ミンデル著『うしろ向きに馬に乗る』(春秋社)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート50点、平常点50点(平常点は、講義の中でおこなう心理療法の臨床的トレーニングへの参加姿勢、積極さ、真剣さ、集中心力などを観察し、総合的に評価する。)

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	グループアプローチ特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(人間学) 藤岡 孝志	

授業の概要・到達目標

グループアプローチとは、集団心理療法、エンカウンターグループ、サイコドラマなど集団を用いた心理的援助方法の一つである。臨床心理学の領域では、個人療法と集団療法は相互補完的に発展を遂げてきた。本講義では、集団のメンバー体験を取り入れながら、グループアプローチに関する理論と実際、およびグループリーダーのあり方について学習する。

特に、サイコドラマの学修においては、高良聖著『サイコドラマの技法—基礎・理論・実践—』(岩崎学術出版社)の中のシナリオを、実際にサイコドラマとして再現することで、高良聖氏が目指したサイコドラマの世界を、受講生とともに体験・探求することとする。

授業内容

1. 集団心理療法への扉を開く：我が国におけるグループアプローチの現況を理解する。
2. 集団心理療法の効果及び適用決定に関する問題を理解する。
- 3-5. グループメンバー体験(サイコドラマグループ)：実際のグループセッションを行い、その後の振り返りから実際の知識を獲得する。
- 6-8. エンカウンターグループの意義と理解(構成・非構成、言語・非言語、雰囲気 等)、グループ体験とその振り返りから実際の知識を獲得する。その上で、催眠法、動作法、絵画法などのグループアプローチへの活用を体験的に学習する。
9. 愛着臨床アプローチにおける心理劇の位置づけについて：実際のグループセッションを行い、その後の振り返りから実際の知識を獲得する。
10. メンバー体験を通して学んだ、セラピスト、ファシリテーターの役割や機能、留意すべき点について学習する。
11. 不登校支援におけるグループアプローチについて
12. 発達障がい児、被虐待児におけるグループアプローチについて
13. 集団心理療法の理論：心理劇、エンカウンターグループ、精神分析的視点からのBion(ビオン)などの集団に関する考え方を学習する。
14. 質疑応答、グループ体験とグループセラピストに関する全体の振り返りを行う。及び、レポートテストを施行する。

履修上の注意

オープンマインド持参で受講のこと。グループの中に「居ること」にまず意義があるので、体調等を整えて毎回参加されたい。

* (重要)

毎週の授業実施を基本としますが、サイコドラマ等同日連続授業のほうがよい場合は、受講生の皆さんと相談して、2コマ、あるいは3コマ連続して授業をする場合もあります。また、授業時間と心理臨床面接、あるいは心理臨床SVと重なる可能性がある場合は、あらかじめ、お申し出ください。学修に支障が生じないように、できるだけ配慮します。2コマあるいは3コマ連続しての授業を入れることで、重なる日の授業を避けるとの配慮等もできるだけ行います。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ、グループアプローチ(サイコドラマ等)について予習しておくこと。さらに、毎回、事前に予定された内容を予習し、授業後は、体験的に学んだことを自身の臨床にどう生かすか、書き留めておくこと(復習)。

教科書

特に定めない。適宜レジメを配布する。

参考書

- 『サイコドラマの技法—基礎・理論・実践—』(高良聖 著)(岩崎学術出版社)
- 『愛着臨床と子ども虐待』(藤岡孝志著)(ミネルヴァ書房)
- 『不登校臨床の心理学』(藤岡孝志著)(誠信書房)
- 『支援者支援養育論—子育て支援臨床の再構築—』(藤岡孝志著)(ミネルヴァ書房)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中に行われる討論での発表、自己分析の深さ、レポート内容、そして、最終回におけるレポートテストを考慮して総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	コミュニティアプローチ特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(コミュニティ福祉学) 加藤 尚子		

授業の概要・到達目標

「臨床心理的地域援助」は、「心理アセスメント」、「心理面接」と並び、臨床心理士の専門的技術として掲げられている。しかしながら、コミュニティにおける臨床実践の具体的な方法については、必ずしも十分に研究・教育されているとはいえない。本講義では、基本的なコミュニティ心理学の理論について学ぶと共に、各領域におけるコミュニティアプローチの実際を通して、臨床心理的援助のあり方や心理士の役割などについて、共に考えていきたい。特に、児童虐待や福祉領域の臨床心理学的問題について詳しく検討していく。また、CARE等の実践的なペアレンティングプログラムの習得も目指す。

授業においては、講義・演習形式の授業と、実際のフィールドワークを交えた集中講義を組み合わせで行う。文献講読と子ども家庭支援センターや児童養護施設などのフィールドスタディをふまえたレポートを通して、実践的に行っていく。

授業内容

- 第1回：コミュニティアプローチとは何か
- 第2回：コミュニティアプローチに関する基礎理論と論文講読(臨床心理地域援助とは)
- 第3回：コミュニティアプローチに関する基礎理論と論文講読(予防と予防的介入)
- 第4回：コミュニティアプローチに関する基礎理論と論文講読(危機介入)
- 第5回：コミュニティアプローチに関する基礎理論と論文講読(コンサルテーション)
- 第6回：コミュニティアプローチに関する基礎理論と論文講読(コラボレーション)
- 第7回～14回：フィールドリサーチ(児童養護施設、子ども家庭支援センター、児童自立支援施設、など)、CAREワークショップ

履修上の注意

各自必ずフィールドリサーチに参加し、レポートをまとめることを必修とする。積極的な授業への関与を期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

関係する文献にあたっておくこと。また授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

「施設心理士という仕事」加藤尚子編著、ミネルヴァ書房

参考書

「臨床心理地域援助特論」箕口雅博著 日本放送出版協会
 「臨床心理学を学ぶ5コミュニティアプローチ」高嶋克子 東京大学出版
 ほか、必要に応じて随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況、発表内容、レポートなどを総合して評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	学校臨床心理学特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(教育学) 諸富 祥彦		

授業の概要・到達目標

学校臨床心理学の理論と実際について具体的に検討する。スクール・カウンセラーとしての活動のみならず、学校での特別支援、学校アセスメント、チーム支援など、具体的方策について検討していく。

授業内容

- 第1回：学校臨床心理学の原理
- 第2回：学校臨床心理学の理論(その1)
- 第3回：学校臨床心理学の理論(その2)
- 第4回：スクールカウンセリングの役割
- 第5回：スクールカウンセラーの活動の実際(その1)
- 第6回：同上 (その2)
- 第7回：同上 (その3)
- 第8回：不登校支援
- 第9回：いじめへの対応
- 第10回：教室での特別支援
- 第11回：チーム支援
- 第12回：学校でのアセスメント
- 第13回：構成的エンカウンター、SST
- 第14回：まとめ(総合討論)

履修上の注意

学校臨床心理の実際について具体的に学んでいくので真剣に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、よく読んでおくこと。

教科書

参考書

諸富祥彦「SCと教師のための学校で使えるカウンセリング・テクニク」一巻から五巻 ぎょうせい

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

評価の基準と内容、配点などについては第I講において説明する。
 レポートの内容のみならず、授業での発言についても評価の対象とする。

その他

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	投映法特論A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 岩井 昌也		

授業の概要・到達目標

本講義では主要な心理検査の一つであるロールシャッハ・テストについて取り上げる。ロールシャッハ・テストにはいくつかの流派があるが、本講義では世界的な広がりを見せているExner, J.E.の包括システム(The Comprehensive System)について学ぶ。包括システムは主だったロールシャッハ理論を統合した包括的な理論体系であり、統計的妥当性を主軸に置きながらも精神力動的視点を兼ね備えた、バランスの良さが魅力である。テストの施行やコーディングの基準、解釈仮説なども標準化されており、初心者にも学びやすく、熟練者もテスト結果から得られる情報量の多さに十分納得できるものと思われる。

本講義ではロールシャッハテストの施行、結果の整理から、得られたデータの見方、臨床的な解釈と臨床場面への活用までを学ぶことになる。まずは正しいテスト施行法とコーディングを習得し、集計したデータからどの部分に注目し、実際の臨床像と結びつけ、その被検者の心理特性の理解と治療方針に役立てていくかを学ぶことが目標である。

授業内容

- 第1回 ロールシャッハ・テストの歴史と包括システムの特徴
- 第2回 施行法(ロールプレイ含む)
- 第3回 コーディング1(領域、発達水準、決定因子)
- 第4回 コーディング2(形態水準、反応内容、平凡反応)
- 第5回 コーディング3(組織化活動、特殊スコア)
- 第6回 結果整理と構造一覧表の作成1
- 第7回 結果整理と構造一覧表の作成2
- 第8回 解釈の進め方1(解釈戦略、付置、統制力)
- 第9回 解釈の進め方2(感情、自己知覚)
- 第10回 解釈の進め方3(対人知覚、情報処理、媒介過程)
- 第11回 解釈の進め方4(思考、最終所見の作成)
- 第12回 事例検討1
- 第13回 事例検討2
- 第14回 事例検討3

履修上の注意

テストの施行法や解釈の進め方など、実践的な内容が多いため、授業への毎回の出席が前提である。理由のない欠席は成績評価にかなり影響することに留意されたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回プリントを配布するので、次回までに各自目を通して授業に臨むこと。特に授業は連続性があるので、以前学んだことも忘れないように常にプリントを読み返して準備しておくこと。また次回までの課題を出すこともしばしばある。

教科書

『ロールシャッハ形態水準ポケットガイド』中村紀子ほか共訳(さがみや書店)
 *一般書店では入手困難であり、入手方法については第1回の授業時に説明する

参考書

『ロールシャッハ・テスト・包括システムの基礎と解釈の原理』中村紀子・野田昌道監訳(金剛出版)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度50%, 授業への取り組みの積極性30%, 課題20%

その他

とくになし

科目ナンバー：(AL) PSY531J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	投映法特論B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 加藤 佑昌		

授業の概要・到達目標

本授業では、投映法のなかでもロールシャッハ・テストを扱い、その解釈法のひとつである継起分析を中心に学びます。継起分析とはsequence analysisの訳語ですが、sequence analysisは継列分析や系列分析とも訳されます。本授業で扱う「継起分析」は、精神分析理論を解釈の理論的基盤に据えた解釈法として馬場禮子が発展させたものを指します。この継起分析は独自のシステムを持たないので、どんなシステムでも解釈が可能ですが、本授業は片口法を用います。

授業では、ロールシャッハ・テストの素材事例を用いて、施行から解釈までを疑似体験しながら段階的に学びます。その際、ワークやグループ検討を通して、頭だけでなく体や心も使いながら体験的に学ぶことを目指します。それと並行し、ロールシャッハ・テストで得られた情報を、被検者の「人となり」としてまとめるために必要なパーソナリティ理論や精神病理学の理論なども学びます。

到達目標は、医療機関で使用されることの多いロールシャッハ・テストの施行法から解釈、フィードバックまでのおおよその基本的な流れや知識を理解し、実践できるようにすることです。

授業内容

- 第1回 ロールシャッハ・テストとは:概要と施行方法
- 第2回 ロールプレイ
- 第3回 記号化(Scoring)の講義と演習
- 第4回 記号化(Scoring)の演習
- 第5回 各記号の解釈仮説理論と量的分析
- 第6回 量的分析(1)項目ごとの解釈
- 第7回 量的分析(2)複数項目からの解釈
- 第8回 継起分析に必要なパーソナリティ理論
- 第9回 継起分析の概論
- 第10回 継起分析のワーク(各図版の特徴・記号の移り変わりの解釈)
- 第11回 継起分析のワーク(1)前半の図版
- 第12回 継起分析のワーク(2)後半の図版
- 第13回 継起分析を所見にまとめるための整理
- 第14回 ここまでに得られた解釈情報のまとめ

履修上の注意

授業でも片口法の施行・記号化(Scoring)の基礎に関して講義しますが、実践的な解釈を中心に学ぶ授業なので、片口法の基本的な施行・記号化(Scoring)の知識を身につけている受講生を想定しています。
 本授業では、ワークやグループでの検討を重要視しており、多く行います。そこで生じた不明点などは放置せず、その場で質問するなど主体的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

ロールシャッハ・テストは、心の動きや病理の重さなどをこまやかに読み解く上で非常に役立ちます。その分、習得には時間と労力が必要で、半期の授業で学べることには限りがあります。そこで、準備学習として、参考書の指定された範囲を読んで不明点を見出すこと、課題に取り組み学んだ知識を定着させることが求められます。

教科書

講義は毎回配布する資料を中心に進めます。配布資料は以下の参考文献のもとに作成されています。

参考書

『改訂 新・心理診断法』片口安史著(金子書房)
 『改訂 ロールシャッハ法と精神分析—継起分析入門—』馬場禮子著(岩崎学術出版社)
 『力動的心理査定—ロールシャッハ法の継起分析を中心に—』馬場禮子編著(岩崎学術出版社)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施される課題やレポートに対して、その次の授業に開設の時間を設けます。

成績評価の方法

毎回、ワークやグループ検討を行います。その際に積極的に意見や質問を述べられることなどの授業への参加度・貢献度を90%、授業内で実施する課題・レポートの点数の総計を10%で評価する。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理特別実習ⅠA		
開講期	春学期	単位	実2
担当者	増沢 高、伊藤直樹、川島義高		

授業の概要・到達目標

臨床心理基礎実習を補うための実習である。受講生が学内・学外の心理相談・治療機関において実習を受ける準備として、講義、文献講読、模擬事例や事例論文の検討等を通して、クライアントの状態像の把握、行動観察の視点、生育歴や家族歴の把握と理解、家族力動の理解、日常生活と心の課題をと結び付けた理解、心理学的諸検査等の活用のあり方、クライアントと支援者間で生ずる力動の理解など心理的支援の基盤となる「包括的アセスメント」の基本について習得する。あわせて、相談機関など、臨床現場への視察も行い、臨床実践の理解を深める。

授業内容

- 14回の予定は次の通りである。
- ①イントロダクション
 - ②「ケースの包括的アセスメントについて」講義
 - ③「状態像の把握と行動観察について」講義と演習
 - ④「ジェノグラムの描き方」演習
 - ⑤「家族の状況、生育歴等のアセスメントに必要な情報」についての講義と演習(模擬事例の検討)
 - ⑥「相談者の課題と強み」の理解と方針設定についての講義と演習(模擬事例の検討)
 - ⑦文献講読
 - ⑧児童福祉制度と臨床の展開についての講義
 - ⑨児童福祉領域にある施設や機関についての講義
 - ⑩—⑭事例検討あるいは施設見学

履修上の注意

実際の事例や臨床現場に触れるため、倫理と責任に関して厳に心得ておかななくてはならない。また児童虐待、子どもの貧困、子どもの自殺等子どもに関する社会的問題に関して日ごろから関心を持つ姿勢が望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業の進行にあわせて、資料やワークシートを配布するので、授業の終了後はそれを使用して復習すること。

教科書

増沢高著「子ども家庭支援の包括的アセスメント」(明石書店, 2018)

参考書

随時、授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加姿勢、およびスーパービジョンを通して、ケースに向き合う姿勢等、実際の活動内容を総合的に評価し、授業の評価とする。

その他

公認心理師試験を受験希望する者は、必ず履修すること。

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理特別実習ⅠB		
開講期	秋学期	単位	実2
担当者	増沢 高、伊藤直樹、川島義高		

授業の概要・到達目標

受講生が学内・学外の心理相談・治療機関において実習を行った事例について事例検討を行う。事例検討を通して、情報を把握する視点、把握された情報を分析し、クライアントの課題や強みを整理する視点、適切かつ効果的な支援方法を見出していく力を養成する。様々な臨床現場の事例にふれ、検討を繰り返すことで、受講者の「包括的アセスメント」の能力を高める。

授業内容

14回の予定は次の通りである。

- ①イントロダクション
- ②実習先の概要報告と事例検討-1
- ③実習先の概要報告と事例検討-2
- ④実習先の概要報告と事例検討-3
- ⑤実習先の概要報告と事例検討-4
- ⑥実習先の概要報告と事例検討-5
- ⑦実習先の概要報告と事例検討-6
- ⑧実習先の概要報告と事例検討-7
- ⑨実習先の概要報告と事例検討-8
- ⑩実習先の概要報告と事例検討-9
- ⑪実習先の概要報告と事例検討-10
- ⑫実習先の概要報告と事例検討-11
- ⑬実習先の概要報告と事例検討-12
- ⑭実習先の概要報告と事例検討-13

履修上の注意

実際の事例を扱うため、倫理と責任に関して厳に心得ておかななくてはならない。事例報告に際しては個人が特定できないよう十分な配慮をして作成すること。事例報告資料は必ず回収し破棄すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業の進行にあわせて、関連資料等を配布するので、復習すること。

教科書

増沢高著「子ども家庭支援の包括的アセスメント」(明石書店, 2018)

参考書

随時、授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加姿勢、およびスーパービジョンを通して、ケースに向き合う姿勢等、実際の活動内容を総合的に評価し、授業の評価とする。

その他

公認心理師試験を受験希望する者は、必ず履修すること。

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理特別実習ⅡA		
開講期	春学期	単位	実2
担当者	吾妻ゆかり、高瀬由嗣、竹松志乃		

授業の概要・到達目標

本講では毎回受講生に各自が担当している事例について、その概要、検討点、その後の心理面接の展開について詳しく呈示してもらおう。そして様々な視点から事例を検討していく。
心理面接の導入と展開の実際を学び、心理職として心理面接していくための力をつける。

授業内容

前期課程2年次になると学内外の実習施設で本格的に事例にかかわることになる。本講では、受講生に学内外で心理面接を担当している事例を呈示してもらい、グループスーパーヴィジョンを行っていく。心理職がかかわる事例は、時代とともに重篤な例が増えてきている。個々の心身の発達に様々な障害が見られ、家族の病理も深刻で、多くの要因が複雑に絡み合い、危機的な状況を呈する事例が目立つ。問題が重層化しており、導入期の心理面接の中で心理アセスメントに迷う難しい事例が多く見られる。しかし、そのような困難な事例をどのように見立てていくか、どのように面接の流れを見ていくか、どのようにその後の経過を追っていくかなど、臨床心理の幅広い視点に立ち柔軟に考えていく。受講生たちは、事例を担当するようになり、それまで学んできた理論と現実とのギャップに直面することが予想されるが、理論と現実の橋渡しを行なうグループスーパーヴィジョンをめざし、臨床心理領域の高度専門職業人を育成する。

受講生たちは個人スーパーヴィジョンも並行して受けている。本講では、グループスーパーヴィジョンという特色を生かして、お互いに事例を発表したり事例の発表を聴くことを通して、共感したり疑問に思ったり自由に意見を交換し、事例を深く理解すること、臨床心理について幅広く考えることを目的とする。また、スーパーヴィジョンで指摘されたことや考えたことを、自分自身の中に取り入れ消化していく過程が重要であるため、本講で事例を発表し、その中で出てきた疑問や感想を吟味し振り返る時間を十分にとって講義を進めていく。受講生らにとって、個人スーパーヴィジョンとグループスーパーヴィジョンが心理実践実習の両輪としてうまく作用していくことをめざしている。

第1回：心理面接についての講義と今後のイントロダクション
第2回から第13回：事例報告と検討（毎回受講生に順番に報告してもらう）

第14回：報告した事例についての再検討とまとめ

履修上の注意

臨床心理に携わることに関心を持ち、事例の秘密保持などに責任を持つことが求められる。1年次までのカリキュラムを十分に習熟して講義に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

関係する文献にあたること。また授業で紹介する内容について文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

方法としての面接 土居健郎
精神療法の第一歩 成田善弘
カウンセリングの実際問題 河合隼雄
その他必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

スーパーヴィジョンという性格上、事例の理解や心理面接それ自体に評価は行わない。レポートの提出状況、講義に真摯に取り組む姿勢などを評価の対象とする。

その他

公認心理師試験を受験希望する者は必ず履修すること。

科目ナンバー：(AL) PSY535J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床心理特別実習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	実2
担当者	吾妻ゆかり、高瀬由嗣、竹松志乃		

授業の概要・到達目標

本講では春学期と同様に毎回受講生に各自が担当している事例について、その概要、検討点、その後の心理面接の展開について詳しく呈示してもらおう。そして様々な視点から事例を検討していく。

心理面接の導入と展開の実際を学び、心理職として心理面接していくための力をつける。心理面接の展開と終結の実際を学び、心理職として心理面接していくための力をつける。

授業内容

前期課程2年次の秋学期に入ると、学内外の実習施設での実習も軌道に乗ってくる。本講では、春学期に引き続き受講生に学内外で担当する事例を呈示してもらい、グループスーパーヴィジョンを行っていく。春学期の欄で述べた点に加えて、とりわけ面接が展開していく中で、実習生とクライエントの関係を軸に、事例を理解していくことに焦点をあてていく。それと同時に大抵の実習先は翌年3月に修了となるために、心理面接の終結や引継ぎをどのように行っていくかに重点を置いてスーパーヴィジョンを行っていく。

受講生たちは、修士論文を書きながら実習先で心理面接を担当し、本講で事例を発表し忙しくなるが、しっかりとした土台を築き、臨床心理学領域の高度専門職業人を養成する。

第1回：心理面接についての講義と今後のイントロダクション

第2回から第13回：事例報告と検討（毎回受講生に順番に報告してもらう）

第14回：報告した事例についての再検討とまとめ

履修上の注意

臨床心理に携わることに関心を持ち、事例の秘密保持などに責任を持つことが求められる。1年次までのカリキュラムを十分に習熟して講義に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

関係する文献にあたること。また授業で紹介する内容について文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

基本的な参考書に加えて、さらに専門的な参考書や論文を必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

スーパーヴィジョンという性格上、事例の理解や心理面接それ自体に評価は行わない。レポートの提出状況、講義に真摯に取り組む姿勢などを評価の対象とする。

その他

公認心理師試験を受験希望する者は、必ず履修すること。

科目ナンバー：(AL) SOC515J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学総合演習A		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	大畑裕嗣、平山満紀、内藤朝雄、昔農英明、宇田和子		

授業の概要・到達目標

専攻(コース)の全員が集って、研究交流をする。フィールドワークに関して学生が発表し、検討をおこなう。現場と学問知の往復をしながら、現場の問題を明らかにし、また問題解決に寄与し、学問知の発展をめざす。場合によっては、フィールドの方々(市民運動の担い手、行政職員など)に参加していただき、ともにフィールドワークのあり方を検討する。

授業内容

集中講義形式で、現代社会学専攻(臨床社会学コース)の博士前期課程の専任教員全員と学生全員が集まり、特に学生の手掛けているフィールドワークについて、報告し、検討する。

検討する論点としては、

- ・さまざまな社会調査法の中から、どの調査法を選択するか
- ・研究テーマに照らし、どのような人を調査対象とするか
- ・調査対象者・調査協力者との接点の作り方、関係の築き方
- ・調査対象者・調査協力者との関係上の問題をどう解決するか
- ・質問項目、質問文など
- ・いつ、どのように、調査をおこなうか、調査の技術的な点
- ・研究倫理上のさまざまな論点
- ・フィールドノートの書き方
- ・調査で得た、質的、量的なさまざまなデータの記録法
- ・質的、量的なさまざまなデータの分析法
- ・データ分析からどのように議論するか
- ・調査と分析に関してどのように論文に書くか

などが挙げられる。

フィールドの方々に参加された場合は、フィールドに関してお話をしていただき、よりよい調査方法を探す議論もおこないたい。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

学生は、自分の修士論文、そのほか関心をもつテーマに関して、全員がフィールドワークに取り組み、本授業のために、その報告を準備する。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

フィールドワークの質量、報告の質量、参加度の総合評価とする。評価については、教員たちの合議で決める。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC515J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学総合演習B		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	大畑裕嗣、平山満紀、内藤朝雄、昔農英明、宇田和子		

授業の概要・到達目標

専攻(コース)の全員が集って、研究交流をする。フィールドワークに関して学生が発表し、検討をおこなう。現場と学問知の往復をしながら、現場の問題を明らかにし、また問題解決に寄与し、学問知の発展をめざす。場合によっては、フィールドの方々(市民運動の担い手、行政職員など)に参加していただき、ともにフィールドワークのあり方を検討する。

授業内容

集中講義形式で、現代社会学専攻(臨床社会学コース)の博士前期課程の専任教員全員と学生全員が集まり、特に学生の手掛けているフィールドワークについて、報告し、検討する。

検討する論点としては、

- ・さまざまな社会調査法の中から、どの調査法を選択するか
- ・研究テーマに照らし、どのような人を調査対象とするか
- ・調査対象者・調査協力者との接点の作り方、関係の築き方
- ・調査対象者・調査協力者との関係上の問題をどう解決するか
- ・質問項目、質問文など
- ・いつ、どのように、調査をおこなうか、調査の技術的な点
- ・研究倫理上のさまざまな論点
- ・フィールドノートの書き方
- ・調査で得た、質的、量的なさまざまなデータの記録法
- ・質的、量的なさまざまなデータの分析法
- ・データ分析からどのように議論するか
- ・調査と分析に関してどのように論文に書くか

などが挙げられる。

フィールドの方々に参加された場合は、フィールドに関してお話をしていただき、よりよい調査方法を探す議論もおこないたい。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

学生は、自分の修士論文、そのほか関心をもつテーマに関して、全員がフィールドワークに取り組み、本授業のために、その報告を準備する。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

フィールドワークの質量、報告の質量、参加度の総合評価とする。評価については、教員たちの合議で決める。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(社会学) 昔農 英明		

授業の概要・到達目標

授業担当者は、これまで欧米諸国や日本におけるエスニック・マイノリティの排除や共生問題に照準して研究してきた。本授業では、これらのテーマを中心に、国際社会学の重要なテーマについて、論文を輪読したり、各自の研究テーマについて報告を行ってもらい、全体でディスカッションを行う。輪読する論文は、受講生のテーマを考慮の上、院生と相談の上で決定する。また受講者が修士課程学生であり、研究のやり方をまだ理解していないと考えられることから、論文の書き方や研究報告の仕方、研究の進め方など、多くの院生にとって不可欠となる研究スキルについても講義し、議論をしたいと考えている。

授業内容

- 第1回 授業計画の決定
- 第2回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(1)
- 第3回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(2)
- 第4回 指定文献についての報告と討論(1)
- 第5回 指定文献についての報告と討論(2)
- 第6回 指定文献についての報告と討論(3)
- 第7回 指定文献についての報告と討論(4)
- 第8回 中間的まとめ
- 第9回 各自の報告と討論(1)
- 第10回 各自の報告と討論(2)
- 第11回 各自の報告と討論(3)
- 第12回 各自の報告と討論(4)
- 第13回 各自の報告と討論(5)
- 第14回 各自の報告と討論(6)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジュメを作成し、必ずコメントも付け加えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んで授業に参加すること。

教科書

特に定めない

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックに関してはオーメижやメールなどを通じて行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらい①レポートの中身(30%)、ならびに②平常点(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内での発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅠB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(社会学) 昔農 英明		

授業の概要・到達目標

授業担当者は、これまで欧米諸国や日本におけるエスニック・マイノリティの排除や共生問題に照準して研究してきた。本授業では、これらのテーマを中心に、国際社会学の重要なテーマについて、論文を輪読したり、各自の研究テーマについて報告を行ってもらい、全体でディスカッションを行う。輪読する論文は、受講生のテーマを考慮の上、院生と相談の上で決定する。また受講者が修士課程学生であり、研究のやり方をまだ理解していないと考えられることから、論文の書き方や研究報告の仕方、研究の進め方など、多くの院生にとって不可欠となる研究スキルについても講義し、議論をしたいと考えている。

授業内容

- 第1回 授業計画の決定
- 第2回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(1)
- 第3回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(2)
- 第4回 指定文献についての報告と討論(1)
- 第5回 指定文献についての報告と討論(2)
- 第6回 指定文献についての報告と討論(3)
- 第7回 指定文献についての報告と討論(4)
- 第8回 中間的まとめ
- 第9回 各自の報告と討論(1)
- 第10回 各自の報告と討論(2)
- 第11回 各自の報告と討論(3)
- 第12回 各自の報告と討論(4)
- 第13回 各自の報告と討論(5)
- 第14回 各自の報告と討論(6)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジュメを作成し、必ずコメントも付け加えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んで授業に参加すること。

教科書

特に定めない

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックに関してはオーメижやメールなどを通じて行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらい①レポートの中身(30%)、ならびに②平常点(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内での発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(社会学) 昔農 英明		

授業の概要・到達目標

授業担当者は、これまで欧米諸国や日本におけるエスニック・マイノリティの排除や共生問題に照準して研究してきた。本授業では、これらのテーマを中心に、国際社会学の重要なテーマについて、論文を輪読したり、各自の研究テーマについて報告を行ってもらい、全体でディスカッションを行う。輪読する論文は、受講生のテーマを考慮の上、院生と相談の上で決定する。また受講者が修士課程学生であり、研究のやり方をまだ理解していないと考えられることから、論文の書き方や研究報告の仕方、研究の進め方など、多くの院生にとって不可欠となる研究スキルについても講義し、議論をしたいと考えている。

授業内容

- 第1回 授業計画の決定
- 第2回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(1)
- 第3回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(2)
- 第4回 指定文献についての報告と討論(1)
- 第5回 指定文献についての報告と討論(2)
- 第6回 指定文献についての報告と討論(3)
- 第7回 指定文献についての報告と討論(4)
- 第8回 中間的まとめ
- 第9回 各自の報告と討論(1)
- 第10回 各自の報告と討論(2)
- 第11回 各自の報告と討論(3)
- 第12回 各自の報告と討論(4)
- 第13回 各自の報告と討論(5)
- 第14回 各自の報告と討論(6)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジюмеを作成し、必ずコメントも付け加えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んで授業に参加すること。

教科書

特に定めない

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックに関してはオーメижやメールなどを通じて行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらい①レポートの中身(30%)、ならびに②平常点(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内での発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(社会学) 昔農 英明		

授業の概要・到達目標

授業担当者は、これまで欧米諸国や日本におけるエスニック・マイノリティの排除や共生問題に照準して研究してきた。本授業では、これらのテーマを中心に、国際社会学の重要なテーマについて、論文を輪読したり、各自の研究テーマについて報告を行ってもらい、全体でディスカッションを行う。輪読する論文は、受講生のテーマを考慮の上、院生と相談の上で決定する。また受講者が修士課程学生であり、研究のやり方をまだ理解していないと考えられることから、論文の書き方や研究報告の仕方、研究の進め方など、多くの院生にとって不可欠となる研究スキルについても講義し、議論をしたいと考えている。

授業内容

- 第1回 授業計画の決定
- 第2回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(1)
- 第3回 論文の書き方、発表の仕方についての講義(2)
- 第4回 指定文献についての報告と討論(1)
- 第5回 指定文献についての報告と討論(2)
- 第6回 指定文献についての報告と討論(3)
- 第7回 指定文献についての報告と討論(4)
- 第8回 中間的まとめ
- 第9回 各自の報告と討論(1)
- 第10回 各自の報告と討論(2)
- 第11回 各自の報告と討論(3)
- 第12回 各自の報告と討論(4)
- 第13回 各自の報告と討論(5)
- 第14回 各自の報告と討論(6)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジюмеを作成し、必ずコメントも付け加えること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んで授業に参加すること。

教科書

特に定めない

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックに関してはオーメижやメールなどを通じて行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらい①レポートの中身(30%)、ならびに②平常点(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内での発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	大畑 裕嗣	

授業の概要・到達目標

皆さんの研究テーマはさまざまでしょうが（え？「研究テーマは特にありません」って？……うーん、正直なのかもしれませんが、それは……まあ、ちょっと一緒に考えましょう。）、ともかく大学院にはいった（はいつてしまった）以上、自分で何かを研究して、それに基づいて学位論文を書かなければなりません。では「研究する」「論文を書く」とは、どういうことでしょうか。その前提となる「研究者の卵になる」とはどういうことでしょうか。この授業では下のテキストを使いながら、「考える」「読む」「調べる」「話す」の各側面から、上の問いについて考え、皆さんがそれを実践していくうえでの具体的な悩みについて話し合います。到達目標は、院でやっていくための「根拠ある自信」を持てるようになること。

授業内容

- 1 考える(1)(研究の基本)
- 2 考える(2)(研究テーマの探索、研究課題の設定)
- 3 考える(3)(考えるコツ)
- 4 読む(1)(文献を読む)
- 5 読む(2)(文献データベースを調べる)
- 6 読む(3)(引用の作法)
- 7 「考える」「読む」の復習
- 8 調べる(1)(調査とは何か、質的調査)
- 9 調べる(2)(量的調査、調査の実際)
- 10 調べる(3)(既存のデータの収集)
- 11 話す(1)(ゼミ発表)
- 12 話す(2)(学会発表)
- 13 話す(3)(面接)
- 14 「調べる」の復習、「話す」の実習

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書のその日にやる部分を事前によく読み、その内容に関する質問を少なくともひとつ考えたうえで、授業に出席してください。

教科書

石黒圭, 2021, 『文系研究者になる——「研究する人生」を歩むためのガイドブック』研究社。

参考書

岸政彦他, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。
ボーンシュエット&ノーキ(海野道郎・中村隆監訳), 1990, 『社会統計学』ハーベスト社。

課題に対するフィードバックの方法

授業のその場で評価を言います。(皆さんを傷つけないように配慮しつつ。)

成績評価の方法

授業内でのコミュニケーションに基づいて成績を評価しますが、特に「実習」としてやっていただく、実際のゼミ発表を重視します。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	大畑 裕嗣	

授業の概要・到達目標

皆さんの研究テーマはさまざまでしょうが（え？「研究テーマは特にありません」って？……うーん、正直なのかもしれませんが、それは……まあ、ちょっと一緒に考えましょう。）、ともかく大学院にはいった（はいつてしまった）以上、自分で何かを研究して、それに基づいて学位論文を書かなければなりません。では「研究する」「論文を書く」とは、どういうことでしょうか。その前提となる「研究者の卵になる」とはどういうことでしょうか。この授業では下のテキストを使いながら、「書く」「つながる」「生きる」の各側面から、上の問いについて考え、皆さんがそれを実践していくうえでの具体的な悩みについて話し合います。到達目標は院でやっていくための「根拠ある自信」を持てるようになること。加えて芥川龍之介「杜子春」末尾の仙人と杜子春の対話の意味を理解できるようになること。

授業内容

- 1 書く(1)(書くということ)
- 2 書く(2)(修士論文の執筆)
- 3 書く(3)(学術論文の構成別執筆法)
- 4 書く(4)(学術雑誌への投稿)
- 5 つながる(1)(教員、特に指導教員との人間関係)
- 6 つながる(2)(院生どうしの人間関係)
- 7 つながる(3)(学会でつながる)
- 8 つながる(4)(社会とつながる)
- 9 つながる(5)(デジタルでつながる)
- 10 「書く」「つながる」の復習
- 11 生きる(1)(結婚、出産・子育て、介護)
- 12 生きる(2)(心身の不調、ハラスメント、経済問題)
- 13 生きる(3)(あなたにとって「キャリア」とは、(付)「教授」は何をやっているのか)
- 14 1年間の授業を振り返って

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書のその日にやる部分を事前によく読み、その内容に関する質問を少なくともひとつ考えたうえで、授業に出席してください。

教科書

石黒圭, 2021, 『文系研究者になる——「研究する人生」を歩むためのガイドブック』研究社。

参考書

ハワード・S・ベッカー(佐野敏行訳), 1996, 『論文の技法』講談社学術文庫。
芥川龍之介「杜子春」(収録書多数。ウェブの「青空文庫」でも閲覧可)

課題に対するフィードバックの方法

秋学期のこの授業については「課題」というほどあらたまったものは設けていないので、心配しなくても大丈夫です。

成績評価の方法

授業内のコミュニケーションによります。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	大畑 裕嗣	

授業の概要・到達目標

皆さんの研究テーマはさまざまでしょうが（え？「研究テーマは特にありません」って？……うーん、正直なのかもしれませんが、それは……まあ、ちょっと一緒に考えましょう。）、ともかく大学院にはいった（はいつてしまった）以上、自分で何かを研究して、それに基づいて学位論文を書かなければなりません。では「研究する」「論文を書く」とは、どういうことでしょうか。その前提となる「研究者の卵になる」とはどういうことでしょうか。この授業では下のテキストを使いながら、「考える」「読む」「調べる」「話す」の各側面から、上の問いについて考え、皆さんがそれを実践していくうえでの具体的な悩みについて話し合います。到達目標は、院でやっていくための「根拠ある自信」を持てるようになること。

授業内容

- 1 考える(1)(研究の基本)
- 2 考える(2)(研究テーマの探索、研究課題の設定)
- 3 考える(3)(考えるコツ)
- 4 読む(1)(文献を読む)
- 5 読む(2)(文献データベースを調べる)
- 6 読む(3)(引用の作法)
- 7 「考える」「読む」の復習
- 8 調べる(1)(調査とは何か、質的調査)
- 9 調べる(2)(量的調査、調査の実際)
- 10 調べる(3)(既存のデータの収集)
- 11 話す(1)(ゼミ発表)
- 12 話す(2)(学会発表)
- 13 話す(3)(面接)
- 14 「調べる」の復習、「話す」の実習

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書のその日にやる部分を事前によく読み、その内容に関する質問を少なくともひとつ考えたうえで、授業に出席してください。

教科書

石黒圭, 2021, 『文系研究者になる——「研究する人生」を歩むためのガイドブック』研究社。

参考書

岸政彦他, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。
ボーンシュエット&ノーキ(海野道郎・中村隆監訳), 1990, 『社会統計学』ハーベスト社。

課題に対するフィードバックの方法

授業のその場で評価を言います。(皆さんを傷つけないように配慮しつつ。)

成績評価の方法

授業内でのコミュニケーションに基づいて成績を評価しますが、特に「実習」としてやっていただく、実際のゼミ発表を重視します。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	大畑 裕嗣	

授業の概要・到達目標

皆さんの研究テーマはさまざまでしょうが（え？「研究テーマは特にありません」って？……うーん、正直なのかもしれませんが、それは……まあ、ちょっと一緒に考えましょう。）、ともかく大学院にはいった（はいつてしまった）以上、自分で何かを研究して、それに基づいて学位論文を書かなければなりません。では「研究する」「論文を書く」とは、どういうことでしょうか。その前提となる「研究者の卵になる」とはどういうことでしょうか。この授業では下のテキストを使いながら、「書く」「つながる」「生きる」の各側面から、上の問いについて考え、皆さんがそれを実践していくうえでの具体的な悩みについて話し合います。到達目標は院でやっていくための「根拠ある自信」を持てるようになること。加えて芥川龍之介「杜子春」末尾の仙人と杜子春の対話の意味を理解できるようになること。

授業内容

- 1 書く(1)(書くということ)
- 2 書く(2)(修士論文の執筆)
- 3 書く(3)(学術論文の構成別執筆法)
- 4 書く(4)(学術雑誌への投稿)
- 5 つながる(1)(教員、特に指導教員との人間関係)
- 6 つながる(2)(院生どうしの人間関係)
- 7 つながる(3)(学会でつながる)
- 8 つながる(4)(社会とつながる)
- 9 つながる(5)(デジタルでつながる)
- 10 「書く」「つながる」の復習
- 11 生きる(1)(結婚、出産・子育て、介護)
- 12 生きる(2)(心身の不調、ハラスメント、経済問題)
- 13 生きる(3)(あなたにとって「キャリア」とは、(付)「教授」は何をやっているのか)
- 14 1年間の授業を振り返って

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書のその日にやる部分を事前によく読み、その内容に関する質問を少なくともひとつ考えたうえで、授業に出席してください。

教科書

石黒圭, 2021, 『文系研究者になる——「研究する人生」を歩むためのガイドブック』研究社。

参考書

ハワード・S・ベッカー(佐野敏行訳), 1996, 『論文の技法』講談社学術文庫。
芥川龍之介「杜子春」(収録書多数。ウェブの「青空文庫」でも閲覧可)

課題に対するフィードバックの方法

秋学期のこの授業については「課題」というほどあらたまったものは設けていないので、心配しなくても大丈夫です。

成績評価の方法

授業内のコミュニケーションによります。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(政策科学) 宇田 和子		

授業の概要・到達目標

この演習では、環境社会学および保健医療社会学の文献を輪読する。文献の題材は、公害、薬害、環境病、環境リスク、環境被害、被害補償に関するものとする。

また、受講生の関心にもとづき、近年の『社会学評論』からいくつかの論文を読み、学術論文の型を読み解く。

演習の到達目標は、第一に、各分野の主要な論点を理解し、批判的に検討できることである。第二に、それらと自身の研究の関連を整理し、位置づけられることである。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 各自の問題関心の報告
- 第3回 文献講読(1)
- 第4回 文献講読(2)
- 第5回 文献講読(3)
- 第6回 文献講読(4)
- 第7回 文献講読(5)
- 第8回 文献講読(6)
- 第9回 文献講読(7)
- 第10回 文献講読(8)
- 第11回 文献講読(9)
- 第12回 文献講読(10)
- 第13回 各自の研究と環境社会学の関連についての報告(1)
- 第14回 各自の研究と環境社会学の関連についての報告(2)

履修上の注意

なし

準備学習（予習・復習等）の内容

全員が文献を読み、議論のために問題提起を行う。報告者が議論のたたき台となるレジュメを作る。その際、扱う文献以外の先行研究や補足情報を調べること。

教科書

藤川賢・友澤悠季編, 2023, 『なぜ公害は続くのか：潜在・散在・長期化する被害』(講座環境社会学1巻)新泉社。

ほか、受講生の関心により決定する。

参考書

船橋晴俊・飯島伸子編, 1998, 『環境』(講座社会学12巻)東京大学出版会。

飯島伸子・長谷川公一・鳥越皓之・船橋晴俊編, 2001, 『環境社会学の視点』(講座環境社会学1巻), 有斐閣。

ほか、授業内で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う。

成績評価の方法

議論への貢献度(60%)、課題の評点(40%)から総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(政策科学) 宇田 和子		

授業の概要・到達目標

この演習では、環境社会学および保健医療社会学の文献を輪読する。文献の題材は、公害、薬害、環境病、環境リスク、環境被害、被害補償に関するものとする。

また、受講生の関心にもとづき、近年の『社会学評論』からいくつかの論文を読み、学術論文の型を読み解く。

演習の到達目標は、第一に、各分野の主要な論点を理解し、批判的に検討できることである。第二に、それらと自身の研究の関連を整理し、位置づけられることである。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 各自の問題関心の報告
- 第3回 文献講読(1)
- 第4回 文献講読(2)
- 第5回 文献講読(3)
- 第6回 文献講読(4)
- 第7回 文献講読(5)
- 第8回 文献講読(6)
- 第9回 文献講読(7)
- 第10回 文献講読(8)
- 第11回 文献講読(9)
- 第12回 文献講読(10)
- 第13回 各自の研究と保健医療社会学の関連についての報告(1)
- 第14回 各自の研究と保健医療社会学の関連についての報告(2)

履修上の注意

なし

準備学習（予習・復習等）の内容

全員が文献を読み、議論のために問題提起を行う。報告者が議論のたたき台となるレジュメを作る。その際、扱う文献以外の先行研究や補足情報を調べること。

教科書

本郷正武・佐藤哲彦編, 2023, 『薬害とはなにか：新しい薬害の社会学』ミネルヴァ書房。

参考書

宝月誠編, 1986, 『薬害の社会学：薬と人間のアイロニー』世界思想社。

種田博之, 2019, 『パラドクスとしての薬害エイズ：医師のユートスと医療進歩の呪縛』新曜社。

野島那津子, 2021, 『診断の社会学：「論争中の病」を患うということ』慶応義塾大学出版会。

ほか授業内で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う。

成績評価の方法

議論への貢献度(60%)、課題の評点(40%)から総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(政策科学) 宇田 和子		

授業の概要・到達目標

この演習では、環境社会学および保健医療社会学の文献を輪読する。文献の題材は、公害、薬害、環境病、環境リスク、環境被害、被害補償に関するものとする。

また、受講生の関心にもとづき、近年の『社会学評論』からいくつかの論文を読み、学術論文の型を読み解く。

演習の到達目標は、第一に、各分野の主要な論点を理解し、批判的に検討できることである。第二に、それらと自身の研究の関連を整理し、位置づけられることである。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 各自の問題関心の報告
- 第3回 文献講読(1)
- 第4回 文献講読(2)
- 第5回 文献講読(3)
- 第6回 文献講読(4)
- 第7回 文献講読(5)
- 第8回 文献講読(6)
- 第9回 文献講読(7)
- 第10回 文献講読(8)
- 第11回 文献講読(9)
- 第12回 文献講読(10)
- 第13回 各自の研究と環境社会学の関連についての報告(1)
- 第14回 各自の研究と環境社会学の関連についての報告(2)

履修上の注意

なし

準備学習（予習・復習等）の内容

全員が文献を読み、議論のために問題提起を行う。報告者が議論のたたき台となるレジュメを作る。その際、扱う文献以外の先行研究や補足情報を調べる。

教科書

藤川賢・友澤悠季編, 2023, 『なぜ公害は続くのか：潜在・散在・長期化する被害』(講座環境社会学1巻)新泉社。

ほか、受講生の関心により決定する。

参考書

船橋晴俊・飯島伸子編, 1998, 『環境』(講座社会学12巻)東京大学出版会。

飯島伸子・長谷川公一・鳥越皓之・船橋晴俊編, 2001, 『環境社会学の視点』(講座環境社会学1巻), 有斐閣。

ほか、授業内で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う。

成績評価の方法

議論への貢献度(60%)、課題の評点(40%)から総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(政策科学) 宇田 和子		

授業の概要・到達目標

この演習では、環境社会学および保健医療社会学の文献を輪読する。文献の題材は、公害、薬害、環境病、環境リスク、環境被害、被害補償に関するものとする。

また、受講生の関心にもとづき、近年の『社会学評論』からいくつかの論文を読み、学術論文の型を読み解く。

演習の到達目標は、第一に、各分野の主要な論点を理解し、批判的に検討できることである。第二に、それらと自身の研究の関連を整理し、位置づけられることである。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 各自の問題関心の報告
- 第3回 文献講読(1)
- 第4回 文献講読(2)
- 第5回 文献講読(3)
- 第6回 文献講読(4)
- 第7回 文献講読(5)
- 第8回 文献講読(6)
- 第9回 文献講読(7)
- 第10回 文献講読(8)
- 第11回 文献講読(9)
- 第12回 文献講読(10)
- 第13回 各自の研究と保健医療社会学の関連についての報告(1)
- 第14回 各自の研究と保健医療社会学の関連についての報告(2)

履修上の注意

なし

準備学習（予習・復習等）の内容

全員が文献を読み、議論のために問題提起を行う。報告者が議論のたたき台となるレジュメを作る。その際、扱う文献以外の先行研究や補足情報を調べる。

教科書

本郷正武・佐藤哲彦編, 2023, 『薬害とはなにか：新しい薬害の社会学』ミネルヴァ書房。

参考書

宝月誠編, 1986, 『薬害の社会学：薬と人間のアイロニー』世界思想社。

種田博之, 2019, 『パラドクスとしての薬害エイズ：医師のユートピアと医療進歩の呪縛』新曜社。

野島那津子, 2021, 『診断の社会学：「論争中の病」を患うということ』慶応義塾大学出版会。

ほか授業内で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う。

成績評価の方法

議論への貢献度(60%)、課題の評点(40%)から総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	現代社会学演習IVA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 内藤 朝雄		

授業の概要・到達目標

一定の条件のもとで生じたときに大きく展開する、人間が人間にとって怪物になるというべき暴力・迫害現象を研究するために学校のいじめについて検討し、それを組み込んだ新しい社会学的あるいは社会科学の理論構築の可能性をさぐる。いじめをモデル現象に用いた暴力論の論理について見識を深め、これをもちに社会と人間について、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

テキストについて全員が読んでくる。レポーターは、発表の一週間前に、一つの章や論文について、要約をつくり、かつ、その箇所をテーマにした論文(A4用紙で8枚以上、見開きなら4枚以上)をつくり、全員に配布し、当日それを発表する。コメンテーターはそれを読んできてコメントの小論文を書いてきて全員に配布し、コメントを発表する。次の文献を教科書として用いる予定である。
 内藤朝雄A『いじめの構造』(講談社)、B『いじめの社会理論』(柏書房)
 第1回：イントロダクション
 第2回：教科書A第1章から第3章についての発表と討議
 第3回：教科書A第4章から第7章についての発表と討議
 第4回：教科書序章についての発表と討議
 第5回：教科書B第1章についての発表と討議
 第6回：教科書B第2章についての発表と討議
 第7回：教科書B第3章についての発表と討議
 第8回：教科書B第4章についての発表と討議
 第9回：教科書B第5章についての発表と討議
 第10回：教科書B第6章についての発表と討議
 第11回：教科書B第7章についての発表と討議
 第12回：教科書B第8章についての発表と討議
 第13回：教科書B第9章についての発表と討議
 第14回：これまでの発表と討議をもとに暴力論の展開についてのディスカッション

履修上の注意

毎回出席し発言することを要する。授業に出る前に必ず教科書や配付資料を読んでおくこと。受講希望者はシラバスを読んでいなければならない。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書を読んでおくこと。授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。

教科書

内藤朝雄2001『いじめの社会理論』柏書房
 内藤朝雄2009『いじめの構造』講談社

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

必要や求めに応じ、クラスウェブや電子メールなどを用いてコメントや助言のやりとりをする。

成績評価の方法

授業への参加度50パーセント、報告や論文の内容50パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	現代社会学演習IVB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 内藤 朝雄		

授業の概要・到達目標

一定の条件のもとで生じたときに大きく展開する、人間が人間にとって怪物になるというべき暴力・迫害現象を研究するために活用可能な有望なRandall Collinsのミクロ社会学的暴力論の論理について検討し、それを組み込んだ新しい社会学的あるいは社会科学の理論構築の可能性をさぐる。Randall Collinsの暴力論の論理について見識を深め、これをもちに社会と人間について、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

テキストについて全員が読んでくる。レポーターは、発表の一週間前に、一つの章や論文について、要約をつくり、かつ、その箇所をテーマにした論文(A4用紙で8枚以上、見開きなら4枚以上)をつくり、全員に配布し、当日それを発表する。コメンテーターはそれを読んできてコメントの小論文を書いてきて全員に配布し、コメントを発表する。次の文献をテキストとして予定している。
 『Violence』Randall Collins (Princeton University Press)
 第1回：イントロダクション
 第2回：教科書序章についての発表と討議
 第3回：教科書第1章についての発表と討議
 第4回：教科書第2章についての発表と討議
 第5回：教科書第3章についての発表と討議
 第6回：教科書第4章についての発表と討議
 第7回：教科書第5章についての発表と討議
 第8回：教科書第6章についての発表と討議
 第9回：教科書第7章についての発表と討議
 第10回：教科書第8章についての発表と討議
 第11回：教科書第9章についての発表と討議
 第12回：教科書第11章についての発表と討議
 第13回：Collins暴力論と関連させて暴力についての各参加者によるオリジナルな論文発表と討議を行う
 第14回：Collins暴力論と、内藤朝雄が構築してきた暴力・迫害の生態学的IPS秩序論を接合する理論の探求

履修上の注意

毎回出席し発言することを要する。原書講読(英語)をするので、ある程度の英語力のある学生が履修を選択するのが好ましい。授業に出る前に必ず教科書や配付資料を読んでおくこと。受講希望者はシラバスを読んでいなければならない。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書を読んでおくこと。授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。

教科書

『Violence』Randall Collins (Princeton University Press)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

必要や求めに応じ、クラスウェブや電子メールなどを用いてコメントや助言のやりとりをする。

成績評価の方法

授業への参加度50パーセント、報告や論文の内容50パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習IVC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授	内藤 朝雄	

授業の概要・到達目標

一定の条件のもとで生じたときに大きく展開する、人間が人間にとって怪物になるというべき暴力・迫害現象を研究するために学校のいじめについて検討し、それを組み込んだ新しい社会学的あるいは社会科学の理論構築の可能性をさぐる。いじめをモデル現象に用いた暴力論の論理について見識を深め、これをもちに社会と人間について、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

テキストについて全員が読んでくる。レポーターは、発表の一週間前に、一つの章や論文について、要約をつくり、かつ、その箇所をテーマにした論文(A4用紙で8枚以上、見開きなら4枚以上)をつくり、全員に配布し、当日それを発表する。コメンテーターはそれを読んできてコメントの小論文を書いてきて全員に配布し、コメントを発表する。次の文献を教科書として用いる予定である。
 内藤朝雄A『いじめの構造』(講談社)、B『いじめの社会理論』(柏書房)
 第1回：イントロダクション
 第2回：教科書A第1章から第3章についての発表と討議
 第3回：教科書A第4章から第7章についての発表と討議
 第4回：教科書序章についての発表と討議
 第5回：教科書B第1章についての発表と討議
 第6回：教科書B第2章についての発表と討議
 第7回：教科書B第3章についての発表と討議
 第8回：教科書B第4章についての発表と討議
 第9回：教科書B第5章についての発表と討議
 第10回：教科書B第6章についての発表と討議
 第11回：教科書B第7章についての発表と討議
 第12回：教科書B第8章についての発表と討議
 第13回：教科書B第9章についての発表と討議
 第14回：これまでの発表と討議をもとに暴力論の展開についてのディスカッション

履修上の注意

毎回出席し発言することを要する。授業に出る前に必ず教科書や配付資料を読んでおくこと。受講希望者はシラバスを読んでいなければならない。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書を読んでおくこと。授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。

教科書

内藤朝雄2001『いじめの社会理論』柏書房
 内藤朝雄2009『いじめの構造』講談社

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

必要や求めに応じ、クラスウェブや電子メールなどを用いてコメントや助言のやりとりをする。

成績評価の方法

授業への参加度50パーセント、報告や論文の内容50パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習IVD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授	内藤 朝雄	

授業の概要・到達目標

一定の条件のもとで生じたときに大きく展開する、人間が人間にとって怪物になるというべき暴力・迫害現象を研究するために活用可能な有望なRandall Collinsのミクロ社会学的暴力論の論理について検討し、それを組み込んだ新しい社会学的あるいは社会科学の理論構築の可能性をさぐる。Randall Collinsの暴力論の論理について見識を深め、これをもちに社会と人間について、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

テキストについて全員が読んでくる。レポーターは、発表の一週間前に、一つの章や論文について、要約をつくり、かつ、その箇所をテーマにした論文(A4用紙で8枚以上、見開きなら4枚以上)をつくり、全員に配布し、当日それを発表する。コメンテーターはそれを読んできてコメントの小論文を書いてきて全員に配布し、コメントを発表する。次の文献をテキストとして予定している。
 『Violence』Randall Collins (Princeton University Press)
 第1回：イントロダクション
 第2回：教科書序章についての発表と討議
 第3回：教科書第1章についての発表と討議
 第4回：教科書第2章についての発表と討議
 第5回：教科書第3章についての発表と討議
 第6回：教科書第4章についての発表と討議
 第7回：教科書第5章についての発表と討議
 第8回：教科書第6章についての発表と討議
 第9回：教科書第7章についての発表と討議
 第10回：教科書第8章についての発表と討議
 第11回：教科書第9章についての発表と討議
 第12回：教科書第11章についての発表と討議
 第13回：Collins暴力論と関連させて暴力についての各参加者によるオリジナルな論文発表と討議を行う
 第14回：Collins暴力論と、内藤朝雄が構築してきた暴力・迫害の生態学的IPS秩序論を接合する理論の探求

履修上の注意

毎回出席し発言することを要する。原書講読(英語)をするので、ある程度の英語力のある学生が履修を選択するのが好ましい。授業に出る前に必ず教科書や配付資料を読んでおくこと。受講希望者はシラバスを読んでいなければならない。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書を読んでおくこと。授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。

教科書

『Violence』Randall Collins (Princeton University Press)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

必要や求めに応じ、クラスウェブや電子メールなどを用いてコメントや助言のやりとりをする。

成績評価の方法

授業への参加度50パーセント、報告や論文の内容50パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習VA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	平山 満紀	

授業の概要・到達目標

現代日本の未婚化・デジタル・セクシュアリティの隆盛・セックスレス現象・性的多様性の社会的受容などの現状を、西洋諸社会やアジア諸社会など、世界の諸社会との比較をおこないつつ、文献資料から明らかにする。

合わせて、セクシュアリティと宗教、セクシュアリティと避妊技術、セクシュアリティと家族構造、セクシュアリティと男女の権力関係、セクシュアリティと人口、セクシュアリティと近代医学、セクシュアリティと近代国家などの関係についての、専門の研究成果を学ぶ。

セクシュアリティ研究は西洋諸国をはじめとして近年きわめて盛んになっている分野だが、日本ではタブー視されアカデミックには蓄積が薄い。その中で、セクシュアリティ研究を志す人にとっての、幅広い学問的な基礎を身に着けることを目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 セクシュアリティと人類史
- 第3回 セクシュアリティと宗教1
- 第4回 セクシュアリティと宗教2
- 第5回 セクシュアリティと家族構造1
- 第6回 セクシュアリティと家族構造2
- 第7回 前近代日本のセクシュアリティ1
- 第8回 前近代日本のセクシュアリティ2
- 第9回 前近代日本のセクシュアリティ3
- 第10回 セクシュアリティと避妊技術
- 第11回 セクシュアリティと近代医学
- 第12回 セクシュアリティと近代国家
- 第13回 セクシュアリティと男女の権力関係
- 第14回 総括

履修上の注意

毎回学生の発表形式をとるので、準備には相当の時間と熱意を要することを予め承知してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、そのつど指示する参考文献を読み、調べておくこと。

教科書

Silva Neves, (2022), *Sexology: The Basics*, Routledge
 落合恵美子『親密圏と公共圏の社会学: ケアの20世紀体制を超えて』2023、有斐閣
 Kathleen J. Fitzgerald, Kandice L. Grossman, (2018), *Sociology of Sexualities*, Sage

ほか多くの参考文献を用いる。

参考書

多くの参考文献を授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業は発表形式でおこなうので、その参加度や発表内容で評価する(7割程度の比重)。学期の最後に小論文を書いてもらい、その内容で評価する(3割程度の比重)。

その他

参加者の都合が合えば、構内での授業に替えて、学外でのフィールドワークをおこなう場合もある。

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習VB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	平山 満紀	

授業の概要・到達目標

現代日本の未婚化・デジタル・セクシュアリティの隆盛・セックスレス現象・性的多様性の社会的受容などを含む、セクシュアリティと親密性に関するさまざまな現状を、西洋諸社会、アジア諸社会などの、世界の諸社会との比較をおこないつつ、さまざまな文献資料からとらえ、その意味を社会的に考察する。

合わせて、セクシュアリティと避妊技術、セクシュアリティと家族構造、セクシュアリティと男女の権力関係、セクシュアリティと人口、セクシュアリティとメディア、セクシュアリティと教育、セクシュアリティと労働、セクシュアリティと社会階層などの関係についての、専門の研究成果を学ぶ。

セクシュアリティ研究は西洋諸国をはじめとして近年きわめて盛んになっている分野だが、日本ではタブー視されアカデミックには蓄積が薄い。その中で、セクシュアリティ研究を志す人にとっての、幅広い学問的な基礎を身に着けることを目標とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 セクシュアリティと現代史1
- 第3回 セクシュアリティと現代史2
- 第4回 セクシュアリティと避妊技術
- 第5回 セクシュアリティと家族1
- 第6回 セクシュアリティと家族2
- 第7回 現代日本のセクシュアリティ1
- 第8回 現代日本のセクシュアリティ2
- 第9回 現代日本のセクシュアリティ3
- 第10回 セクシュアリティとメディア
- 第11回 セクシュアリティと教育
- 第12回 セクシュアリティと労働
- 第13回 セクシュアリティと社会階層
- 第14回 総括

履修上の注意

毎回学生の発表形式をとるので、準備には相当の時間と熱意を要することを予め承知してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、そのつど指示する参考文献を読み、調べておくこと。

教科書

Silva Neves, (2022), *Sexology: The Basics*, Routledge
 落合恵美子『親密圏と公共圏の社会学: ケアの20世紀体制を超えて』2023、有斐閣
 をはじめとして、授業中に指示する。

参考書

参考文献を授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業は発表形式でおこなうので、その参加度や発表内容で評価する(7割程度の比重)。学期の最後に小論文を書いてもらい、その内容で評価する(3割程度の比重)。

その他

参加者の都合が合えば、構内での授業に替えて、学外でのフィールドワークをおこなう場合もある。

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習VC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	平山 満紀	

授業の概要・到達目標

現代日本の未婚化・オタク文化の隆盛・セックスレス現象・性的多様性の社会的受容などの現状を世界のさまざまな社会との比較をおこないつつ、文献資料から明らかにする。

合わせて、セクシュアリティと宗教、セクシュアリティと避妊技術、セクシュアリティと家族構造、セクシュアリティと男女の権力関係、セクシュアリティと人口、セクシュアリティと近代医学、セクシュアリティと近代国家などの関係についての、専門の研究成果を学ぶ。

近年、中国からの留学生が増えていることから、中国社会における家族関係、恋愛、リプロダクション、人口問題などにも、焦点をあてて学ぶ。

セクシュアリティ研究は西洋諸国をはじめとして近年きわめて盛んになっている分野だが、日本ではタブー視されアカデミックには蓄積が薄い。その中で、セクシュアリティ研究を志す人にとっての、幅広い学問的な基礎を身に着けることを目標とする。

M2の学生には、修士論文研究の指導をおこなう。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 セクシュアリティと人類史
- 第3回 セクシュアリティと宗教1
- 第4回 セクシュアリティと宗教2
- 第5回 セクシュアリティと家族構造1
- 第6回 セクシュアリティと家族構造2
- 第7回 前近代日本のセクシュアリティ1
- 第8回 前近代日本のセクシュアリティ2
- 第9回 前近代日本のセクシュアリティ3
- 第10回 セクシュアリティと避妊技術
- 第11回 セクシュアリティと近代医学
- 第12回 セクシュアリティと近代国家
- 第13回 セクシュアリティと男女の権力関係
- 第14回 総括

履修上の注意

毎回学生の発表形式をとるので、準備には相当の時間と熱意を要することを予め承知してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、そのつど指示する参考文献を読み、調べておくこと。

教科書

Silva Neves, (2022), Sexology: The Basics, Routledge
 落合恵美子『親密圏と公共圏の社会学: ケアの20世紀体制を超えて』2023、有斐閣

Kathleen J. Fitzgerald, Kandice L. Grossman (2018), Sociology of Sexualities, Sage

ほか授業中に指示する。

参考書

多くの参考文献を授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

個別に口頭や文書の形で、随時フィードバックをおこなう。修士論文の提出前には、論文草稿を詳しくチェックしてコメントをおこなう。

成績評価の方法

授業は発表形式でおこなうので、その参加度や発表内容で評価する(7割程度の比重)。学期の最後に小論文を書いてもらい、その内容で評価する(3割程度の比重)。

その他

参加者の都合が合えば、構内での授業に替えて、学外でのフィールドワークをおこなう場合もある。

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	現代社会学演習VD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	平山 満紀	

授業の概要・到達目標

現代日本の未婚化・デジタル・セクシュアリティの隆盛・セックスレス現象・性的多様性の社会的受容などを含む、現代社会におけるセクシュアリティと親密性の現状とを、西洋諸社会やアジア諸社会などの世界のさまざまな社会との比較をおこないつつ、さまざまな文献資料から捉え、その意味を社会的に考察する。

合わせて、セクシュアリティと避妊技術、セクシュアリティと家族構造、セクシュアリティと男女の権力関係、セクシュアリティと人口、セクシュアリティとメディア、セクシュアリティと教育、セクシュアリティと労働、セクシュアリティと社会階層などの関係についての、専門の研究成果を学ぶ。

近年、中国からの留学生が増えていることから、中国社会における家族関係、恋愛、リプロダクション、人口問題などにも、焦点をあてて学ぶ。

セクシュアリティ研究は西洋諸国をはじめとして近年きわめて盛んになっている分野だが、日本ではタブー視されアカデミックには蓄積が薄い。その中で、セクシュアリティ研究を志す人にとっての、幅広い学問的な基礎を身に着けることを目標とする。

M2の学生には、修士論文研究の指導をおこなう。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 セクシュアリティと現代史1
- 第3回 セクシュアリティと現代史2
- 第4回 セクシュアリティと避妊技術
- 第5回 セクシュアリティと家族1
- 第6回 セクシュアリティと家族2
- 第7回 現代日本のセクシュアリティ1
- 第8回 現代日本のセクシュアリティ2
- 第9回 現代日本のセクシュアリティ3
- 第10回 セクシュアリティとメディア
- 第11回 セクシュアリティと教育
- 第12回 セクシュアリティと労働
- 第13回 セクシュアリティと社会階層
- 第14回 総括

履修上の注意

毎回学生の発表形式をとるので、準備には相当の時間と熱意を要することを予め承知してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、そのつど指示する参考文献を読み、調べておくこと。

教科書

Silva Neves, (2022), Sexology: The Basics, Routledge
 落合恵美子『親密圏と公共圏の社会学: ケアの20世紀体制を超えて』2023、有斐閣

Kathleen J. Fitzgerald, Kandice L. Grossman (2018), Sociology of Sexualities, Sage

など、授業中に指示する。

参考書

参考文献を授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

口頭または文書の形で、各課題には必ずフィードバックをおこなう。修士論文は提出前に草稿をチェックし、詳細なコメントをつける。

成績評価の方法

授業は発表形式でおこなうので、その参加度や発表内容で評価する(7割程度の比重)。学期の最後に小論文を書いてもらい、その内容で評価する(3割程度の比重)。

その他

参加者の都合が合えば、構内での授業に替えて、学外でのフィールドワークをおこなう場合もある。

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	共生ネットワーク論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	田中 夏子	

授業の概要・到達目標

授業概要……「共生」の構成原理について学習・討議する。「共生」をめぐる議論がどのような構造になっているのか、また「共生」概念の可能性と困難とはどのようなことか、資料読解と受講生との議論を踏まえ、検討していく。授業の前半では、共生をめぐる理論と政策動向を学ぶ。後半では、多様な価値がぶつかりあう具体的な場面において、「共に生きる」社会の構築がどのように構想され、実践されているのか、を学ぶ。

到達目標……「共生」への構想を支える諸概念及びそれら相互の関係をめぐる議論を理解し、「共生」の構成原理を各自がそれぞれの言葉でアウトプットできることが到達目標である。

授業内容

- 第1回 共生ネットワーク論への視角
- 第2回 共生をめぐる諸政策の動向
- 第3回 「共生的でない」とはどういうことか
- 第4回 ケアをめぐる共生とは
- 第5回 共生とケア・家族を憲法はどうみるか
- 第6回 共生論をめぐる議論①
- 第7回 子どもたちが抱える困難と共生
- 第8回 障がいのある人々をめぐる共生①
- 第9回 障がいのある人々をめぐる共生②
- 第10回 高齢者ケア観と共生
- 第11回 ケアコミュニティの構築にむけて
- 第12回 共生論をめぐる議論②
- 第13回 受講生による「共生」事例の提起
- 第14回 共生ネットワーク論の思想的基礎に関わる概念整理

上記のシラバスは、受講生の関心等に沿って一部、順番を変更しないしは議論の題材を差し替える場合があります。

履修上の注意

- ①受講生は、授業で随時示す参考文献等、積極的に参照すること。
- ②この授業は講義科目ですが、適宜、受講生による発表、報告を織り込みます。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講生は、毎回の授業で取り上げる資料を熟読の上、論点をピックアップし、意見を形成してきてください。

教科書

教科書 朴光駿 他編著『共生の哲学～誰ひとり取り残さないケアコミュニティをめざして』明石書店 2800円(税別)

参考書

- 『イタリア社会的経済の地域展開』田中夏子 日本経済評論社、2004年
- 『共生保障～支え合いの戦略』宮本太郎(岩波書店)、2017年
- 『私たちの津久井やまゆり園事件～障がい者とともに(共生社会の明日へ)』堀利和編著(社会評論社)、2017年

課題に対するフィードバックの方法

授業中にコメントします。

成績評価の方法

授業への貢献度(積極的な発言姿勢)20%、授業における報告内容40%、期末レポート40%

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) SOC541J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会福祉論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(人間科学)	荒井 浩道

授業の概要・到達目標

この授業では、いじめ、不登校、ヤングケアラー、ひきこもり、虐待、発達障害、LGBTQ+、災害、認知症、看取り、などの現代社会において注目される課題を取り上げ、ソーシャルワーク(社会福祉)の視点から多角的かつ具体的に検討を行います。

この授業の到達目標は、社会福祉(ソーシャルワーク)の視点から多角的かつ具体的に検討する力を身につけることです。

授業内容

- 第1回 社会福祉(ソーシャルワーク)とは何か?
- 第2回 いじめ
- 第3回 不登校
- 第4回 ヤングケアラー
- 第5回 ひきこもり
- 第6回 虐待
- 第7回 発達障害①(ADHD)
- 第8回 発達障害②(ASD)
- 第9回 LGBTQ+①(レズビアン)
- 第10回 LGBTQ+②(トランスジェンダー)
- 第11回 災害
- 第12回 認知症
- 第13回 看取り
- 第14回 まとめ、教場レポート

履修上の注意

この授業では、動画視聴、ディスカッション等のアクティブラーニングを積極的に採用します。そのため、授業への主体的な参加を期待します。

準備学習（予習・復習等）の内容

社会福祉(ソーシャルワーク)に関する基本的な事項を調べておいてください。

教科書

とくに指定しません。

参考書

- 荒井浩道著『ナラティヴ・ソーシャルワーカー―〈支援〉しない支援”の方法』新泉社。
- 荒井浩道・長沼葉月・後藤広史・木村淳也・本多勇・木下大生著『ソーシャルワーカーのミライ―混沌の中にそれでも希望の種を蒔く』生活書院。

課題に対するフィードバックの方法

個別にフィードバックを行います。

成績評価の方法

授業への参加40%、教場レポート60%

その他

とくにありません。

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	NPO市民活動論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任教授	小関 隆志	

授業の概要・到達目標

授業の概要：本講義は、非営利組織(Non-profit Organization: NPO)とその周辺分野を考察します。NPOは多様な側面を持っていますが、人々の自発的な活動・運動を組織化している点では、市民社会との関係を抜きにしては考えられません。また、公共サービスの担い手としてもNPOは重要な役割を担っており、その観点では福祉国家/福祉社会論を踏まえておく必要があります。NPOは人々の自発的な活動を前提としていることから、ボランティアに注目する必要があります。さらに、組織体としてのNPOは、行政や企業と共同しながら持続的に経営していく必要があります。本講義ではNPOの事例をもとに、市民社会論、福祉国家/社会論、ボランティア論、NPO経営論といった多様なテーマを概観します。

到達目標：NPOの諸側面を理解するとともに、自らの意見を述べるができる。

授業内容

- 第1回 イントロダクション、市民社会論(1):市民社会とは
- 第2回 市民社会論(2):社会運動とコミュニティ・オーガナイズ
- 第3回 福祉国家/社会論：ウェルフェア・ミックスとサードセクター
- 第4回 ボランティア論(1):ボランティアの意義と課題
- 第5回 ボランティア論(2):ボランティアの育成
- 第6回 NPO論(1):NPOの概念、意義、種類
- 第7回 NPO論(2):NPOの歴史と現状
- 第8回 NPO論(3):社会変革、社会イノベーション、アドヴォカシー
- 第9回 ゲスト講義(1):NPOの実践事例紹介
- 第10回 NPO論(4):行政・企業との協働
- 第11回 NPO論(5):アカウンタビリティと社会責任
- 第12回 ゲスト講義(2):NPOの実践事例紹介
- 第13回 NPO論(6):NPOの経営課題と資金調達
- 第14回 NPO論(7):NPOで働くこと、全体のまとめ(ゲストの都合等により順序が若干入れ替わる可能性があります)

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

特になし

教科書

講義の際に資料を配布します。

参考書

坂本治也編『市民社会論：理論と実証の最前線』法律文化社、2017年
 社会福祉法人大阪ボランティア協会編・発行『テキスト市民活動論：ボランティア・NPOの実践から学ぶ 第2版』2019年
 大橋正明・利根川佳子『NPO・NGOの世界』放送大学教育振興会、2021年

課題に対するフィードバックの方法

メールを通してフィードバックを行います。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	コミュニティ人間関係論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(人間学) パッハー, アリス	

授業の概要・到達目標

本講義では、人間がなぜコミュニティを必要とするのかを考察し、現代社会におけるコミュニティの特徴を多角的な視点から探求します。特に「恋愛」「セクシュアリティ」「親密性」といった一見個人的なテーマについて、それらがどのように文化的価値観や社会規範と結びついているのかを深く理解することを目指します。

授業内容

- 第1回：イントロダクション - コミュニティと人間関係の概要
- 第2回：個人とコミュニティの相互作用
- 第3回：コミュニティの変化と多様性
- 第4回：親密性とコミュニティの構造(1)
- 第5回：親密性とコミュニティの構造(2)
- 第6回：親密性とコミュニティの構造(3)
- 第7回：親密性とコミュニティの構造(4)
- 第8回：恋愛とセクシュアリティに関する社会的規範(1)
- 第9回：恋愛とセクシュアリティに関する社会的規範(2)
- 第10回：恋愛とセクシュアリティに関する社会的規範(3)
- 第11回：恋愛とセクシュアリティに関する社会的規範(4)
- 第12回：多様性と親密性(1)
- 第13回：多様性と親密性(2)
- 第14回：多様性と親密性(3)

履修上の注意

本授業では、各テーマに基づき学生同士のディスカッション、ブレインストーミング、グループまたは個人発表(ピア・ラーニング)を積極的に行います。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業前に授業で紹介する参考文献や資料を読み、授業後には復習を行うこと。

教科書

必要な場合は適宜指示する。

参考書

- Giddens, Anthony (1993). The Transformation of Intimacy: Sexuality, Love and Eroticism in Modern Societies, Polity. (ギデンズ, アンソニー (1995). 『親密性の変容』而立書房.)
- Eva Illouz (2007). Cold Intimacies: The Making of Emotional Capitalism, Polity.

課題に対するフィードバックの方法

課題の全体評価を各講義で紹介する。

成績評価の方法

授業への積極的な参加度 (60%)、発表 (40%) の総合評価とする。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	地域開発論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 理学博士	山田 晴通	

授業の概要・到達目標

地域開発をめぐる議論は、もっぱら公共政策の観点から、すなわち、行政が「上から」政策的誘導をおこない、民間からも投下され、様々な事業が展開されていくという側面から論じられることが従来は多かった。しかし、経済状況が変化し、自然や環境問題への関心が高まり、また、行政機構の変革が進んでいく中で、地域開発を、本来の意味での地域に根ざした、「下から」の視点でとらえ直す議論の重要性は、徐々に高まりつつある。

この講義では、こうした地域開発をめぐる多様な論点について、戦後日本の地域開発を巡る議論に例をとりながら、受講者とともに考えていきたい。

講義ではあるが、適宜、演習的な作業課題も与え、受講者が関連文献の渉猟に取り組みよう促していく。

授業内容

- 第1回：「地域開発」概念をめぐる基本的な視点
- 第2回：「開発」概念の批判的検討(1)
- 第3回：「開発」概念の批判的検討(2)
- 第4回：「地域」概念の批判的検討(1)
- 第5回：「地域」概念の批判的検討(2)
- 第6回：「地域開発」概念の批判的検討(1)
- 第7回：「地域開発」概念の批判的検討(2)
- 第8回：教科書講読(1)…取り上げる章(論文)は受講者の意向を踏まえて選ぶ
- 第9回：教科書講読(2)
- 第10回：教科書講読(3)
- 第11回：教科書講読(4)
- 第12回：教科書講読(5)
- 第13回：教科書講読(6)
- 第14回：期末レポートのテーマについての指導

履修上の注意

講義ではあるが、対話、議論の要素を盛り込んだ授業運営をするので、積極的な姿勢で受講してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

この講義では指定されている教科書から数本の論文を教材として講読するが、事前学習としては、教科書を早めに入手して自主的に通読することを求める。また、インターネット上にリストが公開されている講義担当者の既発表論文から、地域開発に関わると思われるものを通読しておくこと。(http://camp.f.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/Y-KEN/biblio.html) また、授業の過程において予習の作業を求めた場合には、これに適切に取り組むこと。

事後学習としては、講義内容に関連する書籍等の資料や、ネット上の情報の渉猟・関係する学術論文類の自主的な精読を通じた自習を含め、必要な復習を行なうとともに、おもに復習課題として出される宿題に適切に取り組むことを求める。

事前事後学習に要する時間は、1回の授業に対して概ね4時間を目安に設定しているが、それ以上の時間を要する課題が課される場合もある。

教科書

中俣 均・編『国土空間と地域社会』朝倉書店、2004年

参考書

随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題レポートについては、採点終了後に授業時間内で講評し、フィードバックとする。

成績評価の方法

授業ごとに課す課題レポートを踏まえた平常点(50%)と、期末レポート(50%)によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	地方自治論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任教授	牛山 久仁彦	

授業の概要・到達目標

日本における地方分権改革の到達点と課題について検証し、地方自治の現状を考察する。

授業内容

- 第1回 研究の進め方についてのイントロダクション
- 第2回 講義で扱う内容についての討論
- 第3回 地方自治についての先行研究の確認①
- 第4回 地方自治についての先行研究の確認②
- 第5回 研究課題の設定
- 第6回 研究課題についての文献講読①
- 第7回 研究課題についての文献講読②
- 第8回 研究課題についての文献講読③
- 第9回 研究課題についての文献講読④
- 第10回 研究課題についての文献講読⑤
- 第11回 研究課題についての文献講読⑥
- 第12回 研究課題についての文献講読⑦
- 第13回 文献講読をふまえた研究課題についての内容確認
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

特になし

準備学習(予習・復習等)の内容

特になし

教科書

受講生と協議の上、決定する。

参考書

開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点にて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) IND511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学総合演習A		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	齋藤泰則、青柳英治、平川景子、駒見和夫、三浦太郎、山下達也、伊藤貴昭、関根宏朗、井上由佳		

授業の概要・到達目標

本演習では、教育学、社会教育学、博物館学、図書館情報学それぞれの分野の様々な実践報告を聞きとり、討論しあうことを通して、各専門分野を横断する実践分析の研究方法論を追求するとともに、実践を分析する力量、実践にコミットできるコミュニケーションの力の獲得をめざす。

授業内容

春学期、秋学期にそれぞれ集中講義という形で行う。各分野の実践に関わる教員、職員、スタッフ、ボランティア、学習者等の報告を聞くとともに、いくつかのグループに分かれてラウンドテーブル形式でディスカッションを行う。

履修上の注意

授業実施日を初回の授業時に調整する。授業には必ず参加できるように、事前にスケジュール等の確認と準備をしておくことが必要である。院生による共同作業として、ラウンドテーブルの企画・施設訪問などを行うことがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業での報告および討論内容については、メモを取り、自分で振り返りができるようにしておく。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

ディスカッションの内容を総合して評価する。

その他

本演習は、教育学専修の必修科目であり、他専修の学生は受講できない。なお、本演習は、1年次、2年次ともに履修することが必要である。

科目ナンバー：(AL) IND511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学総合演習B		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	齋藤泰則、青柳英治、平川景子、駒見和夫、三浦太郎、山下達也、伊藤貴昭、関根宏朗、井上由佳		

授業の概要・到達目標

本演習では、教育学、社会教育学、博物館学、図書館情報学それぞれの分野の様々な実践報告を聞きとり、討論しあうことを通して、各専門分野を横断する実践分析の研究方法論を追求するとともに、実践を分析する力量、実践にコミットできるコミュニケーションの力の獲得をめざす。

授業内容

春学期、秋学期にそれぞれ集中講義という形で行う。各分野の実践に関わる教員、職員、スタッフ、ボランティア、学習者等の報告を聞くとともに、いくつかのグループに分かれてラウンドテーブル形式でディスカッションを行う。

履修上の注意

授業実施日を初回の授業時に調整する。授業には必ず参加できるように、事前にスケジュール等の確認と準備をしておくことが必要である。院生による共同作業として、ラウンドテーブルの企画・施設訪問などを行うことがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業での報告および討論内容については、メモを取り、自分で振り返りができるようにしておく。

教科書

使用しない。

参考書

必要な場合は適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

ディスカッションの内容を総合して評価する。

その他

本演習は、教育学専修の必修科目であり、他専修の学生は受講できない。なお、本演習は、1年次、2年次ともに履修することが必要である。

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 関根 宏朗		

授業の概要・到達目標

本演習では臨床教育学(とりわけ教育哲学分野)の基本テキストを精読し、「教育」という事象についての原理的な考察をおこなう。具体的には、わが国の教育哲学会大会シンポジウムの近年の記録が収められた森田尚人・松浦良充編『いま、教育と教育学を問い直す』(東信堂、2019年)をすこしずつ読み解き、教育(哲)学を学ぶうえで必要とされる基礎的な構えならびに前提のコンテキストについて学ぶことを目的とする。また、参加者それぞれの研究の進捗について共有する時間を毎回取り、それらの進行に係る具体的な助言もおこなってゆく。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(1):教育学とはいかなるディシプリンなのか①
- 第3回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(2):教育学とはいかなるディシプリンなのか②
- 第4回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(3):教育学とはいかなるディシプリンなのか③
- 第5回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(4):「教育」を問う①
- 第6回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(5):「教育」を問う②
- 第7回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(6):福祉の精神からの「教育」の誕生
- 第8回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(1):日本の教育思想における世界市民形成の水脈
- 第9回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(2):国民国家と日本の教育・教育学
- 第10回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(3):記憶の制度としての教育
- 第11回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(4):「国家と教育」における「政治的なもの」の位置
- 第12回 教育の実践と技術と格闘する教育哲学(1):実践の表象から自己の省察へ
- 第13回 教育の実践と技術と格闘する教育哲学(2):教育における技術への問いとバトスへの問い
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

積極的・主体的な授業参加を期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した範囲の文献に目を通してること。テキストの内容に即した簡単なコメントを用意してることが望ましい。

教科書

森田尚人・松浦良充編『いま、教育と教育学を問い直す』東信堂 2019年。

参考書

教育思想史学会(編)『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房 2017年。
Peters, Michael ed., Encyclopedia of Educational Philosophy and Theory. 3 vols., Springer, 2017.
その他、適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の前後に質問を受け付ける。またメールにて随時対応する。

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 関根 宏朗		

授業の概要・到達目標

本演習では臨床教育学(とりわけ教育哲学分野)の基本テキストを精読し、「教育」という事象についての原理的な考察をおこなう。秋学期は定評のある教育哲学のアンソロジーである、Curren, Randall, ed., A Companion to the Philosophy of Education, Oxford: Blackwell, 2003の第二部「教えることと学ぶこと」を一章ずつ読み解き、教育学を研究するうえでいまなお重要な問いの地平をめぐって学びを深めることを目的とする。加えて、前期同様に参加者それぞれの研究の進捗について共有する時間を毎回取り、それらの進行に係る具体的な助言もおこなってゆく。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 The Nature and Purposes of Education
- 第3回 Theories of Teaching and Learning
- 第4回 The Capacity to Learn
- 第5回 Motivation and Classroom Management
- 第6回 The Measurement of Learning
- 第7回 Knowledge, Truth, and Learning
- 第8回 Cultivating Reason
- 第9回 Moral Education
- 第10回 Religious Education
- 第11回 Teaching Science
- 第12回 Aesthetics and the Education Powers of Art
- 第13回 Teaching Literature
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

積極的・主体的な授業参加を期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した範囲の文献に目を通してること。テキストの内容に即した簡単なコメントを用意してることが望ましい。

教科書

Curren, Randall, ed., A Companion to the Philosophy of Education, Blackwell, 2003

参考書

教育思想史学会(編)『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房 2017年。
Peters, Michael ed., Encyclopedia of Educational Philosophy and Theory. 3 vols., Springer, 2017.
その他、適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の前後に質問を受け付ける。またメールにて随時対応する。

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅡC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 関根 宏朗		

授業の概要・到達目標

本演習では臨床教育学(とりわけ教育哲学分野)の基本テキストを精読し、「教育」という事象についての原理的な考察をおこなう。具体的には、わが国の教育哲学会大会シンポジウムの近年の記録が収められた森田尚人・松浦良充編『いま、教育と教育学を問い直す』(東信堂、2019年)をすこしずつ読み解き、教育(哲)学を学ぶうえで必要とされる基礎的な構えならびに前提のコンテキストについて学ぶことを目的とする。また、参加者それぞれの研究の進捗について共有する時間を毎回取り、それらの進行に係る具体的な助言もおこなってゆく。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(1):教育学とはいかなるディシプリンなのか①
- 第3回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(2):教育学とはいかなるディシプリンなのか②
- 第4回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(3):教育学とはいかなるディシプリンなのか③
- 第5回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(4):「教育」を問う①
- 第6回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(5):「教育」を問う②
- 第7回 教育と教育学の編み直しに向かう教育哲学(6):福祉の精神からの「教育」の誕生
- 第8回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(1):日本の教育思想における世界市民形成の水脈
- 第9回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(2):国民国家と日本の教育・教育学
- 第10回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(3):記憶の制度としての教育
- 第11回 歴史を捉え未来を展望する教育哲学(4):「国家と教育」における「政治的なもの」の位置
- 第12回 教育の実践と技術と格闘する教育哲学(1):実践の表象から自己の省察へ
- 第13回 教育の実践と技術と格闘する教育哲学(2):教育における技術への問いとバトスへの問い
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

積極的・主体的な授業参加を期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した範囲の文献に目を通して頂くこと。テキストの内容に即した簡単なコメントを用意して頂くことが望ましい。

教科書

森田尚人・松浦良充編『いま、教育と教育学を問い直す』東信堂 2019年。

参考書

教育思想史学会(編)『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房 2017年。
Peters, Michael ed., Encyclopedia of Educational Philosophy and Theory. 3 vols., Springer, 2017.
その他、適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の前後に質問を受け付ける。またメールにて随時対応する。

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅡD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 関根 宏朗		

授業の概要・到達目標

本演習では臨床教育学(とりわけ教育哲学分野)の基本テキストを精読し、「教育」という事象についての原理的な考察をおこなう。秋学期は定評のある教育哲学のアンソロジーである、Curren, Randall, ed., A Companion to the Philosophy of Education, Oxford: Blackwell, 2003の第二部「教えることと学ぶこと」を一章ずつ読み解き、教育学を研究するうえでいままなお重要な問いの地平をめぐって学びを深めることを目的とする。加えて、前期同様に参加者それぞれの研究の進捗について共有する時間を毎回取り、それらの進行に係る具体的な助言もおこなってゆく。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 The Nature and Purposes of Education
- 第3回 Theories of Teaching and Learning
- 第4回 The Capacity to Learn
- 第5回 Motivation and Classroom Management
- 第6回 The Measurement of Learning
- 第7回 Knowledge, Truth, and Learning
- 第8回 Cultivating Reason
- 第9回 Moral Education
- 第10回 Religious Education
- 第11回 Teaching Science
- 第12回 Aesthetics and the Education Powers of Art
- 第13回 Teaching Literature
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

積極的・主体的な授業参加を期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した範囲の文献に目を通して頂くこと。テキストの内容に即した簡単なコメントを用意して頂くことが望ましい。

教科書

Curren, Randall, ed., A Companion to the Philosophy of Education, Blackwell, 2003

参考書

教育思想史学会(編)『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房 2017年。
Peters, Michael ed., Encyclopedia of Educational Philosophy and Theory. 3 vols., Springer, 2017.
その他、適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の前後に質問を受け付ける。またメールにて随時対応する。

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 山下 達也		

授業の概要・到達目標

【概要】
 教育学研究の著書・論文の輪読を行う。また、修士論文の執筆に向け各自のテーマにそくした発表・検討を行う。

【目標】
 教育学研究の方法や課題、成果についての知見を得たうえで各自の研究課題の進展を図ることを目標とする。

授業内容

- 第1講 イン트로ダクション
 - 第2講 研究書・論文の輪読(1)
 - 第3講 研究書・論文の輪読(2)
 - 第4講 研究書・論文の輪読(3)
 - 第5講 研究書・論文の輪読(4)
 - 第6講 研究の進捗報告(1)
 - 第7講 研究の進捗報告(2)
 - 第8講 研究の進捗報告(3)
 - 第9講 研究書・論文の輪読(5)
 - 第10講 研究書・論文の輪読(6)
 - 第11講 研究書・論文の輪読(7)
 - 第12講 研究書・論文の輪読(8)
 - 第13講 研究発表を踏まえた検討(1)
 - 第14講 研究発表を踏まえた検討(2)
- ※講義内容は必要に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

各回の担当者による報告を中心に進める。発表にあたってはレジュメやスライドを準備すること。
 初回の授業に参加する場合は事前に必ず山下までメールにて、その旨知らせること。(ytatsuya@meiji.ac.jp)

準備学習(予習・復習等)の内容

論文等の選択、発表の準備をすること。また、毎回授業で扱った内容について関連文献等にあたるなどしてさらに理解を深めること。

教科書

教科書は指定しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

発表内容、授業中の発言、議論への参加状況によって総合的に評価する。

その他

初回の授業に参加する場合は事前に必ず山下までメールにて、その旨知らせること。(ytatsuya@meiji.ac.jp)

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 山下 達也		

授業の概要・到達目標

【概要】
 教育学研究の著書・論文の輪読を行う。また、修士論文の執筆に向け各自のテーマにそくした発表・検討を行う。

【目標】
 教育学研究の方法や課題、成果についての知見を得たうえで各自の研究課題の進展を図ることを目標とする。

授業内容

- 第1講 イン트로ダクション
 - 第2講 研究書・論文の輪読(1)
 - 第3講 研究書・論文の輪読(2)
 - 第4講 研究書・論文の輪読(3)
 - 第5講 研究書・論文の輪読(4)
 - 第6講 研究の進捗報告(1)
 - 第7講 研究の進捗報告(2)
 - 第8講 研究の進捗報告(3)
 - 第9講 研究書・論文の輪読(5)
 - 第10講 研究書・論文の輪読(6)
 - 第11講 研究書・論文の輪読(7)
 - 第12講 研究書・論文の輪読(8)
 - 第13講 研究発表を踏まえた検討(1)
 - 第14講 研究発表を踏まえた検討(2)
- ※講義内容は必要に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

各回の担当者による報告を中心に進める。発表にあたってはレジュメやスライドを準備すること。
 初回の授業に参加する場合は事前に必ず山下までメールにて、その旨知らせること。(ytatsuya@meiji.ac.jp)

準備学習(予習・復習等)の内容

論文等の選択、発表の準備をすること。また、毎回授業で扱った内容について関連文献等にあたるなどしてさらに理解を深めること。

教科書

教科書は指定しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

発表内容、授業中の発言、議論への参加状況によって総合的に評価する。

その他

初回の授業に参加する場合は事前に必ず山下までメールにて、その旨知らせること。(ytatsuya@meiji.ac.jp)

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 山下 達也		

授業の概要・到達目標

【概要】

教育学研究の著書・論文の輪読を行う。また、修士論文の執筆に向け各自のテーマにそくした発表・検討を行う。

【目標】

教育学研究の方法や課題、成果についての知見を得たうえで各自の研究課題の進展を図ることを目標とする。

授業内容

- 第1講 イン트로ダクション
 - 第2講 研究書・論文の輪読(1)
 - 第3講 研究書・論文の輪読(2)
 - 第4講 研究書・論文の輪読(3)
 - 第5講 研究書・論文の輪読(4)
 - 第6講 研究の進捗報告(1)
 - 第7講 研究の進捗報告(2)
 - 第8講 研究の進捗報告(3)
 - 第9講 研究書・論文の輪読(5)
 - 第10講 研究書・論文の輪読(6)
 - 第11講 研究書・論文の輪読(7)
 - 第12講 研究書・論文の輪読(8)
 - 第13講 研究発表を踏まえた検討(1)
 - 第14講 研究発表を踏まえた検討(2)
- ※講義内容は必要に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

各回の担当者による報告を中心に進める。発表にあたってはレジュメやスライドを準備すること。

初回の授業に参加する場合は事前に必ず山下までメールにて、その旨知らせること。(ytatsuya@meiji.ac.jp)

準備学習(予習・復習等)の内容

論文等の選択、発表の準備をすること。また、毎回授業で扱った内容について関連文献等にあたるなどしてさらに理解を深めること。

教科書

教科書は指定しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

発表内容、授業中の発言、議論への参加状況によって総合的に評価する。

その他

初回の授業に参加する場合は事前に必ず山下までメールにて、その旨知らせること。(ytatsuya@meiji.ac.jp)

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 山下 達也		

授業の概要・到達目標

【概要】

教育学研究の著書・論文の輪読を行う。また、修士論文の執筆に向け各自のテーマにそくした発表・検討を行う。

【目標】

教育学研究の方法や課題、成果についての知見を得たうえで各自の研究課題の進展を図ることを目標とする。

授業内容

- 第1講 イン트로ダクション
 - 第2講 研究書・論文の輪読(1)
 - 第3講 研究書・論文の輪読(2)
 - 第4講 研究書・論文の輪読(3)
 - 第5講 研究書・論文の輪読(4)
 - 第6講 研究の進捗報告(1)
 - 第7講 研究の進捗報告(2)
 - 第8講 研究の進捗報告(3)
 - 第9講 研究書・論文の輪読(5)
 - 第10講 研究書・論文の輪読(6)
 - 第11講 研究書・論文の輪読(7)
 - 第12講 研究書・論文の輪読(8)
 - 第13講 研究発表を踏まえた検討(1)
 - 第14講 研究発表を踏まえた検討(2)
- ※講義内容は必要に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

各回の担当者による報告を中心に進める。発表にあたってはレジュメやスライドを準備すること。

初回の授業に参加する場合は事前に必ず山下までメールにて、その旨知らせること。(ytatsuya@meiji.ac.jp)

準備学習(予習・復習等)の内容

論文等の選択、発表の準備をすること。また、毎回授業で扱った内容について関連文献等にあたるなどしてさらに理解を深めること。

教科書

教科書は指定しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

発表内容、授業中の発言、議論への参加状況によって総合的に評価する。

その他

初回の授業に参加する場合は事前に必ず山下までメールにて、その旨知らせること。(ytatsuya@meiji.ac.jp)

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅣA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 伊藤 貴昭		

授業の概要・到達目標

本演習では教育学のなかでも、特に教育心理学分野を基盤とした研究を取り上げ、批判的に検討を加えながら、教育心理学研究のありようについて考察を加える。

また修士論文執筆に向け、各自の関心のあるテーマに基づき発表・討議を行いながら、研究内容の精緻化を目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 教育心理学研究について
- 第3回 教授学習研究の特徴
- 第4回 研究テーマの検討
- 第5回 先行研究の調査
- 第6回 先行研究の検討(1)
- 第7回 先行研究の検討(2)
- 第8回 先行研究の問題の整理
- 第9回 研究計画の立案
- 第10回 研究計画の検討(1)
- 第11回 研究計画の検討(2)
- 第12回 研究計画の発表
- 第13回 研究の進捗状況発表
- 第14回 まとめ

履修上の注意

受講生の資料調査、報告、ディスカッションを中心に進めるため、担当になった際には責任をもって取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した資料がある場合には必ず資料を読み、授業に参加すること。
また、発表等の担当になった場合には、準備を入念に行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については当日もしくは翌週にコメントする。

成績評価の方法

授業への取り組み、発表内容、議論への貢献などに基づき、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習ⅣB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 伊藤 貴昭		

授業の概要・到達目標

本演習では教育学のなかでも、特に教育心理学分野を基盤とした研究を取り上げ、批判的に検討を加えながら、教育心理学研究のありようについて考察を深める。

また修士論文執筆に向け、春学期の成果を踏まえ、各自の関心のあるテーマに基づき発表・討議を行いながら、研究内容の精緻化を目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 研究テーマの確認
- 第3回 研究計画・方法についての検討(1)
- 第4回 研究計画・方法についての検討(2)
- 第5回 研究倫理
- 第6回 関連する先行研究の検討(1)
- 第7回 関連する先行研究の検討(2)
- 第8回 研究成果の中間報告(1)
- 第9回 研究成果の中間報告(2)
- 第10回 新たな課題の整理
- 第11回 研究計画の再検討
- 第12回 研究総括と発表
- 第13回 研究総括と発表
- 第14回 まとめ

履修上の注意

受講生の資料調査、報告、ディスカッションを中心に進めるため、担当になった際には責任をもって取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した資料がある場合には必ず資料を読み、授業に参加すること。
また、発表等の担当になった場合には、準備を入念に行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については当日もしくは翌週にコメントする。

成績評価の方法

授業への取り組み、発表内容、議論への貢献などに基づき、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習IVC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 伊藤 貴昭		

授業の概要・到達目標

本演習では教育学のなかでも、特に教育心理学分野を基盤とした研究を取り上げ、批判的に検討を加えながら、教育心理学研究のありようについて考察を深める。
また修士論文執筆に向け、1年次の成果を踏まえ、各自の関心のあるテーマに基づき発表・討議を行いながら、研究内容の精緻化を目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 研究テーマの確認
- 第3回 研究計画・方法についての検討(1)
- 第4回 研究計画・方法についての検討(2)
- 第5回 関連する先行研究の検討(1)
- 第6回 関連する先行研究の検討(2)
- 第7回 関連する先行研究の検討(3)
- 第8回 研究成果の中間報告(1)
- 第9回 研究成果の中間報告(2)
- 第10回 新たな課題の整理
- 第11回 研究計画の再検討
- 第12回 研究総括と発表
- 第13回 研究総括と発表
- 第14回 まとめ

履修上の注意

受講生の資料調査、報告、ディスカッションを中心に進めるため、担当になった際には責任をもって取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した資料がある場合には必ず資料を読み、授業に参加すること。
また、発表等の担当になった場合には、準備を入念に行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については当日もしくは翌週にコメントする。

成績評価の方法

授業への取り組み、発表内容、議論への貢献などに基づき、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育学演習IVD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 伊藤 貴昭		

授業の概要・到達目標

本演習では教育学のなかでも、特に教育心理学分野を基盤とした研究を取り上げ、批判的に検討を加えながら、教育心理学研究のありようについて考察を深める。
また修士論文執筆に向け、春学期の成果を踏まえ、各自の関心のあるテーマに基づき発表・討議を行いながら、研究内容の精緻化を目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 研究成果の中間報告(1)
- 第3回 研究成果の中間報告(2)
- 第4回 課題の整理
- 第5回 研究計画の再検討
- 第6回 論文執筆の方法(1)
- 第7回 論文執筆の方法(2)
- 第8回 論文執筆の方法(3)
- 第9回 査読システム
- 第10回 研究発表(1)
- 第11回 研究発表(2)
- 第12回 研究発表(3)
- 第13回 課題の整理
- 第14回 まとめ

履修上の注意

受講生の資料調査、報告、ディスカッションを中心に進めるため、担当になった際には責任をもって取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定した資料がある場合には必ず資料を読み、授業に参加すること。
また、発表等の担当になった場合には、準備を入念に行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については当日もしくは翌週にコメントする。

成績評価の方法

授業への取り組み、発表内容、議論への貢献などに基づき、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育学演習ⅠA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	平川 景子	

授業の概要・到達目標

社会教育実践研究Ⅰ 1945～1970年代

この授業では、以下のことについて取り組む。

- (1) 地域社会における人々の学習・文化活動の記録を収集し、読み解く
- (2) 社会教育実践にかかわる理論を読み解く
- (3) 実践と研究の関係について考察する

授業内容

- 第1回 自己紹介・今、関心を持っていること
- 第2～3回 実践記録を探す—資料探索の方法
- 第4～5回 施設見学
- 第6～7回 関心を持っている実践の紹介
- 第8～9回 実践記録を読み解く①
- 第10～11回 明大ラウンドテーブルへの参加
- 第12～13回 実践記録を読み解く②
- 第14回 レポートを読みあう

履修上の注意

12月の明大ラウンドテーブルに参加する。
ラウンドテーブルは、小グループに分かれて実践の展開をじっくりと聞き取り話し合う取り組みである。

準備学習（予習・復習等）の内容

実践記録の収集・施設見学などで、時間外の授業となることがある。

教科書

参考書

ドナルド・A・ショーン 著 柳沢 昌一, 三輪 建二 訳 『省察的実践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考』 鳳書房 2007

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育学演習ⅠB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	平川 景子	

授業の概要・到達目標

社会教育実践研究Ⅱ 1980～2020年代

この授業では、以下のことについて取り組む。

- (1) 地域社会における人々の学習・文化活動の記録を収集し、読み解く
- (2) 社会教育実践にかかわる理論を読み解く
- (3) 実践と研究の関係について考察する

授業内容

- 第1回 自己紹介・今、関心を持っていること
- 第2～3回 実践記録を探す—資料探索の方法
- 第4～5回 施設見学
- 第6～7回 関心を持っている実践の紹介
- 第8～9回 実践記録を読み解く①
- 第10～11回 明大ラウンドテーブルへの参加
- 第12～13回 実践記録を読み解く②
- 第14回 レポートを読みあう

履修上の注意

12月の明大ラウンドテーブルに参加する。
ラウンドテーブルは、小グループに分かれて実践の展開をじっくりと聞き取り話し合う取り組みである。

準備学習（予習・復習等）の内容

実践記録の収集・施設見学などで、時間外の授業となることがある。

教科書

参考書

エティエンヌ・ウエンガーほか著 『コミュニティ・オブ・プラクティス—ナレッジ社会の新たな知識形態の実践』 翔泳社 2001

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育学演習IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	平川 景子	

授業の概要・到達目標

社会教育の理論と歴史 I 1945～1970年代

この授業では、以下のことについて取り組む。

- (1) 社会教育教育における理論研究/歴史研究・政策文書を読み解く。
- (2) 社会教育職員の役割について検討する。

授業内容

- 第1回 自己紹介・今、関心を持っていること
- 第2～3回 社会教育の理論・歴史研究の収集—資料探索の方法
- 第4～5回 社会教育関連職員へのインタビュー
- 第6～7回 社会教育の理論と歴史
- 第8～9回 関心を持っている実践の紹介
- 第10～11回 政策文書を読む
- 第12～13回 明大ラウンドテーブルへの参加
- 第14回 レポートを読みあう

履修上の注意

履修者の関心に即して、授業内容を変更することがある。12月の明大ラウンドテーブルに参加する。ラウンドテーブルは、小グループに分かれて実践の展開をじっくりと聞き取り話し合う取り組みである。

準備学習（予習・復習等）の内容

社会教育職員に、面談・オンラインによるインタビューを依頼する。施設見学となる場合がある。

教科書

参考書

ドナルド・A・ショーン 著 柳沢 昌一、村田晶子監訳 『省察的実践者の教育—プロフェッショナル・スクールの実践と理論』 鳳書房 2017

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) CCE522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育学演習ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	平川 景子	

授業の概要・到達目標

社会教育の理論と歴史 II 1980～2020年代

この授業では、以下のことについて取り組む。

- (1) 社会教育教育における理論研究/歴史研究・政策文書を読み解く。
- (2) 社会教育職員の役割について検討する。

授業内容

- 第1回 自己紹介・今、関心を持っていること
- 第2～3回 社会教育の理論・歴史研究の収集—資料探索の方法
- 第4～5回 社会教育関連職員へのインタビュー
- 第6～7回 社会教育の理論と歴史
- 第8～9回 関心を持っている実践の紹介
- 第10～11回 政策文書を読む
- 第12～13回 明大ラウンドテーブルへの参加
- 第14回 レポートを読みあう

履修上の注意

履修者の関心に即して、授業内容を変更することがある。12月の明大ラウンドテーブルに参加する。ラウンドテーブルは、小グループに分かれて実践の展開をじっくりと聞き取り話し合う取り組みである。

準備学習（予習・復習等）の内容

12月の明大ラウンドテーブルに参加する。ラウンドテーブルは、小グループに分かれて実践の展開をじっくりと聞き取り話し合う取り組みである。

教科書

参考書

エティエンヌ・ウエンガーほか著 『コミュニティ・オブ・プラクティス—ナレッジ社会の新たな知識形態の実践』 翔泳社 2001

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館学演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(歴史学) 駒見 和夫		

授業の概要・到達目標

博物館は公教育を目的とした機関であり、その門戸はだれにも開かれねばならない。そして今日の教育施策の核となっている生涯学習は、すべての人びとが生きていくことを保障し支援する教育システムであり、その一部を受託すべき博物館が付託された役割を果たすためには、基本的条件として、あらゆる人の立場のもとで公平な情報と奉仕の提供を具体化して実施するユニバーサルサービス、さらにソーシャル・インクルージョンの理念が必要不可欠となる。現代の博物館は生涯学習の推進とあいまって、多様な市民の利用に供すべく工夫を凝らした展示や活動も活発になりつつあるが、明確な理念のもとに実践されているものは未だ少ない。この認識に立ち、本演習では博物館におけるインクルーシブ化に向けたこれまでの動向を捉え、内包する問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、社会的存在としての博物館の価値を確立するインクルーシブな博物館の実現に向けた理念と認識を構築し、各自の研究課題について深化をはかることが本演習の目的である。受講者の研究成果に沿った発表を中心に進めていく。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ソーシャルインクルージョンと博物館の検討
- 第3回 インクルーシブなミュージアム論の検討
- 第4回 研究テーマの相談
- 第5回 研究計画の作成
- 第6回 先行研究文献の調査
- 第7回 先行研究文献リストの作成と指導
- 第8回 先行研究文献の確認と指導
- 第9回 基本資料の講読と討論(1)
- 第10回 基本資料の講読と討論(2)
- 第11回 基本資料の講読と討論(3)
- 第12回 基本資料の講読と討論(4)
- 第13回 研究の進捗報告
- 第14回 研究作業の課題の確認と指導

履修上の注意

博物館の現地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での発表と討論に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する文献や資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の現地調査に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内、およびOh-ol Meijiのレポートのコメント機能を使って適宜おこなう。

成績評価の方法

授業への取り組み40%、発表40%、レポート20%、により評価する。

その他

先行研究の調査と検討について十分に取り組んでください。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(歴史学) 駒見 和夫		

授業の概要・到達目標

博物館は公教育を目的とした機関であり、その門戸はだれにも開かれねばならない。そして今日の教育施策の核となっている生涯学習は、すべての人びとが生きていくことを保障し支援する教育システムであり、その一部を受託すべき博物館が付託された役割を果たすためには、基本的条件として、あらゆる人の立場のもとで公平な情報と奉仕の提供を具体化して実施するユニバーサルサービス、さらにソーシャル・インクルージョンの理念が必要不可欠となる。現代の博物館は生涯学習の推進とあいまって、多様な市民の利用に供すべく工夫を凝らした展示や活動も活発になりつつあるが、明確な理念のもとに実践されているものは未だ少ない。この認識に立ち、本演習では博物館におけるインクルーシブ化に向けたこれまでの動向を捉え、内包する問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、社会的存在としての博物館の価値を確立するインクルーシブな博物館の実現に向けた理念と認識を構築し、各自の研究課題について深化をはかることが本演習の目的である。受講者の研究成果に沿った発表を中心に進めていく。

授業内容

- 第1回 研究課題の確認と指導
- 第2回 研究計画の見直し
- 第3回 博物館現地調査方法の検討
- 第4回 博物館現地調査(1)
- 第5回 現地調査に基づく分析と討論(1)
- 第6回 博物館現地調査(2)
- 第7回 現地調査に基づく分析と討論(2)
- 第8回 博物館現地調査(3)
- 第9回 現地調査に基づく分析と討論(3)
- 第10回 博物館現地調査のまとめ
- 第11回 インクルーシブな博物館に向けた課題検討
- 第12回 論文構想の確認
- 第13回 研究発表
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

博物館の現地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での発表と討論に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する文献や資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の現地調査に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内、およびOh-ol Meijiのレポートのコメント機能を使って適宜おこなう。

成績評価の方法

授業への取り組み40%、発表40%、レポート20%、により評価する。

その他

先行研究の調査と検討について十分に取り組んでください。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館学演習 IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(歴史学) 駒見 和夫		

授業の概要・到達目標

博物館は公教育を目的とした機関であり、その門戸はだれにも開かれねばならない。そして今日の教育施策の核となっている生涯学習は、すべての人びとが生きていくことを保障し支援する教育システムであり、その一部を受託すべき博物館が付託された役割を果たすためには、基本的条件として、あらゆる人の立場のもとで公平な情報と奉仕の提供を具体化して実施するユニバーサルサービス、さらにソーシャル・インクルージョンの理念が必要不可欠となる。現代の博物館は生涯学習の推進とあいまって、多様な市民の利用に供すべく工夫を凝らした展示や活動も活発になりつつあるが、明確な理念のもとに実践されているものは未だ少ない。この認識に立ち、本演習では博物館におけるインクルーシブ化に向けたこれまでの動向を捉え、内包する問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、社会的存在としての博物館の価値を確立するインクルーシブな博物館の実現に向けた理念と認識を構築し、各自の研究課題について深化をはかることが本演習の目的である。受講者の研究成果に沿った発表を中心に進めていく。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ソーシャルインクルージョンと博物館の検討
- 第3回 インクルーシブなミュージアム論の検討
- 第4回 研究テーマの相談
- 第5回 研究計画の作成
- 第6回 先行研究文献の調査
- 第7回 先行研究文献リストの作成と指導
- 第8回 先行研究文献の確認と指導
- 第9回 基本資料の講読と討論(1)
- 第10回 基本資料の講読と討論(2)
- 第11回 基本資料の講読と討論(3)
- 第12回 基本資料の講読と討論(4)
- 第13回 研究の進捗報告
- 第14回 研究作業の課題の確認と指導

履修上の注意

博物館の現地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での発表と討論に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する文献や資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の現地調査に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内、およびOh-ol Meijiのレポートのコメント機能を使って適宜おこなう。

成績評価の方法

授業への取り組み40%、発表40%、レポート20%、により評価する。

その他

先行研究の調査と検討について十分に取り組んでください。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館学演習 ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(歴史学) 駒見 和夫		

授業の概要・到達目標

博物館は公教育を目的とした機関であり、その門戸はだれにも開かれねばならない。そして今日の教育施策の核となっている生涯学習は、すべての人びとが生きていくことを保障し支援する教育システムであり、その一部を受託すべき博物館が付託された役割を果たすためには、基本的条件として、あらゆる人の立場のもとで公平な情報と奉仕の提供を具体化して実施するユニバーサルサービス、さらにソーシャル・インクルージョンの理念が必要不可欠となる。現代の博物館は生涯学習の推進とあいまって、多様な市民の利用に供すべく工夫を凝らした展示や活動も活発になりつつあるが、明確な理念のもとに実践されているものは未だ少ない。この認識に立ち、本演習では博物館におけるインクルーシブ化に向けたこれまでの動向を捉え、内包する問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、社会的存在としての博物館の価値を確立するインクルーシブな博物館の実現に向けた理念と認識を構築し、各自の研究課題について深化をはかることが本演習の目的である。受講者の研究成果に沿った発表を中心に進めていく。

授業内容

- 第1回 研究課題の確認と指導
- 第2回 研究計画の見直し
- 第3回 博物館現地調査方法の検討
- 第4回 博物館現地調査(1)
- 第5回 現地調査に基づく分析と討論(1)
- 第6回 博物館現地調査(2)
- 第7回 現地調査に基づく分析と討論(2)
- 第8回 博物館現地調査(3)
- 第9回 現地調査に基づく分析と討論(3)
- 第10回 博物館現地調査のまとめ
- 第11回 インクルーシブな博物館に向けた課題検討
- 第12回 論文構想の確認
- 第13回 研究発表
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

博物館の現地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での発表と討論に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する文献や資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の現地調査に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内、およびOh-ol Meijiのレポートのコメント機能を使って適宜おこなう。

成績評価の方法

授業への取り組み40%、発表40%、レポート20%、により評価する。

その他

先行研究の調査と検討について十分に取り組んでください。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	博物館学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 Ph.D.	井上 由佳	

授業の概要・到達目標

博物館とは何のために存在しているのだろうか。日本では社会教育機関の一つとして法的に位置づけられているが、博物館法が制定された1951年から70年が経過した今、博物館に求められている役割も大きく変化している。日本の博物館の発展を辿りながら、現代の博物館が社会から何を求められているのか。そしてこれまでに何をもちて社会に貢献してきたのか。すべての人々に開かれ、活用されるアクセシブルなミュージアムとなるためには、どのような課題が残されているのか。この問題意識に立ち、本演習では博物館がAccessible(アクセシブル)となるために向けたこれまでの動向を捉え、内包する問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、社会的存在としての博物館の価値を確立するアクセシブルなミュージアム(Accessible Museums)の実現に向けた理念と認識を構築し、各自の研究課題について深化をはかることが本演習の目的である。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ソーシャルインクルージョンと博物館の検討
- 第3回 アクセシブル・ミュージアム論の検討
- 第4回 研究テーマの相談
- 第5回 研究計画の作成
- 第6回 先行研究文献の調査
- 第7回 先行研究文献リストの作成と指導
- 第8回 先行研究文献の確認と指導
- 第9回 基本資料の講読と討論(1)日本の事例(東日本)
- 第10回 基本資料の講読と討論(2)日本の事例(西日本)
- 第11回 基本資料の講読と討論(3)英語圏の事例
- 第12回 基本資料の講読と討論(4)非英語圏の事例
- 第13回 研究の進捗報告
- 第14回 研究作業の課題の確認と指導

履修上の注意

博物館の実地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での討論に取り組んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の実地調査やグループでのディスカッション等に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で全体に向けてフィードバックをしていく。優秀な内容については、その都度、授業で紹介したり、クラスウェブを介してコメントしていく。

成績評価の方法

授業への取り組み50%、レポート50%、により評価する。

その他

また博物館の現場に足を運び、優れた実践例について学ぶフィールドワークの機会を複数回設ける予定である。訪問先については受講生と相談の上、決定したい。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	博物館学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 Ph.D.	井上 由佳	

授業の概要・到達目標

日本の博物館法やICOMの博物館定義に見られるように、博物館の4つの主な機能は「調査研究」「展示」「保存」「教育普及」とされているが、2015年のユネスコ博物館勧告ではこれに加えて「コミュニケーション」や周辺地域や創造・観光産業等への経済的支援も含まれている。ICOMの新定義でも、多文化共生やSDGsの達成等の社会的に課題に取り組むことが含まれると予想される。

既に海外のミュージアムは異分野の団体と連携し、コミュニティ課題に取り組み始めている。本演習では博物館が社会に果たすべき役割について理論的な理解を深めつつ、先進事例から問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、博物館は、旧来からの4つの主機能のみならず、人々の学びに積極的に関与し、現代の社会的課題に取り組む体制の背景にある理念を理解し、事例を通してその実態を学び、各自の研究課題について深化をはかることを目的とする。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本の博物館法における博物館像
- 第3回 1960年ユネスコ博物館勧告の博物館像
- 第4回 2015年ユネスコ博物館勧告の博物館像
- 第5回 ICOM博物館定義の変遷と現在
- 第6回 現代社会に求められる博物館とは
- 第7回 日本各地にみられる事例の検証
- 第8回 研究の進捗報告(その1)
- 第9回 資料の講読と討論(1)ヨーロッパ・アフリカの事例
- 第10回 資料の講読と討論(2)北米・中南米の事例
- 第11回 資料の講読と討論(3)アジアの事例
- 第12回 資料の講読と討論(4)日本の事例
- 第13回 研究の進捗報告(その2)
- 第14回 ディスカッション・授業の総括

履修上の注意

博物館の実地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での討論に取り組んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の実地調査やグループでのディスカッション等に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で全体に向けてフィードバックをしていく。優秀な内容については、その都度、授業で紹介したり、クラスウェブを介してコメントしていく。

成績評価の方法

授業への取り組み50%、レポート50%、により評価する。

その他

また博物館の現場に足を運び、優れた実践例について学ぶフィールドワークの機会を複数回設ける予定である。訪問先については受講生と相談の上、決定したい。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	博物館学演習IIC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 Ph.D.	井上 由佳	

授業の概要・到達目標

博物館とは何のために存在しているのだろうか。日本では社会教育機関の一つとして法的に位置づけられているが、博物館法が制定された1951年から70年が経過した今、博物館に求められている役割も大きく変化している。日本の博物館の発展を辿りながら、現代の博物館が社会から何を求められているのか。そしてこれまでに何をもちて社会に貢献してきたのか。すべての人々に開かれ、活用されるアクセシブルなミュージアムとなるためには、どのような課題が残されているのか。この問題意識に立ち、本演習では博物館がAccessible(アクセシブル)となるために向けたこれまでの動向を捉え、内包する問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、社会的存在としての博物館の価値を確立するアクセシブルなミュージアム(Accessible Museums)の実現に向けた理念と認識を構築し、各自の研究課題について深化をはかることが本演習の目的である。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 社会的課題と博物館の検討
- 第3回 開かれたミュージアム論の検討
- 第4回 研究テーマの相談
- 第5回 研究計画の作成
- 第6回 先行研究文献の調査
- 第7回 先行研究文献リストの作成と指導
- 第8回 先行研究文献の確認と指導
- 第9回 基本資料の講読と討論(1)日本の事例(東日本)
- 第10回 基本資料の講読と討論(2)日本の事例(西日本)
- 第11回 基本資料の講読と討論(3)英語圏の事例
- 第12回 基本資料の講読と討論(4)非英語圏の事例
- 第13回 研究の進捗報告
- 第14回 研究作業の課題の確認と指導

履修上の注意

博物館の実地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での討論に取り組んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の実地調査やグループでのディスカッション等に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で全体に向けてフィードバックをしていく。優秀な内容については、その都度、授業で紹介したり、クラスウェブを介してコメントしていく。

成績評価の方法

授業への取り組み50%、レポート50%、により評価する。

その他

また博物館の現場に足を運び、優れた実践例について学ぶフィールドワークの機会を複数回設ける予定である。訪問先については受講生と相談の上、決定したい。

科目ナンバー：(AL) MUS522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	博物館学演習IID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 Ph.D.	井上 由佳	

授業の概要・到達目標

日本の博物館法やICOMの博物館定義に見られるように、博物館の4つの主な機能は「調査研究」「展示」「保存」「教育普及」とされているが、2015年のユネスコ博物館勧告ではこれに加えて「コミュニケーション」や周辺地域や創造・観光産業等への経済的支援も含まれている。ICOMの新定義でも、多文化共生やSDGsの達成等の社会的に課題に取り組むことが含まれると予想される。

既に海外のミュージアムは異分野の団体と連携し、コミュニティ課題に取り組み始めている。本演習では博物館が社会に果たすべき役割について理論的な理解を深めつつ、先進事例から問題点を明らかにするとともに、今後の具体的なあり方について検討・考察する。

上記の内容を通し、博物館は、旧来からの4つの主機能のみならず、人々の学びに積極的に関与し、現代の社会的課題に取り組むべき役割にある理念を理解し、事例を通してその実態を学び、各自の研究課題について深化をはかることを目的とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 日本の博物館法における博物館像(2)
- 第3回 1960年ユネスコ博物館勧告の博物館像(2)
- 第4回 2015年ユネスコ博物館勧告の博物館像(2)
- 第5回 ICOM博物館定義の変遷と現在
- 第6回 現代社会に求められる博物館とは
- 第7回 日本各地にみられる事例の検証
- 第8回 研究の進捗報告(その1)
- 第9回 資料の講読と討論(1)ヨーロッパ・アフリカの事例
- 第10回 資料の講読と討論(2)北米・中南米の事例
- 第11回 資料の講読と討論(3)アジアの事例
- 第12回 資料の講読と討論(4)日本の事例
- 第13回 研究の進捗報告(その2)
- 第14回 ディスカッション・授業の総括

履修上の注意

博物館の実地調査に努めるとともに、課題に対する自分の考えを明確にしていくことを強く意識して、演習での討論に取り組んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に提示した資料を読み込むとともに、関連する資料にもあたって知見を広めておく。また、課題にかかわる博物館の実地調査やグループでのディスカッション等に積極的に取り組むこと。

教科書

授業の進行に合わせて、関連する資料を事前に配布する。

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で全体に向けてフィードバックをしていく。優秀な内容については、その都度、授業で紹介したり、クラスウェブを介してコメントしていく。

成績評価の方法

授業への取り組み50%、レポート50%、により評価する。

その他

また博物館の現場に足を運び、優れた実践例について学ぶフィールドワークの機会を複数回設ける予定である。訪問先については受講生と相談の上、決定したい。

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習 I A		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(図書館情報学) 青柳 英治		

授業の概要・到達目標

授業概要：この演習では、図書館における管理運営やサービス活動の実情を把握するために特定の主題を設定し、調査を行う。そのために、まず、質的調査の種類と方法の学習を行う。次に、調査計画を策定の上、調査を実施し、その結果を検討し、最後に報告書を作成する。

到達目標：この演習では、設定した主題を質的調査の手法を用いて明らかにし、成果をまとめることを通して、調査研究の手法を修得することを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：質的調査法(1)種類
- 第3回：質的調査法(2)方法
- 第4回：調査テーマの設定
- 第5回：調査方法の決定
- 第6回：調査項目の設定
- 第7回：調査の実施(1)本調査
- 第8回：本調査結果の検討
- 第9回：調査の実施(2)追加調査
- 第10回：追加調査結果の検討
- 第11回：調査のまとめ
- 第12回：報告書の作成
- 第13回：報告書の検討
- 第14回：調査結果の発表

履修上の注意

演習では、主体的に主題を設定の上、調査を進めていくことが求められる。質的調査法については、あらかじめ指定した文献をもとに発表・報告を求める。それをもとに調査方法、調査項目などを決定する。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。授業で取り上げた内容については、事後に文献等で確認しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji 等を利用して行う。

成績評価の方法

演習での発表・報告70%、調査報告書30%

その他

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習 I B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(図書館情報学) 青柳 英治		

授業の概要・到達目標

授業概要：この演習では、まず、より高度な国内外の図書館情報学分野(特に図書館運営、サービス活動)に関する文献を精読する。次に、修士論文の執筆に向け、各自の研究課題に即した発表と検討を行う。

到達目標：この演習では、国内外の図書館情報学研究の系譜ならびに動向について理解した上で、各自の研究課題の深化をはかることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：図書館運営に関する文献の講読と検討(1)：日本
- 第3回：図書館運営に関する文献の講読と検討(2)：外国
- 第4回：サービス活動に関する文献の講読と検討(1)：日本
- 第5回：サービス活動に関する文献の講読と検討(2)：外国
- 第6回：研究テーマの相談
- 第7回：研究計画の作成
- 第8回：先行研究の講読と検討(1)：日本
- 第9回：先行研究の講読と検討(2)：外国
- 第10回：基本文献の講読と検討(1)：日本①
- 第11回：基本文献の講読と検討(2)：日本②
- 第12回：基本文献の講読と検討(3)：外国
- 第13回：研究計画の修正
- 第14回：まとめと総括

履修上の注意

あらかじめ指定した文献をもとに発表・報告を求める。それをもとに討論・解説を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。授業で取り上げた内容については、事後に文献等で確認しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji 等を利用して行う。

成績評価の方法

演習での発表・報告70%、最終レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習 IC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(図書館情報学) 青柳 英治		

授業の概要・到達目標

授業概要：この演習では、より高度な図書館における管理運営やサービス活動の実情を把握するために特定の主題を設定し、調査を行う。そのために、まず、質的調査の種類と方法の学習を行う。次に、調査計画を策定の上、調査を実施し、その結果を検討し、最後に報告書を作成する。

到達目標：この演習では、設定した主題を質的調査の手法を用いて明らかにし、成果をまとめることを通して、調査研究の手法を修得することを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：質的調査法(1)種類
- 第3回：質的調査法(2)方法
- 第4回：調査テーマの設定
- 第5回：調査方法の決定
- 第6回：調査項目の設定
- 第7回：調査の実施(1)本調査
- 第8回：本調査結果の検討
- 第9回：調査の実施(2)追加調査
- 第10回：追加調査結果の検討
- 第11回：調査のまとめ
- 第12回：報告書の作成
- 第13回：報告書の検討
- 第14回：調査結果の発表

履修上の注意

演習では、主体的に主題を設定の上、調査を進めていくことが求められる。質的調査法については、あらかじめ指定した文献をもとに発表・報告を求める。それをもとに調査方法、調査項目などを決定する。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。授業で取り上げた内容については、事後に文献等で確認しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji 等を利用して行う。

成績評価の方法

演習での発表・報告70%、調査報告書30%

その他

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習 ID		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(図書館情報学) 青柳 英治		

授業の概要・到達目標

授業概要：この演習では、まず、より高度な国内外の図書館情報学分野(特に図書館運営、サービス活動)に関する文献を精読する。次に、修士論文の執筆に向け、各自の研究課題に即した発表と検討を行う。

到達目標：この演習では、国内外の図書館情報学研究の系譜ならびに動向について理解した上で、各自の研究課題の深化をはかることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：図書館運営に関する文献の講読と検討(1)：日本
- 第3回：図書館運営に関する文献の講読と検討(2)：外国
- 第4回：サービス活動に関する文献の講読と検討(1)：日本
- 第5回：サービス活動に関する文献の講読と検討(2)：外国
- 第6回：研究テーマの相談
- 第7回：研究計画の作成
- 第8回：先行研究の講読と検討(1)：日本
- 第9回：先行研究の講読と検討(2)：外国
- 第10回：基本文献の講読と検討(1)：日本①
- 第11回：基本文献の講読と検討(2)：日本②
- 第12回：基本文献の講読と検討(3)：外国
- 第13回：研究計画の修正
- 第14回：まとめと総括

履修上の注意

あらかじめ指定した文献をもとに発表・報告を求める。それをもとに討論・解説を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。授業で取り上げた内容については、事後に文献等で確認しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji 等を利用して行う。

成績評価の方法

演習での発表・報告70%、最終レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	図書館情報学演習ⅡA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		齋藤 泰則

授業の概要・到達目標

授業概要:

図書館情報学に関する国内の学術文献の探索法について取り上げる。そのうえで、特定の主題を設定し、当該主題に関する国内の研究動向について、国内発行の学術誌に掲載された論文を探索し、収集し、文献リストを作成する。文献リストから関心のある論文を選択し、その内容について発表し、考察を加える。

到達目標:

国内の学術文献探索法に関するスキルの獲得を目指すとともに、文献の探索・収集の実際、文献リストの作成法について習得することを目標とする。さらに、わが国における図書館情報学の研究動向について把握することを目指す。

授業内容

- 第1回：図書館情報学に関する国内の学術文献の探索法
- 第2回：図書館情報学に関する国内の学術文献の探索と収集の実際
- 第3回：図書館情報学の研究文献リストの作成
- 第4回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(1)：総論
- 第5回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(2)：図書館サービス領域Ⅰ レファレンスサービス
- 第6回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(3)：図書館サービス領域Ⅱ ヴァーチャルレファレンス
- 第7回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(4)：図書館サービス領域Ⅲ 情報リテラシー
- 第8回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(5)：利用者領域Ⅰ 情報要求
- 第9回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(6)：利用者領域Ⅱ 情報探索
- 第10回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(7)：利用者領域Ⅲ 情報利用
- 第11回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(8)：情報資源組織領域Ⅰ 書誌データ
- 第12回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(9)：情報資源組織領域Ⅱ 主題分析
- 第13回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(10)：情報資源組織領域Ⅲ 分類法
- 第14回：まとめ

履修上の注意

受講者の発表を中心に授業を進めます。発表資料の作成と提出を求めます。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に参考文献等で調べておくこと。
授業で紹介した内容について、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めなし。

参考書

リチャード・ルービン 著；根本彰 訳。図書館情報学概論。東京大学出版会，2014.5. 356p:ISBN 978-4-13-001007-8:
齋藤泰則 図書館とレファレンスサービス:論考 樹村房，2017. 12. 284P ISBN 978-4883672837

課題に対するフィードバックの方法

課題については、院生からの提出物について、コメントを付し、講評する。

成績評価の方法

授業での発表(40%)，最終レポート(60%)

その他

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	図書館情報学演習ⅡB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		齋藤 泰則

授業の概要・到達目標

授業概要:

図書館情報学に関する海外の学術文献の探索法について取り上げる。そのうえで、特定の主題を設定し、当該主題に関する海外の研究動向について、欧米発行の学術誌に掲載された論文を探索し、収集し、文献リストを作成する。文献リストから関心のある論文を選択し、その内容について発表し、考察を加える。

到達目標:

海外の学術文献探索法に関するスキルの獲得を目指すとともに、文献の探索・収集の実際、文献リストの作成法について習得することを目標とする。さらに、海外における図書館情報学の研究動向について把握することを目指す。

授業内容

- 第1回：図書館情報学に関する海外の学術文献の探索法
- 第2回：図書館情報学に関する海外の学術文献の探索と収集の実際
- 第3回：図書館情報学に関する海外の学術文献リストの作成
- 第4回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(1)：総論
- 第5回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(2)：図書館サービス領域Ⅰ レファレンスサービス
- 第6回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(3)：図書館サービス領域Ⅱ ヴァーチャルレファレンス
- 第7回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(4)：図書館サービス領域Ⅲ 情報リテラシー
- 第8回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(5)：利用者領域Ⅰ 情報要求
- 第9回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(6)：利用者領域Ⅱ 情報探索
- 第10回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(7)：利用者領域Ⅲ 情報利用
- 第11回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(8)：情報資源組織領域Ⅰ 書誌データ
- 第12回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(9)：情報資源組織領域Ⅱ 主題分析
- 第13回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(10)：情報資源組織領域Ⅲ 分類法
- 第14回：まとめ

履修上の注意

受講者の発表を中心に授業を進めます。毎回、発表資料の作成と提出を求めます。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に参考文献等で調べておくこと。
また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めなし。

参考書

リチャード・ルービン 著；根本彰 訳。図書館情報学概論。東京大学出版会，2014.5. 356p:ISBN 978-4-13-001007-8:
齋藤泰則 図書館とレファレンスサービス:論考 樹村房，2017. 12. 284P ISBN 978-4883672837

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する提出物については、講評のうえ、評価結果を回答する。

成績評価の方法

授業での発表(40%)，最終レポート(60%)

その他

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	図書館情報学演習II C		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		齋藤 泰則

授業の概要・到達目標

授業概要:

図書館情報学に関する国内の学術文献の探索法について取り上げる。そのうえで、特定の主題を設定し、当該主題に関する国内の研究動向について、国内発行の学術誌に掲載された論文を探索し、収集し、文献リストを作成する。文献リストから関心のある論文を選択し、その内容について発表し、より高度な専門性の視点から、考察を加える。

到達目標:

国内の学術文献探索法に関するスキルの獲得を目指すとともに、文献の探索・収集の実際、文献リストの作成法について習得することを目標とする。さらに、わが国におけるより高度な図書館情報学の研究動向について把握することを目指す。

授業内容

- 第1回：図書館情報学に関する国内の学術文献の探索法
- 第2回：図書館情報学に関する国内の学術文献の探索と収集の実際
- 第3回：図書館情報学の研究文献リストの作成
- 第4回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(1)：総論
- 第5回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(2)：図書館サービス領域 I レファレンスサービス
- 第6回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(3)：図書館サービス領域 II ヴァーチャルレファレンス
- 第7回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(4)：図書館サービス領域 III 情報リテラシー
- 第8回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(5)：利用者領域 I 情報要求
- 第9回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(6)：利用者領域 II 情報探索
- 第10回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(7)：利用者領域 III 情報利用
- 第11回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(8)：情報資源組織領域 I 書誌データ
- 第12回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(9)：情報資源組織領域 II 主題分析
- 第13回：図書館情報学に関する国内の学術文献の講読と考察(10)：情報資源組織領域 III 分類法
- 第14回：まとめ

履修上の注意

受講者の発表を中心に授業を進めます。発表資料の作成と提出を求めます。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に参考文献等で調べておくこと。
授業で紹介した内容について、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

- リチャード・ルービン著 『図書館情報学概論』。東京大学出版会、2014.5. 356p
齋藤泰則 図書館とレファレンスサービス：論考 樹村房、2017. 12. 284p.
パトリック・ウィルソン著 『知の典拠性と図書館』齋藤泰則訳、丸善出版、2024、219p.
パトリック・ウィルソン著 『知の公共性と図書館』齋藤泰則訳、丸善出版、2025、220p.

課題に対するフィードバックの方法

課題については、院生からの提出物について、コメントを付し、講評する。

成績評価の方法

授業での発表(40%)、最終レポート(60%)

その他

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	図書館情報学演習II D		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		齋藤 泰則

授業の概要・到達目標

授業概要:

図書館情報学に関する海外の学術文献の探索法について取り上げる。そのうえで、特定の主題を設定し、当該主題に関する海外の研究動向について、欧米発行の学術誌に掲載された論文を探索し、収集し、文献リストを作成する。文献リストから関心のある論文を選択し、その内容について発表し、より高度な専門性の視点から考察を加える。

到達目標:

海外の学術文献探索法に関するスキルの獲得を目指すとともに、文献の探索・収集の実際、文献リストの作成法について習得することを目標とする。さらに、海外におけるより高度な図書館情報学の研究動向について把握することを目指す。

授業内容

- 第1回：図書館情報学に関する海外の学術文献の探索法
- 第2回：図書館情報学に関する海外の学術文献の探索と収集の実際
- 第3回：図書館情報学に関する海外の学術文献リストの作成
- 第4回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(1)：総論
- 第5回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(2)：図書館サービス領域 I レファレンスサービス
- 第6回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(3)：図書館サービス領域 II ヴァーチャルレファレンス
- 第7回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(4)：図書館サービス領域 III 情報リテラシー
- 第8回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(5)：利用者領域 I 情報要求
- 第9回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(6)：利用者領域 II 情報探索
- 第10回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(7)：利用者領域 III 情報利用
- 第11回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(8)：情報資源組織領域 I 書誌データ
- 第12回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(9)：情報資源組織領域 II 主題分析
- 第13回：図書館情報学に関する海外の学術文献の講読と考察(10)：情報資源組織領域 III 分類法
- 第14回：まとめ

履修上の注意

受講者の発表を中心に授業を進めます。毎回、発表資料の作成と提出を求めます。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に参考文献等で調べておくこと。
また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

- リチャード・ルービン 著；根本彰 訳、図書館情報学概論。東京大学出版会、2014.5. 356p;ISBN 978-4-13-001007-8:
齋藤泰則 図書館とレファレンスサービス：論考 樹村房、2017. 12. 284P ISBN 978-4883672837

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する提出物については、講評のうえ、評価結果を回答する。

成績評価の方法

授業での発表(40%)、最終レポート(60%)

その他

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅢA		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	三浦 太郎	

授業の概要・到達目標

図書館情報学分野には、コア領域として、図書館情報学基礎、情報利用者、情報資源組織化、情報メディア、情報サービス、情報システム、経営管理、デジタル情報といったテーマがある。この授業では、こうしたテーマについて研究論文を執筆しようとする大学院生を対象に、基本文献を輪読したり、受講者各自から研究テーマを報告してもらう。輪読する文献は、受講生のテーマを考慮の上、相談して決定し、その内容に基づき、各回、全体で討議を行う。

図書館情報学分野の各テーマの特色を理解し、受講者自身の論文執筆を具体化することを図る。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 研究テーマについて(1)
- 第3回 研究テーマについて(2)
- 第4回 先行研究文献について(1)
- 第5回 先行研究文献について(2)
- 第6回 基本文献の輪読と討議(1)
- 第7回 基本文献の輪読と討議(2)
- 第8回 基本文献の輪読と討議(3)
- 第9回 基本文献の輪読と討議(4)
- 第10回 研究の進捗報告(1)
- 第11回 研究の進捗報告(2)
- 第12回 研究の進捗報告(3)
- 第13回 研究の進捗報告(4)
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

文献輪読の回には、あらかじめ指定した文献を読んだ上で臨むこととし、報告担当者は発表資料(レジュメ)を作成する。研究の進捗状況の報告については、受講者各自がレジュメを作成して臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した文献について、目を通した上で授業に臨むこと。

教科書

とくになし

参考書

適宜、指示する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

とくになし

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅢB		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	三浦 太郎	

授業の概要・到達目標

図書館情報学分野に関連するテーマについて、研究論文を執筆しようとする大学院生を対象に、主要文献を輪読したり、受講者各自から研究テーマを報告してもらう。輪読する文献は、受講生のテーマを考慮の上、相談して決定し、その内容に基づき、各回、全体で討議を行う。

図書館情報学分野に関連するテーマの特色を理解し、受講者自身が書き進める論文の質的向上を図る。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 研究テーマについて
- 第3回 主要文献の輪読と討議(1)
- 第4回 主要文献の輪読と討議(2)
- 第5回 主要文献の輪読と討議(3)
- 第6回 主要文献の輪読と討議(4)
- 第7回 中間的まとめ
- 第8回 研究の報告と討議(1)
- 第9回 研究の報告と討議(2)
- 第10回 研究の報告と討議(3)
- 第11回 研究の報告と討議(4)
- 第12回 研究の報告と討議(5)
- 第13回 研究の報告と討議(6)
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

文献輪読の回には、あらかじめ指定した文献を読んだ上で臨むこととし、報告担当者は発表資料(レジュメ)を作成する。研究の進捗状況の報告については、受講者各自がレジュメを作成して臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した文献について、目を通した上で授業に臨むこと。

教科書

とくになし

参考書

適宜、指示する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

とくになし

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅢC		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	三浦 太郎	

授業の概要・到達目標

図書館情報学分野には、コア領域として、図書館情報学基礎、情報利用者、情報資源組織化、情報メディア、情報サービス、情報システム、経営管理、デジタル情報といったテーマがある。この授業では、こうしたテーマについて研究論文を執筆しようとする大学院生を対象に、基本文献を輪読したり、受講者各自から研究テーマを報告してもらう。輪読する文献は、受講生のテーマを考慮の上、相談して決定し、その内容に基づき、各回、全体で討議を行う。

図書館情報学分野の各テーマの特色を理解し、受講者自身の論文執筆を具体化することを図る。

授業内容

- 第1回 インTRODククション
- 第2回 研究テーマについて(1)
- 第3回 研究テーマについて(2)
- 第4回 先行研究文献について(1)
- 第5回 先行研究文献について(2)
- 第6回 基本文献の輪読と討議(1)
- 第7回 基本文献の輪読と討議(2)
- 第8回 基本文献の輪読と討議(3)
- 第9回 基本文献の輪読と討議(4)
- 第10回 研究の進捗報告(1)
- 第11回 研究の進捗報告(2)
- 第12回 研究の進捗報告(3)
- 第13回 研究の進捗報告(4)
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

文献輪読の回には、あらかじめ指定した文献を読んだ上で臨むこととし、報告担当者は発表資料(レジュメ)を作成する。研究の進捗状況の報告については、受講者各自がレジュメを作成して臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した文献について、目を通した上で授業に臨むこと。

教科書

とくになし

参考書

適宜、指示する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

とくになし

科目ナンバー：(AL) CCL522J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学演習ⅢD		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	三浦 太郎	

授業の概要・到達目標

図書館情報学分野に関連するテーマについて、研究論文を執筆しようとする大学院生を対象に、主要文献を輪読したり、受講者各自から研究テーマを報告してもらう。輪読する文献は、受講生のテーマを考慮の上、相談して決定し、その内容に基づき、各回、全体で討議を行う。

図書館情報学分野に関連するテーマの特色を理解し、受講者自身が書き進める論文の質的向上を図る。

授業内容

- 第1回 インTRODククション
- 第2回 研究テーマについて
- 第3回 主要文献の輪読と討議(1)
- 第4回 主要文献の輪読と討議(2)
- 第5回 主要文献の輪読と討議(3)
- 第6回 主要文献の輪読と討議(4)
- 第7回 中間的まとめ
- 第8回 研究の報告と討議(1)
- 第9回 研究の報告と討議(2)
- 第10回 研究の報告と討議(3)
- 第11回 研究の報告と討議(4)
- 第12回 研究の報告と討議(5)
- 第13回 研究の報告と討議(6)
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

文献輪読の回には、あらかじめ指定した文献を読んだ上で臨むこととし、報告担当者は発表資料(レジュメ)を作成する。研究の進捗状況の報告については、受講者各自がレジュメを作成して臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定した文献について、目を通した上で授業に臨むこと。

教科書

とくになし

参考書

適宜、指示する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(100%)

その他

とくになし

科目ナンバー：(AL) EDU511J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	教育システム論		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師		前原 健二

授業の概要・到達目標

この講義の到達目標は、教育という大きな社会システムの維持や改革の動き方を具体的に知り、なぜシステムが変わったり変わらなかったりするののかというメカニズムの一端についての理解を獲得すること、及びそうした分析のための方法論についての理解を獲得することである。

授業では第2次大戦後のドイツの学校制度改革の動向を、教員・学校・学校制度という三つの位相において、順を追って整理、検討する。特にこの20年間ほど、ドイツの学校制度は大きく変転を繰り返しているため、その概要、なぜそういう状況になっているのかという動向、教育制度論としてそれが意味するところ、について考察する。

関連して、現代日本の教育システム改革の動向についても考察する予定である。

以上のほか、受講者の基礎知識の状況や受講者の基礎知識の状況に即した変更がありうる。

授業内容

- 各回、講師による講義、講義内容についての質疑・議論を行う。
- 第1回 講義の概要の説明、日本とドイツの教育制度について
- 第2回 ドイツの学校制度の歴史と概要
- 第3回 「教員の教育上の自由」をめぐる教育改革(1)学校監督論争
- 第4回 「教員の教育上の自由」をめぐる教育改革(2)教員評価
- 第5回 「教員の教育上の自由」をめぐる教育改革(3)教員研修
- 第6回 「教員養成」の改革:特に教員不足と「中途入職教員」
- 第7回 「学校の自律性」をめぐる教育改革(1)外的改革から内的改革へ
- 第8回 「学校の自律性」をめぐる教育改革(2)学校の自律化と競争
- 第9回 「学校の自律性」をめぐる教育改革(3)学校の自律性と教育の機会均等の理念
- 第10回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(1)戦後西ドイツの学校制度改革の提起と破綻
- 第11回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(2)PISAショック以後の学校制度改革論議の再燃
- 第12回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(3)単線型学校制度への転換の提起
- 第13回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(4)三分岐から二分岐へ:学校制度改革の進展と妥協
- 第14回 日本の学校制度改革と他の比較検討と講義のまとめ

履修上の注意

本講義は集中講義で実施する。
この科目は受講者による報告と相互の議論によって構成する演習ではなく、講義である。ただし毎回、質疑および講義中に提起する論点に関する議論を行う。

特別な事情のない限り、欠席はしないでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に読むべき文献を指定する場合があります。指定された文献を読んで参加すること。
講義中に配布するプリント、講義の内容、講義中の質疑や討論について復習すること。

教科書

使用しない。

参考書

講義の内容に直接関係する講義担当者の著書が2023年春までに刊行予定なので、刊行され次第提示する(『現代ドイツの教育改革』世織書房)。
日本語で読める、ドイツの学校制度についての網羅的な参考書として、『ドイツの教育のすべて』マックスプランク教育研究所研究者グループ、東信堂、2006年。
ドイツの学校法制に関するコンパクトな概説書として、『ドイツの学校と教育法制』ヘルマン・アペナリウス、教育開発研究所、2007年。
そのほか、関連する文献については随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義中の質疑討論への参加(50%)、期末レポート(50%)による。
レポートについては受講者との協議により詳細を確定する。

その他

ドイツ語の能力は特に必要としない。

科目ナンバー：(AL) EDU591J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	思春期・青年期論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士(人間学)	伊藤 直樹

授業の概要・到達目標

この授業では、思春期・青年期の若者の成長と適応について、心理・社会・教育的な観点から学習することを目的とする。

テーマとしては、児童期後期から思春期を経て青年期に至るまでの心身の発達過程、人格的な成長と発達課題、最近の子どもたちの親子関係、友人関係の特徴、学校におけるいじめや不登校、思春期・青年期に多く見られる心理的な問題などを扱う。

授業は、まず、講師が各回において取り上げるテーマに関する基本的な事項について概説し、関連文献を講読する。その後、内容に応じて、受講者相互のディスカッションを行うことにより、理解をさらに深める。受講者が自らの思春期・青年期を振り返りながら、各テーマを掘り下げることが必要になる。

授業内容

- 第1講 思春期・青年期とは
 - 第2講 身体の発達と性的発達
 - 第3講 思春期・青年期における友人関係
 - 第4講 今どきの友人関係
 - 第5講 思春期・青年期における家族関係・親子関係
 - 第6講 今どきの家族関係・親子関係
 - 第7講 思春期・青年期と性格形成
 - 第8講 乳幼児期と思春期・青年期の人格形成
 - 第9講 思春期・青年期とアイデンティティ
 - 第10講 思春期・青年期と進路選択
 - 第11講 不登校の現状
 - 第12講 思春期・青年期と不登校
 - 第13講 いじめの現状
 - 第14講 思春期・青年期といじめ
- ※講義内容は授業の進度、受講生の興味・関心により変更される場合がある。

履修上の注意

自分自身の経験を他の受講生の経験と比較することが重要である。授業を通じて、自分自身の経験を振り返り、また、それを授業での学習に積極的に活用することを心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に各回のテーマについて、中学・高校・大学時の学校生活をもとに自己の経験を振り返っておくこと。講義終了後に、各回に配付する資料をもとに復習すること。

教科書

指定しない。

参考書

笠井清澄ら編 「思春期学」東京大学出版会 2016年
保坂亨著 「いま、思春期を問い直す―グレーゾーンに立つ子どもたち―」東京大学出版会 2010年
H.S.サリヴァン著 中井久夫・山口隆訳 「現代精神医学の概念」みすず書房 1976年
西平直喜著 「成人になること」人間の発達4 東京大学出版会 1990年
詫摩武俊著 「性格はいかにつくられるか」岩波書店 1967年
安藤寿康著 「心はどのように遺伝するか―双生児が語る新しい遺伝観―」ブルーバックスB-1306 講談社 2000年
エリクソン、E. H. 著、村瀬孝雄・近藤邦夫訳 「ライフサイクル、その完結」みすず書房 1989年
※その他、授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合には、原則として、次の回の授業において解説を行う。

成績評価の方法

授業で指示された課題に対する取り組み、授業への貢献度を総合的に判断して評価する。

その他

なし。

科目ナンバー：(AL) EDU511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育人間学		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(教育学) 関根 宏朗		

授業の概要・到達目標

教育人間学という学問小分野についての基礎的な理解を深めることが本授業の目標である。本年度は、小野文生『<非在>のエティカ』(東京大学出版会、2022年)を一章ずつ読み解き、教育人間学の先端的な知見にふれてゆく。テキストの精読を通し、「教育」とはなにか(そして「人間」とはなにか)、それぞれの原理的な考察を共有する場とした。

授業内容

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：テキスト講読：『教育学年報11』(世織書房、2019年)より、下司晶「教育哲学」
- 第3回：テキスト講読：『教育学年報15』(世織書房、2024年)より、下司晶・関根宏朗・尾崎博美「教育哲学・教育思想史・教育人間学」
- 第4回：テキスト講読：「序章 思考のはじまりの痕跡」
- 第5回：テキスト講読：「第1章 コモン・センスとしての応答的理性」
- 第6回：テキスト講読：「第2章 ただ生きること、あるいは<非在>の歓待」
- 第7回：テキスト講読：「第3章 ホシヨウ科学試合におけるパティ・マトス」
- 第8回：テキスト講読：「第4章 審問されるコナトゥス、エティカの行方」
- 第9回：テキスト講読：「第5章 <非在>のエティカの生起する場所」
- 第10回：テキスト講読：「第6章 悲しみの器と煩惱のケア」
- 第11回：テキスト講読：「第7章 <ひずみの底の未来イメージ>、あるいは弱さの論理」
- 第12回：テキスト講読：「第8章 「方法としてのアナキズム」考」
- 第13回：テキスト講読：「第9章 <知のひと>から<受苦するひと>へ」
- 第14回：テキスト講読：「終章 <非在>のエティカ」

履修上の注意

積極的・主体的な授業参加を期待する。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ指定した範囲の文献に目を通して頂くこと。簡単なコメントを用意して頂くことが望ましい。

教科書

小野文生『<非在>のエティカ：ただ生きることの歓待の哲学』東京大学出版会、2022年。
詳細は授業初回に提示する。

参考書

教育思想史学会(編)『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房、2017年。
その他、適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業内発表:100%
ただし授業参加の姿勢も加味する。

その他

なし

科目ナンバー：(AL) EDU511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教育社会史特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(教育学) 山下 達也		

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

本授業は、社会の中で生じる教育という営みについて人物史研究や制度史研究のみならず、国家と教員の関係、地域、民族、宗教、性差、教育空間、学歴、教具・教材といった観点から歴史的に考察するものである。

毎回の授業は、各テーマに関する論文を手がかりに全員で議論や意見交換を行う。

(到達目標)

- ・教育社会史研究の動向を把握する。
- ・社会の中で教育を捉えるということ意識すると同時に、教育を通じて社会を理解するという視座から考察する。

授業内容

- 第1講 教育の社会史一問いの特徴と意義一
 - 第2講 国家と教員/民族と教育
 - 第3講 宗教(信仰)と教育
 - 第4講 家族と教育
 - 第5講 ジェンダーと教育
 - 第6講 地域と教育
 - 第7講 身体と教育
 - 第8講 子供の社会史
 - 第9講 学歴の社会史
 - 第10講 留学と教育
 - 第11講 建築と教育
 - 第12講 メディアと教育
 - 第13講 服装と教育
 - 第14講 教具・教材と教育
- ※講義内容は必要に応じて変更する場合があります。

履修上の注意

受講生は自身の関心に基づいてレビューする指定論文をひとつ選択する。また、担当でない回においても毎回、指定論文を事前に読み、議論に参加する。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う論文・資料等を事前に配布するので各自で読み授業に臨むこと。

教科書

教科書は指定しないが、関連資料を事前に配布する。

参考書

教育史学会60周年記念出版編集委員会『教育史研究の最前線Ⅱ』(六花出版、2018年)
その他、授業中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

授業中の発言、議論への参加状況によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) EDU511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	教授学習心理学特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(教育学) 伊藤 貴昭		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本講義は、教育心理学の中でも特に教授学習心理学分野の研究とその特徴および課題について理解を深めることが目的である。学校教育現場はもちろんのこと、私たちにとって教授・学習活動とは一生を通じて繰り返し行われる、非常に重要かつ身近なものである。

こうした教授・学習活動について、心理学的な観点からアプローチすることの意義は何か。心理学的にアプローチすることで、何が明らかになり、どういった課題が生じるのかなどについて、さまざまな研究を概観しながら議論を深めていく。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 近年の教授学習研究の特徴について①
- 第3回 近年の教授学習研究の特徴について②
- 第4回 知識・概念の獲得
- 第5回 学習方略の効果
- 第6回 メタ認知
- 第7回 文章理解
- 第8回 動機づけと学習①
- 第9回 動機づけと学習②
- 第10回 協同学習①
- 第11回 協同学習②
- 第12回 授業研究
- 第13回 教育現場における教授学習研究
- 第14回 まとめ

履修上の注意

事前に関連する資料を読み、それをもってディスカッションすることを中心に進める。資料は、教員から指定するもの、あるいは受講生が自らの関心で選択したものにする予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定の資料があるときには、必ず資料に目を通してから参加すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

教育心理学年報
その他、必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については講義当日もしくは翌週にコメントする。

成績評価の方法

授業への参加状況50%、レポート50%

その他

科目ナンバー：(AL) CCE521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会教育実践論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	平川 景子	

授業の概要・到達目標

長期実践記録を読む

日本の社会教育実践史において、自分のくらし・学習の記録を「書く」という取り組みの系譜がある。1950年代の共同学習・生活記録運動、1960年代以降の被差別部落における識字教室・識字運動、1960年代以降の公民館の学級・講座の実践などに、「書く」方法論を意識した実践の歩みを読み取ることができる。

実践を記録することは、1年以上の、場合によっては数十年にわたる実践の継続を支えていくために不可欠な方法論である。1回限りの講座やイベントではなく、数十年にわたって学習を継続するということは、住民自身が主体となって地域の課題を深く掘り下げていくことにほかならない。すなわち、コミュニティの課題を民主的に解決していくために市民が学び続けていく過程が、学習記録に描き出されている。

戦後、共同学習、生活記録運動、識字学習では、書くこと・話し合うことを軸とする方法論、学習者の自己決定などを特徴とする実践が広範に行われてきた。1970年代以降、国立市公民館保育室活動や松川町の健康学習など、数十年にわたる実践がある。1980年代以降、人権・差別・環境問題、平和・戦争など、多様な主題に向けて人々の学習・実践が取り組まれている。

この授業では、社会教育実践にかかわる先行研究をもちより、読み進めていきたい。また、実践が行われた土地を訪問すること、実践にかかわった人たちにインタビューすることなどにも取り組んでみよう。

授業内容

- 第1回 自己紹介・いま、関心を持っていること
- 第2回 共同学習論
- 第3回 生活記録運動
- 第4～5回 施設見学
- 第6回 識字学習
- 第7～9回 長期実践記録を読む①～③
- 第10回 地域女性史・自分史学習
- 第11～12回 履修者の修士論文を読みあう①～②—書くことをめぐる困難と意識化
- 第13回 社会教育における評価
- 第14回 レポートを読みあう

履修上の注意

履修者の関心に即して、授業内容を変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

この授業では、さまざまな実践の記録と、成人学習論を読み解きながら、実践の展開をあとづけ、さらに学習を支援している職員の問題意識を考察していく。

院生がかかわっている実践やその記録について、授業に持ち込んで考察することも歓迎したい。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポートによる。

その他

科目ナンバー：(AL) MUS521J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館学特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(歴史学) 駒見 和夫		

授業の概要・到達目標

現代博物館の社会的存在の根幹は公共性をもつ教育機関、すなわち公教育機関として機能する点にあり、博物館における教育は、活動の総体として博物館が遂行すべき目的と考える。この講義では博物館が公教育機関であることをふまえ、その役割を見据えたうえで諸機能の充実を図らねばならないことを示し、具体的な活動を検討していきたい。とくに現在推進されている生涯学習について経緯と目的、社会的意義について検討し、博物館が果たすべき教育とのかかわりを考える。また、展示活動において教育的観点から(視覚型展示)と(知覚型展示)という視点で対比し、その上で(知覚型展示)に立脚した博物館資料に対する考え方や、展示を中心とした博物館活動のあり方と今後の方向性について考察する。

上記の内容を通し、教育的役割を果たすことを目的とした博物館の諸機能を理解し、生涯学習社会における博物館の役割と諸活動について自らの認識を構築できるようにすることが、本講義の目的である。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本と欧米の博物館理念の比較検討
- 第3回 博物館教育の原理と現代博物館の様相
- 第4回 コンドルセの公教育論
- 第5回 コンドルセの公教育と博物館の位置づけ
- 第6回 ポール・ラングランの生涯教育論
- 第7回 生涯教育から生涯学習へ
- 第8回 生涯学習社会における博物館論
- 第9回 人権と博物館教育
- 第10回 博物館教育プログラムの動向検討
- 第11回 博物館展示の目的とあり方
- 第12回 視覚型から知覚型展示への転換
- 第13回 博物館教育とユニバーサルミュージアム
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

準備学習により各トピックについてディスカッションできるようにしておく。また、授業で得られた知見で、各種の博物館の積極的な実地調査に努める。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考書、および各トピックにかかわる文献を事前に提示するので、読み込んで自らの認識をまとめておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

『生涯教育入門』波多野完治訳(全日本社会教育連合会)、『博物館教育の原理と活動』駒見和夫(学文社)、『博物館体験』ジョン・H・フォーク(雄山閣)、『博物館で学ぶ』ジョージ・E・ハイン(同成社)、は必読のこと。ほかに、授業の進行に合わせて適宜提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内、およびOh-ol Meijiのレポートのコメント機能を使って適宜おこなう。

成績評価の方法

授業への取り組み50%、課題レポート50%、により評価する。

その他

テーマに関連する論文や書籍を精力的に読んでください。

科目ナンバー：(AL) MUS621J			
臨床人間学専攻		備考	
科目名	博物館教育論特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 Ph.D. 井上 由佳		

授業の概要・到達目標

博物館教育に関する基礎を理解するため、理念、歴史、方法、理論を押さえた上で、現代的課題や博物館教育の動向について具体的な学びを進めていく。授業は担当教員による導入の講義だけではなく、(1)事前課題(文献講読)をもとにした発表、(2)具体的資料/作品をもとにした教育実践の発表をベースとして、受講生と教員によるディスカッションを中心に進めていく。

到達目標

博物館教育に関する研究を行う、あるいは、博物館での教育活動(学習支援)を行うにあたって必要となる視点(例えば、研究/実践の相対化や評価に向けた視点)の獲得を目指す。より具体的な到達目標には以下の2点を挙げる。

- ・博物館教育における基礎的文献や現代的課題を取り上げた文献を批判的に読み解くことができる。
- ・抽象(理論)と具象(具体的実践)の双方を往還する視点を持ち、博物館研究/実践を行っていくことができる。

授業内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教育/学習/発達観の再構築
- 第3回 博物館の社会的役割を考える
- 第4回 フィールドワーク①:ギャラリーエークウッド
- 第5回 フィールドワーク②:東京都現代美術館
- 第6回 具体的資料/作品をもとにした教育実践の発表①
- 第7回 具体的資料/作品をもとにした教育実践の発表②
- 第8回 博物館における市民参加/参画(文献講読、発表)
- 第9回 博物館と自己決定学習(文献講読、発表)
- 第10回 博物館と学校教育/フォーマル学習(文献講読、発表)
- 第11回 博物館とジェンダー(文献講読、発表)
- 第12回 フィールドワーク③:東京国立近代美術館
- 第13回 博物館におけるコミュニケーション(文献講読、発表)
- 第14回 来館者研究(文献講読、発表)

履修上の注意

- ・学芸員資格課程科目「博物館教育論」の既修を前提とした上で、授業を行う。
- ・文献講読と発表については、履修者数や関心に応じて発表回数やテーマの調整をする。
- ・フィールドワークにあたっては受講生と相談を行い、実施日時を決定する。

準備学習(予習・復習等)の内容

文献(英語文献を予定)講読にもとづいた発表とディスカッションが中心となる。そのため、発表者に限らず、受講生全員が事前に文献を読み込んでくる必要がある。文献講読にあたっては、(1)論文の構造(課題の所在、問い、方法、分析、結論・考察など)を把握すること、(2)引用・参考文献(原典にあたること)や本文中の専門用語を調べること、(3)批判的視点を持って読むこと。

教科書

特に定めない。

参考書

『博物館で学ぶ』ジョージ・ハイン著、鷹野光行監訳(同成社)、『博物館学・美術館学・文化遺産学 基礎概念事典』フランソワ・メレス/アンドレ・デバレ編、水嶋英治訳(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

授業冒頭に課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業内での発表*ディスカッションへの貢献度を含む(70%)、期末レポート(30%)

その他

博物館教育の実践分析を行うため、フィールドワークを行う。学習支援に関心のある方の履修を歓迎する。

科目ナンバー：(AL) MUS621J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	地域博物館論特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 鈴木 直人		

授業の概要・到達目標

博物館はその設置者によって公立であったり、私立であったりさまざまである。その中で地方自治体が設立母体となるのが地域博物館である。本授業の講師は東京都北区が設立した北区飛鳥山博物館に勤務する学芸員であり、開館前の設立準備段階から関わり開館後もそこで活動をしている。本授業では地域博物館の特徴や運営、活動などを北区飛鳥山博物館での実例をもとに考えていく。地域博物館の現状と課題について問題意識を持ち、これからのあるべき姿とは何か考えることを目標とする。

授業内容

- 第1回 インTRODakシヨン 博物館とは
- 第2回 地域博物館の変貌と経営
- 第3回 博物館を作る
- 第4回 運営基盤からみた地域博物館の特徴
- 第5回 博物館に必要とされるもの①使命と評価
- 第6回 博物館に必要とされるもの②倫理と危機管理
- 第7回 博物館運営の実践①収集保管
- 第8回 博物館運営の実践②調査研究
- 第9回 博物館運営の実践③展示
- 第10回 博物館運営の実践④教育普及
- 第11回 博物館運営の実践⑤連携事業
- 第12回 博物館運営の実践⑥広報
- 第13回 博物館の集客と営業
- 第14回 これからの地域博物館

履修上の注意

準備学習での具体例の調査から、地域博物館のイメージをもって授業に臨むこと。各回資料を配布してこれを基に授業を進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

地域博物館の運営や活動内容などについて、職員数や活動の年間スケジュール、一番力を入れていることなど具体的に調査をすること。

教科書

各回資料を配布。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

学期末の課題レポート提出後、Oh-ol Meijiで講評を伝達する。

成績評価の方法

授業への取り組み50%、課題レポート50%により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館情報学特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	齋藤 泰則	

授業の概要・到達目標

授業の概要：

図書館情報学に関する諸領域とその理論について、専門文献を講読し、最新の専門的知識を修得し、図書館情報学研究のために必要となる門的知識の理解とその応用能力の獲得を目指す。

到達目標：

図書館情報学の最新理論に関する理解を目標とする。

授業内容

- 第1回：情報学とは何か
- 第2回：情報の歴史
- 第3回：情報学の哲学
- 第4回：情報学の基本概念
- 第5回：領域分析
- 第6回：情報の組織化
- 第7回：情報技術
- 第8回：計量情報学
- 第9回：情報行動
- 第10回：情報の流通
- 第11回：情報社会
- 第12回：情報管理・情報政策
- 第13回：デジタルリテラシー
- 第14回：情報学の調査研究法

履修上の注意

指定した教科書の各章の内容を発表し、ディスカッションを行う形式で進めます。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業に先立ち、指定した教科書の該当章を読み、レジュメを作成してください。

授業後は、授業により深められた理解をもとに、当該領域に関する探究を進めてください。

教科書

ボーデン, D. & ロビンソン, L.著『図書館情報学概論』 塩崎亮訳, 勁草書房, 2019, 424p. ISBN978-4-326-00046-3

参考書

リチャード・ルービン著.『図書館情報学概論』根本彰 訳, 東京大学出版会, 2014 356p. SBN 978-4-13-001007-8

津田良成編『図書館・情報学概論』 第2版, 勁草書房, 1998, 240p.

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する提出物については、講評のうえ、回答する。

成績評価の方法

授業における発表(60%), 最終レポート(40%)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館経営特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(図書館情報学) 青柳 英治		

授業の概要・到達目標

授業概要：図書館を構成する経営資源の中でも、特に、人的資源について取り上げ、図書館員の養成・教育訓練の歴史・現状・課題について検討する。

到達目標：図書館員の養成・教育訓練の変遷を理解した上で、社会の多様な局面における課題解決の支援者としての図書館員のあり方を検討できる知識の修得を目指す。

授業内容

- 第1回：オリエンテーション:授業の概要と進め方
- 第2回：図書館員養成の歴史(1)：1950年代
- 第3回：図書館員養成の歴史(2)：1960年代
- 第4回：図書館員養成の歴史(3)：1970年代
- 第5回：図書館員養成の歴史(4)：1980年代
- 第6回：図書館員養成の歴史(5)：1990年代
- 第7回：図書館員養成の現状(1)：2000年代①
- 第8回：図書館員養成の現状(2)：2000年代②
- 第9回：図書館員養成の現状(3)：2000年代③
- 第10回：図書館員養成の課題(1)：社会的側面
- 第11回：図書館員養成の課題(2)：情報通信技術の側面
- 第12回：公共図書館員の養成(1)：歴史
- 第13回：公共図書館員の養成(2)：現状と課題
- 第14回：大学図書館員の養成

履修上の注意

あらかじめ指定した文献をもとに発表・報告を求める。それをもとに討論・解説を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に文献等で調べておくこと。授業で取り上げた内容について、文献等で調べておくこと。

教科書

特に指定しない。適宜、資料等を配布する。

参考書

授業の中で適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での発表・報告70%、最終レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL) CCL521J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	図書館文化特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	三浦 太郎	

授業の概要・到達目標

19世紀後半から米国の図書館史研究が進展してきた。民主的解釈、修正解釈といった観点が提示されたのち、近年では、サービス提供者である図書館の視点ではなく、サービス利用者である一般の人びとの視点から、図書館活動の実態やその意義を取り上げる研究が見られている。この授業では、米国における図書館史研究の潮流について、川崎良孝・吉田右子による共著文献をテキストとして、理解することを図る。

図書館という制度が社会や人びとの生活の中で、どのように成立・展開してきたかについて、検討していく。本年度は、『新たな図書館・図書館史研究: 批判的図書館史研究を中心にして』(川崎良孝・吉田右子著、京都図書館情報学研究会、2011年)を取り上げる。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 米国の図書館史研究の概略
- 第3回 第1世代の図書館史記述:単館史、記念誌の時代
- 第4回 第2世代の図書館史記述:革新主義図書館史学
- 第5回 第3世代の図書館史記述:修正解釈派の図書館史解釈
- 第6回 第4世代の図書館史記述:研究の広がりや深まり
- 第7回 ウェイン・A・ウィーガンと図書館史研究:第4世代の牽引者
- 第8回 クリステン・ポーリーと図書館史研究:プリント・カルチャー史の研究
- 第9回 アビゲイル・ヴァンスリックと図書館史研究:場の批判的考察
- 第10回 公立図書館史研究におけるジェンダー:周縁文化への着眼
- 第11回 公立図書館史研究における黒人:人種隔離を中心として
- 第12回 日本における図書館史研究への影響
- 第13回 図書館史研究の課題
- 第14回 まとめとふりかえり

履修上の注意

受講者には、テキストの章を指定し、分担してまとめてくるよう指示するので、積極的に取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ指定した章を読んでくること。各回のまとめの担当者は、発表資料(レジュメ)を用意すること。

教科書

川崎良孝・吉田右子著『新たな図書館・図書館史研究: 批判的図書館史研究を中心にして』京都図書館情報学研究会、日本図書館協会(発売)、2011年、402p.

参考書

- ・相関図書館学方法論研究会編著『テーマで読むアメリカ公立図書館事典』松籟社、2023年、304p.
- ・川崎良孝「図書館史研究と図書館人物史研究」『図書館文化史研究』(36)、2019年、p.1-71.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での発表(70%)、最終レポート(30%)を総合して評価する。

その他

とくになし

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	共生ネットワーク論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師	田中 夏子	

授業の概要・到達目標

授業概要……「共生」の構成原理について学習・討議する。「共生」をめぐる議論がどのような構造になっているのか、また「共生」概念の可能性と困難とはどのようなことか、資料読解と受講生との議論を踏まえ、検討していく。授業の前半では、共生をめぐる理論と政策動向を学ぶ。後半では、多様な価値がぶつかりあう具体的な場面において、「共に生きる」社会の構築がどのように構想され、実践されているのか、を学ぶ。

到達目標……「共生」への構想を支える諸概念及びそれら相互の関係をめぐる議論を理解し、「共生」の構成原理を各自がそれぞれの言葉でアウトプットできることが到達目標である。

授業内容

- 第1回 共生ネットワーク論への視角
- 第2回 共生をめぐる諸政策の動向
- 第3回 「共生的でない」とはどういうことか
- 第4回 ケアをめぐる共生とは
- 第5回 共生とケア・家族を憲法はどうみるか
- 第6回 共生論をめぐる議論①
- 第7回 子どもたちが抱える困難と共生
- 第8回 障がいのある人々をめぐる共生①
- 第9回 障がいのある人々をめぐる共生②
- 第10回 高齢者ケア観と共生
- 第11回 ケアコミュニティの構築にむけて
- 第12回 共生論をめぐる議論②
- 第13回 受講生による「共生」事例の提起
- 第14回 共生ネットワーク論の思想的基礎に関わる概念整理

上記のシラバスは、受講生の関心等に沿って一部、順番を変更しないしは議論の題材を差し替える場合があります。

履修上の注意

- ①受講生は、授業で随時示す参考文献等、積極的に参照すること。
- ②この授業は講義科目ですが、適宜、受講生による発表、報告を織り込みます。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講生は、毎回の授業で取り上げる資料を熟読の上、論点をピックアップし、意見を形成してきてください。

教科書

教科書 朴光駿 他編著『共生の哲学～誰ひとり取り残さないケアコミュニティをめざして』明石書店 2800円(税別)

参考書

- 『イタリア社会的経済の地域展開』田中夏子 日本経済評論社、2004年
- 『共生保障～支え合いの戦略』宮本太郎(岩波書店)、2017年
- 『私たちの津久井やまゆり園事件～障がい者とともに(共生社会の明日へ)』堀利和編著(社会評論社)、2017年

課題に対するフィードバックの方法

授業中にコメントします

成績評価の方法

授業への貢献度(積極的な発言姿勢)20%、授業における報告内容40%、期末レポート40%

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL) SOC541J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	社会福祉論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(人間科学)	荒井 浩道

授業の概要・到達目標

この授業では、いじめ、不登校、ヤングケアラー、ひきこもり、虐待、発達障害、LGBTQ+、災害、認知症、看取り、などの現代社会において注目される課題を取り上げ、ソーシャルワーク(社会福祉)の視点から多角的かつ具体的に検討を行います。

この授業の到達目標は、社会福祉(ソーシャルワーク)の視点から多角的かつ具体的に検討する力を身につけることです。

授業内容

- 第1回 社会福祉(ソーシャルワーク)とは何か?
- 第2回 いじめ
- 第3回 不登校
- 第4回 ヤングケアラー
- 第5回 ひきこもり
- 第6回 虐待
- 第7回 発達障害①(ADHD)
- 第8回 発達障害②(ASD)
- 第9回 LGBTQ+①(レズビアン)
- 第10回 LGBTQ+②(トランスジェンダー)
- 第11回 災害
- 第12回 認知症
- 第13回 看取り
- 第14回 まとめ、教場レポート

履修上の注意

この授業では、動画視聴、ディスカッション等のアクティブラーニングを積極的に採用します。そのため、授業への主体的な参加を期待します。

準備学習（予習・復習等）の内容

社会福祉(ソーシャルワーク)に関する基本的な事項を調べておいてください。

教科書

とくに指定しません。

参考書

- 荒井浩道著『ナラティヴ・ソーシャルワーカー―〈支援〉しない支援”の方法』新泉社。
- 荒井浩道・長沼葉月・後藤広史・木村淳也・本多勇・木下大生著『ソーシャルワーカーのミライ―混沌の中にそれでも希望の種を蒔く』生活書院。

課題に対するフィードバックの方法

個別にフィードバックを行います。

成績評価の方法

授業への参加40%、教場レポート60%

その他

とくにありません。

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	NPO市民活動論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任教授	小関 隆志	

授業の概要・到達目標

授業の概要：本講義は、非営利組織(Non-profit Organization: NPO)とその周辺分野を考察します。NPOは多様な側面を持っていますが、人々の自発的な活動・運動を組織化している点では、市民社会との関係を抜きにしては考えられません。また、公共サービスの担い手としてもNPOは重要な役割を担っており、その観点では福祉国家/福祉社会論を踏まえておく必要があります。NPOは人々の自発的な活動を前提としていることから、ボランティアに注目する必要があります。さらに、組織体としてのNPOは、行政や企業と共同しながら持続的に経営していく必要があります。本講義ではNPOの事例をもとに、市民社会論、福祉国家/社会論、ボランティア論、NPO経営論といった多様なテーマを概観します。

到達目標：NPOの諸側面を理解するとともに、自らの意見を述べるができる。

授業内容

- 第1回 イントロダクション、市民社会論(1):市民社会とは
- 第2回 市民社会論(2):社会運動とコミュニティ・オーガナイズ
- 第3回 福祉国家/社会論：ウェルフェア・ミックスとサードセクター
- 第4回 ボランティア論(1):ボランティアの意義と課題
- 第5回 ボランティア論(2):ボランティアの育成
- 第6回 NPO論(1):NPOの概念、意義、種類
- 第7回 NPO論(2):NPOの歴史と現状
- 第8回 NPO論(3):社会変革、社会イノベーション、アドヴォカシー
- 第9回 ゲスト講義(1):NPOの実践事例紹介
- 第10回 NPO論(4):行政・企業との協働
- 第11回 NPO論(5):アカウンタビリティと社会責任
- 第12回 ゲスト講義(2):NPOの実践事例紹介
- 第13回 NPO論(6):NPOの経営課題と資金調達
- 第14回 NPO論(7):NPOで働くこと、全体のまとめ(ゲストの都合等により順序が若干入れ替わる可能性があります)

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

特になし

教科書

講義の際に資料を配布します。

参考書

坂本治也編『市民社会論：理論と実証の最前線』法律文化社、2017年
 社会福祉法人大阪ボランティア協会編・発行『テキスト市民活動論：ボランティア・NPOの実践から学ぶ 第2版』2019年
 大橋正明・利根川佳子『NPO・NGOの世界』放送大学教育振興会、2021年

課題に対するフィードバックの方法

メールを通してフィードバックを行います。

成績評価の方法

授業への参加度100%

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) SOC512J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	コミュニティ人間関係論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	博士(人間学) パッハー, アリス	

授業の概要・到達目標

本講義では、人間がなぜコミュニティを必要とするのかを考察し、現代社会におけるコミュニティの特徴を多角的な視点から探求します。特に「恋愛」「セクシュアリティ」「親密性」といった一見個人的なテーマについて、それらがどのように文化的価値観や社会規範と結びついているのかを深く理解することを目指します。

授業内容

- 第1回：イントロダクション - コミュニティと人間関係の概要
- 第2回：個人とコミュニティの相互作用
- 第3回：コミュニティの変化と多様性
- 第4回：親密性とコミュニティの構造(1)
- 第5回：親密性とコミュニティの構造(2)
- 第6回：親密性とコミュニティの構造(3)
- 第7回：親密性とコミュニティの構造(4)
- 第8回：恋愛とセクシュアリティに関する社会的規範(1)
- 第9回：恋愛とセクシュアリティに関する社会的規範(2)
- 第10回：恋愛とセクシュアリティに関する社会的規範(3)
- 第11回：恋愛とセクシュアリティに関する社会的規範(4)
- 第12回：多様性と親密性(1)
- 第13回：多様性と親密性(2)
- 第14回：多様性と親密性(3)

履修上の注意

本授業では、各テーマに基づき学生同士のディスカッション、ブレインストーミング、グループまたは個人発表(ピア・ラーニング)を積極的に行います。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業前に授業で紹介する参考文献や資料を読み、授業後には復習を行うこと。

教科書

必要な場合は適宜指示する。

参考書

- Giddens, Anthony (1993). The Transformation of Intimacy: Sexuality, Love and Eroticism in Modern Societies, Polity. (ギデンズ, アンソニー (1995). 『親密性の変容』而立書房.)
- Eva Illouz (2007). Cold Intimacies: The Making of Emotional Capitalism, Polity.

課題に対するフィードバックの方法

課題の全体評価を各講義で紹介する。

成績評価の方法

授業への積極的な参加度 (60%)、発表 (40%) の総合評価とする。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	地域開発論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 理学博士	山田 晴通	

授業の概要・到達目標

地域開発をめぐる議論は、もっぱら公共政策の観点から、すなわち、行政が「上から」政策的誘導をおこない、民間からも投下され、様々な事業が展開されていくという側面から論じられることが従来は多かった。しかし、経済状況が変化し、自然や環境問題への関心が高まり、また、行政機構の変革が進んでいく中で、地域開発を、本来の意味での地域に根ざした、「下から」の視点でとらえ直す議論の重要性は、徐々に高まりつつある。

この講義では、こうした地域開発をめぐる多様な論点について、戦後日本の地域開発を巡る議論に例をとりながら、受講者とともに考えていきたい。

講義ではあるが、適宜、演習的な作業課題も与え、受講者が関連文献の渉猟に取り組みよう促していく。

授業内容

- 第1回：「地域開発」概念をめぐる基本的な視点
- 第2回：「開発」概念の批判的検討(1)
- 第3回：「開発」概念の批判的検討(2)
- 第4回：「地域」概念の批判的検討(1)
- 第5回：「地域」概念の批判的検討(2)
- 第6回：「地域開発」概念の批判的検討(1)
- 第7回：「地域開発」概念の批判的検討(2)
- 第8回：教科書講読(1) …取り上げる章(論文)は受講者の意向を踏まえて選ぶ
- 第9回：教科書講読(2)
- 第10回：教科書講読(3)
- 第11回：教科書講読(4)
- 第12回：教科書講読(5)
- 第13回：教科書講読(6)
- 第14回：期末レポートのテーマについての指導

履修上の注意

講義ではあるが、対話、議論の要素を盛り込んだ授業運営をするので、積極的な姿勢で受講してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

この講義では指定されている教科書から数本の論文を教材として講読するが、事前学習としては、教科書を早めに入手して自主的に通読することを求める。また、インターネット上にリストが公開されている講義担当者の既発表論文から、地域開発に関わると思われるものを通読しておくこと。(http://camp.ff.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/Y-KEN/biblio.html) また、授業の過程において予習の作業を求めた場合には、これに適切に取り組むこと。

事後学習としては、講義内容に関連する書籍等の資料や、ネット上の情報の渉猟・関係する学術論文類の自主的な精読を通じた自習を含め、必要な復習を行なうとともに、おもに復習課題として出される宿題に適切に取り組むことを求める。

事前事後学習に要する時間は、1回の授業に対して概ね4時間を目安に設定しているが、それ以上の時間を要する課題が課される場合もある。

教科書

中俣 均・編『国土空間と地域社会』朝倉書店、2004年

参考書

随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題レポートについては、採点終了後に授業時間内で講評し、フィードバックとする。

成績評価の方法

授業ごとに課す課題レポートを踏まえた平常点(50%)と、期末レポート(50%)によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) SOC511J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	地方自治論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任教授	牛山 久仁彦	

授業の概要・到達目標

日本における地方分権改革の到達点と課題について検証し、地方自治の現状を考察する。

授業内容

- 第1回 研究の進め方についてのイントロダクション
- 第2回 講義で扱う内容についての討論
- 第3回 地方自治についての先行研究の確認①
- 第4回 地方自治についての先行研究の確認②
- 第5回 研究課題の設定
- 第6回 研究課題についての文献講読①
- 第7回 研究課題についての文献講読②
- 第8回 研究課題についての文献講読③
- 第9回 研究課題についての文献講読④
- 第10回 研究課題についての文献講読⑤
- 第11回 研究課題についての文献講読⑥
- 第12回 研究課題についての文献講読⑦
- 第13回 文献講読をふまえた研究課題についての内容確認
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

特になし

準備学習(予習・復習等)の内容

特になし

教科書

受講生と協議の上、決定する。

参考書

開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点にて評価する。

その他

博士後期課程修了要件

- 1 学位論文作成のため、各自の研究主題に応じ、指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。
- 2 研究論文指導ⅠからⅢ（A・B各2単位）、特別演習AからF（各2単位）、合わせて24単位を必修とする。
- 3 共通選択科目の総合地域特殊研究においては、8単位を上限に修得することができる。
- 4 指導教員が研究指導上必要と認めるときは、博士前期課程授業科目を履修させることがある。
- 5 指導教員が必要と認めた場合には、別表1の2に規定する研究科間共通科目を履修することができる。

授業科目及び担当者

共通選択科目

授 業 科 目	単 位		配当 学年	開講期	担 当 者
	講義	演習			
文 化 継 承 学 I A	2		1・2・3年	春学期	牧野淳司*、中村友一、佐々木憲一
文 化 継 承 学 I B	2		1・2・3年	秋学期	牧野淳司*、中村友一、佐々木憲一、権 赫来
文 化 継 承 学 II A	2		1・2・3年	集 中	豊川浩一*、野田 学、福間具子、井上 優、 水野博子、大畑裕嗣
文 化 継 承 学 II B	2		1・2・3年	集 中	豊川浩一*、野田 学、福間具子、伊藤 愉、 水野博子、大畑裕嗣
文 化 継 承 学 III A	2		1・2・3年	半 期	(本年度休講)
文 化 継 承 学 III B	2		1・2・3年	半 期	
総合地域特殊研究ⅠA (東 北 日 本)	2		1・2・3年	半 期	(本年度休講)
総合地域特殊研究ⅠB (南 西 日 本)	2		1・2・3年	半 期	(本年度休講)
総合地域特殊研究ⅡA (慶 北 大 学 校)	2		1・2・3年	半 期	(本年度休講)
総合地域特殊研究ⅡB (高 麗 大 学 校)	2		1・2・3年	集 中	専任教授 博士(文学) 牧 野 淳 司
総合地域特殊研究ⅡC (中 国)	2		1・2・3年	半 期	(本年度休講)

*世話人

日本文学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	担当者
	講義	演習			
必修科目					
研究論文指導ⅠA		2	1年	春学期	専任教授 博士(文学) 小野正弘 専任教授 博士(文学) 山崎健司 専任教授 博士(文学) 杉田昌彦 専任教授 博士(文学) 牧野淳司 専任教授 博士(人文科学) 竹内栄美子 (2025年度特別研究) 専任教授 博士(文学) 生方智子 専任教授 博士(人文科学) 郭南燕 専任准教授 博士(文学) 湯浅幸代 専任准教授 博士(文学) 田口麻奈 専任准教授 博士(文学) 甲斐雄一
研究論文指導ⅠB		2	1年	秋学期	
研究論文指導ⅡA		2	2年	春学期	
研究論文指導ⅡB		2	2年	秋学期	
研究論文指導ⅢA		2	3年	春学期	
研究論文指導ⅢB		2	3年	秋学期	
日本文学特別演習A		2	1・2・3年	集中	
日本文学特別演習B		2	1・2・3年	集中	
日本文学特別演習C		2	1・2・3年	集中	
日本文学特別演習D		2	1・2・3年	集中	
日本文学特別演習E		2	1・2・3年	集中	
日本文学特別演習F		2	1・2・3年	集中	

英文学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	担当者
	講義	演習			
必修科目					
研究論文指導ⅠA		2	1年	春学期	専任教授 Ph.D. 野田学 専任教授 Ph.D. 大山るみこ 専任教授 Ph.D. サトウ, ゲイルK. (2025年度秋学期在外研究) 専任教授 博士(文学) 梶原照子 専任教授 Ph.D. 石井透 専任教授 Ph.D. 竹内理矢彦 専任准教授 久保田俊彦
研究論文指導ⅠB		2	1年	秋学期	
研究論文指導ⅡA		2	2年	春学期	
研究論文指導ⅡB		2	2年	秋学期	
研究論文指導ⅢA		2	3年	春学期	
研究論文指導ⅢB		2	3年	秋学期	
英文学特別演習A		2	1・2・3年	集中	
英文学特別演習B		2	1・2・3年	集中	
英文学特別演習C		2	1・2・3年	集中	
英文学特別演習D		2	1・2・3年	集中	
英文学特別演習E		2	1・2・3年	集中	
英文学特別演習F		2	1・2・3年	集中	

仏文学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	担当者
	講義	演習			
必修科目					
研究論文指導ⅠA		2	1年	春学期	専任教授 文学博士 合田正人 専任教授 文学博士 小島久和 専任教授 学術博士 田母神顯二郎 専任教授 博士(文学) 根本美作子 専任准教授 博士(フランス文学・文明) 谷口亜沙子 奥香織 (2025年度在外研究)
研究論文指導ⅠB		2	1年	秋学期	
研究論文指導ⅡA		2	2年	春学期	
研究論文指導ⅡB		2	2年	秋学期	
研究論文指導ⅢA		2	3年	春学期	
研究論文指導ⅢB		2	3年	秋学期	
仏文学特別演習A		2	1・2・3年	集中	
仏文学特別演習B		2	1・2・3年	集中	
仏文学特別演習C		2	1・2・3年	集中	
仏文学特別演習D		2	1・2・3年	集中	
仏文学特別演習E		2	1・2・3年	集中	
仏文学特別演習F		2	1・2・3年	集中	

独 文 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配 当 学 年	開 講 期	担 当 者
	講 義	演 習			
必修科目					
研 究 論 文 指 導 I A		2	1 年	春 学 期	専任教授 Dr.phil. マンデラルツ,ミハヤエル 専任教授 富 重 与志生 専任教授 博士(文学) 岡 本 和 子 専任教授 博士(文学) 福 間 具 子 専任教授 渡 辺 学 (2025年度秋学期在外研究) 専任教授 新 本 史 斉
研 究 論 文 指 導 I B		2	1 年	秋 学 期	
研 究 論 文 指 導 II A		2	2 年	春 学 期	
研 究 論 文 指 導 II B		2	2 年	秋 学 期	
研 究 論 文 指 導 III A		2	3 年	春 学 期	
研 究 論 文 指 導 III B		2	3 年	秋 学 期	
独 文 学 特 別 演 習 A		2	1・2・3 年	集 中	
独 文 学 特 別 演 習 B		2	1・2・3 年	集 中	
独 文 学 特 別 演 習 C		2	1・2・3 年	集 中	
独 文 学 特 別 演 習 D		2	1・2・3 年	集 中	
独 文 学 特 別 演 習 E		2	1・2・3 年	集 中	
独 文 学 特 別 演 習 F		2	1・2・3 年	集 中	

演 劇 学 専 攻

授 業 科 目	単 位		配 当 学 年	開 講 期	担 当 者
	講 義	演 習			
必修科目					
研 究 論 文 指 導 I A		2	1 年	春 学 期	専任教授 伊 藤 真 紀 (2025年度特別研究) 専任教授 井 上 優 専任教授 博士(文学) 矢 内 賢 二 専任教授 博士(文学) 大 林 のり子 専任准教授 伊 藤 愉
研 究 論 文 指 導 I B		2	1 年	秋 学 期	
研 究 論 文 指 導 II A		2	2 年	春 学 期	
研 究 論 文 指 導 II B		2	2 年	秋 学 期	
研 究 論 文 指 導 III A		2	3 年	春 学 期	
研 究 論 文 指 導 III B		2	3 年	秋 学 期	
演 劇 学 特 別 演 習 A		2	1・2・3 年	集 中	
演 劇 学 特 別 演 習 B		2	1・2・3 年	集 中	
演 劇 学 特 別 演 習 C		2	1・2・3 年	集 中	
演 劇 学 特 別 演 習 D		2	1・2・3 年	集 中	
演 劇 学 特 別 演 習 E		2	1・2・3 年	集 中	
演 劇 学 特 別 演 習 F		2	1・2・3 年	集 中	

史学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	担当者
	講義	演習			
必修科目					
研究論文指導 I A		2	1年	春学期	専任教授 博士(史学) 専任教授 博士(文学) 専任教授 博士(文学) 専任教授 博士(工学) 専任教授 博士(史学) 専任准教授 博士(史学) 専任准教授 博士(史学) 専任教授 博士(史学) 専任教授 博士(文学) 専任教授 博士(文学) 専任教授 博士(文学) 専任教授 Dr.phil. 専任教授 博士(文学) 専任准教授 博士(史学) 専任教授 Ph.D. 専任教授 博士(史学) 専任教授 博士(史学)
研究論文指導 I B		2	1年	秋学期	
研究論文指導 II A		2	2年	春学期	
研究論文指導 II B		2	2年	秋学期	
研究論文指導 III A		2	3年	春学期	
研究論文指導 III B		2	3年	秋学期	
史学特別演習 A		2	1・2・3年	集中	
史学特別演習 B		2	1・2・3年	集中	
史学特別演習 C		2	1・2・3年	集中	
史学特別演習 D		2	1・2・3年	集中	
史学特別演習 E		2	1・2・3年	集中	
史学特別演習 F		2	1・2・3年	集中	

地理学専攻

授業科目	単位		配当 学年	開講期	担当者	
	講義	演習				
必修科目						
研究論文指導 I A		2	1年	春学期	専任教授 博士(理学) 専任教授 理学博士 専任教授 博士(文学) 専任教授 博士(学術) 専任教授 博士(社会学) 専任教授 Ph.D. 専任教授 博士(地理学)	
研究論文指導 I B		2	1年	秋学期		
研究論文指導 II A		2	2年	春学期		
研究論文指導 II B		2	2年	秋学期		
研究論文指導 III A		2	3年	春学期		
研究論文指導 III B		2	3年	秋学期		
地理学特別演習 A		2	1・2・3年	集中		
地理学特別演習 B		2	1・2・3年	集中		
地理学特別演習 C		2	1・2・3年	集中		
地理学特別演習 D		2	1・2・3年	集中		
地理学特別演習 E		2	1・2・3年	集中		
地理学特別演習 F		2	1・2・3年	集中		
選択科目						
地理学特別講義 I A	2		1・2・3年	春学期		専任教授 博士(理学) 川口太郎
地理学特別講義 I B	2		1・2・3年	秋学期	専任教授 博士(学術) 中澤高志	

臨床人間学専攻

授業科目	単位	配当 学年	開講期	担当者	
	講義				演習
必修科目					
研究論文指導ⅠA		2	1年	春学期	専任教授 博士(心理学) 岡 安 孝 弘 専任教授 博士(教育学) 諸 富 祥 彦 専任教授 博士(人間学) 伊 藤 直 樹 専任教授 博士(心理学) 高 瀬 由 嗣 専任教授 博士(コミュニティ福祉学) 加 藤 尚 子 専任准教授 博士(教育学) 佐々木 大 掌 子 専任教授 大 平 山 畑 裕 嗣 専任准教授 内 藤 朝 紀 専任准教授 博士(社会学) 昔 農 英 明 専任教授 青 齋 藤 泰 則 専任教授 博士(図書館情報学) 青 柳 英 治 専任教授 平 川 景 子 専任教授 博士(歴史学) 駒 見 和 夫 専任教授 博士(教育学) 山 下 達 也 専任教授 博士(教育学) 関 根 宏 由 専任准教授 Ph.D. 井 上 朗 佳
研究論文指導ⅠB		2	1年	秋学期	
研究論文指導ⅡA		2	2年	春学期	
研究論文指導ⅡB		2	2年	秋学期	
研究論文指導ⅢA		2	3年	春学期	
研究論文指導ⅢB		2	3年	秋学期	
臨床人間学特別演習A		2	1・2・3年	集中	
臨床人間学特別演習B		2	1・2・3年	集中	
臨床人間学特別演習C		2	1・2・3年	集中	
臨床人間学特別演習D		2	1・2・3年	集中	
臨床人間学特別演習E		2	1・2・3年	集中	
臨床人間学特別演習F		2	1・2・3年	集中	

科目ナンバー：(AL) IND711J			
共通選択科目		備考	
科目名	文化継承学 I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	牧野淳司、中村友一、佐々木憲一		

授業の概要・到達目標

日本・アジア・西洋の古代・中世を中心とした文化継承論の構築

授業内容

日本列島の古代・中世やアジアや西洋の世界にのこされた文化遺産として、(1) 文字資料と文学作品、(2) 図像と美術・建築資料、(3) 出土遺物と遺構、(4) 伝承があげられる。これらは歴史を生きた人々の精神的・文化的営為の所産であり、文学・歴史学・考古学の学問対象となってきた。しかし、学問の細分化、研究成果の膨大化により、全体像が見えにくくなっている。本講座ではそうした反省に立って、歴史文化の総体に多様な角度から迫り、今日の日本が継承すべき文化の基層・原点を明示したい。

授業では、専門を越えた学問的・人間的交流の中で、新たな知見や発想を修得することを目指す。博士後期の院生を対象とする総合講座であるが、博士前期課程の諸君や大学院修了者の出席・発言も期待する。対象とする領域は日本・東アジアに軸を置くが、時代は古代・中世の専攻者だけに限定せず、近世・近現代また西洋の古代や中世を専攻する者の受講も歓迎する。

なお、当講座は大学院GP「複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム」に連動している。

履修上の注意

毎回の授業は、上記教員と院生がいっしょに、それぞれ一人原則90分の持ち時間の中で、研究発表と議論を進める。出席者全員の自由な質疑応答と議論を通じて、領域や専門分野を越えて認識を深める。1週間前に報告要旨(400字程度)を全員に配布し、当日はプレゼンテーションについても重視する。また春学期と秋学期に各1度、他の文化継承学との合同授業日を設定し、異なる領域の報告やモノ(文化財)に接する機会を用意する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

最後にレポート(小論文)を提出し、近接分野の教員が評価する。それを通過したものが『文化継承学論集』に掲載される。また授業時に担当する報告内容や質疑応答におけるプレゼンテーション、関わり方も考慮する。

その他

総合史学研究ⅡA・ⅡBと合同で授業を行う。

科目ナンバー：(AL) IND711J			
共通選択科目		備考	
科目名	文化継承学 I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	牧野淳司、中村友一、佐々木憲一、権 赫来		

授業の概要・到達目標

日本・アジア・西洋の古代・中世を中心とした文化継承論の構築

授業内容

日本列島の古代・中世やアジアや西洋の世界にのこされた文化遺産として、(1) 文字資料と文学作品、(2) 図像と美術・建築資料、(3) 出土遺物と遺構、(4) 伝承があげられる。これらは歴史を生きた人々の精神的・文化的営為の所産であり、文学・歴史学・考古学の学問対象となってきた。しかし、学問の細分化、研究成果の膨大化により、全体像が見えにくくなっている。本講座ではそうした反省に立って、歴史文化の総体に多様な角度から迫り、今日の日本が継承すべき文化の基層・原点を明示したい。

授業では、専門を越えた学問的・人間的交流の中で、新たな知見や発想を修得することを目指す。博士後期の院生を対象とする総合講座であるが、博士前期課程の諸君や大学院修了者の出席・発言も期待する。対象とする領域は日本・東アジアに軸を置くが、時代は古代・中世の専攻者だけに限定せず、近世・近現代また西洋の古代や中世を専攻する者の受講も歓迎する。

なお、当講座は大学院GP「複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム」に連動している。

履修上の注意

毎回の授業は、上記教員と院生がいっしょに、それぞれ一人原則90分の持ち時間の中で、研究発表と議論を進める。出席者全員の自由な質疑応答と議論を通じて、領域や専門分野を越えて認識を深める。1週間前に報告要旨(400字程度)を全員に配布し、当日はプレゼンテーションについても重視する。また春学期と秋学期に各1度、他の文化継承学との合同授業日を設定し、異なる領域の報告やモノ(文化財)に接する機会を用意する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

最後にレポート(小論文)を提出し、近接分野の教員が評価する。それを通過したものが『文化継承学論集』に掲載される。また授業時に担当する報告内容や質疑応答におけるプレゼンテーション、関わり方も考慮する。

その他

総合史学研究ⅡA・ⅡBと合同で授業を行う。

科目ナンバー：(AL) IND711J			
共通選択科目		備考	
科目名	文化継承学ⅡA		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	豊川浩一、野田 学、井上 優、福岡具子、水野博子、大畑裕嗣		

授業の概要・到達目標

超域研究的な授業を通しそれぞれの学際性を高め、将来の研究・教育の貴重な糧とする。

授業内容

歴史学、文学、演劇学、哲学、心理学、社会学など多分野の研究者が集い、専門分野の壁を越えた新たな「知」の可能性を模索するための授業。学際的な環境の中で発表等の作業を行うことで、自分が無意識に依拠してきた既存の文脈（コンテキスト）を徐々に意識化し、そこからの自由度を高めることにより、各人の研究の幅と可能性を広げていくことを目指す。この授業の受講を通し、同じテーマでも、つかみ方や触れ方によってさまざまな方向に発展させられることを学んだり（アフォーダンス）、話の組み立て方や伝え方によって、聴き手の理解度や反応が変化することを学んだり（ナレーション）、主語的世界の論述か述語的世界の語りかによってどのように発見性や創発性が異なるか（モード）といった、これまであまり意識されることのなかった「知」の実践上のノウハウが次第に向上していくようになるだろう。そうした経験は博士論文等の制作に活かされるだけでなく、将来、教える側に回ったとき、極めて貴重な宝となるはずである。

- 第1回 テーマの説明・確認。参加者の分野紹介。その後の発表/報告の分担決め
- 第2回 発表/報告
- 第3回 発表/報告
- 第4回 発表/報告
- 第5回 発表/報告
- 第6回 発表/報告
- 第7回 発表/報告

履修上の注意

原則として隔週毎に5・6時限通しの授業を行う（授業の日程や発表の順番等は第一回目の授業で決定される）。毎回複数の教員と院生が参加する。発表者は、他分野の参加者にも理解してもらえよう工夫し、資料・要旨などもあらかじめ配布する。「知」を愛する者同士の積極的な議論や交流を通じ、創発的な場が生まれることを期待する。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分が発表担当の回では、準備を怠らないこと。それ以外の回では、発表をよく理解するため発表資料などをあらかじめ読むことはもちろん、最低限の基礎知識は身につけて授業に参加するようにすること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時の発表や質疑応答の関わり方、プレゼンテーションを参考に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) IND711J			
共通選択科目		備考	
科目名	文化継承学ⅡB		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	豊川浩一、野田 学、伊藤 愉、福岡具子、水野博子、大畑裕嗣		

授業の概要・到達目標

超域研究的な授業を通しそれぞれの学際性を高め、将来の研究・教育の貴重な糧とする。

授業内容

歴史学、文学、演劇学、哲学、心理学、社会学など多分野の研究者が集い、専門分野の壁を越えた新たな「知」の可能性を模索するための授業。学際的な環境の中で発表等の作業を行うことで、自分が無意識に依拠してきた既存の文脈（コンテキスト）を徐々に意識化し、そこからの自由度を高めることにより、各人の研究の幅と可能性を広げていくことを目指す。この授業の受講を通し、同じテーマでも、つかみ方や触れ方によってさまざまな方向に発展させられることを学んだり（アフォーダンス）、話の組み立て方や伝え方によって、聴き手の理解度や反応が変化することを学んだり（ナレーション）、主語的世界の論述か述語的世界の語りかによってどのように発見性や創発性が異なるか（モード）といった、これまであまり意識されることのなかった「知」の実践上のノウハウが次第に向上していくようになるだろう。そうした経験は博士論文等の制作に活かされるだけでなく、将来、教える側に回ったとき、極めて貴重な宝となるはずである。

- 第1回 テーマの説明・確認。参加者の分野紹介。その後の発表/報告の分担決め
- 第2回 発表/報告
- 第3回 発表/報告
- 第4回 発表/報告
- 第5回 発表/報告
- 第6回 発表/報告
- 第7回 発表/報告

履修上の注意

原則として隔週毎に5・6時限通しの授業を行う（授業の日程や発表の順番等は第一回目の授業で決定される）。毎回複数の教員と院生が参加する。発表者は、他分野の参加者にも理解してもらえよう工夫し、資料・要旨などもあらかじめ配布する。「知」を愛する者同士の積極的な議論や交流を通じ、創発的な場が生まれることを期待する。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分が発表担当の回では、準備を怠らないこと。それ以外の回では、発表をよく理解するため発表資料などをあらかじめ読むことはもちろん、最低限の基礎知識は身につけて授業に参加するようにすること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時の発表や質疑応答の関わり方、プレゼンテーションを参考に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) IND911N			
共通選択科目	備考		
科目名	総合地域特殊研究ⅡB		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)	牧野 淳司	

授業の概要・到達目標

本科目は、大学院GP〈複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム〉の基幹となす科目である。各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野を備えた「複眼性」と「国際性」を養うことを目標とする。総合地域特殊研究ⅡBでは、隣国である韓国の最新の古代学研究の成果を実地に吸収することを通して学際性と国際性を体得する教育として「高麗大学校プログラム」を実施する。

授業内容

授業は担当教員の他に専任教員が補佐し、高麗大学校他の外部講師を含む共同授業とフィールド調査とから成る。内容の概要は次の通りの予定である。

- ①韓国語集中講座4回。ハングル学習と初級会話（初学者のみ）。
- ②明治大学における講義3回。韓国古代史・韓国文学・日韓比較文学をテーマとする。本学教員のほか外部講師を招聘し、講義と質疑討論をおこなう。授業は公開で行う。
- ③高麗大学校における講義・研究発表5回分。高麗大などの教員による韓国仏教、儒教、伝統文化、パンソリについて公開講義、および明治大学教員と大学院生による研究発表を行う。公開講義・研究発表を基にして明治大院生と高麗大院生との討論を行う。
- ④フィールド調査はソウル市内および周辺の史跡の実地見学・資料調査を行う。

履修上の注意

各自の研究テーマに即して韓国との関わりを考える項目を提出し、事後にはレポートの提出を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

なし

参考書

韓国古代史、古代文学、古典文学、伝統文化等に関する著書・論文を逐次提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績評価は、授業への貢献度（50%）、及びフィールドワークに関する事後レポート（50%）による。

その他

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	小野 正弘	

授業の概要・到達目標

学術論文の執筆。具体的な学術論文を完成させることが、到達目標となる。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表してゆくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える（どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める）。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

特になし。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

国語学の文学・語彙・文法研究

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	山崎 健司	

授業の概要・到達目標

学術論文の執筆。
質の高い論文を書き上げることが到達目標。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表していくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって単位を与える(どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める)。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

論文の公表ないし研究発表に際しては、事前に担当教員から指導を受けること。

準備学習(予習・復習等)の内容

研究対象となる作品はもとより、その周辺の作品に対する目配りも怠らないこと。
作品に対しては、特に一語一語のもつニュアンスをとらえるように努めること。
先行研究をじゅうぶんに踏まえ、自分の立場を見定めること。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表された成果を評価する。

その他

指導テーマ

日本古代文学(萬葉集の諸問題[歌人論、作品論、編纂論、本文研究、註釈史など]、懐風藻・記紀・風土記の諸問題、いわゆる国風暗黒時代の文学、古今集時代、歌物語・日記、ジャンル意識の発生など)

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	杉田 昌彦	

授業の概要・到達目標

研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績を評価し、特別演習A～Fの12単位を付与する。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表してゆくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える(どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める)。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

特別演習A～Fのそれぞれに対応する論文ならびに研究発表について、万全の準備・調査をし、執筆および発表に臨むこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本近世文学

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	牧野 淳司	

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表してゆくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える(どのような業績に、どのような単位を与えるかは、別に内規を定める)。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本中世文学(軍記・和歌・説話・仏教文学・歴史物語など)

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(人文科学)	竹内 栄美子	

授業の概要・到達目標

博士論文の作成に向けての助言などを行うので、提出できるように努力する。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文執筆ならびに研究発表をおこなってゆく。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える(どのような業績に、どのような単位を与えるかは、別に内規を定める)。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

研究計画を立て、1年に1～2本の論文が執筆できるようにする。学会での口頭発表も積極的にしてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習および事後学習をおこなうこと。

教科書

使用しない。

参考書

適宜指示する。また各自で収集し、読み、自分の研究に役立てること。

課題に対するフィードバックの方法

解説の時間を設けて論文作成についてのコメントをおこなう。

成績評価の方法

論文や研究発表等の業績による。

その他

指導テーマ

近代日本における文学や思想を中心とした研究。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	生方	智子

授業の概要・到達目標

研究発表や論文を公表するための研究指導を行うことが授業の概要である。特別演習A～Fの12単位を全て習得し、博士学位請求論文を執筆する資格を得ることを到達目標とする。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表してゆくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える(どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める)。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

公表された各業績について、それぞれ、審査の上で単位を与えていく。該当する業績がない場合には単位は認められない。研究計画を立てた上で履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1) 文学テキストを詳細に分析するための読解技術、(2) 文化状況を明らかにするための調査能力、(3) 批評性を備えた問題設定を立てる力を身に着けることを目標に、自分のテーマに即して学習を進めて研究成果に反映させていくこと。また、研究内容のみならず、プレゼンテーションの実践力と論文を書く力について指導を受けた際には、復習によって着実に能力を高めていくことを求める。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

個別指導を行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

文学作品に描かれている視覚性・身体性(ジェンダー・セクシュアリティを含む)を分析し、文学を通して歴史的に形成される人間の生の経験を検証する。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻	備考		
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(人文科学)	郭	南燕

授業の概要・到達目標

研究発表や論文を公表するための研究指導を行うことが授業の概要である。特別演習A～Fの12単位を全て習得し、博士学位請求論文を執筆する資格を得ることを到達目標とする。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文執筆ならびに研究発表をおこなってゆく。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える(どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める)。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

公表された各業績について、それぞれ、審査の上で単位を与えていく。該当する業績がない場合には単位は認められない。研究計画を立てた上で履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習および事後学習をおこなうこと。(1) 文学テキストを詳細に分析する読解技術、(2) 文学テキストの社会的文化的背景を調査する能力、(3) 先行研究を把握し、新しい研究意義を示す問題設定を立てる力を身に着けることを目標にすること。また、プレゼンテーションの実践力と論文を書く力について指導を受ける。

教科書

使用しない。

参考書

適宜指示する。また各自で収集し、読み、自分の研究に役立てること。

課題に対するフィードバックの方法

解説の時間を設けて論文作成についてのコメントをおこなう。

成績評価の方法

論文や研究発表等の業績による。

その他

指導テーマ

日本近代文学におけるキリスト教、外国人の目に映る日本文化の諸様相を中心とする研究

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(文学) 湯浅 幸代		

授業の概要・到達目標

学術論文の執筆。外部査読を通過する質の高い論文を書き上げる。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表してゆくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える(どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める)。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

自分のテーマに沿った先行研究をおさえる。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本古代後期文学を中心とする。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(文学) 田口 麻奈		

授業の概要・到達目標

博論の執筆に向けて指導をおこなう。

授業内容

博論の執筆に向けて指導をおこなう。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者は博論の提出に向けて論文執筆や口頭発表をおこなう。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

公開された研究成果を評価する。

その他

科目ナンバー：(AL) IND712J			
日本文学専攻		備考	
科目名	日本文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(文学) 甲斐 雄一		

授業の概要・到達目標

博士論文作成を計画しながら、その各章となるべき学術論文の執筆を目標とする。

授業内容

本演習では、博士学位請求論文作成を最終目標として、論文ならびに研究発表を、段階的に発表してゆくことを修得する。具体的には、研究指導の結果公表された、論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える(どのような業績に、どういった単位を与えるかは、別に内規を定める)。最終的に、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

担当教員の指導を受けて学会発表・論文執筆に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

先行研究に比してどのような新たな知見を提示できているか、論文の主張が漢文資料の確かな読解に裏付けられているか、論理構成に飛躍がないか追究すること。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

中国古典文学(文言文、宋代以前を中心とする)、日本漢文学、文言文を媒介とした比較文学

科目ナンバー：(AL) IND712J			
英文学専攻		備考	
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	野田 学	

授業の概要・到達目標

概要:学位論文作成に向けた訓練・指導
到達目標:学位論文の執筆に必要な作業を、段階に応じて確認、実行する。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

執筆に向けての構想、準備、そして中間的論文の呈示を行うこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

執筆に向けての構想、そして中間的論文を準備しておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

英国演劇、言語身体論、ならびに演技受容史。その他、初期近代から現代までの英国演劇(演技、演出論、演技身体論)身体受容をめぐる科学史、および18世紀英国経験主義を中心とした言語哲学。

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Ph.D.	大山 るみこ	

授業の概要・到達目標

学位論文作成に向けた訓練・指導

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

Study Skills, 特にリサーチペーパー執筆手順をしっかりと覚えておくこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

マルチモーダルテキスト分析（文字と図・映像の相関性）、社会・文化記号論、文体論。研究対象テキストは、英語文学作品、メディアテキスト、映画、絵画など。

科目ナンバー：(AL) IND712E			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Ph.D.	サトウ, ゲイルK.	

授業の概要・到達目標

学位論文作成に向けた訓練・指導

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

Asian American Literature
Transpacific War Memory (WW II)

科目ナンバー：(AL) IND712J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Ph.D.	竹内 理矢	

授業の概要・到達目標

学位論文作成に向けた訓練・指導

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

アメリカ文学、とくに20世紀アメリカ小説。アメリカ南部文学、モダニズム文学、失われた世代、たとえば、ウィリアム・フォークナー、アーネスト・ヘミングウェイ、F.スコット・フィッツジェラルドなど。文学それ自体を研究対象とし、読むこと、論じることの意義を問いながら、歴史的・文化的な文脈のなかで、人間存在と世界のありようをとらえていく。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Ph.D.	石井 透	

授業の概要・到達目標

学位論文作成に向けた訓練・指導を目的とする。
本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 研究課題の設定
- 第3回 研究計画概要作成
- 第4回 先行研究等の検討
- 第5回 文献リストの作成
- 第6回 理論言語学の最新動向検討(1)
- 第7回 理論言語学の最新動向検討(2)
- 第8回 比較統語論の最新動向検討(1)
- 第9回 比較統語論の最新動向検討(2)
- 第10回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた報告
- 第11回 学会発表や紀要論文への成果の発表を踏まえた検討
- 第12回 博士論文要旨・章立て等検討
- 第13回 今後に向けて研究計画の検証
- 第14回 まとめと総括

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

研究発表、研究論文はコンスタントに発表する努力をして下さい。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

統語理論・比較統語論

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	梶原	照子

授業の概要・到達目標

学位論文作成に向けた訓練・指導

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

なぜ作家は文学作品を書くのか。そして、私達読者にとって文学作品を読むことにはどのような意味があるのか。そもそも、文学とは何か。日常生活のなかでのメモ書きや報告文と文学テキストの違いはどこにあるのか。このような根本的な問題を問いながら、テキストを精読することに重点を置く。専門領域はアメリカ文学、とくにアメリカ詩。主にアメリカン・ルネサンスからモダニズムを射程に捉え、文学ジャンルの成立（詩/散文、叙事詩/抒情詩、近代/現代小説）から、政治と詩学が融合する文学について研究する。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
英文学専攻	備考		
科目名	英文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授	久保田	俊彦

授業の概要・到達目標

学位論文作成に向けた訓練・指導

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

計量的な言語研究

科目ナンバー：(AL) IND712J			
仏文学専攻		備考	
科目名	仏文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 合田 正人		

授業の概要・到達目標

研究者・教育者として独り立ちするために必要な知識、語学力、読解力、論文執筆能力、説明能力などを身につけることをめざす。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

一人前の研究者にふさわしい高密度な研究態勢を日々維持すること。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

みずから可能な限り詳細な文献調査をおこなうこと。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

西洋思想史・近代ユダヤ思想

科目ナンバー：(AL) IND712J			
仏文学専攻		備考	
科目名	仏文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 小島 久和		

授業の概要・到達目標

本演習では、学位論文作成の各ステップを明確にし、論文を章建ての内的関連に従って、少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。

授業内容

本演習では、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

参考文献の一覧表をできる限り早く作成し、論文作成に必要な文献を丁寧に読むこと。
先行研究は自説の独自性を明らかにするために使うこと。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表の内容を客観的に評価する。

その他

指導テーマ

フランス・ルネサンス文学
ルネサンス期の新プラトン主義思想

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
仏文学専攻	備考		
科目名	仏文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 文学博士 田母神 顯二郎		

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

フランス近現代詩

科目ナンバー：(AL) IND712F			
仏文学専攻	備考		
科目名	仏文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 学術博士 根本 美作子		

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

旅行文学を読みながら、個人を考える。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
仏文学専攻	備考		
科目名	仏文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学) 谷口 亜沙子		

授業の概要・到達目標

本演習では、段階的に学位論文を作成するための研究指導を行う。

授業内容

研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。なるべく早い段階で参考文献の一覧を作成し、丹念に文献を読みこむこと。先行研究は、自説の独自性を明らかにするために使うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

20～21世紀のフランス文学・表象文化に関するもの

科目ナンバー：(AL) IND712J			
仏文学専攻	備考		
科目名	仏文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(フランス文学・文明) 奥 香織		

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業時あるいは個別にフィードバック(コメント)を行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

近代フランス演劇、演劇美学、芸術と社会
18世紀フランス文学・芸術・文化

科目ナンバー：(AL) IND712G			
独文学専攻	備考		
科目名	独文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Dr.phil. マンデラルツ, ミヒヤエル		

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

Offenes Kolloquium zu Forschungsfragen

科目ナンバー：(AL) IND712J			
独文学専攻	備考		
科目名	独文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	富重 与志生	

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

特にカール・フィリップ・モーリッツ、レッシングをはじめとし、ルーモールらの料理文学、ダダイズム以降の芸術・文学を研究。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
独文学専攻	備考		
科目名	独文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	岡本 和子	

授業の概要・到達目標

学位論文作成の指導を行う。
 博士学位請求論文の完成を目標とする。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

問いの立て方、論述の構成、形式等によく注意しながら、多くの二次文献を読むこと。
 自分が書いたものを客観的に何度も読み直すこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

19世紀から20世紀前半にかけてのドイツ文学・芸術理論、ベルリン文学

科目ナンバー：(AL) IND712J			
独文学専攻	備考		
科目名	独文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	福間 具子	

授業の概要・到達目標

学位論文作成の指導を行う。最終的には博士学位請求論文執筆が出来るようにする。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

現代ドイツ語詩、言語哲学、ユダヤ文化

科目ナンバー：(AL) IND712J			
独文学専攻	備考		
科目名	独文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	渡辺 学	

授業の概要・到達目標

学位論文作成の指導を行う。
博士学位請求論文の完成を目標とする。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

問いの立て方、論述の構成、形式等によく注意しながら、多くの二次文献を読むこと。
自分が書いたものを客観的に何度も読み直し書き直すこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

教育用ポータルサイト上で必要に応じて参考文献を挙げ、課題を出し、講評を行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日独言語文化研究、メディア言語学・社会言語学を中心とするドイツ語学、慣用句・ことわざの日独対照研究、異文化コミュニケーション、文体論・スタイル論。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
独文学専攻	備考		
科目名	独文学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	新本 史斉	

授業の概要・到達目標

学位論文作成の指導を行う。
博士学位請求論文の完成を目標とする。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

入念に準備をして口頭発表にのぞみ、発表後はその成果を十分に執筆論文に反映させること。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

20世紀スイス文学、ヨーロッパ越境文学、翻訳論

科目ナンバー：(AL) ART732J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	伊藤 真紀	

授業の概要・到達目標

各自の研究テーマについて、さらに調査、研究をすすめることが出来るように配慮しつつ進行したい。履修者は共通の検討課題を含めて報告・発表を行うものとする。本演習における発表のための準備を通して、各自の課題を再検討するとともに、聞き手に効率よくポイントを示すことが出来るよう、研究発表のスキルについても学ぶ。

学位論文作成に向けて、それぞれのテーマや、進捗状況に即した形で、論文を書き進めていく過程を具体的に学ぶことになるが、論文の章立てのみならず、図版、写真等により、その実証性を高め、説得力のあるものにする方法もそこには含まれる。研究指導の結果、論文の公表、研究発表の業績により、単位を付与する。その積み重ねにより、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与えるものとする。

授業内容

演劇学特別演習においては、学位論文作成に向けて、それぞれのテーマや、進捗状況に即した形で、論文を書き進めていく過程を具体的に学ぶことになる。論文の章立てのみならず、図版、写真等により、その実証性を高め、説得力のあるものにする方法もそこには含まれる。研究指導の結果、論文の公表、研究発表の業績により、単位を付与する。その積み重ねにより、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与えるものとする。

履修上の注意

論文執筆には多くの時間をさくべきであるが、口頭発表についても、学会や特別講義等の機会を積極的に利用しながら、より明解に問題意識を伝えることができるよう努力して欲しい。

準備学習（予習・復習等）の内容

履修者は、それぞれの課題に取り組むことになるが、自分の決めたテーマだけに固執せず、常に視野を広くもつことが重要である。自分の得意分野以外の領域については、分からない語句があれば、各専門分野の辞書にあたるなどして、調べること。

学会やシンポジウム等に参加した折には、最新の研究の情報等を自分なりに整理しておくこと。

教科書

特に指定しない。授業時間内にプリントを配布する。

参考書

個人の研究テーマに合わせて、その都度紹介していく。

課題に対するフィードバックの方法

成果発表について、講義をつうじて、改善のヒント等をコメントする。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

演劇学は、他領域と重なる部分が多い。常に広い視野をもって考察することを心がけてほしい。

指導テーマ

日本の近代演劇を中心に考察する。

科目ナンバー：(AL) ART732J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	井上 優	

授業の概要・到達目標

授業内容

演劇学特別演習においては、学位論文作成に向けて、その過程をそれぞれのテーマや、進捗状況に即した形で、論文を書き進めていく過程を具体的に学ぶことになる。論文の文章のみならず、図版、写真類により、その実証性を高め、説得力を高めていく方法等もそこには含まれる。研究指導の結果、論文の公表、研究発表の業績により、単位を付与する。その積み重ねにより、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与えるものとする。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

西洋演劇史 演劇理論

科目ナンバー：(AL) ART732J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	矢内 賢二	

授業の概要・到達目標

学位論文の完成に向けて、各自の問題意識や執筆の進度に即し、テーマと仮説の設定、論旨の構成、資料の扱い方、実証・論証の方法、表記・書式、口頭発表の要領等について具体的な指導を行う。

的確明瞭で論理的な記述・表現による論文や発表を通じて、学術的意義のある議論や主張を提示できる能力を身に付けることを目標とする。

授業内容

演劇学特別演習においては、学位論文作成に向けて、その過程をそれぞれのテーマや、進捗状況に即した形で、論文を書き進めていく過程を具体的に学ぶことになる。論文の文章のみならず、図版、写真類により、その実証性を高め、説得力を高めていく方法等もそこには含まれる。研究指導の結果、論文の公表、研究発表の業績により、単位を付与する。その積み重ねにより、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与えるものとする。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

随時進捗状況の報告を求め、効果的なプレゼンテーションの方法に留意しつつ、資料調査と論文執筆を継続的に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告・発表50%、論文執筆50%。

その他

指導テーマ

近世・近代の日本演劇

科目ナンバー：(AL) ART732J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	大林 のり子	

授業の概要・到達目標

演劇学特別演習においては、学位論文作成に向けて、その過程をそれぞれのテーマや、進捗状況に即した形で、論文を書き進めていく過程を具体的に学ぶことになる。

授業内容

文献や資料の扱い方、論文の文章についての指導。論文作成にあたり、その実証性を高め、説得力を高めていく方法等も習得していく。

論文の文章のみならず、図版、写真類により、その実証性を高め、説得力を高めていく方法等もそこには含まれる。研究指導の結果、論文の公表、研究発表の業績により、単位を付与する。その積み重ねにより、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与えるものとする。

履修上の注意

演習については、基本的には出席者の関心および研究内容に合わせて、必要な資料収集および講読を進めていく。英語のみならずドイツ語の文献にも目を配っていくこともある。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文・研究発表のために必要な資料や文献について、履修者各々が情報収集に務めること。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

ドイツ語圏の演出家マックス・ラインハルトとその周辺の演劇を協働性という視点から再考する。

科目ナンバー：(AL) ART732J			
演劇学専攻	備考		
科目名	演劇学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 伊藤 愉		

授業の概要・到達目標

学位論文の完成に向けて、各自の問題意識や執筆の進度に即し、テーマと仮説の設定、論旨の構成、資料の扱い方、実証・論証の方法、表記・書式、口頭発表の要領等について具体的な指導を行う。

的確明瞭で論理的な記述・表現による論文や発表を通じて、学術的意義のある議論や主張を提示できる能力を身に付けることを目標とする。

授業内容

演劇学特別演習においては、学位論文作成に向けて、その過程をそれぞれのテーマや、進捗状況に即した形で、論文を書き進めていく過程を具体的に学ぶことになる。論文の文章のみならず、図版、写真類により、その実証性を高め、説得力を高めていく方法等もそこには含まれる。研究指導の結果、論文の公表、研究発表の業績により、単位を付与する。その積み重ねにより、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与えるものとする。

履修上の注意

博士学位請求論文の完成形を念頭に置いて、その構成要素を各論文で立証していくように心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

随時進捗状況の報告を求めらるので、効果的なプレゼンテーションの方法に留意しつつ、資料調査と論文執筆を継続的に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

近現代ロシア演劇

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(史学) 山田 朗		

授業の概要・到達目標

世界史的な視野から日本現代史、とりわけ1920年代から1970年代までの政治・軍事・天皇制・植民地・戦争責任などの諸問題を検討する。

学術論文・研究発表の完成を到達目標とする。

授業内容

研究指導の方法

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

受講者は公表する学術論文・研究発表に関して必ず事前に報告すること。研究発表の場合、事後にもどのような質疑応答が行われたのかを報告すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

参加者は、必ず事前に論点を整理し、レジュメに基づき説明すること。

教科書

教科書は、必要に応じて個別に指定する。

参考書

参考書は、必要に応じて個別に指定する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meijiのレポート機能を使って提出したレポート等は添削・採点の上、Oh-ol Meijiで返却する。

成績評価の方法

成績は、公表された学術論文の掲載誌のグレード、研究発表をおこなった学会・研究会の規模・グレードによって点数化して評価する。

その他

指導テーマ

日本現代の政治史、天皇制研究、歴史教育論

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	落合 弘樹	

授業の概要・到達目標

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。

授業内容

研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

学位論文作成を前提としているので、最先端の研究史を把握し、積極的に学術誌に投稿するよう心掛けること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告は入念な準備のうえ行うこと。報告担当者以外も討論にすすんで加わること。

教科書

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本近代史(幕末維新)

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	高橋 一樹	

授業の概要・到達目標

授業内容

研究指導の方法

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位すべてを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本中世史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(工学)	松山 恵	

授業の概要・到達目標

授業内容

研究指導の方法

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本近代都市史・文化史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(史学)	野尻 泰弘	

授業の概要・到達目標

博士論文の執筆を目標とする。
到達目標は、博士論文を構成するような論文・史料紹介などを学術雑誌等で公表すること、あるいはその準備をすることである。

授業内容

研究指導の方法 本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

研究史や研究動向に注意しつつ、自分の研究を進めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本近世史 村落史 地域史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(史学) 中村 友一		

授業の概要・到達目標

授業内容

研究指導の方法

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本古代史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(史学) 清水 有子		

授業の概要・到達目標

16～17世紀にかけての日本史上の政治および外交問題を扱う。

授業内容

研究指導の方法 本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

受講者は研究の公表（論文の投稿，学会等での発表）に際して、事前に必ず報告すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前にレジюмеを作成し、議論に備えること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

近世日本対外交渉史，織豊期政治史，キリシタン史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	高田 幸男	

授業の概要・到達目標

授業の概要

博士論文のテーマ設定、論証のプロセスなどについて助言と指導をおこない、履修者の研究テーマに合わせた史料を講読する。また、履修者には年数回の研究発表を課し、博士論文作成の進捗状況を検証する。

到達目標

博士論文の完成。

授業内容

この特別演習は博士後期課程に在籍するものが、計画に従い段階を踏んで博士論文を完成させることを支援する目的で開講する。

具体的には以下の段取りで進められる。

1. 在籍者は初年度中に、指導教員と密接な関係を取り博士論文の正式題目と全体構成(章立てとその概要)を固め、指導教員に提出する。
2. その構成と計画にもとづいて、研究発表および論文発表に努める。成果の結果は毎期末に文書の形で指導教員に報告し、了承と助言を得る。
3. 毎年夏の定例専修大学院合宿において、研究の全体構想と具体的な進展状況を報告する。
4. 特別演習の単位は、海外留学および現地フィールドワーク・語学実習、海外学会報告にも適用する。
5. 博士論文の提出は、特別演習12単位の取得の上に、専修が規定する「博士学位請求論文(課程博士)受付に関する内規」の条件を満たすものとする。
6. 博士論文の提出にあたっては、上記内規の「付記」にしたがい、前年度末にほぼ固まった博士論文の構成と各章の概要を提出し、専修教員全員の面談審査を通過しなければならない。
 - (1)中国近現代史研究とは
 - (2)研究課題の設定
 - (3)研究計画概要の作成
 - (4)中国近現代史研究の諸潮流の検討
 - (5)文献リストの作成
 - (6)中国近代教育史研究の動向検討
 - (7)中国地域社会史研究の動向検討
 - (8)史料状況と収集利用方法の検討
 - (9)オーラルヒストリーなどの検討
 - (10)学会発表・雑誌論文の予備報告
 - (11)学会発表・雑誌論文の結果再検討
 - (12)博士論文要旨・章立て等の検討
 - (13)研究課題の検討と今後の研究計画の作成
 - (14)総括

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、発表・論文に使用する史料を熟読し、考察を加えたレジュメとともに配付する。

教科書

なし

参考書

『シリーズ20世紀中国史』全4巻、飯島涉ほか編、東京大学出版会。研究方法については、『21世紀の中国近現代史研究を求めて』、飯島・田中比呂志編、研文出版。史料については、『新史料からみる中国現代史』、高田幸男・大澤肇編、東方書店。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

中国近現代史—とくに近代教育と地域社会・政治の変容

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	江川 ひかり	

授業の概要・到達目標

博士論文のテーマ設定、論証のプロセスなどについて助言と指導をおこない、履修者の研究テーマに合わせた史料を講読する。また、履修者には年数回の研究発表を課し、博士論文作成の進捗状況を検証する。

授業内容

この特別演習は博士後期課程に在籍するものが、計画に従い段階を踏んで博士論文を完成させることを支援する目的で開講する。

具体的には以下の段取りで進められる。

1. 在籍者は初年度中に、指導教員と密接な関係を取り博士論文の正式題目と全体構成(章立てとその概要)を固め、指導教員に提出する。
2. その構成と計画にもとづいて、研究発表および論文発表に努める。成果の結果は毎期末に文書の形で指導教員に報告し、了承と助言を得る。
3. 毎年夏の定例専修大学院合宿において、研究の全体構想と具体的な進展状況を報告する。
4. 特別演習の単位は、海外留学および現地フィールドワーク・語学実習、海外学会報告にも適用する。
5. 博士論文の提出は、特別演習12単位の取得の上に、専修が規定する「博士学位請求論文(課程博士)受付に関する内規」の条件を満たすものとする。
6. 博士論文の提出にあたっては、上記内規の「付記」にしたがい、前年度末にほぼ固まった博士論文の構成と各章の概要を提出し、専修教員全員の面談審査を通過しなければならない。

履修上の注意

指導教員と常に密接に連絡を取り合うこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

オスマン帝国史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(史学)	高村 武幸	

授業の概要・到達目標

博士論文のテーマ設定、論証のプロセスなどについて助言と指導をおこない、履修者の研究テーマに合わせた史料を講読する。また、履修者には年数回の研究発表を課し、博士論文作成の進捗状況を検証する。

授業内容

この特別演習は博士後期課程に在籍するものが、計画に従い段階を踏んで博士論文を完成させることを支援する目的で開講する。

具体的には以下の段取りで進められる。

1. 在籍者は初年度中に、指導教員と密接な関係を取り博士論文の正式題目と全体構成（章立てとその概要）を固め、指導教員に提出する。
2. その構成と計画にもとづいて、研究発表および論文発表に努める。成果の結果は毎期末に文書の形で指導教員に報告し、了承と助言を得る。
3. 毎年夏の定例専修大学院合宿において、研究の全体構想と具体的な進展状況を報告する。
4. 特別演習の単位は、海外留学および現地フィールドワーク・語学実習、海外学会報告にも適用する。
5. 博士論文の提出は、特別演習12単位の取得の上に、専修が規定する「博士学位請求論文（課程博士）受付に関する内規」の条件を満たすものとする。
6. 博士論文の提出にあたっては、上記内規の「付記」にしたがい、前年度末にほぼ固まった博士論文の構成と各章の概要を提出し、専修教員全員の面談審査を通過しなければならない。

履修上の注意

指導教員と常に密接に連絡をとり合うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

中国古代史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	櫻井 智美	

授業の概要・到達目標

博士論文のテーマ設定、論証のプロセスなどについて助言と指導をおこない、履修者の研究テーマに合わせた史料を講読する。また、履修者には年数回の研究発表を課し、博士論文作成の進捗状況を検証する。

授業内容

この特別演習は博士後期課程に在籍するものが、計画に従い段階を踏んで博士論文を完成させることを支援する目的で開講する。

具体的には以下の段取りで進められる。

1. 在籍者は初年度中に、指導教員と密接な関係を取り博士論文の正式題目と全体構成（章立てとその概要）を固め、指導教員に提出する。
2. その構成と計画にもとづいて、研究発表および論文発表に努める。成果の結果は毎期末に文書の形で指導教員に報告し、了承と助言を得る。
3. 毎年夏の定例専修大学院合宿において、研究の全体構想と具体的な進展状況を報告する。
4. 特別演習の単位は、海外留学および現地フィールドワーク・語学実習、海外学会報告にも適用する。
5. 博士論文の提出は、特別演習12単位の取得の上に、専修が規定する「博士学位請求論文（課程博士）受付に関する内規」の条件を満たすものとする。
6. 博士論文の提出にあたっては、上記内規の「付記」にしたがい、前年度末にほぼ固まった博士論文の構成と各章の概要を提出し、専修教員全員の面談審査を通過しなければならない。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

モンゴル帝国史、宋元時代史、中国近世史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	豊川 浩一	

授業の概要・到達目標

授業内容

学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

ロシア近代史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Dr.phil.	水野 博子	

授業の概要・到達目標

博士論文のテーマ設定、史料収集、構成などについて助言と指導を行う。履修者のテーマを考慮して、文献の講読や口頭発表を行う。最終的な到達目標は博士論文の完成であり、それに向けた準備支援を行う。

授業内容

学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後の精査を怠らないこと。

教科書

なし。

参考書

オットー・バウアー『オーストリア革命』早稲田大学出版部、1989年；
水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界——近現代史の時空から』山川出版社、2023年ほか。

課題に対するフィードバックの方法

日々のディスカッションとコメント返却を通して行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する（論文執筆50％、口頭発表50％）。

その他

指導テーマ

ヨーロッパ近現代史（特にドイツ語圏）。国民、マイノリティ、差異の社会史などについて理論的考察も行う。

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	青谷	秀紀

授業の概要・到達目標

授業内容

学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

西洋中世史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授	古山	夕城

授業の概要・到達目標

西洋古代史の論文作成に必要な高度な専門知識と研究視角を獲得し、当該分野の専門家として幅広くそして掘り下げた研究が可能となるレベルに到達することが目標である。

授業内容

学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

ギリシア古代史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(史学)	阿部 芳郎	

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、考古学専修における業績の単位化基準については、別途定める。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本考古学 縄文時代 生業活動 居住形態 遺跡形成論 実験考古学

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻	備考		
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Ph.D.	佐々木 憲一	

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、考古学専修における業績の単位化基準については、別途定める。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

国家形成期の理論考古学

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(史学)	藤山 龍造	

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

先史考古学

科目ナンバー：(AL) IND712J			
史学専攻		備考	
科目名	史学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(史学)	若狭 徹	

授業の概要・到達目標

博士学位論文執筆のために必要な指導を行う。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献の解題等を行う。

教科書

特に設定しない

参考書

その都度指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習の成果による。

その他

指導テーマ

古墳時代およびそれに並行する時代の日本列島並びに周辺地域の考古学的研究

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻	備考		
科目名	地理学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(理学)	川口 太郎	

授業の概要・到達目標

地理学専攻博士後期課程における研究活動を、具体的な学位請求論文執筆に結実させることを目的とし、その進捗状況を段階的に可視化していく。

授業内容

履修者は、年度初めに当該年度に達成可能と思われる研究業績ポイントに相当する単位数の本演習を履修登録する。その際、以下に示す「業績ポイント」の数値が原則として取得単位数に相当する。例えば、査読付き学会誌（『地理学評論』、『人文地理』、『地学雑誌』、『雪氷』など）に論説が受理されれば「4ポイント」が認定される。地理学における課程博士の学位論文は「査読付論文を含む3編分の内容」とされるが、本演習の総計12単位（業績ポイントで12ポイント）はそれに相当する。推奨するポイント取得計画は、1～3年次：学会口頭発表4回（4ポイント）、2～3年次：学内誌等の学術雑誌に2編（4ポイント）、2～3年次：学外の主要学会誌に1編（4ポイント）というものである。この場合、3年次に学位請求論文執筆が可能となる。

- (本専攻における業績ポイントの基準)
- ・業績は全て単独または筆頭著者（筆頭報告者）であることを条件とする。
 - ・学会等により学術誌の掲載内容には複数の種別がある。以下の「論文」とは、論説・総説・短報・原著論文などのまとまった内容を指す。資料・討論などの業績については、担当全教員の合議により個別に査定する。
 - ・口頭発表に関しては、その内容が学会等の発表機関がオンライン化するプロシーディングス（予稿集）・アブストラクト（要旨集）等の刊行物に掲載されることが要件である。私的な「研究会・懇談会」等での発表や、学会の研究グループ集会等での発表は業績ポイントに認定されない。貴重な研究成果は、まず正式の学術大会で発表することを心がけ、私的な集会で不用意に報告することは避けること。
 - a) 『地理学評論』（日本地理学会）を標準とする査読付き学会誌等の論文：4ポイント
 - b) 『明治大学大学院文学研究論集』を標準とする査読付き学内誌等の論文：2ポイント
 - c) 『明治大学大学院地理学研究報告』を標準とする査読無しの学内誌等の論文：1ポイント
 - d) 公的な査読制度の無い専門的刊行物（単行本、商業誌、報告書など）の報文：1ポイント
 - e) 日本地理学会を標準とする学会の大会・例会等における研究の口頭発表：1ポイント

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

履修者は随時論文の執筆状況を指導教員に報告、相談することが求められる。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果の発表で評価する。

その他

業績が評価対象となるか否かは、学界の慣例により判断するので、投稿・発表の前に担当者に打診すること。

指導テーマ

都市・社会地理学

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻	備考		
科目名	地理学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 理学博士	梅本 亨	

授業の概要・到達目標

博士後期課程における研究成果を、世界標準レベル以上の博士論文にまとめ上げることを目的とする。自然地理学における標準レベルとは、いわゆるアースサイエンス諸分野に共通する方法論である、地球(上)に展開・生起する諸々の地学的自然現象を数値的に可視化し、その時空間分布に独特のパターンを認識・記載し、その規則性を見出すという研究プロセスを完遂することに成功することである。したがって報告の主な言語は、自然科学の共通語である英語となるので、これについても指導を行う。

授業内容

博士論文の研究テーマに沿った個別の内容となる。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

博士論文たるにふさわしい内容の公表された業績（学会での口頭発表と論文）が必要である。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

博士論文の審査に準ずるものとする。

その他

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(文学)	大城 直樹	

授業の概要・到達目標

地理学専攻博士後期課程における研究活動を自覚的かつ可視化させるための演習である。

その研究活動を具体的な学位請求論執筆に結実させることを目標とする。

授業内容

履修者は、年度初めに当該年度に達成可能と思われる研究業績ポイントに相当する単位数の本演習を履修登録する。その際、以下に示す「業績ポイント」の数値が原則として取得単位数に相当する。例えば、「査読付き学会誌（『地理学評論』、『経済地理学年報』、『地形』、『雪氷』）などに論説が受理されれば、「4ポイント」が認定される。地理学における課程博士の学位論文は、伝統的に「査読付き論文3編分の内容」とされてきたが、本演習の総計12単位（業績ポイント12ポイント）はそれに相当するものである。

担当者の推奨するポイント取得計画は、1～3年次：学会口頭発表4回（4ポイント）、2～3年次：学内誌等の学術誌に2編（4ポイント）、3年次：学外の主要学会誌に1編（4ポイント）というものである。この場合、3年次に学位請求論文執筆が可能となる。

（本専攻における業績ポイントの基準）

- ・業績はすべて単独または筆頭著者（筆頭報告者）であることを条件とする。
- ・学会等により学術誌の掲載内容には複数の種別がある。以下の「論文」とは、論説・原著論文などのまとまった内容を指す。論説・短報・資料・討論などの業績については、担当全教員の合議により個別に査定する。
- ・口頭発表に関しては、その内容が学会等の発表機関がオンライン化するプロシーディングス（予稿集）・アブストラクト（要旨集）等の刊行物に掲載されていることが必要である。地理学関連学会等による私人的な「研究会・懇談会」等での発表や、学会内の研究グループの「研究会」等での発表は業績ポイントに認定しないので注意すること。貴重な研究成果は、まず正式な学会大会での口頭発表またはポスター発表することを心がけ、私的な集会で不用意に報告すること避けること。
- a) 『地理学評論』（日本地理学会）を標準とする査読付き学会誌等の論文：4ポイント
- b) 『明治大学大学院文学研究論集』を標準とする査読付き学内誌等の論文：2ポイント
- c) 『明治大学大学院地理学研究報告』を標準とする査読なし学内誌等の論文：1ポイント
- d) 公的査読制度のない専門的刊行物（単行本、商業誌、報告書など）の論文：1ポイント
- e) 日本地理学会を標準とする学会の大会・例会等における研究の口頭発表：1ポイント

履修上の注意

発表の際は、パワーポイント使用のこと。
またハンドアウト（レジュメ）を印刷して受講者全員に配布すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

特に使用しない。

参考書

授業時に配布する。

課題に対するフィードバックの方法

担当の発表内容について、その都度講評を行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

業績が評価対象となるか否かは、学界の慣例により判断するので、投稿・発表の前に担当者に打診すること。

指導テーマ

文化地理学、地域表象研究、景観と場所に関する研究

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(学術)	中澤 高志	

授業の概要・到達目標

地理学専攻博士後期課程における研究活動を、具体的な学位請求執筆に結実させることを目的とし、その進捗状況を段階的に可視化するための特別演習である。

担当者の研究は、平たくいえば住まいと仕事の地理学であり、生活様式を経済地理学的に検討することである。生活様式は、必然的に空間構造を伴い、地理的・歴史的固有性を帯びて組織化されている。人々は、生活様式の下で生活様式を変えながら、生きている。そのような生活様式を経済地理学的に検討するとは、いかなることであり、どのようにして可能になるのだろうか。こうした方法論的問いに対して、もとり正解はない。そこで、履修者が自分なりの回答に至る糸口を見いだすことを本演習の目標とし、浩瀚な文献を検討することでその達成を目指す。

授業内容

履修者は、年度初めに当該年度に達成可能と思われる研究業績ポイントに相当する単位数の本演習を履修登録する。その際、以下に示す「業績ポイント」の数値が原則として取得単位数に相当する。例えば、査読付き学会誌（『地理学評論』、『経済地理学年報』、『地形』、『雪氷』）などに論説が受理されれば「4ポイント」が認定される。地理学における課程博士の学位論文は、伝統的に「査読付き論文3編分の内容」とされてきたが、本演習の総計12単位（業績ポイント12ポイント）はそれに相当するものである。

担当者の推奨するポイント取得計画は、1～3年次：学会口頭発表4回（4ポイント）、2～3年次：学内誌等の学術雑誌に2編（4ポイント）、3年次：学外の主要学会誌に1編（4ポイント）というものである。この場合、3年次に学位請求論文執筆が可能となる。

（本専攻における業績ポイントの基準）

- ・業績はすべて単独または筆頭著者（筆頭報告者）であることを条件とする。
 - ・学会等により学術誌の掲載内容には複数の種別がある。以下の「論文」とは、論説・原著論文などのまとまった内容を指す。総説・短報・資料・討論などの業績については、担当全教員の合議により個別に査定する。
 - ・口頭発表に関しては、その内容が学会等の発表機関がオンライン化するプロシーディングス（予稿集）・アブストラクト（要旨集）等の刊行物に掲載されていることが必要である。地理学関連学会等による私人的な「研究会・懇談会」等での発表や、学会内の研究グループの「研究会」等での発表は業績ポイントに認定しないので注意すること。貴重な研究成果は、まず正式の学会大会で口頭発表またはポスター発表することを心がけ、私的な集会で不用意に報告すること避けること。
 - a) 『地理学評論』（日本地理学会）を標準とする査読付き学会誌等の論文：4ポイント
 - b) 『明治大学大学院文学研究論集』を標準とする査読付き学内誌等の論文：2ポイント
 - c) 『明治大学大学院地理学研究報告』を標準とする査読なしの学内誌等の論文：1ポイント
 - d) 公的査読制度のない専門的刊行物（単行本、商業誌、報告書など）の論文：1ポイント
 - e) 日本地理学会を標準とする学会の大会・例会等における研究の口頭発表：1ポイント
- 第1回 履修者の研究テーマの確認
 - 第2回 文献リストの作成とその検討
 - 第3回 邦文文献の講読による方法論的検討(1)
 - 第4回 邦文文献の講読による方法論的検討(2)
 - 第5回 邦文文献の講読による方法論的検討(3)
 - 第6回 邦文文献の講読による方法論的検討(4)
 - 第7回 日本における経済地理学方法論のまとめ
 - 第8回 英文文献の講読による方法論的検討(1)
 - 第9回 英文文献の講読による方法論的検討(2)
 - 第10回 英文文献の講読による方法論的検討(3)
 - 第11回 英文文献の講読による方法論的検討(4)
 - 第12回 英語圏における経済地理学方法論のまとめ
 - 第13回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(1)
 - 第14回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(2)

履修上の注意

文献を読むことを習慣化しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

成果発表に際しては、学会口頭発表を想定した質・量を求めているので、十分な準備と振り返りが必要である。

文献を詳細かつ批判的に検討することが演習の中心であるため、取り扱う文献については、事前に十分に読み込んでおくことが求められる。

教科書

履修者の研究課題を勘案し、それに適した文献を、主として方法論の観点から選択する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

業績が評価対象となるか否かは、学界の慣例により判断するので、投稿・発表の前に担当者に打診すること。

指導テーマ

日本における「労働の地理学」の実証的展開/世代交代に伴う大都市圏の構造変容

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 Ph.D.	山本 大策	

授業の概要・到達目標

地理学専攻博士後期課程における研究活動を、具体的な学位請求論文執筆に結実させることを目的とし、その進捗状況を段階的に可視化していく。

授業内容

履修者は、年度初めに当該年度に達成可能と思われる研究業績ポイントに相当する単位数の本演習を履修登録する。その際、以下に示す「業績ポイント」の数値が原則として取得単位数に相当する。例えば、査読付き学会誌（『地理学評論』、『経済地理学年報』、『地形』、『雪氷』など）に論説が受理されれば「4ポイント」が認定される。地理学における課程博士の学位論文は、伝統的に「査読付き論文3編分の内容」とされてきたが、本演習の総計12単位（業績ポイントで12ポイント）はそれに相当するものである。担当者の推奨するポイント取得計画は、1～3年次:学会口頭発表4回（4ポイント）、2～3年次:学内誌等の学術雑誌に2編（4ポイント）、3年次:学外の主要学会誌に1編（4ポイント）というものである。この場合、3年次に学位請求論文執筆が可能となる。

（本専攻における業績ポイントの基準）

- ・業績は全て単独または筆頭著者（筆頭報告者）であることを条件とする。
- ・学会等により学術誌の掲載内容には複数の種別がある。以下の「論文」とは、論説・原著論文などのまとまった内容を指す。総説・短報・資料・討論などの業績については、担当全教員の合議により個別に査定する。
- ・口頭発表に関しては、その内容が学会等の発表機関がオンライン化するプロシーディングス（予稿集）・アブストラクト（要旨集）等の刊行物に掲載されていることが必要である。地理学関連学会員等の研究者による私的な「研究会・懇談会」等での発表や、学会内の研究グループの「研究会」等での発表は業績ポイントに認定しないので注意すること。貴重な研究成果は、まず正式の学会大会で口頭発表またはポスター発表することを心がけ、私的な集会で不用意に報告することは避けること。

業績ポイント

- a) 『地理学評論』（日本地理学会）を標準とする査読付き学会誌等の論文:4ポイント
- b) 『明治大学大学院文学研究論集』を標準とする査読付き学内誌等の論文:2ポイント
- c) 『明治大学大学院地理学研究報告』を標準とする査読無しの学内誌等の論文:1ポイント
- d) 公的な査読制度の無い専門的刊行物（単行本、商業誌、報告書など）の報文:1ポイント
- e) 日本地理学会を標準とする学会の大会・例会等における研究の口頭発表:1ポイント

履修上の注意

成果発表に際しては、学会口頭発表を想定した質・量を求めているので、十分な準備と振り返りが必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する（100%）。

その他

業績が評価対象となるか否かは、学界の慣例により判断するので、投稿・発表の前に担当者に打診すること。

指導テーマ

経済地理学、生活環境論、地誌学、地理情報システム

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻		備考	
科目名	地理学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(地理学)	中川 秀一	

授業の概要・到達目標

地理学専攻博士後期課程における研究活動を自覚的かつ可視化させるための演習である。その研究活動を具体的な学位請求論文執筆に結実させることを目標とする。

授業内容

履修者は、年度初めに当該年度に達成可能と思われる研究業績ポイントに相当する単位数の本演習を履修登録する。その際、以下に示す「業績ポイント」の数値が原則として取得単位数に相当する。例えば、査読付き学会誌（『地理学評論』、『経済地理学年報』、『地形』、『雪氷』など）に論説が受理されれば、「4ポイント」が認定される。地理学における課程博士の学位論文は、伝統的に「査読付き論文3編分の内容」とされてきたが、本演習の総計12単位（業績ポイント12ポイント）はそれに相当するものである。担当者の推奨するポイント取得計画は、1～3年次:学会口頭発表4回（4ポイント）、2～3年次:学内誌等の学術誌に2編（4ポイント）、3年次:学外の主要学会誌に1編（4ポイント）というものである。この場合、3年次に学位請求論文執筆が可能となる。

（本専攻における業績ポイントの基準）

- ・業績はすべて単独または筆頭著者（筆頭報告者）であることを条件とする。
 - ・学会等により学術誌の掲載内容には複数の種別がある。以下の「論文」とは、論説・原著論文などのまとまった内容を指す。論説・短報・資料・討論などの業績については、担当全教員の合議により個別に査定する。
 - ・口頭発表に関しては、その内容が学会等の発表機関がオンライン化するプロシーディングス（予稿集）・アブストラクト（要旨集）等の刊行物に掲載されていることが必要である。地理学関連学会員等の研究者による私的な「研究会・懇談会」等での発表や、学会内の研究グループの「研究会」等での発表は業績ポイントに認定しないので注意すること。貴重な研究成果は、まず正式な学会大会での口頭発表またはポスター発表することを心がけ、私的な集会で不用意に報告すること避けること。
- a) 『地理学評論』（日本地理学会）を標準とする査読付き学会誌等の論文:4ポイント
 - b) 『明治大学大学院文学研究論集』を標準とする査読付き学内誌等の論文:2ポイント
 - c) 『明治大学大学院地理学研究報告』を標準とする査読なし学内誌等の論文:1ポイント
 - d) 公的査読制度のない専門的刊行物（単行本、商業誌、報告書など）の論文:1ポイント
 - e) 日本地理学会を標準とする学会の大会・例会等における研究の口頭発表:1ポイント

履修上の注意

成果発表に際しては、学会口頭発表を想定した質・量を求めている。先行研究を批判的に検討したうえで自身の研究課題を明確化し、そのための分析方法と結果の考察が演習の中心である。

準備学習（予習・復習等）の内容

上記に向けた研究の進捗状況について報告の準備をする。授業後は報告に関するコメントに対する検討と対応を要する。

教科書

特に指定しない。

参考書

随時提示する。

課題に対するフィードバックの方法

報告に対する講評をその都度行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

論文投稿や学会・研究会における研究発表に際しては、担当者に打診すること。

指導テーマ

農山村に関する地理学的研究／農山村における地理的事象

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) GEO792J			
地理学専攻	備考		
科目名	地理学特別講義 I A		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(理学)	川口 太郎	

授業の概要・到達目標

博士後期課程における研究の進捗に役立つ地理学的研究成果を紹介・議論することにより、国内はもとより国際的にも通用する研究者としての自立を促すことを目標とする。本年度は英語で執筆された研究テーマに関連する国際学会誌の論文を渉猟し、科学英語の表現に慣れるとともに、自ら英文論文を執筆する際の礎としてもらう。

授業内容

- (1) イントロダクション
- (2) 先行研究論文調査
- (3) 文献リストの作成・指導。以後、毎回最低1編の論文を紹介し、それに基づいて議論を行う。
- (4) 論文報告1
- (5) 論文報告2
- (6) 論文報告3
- (7) 論文報告4
- (8) 論文報告5
- (9) 論文報告6
- (10) 論文報告7
- (11) 論文報告8
- (12) 論文報告9
- (13) 論文報告10
- (14) 論文報告11

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

専門書、最先端の研究論文を読解し、プレゼンテーションおよびディスカッションをおこなう機会を多く設けるので、毎回の予習が必須である。

教科書

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の報告及び議論の質

その他

科目ナンバー：(AL) GEO791J			
地理学専攻	備考		
科目名	地理学特別講義 I B		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術)	中澤 高志	

授業の概要・到達目標

受講生の博士後期課程における研究の進捗に役立つ地理学的研究成果を紹介・議論する。このことにより、自身の研究の当該分野における意義を自覚し、国内はもとより、国際的にも通用する研究者としての自立を促すことを到達目標とする。

授業内容

- 第1回 履修者の研究テーマの確認
- 第2回 文献リストの作成とその検討
- 第3回 邦文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第4回 邦文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第5回 邦文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第6回 邦文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第7回 日本における文化地理学方法論のまとめ
- 第8回 英文文献の講読による方法論的検討(1)
- 第9回 英文文献の講読による方法論的検討(2)
- 第10回 英文文献の講読による方法論的検討(3)
- 第11回 英文文献の講読による方法論的検討(4)
- 第12回 英語圏における文化地理学方法論のまとめ
- 第13回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(1)
- 第14回 履修者の研究テーマにおける方法論の設定(2)

履修上の注意

専門書、最先端の研究論文を読解し、プレゼンテーションおよびディスカッションをおこなう機会を多く設ける。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の予習が必須である。

教科書

特になし

参考書

授業時にリストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の報告に対する講評。

成績評価の方法

授業での報告・発表 100%

その他

特になし

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(心理学) 岡安 孝弘		

授業の概要・到達目標

本演習は、博士学位論文を関せさせることを目標とし、各自のテーマに関する研究計画、データ分析、論文執筆に関する指導を行う。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み重ねていくことによって、論文執筆のリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

本単位を取得するためには、自らの研究テーマに基づいて実証的な研究を行い、その成果を論文として公表することが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマを設定し、研究を遂行する上で、逐次指導を受け、研究遂行上の倫理的問題やデータ分析上の問題等に関して習熟しておくことが求められる。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

論文として刊行された業績を評価する。

その他

指導テーマ

ストレス性疾患に罹患するリスクを低減し、QOL (Quality of Life) を高めるために有効なストレスマネジメントおよびメンタルヘルス教育の方法を開発し、それを実践するために必要な知識や技法について指導する。そのために、海外の文献を中心に講読し、相互に議論を深めながら、特に学校教育現場において求められているストレスマネジメントのあり方について検討する。

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(教育学) 諸富 祥彦		

授業の概要・到達目標

論文執筆のリテラシーの訓練を行うこと。
学術雑誌に投稿する論文作成の方法を学ぶ。
博士論文作成に必要な能力を訓練する。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み重ねていくことによって、論文執筆のリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

人間性/トランスパーソナル心理学

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(人間学) 伊藤 直樹		

授業の概要・到達目標

この授業では、博士論文の執筆のために必要となる指導を行う。博士論文の執筆につながる研究発表を進めつつ、最終的に、それらをまとめて博士論文の完成を目指す。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した者に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

受講生の研究テーマに応じて、博士論文の構想と計画を立案することから始まり、博士論文を構成する各研究の成果発表を経て、博士論文を執筆するまでの一連の過程を扱う。

履修上の注意

博士論文を完成させることを目指す十分なモチベーションが必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自の研究テーマに関連する先行研究を読み込んでおくことが必要となる。

教科書

指定しない。

参考書

授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表により評価を行う。

その他

特になし。

指導テーマ

思春期・青年期における学校での適応の改善のための研究

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(心理学) 高瀬 由嗣		

授業の概要・到達目標

履修者の最終的な到達目標は、学位論文を完成させることにある。本演習では、そのために必要な手続きを体験的に学ぶことを目的とする。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み重ねていくことによって、論文執筆のリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

- (1) 実証的研究に基づいた投映法心理テストの分析・解釈方略の精緻化
- (2) 対人援助技法としての心理アセスメント法の活用

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(コミュニティ福祉学) 加藤 尚子		

授業の概要・到達目標

本演習は、博士学位論文を完成させることを目標とし、各自のテーマに関する研究計画、データ分析、論文執筆に関する指導を行う。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み重ねていくことによって、論文執筆のリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

コミュニティ心理学/心理コンサルテーション・支援者支援/心的外傷(トラウマ)・アタッチメントに焦点化された心理支援・心理療法/社会的養護・家庭及び施設や里親家庭における養育

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 博士(教育学) 佐々木 掌子		

授業の概要・到達目標

本演習では、博士学位論文執筆のために必要な指導を行う。各自のテーマについて、研究計画、データ分析を行い、投稿論文の執筆を進め、最終的にそれらをまとめて博士論文の完成を目指す。

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み重ねていくことによって、論文執筆のリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。最終的には、特別演習A～Fの12単位全てを修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

本単位を取得するためには、自らの研究テーマに基づいて実証的な研究を行い、その成果を論文として公表することが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

先行研究を調べ続けること、関連書籍を押さえること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

論文として刊行された業績を評価する。

その他

指導テーマ

ジェンダー・セクシュアリティに関する心理学研究

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	大畑 裕嗣	

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した者に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、現代社会学専修における業績の単位化基準については、別途定める。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

市民活動・市民運動

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	平山 満紀	

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した者に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、現代社会学専修における業績の単位化基準については、別途定める。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日本社会のセクシュアリティの形成と現代の変容，コンピュータ時代における身体と身体文化現象，健康と病

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授	内藤 朝雄	

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した者に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、現代社会学専修における業績の単位化基準については、別途定める。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

IPS理論の時間・空間的・学問領域横断的拡大可能性の追求

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授	博士(社会学) 昔農 英明	

授業の概要・到達目標

授業内容

本演習では、学位論文作成過程のステップ化を行い、論文を少しずつ積み上げていくことによって、論文を書くというリテラシーの訓練を行う。つまり、研究指導の結果、公表された論文や研究発表等の業績をもって、単位を与える。原則として、特別演習A～Fの12単位全てを修得した者に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

なお、現代社会学専修における業績の単位化基準については、別途定める。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

日独における移民政策の国際社会学的研究

博士後期課程

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	齋藤 泰則	

授業の概要・到達目標

授業の概要：

博士後期課程に在籍する者に、博士論文の作成について指導する。具体的には、研究テーマに関する指導、研究テーマに関する文献の収集の方法と評価、学会等における研究発表に向けた指導を進める。

受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。

到達目標：

博士論文につながる学会発表と学術論文の執筆を目指す。

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、事前に関係文献を収集し、発表資料を作成し、授業に臨むこと。

授業後は、授業を通じて深められた解釈をふまえて、あらためて関係文献を読み、当該テーマに関する研究の最新動向を把握しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

齋藤泰則。利用者志向のレファレンスサービス。勉誠出版、2009。182p。ISBN 978-4-585-05426-9

齋藤泰則。図書館とレファレンスサービス：論考。樹村房、2017。284p。ISBN: 978-4883672837

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

研究成果の発表をもとに評価する。

その他

指導テーマ

レファレンスサービス論、情報要求論

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	博士(図書館情報学) 青柳 英治	

授業の概要・到達目標

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

図書館経営論、図書館専門職員論、専門図書館論

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	平川 景子	

授業の概要・到達目標

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

社会教育

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授	博士（歴史学）駒見 和夫	

授業の概要・到達目標

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

博物館教育論，博物館展示論，博物館学史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(教育学) 山下 達也		

授業の概要・到達目標

本授業は、博士論文の執筆のために必要な指導を行うものである。内容に関する指導、研究方法・倫理に関する指導、学会等における発表に向けた指導を行う。受講生は各自のテーマの研究を進め、最終的にはそれらをまとめて博士論文の完成を目指す。

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて修得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

指定しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

教育史、比較教育、その他

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任教授 博士(教育学) 関根 宏朗		

授業の概要・到達目標

本授業は、博士論文の執筆のために必要な指導を行うものである。内容に関する指導、研究方法・倫理に関する指導、学会等における発表に向けた指導を行う。受講生は各自のテーマの研究を進め、最終的にはそれらをまとめて博士論文の完成を目指す。

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて取得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

指定しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

指導テーマ

教育人間学、教育思想史

科目ナンバー：(AL) IND712J			
臨床人間学専攻	備考		
科目名	臨床人間学特別演習		
開講期	秋学期集中	単位	演各2
担当者	専任准教授 Ph.D.	井上 由佳	

授業の概要・到達目標

本授業は、博士論文の執筆のために必要な指導を行うものである。内容に関する指導、研究方法・倫理に関する指導、学会等における発表に向けた指導を行う。受講生は各自のテーマの研究を進め、最終的にはそれらをまとめて博士論文の完成を目指す。

授業内容

この演習は博士後期課程に在籍する者が、各自の研究計画に従い、段階を踏んで計画的に博士学位請求論文を完成させることを支援することを目的としている。受講者は、学位論文の構想について適宜報告するとともに、その一環としての論文および学会等における研究発表について指導を受けるとともに、それらの研究業績をもって単位を取得することができる。最終的には、特別演習の12単位をすべて取得した学生に対し、博士学位請求論文を執筆する資格を与える。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表には入念な準備で臨み、発表後も精査を怠らないこと。

教科書

指定しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

発表についての全体講評を授業にて行う。

成績評価の方法

成果発表を評価する。

その他

交通遅延発生時の授業等の措置について

	<p>緊急時には、Oh-o! Meiji システム又は本学ホームページ等でお知らせを配信しますので、必ず確認するようにしてください。</p>
1 悪天候等により大規模な交通遅延が予想される場合	<p>悪天候等により、授業日に大規模な交通遅延が予想され、授業の臨時休講等の特別な措置を講じる場合には、当該授業開始時間の3時間前までを目途に、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。</p>
2 本学への通学における主要交通機関に遅延が生じた場合	<p>本学の各キャンパスへの通学における主要路線に大規模な遅れや運休が生じた場合は、急遽特別な措置を講じる場合があります。その場合には、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。</p> <p>なお、自身が利用する交通機関の遅延により、授業を遅刻または欠席せざるを得なかった場合は、交通機関にて遅延証明書等を入手したうえで、各授業担当教員にご相談ください。</p>

大規模地震等災害発生時の対応について

1 大規模地震発生時の行動	<p>授業中に大規模地震が発生した場合は、あわてず次のような安全行動をとり、館内放送の指示に従ってください。本学の建物は耐震建築又は耐震補強がなされており、容易に倒壊することはないと想定しています。</p> <p>(1) 地震発生時の行動</p> <p>身の安全を図り、揺れがおさまるまで次の事項に留意し、冷静に行動してください。(大きな地震でも1～2分で揺れはおさまります。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の下に隠れる、衣類や鞆等で頭を覆う等の安全行動をはかり、落下物から身を守ってください。 ・自動販売機、ロッカー等は倒れたり、窓ガラスが割れたりすることでケガをする恐れがあるため、近寄らないでください。 <p>(2) 地震直後の行動</p> <p>大きな地震の後には、必ず余震が来るとおぼやかしてください。余震を念頭におきながら、次の事項に留意し、冷静に行動してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余震に注意し、避難口を確保してください。避難口確保の際は、各教室に備え付けのドアストッパーを利用してください。あわてて外に出るとかえって危険な場合があります。 ・ガスの元栓・コンセント等、火の元を確認してください。出火した場合は、消火器等を利用した初期消火活動を行うとともに、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。 ・教室内の安全を確認してください。 <p>(3) 地震後の行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷病者がいる場合、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。 ・教室内の安全の再確認及び周囲の状況の確認をしてください。
---------------	--

(4) 避難行動

- ・地震が発生しても身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣での火災、壁に大きな亀裂が入るなど躯体への影響が懸念される場合、薬品漏出、実験機器転倒の恐れ等がある場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により、各建物ごとに指定された「一時集合場所」へ移動してください。
- ・授業中の場合は、授業の受講者単位で移動してください。
- ・傷病者や身体障がい者の避難をサポートしてください。
- ・屋外に避難する時は、衣類や持ち物で頭を覆い、落下物から身を守ってください。地面の亀裂や陥没、隆起及び塀や電柱の倒壊に注意してください。
- ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。
- ・各キャンパスの一時集合場所は、明治大学HP内にある「明治大学防災ガイド」(<https://www.meiji.ac.jp/koho/disaster/guide/index.html>)を確認してください。

(5) 帰宅困難対策について

大規模地震が発生した場合、交通機関が麻痺し帰宅困難となる場合があります。無理に帰宅せず、大学施設等の安全な場所に留まるようにしてください。なお、大学では、非常用の食料等を備蓄しています。

2 火災発生時の対応

(1) 火災を発見した場合の行動

- ・大声で「火事だ」と叫び、周りの人に知らせてください。
- ・最寄りの防災センター・守衛所・事務室に連絡してください。
- ・消火栓の火災報知器ボタンを押してください。
- ・消火できそうな火災は、消火器等を利用して初期消火にあたってください。

(2) 初期消火のポイント

- ・炎や煙に惑わされず、燃えているものを確かめてください。
- ・燃えているものに適した消火器等を使用し、適切な距離(3~5m)から消火してください。
- ・出来るだけ多くの人で消火器等を集めて、一気に消火してください。
- ・2か所以上から同時に出火していたら、人命に影響を及ぼす場所の消火を優先してください。

(3) 避難行動

- ・煙が発生した場合には、姿勢を低くし、ハンカチを口と鼻にあてるなどして煙を吸わないようにしてください。
- ・建物内で火災が発生した場合、その煙・熱等で感知器が作動し、自動で防火戸・防火シャッターが閉鎖します。避難する前に防火戸が閉まった場合は、避難方向に出られるよう開けられます。
- ・防火戸・防火シャッターが自動で閉鎖しない場合は、煙の拡散を防ぐために必ず手動で閉めるようにしてください。
- ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。

3 災害発生時の連絡方法

- (1) 非常時には、電話線の切断、故障、電話パニック等のため、電話がつながりにくくなります。また、大学では家族から学生の安否の問い合わせがあっても、個別の確認には即座に対応できないことがあります。普段から、非常時の連絡方法について、家族、友人又はクラス・ゼミ単位で話し合っておいてください。(遠方の親戚や友人を安否確認の中継点にする・伝言ダイヤル・災害用伝言板・Google パーソンファインダー、J-anpi 等を利用するなど。)
- (2) 大学からの情報の伝達・安否確認については地震発生後、体制が整い次第、HP 及び所属の学部事務室等から「Oh-o! Meiji システム」を通じてお知らせしますので、その指示に従ってください。

また、補助的手段として、Twitter からも情報発信を行います。以下の大学のアカウントをフォローしておくことをお勧めします。

明治大学公式アカウント (@Meiji_Univ_PR)

《参考》

・災害発生時の公衆電話・

災害が発生し、加入電話の発信が規制されると、緊急通報(119)も含めて電話がかかりにくくなります。そうした時は、比較的公衆電話がつながるようです。あらかじめ公衆電話がどこにあるか確かめておきましょう。災害救助法が適用される規模の災害が発生した際に運用されますが、電力会社からの送電が止まっても、NTT回線がつながっていれば、無料で電話がかけられます。

4 平常時の備え

- (1) 大学HPに掲出の「明治大学防災ガイド」には避難マニュアル、避難場所、備蓄品、帰宅困難時の対応、応急手当など災害時に必要な情報が載っています。必ず確認をしてください。
- (2) 非常時に備え、避難経路、避難先等を確認しておいてください。避難路(通路、階段等)には物を置かないようにし、出入口周辺のロッカー、戸棚等の転倒防止などを実施してください。また、落下物防止の観点から、ロッカー、戸棚等の上には物を置かないようにしてください。
- (3) 火災の発生に備え、消火器・消火栓の位置、使用方法を確認しておいてください。
- (4) 実験室や研究室では化学薬品や発火物等の危険物の安全対策を施してください。
- (5) 応急手当の方法を身につけてください。また、機会を見つけて防災訓練、救急救命訓練等に参加してください。

大規模地震発生時の避難マニュアル (駿河台キャンパス) 【学生用】

大規模地震発生時の初動マニュアル

地震発生時の行動

- (1) **身の安全の確保！(落下物に注意)**
机の下などへ！書棚・ロッカー等の備品から離れる。

地震直後の行動

- (1) **余震に注意**
天吊りプロジェクターやガラスからは離れる。
- (2) **火の元確認。初期消火！**
出火した時は、落ち着いて消火活動と各建物の防災センター／守衛所に通報する。
- (3) **避難口の確保、避難場所の確認**
出入口等を開け、逃げ道を確保する。
あわてて外部に出るとかえって危険な場合がある。
- (4) **館内放送に注意、その指示に従う。**
- (5) **教室の安全を確認**
声をかける、傷病人がいないか確認する。

地震後の行動

- (1) **館内放送の指示に従う。**
- (2) **教室の安全を再確認**
傷病人がいないか再度確認し、いた場合は、各建物の防災センター／守衛所に通報する。
- (3) **周囲の状況を確認する。**
火の元を確認する。

以下、大規模地震発生時の避難フローへ

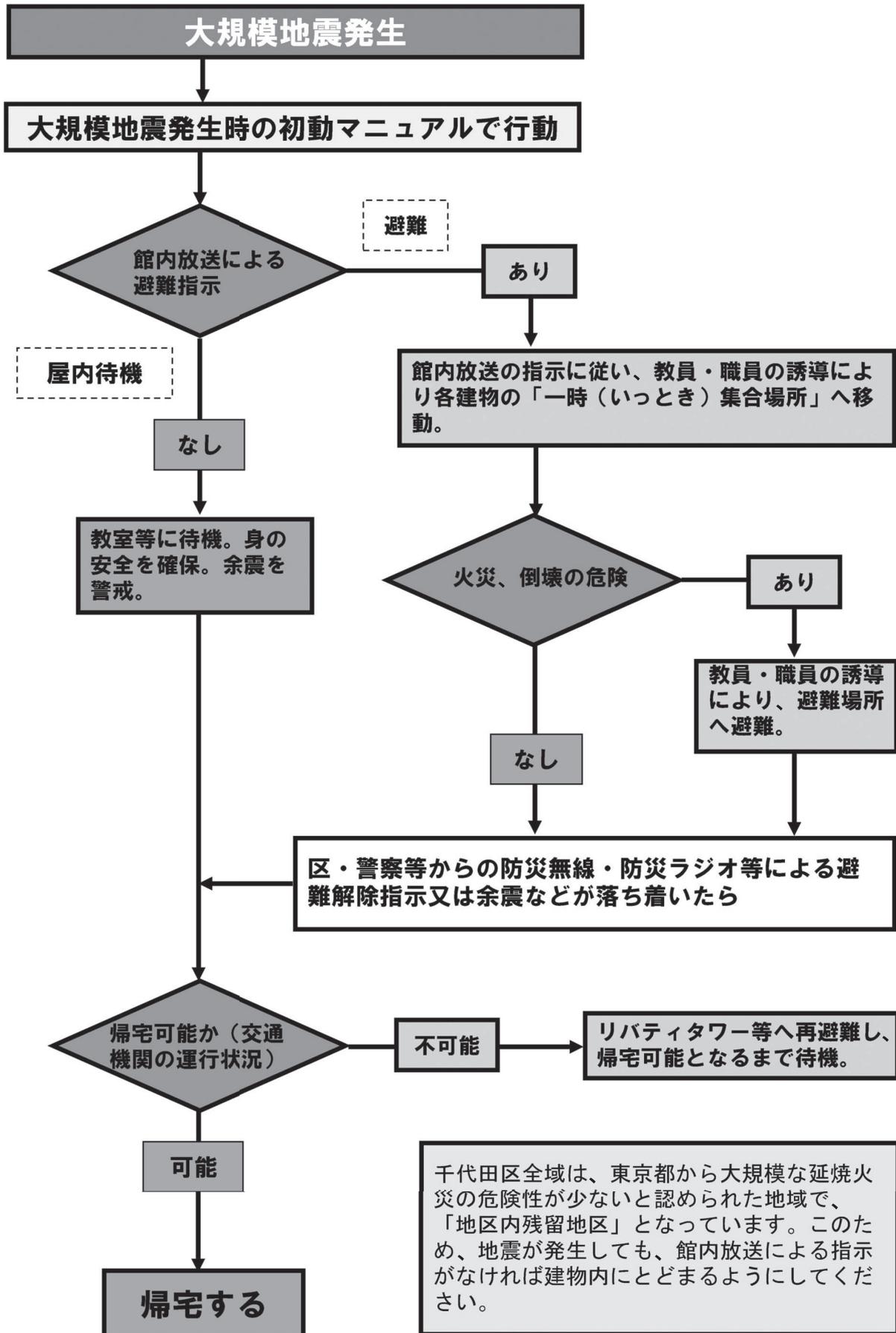
緊急連絡先：

リバティタワー防災センター (03-3296-4445)

アカデミーコモン防災センター (03-3296-4498)



大規模地震発生時の避難フロー



大規模地震発生時にはこうしよう

【日常的な備え】

教室内に、①大地震・火災が発生した場合の対応、②避難経路図を掲出していますので確認してください。リビティタワーやアカデミーコモンの非常用エレベーター付近の消火栓扉内には、防災センターに通じる非常電話を設置しています。教室内の電話と併せて確認してください。

【地震時の心構え】—落ち着いて行動—

地震時の生命の危険性は、発生した瞬間とその後起こる火事にあると言われています。大きな揺れでも1～2分です。まずは、身の安全を確保して、落ち着いて行動をしてください。本学の建物は、耐震建築又は耐震補強がなされており、建物が容易に倒壊するということはないと想定しています。

【地震発生時の行動】—身の安全確保— <自助>

落下物や転倒物から身の安全を確保するため、机の下に隠れたり、天吊りプロジェクター、窓ガラス、自動販売機、ロッカーなどから離れるようにしてください。

【地震直後の行動】—避難口の確保と火の始末—

小さな揺れのと看や大きな揺れがおさまったときに、出入口を開けて避難口を確保するとともに、速やかに火の始末を行ってください。

【地震後の行動】—状況確認と救出・消火— <共助>

余震に注意しながら、周りの状況を確認し、傷病人等助けを必要とする人や、火災を発見したら、周りの人と協力して対応するとともに、最寄りの事務室や防災センター／守衛所にも連絡をしてください。（事務室等から119番通報します。）消火の際は、身の安全を第一に考え、消火器では消えないような火災のときは、無理に消そうとせず、直ちに避難してください。

【エレベーター】

大きな地震の時は最寄り階に止まるように設定されていますが、乗っているときに地震に気づいた際は、全ての階のボタンを押して、停止した階で降りてください。また、万が一、降りられなくなったら、エレベーター内の非常ボタンを数秒間押して警備員に連絡した後、エレベーター保守業者による救助を待ってください。（閉じ込めの発生しているエレベーターは業者の最優先対応となります。）

【屋外避難】

地震が発生しても、身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣の火災や、壁に大きな亀裂が走るなど躯体への影響が懸念される場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により各建物で指定する「一時（いっとき）集合場所」へ移動してください。その後、千代田区指定の避難場所へ移動します。なお、授業中に地震が発生した場合は、授業単位で避難するようにしてください。

※駿河台キャンパスでは、原則 大きな揺れがあった際は、各建物の防災センター／守衛所から館内放送を行います。（なお、猿楽町第五校舎は館内放送設備がないためハンドマイク等で対応します。）

【本学の一時（いっとき）集合場所の指定】

各建物の一時集合場所は、原則として次のように指定します。ただし、状況に応じて変更することもありますので、館内放送に注意してください。

- リビティタワー、研究棟、大学会館、12号館、紫紺館、10号館
⇒リビティタワー（低層階教室）
- アカデミーコモン⇒A1～A6会議室（2階）
- グローバルフロント⇒グローバルホール、多目的室（1階）
- 14号館、猿楽町校舎⇒猿楽町第一校舎グラウンド

【千代田区内の避難場所】

千代田区は、全域が東京都の調査により建物の不燃化が進み、大規模な延焼火災の危険性が少ないと認められた地域のため、「地区内残留地区」となっています。このため、地震発生の際はすぐに避難を開始するのではなく、建物内にとどまり、被災状況を把握し、万が一危険を感じた場合は、に避難することとなっています。

本学では、千代田区内で指定された、「災害時退避場所」のうち、次の場所を「避難場所」とします。

- ①北の丸公園、②皇居東御苑、③皇居外苑

※避難時には、①～③のいずれかを指定し、館内放送、避難誘導により周知します。

【大学からの情報の伝達・安否確認】

地震発生後、体制が整い次第、大学HP及び所属の学部事務室から「Oh-o! Meiji システム」を通じてお知らせします。その際に大学への安否連絡方法もお知らせしますので、その指示に従って御連絡ください。Twitter(公式アカウント@Meiji_Univ_PR)でも情報発信を行います。

一時集場所

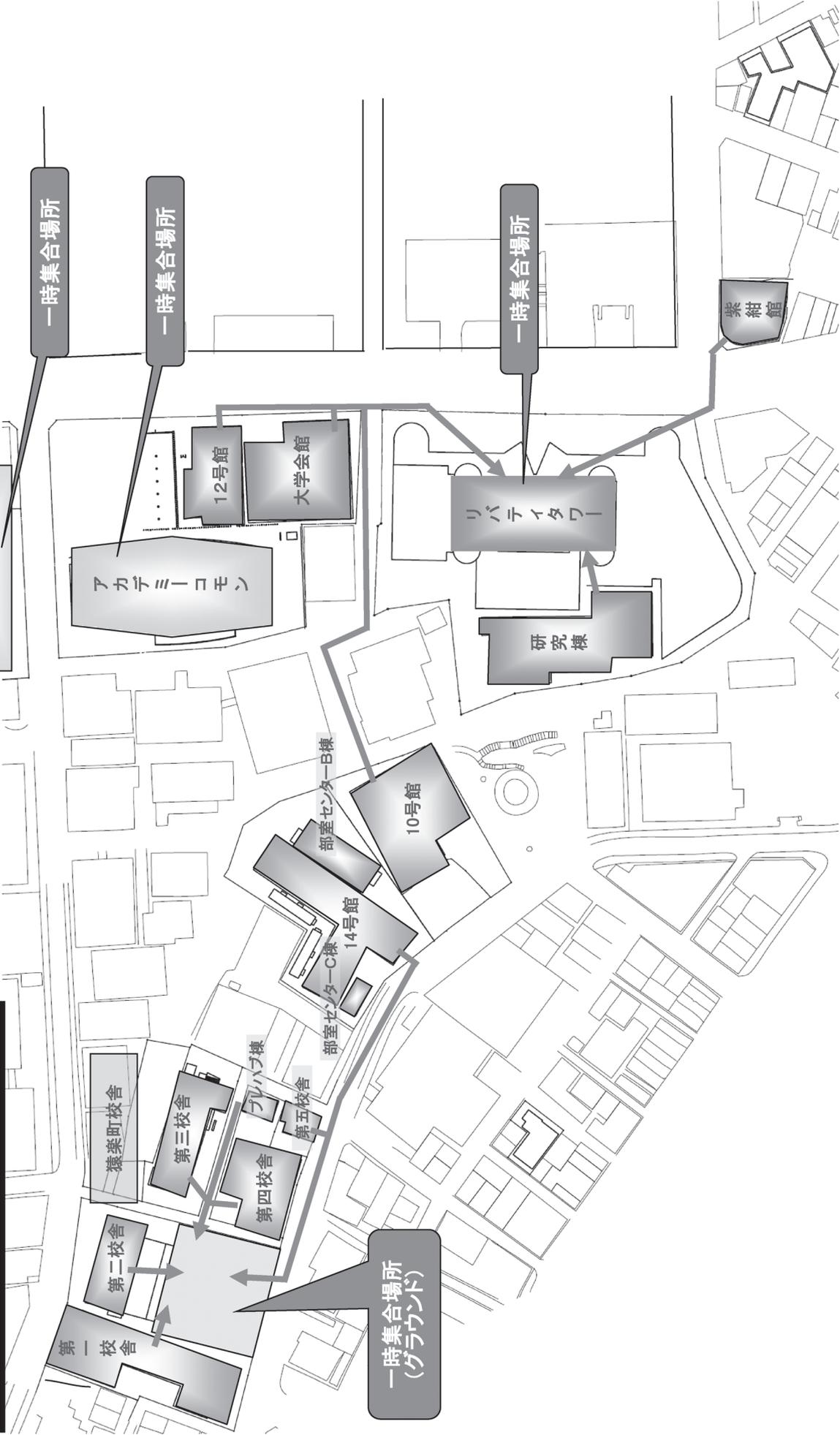
グローバルフロント

一時集場所

一時集場所

一時集場所

一時集場所
(グラウンド)



明治大学大学院
文学研究科 ☎03-3296-4143

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学大学院事務室